都市計画道路博多駅築港線関係

埋蔵文化財調査報告IV

博　多

福岡市埋蔵文化財調査報告書第205集

1989

福岡市教育委員会

都市計画道路博多駅築港線関係
埋蔵文化財調査報告IV

博　多

福岡市埋蔵文化財調査報告書第205集

調査番号　8527
遺跡略号　HKT－R－4

1989

福岡市教育委員会

龍泉窯系水注（144号井戸）

褐釉四耳壺（138号井戸）

序

昭和57年度から実施してきました博多駅築港線の調査は62年度で終了しました。道路整備も今年度で最終年度を迎え、道路整備の一環として博多駅から呉服町交差点の間の歩道を活用し、歴史の散策道路の整備が進められています。本書は59～60年度に実施した第4次調査の報告書です。

博多は古代から中世にかけての対外貿易の一大拠点として栄え、世界に開かれた国際都市であり、特異な発展をとげてきました。このことは博多遺跡から出土する多種多様な輸入陶磁器が如実に顕しています。

今回の調査では11～12世紀の遺構を中心に著しい量の遺物が検出され、中世博多の繁栄を偲ぶことができます。

本書はこれらの発掘調査の成果を収録したものです。本書が市民をはじめ多くの方々の文化財に対する御理解を深め、さらに学術研究に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際し、土木局の関係者地元の方々をはじめ発掘調査から整理報告まで多くの皆様の御理解と御協力に対し、心から感謝を表する次第であります。

平成元年3月31日

福岡市教育委員会

教育長　佐藤善郎

例　言

1．本書は福岡市博多区上呉服町における都市計画道路博多駅築港線の拡幅工事に伴い、福岡市教育委員会が土木局の委託を受け、昭和59・60年度に実施した第4次調査の報告書である。

2．本書に使用した遺構実測図は調査担当者の他に田崎博之、山口満、池田光男らがあたり製図は濱石正子、池田光男、鶴ちとせらがあたった。

3．遺物の実測と製図は担当者の他に池田光男、入江のり子、中野純江、濱石正子が行なった。

4．本書に使用した写真は遺構、遺物とも松村が行なった。

5．本書に用いた陶磁器の分類は「博多出土貿易陶磁器分類表」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集別冊　1984に拠る。

6．本書に使用した遺構略号は土壙－SD、井戸－SE、建物－SB、不明遺構－SX、溝－SM、ピット－SPである。

7．出土遺物文類表の作成は上記に基づき有島美江が行なった。

8．本書に使用した方位は磁北である。

9．本報告書に係わる遺物、記録類は福岡市埋蔵文化財センターに保管、管理する予定であるので活用されたい。

10．本書の執筆、編集は松村が行なった。

本 文 目 次

第1章　はじめに……1
1．調査に至るまで……1
2．発掘調査の組織と構成……1
3．位置と環境……2
第2章　発掘調査の概要……3
1．発掘調査の経過……3
2．調査の概要……4
3．Ⅰ面の調査……9
土壙の調査……9
井戸の調査……25
その他の遺構の調査……32
4．Ⅱ面の調査……49
土壙の調査……49
井戸の調査……67
その他の遺構の調査……83
5．Ⅲ．Ⅳ面の調査……84
土壙の調査……87
井戸の調査……166
その他の遺構の調査……169
6．Ⅴ面の調査……175
7．遺構、包含層出土の遺物……180
Ⅰ面各土壙出土遺物……180
Ⅱ面各土壙出土遺物……186
Ⅲ面各土壙出土遺物……186
Ⅳ面各土壙出土遺物……186
ピット出土の遺物……188
包含層出土遺物……191

挿図目次

Fig. 1 遺跡位置図(縮尺：1／25,000) …… 2
Fig. 2 博多遺跡群地形図 …… 3
Fig. 3 調査区全体図及区割図(縮尺：1／600) …… 3
Fig. 4 Ⅰ・Ⅱ面全体図(縮尺：1／100)(折込み) …… 5・6
Fig. 5 西壁及北壁土層実測図(縮尺：1／120)(折込み) …… 7・8
Fig. 6 921～923・925・926号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 10
Fig. 7 921・922号土壙出土遺物実測図 …… 11
Fig. 8 923・925・926号土壙出土遺物実測図 …… 12
Fig. 9 928・934・935号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 14
Fig. 10 928号土壙出土遺物実測図 …… 15
Fig. 11 934号土壙出土遺物実測図 …… 16
Fig. 12 935・937号土壙出土遺物実測図 …… 17
Fig. 13 943・937号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 19
Fig. 14 938・943・944号土壙出土遺物実測図 …… 20
Fig. 15 944・947号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 21
Fig. 16 947・964・967・972号土壙出土遺物実測図 …… 22
Fig. 17 964・967・972号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 23
Fig. 18 977号土壙実測図(縮尺：1／30) …… 24
Fig. 19 977号土壙出土遺物実測図 …… 25
Fig. 20 132号井戸、938・939号土壙実測図(縮尺：1／40) …… 26
Fig. 21 132号井戸出土遺物実測図 …… 27
Fig. 22 135号井戸実測図(縮尺：1／40) …… 28
Fig. 23 135号井戸出土遺物実測図 …… 29
Fig. 24 140号井戸出土遺物実測図 …… 30
Fig. 25 144号井戸実測図(縮尺：1／40) …… 31
Fig. 26 144号井戸出土遺物実測図(1) …… 33
Fig. 27 144号井戸出土遺物実測図(2) …… 34
Fig. 28 144号井戸出土遺物実測図(3) …… 35
Fig. 29 SX30・31実測図(縮尺：1／30) …… 36
Fig. 30 SX30・31出土遺物実測図 …… 37

Fig. 31 SX32実測図(縮尺：1／30) ……38
Fig. 32 SX32出土遺物実測図(1) ……39
Fig. 33 SX32出土遺物実測図(2) ……40
Fig. 34 SX33、135号井戸、949号土壙実測図(縮尺：1／60) ……41
Fig. 35 SX33出土遺物実測図(1) ……42
Fig. 36 SX33出土遺物実測図(2) ……43
Fig. 37 SX33出土遺物実測図(3) ……44
Fig. 38 SX34実測図(縮尺：1／30) ……45
Fig. 39 SX34出土遺物実測図 ……47
Fig. 40 17号溝出土遺物実測図(1) ……48
Fig. 41 17号溝出土遺物実測図(2) ……49
Fig. 42 949・950号土壙実測図(縮尺：1／30) ……50
Fig. 43 949号土壙出土遺物実測図 ……51
Fig. 44 950号土壙出土遺物実測図 ……52
Fig. 45 953・954号土壙実測図(縮尺：1／30) ……53
Fig. 46 953・954号土壙出土遺物実測図 ……54
Fig. 47 955号土壙実測図(縮尺：1／30) ……55
Fig. 48 955号土壙出土遺物実測図 ……56
Fig. 49 957～960・1001・1002号土壙実測図(縮尺：1／30) ……57
Fig. 50 957号土壙出土遺物実測図(1) ……58
Fig. 51 957号(2)・958～960号土壙出土遺物実測図 ……59
Fig. 52 1005～1007・1018・1024号土壙実測図(縮尺：1／30) ……61
Fig. 53 1001・1004～1007号土壙出土遺物実測図 ……62
Fig. 54 1020・1024・1025号土壙実測図(縮尺：1／30) ……63
Fig. 55 1018号土壙出土遺物実測図 ……64
Fig. 56 1020号土壙出土遺物実測図(1) ……65
Fig. 57 1020号(2)・1024・1025号土壙出土遺物実測図 ……66
Fig. 58 136号井戸実測図(縮尺：1／40) ……68
Fig. 59 136号井戸出土遺物実測図 ……69
Fig. 60 137号井戸実測図(縮尺：1／40) ……71
Fig. 61 137号井戸出土遺物実測図(1) ……72
Fig. 62 137号井戸出土遺物実測図(2) ……73
Fig. 63 137号井戸出土遺物実測図(3) ……74

Fig. 64　138号井戸実測図(縮尺：1／40)……75
Fig. 65　138号井戸出土遺物実測図(1)……76
Fig. 66　138号井戸出土遺物実測図(2)……77
Fig. 67　147号井戸実測図(縮尺：1／40)……78
Fig. 68　147号井戸出土遺物実測図(1)……79
Fig. 69　147号井戸出土遺物実測図(2)……80
Fig. 70　148号井戸実測図(縮尺：1／40)……80
Fig. 71　148号井戸出土遺物実測図(1)……81
Fig. 72　148号井戸出土遺物実測図(2)……82
Fig. 73　1号礎石建物実測図(縮尺：1／80)……83
Fig. 74　SX35実測図(縮尺：1／30)……84
Fig. 75　SX35出土遺物実測図……84
Fig. 76　III、IV面遺構全体図(縮尺：1／100)(折込み)……85・86
Fig. 77　978・981・987・990号土壙実測図(縮尺：1／30)……87
Fig. 78　978・981号土壙出土遺物実測図……88
Fig. 79　983号土壙実測図(縮尺：1／30)……89
Fig. 80　983・987号土壙出土遺物実測図……90
Fig. 81　990号土壙出土遺物実測図……91
Fig. 82　991～993号土壙実測図(縮尺：1／20・1／30)……92
Fig. 83　991号土壙出土遺物実測図(1)……93
Fig. 84　991号土壙出土遺物実測図(2)……94
Fig. 85　991号土壙出土遺物実測図(3)……95
Fig. 86　992・993・1027号土壙出土遺物実測図……96
Fig. 87　1027・1028・1033号土壙実測図(縮尺：1／30)……98
Fig. 88　1028号土壙出土遺物実測図(1)……99
Fig. 89　1028号土壙出土遺物実測図(2)……100
Fig. 90　1033号土壙出土遺物実測図……101
Fig. 91　1034・1036・1037・1044～1046号土壙実測図(縮尺：1／30)……103
Fig. 92　1034・1037号土壙出土遺物実測図……104
Fig. 93　1039～1041号土壙出土遺物実測図……105
Fig. 94　1040・1047・1050号土壙実測図(縮尺：1／30)……106
Fig. 95　1044号土壙出土遺物実測図……107
Fig. 96　1045号土壙出土遺物実測図……108

Fig. 97　1046・1047号土壙出土遺物実測図……109
Fig. 98　1039・1051号土壙実測図(縮尺：1／30)……111
Fig. 99　1048号土壙出土遺物実測図……112
Fig. 100　1050・1051号(1)土壙出土遺物実測図……113
Fig. 101　1051号土壙出土遺物実測図(2)……114
Fig. 102　1051号土壙出土遺物実測図(3)……115
Fig. 103　1051号(4)・1054号土壙出土遺物実測図……116
Fig. 104　1048・1053～1056号土壙実測図(縮尺：1／30)……117
Fig. 105　1055・1056号土壙出土遺物実測図……118
Fig. 106　1016・1017号土壙実測図(縮尺：1／30)……119
Fig. 107　1016・1017号土壙出土遺物実測図……120
Fig. 108　1058・1059号土壙実測図(縮尺：1／30)……123
Fig. 109　1058号土壙出土遺物実測図(1)……124
Fig. 110　1058号土壙出土遺物実測図(2)……125
Fig. 111　1058号土壙出土遺物実測図(3)……126
Fig. 112　1059号土壙出土遺物実測図(1)……127
Fig. 113　1059号土壙出土遺物実測図(2)……128
Fig. 114　1059号土壙出土遺物実測図(3)……129
Fig. 115　1060・1063・1064号土壙実測図(縮尺：1／30)……130
Fig. 116　1060号土壙出土遺物実測図(1)……131
Fig. 117　1060号(2)・1064号土壙出土遺物実測図……132
Fig. 118　1066号土壙実測図(縮尺：1／30)……134
Fig. 119　1066号土壙出土遺物実測図(1)……135
Fig. 120　1066号土壙出土遺物実測図(2)……136
Fig. 121　1067号土壙実測図(縮尺：1／30)……137
Fig. 122　1067号土壙出土遺物実測図……138
Fig. 123　1068号土壙実測図(縮尺：1／30)……139
Fig. 124　1068号土壙出土遺物実測図(1)……140
Fig. 125　1068号土壙出土遺物実測図(2)……141
Fig. 126　1069号土壙実測図(縮尺：1／30)……142
Fig. 127　1069号土壙出土遺物実測図(1)……143
Fig. 128　1069号土壙出土遺物実測図(2)……144
Fig. 129　1069号土壙出土遺物実測図(3)……145

Fig. 130　1069号土壙出土遺物実測図(4) ……146
Fig. 131　1070・1071号土壙実測図(縮尺：1／30) ……147
Fig. 132　1070号土壙出土遺物実測図 ……148
Fig. 133　1071号土壙出土遺物実測図 ……149
Fig. 134　1072号土壙実測図(縮尺：1／30) ……151
Fig. 135　1072号土壙出土遺物実測図(1) ……152
Fig. 136　1072号土壙出土遺物実測図(2) ……153
Fig. 137　1072号土壙出土遺物実測図(3) ……154
Fig. 138　1072号土壙出土遺物実測図(4) ……155
Fig. 139　1076～1080・1082号土壙実測図(縮尺：1／30) ……156
Fig. 140　1072号(5)・1076号土壙出土遺物実測図 ……158
Fig. 141　1077号土壙出土遺物実測図 ……159
Fig. 142　1078号土壙出土遺物実測図(1) ……160
Fig. 143　1078号土壙出土遺物実測図(2) ……161
Fig. 144　1079号土壙出土遺物実測図 ……162
Fig. 145　1081号土壙実測図(縮尺：1／30) ……163
Fig. 146　1081号土壙出土遺物実測図 ……164
Fig. 147　1082号土壙出土遺物実測図 ……165
Fig. 148　1083・1084号土壙実測図(縮尺：1／30) ……166
Fig. 149　1083号土壙出土遺物実測図 ……167
Fig. 150　1084・1087号土壙出土遺物実測図 ……168
Fig. 151　1087号土壙実測図(縮尺：1／30) ……168
Fig. 152　149号井戸実測図(縮尺：1／40) ……169
Fig. 153　149・150号井戸出土遺物実測図 ……170
Fig. 154　152号井戸出土遺物実測図 ……171
Fig. 155　18号溝出土遺物実測図 ……172
Fig. 156　SX36出土土師器実測図 ……173
Fig. 157　SX37実測図(縮尺：1／30) ……174
Fig. 158　SX37出土遺物実測図(1) ……176
Fig. 159　SX37出土遺物実測図(2) ……177
Fig. 160　SX37出土遺物実測図(3) ……178
Fig. 161　SX37出土遺物実測図(4) ……179
Fig. 162　Ⅳ面B、Ⅴ面全体図(縮尺：1／100)(折込み) ……181・182

Fig. 163　1089・1093・1095・1096・1103号土壙実測図(縮尺：1／30)……183
Fig. 164　1089・1093号土壙出土遺物実測図……184
Fig. 165　1094～1096・1103号土壙出土遺物実測図……185
Fig. 166　I面各土壙出土遺物実測図(1)……187
Fig. 167　I面各土壙出土遺物実測図(2)……188
Fig. 168　II面各土壙出土遺物実測図(1)……189
Fig. 169　II面各土壙出土遺物実測図(2)……190
Fig. 170　II面各土壙出土遺物実測図(3)……191
Fig. 171　III面各土壙出土遺物実測図(1)……192
Fig. 172　III面各土壙出土遺物実測図(2)……193
Fig. 173　IV面各土壙出土遺物実測図(1)……194
Fig. 174　IV面各土壙出土遺物実測図(2)……195
Fig. 175　IV面各土壙出土遺物実測図(3)……196
Fig. 176　V面各土壙出土遺物実測図……197
Fig. 177　各井戸出土遺物実測図……198
Fig. 178　ピット出土遺物実測図(1)……199
Fig. 179　ピット出土遺物実測図(2)……200
Fig. 180　ピット出土遺物実測図(3)……201
Fig. 181　ピット出土遺物実測図(4)……202
Fig. 182　I面包含層出土遺物実測図(1)……203
Fig. 183　I面包含層出土遺物実測図(2)……204
Fig. 184　II面包含層出土遺物実測図……205
Fig. 185　III、IV面包含層出土遺物実測図……206
Fig. 186　包含層出土墨書磁器実測図……207
Fig. 187　表土出土遺物実測図……208

図版目次

巻頭カラー　上　144号井戸出土龍泉窯系水注

下　138号井戸出土褐釉四耳壺

PL. 1 (1) 調査区遠景(南より)

(2) I区I面全景(南より)

PL. 2 (1) 135号井戸

(2) 144号井戸　上面検出状況

PL. 3 (1) 144号井戸　井筒検出状況

(2) 148号井戸　遺物出土状況

PL. 4 (1) SX30(西より)

(2) SX32(南より)

PL. 5 (1) SX33　全景(西より)

(2) SX34　II区I面全景(北より)

PL. 6 (1) SX34(北より)

(2) SX34(西より)

PL. 7 (1) I区II面全景(南より)

(2) II区II面全景(北より)

PL. 8 (1) 957号土壙　遺物出土状況

(2) 1005号土壙(西より)

PL. 9 (1) 1020号土壙

(2) SX35

PL. 10 (1) II区III面全景(北より)

(2) 983号土壙

PL. 11 (1) 991号土壙

(2) 991号土壙　遺物出土状況(西北より)

PL. 12 (1) 1034号土壙(東より)

(2) 1039号土壙(東より)

PL. 13 (1) 1051号土壙

(2) 1051号土壙　遺物出土状況(南より)

PL. 14 (1) 1055号土壙

(2) 1056号土壙

PL. 15 (1) 1048号土壙(東より)

(2) 1058号土壙(東より)

PL. 16 (1) SX37(東より)
(2) SX37 瓦出土状況(西より)
PL. 17 (1) I区IV面全景(南より)
(2) II区IV面全景(北より)
PL. 18 (1) 1058号土壙(西より)
(2) 1059号土壙(西より)
PL. 19 (1) 1060号土壙
(2) 1066号土壙
PL. 20 (1) 1068号土壙(北より)
(2) 1069号土壙 遺物出土状況(東より)
PL. 21 (1) 1069号土壙 遺物出土状況(東より)
(2) 1069号土壙土層(南東より)
PL. 22 (1) II区VI面B全景(北より)
(2) 1017号土壙(北より)
PL. 23 (1) 1072号土壙(西より)
(2) 1072号土壙 遺物出土状況(東より)
PL. 24 (1) 1078号土壙周辺(東より)
(2) 1081号土壙(北より)
PL. 25 921・923・926・928・934・935・938号土壙出土遺物
PL. 26 943・949・950・967・977号土壙出土遺物
PL. 27 954・955・957・958・960号土壙出土遺物
PL. 28 978・983・1020・1025号土壙出土遺物
PL. 29 991号土壙出土遺物
PL. 30 1028・1033・1034・1041・1045・1046・1047号土壙出土遺物
PL. 31 1051号土壙出土遺物
PL. 32 1051号土壙出土遺物
PL. 33 1017・1048・1058・1059号土壙出土遺物
PL. 34 1059号土壙出土遺物
PL. 35 1060・1066～1068号土壙出土遺物
PL. 36 1069号土壙出土遺物
PL. 37 1069～1071号土壙出土遺物
PL. 38 1072号土壙出土遺物
PL. 39 1076～1078号土壙出土遺物

PL. 40　1078・1079・1081・1087号土壙、132号井戸出土遺物
PL. 41　135・144号井戸出土遺物
PL. 42　136・137・144号井戸出土遺物
PL. 43　138・146～148・152号井戸出土遺物
PL. 44　SX30・SX32・SX33出土遺物
PL. 45　SX34・SX36・SX37出土遺物
PL. 46　17号溝、SP2712・SP2813・SP2842・SP2857・SP2913・SP2921出土遺物
PL. 47　SP3097・SP3117・SP3160・SP3248・SP3257・SP3274・SP3369・SP3414・SP3493・SP3518・SP3543・SP3638出土遺物
PL. 48　932・956・970・1003・1018・1019号土壙出土遺物
PL. 49　984・1015・1036・1042・1043・1061・1075・1080・1090・1106号土壙出土遺物
PL. 50　表土、Ⅰ面包含層出土遺物
PL. 51　Ⅰ面下包含層、Ⅱ面包含層出土遺物
PL. 52　Ⅰ面ケズリ、Ⅰ面下ケズリ、Ⅰ面下包含層、Ⅱ面ケズリ、Ⅱ面下包含層、Ⅲ面下包含層、Ⅳ面ケズリ、Ⅳ面下包含層出土遺物
PL. 53　出土銅銭

第1章　はじめに

1．調査に至るまで

都市計画道路博多駅・築港線はその名の示すとおり博多駅と築港を結ぶ道路で、いわば福岡市の表玄関にあたる。地方中枢管理都市である福岡市でも中心部での車の混雑が著しく中枢都市としての機能も麻痺状態になりつつあり、上述の道路拡幅を実施することになった。

当該地は都市高速鉄道(地下鉄)建設に伴う調査で中世博多を現代によみがえらせた。調査以前に考えていた以上に遺構、遺物が出土した。特に大陸からの輸入陶磁器の多量、多種の出土は想像を絶するものであった。地下鉄の調査を契機として中世博多の街を博多遺跡群として明確にし、周辺の民間ビル建設でも調査を実施し、弥生時代の甕棺、住居址、前方後円墳の確認や中世の道路等弥生時代～近世までの各時期にわたる遺跡群であることが次第に明らかになっている。

博多駅・築港線の調査は用地取得がなされた部分から順次、年度毎に一ケ所の調査を実施することになった。4次調査は工事担当部局との未調整から一部道路工事が着手されていたので、歩道部分を除いた道路部分について調査を実施した。調査は土木局道路部街路課の令達事業として実施した。

2．発掘調査の組織と構成

調査委託　福岡市土木局道路部街路課

調査主体　福岡市教育委員会　教育長　佐藤善郎

調査総括　福岡市教育委員会埋蔵文化財課長　柳田純孝
埋蔵文化財課第一係長　折尾学

調査庶務　埋蔵文化財課第一係　松延好文

調査担当　埋蔵文化財課第一係　松村道博　大庭康時

調査補助　田崎博之　山口満　池田光男　中野純江　入江のり子　濱石正子

発掘作業　井口英雄　大部茂久　山崎光一　椎藤利雄　三浦力　高田勘四郎　柴田松蔵　梅野和俊　三宅安政　中村仁則　江越初代　古賀博子　関加代子　関政子　徳永道子　尾崎文代　尾崎君枝　長野康子　桑野正子　黒木静子　井手口美代子　曽根崎昭子　村崎祐子　野口ミヨ　服坂千鶴　村田敬子　門司弘子　近藤澄江　濱地フサエ

整理補助　村田喜代美　生垣綾子　鶴ちとせ　須原純子　井上友子　西村道子　進藤有里　村上由美子　柳瀬仲　吉岡節子　曽木隆子　原田夏子　林由紀子　中嶋玲子　河野律月　藤崎未方香　平川理恵子　桑野正子　牟田恵子　藤崎もと子　西村京子　有島美江

3．位置と環境

博多遺跡群は砂丘上に立地する遺跡群で江戸時代の城下町である福岡に対して那珂川を挟んで対峙する位置にある旧博多にあたる。中世以来の都市の発達により本来の地形は大きく損なわれ、旧状をとどめていない。現地形から地形を復元すると標高６ｍのラインは聖福寺の北東部で丸くなり微高地を形成する。標高５ｍのラインは呉服町、冷泉町、橋屋町、祇園町を中心に広大になり、いわゆる博多浜を形成している。櫛田神社の東側は入江となる。一方奈良屋町、小山町を中心に沖ノ浜を囲むラインとなる。標高４ｍのラインは二つの砂丘地帯の沖ノ浜と博多浜を繋ぎ大体において博多遺跡群の範囲となる。呉服町交差点附近は狭くなり陸橋部状になる。４次調査は聖福寺の西約100mの標高６ｍ前後の位置で北東から南西へ傾斜を示している。

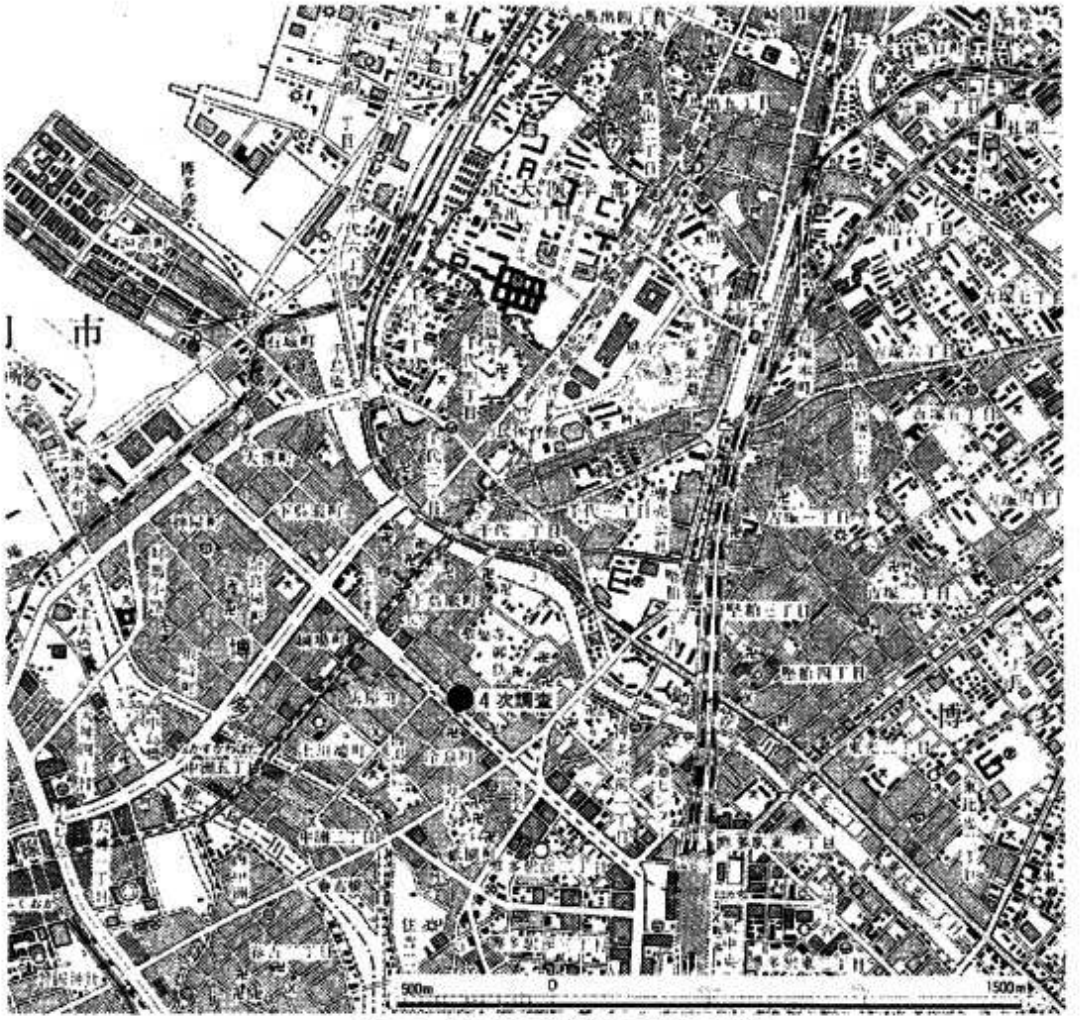


Fig. 1　遺跡位置図(縮尺：1／25,000)

第２章　発掘調査の概要

１．発掘調査の経過

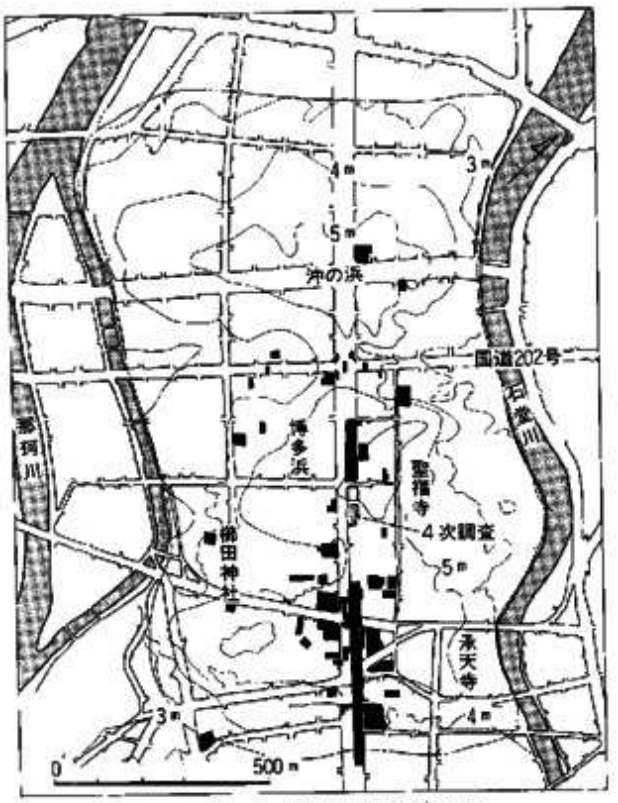


Fig. 2　博多遺跡群地形図

博多駅・築港線第４次調査は昭和59年12月27日から昭和61年６月31日まで実施した。調査地点は南側の一部がアスファルト舗装が終了していたので、表土剥ぎ及び産業用廃土処理の関係で委託工事として土木業者に発注した。１～３次調査の結果から表土から1.5m前後までは近・現代の攪乱が著しく、遺構の残存も少ないことから機械で除去した。

調査は表土除去後、任意の面（Ｉ面）を設定し、そのＩ面を数十センチ毎に遺構を検出して調査を実施した。これは博多遺跡群が砂丘上に選地し、古代～現代まで絶えることなく長期間連綿と生活が継続している結果、数メートルにも及ぶ沖積地の「包含層」を形成

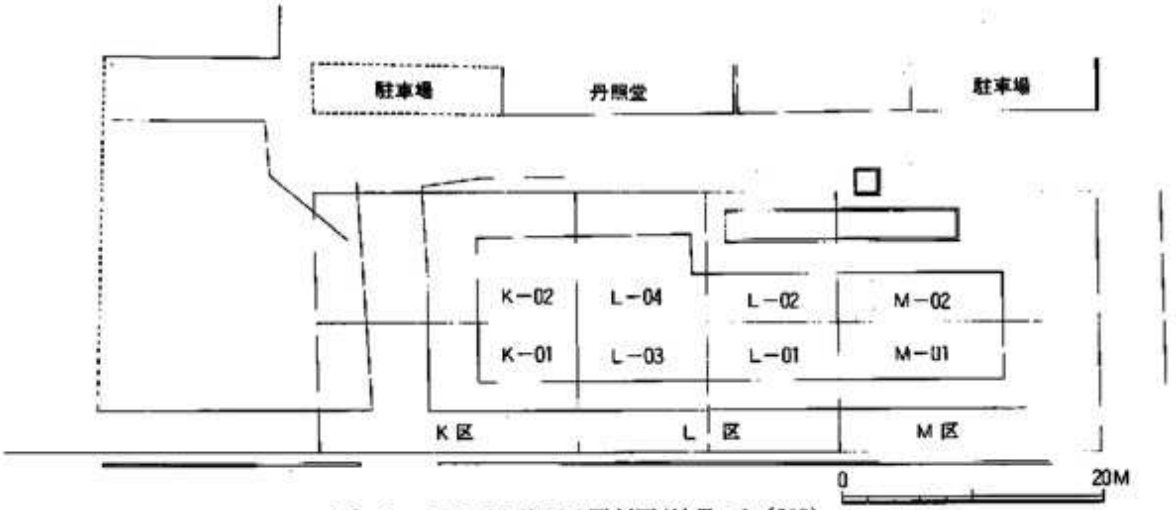


Fig. 3　調査区全体図及区割図（縮尺：1／600）

し、多くの遺構が掘り込まれ生活の痕跡をとどめている。しかし遺構がどの層から掘り込まれているのか、あるいは特定の層となるのが認められない。同一調査地点でも層と時期との対応を明確に把握できず、調査地点が異なれば各調査区との土層を対比することは困難である。これは今日見る地形はほぼ平坦であるが、旧地形は起伏に富む状況に起因するものであろう。

調査区は1次調査で用いたグリット区割をそのまま使用し、今回調査はK・L・M区にあたる。グリットは20m方眼とし、その中を四区に細分して調査区名とした。調査は表土剥ぎした面をI面とし調査区北側で標高4.3mである。以下II面−4.1m、III面−3.8m、IV面−3.6m、V面−3.4mとした。南端では少し高くなる。IV面では遺構の重複が著しく、切合が不明の土壙も多かったので少し下げてIV面Bとした。各面の下の包含層は各面下包含層として一括して処理している。また調査区の中央を東西に横切る幹線の水道管があったので、その撤去時までは南側を調査したのでI区とし北側をII区と大区分をした。

調査経過の概略は以下のとおりである。

昭和59年12月27日～1月15日　表土剥ぎ
〃 60年1月14日～1月31日　I区I面調査
〃　〃 2月1日～2月27日　I区II面調査
〃　2月28日～3月15日　I区III面調査
II区I面調査
〃　3月16日～3月31日　I区IV面調査
II区II面調査
〃　4月24日～5月14日　I区IV・V面調査、II区III面調査
〃　5月15日～6月10日　II区IV面調査
〃　6月11日～6月31日　II区V面調査

2．調査の概要

今回調査を実施した地区は地下鉄調査の祇園工区と呉服町工区の中間地点にあたる。現地表下約1.5mを除去し、その下から調査する予定であったが地下室やゴミ穴等で大きく攪乱されていたので、結果的には地表下1.7m前後まで機械力で除去している。そのためか出土遺物、遺構は青磁を含まない11～12世紀の土壙、井戸が多い。表土除去時に明染付、龍泉窯系青磁等が少量ながら出土し、遺構もある。2、3次調査ではIII面（標高3.3m）までが14世紀前半頃の遺構、包含層で青磁が多く出土している。今回の調査では土層断面の観察でもその時代の土壙は認められないので、近、現代の遺構に攪乱され、その痕跡はとどめていないものであろう。

I区の南端では基盤層の黄白色砂層は標高4m前後、II区の北端で3.4mで10m毎に北側が0.1m低くなる。1次調査の北端では2.3mとなり、かなり低地となり2次調査の北端で3.2mと少し高くなり、3次調査の北端では泥炭層となり急激に落ち込んでいる。現況で地形を観察する

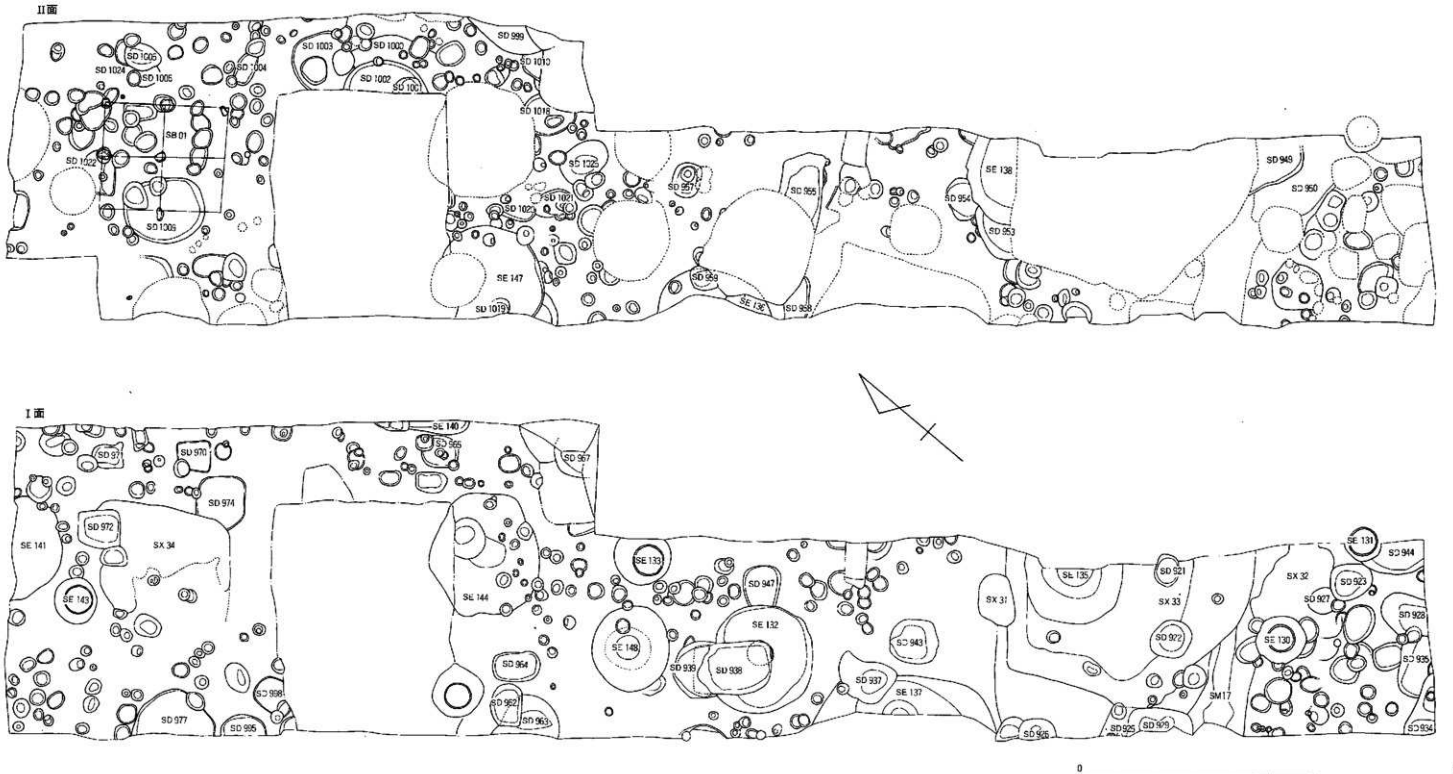


Fig. 4　I・II面全体図(縮尺：1／100)(折込み)

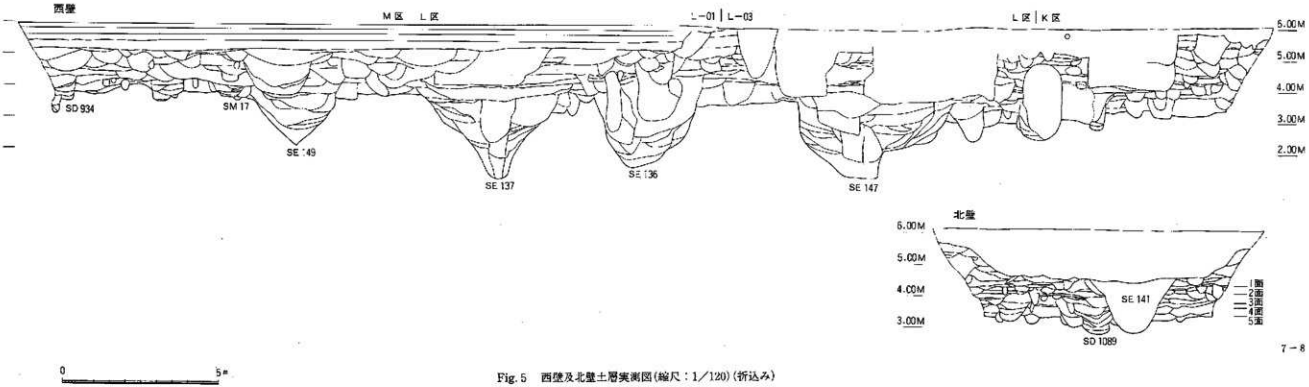


Fig. 5　西壁及北壁土層実測図(縮尺：1／120)(折込み)

よりも、かなり起伏の著しい地形であったことが窺える。

Ⅰ面の調査では近・現代の瓦組井戸が多く検出された。これらの井戸からはその時期の遺物と共に中世の遺物も多く出土している。近世の博多人形の破片を廃棄した土壙（975号）が一基ある。同種類の形態を呈するものが多く、完成品であることから人形商家の存在が予想される。SX33は現地表下約１ｍの深さから掘り込まれた近世初頭の大型土壙である。全体の規模、形態は不明であるが１辺10ｍ前後を測る方形を呈すると思われる。SX30は黄白色粘土を４～５㎝の厚さに敷き、その上に小円礫を置く遺構である。道路あるいは家屋の土間、庭であろうか。いずれにしろ出土遺物は14～15世紀の所産であり、当時の生活面がこの高さであったと考えられる。SX34は円礫を敷き詰めた遺構である。中央部が少し窪んでいる。これも当時の生活面である。中世の井戸も数基ある。144号井戸は素掘りで井筒に木桶を用いている。

Ⅱ面では祭祀遺構の957号土壙では、多量の土師器の坏・皿と共に青磁皿、碗や陶器が出土している。また同様な遺構に1005号土壙がある。Ⅱ面とⅢ面の間からSX37の瓦敷遺構が検出された。１次調査で検出された道路状遺構と酷似しているが、検出したのが狭い範囲であり道路である確証はない。また出土遺物は12～13世紀の所産であり、１次調査の16世紀までは下らない。高麗青磁の精良な皿を１点含んでいる。SX34の真下から１号礎石建物が検出された。２間×２間の建物で板石状の礎石を一部置いている。

Ⅲ、Ⅳ面では11世紀後半～12世紀前半の土壙が多く出土している。形態は長方形、円形、楕円形等がある。遺物も輸入陶磁器を多く出土する土壙や破片を数点しか出土しない土壙もある。この中で1058・1059・1072号は土壙墓と考えられる。Ⅰ区Ⅳ面では幅0.5ｍの溝が検出された。各土壙に寸断され全容は知ることができないが、その延長線上から土師器甕が１点完形で出土している。博多遺跡群の中でも前方後円墳、方形周溝墓が確認されているので、その可能性もある。Ⅴ面は暗灰色砂層である。1110号土壙で頭骨とともに乾元通寶が１点出土している。この時期の遺構はほとんどが後世の土壙に切られ明確な形では検出できない。包含層からは奈良～平安時代の遺物が多く出土しているので、遺構が存在するのは確実である。

３．Ⅰ面の調査

前述したように恣意的に遺構が確認できる面を設定して調査を実施したので、各面には何の意味ももたないが、上の面より下の面で確認した遺構が相対的に古く、遺構も平面的に考えた方が理解が容易であるので各面毎に説明を行なう。ただ上の面で確認した遺構が下の面で変更した時には下の面に記載している。

Ⅰ面ではⅠ区の南端で標高4.1ｍ、Ⅱ区の北端で標高4.3ｍの高さの遺構である。遺構は地下室の撹乱、近、現代の井戸、ゴミ穴等により遺存状態は極めて悪い。近世から中世に至る各時代の遺構を含む。

土壙の調査

921号土壙（Fig. 6）

M－02に位置し、SX－33の覆土に掘り込まれた土壙である。主軸をほぼ東西にとる隅丸長方形の平面形である。覆土は灰褐色砂質土である。土壙の北寄りの位置から扁平な礫が出土する。

出土遺物（Fig. 7－1～6，PL.25）

出土遺物は糸切り土師器坏・皿、白磁、青磁等がある。1は土師器坏の口縁部破片である。外底部は丸底になると思われヘラ切り後ナデ調整である。2は越州窯系青磁碗である。淡黄茶白色の透明釉で、胎土は精選された淡黄白色である。3は同安窯系の青磁碗の底部である。暗緑灰色の釉を高台部を除き施す。4は褐釉鉢の口縁部である。口縁部上端に重ね焼の目跡が残る。5は滑石製容器の蓋の破片である。長方形の扁平な形態で中央上面に長方形のつまみを削

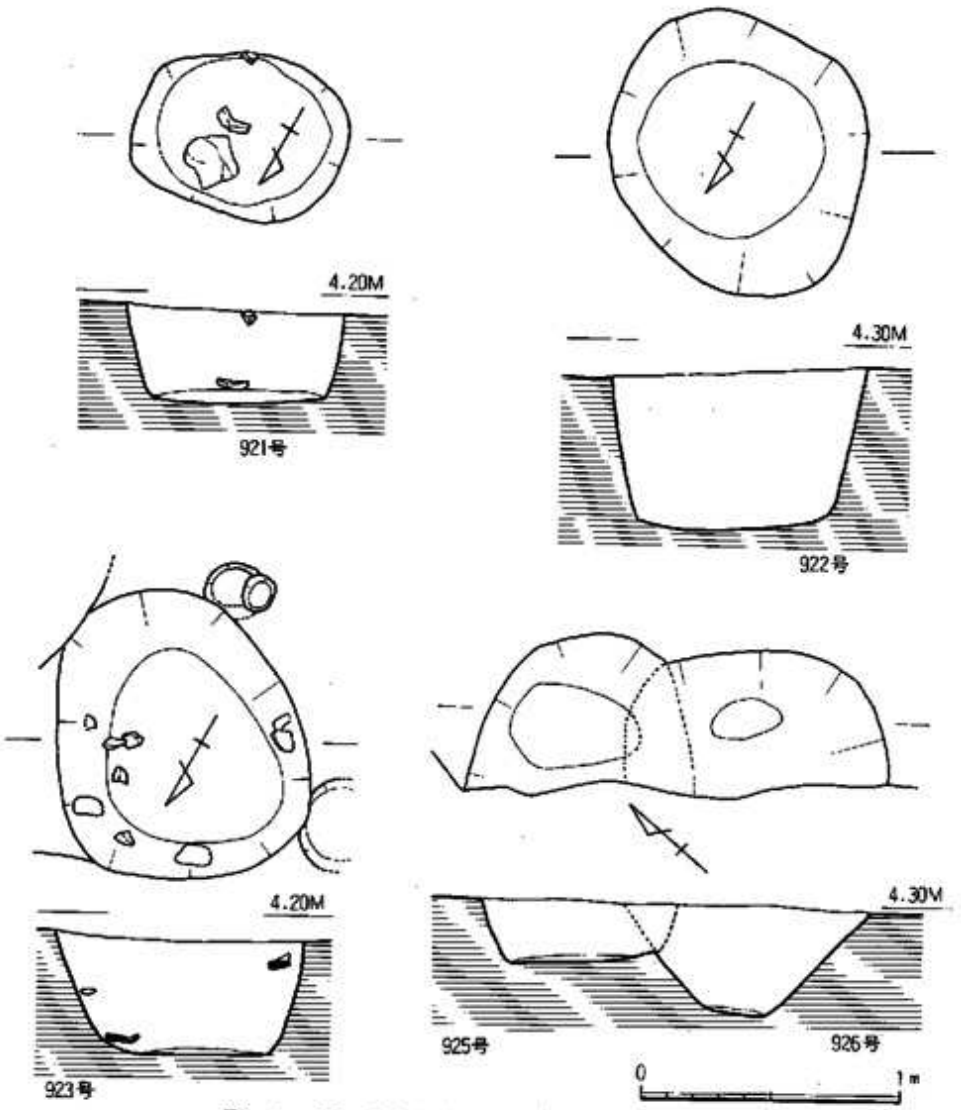


Fig. 6　921～923・925・926号土壙実測図（縮尺：1／30）

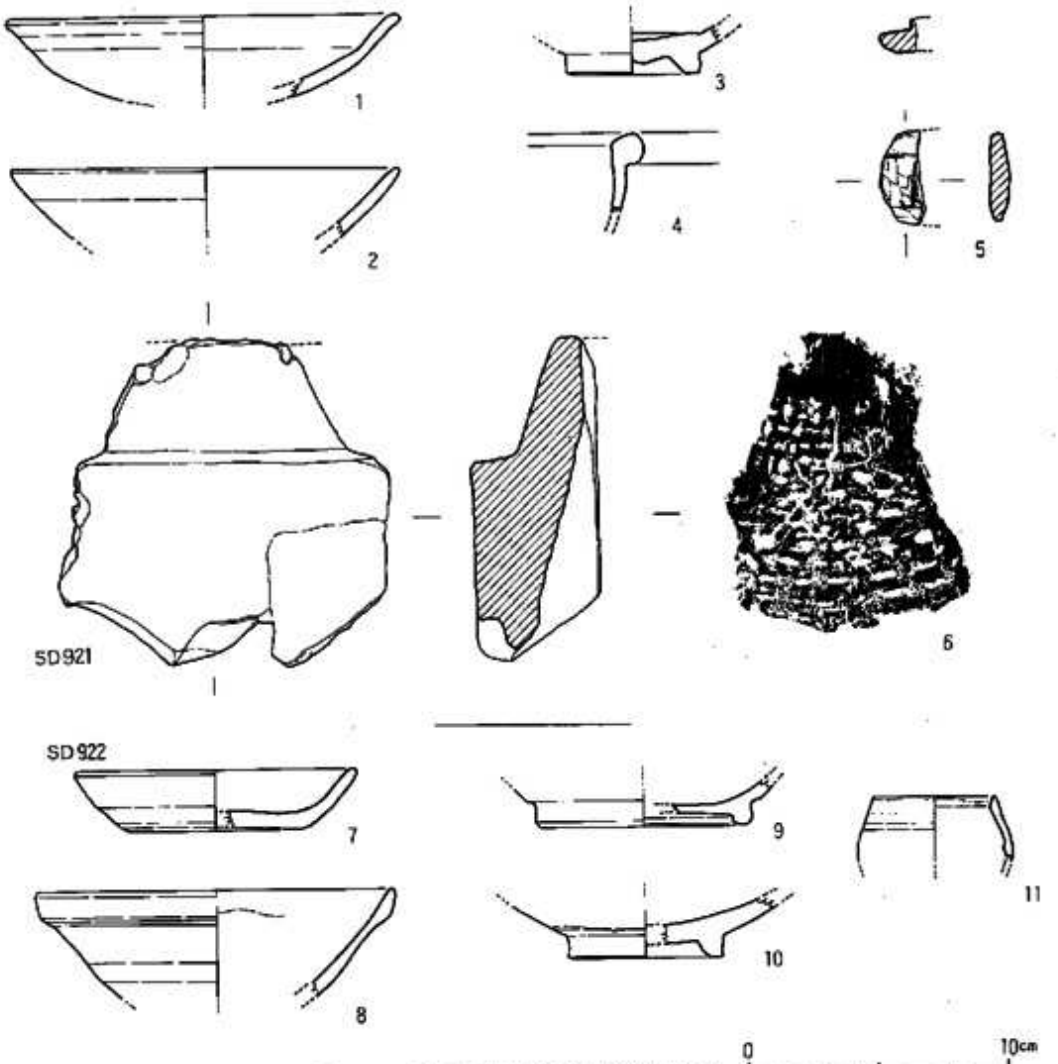


Fig. 7　921·922号土壙出土遺物実測図

り出す。一部に煤が付着し、石鍋の再利用品である。6は丸瓦である。内面に粗い布目が残る。胎土に大、小の砂粒を多く含む。

922号土壙（Fig. 6）

921号土壙の西に位置し、SX33の覆土中にある楕円形土壙である。長径1.1m、深さ0.5mの深鉢状の断面である。覆土は灰褐色砂質土に黄褐色粘土塊が混入する。

出土遺物（Fig. 7 − 7 ～11）

7は土師器坏である。口径11.0cm、器高2.4cmを測る。底部は糸切りである。8～11は輸入陶磁器である。8は三角玉縁の白磁碗の口縁部である。玉縁は少し扁平である。胎土は灰色を帯びる白色で、全面に灰白色の透明釉となる。9は陶器の袋物の底部である。高台の外縁を面取りする。胎土は淡茶褐色である。10は白磁碗の底部である。釉は灰白色で高台脇から底部は露

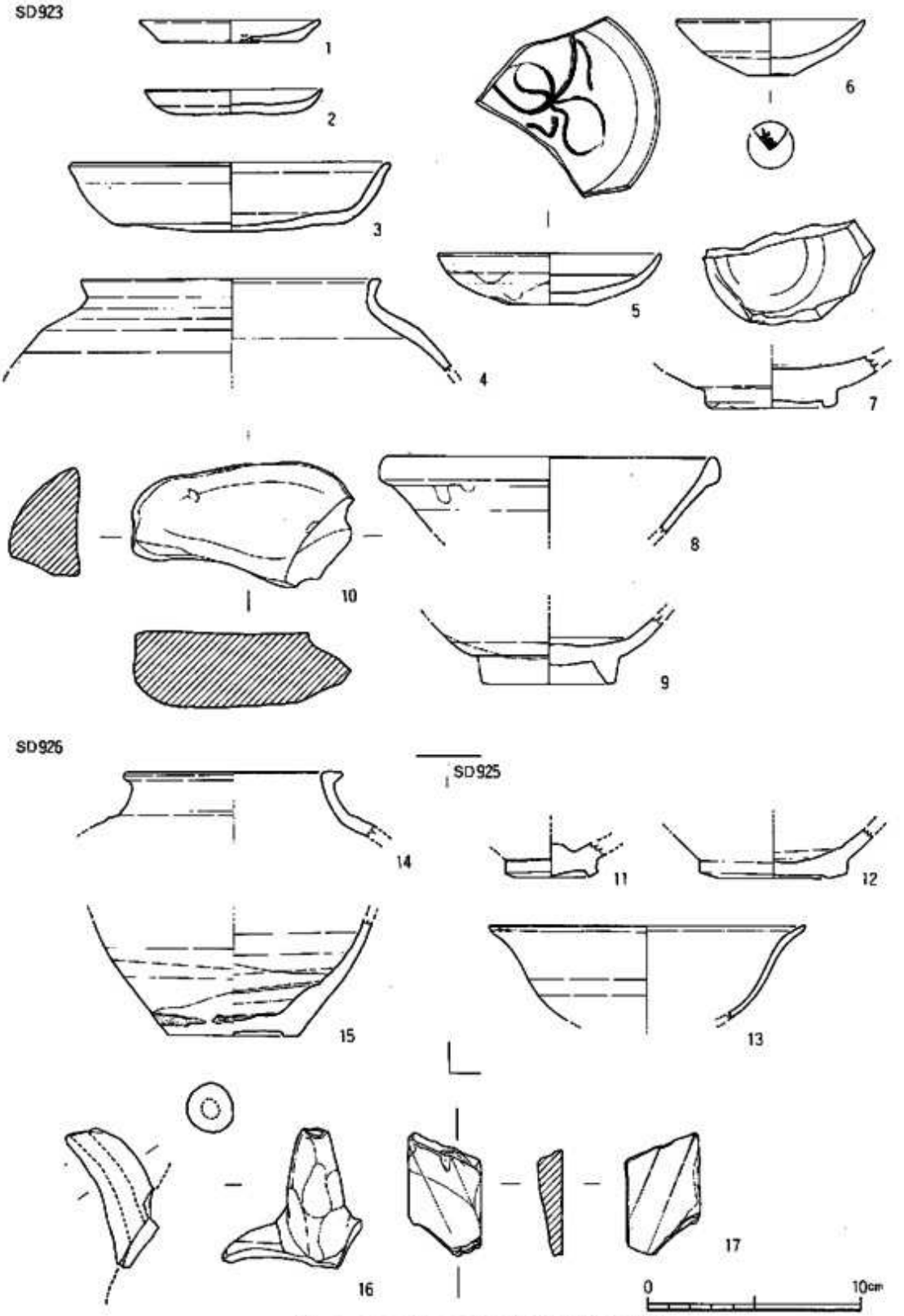


Fig. 8　923·925·926号土壙出土遺物実測図

胎である。見込には砂粒が附着する。11は口ハゲの小壺である。淡黄灰白色の半透明釉で全面に氷裂がある。他に小片であるが龍泉窯系、同安窯系の青磁碗、東播系擂鉢が出土している。

923号土壙（Fig. 6）

M－02区、1区の南西端に位置する楕円形の土壙である。長径1.15m、短径0.9m、深さ0.45mを測る。覆土は黄褐色土で上層には焼土粒、木炭を多く含む。遺物は上層の木炭層に混って多くが出土している。

出土遺物（Fig. 8－1～9，PL.25）

1、2は土師器小皿である。底部は1がヘラ切りで、2が糸切りである。ともに板状圧痕がある。3は土師器坏で底部は糸切りで板状圧痕がある。口径15.2cm、器高3.3cmを測る。底部は少し丸味をもつ。4は須恵質の壺である。色調は灰白色で胎土に砂粒を含む。口縁部は肥厚する。5、6は白磁の皿である。5は見込に沈圏線、蓮弁文を描く。釉は淡灰白色で体部に釉だれがあり底部は露胎である。6は底部に花押の墨書がある。7は龍泉窯系の青磁底部である。底部は厚く高台は小さく低い。胎土は灰白色で高台の外面まで施釉し、高台の内側は露胎である。薄緑色の透明釉で、見込に沈線をめぐらす。8は三角玉縁口縁の白磁碗である。9は白磁碗底部である。胎土は黄白色で黄灰色の不透明釉である。

925号土壙（Fig. 6）

M－01区にある土壙で926号土壙に切られSX30を切る。西側は調査区外へ拡がる。現存値0.8×0.9m、深さ0.35mの断面は浅い皿状である。全体の4分の1を欠損するが平面は楕円形で径1.2m前後を測るものであろう。

出土遺物（Fig. 8－11～13）

出土した遺物は少なく糸切り土師器、白磁、青磁碗がある。11は黒褐釉天目碗である。外面は露胎。12は玉縁口縁をもつ碗の底部である。見込に沈圏線をもつ。胎土は乳白色で淡灰白色の不透明な釉で全体に氷裂がみられる。13は口ハゲの白磁碗で口縁部が露胎となる。胎土は細かい砂粒を含む白色で釉は淡灰白色で不透明である。

926号土壙（Fig. 6）

925号土壙を切って南側に位置する土壙である。1.15×0.65mの隅丸長方形を呈する。底面まで擂鉢状にすぼまる。調査時は925号を切ると考えたが、土層図の検討から逆になった。

出土遺物（Fig. 8－14～17，PL.25）

14は施釉陶器壺である。暗黄緑灰色の不透明釉を施す。口縁上端は平坦で外側へ肥厚させる。15は褐釉陶器壺の胴部～底部片である。全体に黄褐色釉を化粧がけし外面に暗黒茶褐色の釉を施す。16は暗黄緑灰色の不透明釉の陶器水注の注口部である。胎土は茶褐色ないし明灰色である。17は黄白色の粘板岩製の砥石である。4面を使用する仕上げ砥であろう。

928号土壙（Fig. 9）

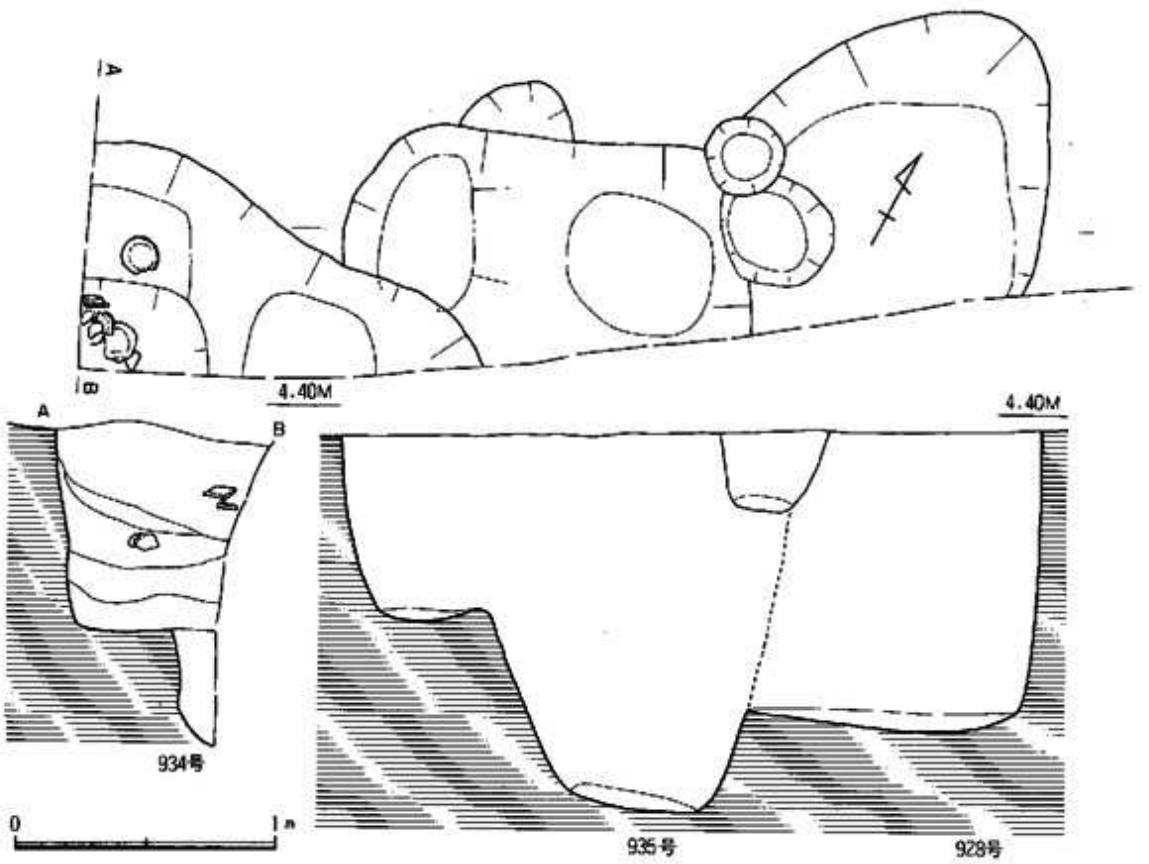


Fig. 9　928·934·935号土壙実測図(縮尺：1／30)

M－02区にあり、923号土壙の南側に位置する土壙である。南側は調査区外へ拡がり西側はピットと重複し、さらに935号と重複している。土層観察により935号土壙を切っていることが判明した。規模は現況で東西1.5m、南北2.2m、深さ1.3mを測る不整形の平面である。覆土は上層が灰褐色土で中層が黄白色砂、暗褐色土、灰褐色砂層の互層で下層が茶褐色土となる。土壙墓であろう。

出土遺物（Fig.10, PL.25）

出土遺物は多く糸切りの土師皿、白磁碗、青白磁の合子、碗、龍泉窯系の碗、その他各種の輸入陶磁器類である。1～3は糸切り土師器坏、皿である。3は口径13.2cm、器高3.1cmで底部は糸切りで板状圧痕がある。4～8は白磁碗である。4は胎土が淡灰白色で淡黄緑灰色の釉で

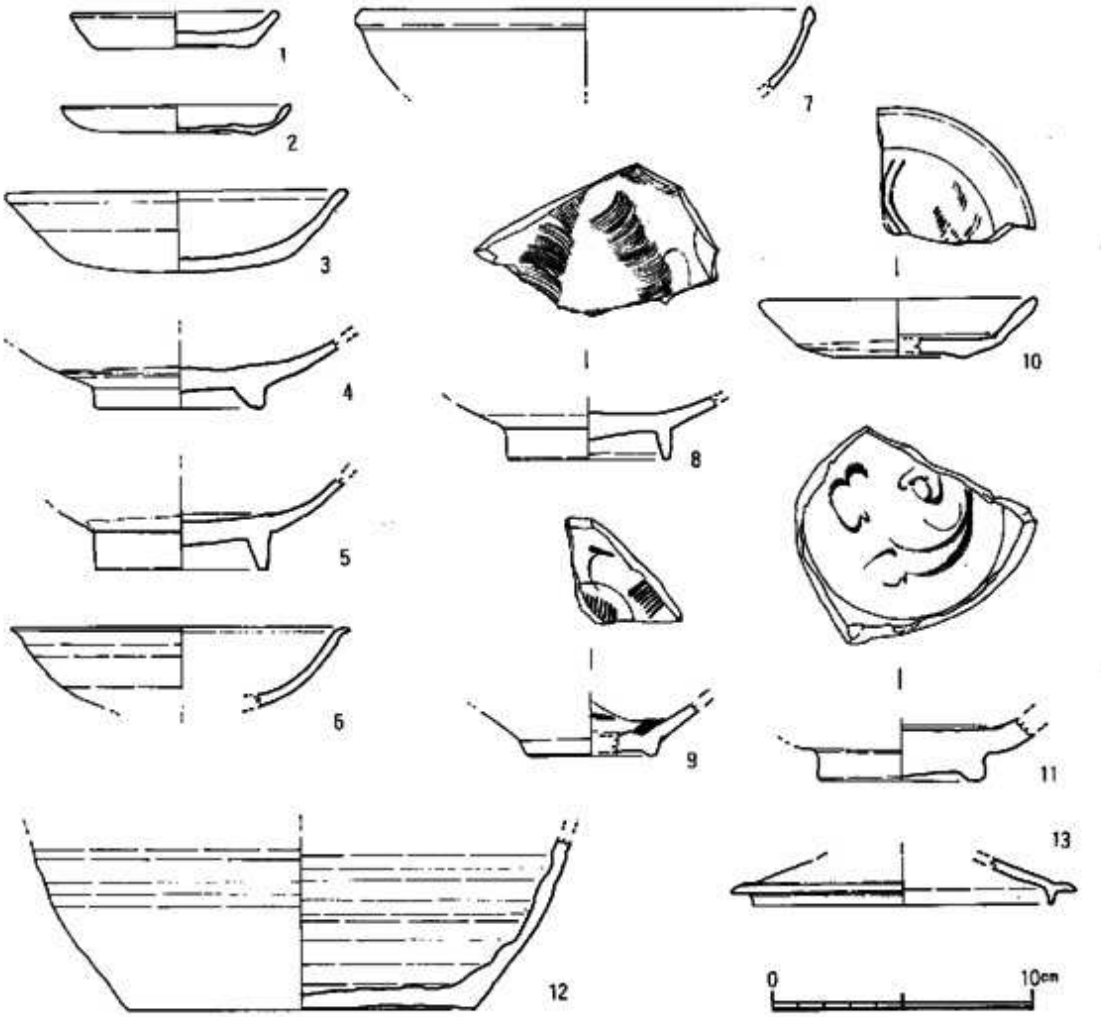


Fig.10　928号土壙出土遺物実測図

全体に氷裂がみられる。小玉縁の口縁がつくものである。7は同形態の口縁部破片である。5は高台の高いV～VI類碗で高台～底部は露胎である。6は小碗で口縁下に稜をもち強く外反する。胎土は白色で淡い青味を帯びた淡灰白色の透明釉である。8は見込に櫛描文を描く。高台内は露胎である。9は青白磁碗である。高台は低く畳付は三角形に尖る。畳付～底部を除き淡青灰白色の透明釉を施す。10は同安窯系青磁皿である。胎土は灰、乳白色で淡黄灰色の釉である。底部脇～底部まで露胎である。11は龍泉窯系青磁碗で見込に片彫の花文を描く。高台は低く底部は露胎である。釉色は暗緑灰色である。12は須恵器で他に坏蓋が出土しており、一時期古いものである。13は陶器の蓋である。天井部の一部に褐釉が認められる。胎土には砂粒を多く含む。

934号土壙（Fig. 9）

調査区の南西隅に検出した土壙である。南西側は調査区外へ延びる。全体の4分の1の調査

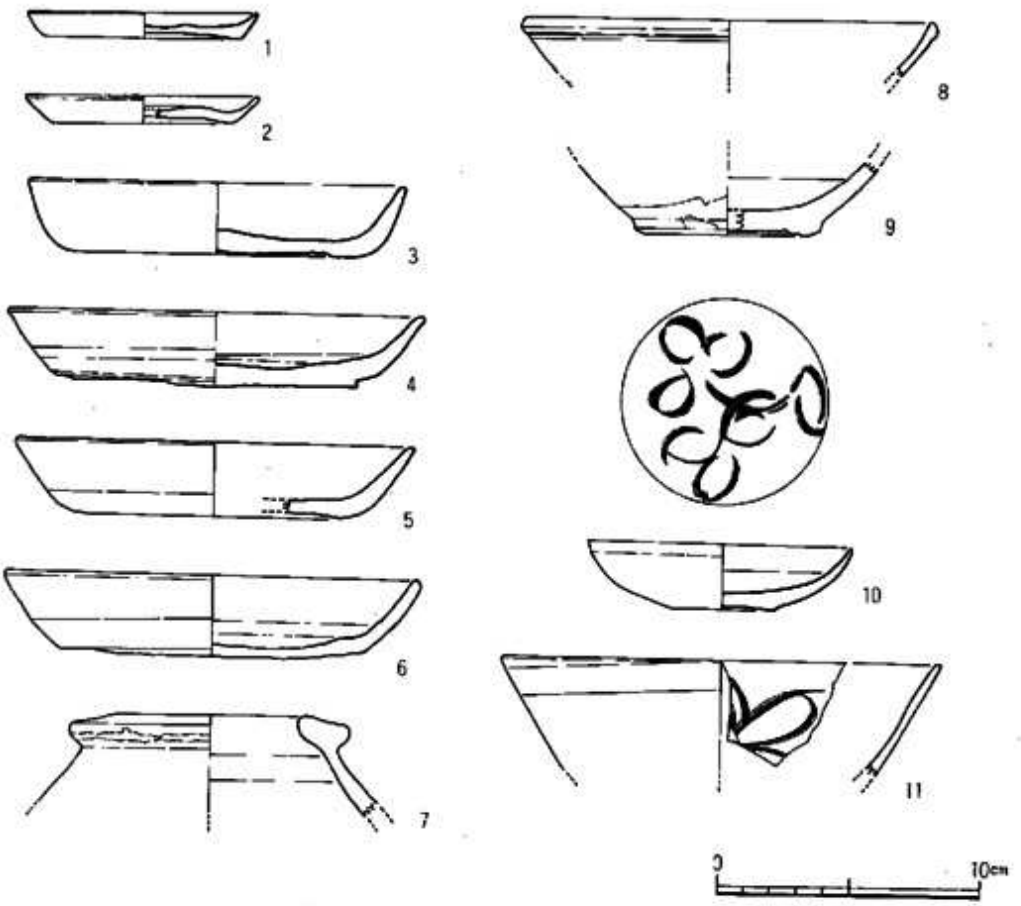


Fig.11　934号土壙出土遺物実測図

であるので全体の規模形態は不明である。現状では三角形で、おそらく楕円形になるものと思われる。床面は二段に掘り込まれている。一段目までの深さは0.9m、二段目は0.5mの深さである。二段目の掘り込みは別の遺構の可能性もあるが、調査区の端に位置するため詳細は不明である。覆土は上から暗褐色土、暗褐色砂質土、黒褐色土、暗褐色砂質土で木炭、灰を含んでいる。一段目の平坦部分に土師器皿数個体がほぼ完形で出土した。土壙墓と考えられる。

出土遺物（Fig.11，PL.25）

1～6は土師器の坏、皿である。1、2は糸切りの小皿である。口径8.8～9.0cm、器高1.1cmを測る。3～6は坏で口径14.5～16.0cm、器高2.7～3.0cmを測る。底は糸切りで板状圧痕をとどめる。7～11は輸入陶磁器である。7は陶器で口縁部がT字に肥厚する。濃暗緑色の不透明釉で口縁部上端のみ拭き取り茶褐色になる。胎土は比較的精良であるが細砂粒を少し含む暗赤茶褐色である。8は小玉縁の白磁碗で淡灰褐色の不透明釉である。9はIV類の底部で見込に沈線がある。10は白磁皿で片切彫の蓮弁文を描く。上げ底で胎土は白灰色で灰オリーブ釉である。11は龍泉窯系青磁碗で内面に花文を描く。他に蓮弁文碗2点が出土している。

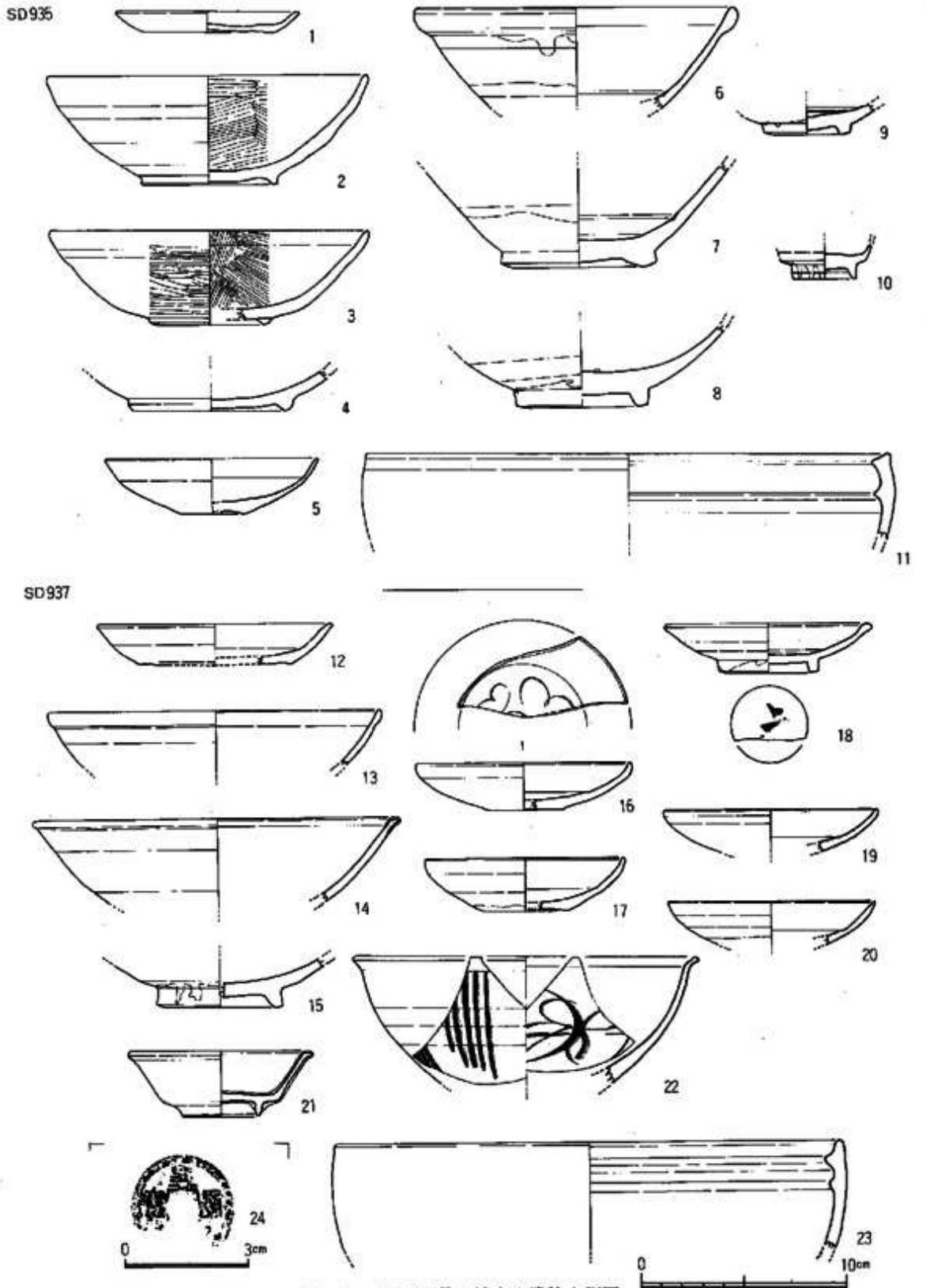


Fig.12　935・937号土壙出土遺物実測図

935号土壙（Fig. 9）

928号と934号土壙の間に位置する長方形の土壙である。南側は調査区外へ延びる。現況で東西1.9m，南北1.1mである。床面は二段に掘り込まれ、西側で0.8m、東側で1.65mの深さである。壁面に沿って黄白色粘土、木炭が付着し、上面は黄褐色粘土層で整地により削平された状況を示す。覆土は中央部が窪む縞状の凹レンズ状堆積を示し、木炭も多く含んでいる。一部焼けた獣骨も出土しており、廃棄用土壙であろう。

出土遺物（Fig.12－1～11，PL.25）

1は糸切りの土師器皿である。口径9.0cm、器高1.0cmを測る。2～4は高台付の瓦器椀である。2は高台がバチ形に開き低い。胎土は石英粒を少量含むが良好である。内面はヘラ研磨、外面はヘラ削りの後横ナデである。外面は黒色で内面は灰白色である。3は断面三角形の高台である。内面は丁寧な研磨、外面は体部上半が研磨で下半はナデている。5～10は白磁である。5は皿で体部下半から底部は露胎である。釉は淡黄褐色である。6、7はIV類の碗である。7の体部下半は露胎で低い高台である。8はII類の碗底部である。9は皿底部で見込を輪状に掻きとる。10は黄緑を帯びる灰白色の釉で一部高台外面に垂れる。畳付から高台内は露胎である。11は陶器の捏鉢である。色調は暗赤茶褐色で胎土に砂粒を多く含んでいる。

937号土壙（Fig.13）

L－01区に位置する不定形土壙である。長径1.7m、短径1.3m、深さ0.6mで断面が逆台形である。134号井戸の覆土上にあり、井戸の掘り方の可能性もある。覆土は黄褐色粘土を混えた灰褐色土で多くの遺物を出土している。

出土遺物（Fig.12－12～24，PL.53）

12は糸切り底の土師器皿である。口径11.6cm、器高2.0cmを測り底面に板状圧痕がある。13～20は白磁である。13、15はII類の碗である。13は淡明褐色の透明釉で全体に氷裂がみられる。15は高台外面に釉が垂れ畳付から底部は露胎である。14はV類の碗である。口縁部上端を平坦にする。淡黄灰色の半透明釉である。16、17、19はII類の白磁皿で口縁部を強く内弯させる。見込に沈圏線をめぐらす。16は細線文をもつ。胎土は乳白色ないし灰白色で釉は淡黄灰色～淡緑灰色である。18は高台付皿で底部外面に墨痕がある。21は龍泉窯系青磁小碗で、全面に暗緑褐色の釉を施し畳付だけ掻きとる。口縁端部は折り曲げ上面は平坦となる。22は同安窯系の青磁碗である。外面に幅広の5条の縦線文、見込には片切り彫の花文をもつ。胎土は乳白色で淡青緑灰色の半透明釉である。23は陶器の捏鉢である。色調は暗茶褐色で胎土に砂粒を多く含む。24は銅銭で4分の1を欠損する。皇宋通寶（初鋳1039年）である。径2.57cm、厚さ0.18cmを測る。

938号土壙（Fig.20）

132号井戸を切って北側に位置する近世の土壙である。長さ1.85m、幅1.35m、深さ0.8mを

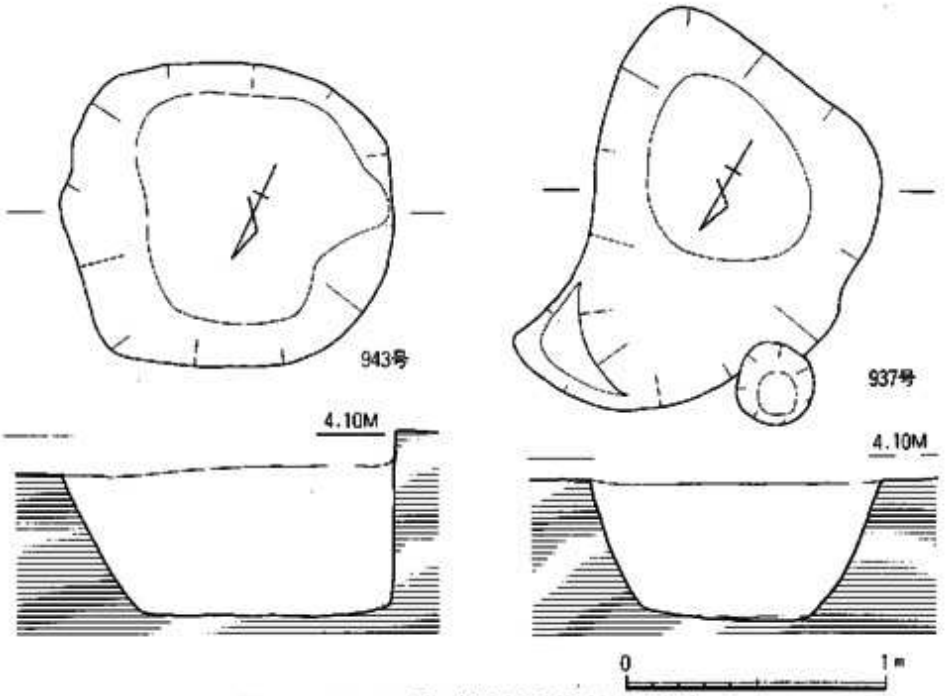


Fig.13　943・937号土壙実測図(縮尺：1／30)

測る。平面形は長方形である。

出土遺物（Fig.14－1～4，PL.25・53）

遺物は他に多くの近世以降の国産陶磁器類がある。図示したのは今回の調査区で類例の少ないものである。1は外面に網目の染付をもつ伊万里碗である。2は明の染付大皿である。畳付に砂目がつき、見込に草花文を描く。文様の輪郭及び葉脈を鉄釉で縁取りする。素地は青灰色である。3も明染付皿である。4は粘板岩系の石材を使用した硯である。陸、舟部の先端を欠損する。

943号土壙（Fig.13）

Ⅰ区の中央、L－01区に位置する不整円形土壙である。南北1.3m、東西1.1m、深さ0.6mを測る。覆土は上層が暗褐色砂質土で黄褐色粘土、焼土を混入する。下層は黒褐色土で黄褐色砂層が縞状に堆積する。床面は平坦である。

出土遺物（Fig.14－5～10，PL.26）

5、6は土師器皿である。底部は糸切りの後に板状圧痕がある。他に図示していないがヘラ切り小皿も出土している。7は土師器坏で口径14.9cm、器高2.9cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕がのこる。8は龍泉窯系の束口碗である。外面は鎬蓮弁文である。胎土は灰白色で白濁した青緑色の釉で、口縁端部は釉が薄く黄灰色である。9はⅣ類の三角玉縁の碗である。体部下半～底部は露胎である。10はⅨ類の白磁碗で見込を輪状に掻きとる。高台近くから底部は露胎である。灰白色の胎土で釉も同色である。

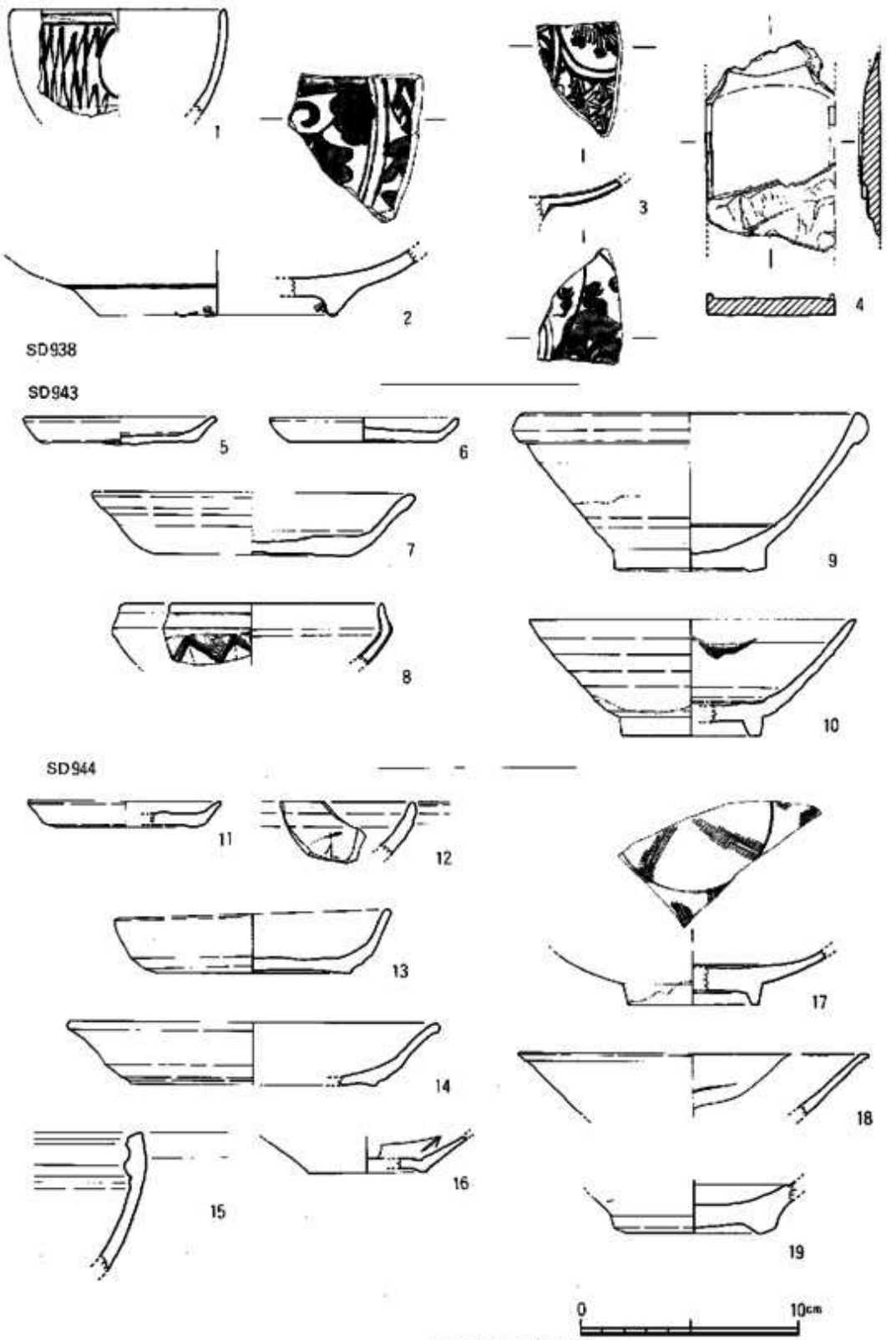


Fig.14　938·943·944号土壙出土遺物実測図

944号土壙（Fig.15）

1区の東南端に位置する大型土壙である。大部分が調査区外へ延び、全体の形態は不明であるが円～楕円形と思われる。覆土は暗灰褐色砂質土の単一層であり、井戸の可能性がある。

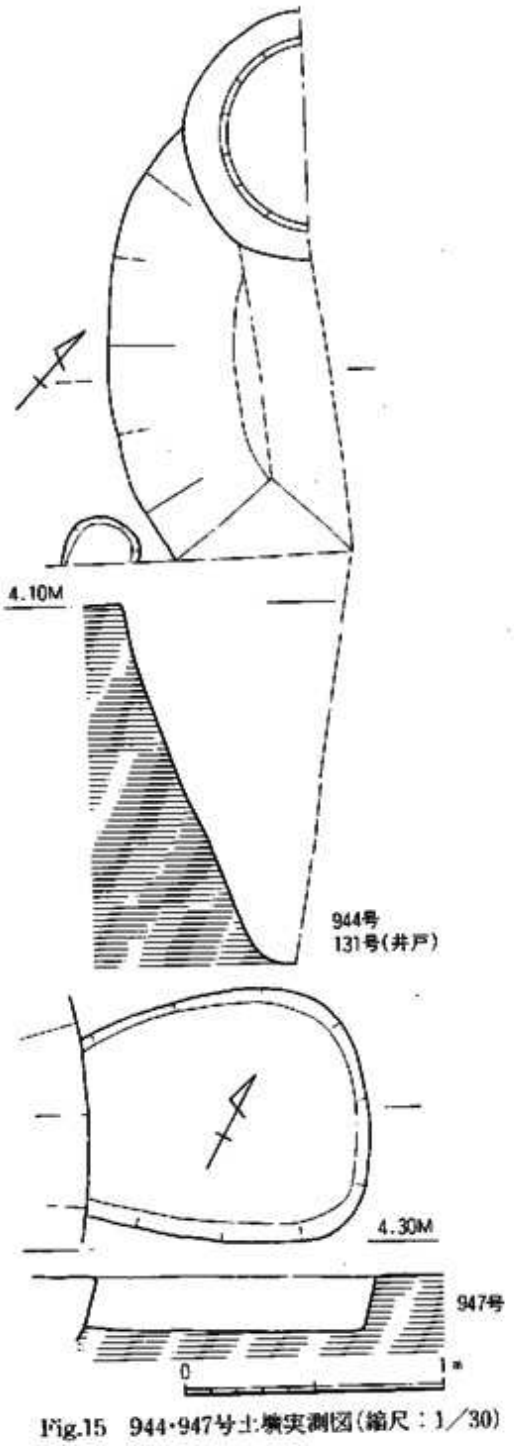


Fig.15　944・947号土壙実測図（縮尺：1／30）

出土遺物（Fig.14－11～19）

11は土師器皿、12～14は土師器坏である。12は内面に人字状の暗痕がある。13は口径12.9cm、器高2.9cmを測り、底部糸切りである。14には底部に板状圧痕がある。15～19は輸入陶磁器である。15はC群の陶器の捏鉢である。口縁部を内弯させ内側を波状に肥厚させる。胎土に砂粒を多く含み色調は淡褐色である。16はロハゲの白磁皿である。内面に白堆、外面に火跡がある。胎土は白色でくすんだあめ色の釉である。17は逆台形の高台で、内面に櫛描文様をもつ。18はVI類の白磁碗で口縁部上端を水平に切り、外面直下に稜をもつ。19はIV類の白磁碗底部である。見込に沈圏線をもつ。他に龍泉窯系青磁のI、II類の碗、同安窯系の皿が出土している。

947号土壙（Fig.15）

L－01区、132号井戸の東に位置する隅丸長方形の土壙である。現存長1.1m、幅1.0m、深さ0.2mを測る。覆土は暗黒灰色の軟質な土壙である。

出土遺物（Fig.16－1～3）

出土遺物は少ない。輸入陶磁器約20点、土師器類約10点だけである。図示した他に明代染付の破片が一点出土している。1はIV類の玉縁口縁の白磁碗である。胎土、釉ともに灰白色で、玉縁は扁平である。2は逆台形の高台で見込を輪状に掻きとるIX類の白磁碗である。体部下半～底部は露体である。3は陶器盤の口縁部である。胎土は砂粒を多く含み粗悪で、色調は灰茶色である。口縁外端～内面は灰オリーブ色の釉で、口縁上端は釉をふきとる。

964号土壙（Fig.17）

L－03区に位置する不整長方形の土壙である。上

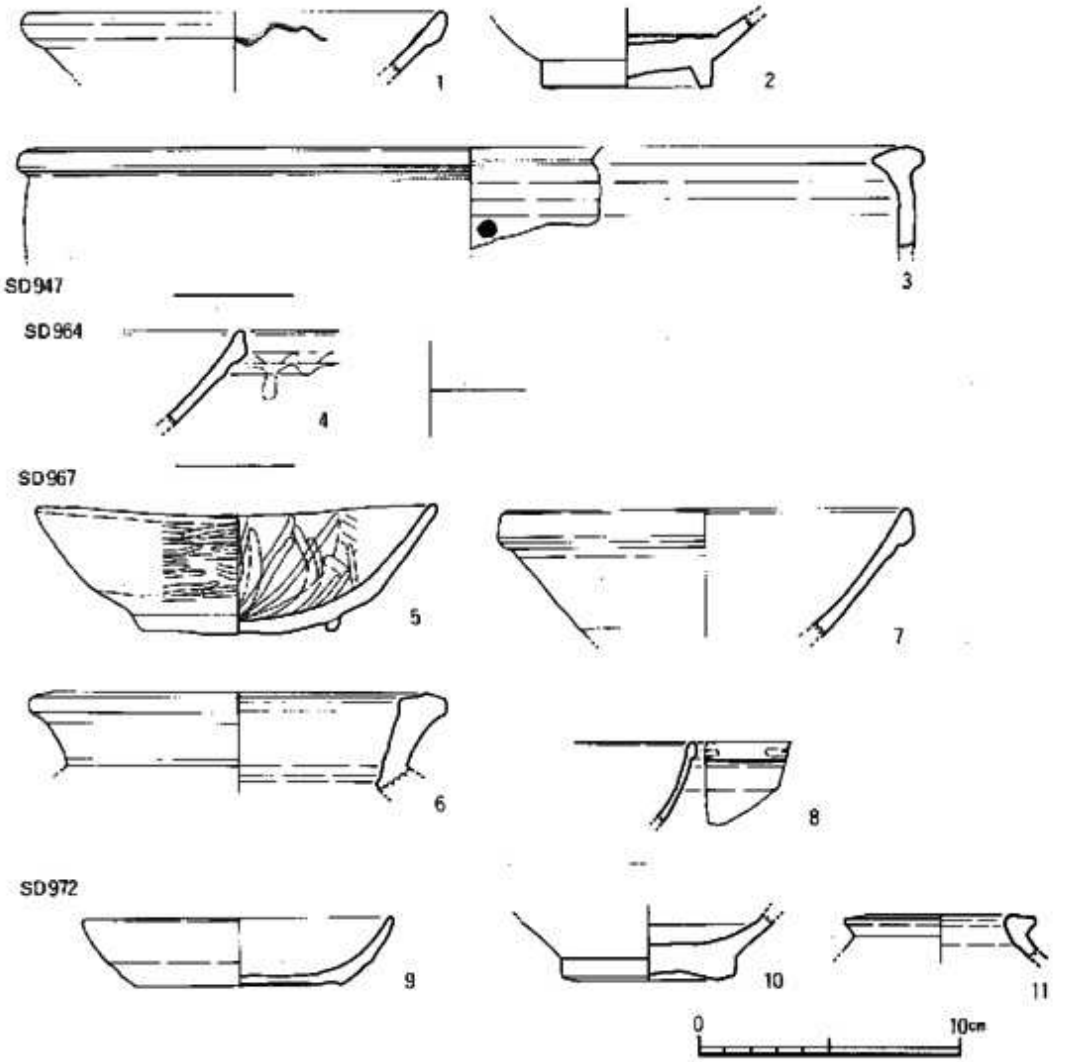


Fig.16　947·964·967·972号土壙出土遺物実測図

面に拳大の礫を置く。覆土は灰褐色土である。1.45×0.9m、深さ0.25mの断面皿状の浅い掘り込みである。出土遺物は少なく図示した他に糸切り、ヘラ切りの土師器坏、皿がある。また近世陶磁器も出土しており近世の土壙と考えられる。

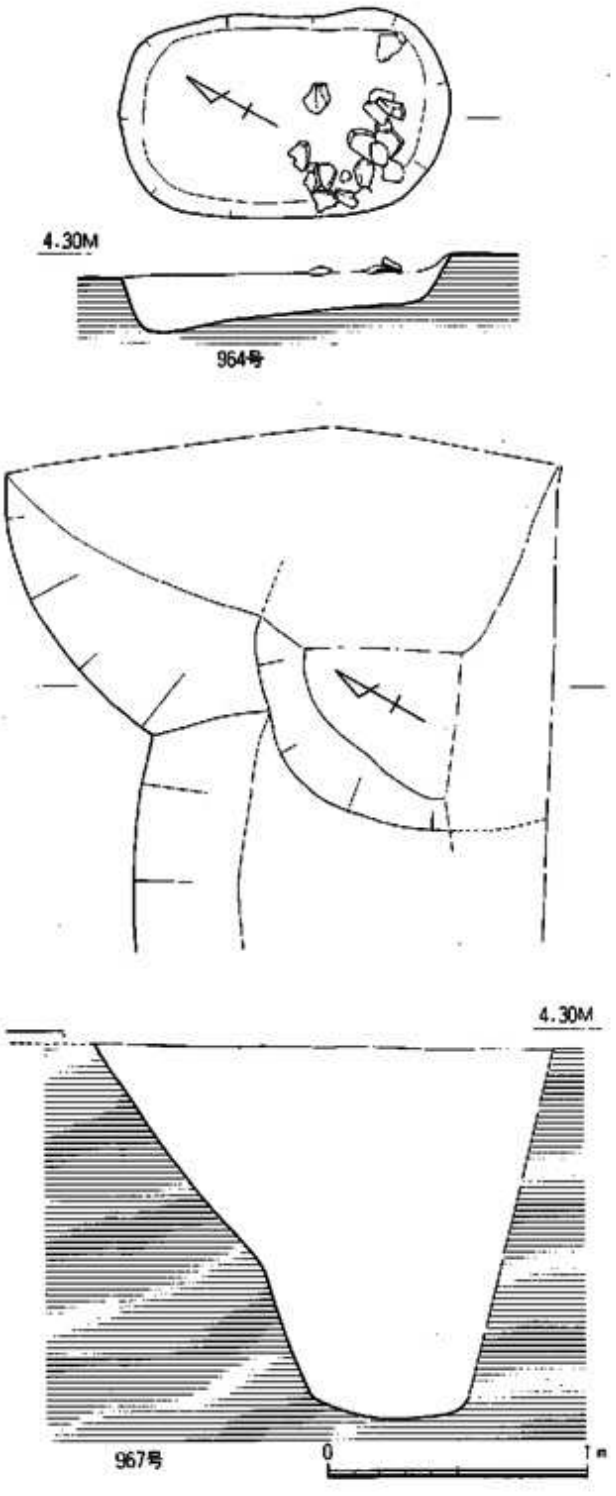
出土遺物（Fig.16－4）

Ⅳ類の白磁碗で外面に釉だれがみられる。胎土は灰白色で釉は不透明な灰あめ色である。

967号土壙（Fig.17）

Ⅱ区の東南端、L－04区に位置する土壙である。西側は攪乱に切られ、南側は調査区外へ拡がる。調査したのは全体の約5分の1で形状は不明瞭であるが、円～楕円形の大型土壙であろう。

出土遺物（Fig.16－5～8，PL.26）



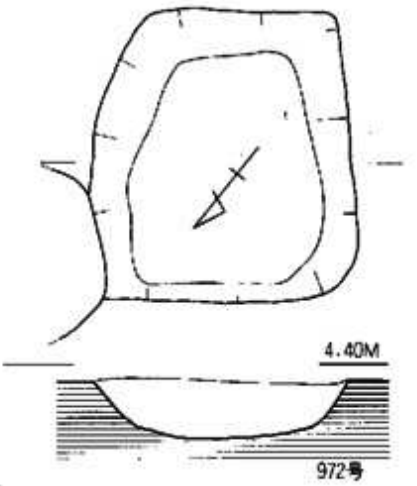


Fig.17　964・967・972号土壙実測図(縮尺：1／30)

5は瓦器埦である。歪みが大きく、口径15.4～16.1cm、器高4.5～4.9cmを測るほぼ完形品である。低い貼付高台で底部の方が低くなる。内面は縦位の、外面は横位の研磨である。色調は内面が黒褐色で外面は黒灰色ないし灰白色である。胎土には砂粒を多く含んでいる。6は準A群の陶器壺であろう。胎土は黒色の砂粒を含む茶灰色で金茶色の釉が全面にかかる。7はIV類の玉縁口縁の白磁碗である。胎土は灰薄茶色で乳黄色の釉を体部外面の上半まで施す。8は小玉縁の白磁碗である。胎土は暗灰色で淡い灰緑色の釉である。

972号土壙（Fig.17）

K－02区、SX34を切って北側に位置する台形土壙である。東西1.35m、南北2.3m、深さ0.25mの規模である。断面は皿状を呈する。覆土は灰

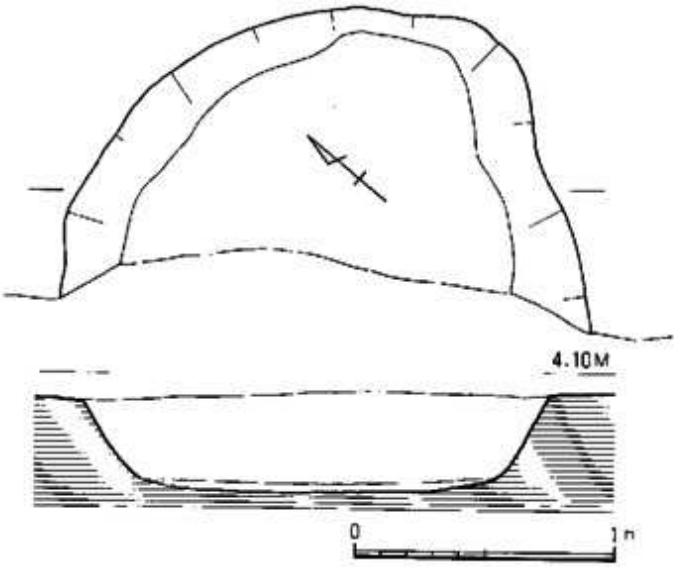


Fig.18　977号土壙実測図(縮尺：1／30)

褐色砂質土である。東壁は丸味をもち、床面はほぼ平である。

出土遺物（Fig.16－9～11）

9は底部糸切りの土師器坏である。口径12.0cm、器高2.6cmである。内外面ともナデ調整である。10は白磁碗Ⅳ類の底部である。輪広で低い高台は露胎で乳灰色を呈す。11は瓶の口縁部で胎土はきめ細かな黒褐色、茶釉である。

977号土壙（Fig.18）

K－01区、11区西壁中央に位置する。西半部は調査区外に拡がり、現状では半円形の平面であるが本来円～楕円形をなすものと考えられる。南北径2.0m、深さ0.4mを測る規模である。覆土は暗灰色～茶褐色砂質土である。土器の多くは上層の方からの出土である。13世紀前半期の土壙である。

出土遺物（Fig.19, PL.26・53）

1～3は土師器皿である。1は口径9.5cm、器高1.4cmを測る。底部はヘラ切りで板状圧痕があり少し丸味を帯びる。内外面とも横ナデ調整である。2の底部は糸切りで板状圧痕をもつ。口縁部は強く外反し口唇部は尖る。3には見込に墨痕をとどめるが破片のため字体は不明である。4～12は白磁である。4はV類の碗で見込に沈圏線をもち、底部に墨書がある。中央に花押、その右側に小さく「五」と書く。5～7はII類碗である。7は見込に沈圏線があり、その内側を輪状に掻きとる。8は底部に花押の墨書をもつ。胎土は灰白色で淡黄緑灰色の釉である。全体に貫入が認められる。9、10は内面に片切彫、櫛描文様がある。胎土は灰白色で微砂を含む。淡明褐色の半透明釉である。11は外面に縦線を刻み、内面に櫛描文様をもつ。口縁端は強く外反する。12も口縁端を外反させ上端を平坦に削り、見込に沈圏線をもつ。胎土は灰白色で砂粒を含む。釉は淡明褐色の半透明釉である。13は龍泉窯系の青磁碗である。胎土は淡灰色で細砂粒を少し含む。淡暗緑灰色の透明釉で全体に氷裂がある。14は白磁碗で底部に「林」を墨書する。その下にも花押様の墨痕がある。15はA群の暗茶褐色釉の陶器壺である。内面の頸部に帯状に施釉し、他は露胎である。外面は全面施釉。胎土は明灰色～淡乳灰色で黒色の砂粒を含む。16はB群の皿である。暗緑褐色釉で底部までかかる。他に盤、四耳壺、小口瓶、擂鉢、同安窯系、広東系碗片などが出土している。17は熙寧重宝（初鋳1068年）である。径3.2cm、厚

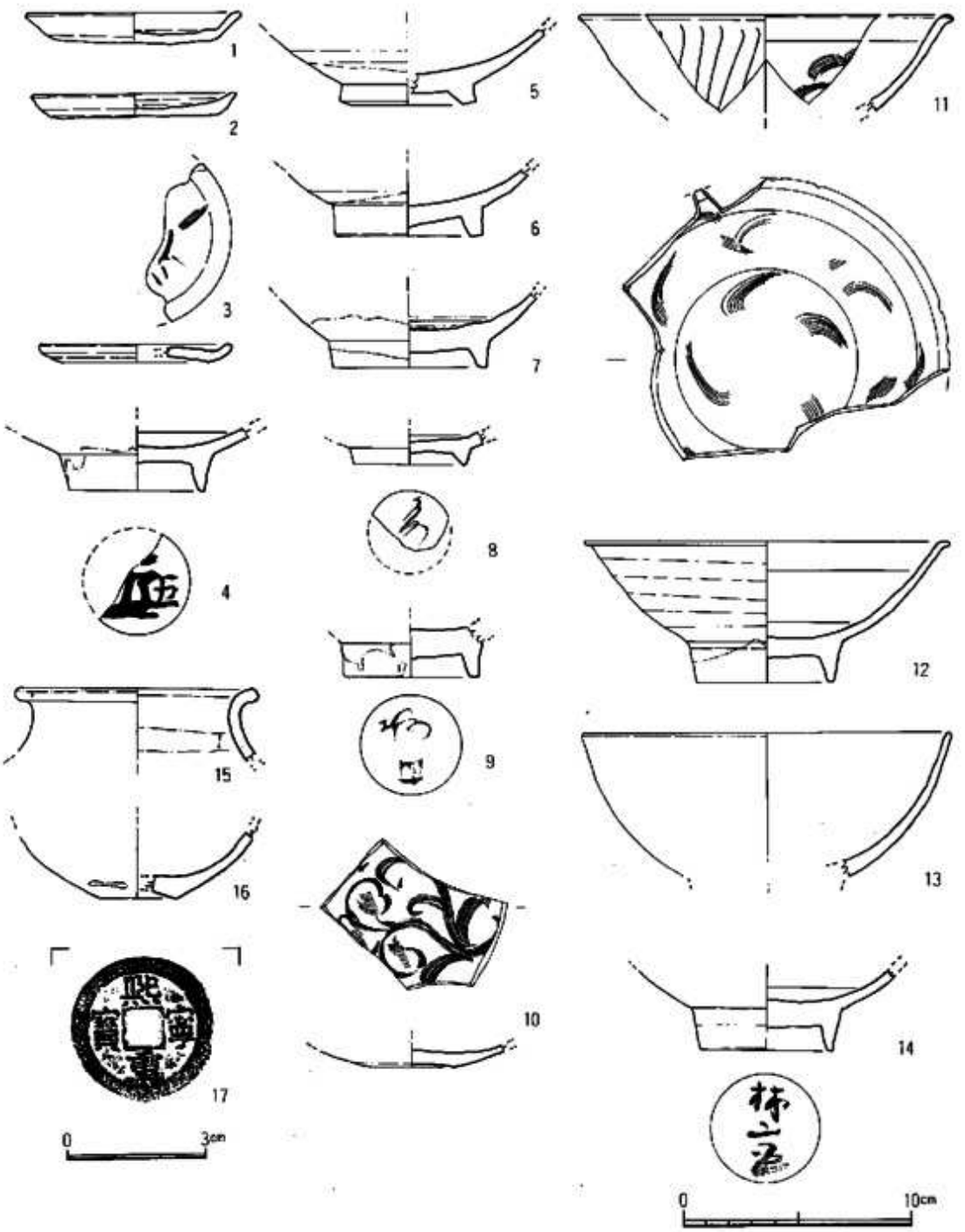


Fig.19　977号 I:墳出 I:遺物実測図

さ0.7cmを測る大型品である。

井戸の調査

I 面で確認した井戸は11基あり、その中で井筒を瓦組としているのが８基ある。瓦井戸は近

世以降のもので、比較的古いのは132号井戸である。中世の井戸は140号、144号である。

132号井戸（Fig.20）

Ⅰ区の北端に位置する大型の井戸である。上面を938号土壙に切られ、939号土壙を切る。径2.5～2.8mの掘り方で井筒部は平瓦を用いて円筒形に築き、径0.7mを測る。掘り方の壁面は大部分が黄白色砂層であるためかなり傾斜を緩やかにする。近世の井戸である。

出土遺物（Fig.21, PL.40・53）

近世以降の陶磁器、特に伊万里、唐津を多量に出土する。その中に中世遺物を少なからず含んでいるので、比較的古い類を図示した。1は白磁の平底皿である。内面に片切彫の文様をも

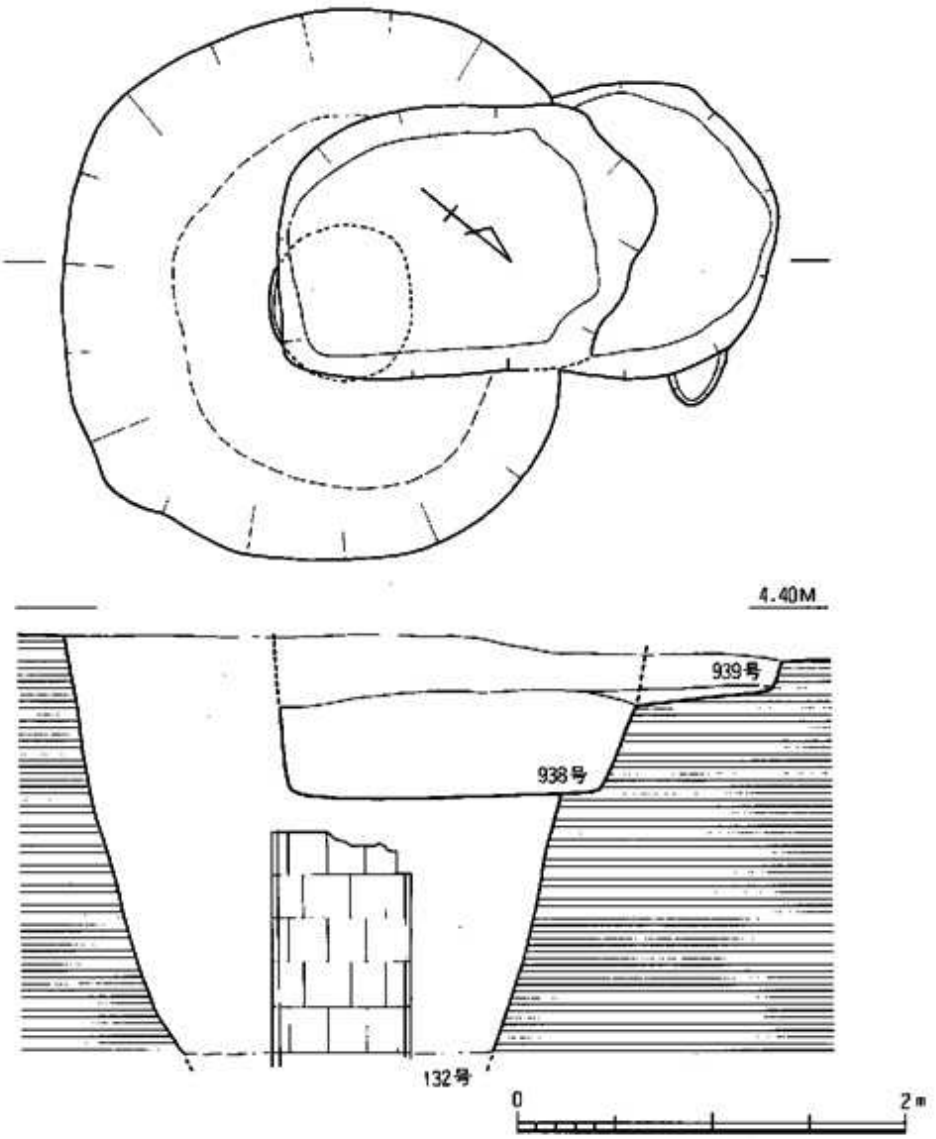


Fig.20　132号井戸、938・939号土壙実測図（縮尺：1／40）

つ。胎土は灰白色で緻密である。釉は灰白色で光沢がある。底部は露胎である。2は白磁の合子蓋である。3は越州窯系青磁碗である。体部下半～底部は露胎で薄茶色、見込に目跡がある。胎土は灰クリーム色で釉は灰オリーブである。4は肩付茶入である。胎土は暗灰色で緻密である。釉は茶褐色を呈する。5はA群の陶器皿である。胎土は灰クリーム色で釉は金茶色で内面の釉が厚くなる部分は黒色に近くなる。外面の体部下半は露胎である。7は龍泉窯系の壺底部である。灰色を帯びる若草色の釉である。畳付は露胎で茶褐色の発色である。9は碁笥底の明代染付皿である。外面に芭蕉文をもつ。6は土師質の猿の土製品である。右前足と左後足の一部を欠損する。顔は猿に似せ丁寧な造りであるが、胴、脚は土馬にみられる粗雑な調整で指跡が残る。顔面と尻に赤色顔料を塗布する。10は軒平瓦で唐草文をもつ。11、12は寛永通寶である。

135号井戸（Fig.22, PL.20）

M－02区、I区の中央東壁寄りに位置する井戸である。SX33を切り、その中央部にある。掘り方は大きく径2.6mを測るほぼ円形の井戸である。I面での確認時には焼土、黄褐色粘土が埋る土壙と考えたが、II面まで掘り下げ井戸と判明した。掘り方の中心部に平面が円形の径0.75～0.85mの井筒部を確認した。木桶と考えられるが木質部は遺存していなく、土層の覆土の違いで判断した。標高1.5mまで掘り下げたが井戸の底までは達していない。安全対策上、それ以下は掘り下げなかったが、あと1m位は深くなると考えられる。井筒は上部の幅が狭く、下にいくにしたがい幅広くなる。遺物には中世の陶磁器を多く出土するが、SX33を切ること、備前焼V

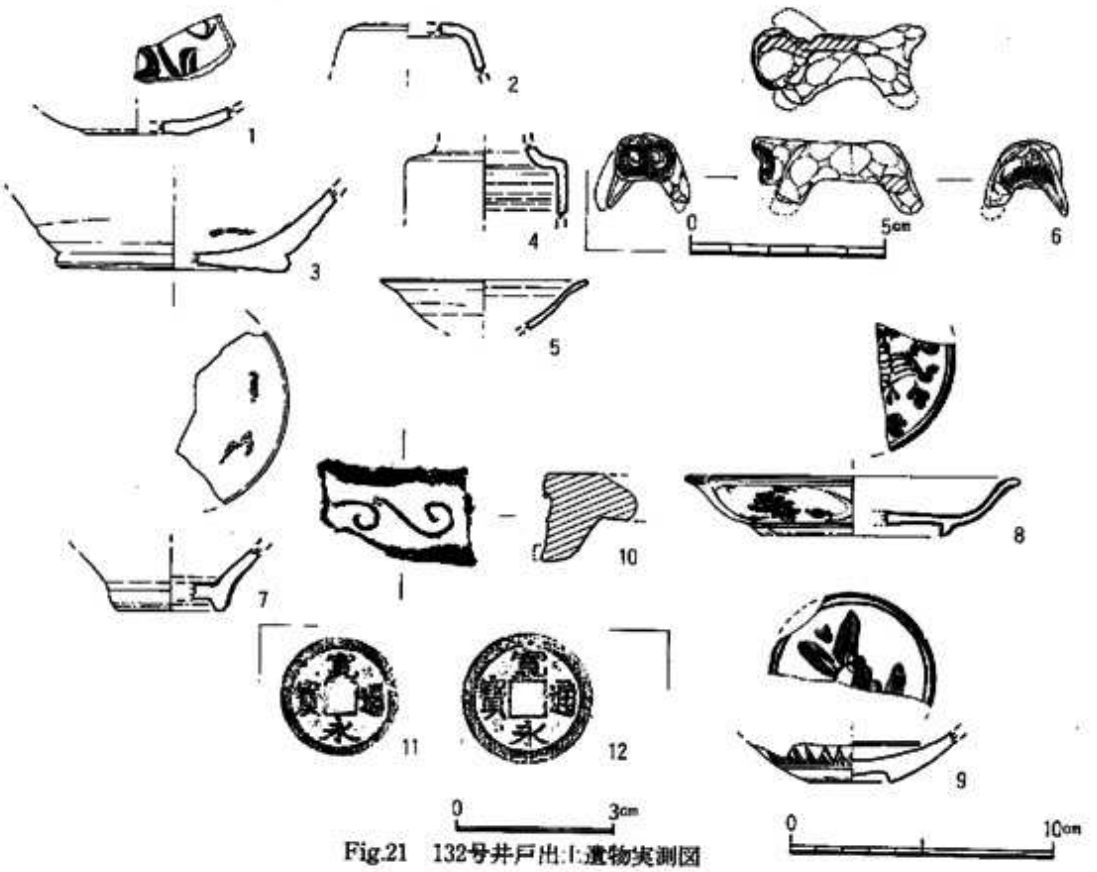


Fig.21　132号井戸出土遺物実測図

期以降の遺物を出土していることから近世前半期の井戸である。

出土遺物 (Fig.23, PL, 41)

1～3は井筒部から出土した土師器皿である。1は口径6.8cm、器高1.5cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕がある。4～10は白磁である。4はIV類の小玉縁碗である。胎土は灰白色で緑灰白色釉である。6はII縁を折り曲げ上端を水平に切る0類の碗である。胎土は黄白色で淡緑灰色の釉である。内面に白堆線が1本ある。8は口縁部上端が水平で、外面の体部下半～底部は露胎である。10は平皿で外底部に墨痕がある。11は同安窯系青磁である。胎土は暗灰色で緑灰色のガラス質釉である。外面に幅広の縦線、内面にヘラ文様をもつ。12は青白磁の合子であ

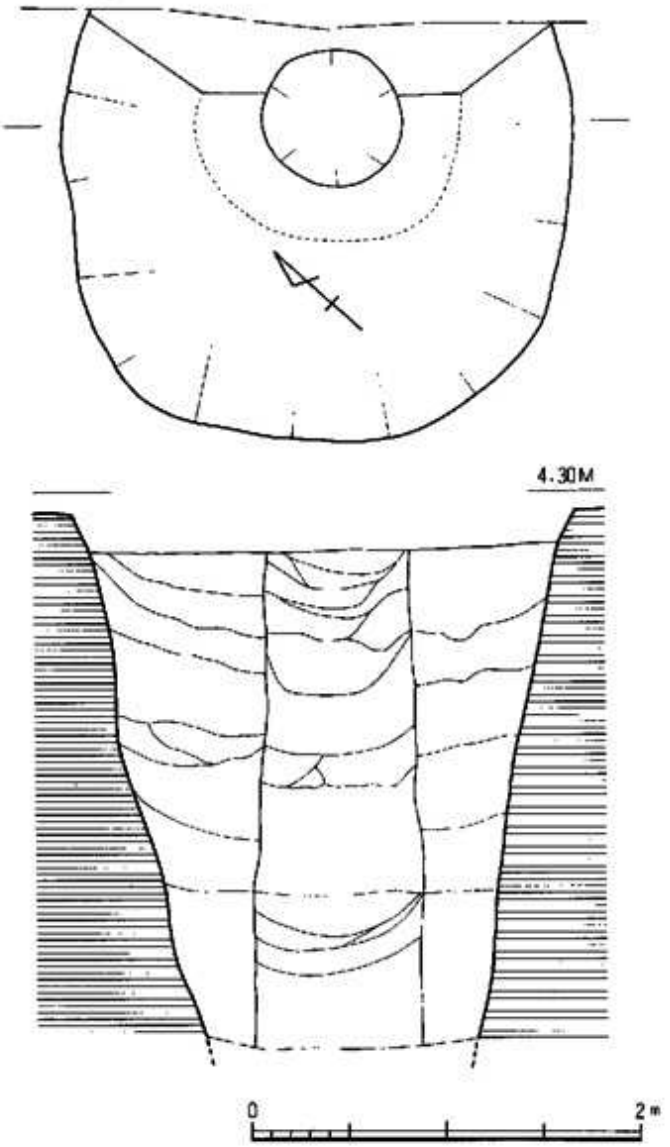


Fig.22　135号井戸実測図(縮尺：1／40)

る。淡青灰白色の半透明釉、胎土は白色である。口縁部は露胎で外面に花文を陽刻している。13は黒褐釉の碗である。外面は露胎で外に開く低い高台がつく。胎土は灰白色で白色砂粒を少し含む。14はA群の無釉の陶器壺である。胎土には砂粒を多く含み、灰褐～黄褐色である。頸部は内弯し、口縁部を折り返し玉縁状にする。16はC群の擂鉢で釉は茶褐色である。内面から外面の口縁下まで施釉され、それ以下は露胎である。

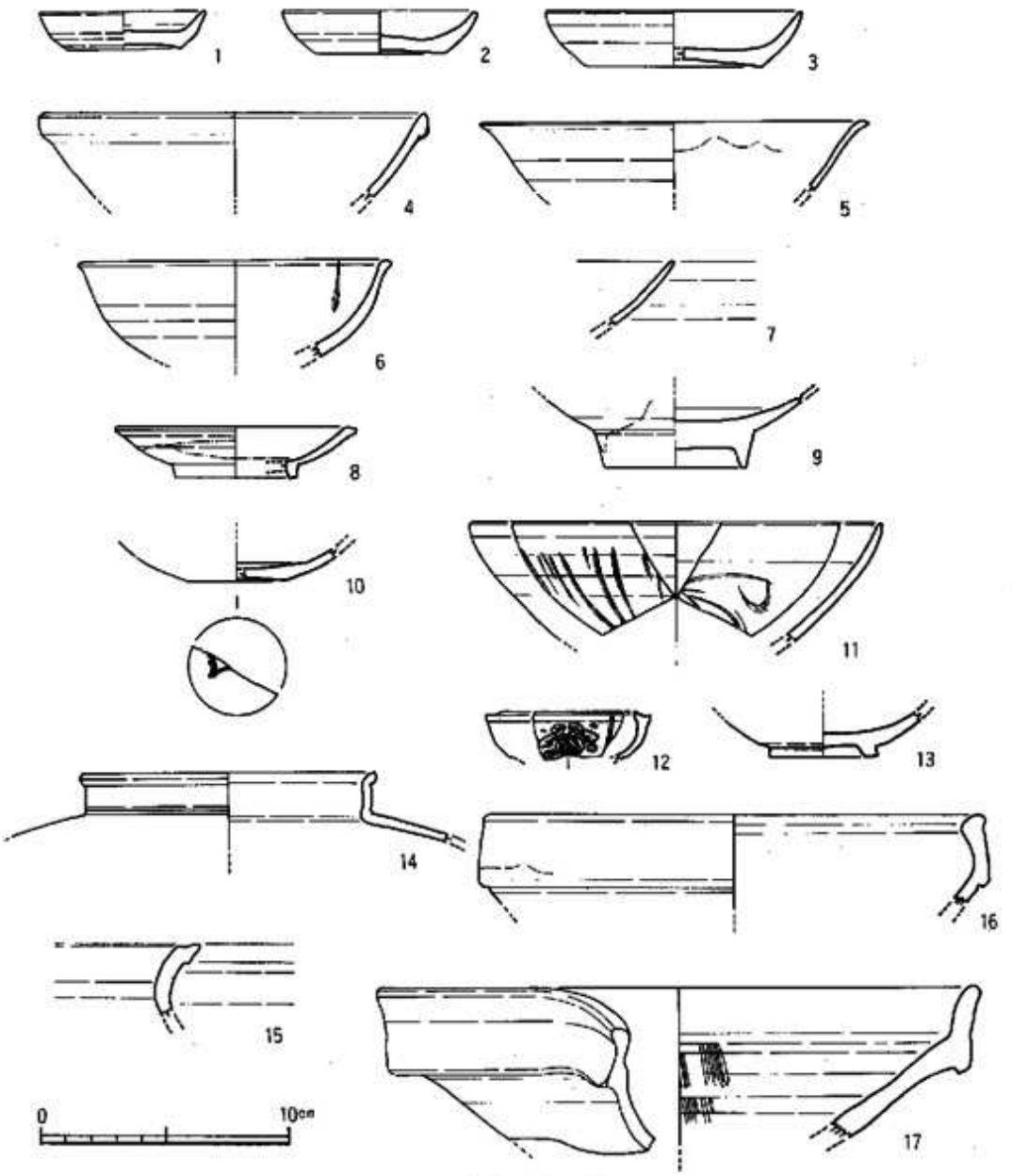


Fig.23　135号井戸出土遺物実測図

140号井戸（Fig. 4）

L－04区の東壁際に検出した井戸である。大部分は調査区外へ延び、全形は明らかではないが、覆土が144号井戸と類似するので円形の井戸であろう。北側を968号土壙に切られ、現存長1.6mを測る。

出土遺物（Fig.24）

1、2は土師器皿である。口径9.0～10.0cm、器高1.1cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕がある。3、4は白磁である。3は口縁部が外反する高台付皿III類である。胎土は灰白色で緻密である。透明な灰白色の釉が全面にかかる。内面に波状の櫛描文をもつ。4はV類の高台の高い碗である。見込に沈線文を描く。釉は淡黄灰白色の透明釉で高台部まで施釉される。外底面に墨書がある。5、6は陶器の壺類である。

144号井戸（Fig.25, PL.2・3）

L－04区、II区の南寄りに位置する。北側の一部を地下室により削平され、中央部に博多人形の廃棄土壙（975号）がある。掘り方は2.9×3.2mの略円形の大型井戸である。壁面は全体に緩やかであるが、東側はいくぶん急峻である。掘り方の覆土は黄白色砂層を主体に一部暗褐色土、灰褐色土を混ぜ縞状堆積を示す。井筒部は標高2m前後で確認できた。上面径約0.75m、下面径0.9mを測り逆台形となる。井筒は掘り方のほぼ中央におき、西側壁を垂直に、東側をなだらかに掘り込んで据えている。木桶を用いた井筒であるが、腐蝕が著しく詳細については不明である。桶を上、下逆に伏せて、床面が幅広くなる。

出土遺物（Fig.26～28, PL.41・42・53）

1～9は井筒部からの出土である。1～3は底部糸切りで板状圧痕の残る土師器皿である。

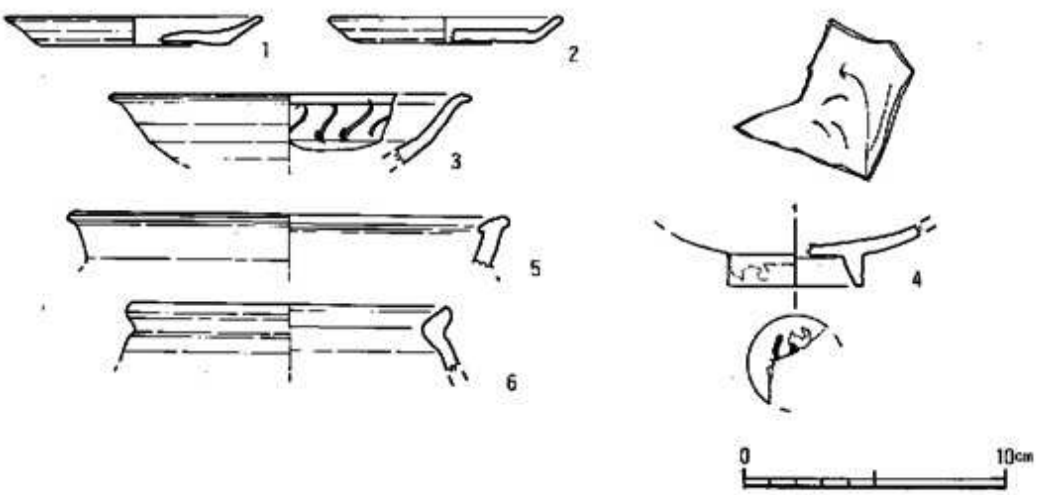


Fig.24　140号井戸出土遺物実測図

1、3は口径8.8cm、器高1.1cmを測る。1の口縁部には鉄滓が付着している。4は土師器の丸底坏である。口径15.6cm、器高2.5cmを測る。胎土は小砂粒を含むが良好で淡茶白色を呈する。底部はヘラ切りで板状圧痕がかすかに残る。またシダ葉の押圧痕もある。5～7は白磁である。5はVI類の碗である。口縁部上端が丸く外側へ外反する。高台は高く、内面に沈圏線がある。淡青明灰色の釉で外面の体部下半～底部は露胎である。胎土は灰白色で細砂粒を含む。6の高

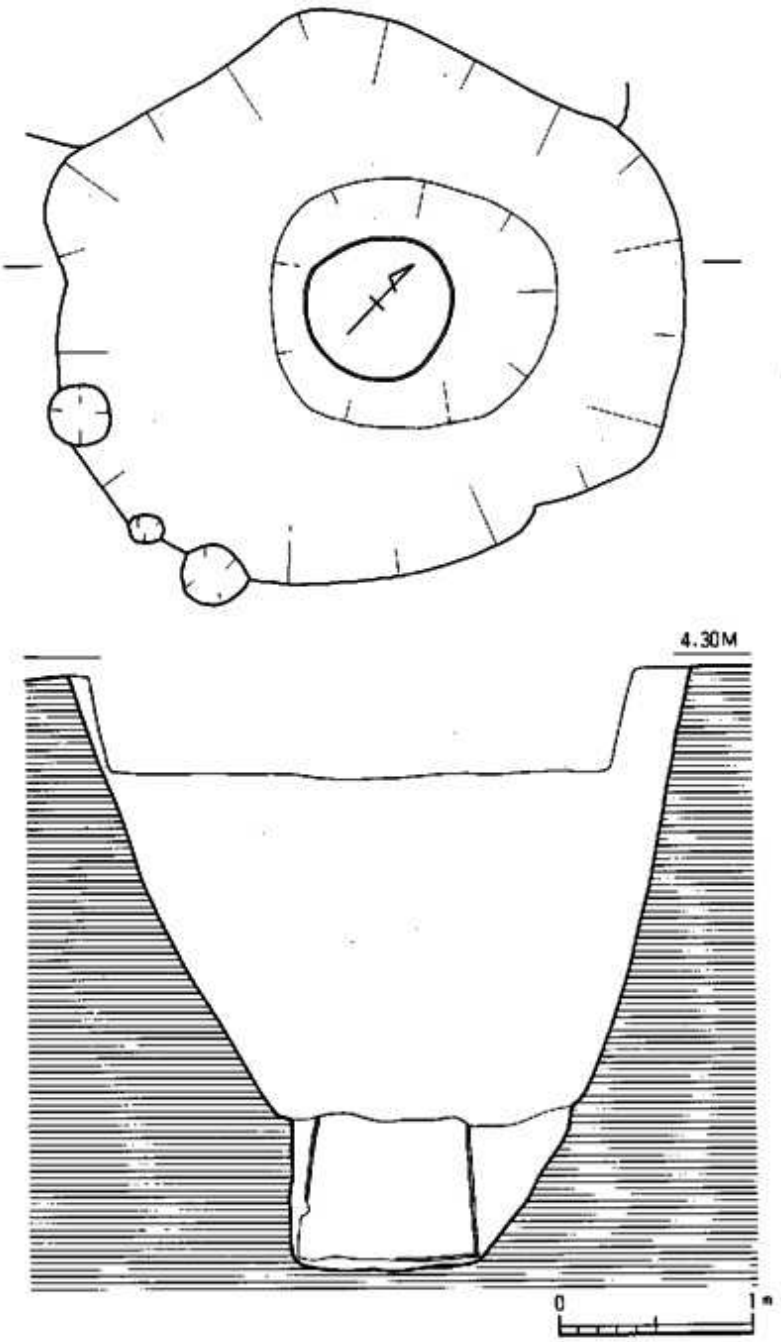


Fig.25　144号井戸実測図(縮尺：1／40)

台は5と同じで、口縁部は肥厚気味に厚くなる。胎土は白灰色で釉は灰白色の透明釉、高台外面にまでたれる。全面に貫入がみられる。7は平底皿で内面に稜をもつ。外面下半から底部は露胎である。淡黄緑灰色の透明釉で胎土は小砂粒を少し含む。8は龍泉窯系平底皿である。体部は屈曲し、底部は上げ底で露胎である。見込に櫛描文をもつ。胎土は明灰色で緑灰色の透明釉である。9はB群陶器の鉢である。赤茶色を帯びた淡黄灰色の胎土で、全体に黄茶色釉である。口縁部を折り曲げ断面三角形になる。口縁上端に目跡が残り全部で8個になろう。10～39は井戸掘り方からの出土である。10～13は土師器坏である。口径15.1～15.9cm、器高2.4～2.7cmを測る。底部は糸切りで11～13は板状圧痕がある。内外面とも横ナデ調整である。14～22は土師器皿である。14は底部ヘラ切りで板状圧痕がある。口径8.4cm、器高1.1cmを測る。15～21は底部糸切りで15を除き板状圧痕がある。22は内底面に「裟」の墨書がある。口径8.3～9.1cm、器高1.0～1.2cmを測る。内外面とも横ナデである。23は須恵器坏蓋である。胎土は茶橙色である。24～27は白磁である。24はVI類で高台が高く、口縁外面端は外反し肥厚する。見込に沈圏線、櫛描文がある。白灰色の釉は高台脇までである。胎土も灰白色。26は外底面に花押を墨書する。28は高台付皿である。釉は高台部までである。34は天日碗である。外底面に花押？の墨書がある。胎土は灰色で、体部下半は露胎で茶色に発色する。釉は黒褐釉。29は龍泉窯系の青磁碗である。底部は厚く高台は低い。高台縁を削る。内面に櫛描文と蓮花文をもつ。胎土は暗灰色で灰オリーブ色の釉が高台外面までかかる。口径11.3cm、器高5.6cmを測る。30も龍泉窯系水注である。把手、注口部を欠損するが完形に近い。胴部中央に2条の沈線をめぐらす。割瓜形の胴部である。外面を7条の沈線で分割し、強く押さえて器壁を整えるため、内面も縦位にひび割れが生じている。注口部の反対側に把手がつく。幅1.5cmの帯状で、2、3条の沈線を刻む。胎土は灰白色で、釉は緑灰釉であるが火を受け表面に光沢がなく荒れている。底部は上げ底で露胎である。31～33は青白磁である。淡青白色のガラス質の強い透明釉である。胎土は白色で精良である。31の底部は露胎である。33は合子の蓋である。35は平根の鉄鏃である。36～38は陶器の短頸壺である。36は砂粒を多く含む暗灰色の胎土で、暗緑色の釉で全面施釉している。39は熙寧元寶（初鋳1068年）である。径2.45cm、厚さ0.13cmを測る。

その他の遺構の調査

SX30（Fig.29, PL.4）

I区の中央部に位置する粘土敷遺構である。東をSX33、北側を地下室、西側を925・926号土壙に切られ、全体の形状、規模、性格等不明な点が多い。現状では平面形が逆L字状をしている。遺構の上面はほぼ平坦で黄白色粘土のブロック、黄褐色粘土を約10cm敷き、その上に拳大～手平大の礫をのせている。礫は全面に敷いてなく、北側に集中する傾向がある。南側には石敷は少なく粘土が露出している。残存部の規模は南北3.2m、東西3.0mを測る。出土遺物は礫の間、あるいは粘土上面からの出土である。遺物の出土が少なく明確な時期の決定は困難であ

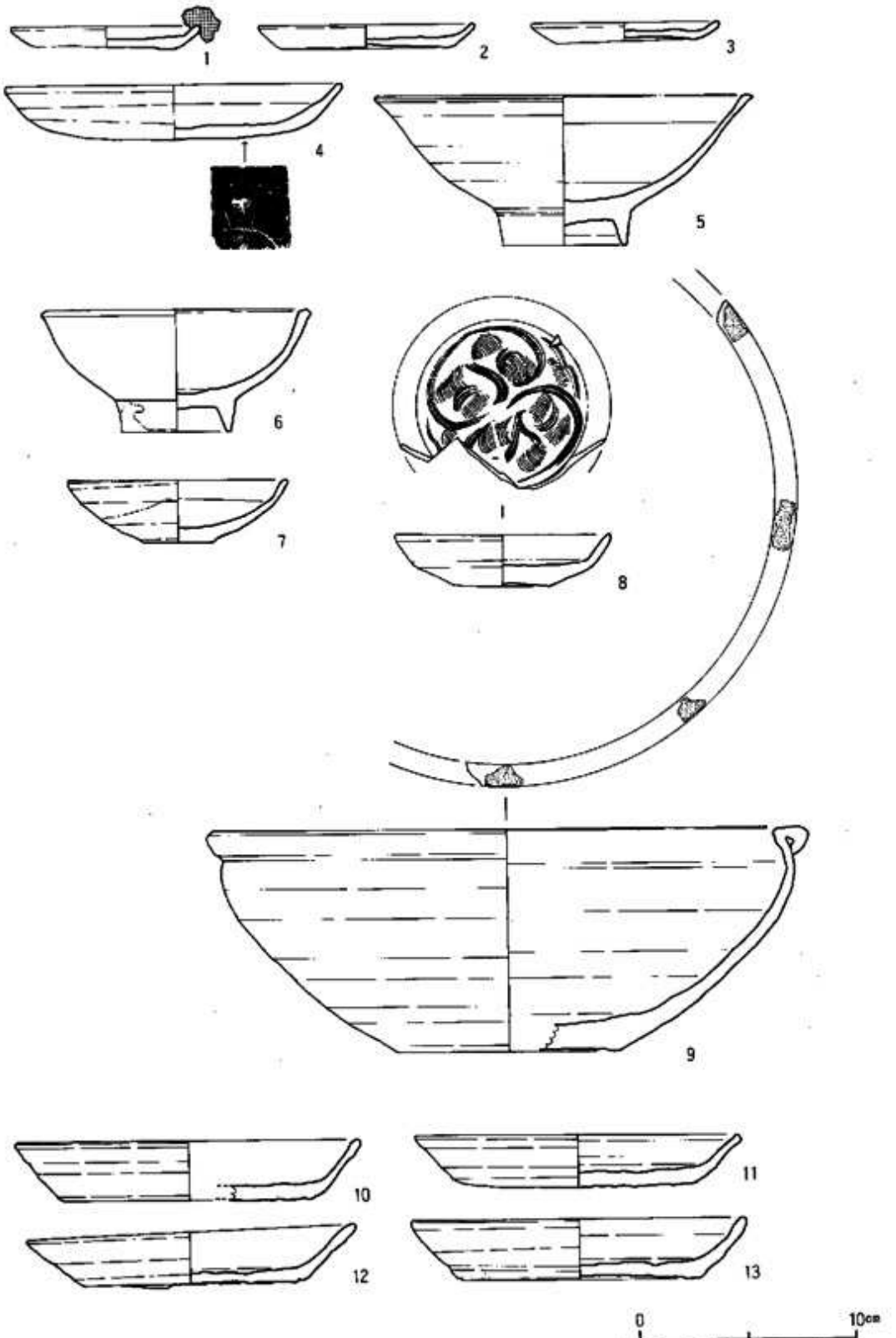


Fig.26　144号井戸出土遺物実測図(1)

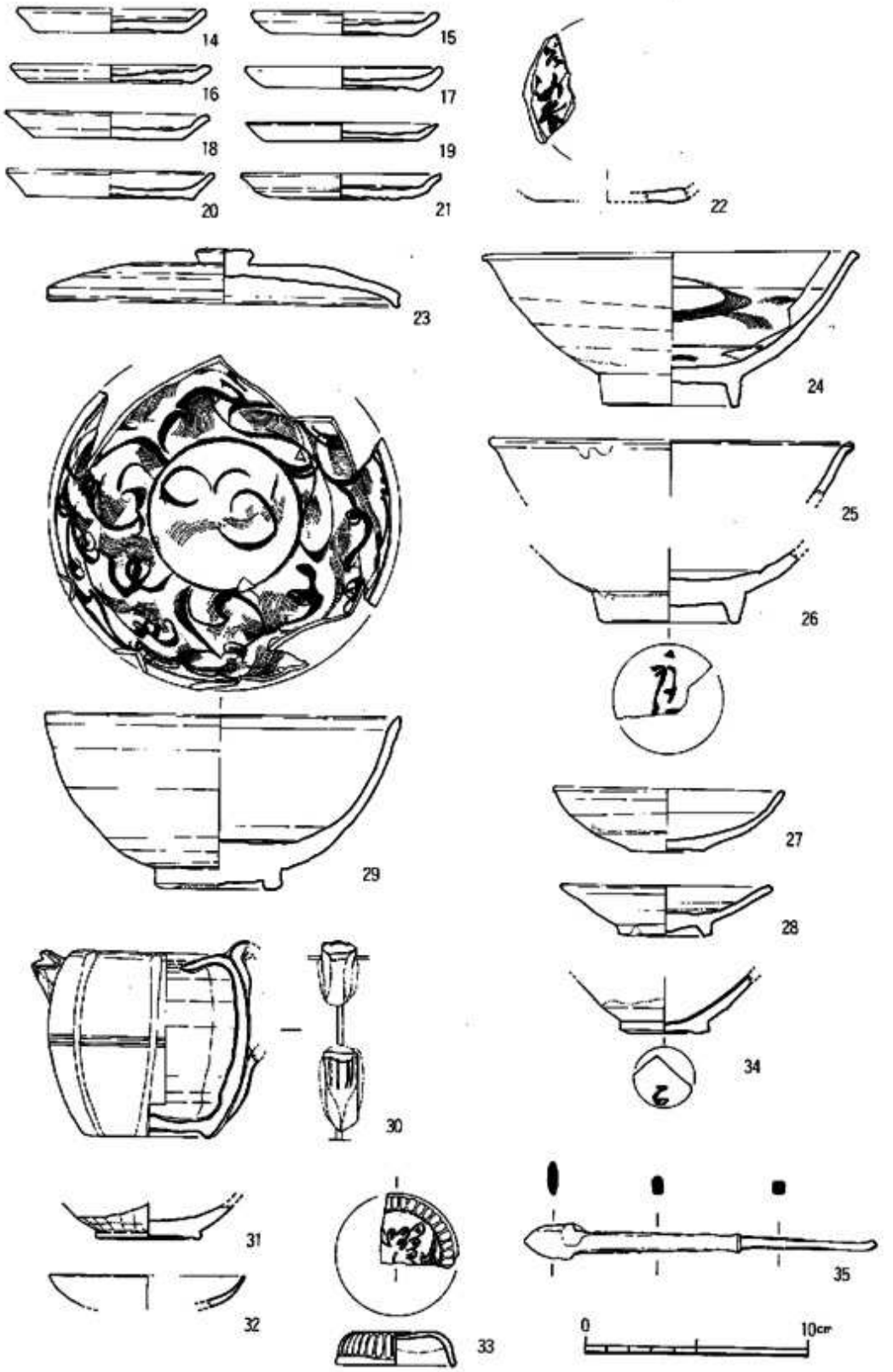


Fig.27　144号井戸出土遺物実測図(2)

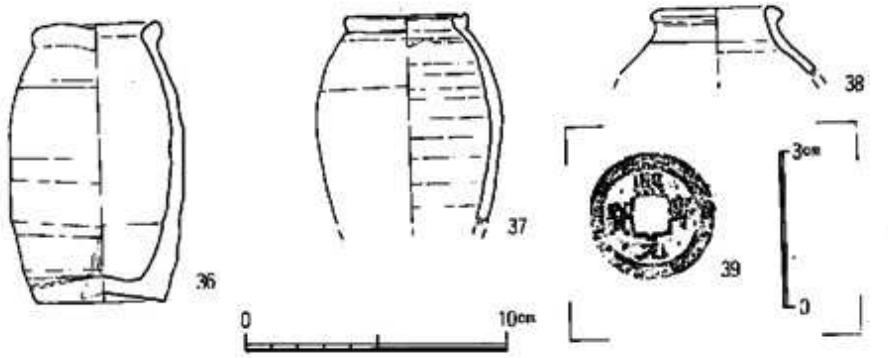


Fig.28　144号井戸出土遺物実測図(3)

るが14世紀代であろう。

出土遺物（Fig.30－1～11，PL.44）

1は土師器皿である。口径8.2cm、器高1.2cmを測る。2は瓦質の鉢である。胎土は灰白色で外面は刷毛目調整である。内面は使用による磨耗のため調整不明である。3はIV類の白磁碗で外底面に墨書がある。4は同安窯系平底皿である。焼成は不良で胎土は灰橙色、釉は少し緑色を帯びた茶色である。体部と底部の境に明瞭な段をもち、内面は強く外反する。見込に櫛描文をもつ。5は形押しの青白磁である。淡青色の透明釉である。6はB群陶器の瓶で玉縁となる。7は白磁の壺口縁部である。8～10はB群陶器の壺、瓶、皿である。11はC群陶器の捏鉢で内面に波状の隆起をもつ。胎土は灰褐色で白い砂粒を含む。他に小破片ではあるが口ハゲの白磁皿、明代染付が出土しているが混入と考えられる。

SX31（Fig.29）

M－02区、SX30の北側に位置する石積土壙である。地下室部分の下から確認した。土壙は南北1.0m、東西1.25mを測る楕円形である。北側は削平されている。土壙中央部に円礫を漆喰を混ぜて数段積み上げ0.25cmの厚さになる。上面は削平されているので本来の深さがどれほどであったか不明である。遺物は中世の陶磁器を出土するが近世の土壙であろう。

出土遺物（Fig.30－12～16）

12はIV類の白磁碗である。胎土は白灰色で釉は青灰色である。13は龍泉窯系青磁碗で外面に蓮弁文をもつ。胎土は灰白色で釉はオリーブ色で貫入がある。14は同安窯系青磁皿である。胎土は灰肌色、釉は青オリーブ色で全面に貫入がある。15は須恵質の甕の底部である。胎土は大粒の砂まじりの灰肌色である。外面と底部には自然釉が所々にみられる。16は円筒形の土錘である。

SX32（Fig.31，PL.4）

I区の南東端、M－02区に位置する集石遺構である。表土除去時に礫の一部が現れていた。

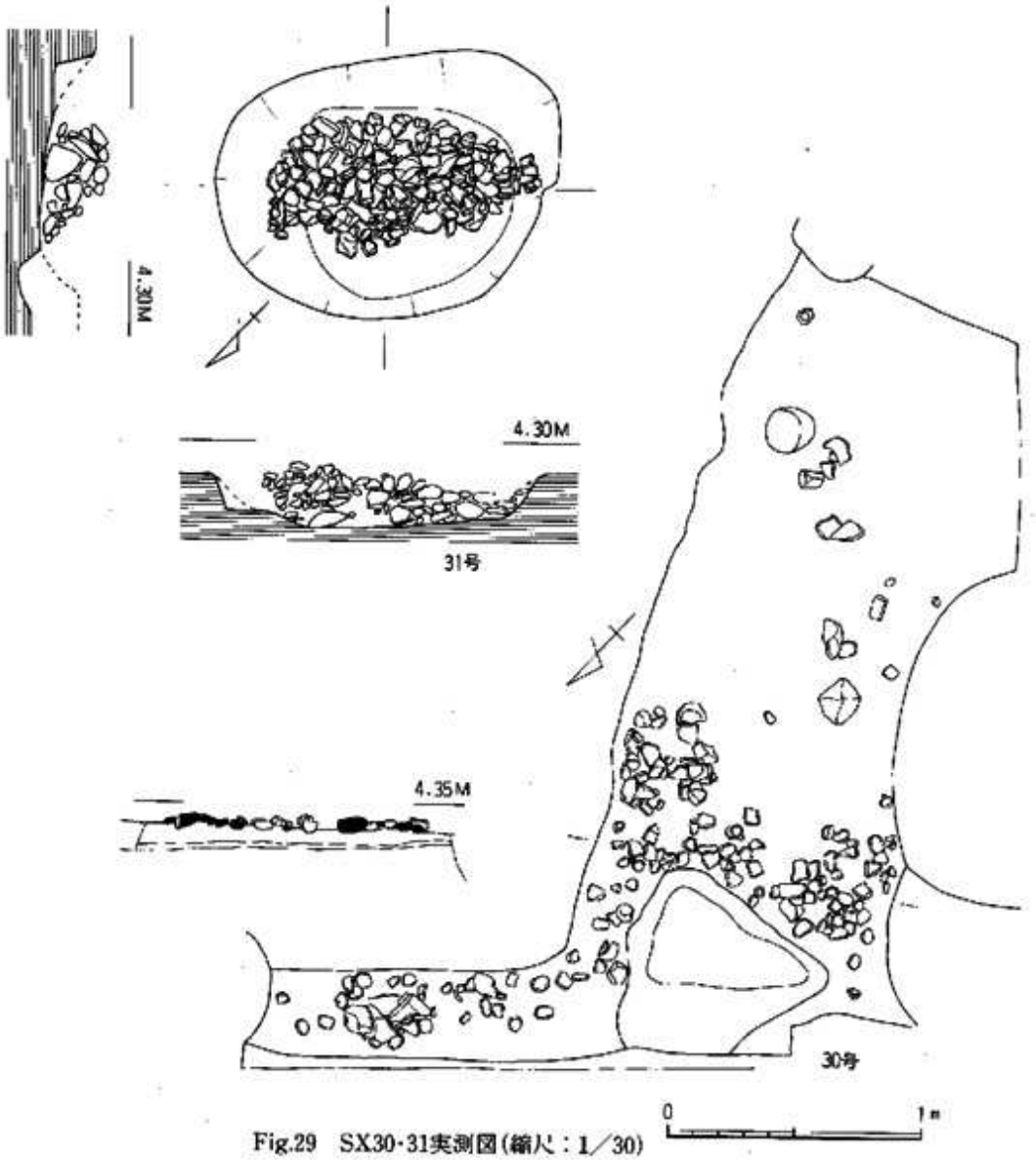


Fig.29　SX30・31実測図(縮尺：1／30)

平面形は不定な形態で東西2.1m、南北2.0mを測る。礫は角張ったもので全体に乱雑に投棄された状況を示す。出土遺物は土師器皿・坏類で完形品もあり、礫と同時投棄された状況を示す。壁面は不明瞭で掘り込みがあったか否か不明。II面で確認した950号土壙は丁度この真下にあたりSX32の下面になる可能性がある。

出土遺物（Fig.32・33, PL.44）

1～4は底部糸切りの土師器皿である。糸切りの後に板状圧痕がある。口径8.3～9.4cm、器高1.2～1.4cmを測る。5～10は土師器坏である。底部は糸切りで板状圧痕がある。口径13.6～14.0cm、器高は2.6～3.1cmを測る。内外面とも横ナデである。11は須恵質土器の鉢である。胎土は

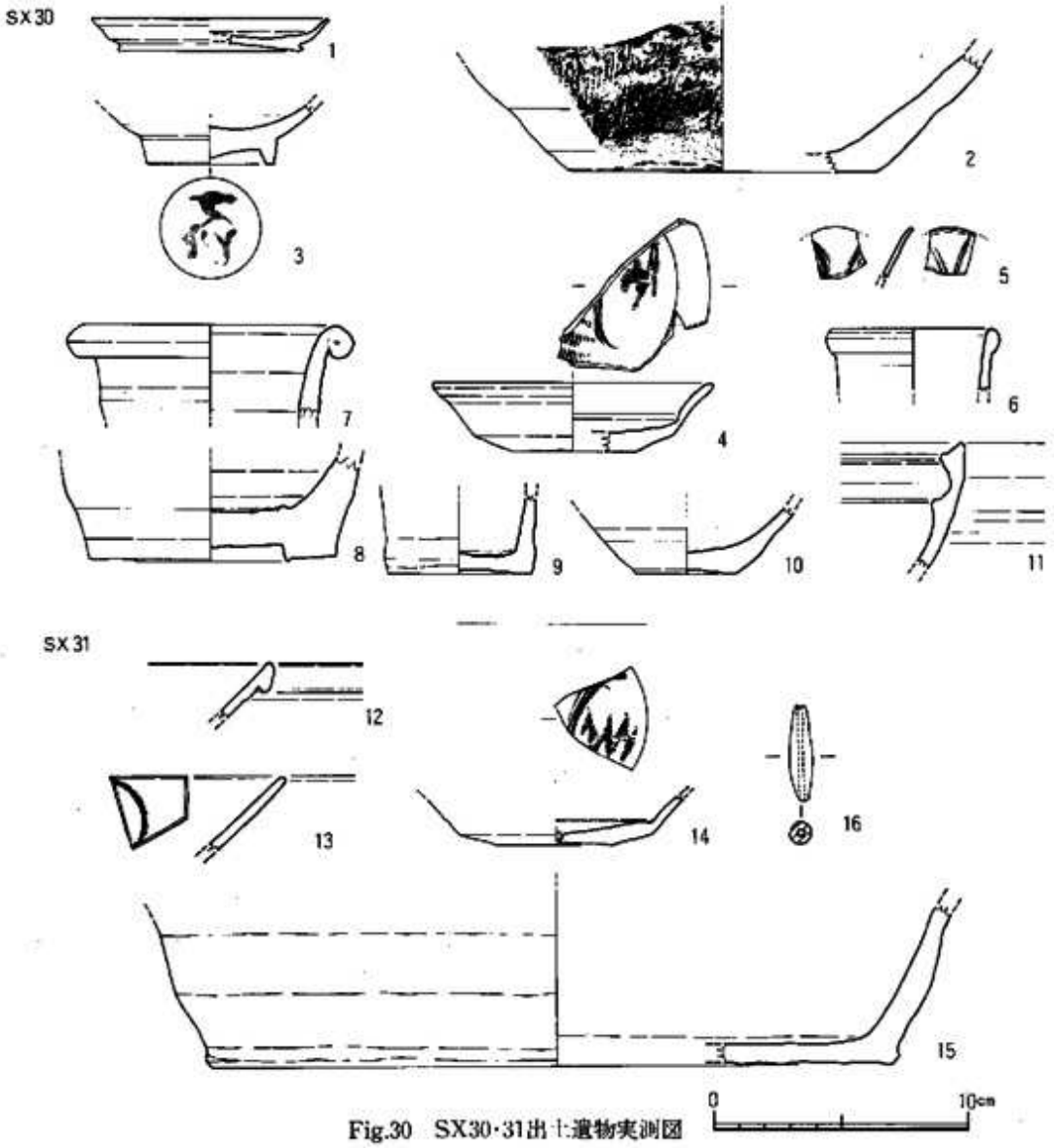


Fig.30　SX30・31出土遺物実測図

砂粒を多く含む暗青灰色である。体部外面には格子目タタキがあるが表面が磨耗しているため明瞭ではない。内面はナデである。12は瓦質土器の鉢である。淡暗青灰色で胎土に砂粒を多く含む。外面にはロクロ目が残り一部押圧調整もみられる。13～18はV～VI類の白磁碗である。14は口縁が強く外反し、外端に稜をもち体部となる。20はIV類の白磁碗である。21は同安窯系の青磁碗である。胎土は灰褐色で暗黄緑灰色の釉である。22は龍泉窯系の皿で体部を強く屈曲する。23は白磁皿で内面に白堆線、口縁外端に刻目を入れ輪花状にする。24は白磁皿で見込に片切彫の文様をもつ。25は龍泉窯系の碗である。26は高麗青磁の碗である。27～31は青白磁である。27は高台付皿で見込に双魚文をもつ。胎土は乳白色で釉は緑を帯びた白色である。28は

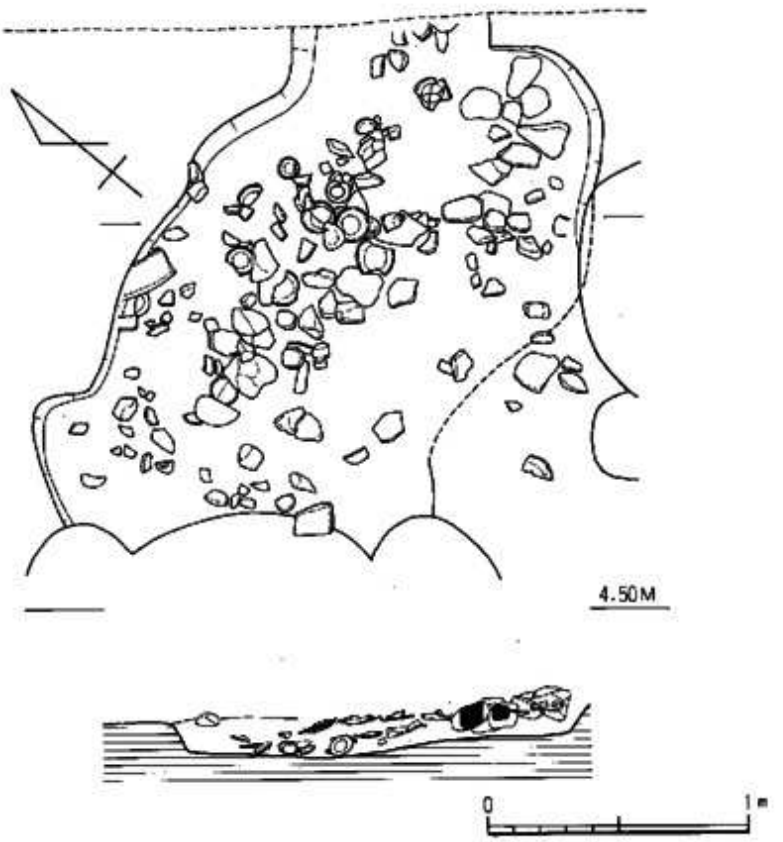


Fig.31　SX32実測図(縮尺：1／30)

合子の蓋であろう。天井に花文を陽刻する。胎土は白色で焼成は堅緻である。透明感のある水色の釉である。31は黒褐釉の天目碗である。胎土は茶褐色ないし黒褐色で、口縁部は釉が薄く茶褐色となる。体部下半～底部は露胎で薄茶色である。32は滑石製品である。石鍋の再利用品で中央部に長方形のつまみを削り出す。

SX33（Fig.34, PL.5）

Ⅰ区の中央部にある大型土壙である。東半部は調査区外へ拡がり全体の規模は明らかでない。現状で南北6.9m、東西3.8m、深さ1.7mを測る。土層の観察から地表下約1mの高さから掘り込まれているのが確認できた。覆土は灰褐色砂質土のほぼ同一層で埋まり、短い時期に掘って埋めたものであろう。南壁は丸く、西壁、北壁は直線的になり鋭角な角をもち、将棋の駒を半截した平面形である。北寄りの位置で135号井戸に切られる。南側の壁面はなだらかな傾斜であるが、北、西壁面はほぼ垂直で床面に達し、一度平坦になりさらに中心部に向かって深くなる。南寄りの位置から扁平な石を据えた配石が認められた。床面よりかなり上で確認し、土壙より一時期新しいものであろうか。石の上面はほぼ同一高であり建物の礎石と考えられる。石を数個組み合わせた根石状のものもみられる。土壙の時期はSX30と135号井戸の間におかれ15世紀頃

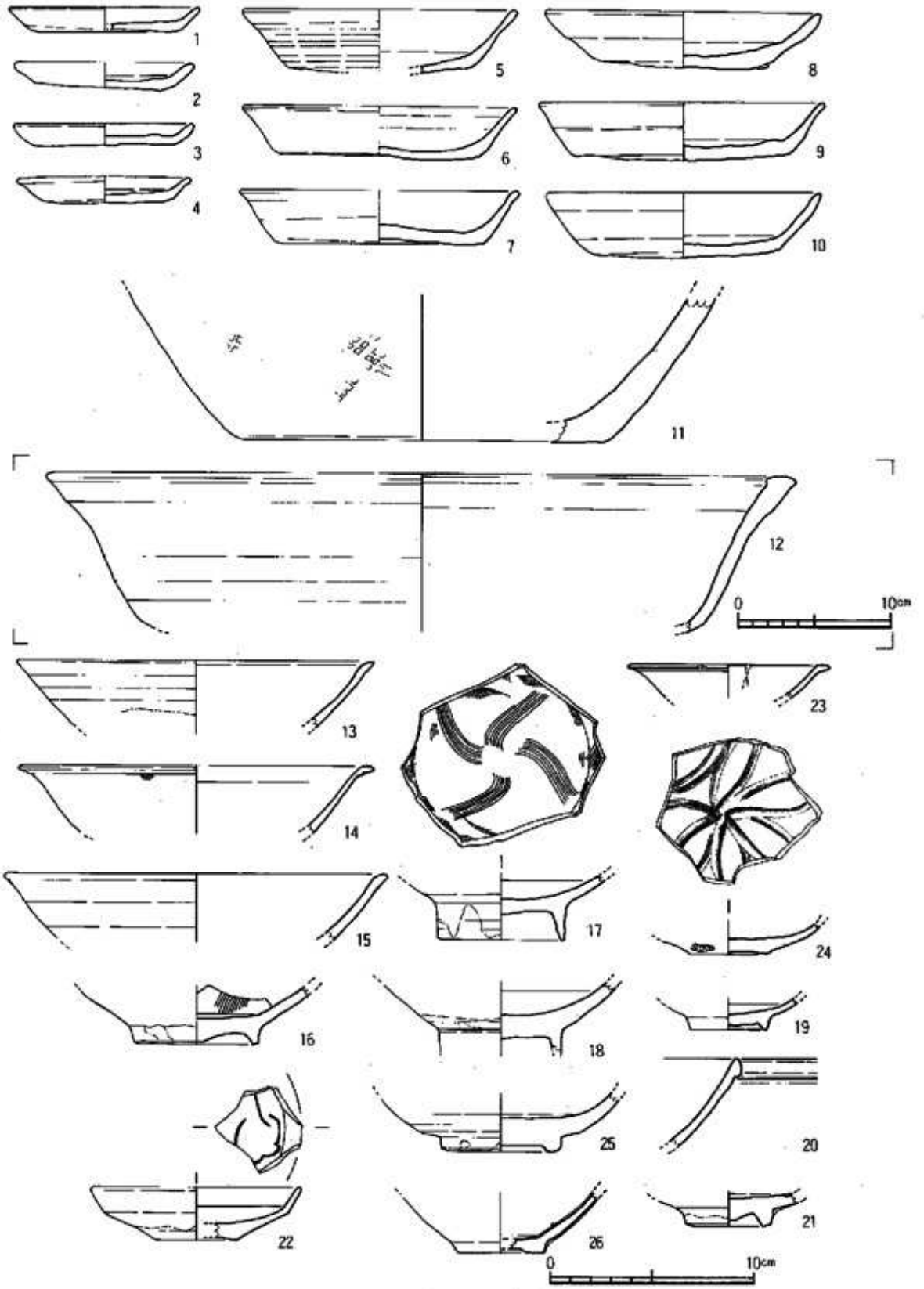


Fig.32　SX32出土遺物実測図(1)

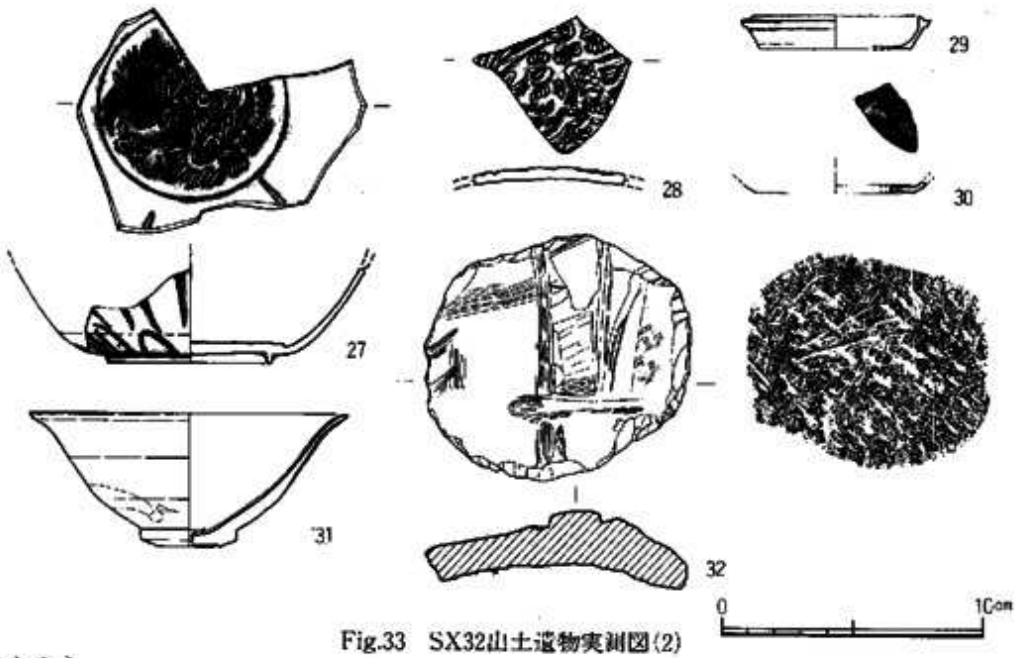


Fig.33　SX32出土遺物実測図(2)

であろう。

出土遺物（Fig.35～37，PL.44・53）

輸入陶磁器を初めとして多くの出土遺物があり、大部分は土壙の時期よりも古い遺物であるが、今回の調査では少ない時期の遺物があるのでその概略を記す。

1～3は土師器皿である。底部は糸切りである。4、6の底部は糸切りで板状圧痕がある。5は丸底の坏で底部はヘラ切りである。7～9は瓦器埦である。9の底部に×印のヘラ刻みがある。10は土師質の羽釜である。外面の鍔下まで煤が付着する。11は瓦質の甕である。胎土には砂粒を多く含み、気泡が目立つ。色調は灰白色である。12は須恵器の壺である。胴部上半に自然釉がかかる。13～29は白磁である。13、14はⅣ類の白磁碗である。16は口縁外側の外反が少なく口縁部が肥厚気味になる。内面に釉だれが認められる。17はⅡ類の白磁碗である。胎土は灰クリーム色で緻密である。灰色を帯びた薄黄色の釉である。内面に白堆線をもち、外面の体部下半は露胎である。19はⅨ類の白磁碗である。見込の釉を輪状に掻きとる。緑を帯びた乳灰色の釉で、胎土は灰クリーム色の緻密なものである。20は高台付皿で見込に櫛描文様をもつ。21、22は墨書のある白磁である。21は「万？年」、22は4本の横線を書く。24、25は白磁の壺類の口縁部である。25は口縁下に突帯をもつ。胎土は灰肌色で釉は青味を帯びた灰白色である。26は越南の白磁である。口縁部内側に灰色を帯びた青紫色の鉄絵の皿である。胎土はベージュに近い白色で緻密。釉は黄味がかった乳白色で全体に氷裂がある。27は白磁小壺の底部、28はロハゲの白磁皿、29は白磁の水注の注口部である。30、32～38は龍泉窯系の青磁である。42は龍泉窯系の青磁香炉である。外面口縁下にヒトデ状の突起飾をもつ。胎土は灰白色で黒色粒を

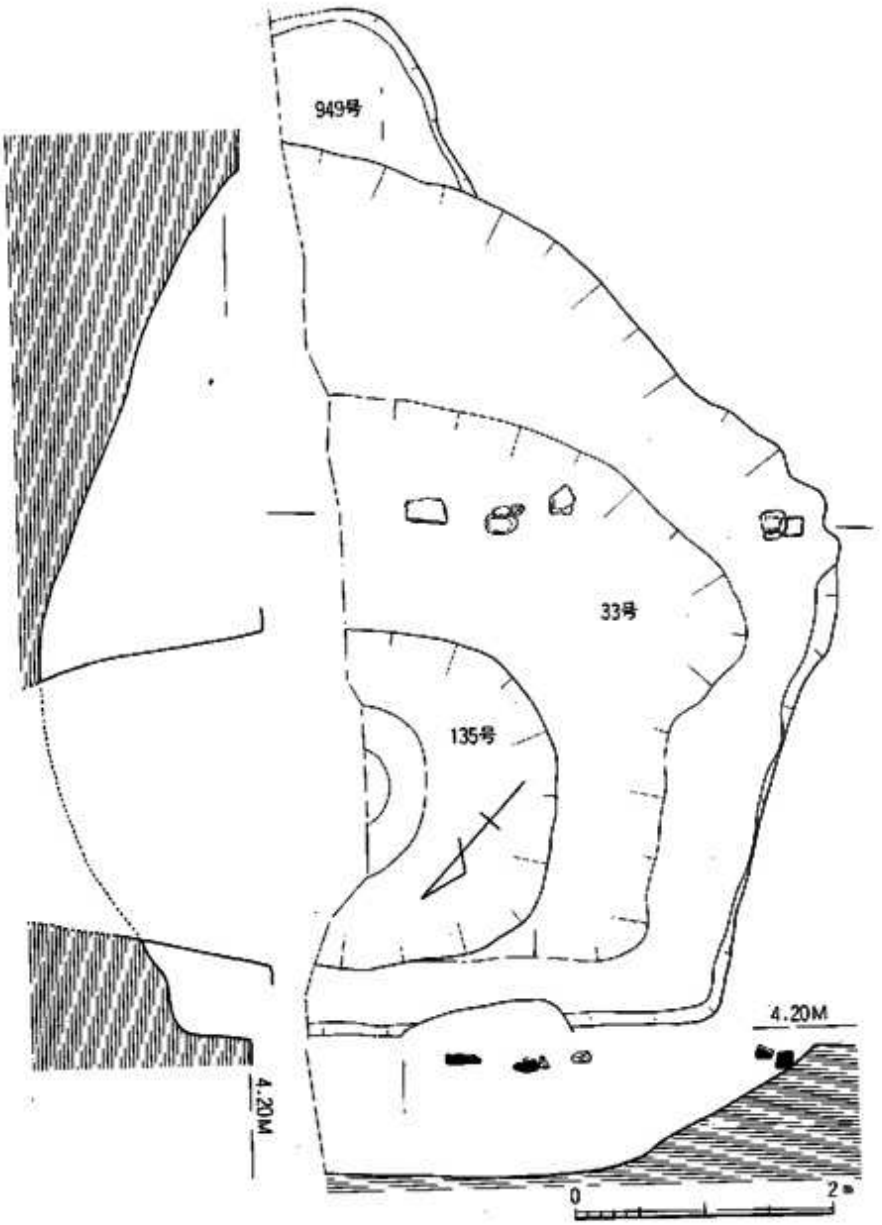


Fig.34　SX33、135号井戸、949号土壙実測図(縮尺：1／60)

少し含み、濃緑灰色の釉を厚く施釉する。46は越州窯系青磁の底部である。胎土は灰白色で、畳付を除き淡緑灰色の釉をかける。47は高麗青磁の碗である。胎土は暗灰色、釉は灰緑色で高台外面まで施す。高台は高く、高台内面をヘラでならすが雑である。露胎部は茶褐色を呈する。43～45は青白磁である。43、44は合子の蓋で精良な造りで、天井に菊花文をもつ。45は碗で口ハゲの大型品である。口径は大きく18.0cmを測る。外面に蓮弁文をもつ。48～51は天目碗である。52は黒褐釉の坏托である。鍔から下は露胎である。胎土は須恵器と酷似し暗灰色である。41、53～62は輸入陶器群である。41は四耳壺で胎土は灰ベージュ、釉は灰緑色である。53はA

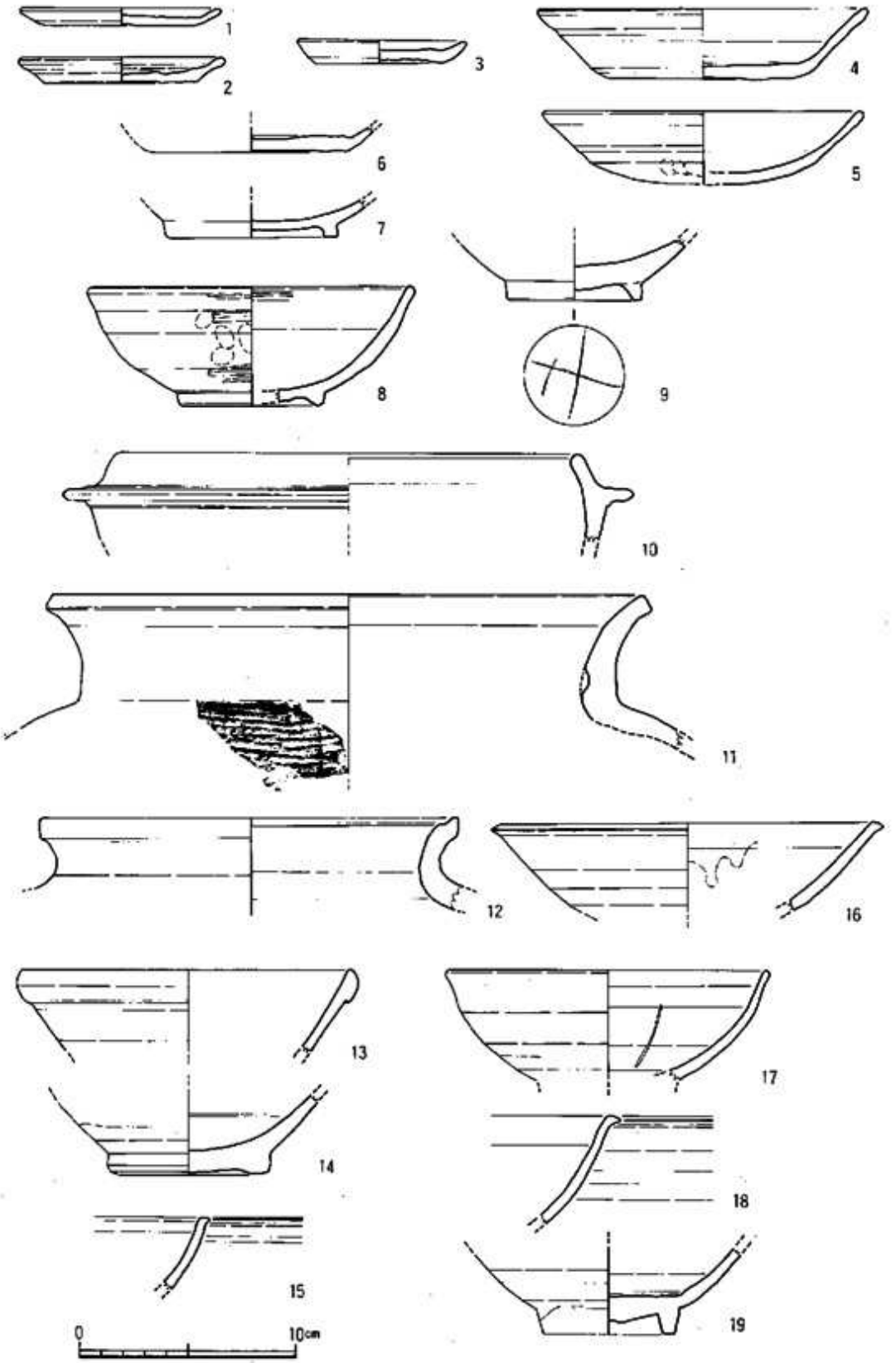


Fig.35　SX33出土遺物実測図(1)

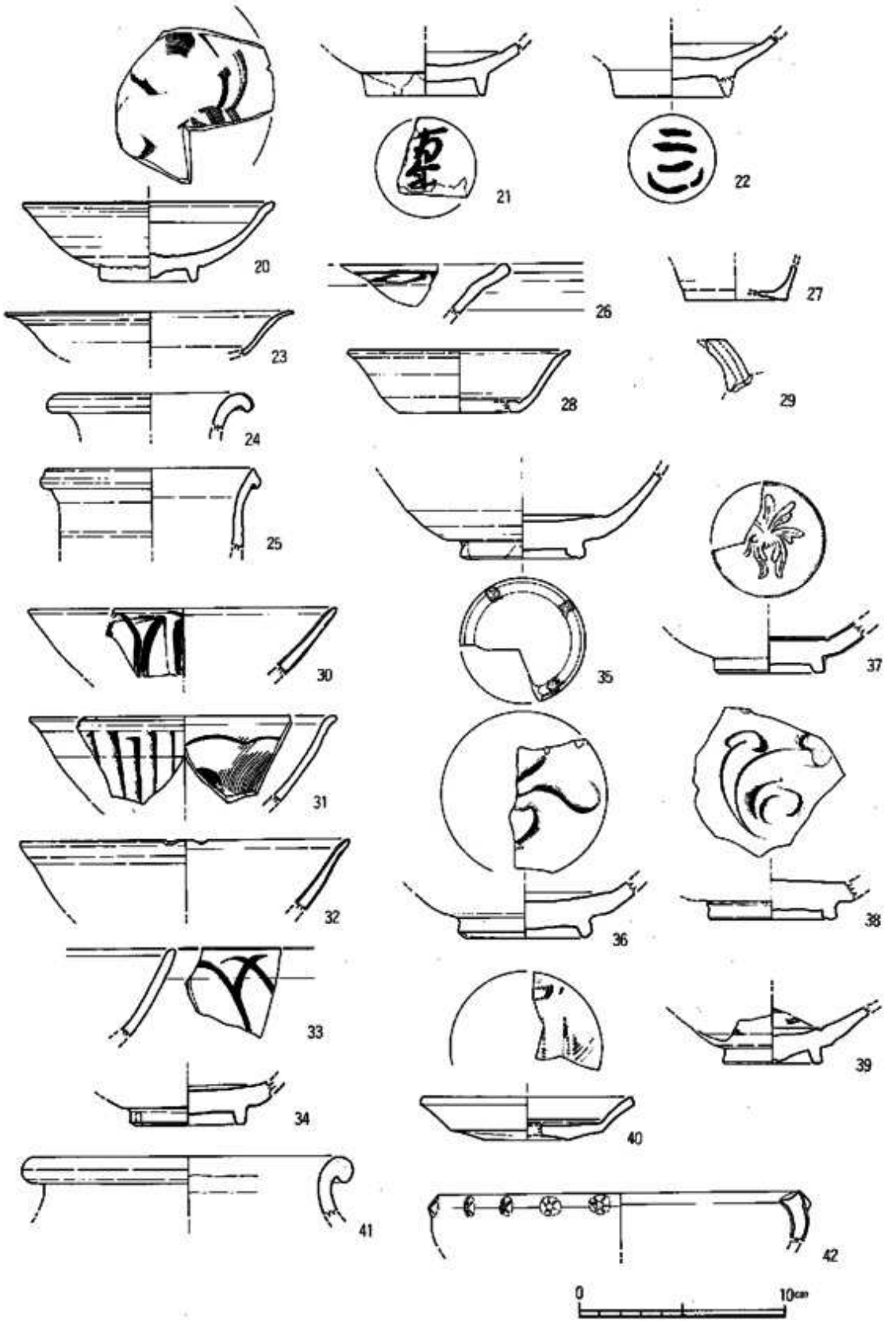


Fig.36　SX33出土遺物実測図(2)

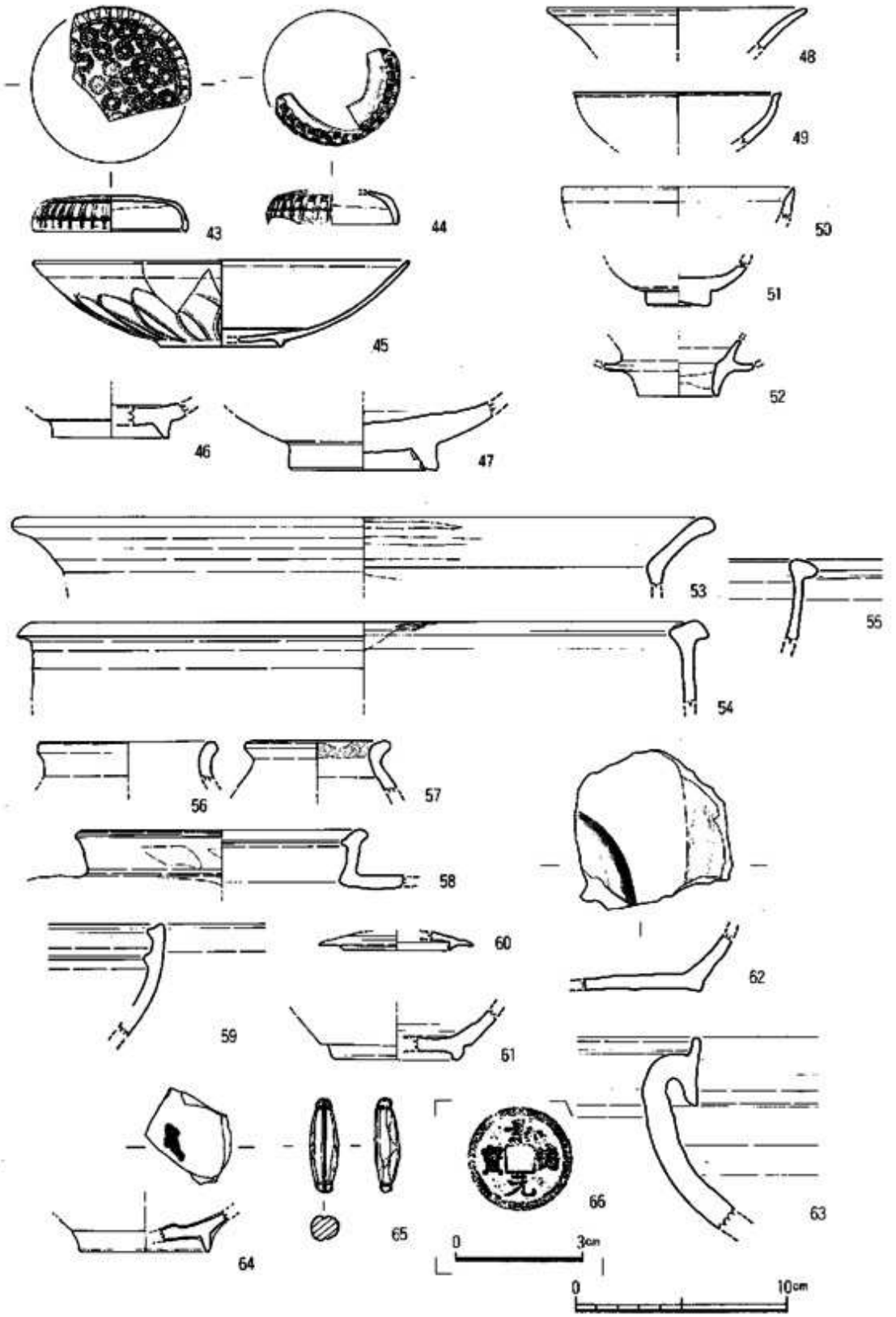


Fig.37　SX33出土遺物実測図(3)

群の盤である。60もA群の盞で天井部のみ施釉する。57はB群の長瓶である。胎土は灰色できめ細い。釉は半透明のオリーブで口縁内側に目跡がある。59はC群の鉢である。胎土は茶色で白い砂粒を少量含む。63は常滑焼の甕口縁である。胎土は茶色を帯びた肌色で、頸部に灰オリーブの自然釉がかかる。65は滑石製の石錘である。66は景徳元寶である。

SX34 (Fig.38, PL.56)

K－02区、II区の北寄りに検出した小円礫敷遺構である。表土除去時に一部削平を受け、さらに遺構確認作業中にも当初攪乱と思い除去している。本来は西側に大きく拡がるものである。

礫は径2～3cmの扁平な川原石である。礫の上面は全体に凹凸があるが、中央部が少し窪み、周縁部が高くなる。後に述べるII面の1号掘立柱建物の真上にあたり同一遺構か。家屋のタタ

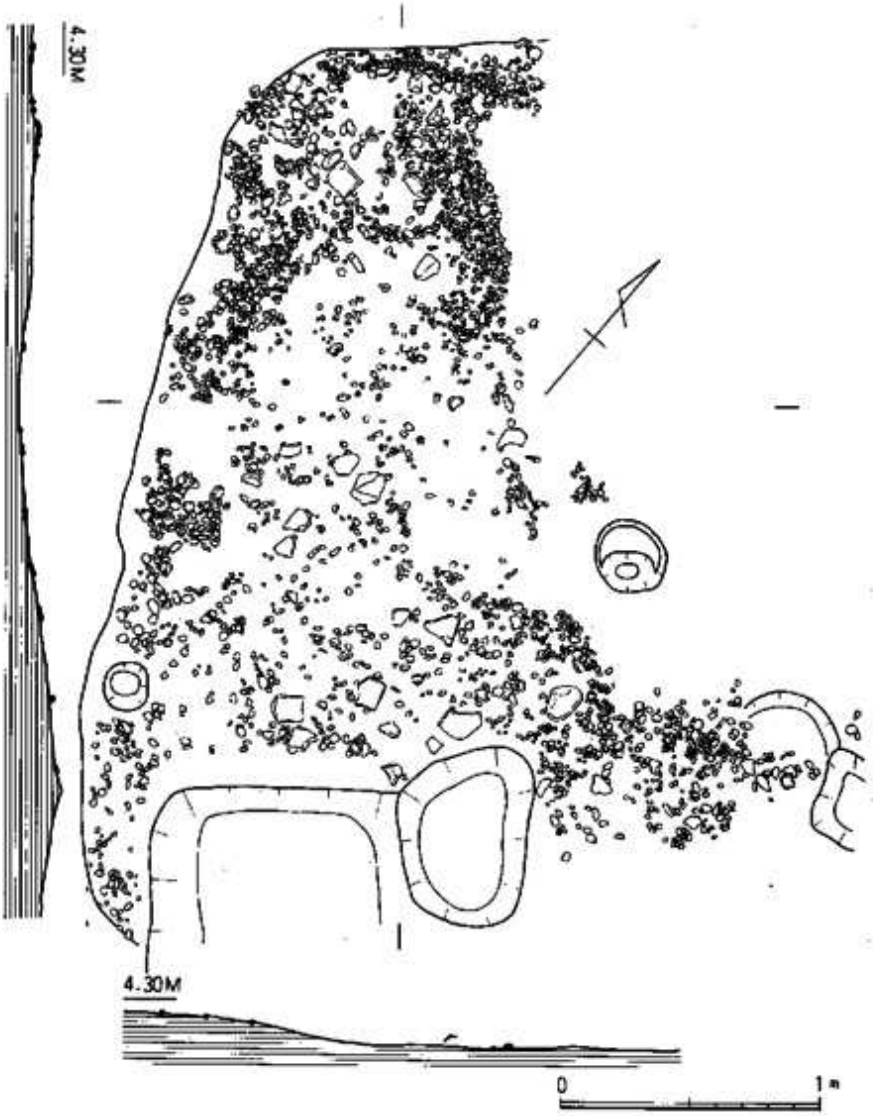


Fig.38　SX34実測図(縮尺．1／30)

キ、土間にあたるものか。14世紀後半期の遺構である。

出土遺物（Fig.39，PL.45）

1は底部糸切りの土師器皿である。口径8.5cm、器高1.2cmを測る。2は同安窯系青磁碗である。胎土は灰白色、釉は灰オリーブ色である。体部内外面に櫛描文様をもつ。3は龍泉窯系青磁の平底皿で見込に魚文を線刻する。4は白磁の平底皿で見込に櫛描文がある。胎土は灰白色で釉は黄色を帯びるオリーブ色である。底部は露胎。5は龍泉窯系の青磁香炉である。口縁下と底部近くにヒトデ文様の突起飾をめぐらす。顔面を表わす獣脚は3ケ所に貼りつけるものであろう。胎土は灰白色で灰緑色の釉を厚く施す。器表面は火を受けたらしく光沢を失う。6～9は陶器群である。6はA群の黄釉鉄彩盤である。7、8はB群の壺で、8は四耳壺である。胎土は砂粒混りの灰白色で釉は茶オリーブ色である。10は丸瓦で内側に布目痕がある。

17号溝（Fig.4）

M－01区に検出した溝である。規模は幅1.4m、深さ0.6mを測り、断面台形である。主軸をW－32°－Sにとり南西－東北に直線的に延びる溝である。東側は土壙、井戸に切られ、西側は調査区外へ拡がり、調査できたのは長さ約3mに限られる。覆土は暗灰色土である。遺物を多く含んでおり、13世紀中頃の溝である。

出土遺物（Fig.40・41，PL.46）

1は土師器皿である。底部は糸切りで口径9.2cm、器高1.5cmを測る。2、3は土師器の坏である。3は底部糸切りの後板状圧痕がある。体部は横ナデ、内底はナデである。4～10は白磁である。4はIV類の碗で口縁部は玉縁である。胎土は淡灰色で砂粒を含む。釉は淡黄緑灰色である。5はIX類の碗で見込の釉を輪状に掻きとる。胎土は淡灰白色で細砂粒を含み、淡黄緑灰色の釉である。6はII類の碗である。胎土に砂粒を含む乳灰色で淡黄乳灰色の不透明釉である。7は壺の底部で高台から底部は露胎で橙褐色である。内面にはロクロ目が残り、底部は厚く高台は外に開く。灰白色の半透明釉である。8、9は白磁の平皿で8は見込に細線文を描く。10は合子の蓋である。胎土は灰白色で細砂粒を少し含む。淡青灰白色の透明釉でガラス質が強い。天井に花文を陽刻する。11～13、15、16は龍泉窯系青磁碗である。外面に片切彫の蓮弁文をもち、胎土は暗灰色で淡青灰色釉である。11は深いオリーブ色で高台外面まで施釉する。13の外面には釉だれが認められる。14は同安窯系の皿で見込に櫛描文をもつ。胎土は淡灰褐色で、淡暗黄緑灰色のガラス質の強い透明釉である。17は白磁の玉縁碗である。胎土は細砂粒を含む灰白色でうすい灰白色の釉である。底部三ケ所に脚をもち、底部中央に径2.5cmの穿孔をもつ。見込から外底部にかけて露胎となる。18、19は天目碗である。胎土は暗灰色で砂粒を多く含む。20は陶器A群の黄褐色釉盤で見込に鉄彩をもつ。21はC群の捏鉢である。口縁下からの内面は露胎で暗黄褐色である。外面にかけては暗緑灰色の不透明釉をかける。22は平瓦である。内外面ともナデ調整である。

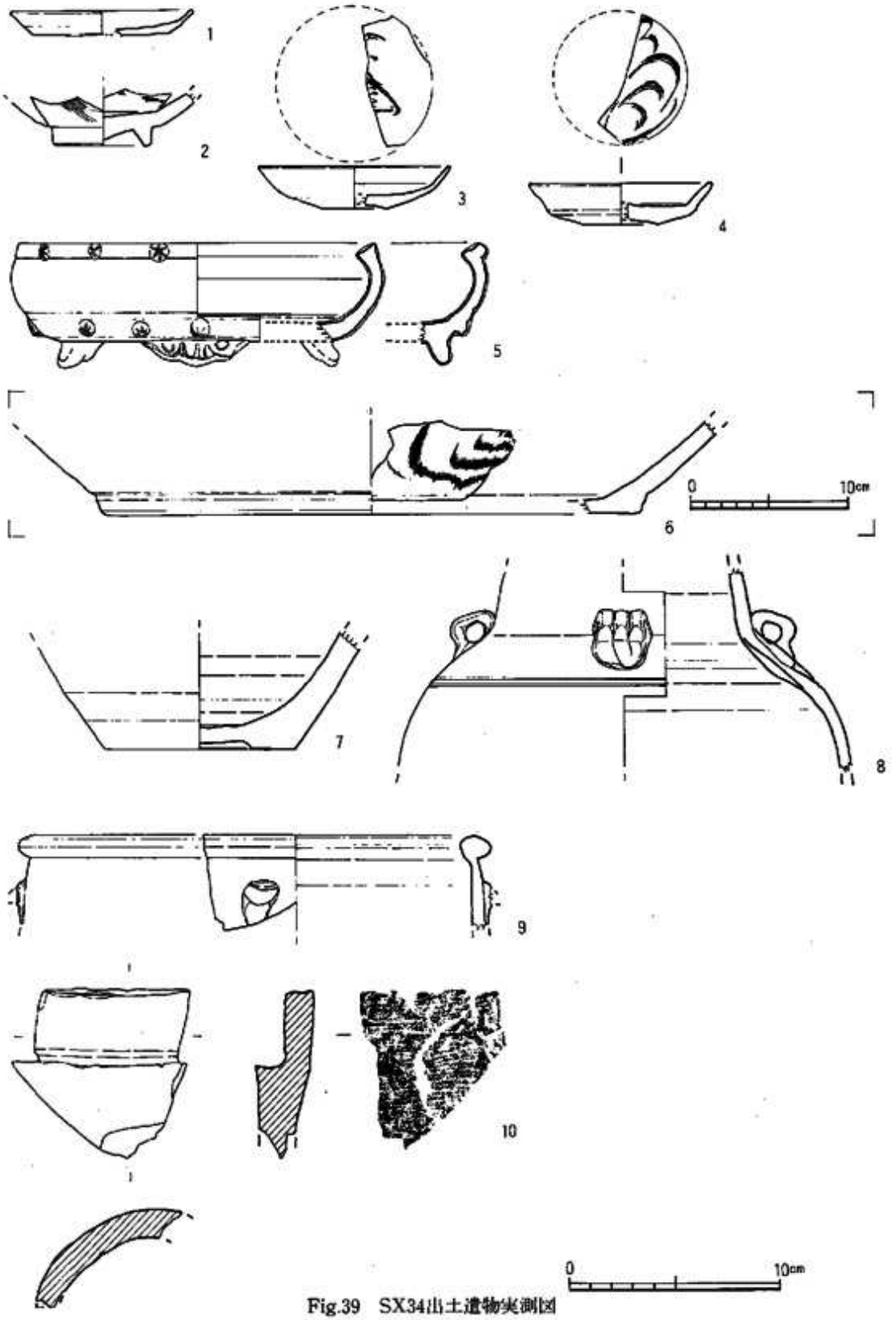


Fig.39　SX34出土遺物実測図

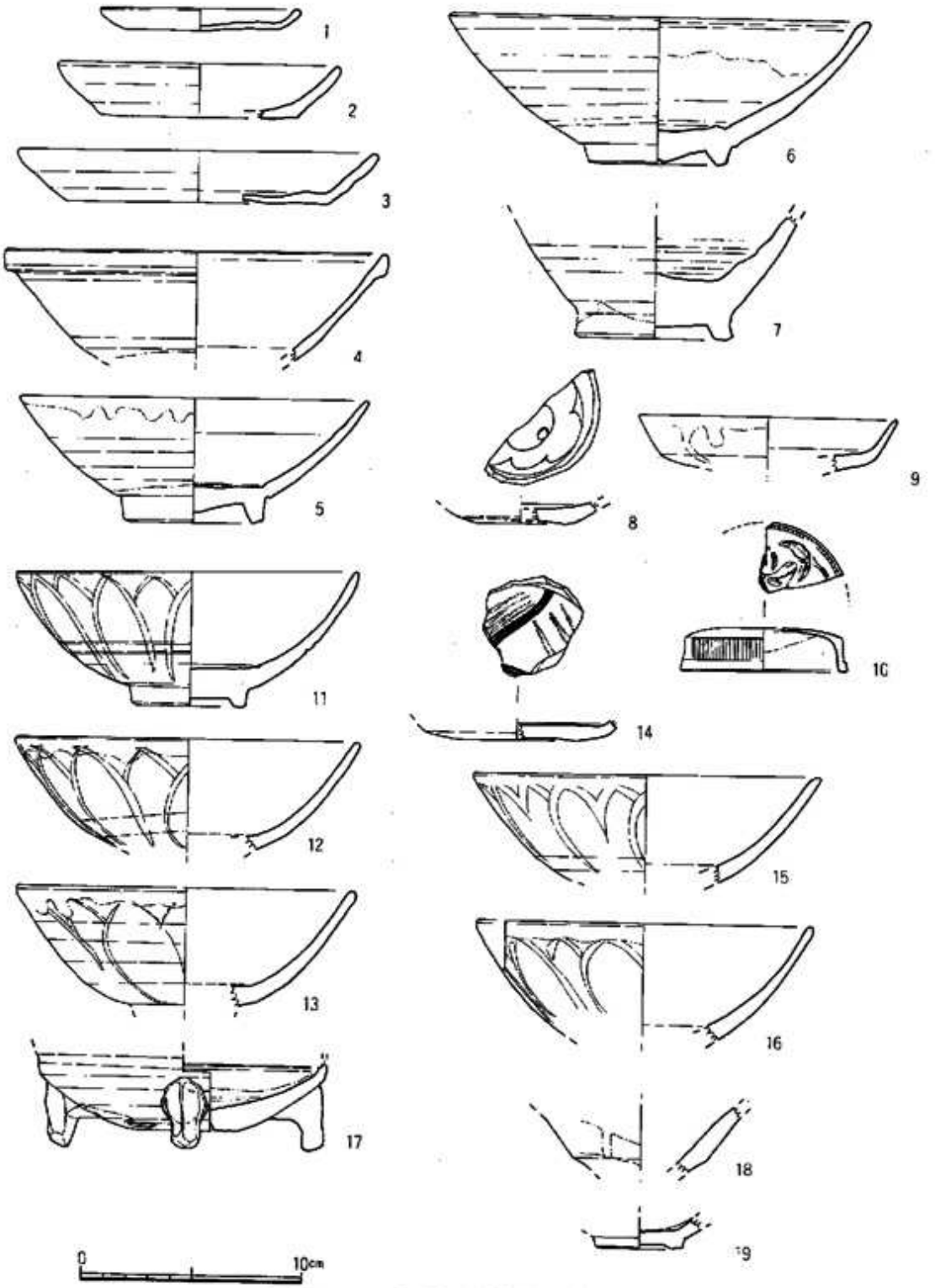


Fig.40　17号溝出土遺物実測図(1)

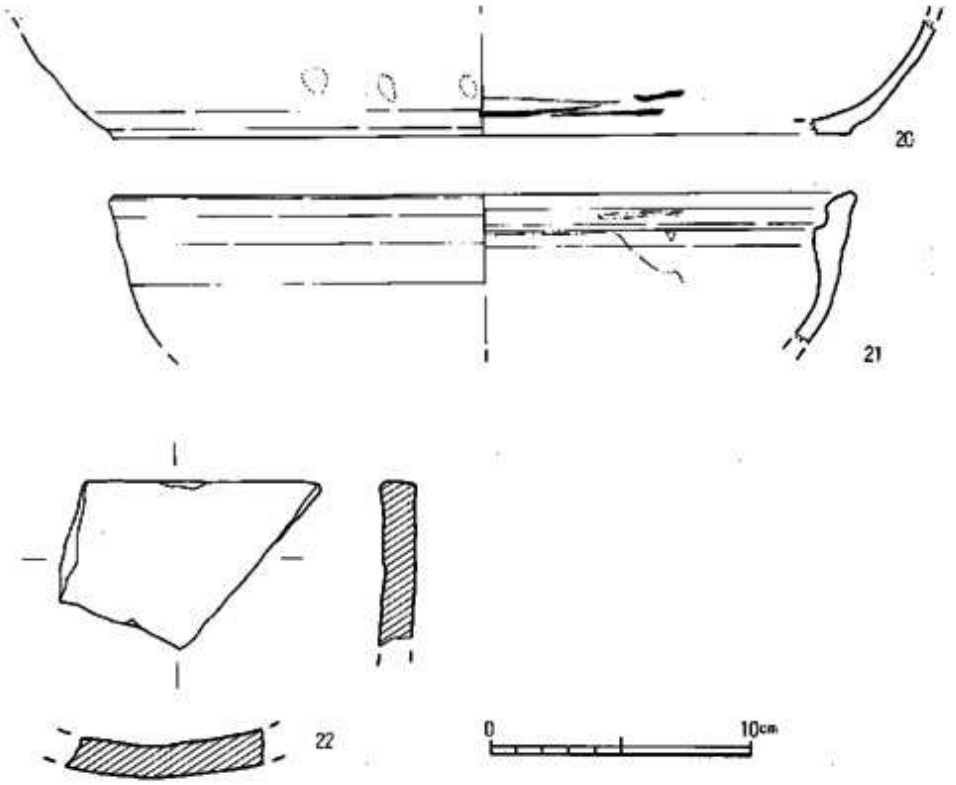


Fig.41　17号溝出土遺物実測図(2)

4．II面の調査

中世後半までの遺構はＩ面で終了し、中世前半期の遺構を主体とする。Ｉ面でSXとした遺構はSX35とした土器溜のみである。廃棄用土壙及び土壙墓、井戸の遺構を主体とする。

土壙の調査

949号土壙（Fig.42）

M－02区、Ｉ区の南東端に位置する大型土壙である。北側をSX33に切られ、東側は調査区外へ延び、全体の形態、規模の詳細については不明である。不定形で断面皿状の土壙であろう。

出土遺物（Fig.43，PL.26）

１～３は土師器坏である。口径13.5～17.3cm、器高2.5～3.1cmである。２の底部には糸切りの後に板状圧痕がある。３は口径17.3cm、器高2.6cmを測る。底部糸切りで板状圧痕がある。４は瓦器埦である。断面三角形の高台で内面に丁寧な研磨、外面は粗い研磨である。５～７はII類の白磁碗である。胎土は緑灰白色で高台脇まで施釉する。

950号土壙（Fig.42）

M－02区、北側を949号土壙に切られる。東西はＩ面の遺構に切られるが大型の遺構である。

南北1.9m、深さ0.5mを測る。覆土は焼土を多く含む暗褐色土である。13世紀中頃の土壙である。

出土遺物 (Fig.44, PL.26)

1～5、7は土師器皿である。口径8.9～9.5cm、器高1.0～1.2cmを測り、板状圧痕が底部に残るものが多い。7は内外面に墨書が認められるが解読不能である。6は瓦器皿である。底部は丸くなるが糸切りで、内底面はヘラ研磨である。胎土には微砂粒を含むが精良で灰～黒色を呈する。8～11は土師器の坏で底部に板状圧痕がある。口径14.4～15.3cm、器高2.6～3.4cmを測る。12は口縁部の一部を歪め片口とする。体部は横ナデで内底面は指ナデである。14はIV類の玉縁口縁の白磁碗で体外半釉である。15は白磁の高台付皿の口縁部である。内面に櫛描文様をもつ。16は白磁碗で内面に櫛描文がある。17、19は同安窯系青磁である。17は外面に片切彫の縦線をもつ。19は内外面に櫛描文様をもち高台脇まで灰オリーブの釉となる。18は龍泉窯系の青磁碗で高台内面まで灰青緑色の釉をかける。胎土は灰黒色である。21は青白磁の蓋で天井部に管状の小さなつまみを貼りつける。淡青灰白色の半透明釉で胎土は白色である。20は陶器

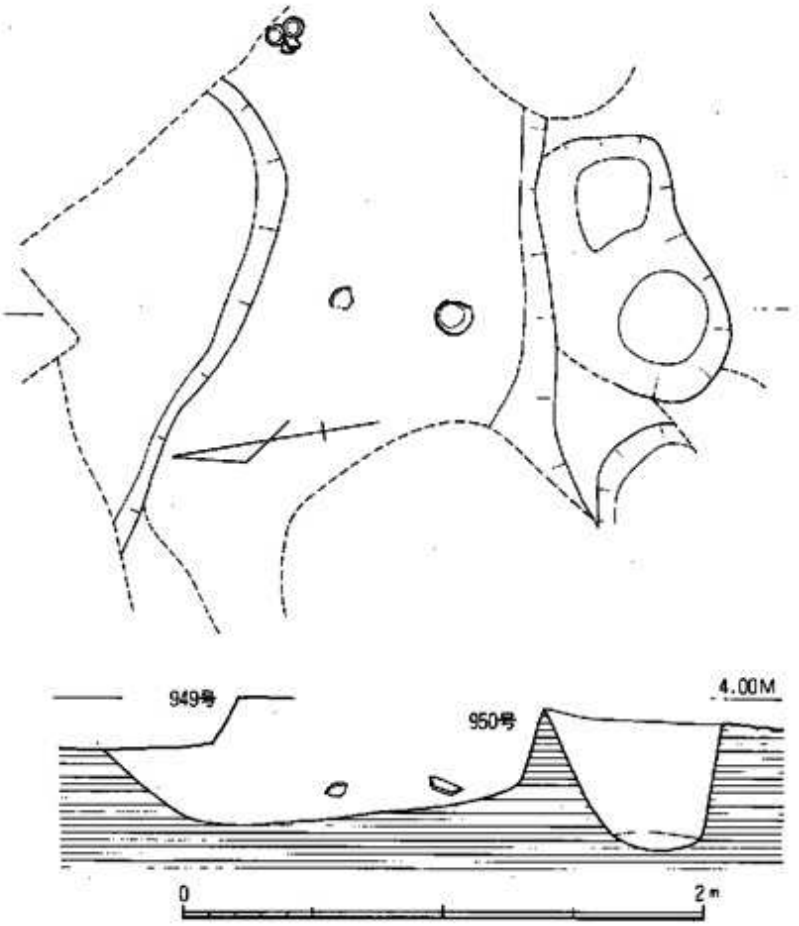


Fig.42　949・950号土壙実測図(縮尺：1／30)

C群の鉢である。胎土は黒褐色で白色の大粒の砂が混じる。露胎部はあずき色である。22はA群の鉢である。胎土は暗褐色で釜受けの下から暗茶褐色の釉をかける。露胎部は灰～茶褐色である。

953号土壙（Fig.45）

L-01区、SX33の北側に位置する。東側を138号井戸、SX33に切られ、全体の3分の2を欠損する。現存長1.95mを測るが、本来もう少し大きい長楕円形であろう。壁面はほぼ垂直で床面はほぼ平である。覆土は灰褐色砂質土と暗褐色土の互層となる。

出土遺物（Fig.46－1～6）

1は土師器皿である。底部糸切りで板状圧痕がある。口径8.8cm、器高1.0cmを測る。2は土師器坏で丸底になる。体部中位で浅い稜をもち口縁部が外反する。3は瓦器埦である。内面はナデ調整である。4～6は白磁である。4はVI類の碗で口縁部が外反し真下に稜をもつ。5は同様な口縁で浅碗となる。6は小玉縁をもつII類の碗である。口縁下に釉だれがみられる。胎土は茶色がかった明橙色で釉は茶灰白色である。

954号土壙（Fig.45）

L－01区、953号土壙に切られて北側に位置する土壙である。東側を138号井戸に切られているので全形は明らかではないが、長楕円形になると思われる。現存長1.25m、幅0.75m、深さ0.6mである。覆土は灰色砂層で灰褐色も混じる。土壙中央部の上面に壺の口縁部片を据えた状態で出土している。

出土遺物（Fig.46－7・8，PL.27）

7は陶器A群の四耳壺である。胎土は灰ベージュで釉は少し黄味がかった乳白色である。露胎部はオレンジ色に近い茶色である。8は瓦質土器である。気泡を多く含む砂まじりの灰白色

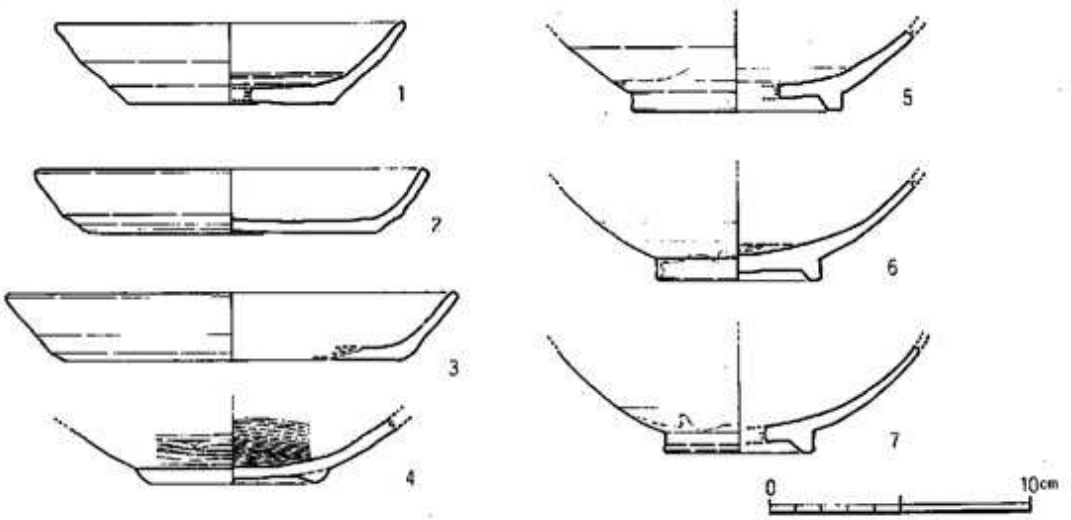


Fig.43　949号土壙出土遺物実測図

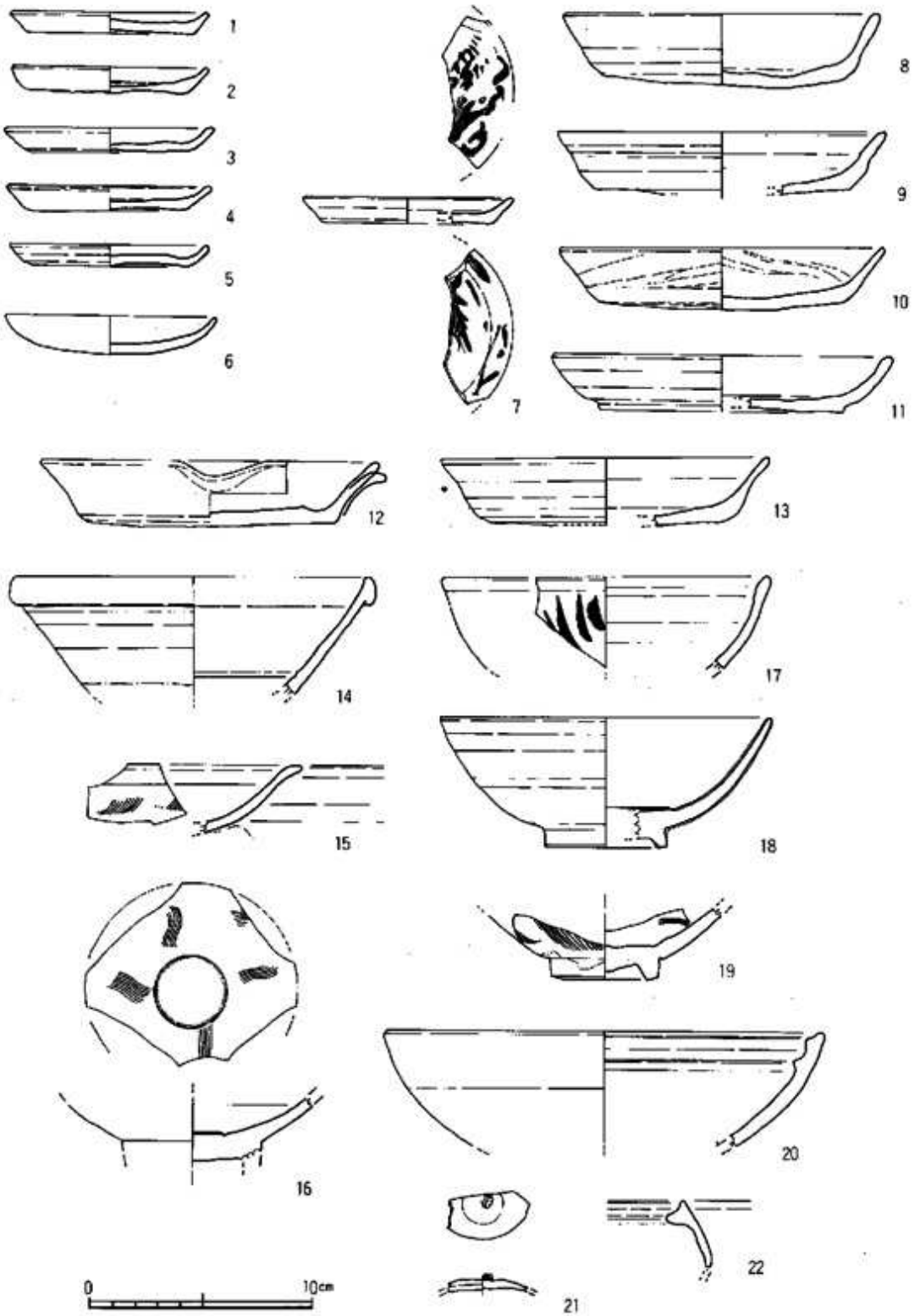


Fig.44　950号土壙出土遺物実測図

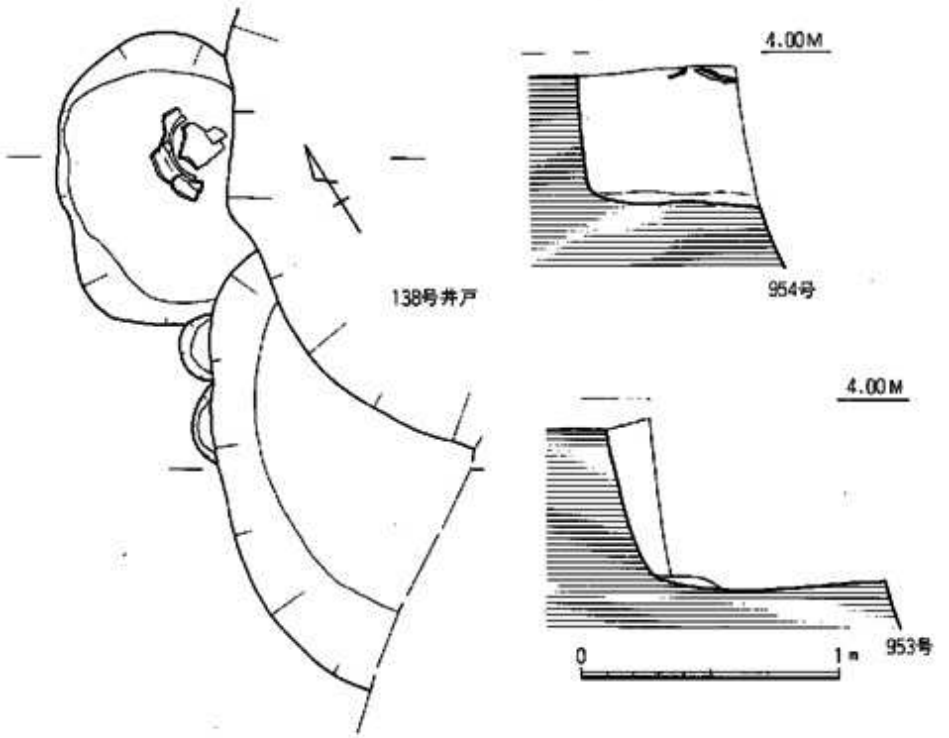


Fig.45　953・954号土壙実測図(縮尺：1／30)

の胎土である。肩部には平行タタキ、内面は当具の後を指でおさえ、指頭痕が残る。

955号土壙（Fig.47）

L－02、I区の北側に位置する長方形の焼土壙である。西側は132号井戸に切られ全長は不明である。幅1.25m、長さ2.2m以上、深さ1.35mを測る。南、北側の長辺の壁面は床面近くで丸味をもつがほぼ垂直で東壁はなだらかな傾斜をもつ。周壁は焼け、特に床面近くは赤変している。覆土は上層が暗灰色土、灰褐色砂で、下層は焼土と暗灰色土の混合土及び焼土壁の破砕層である。焼土壁は家屋の壁土が火災で焼けた状態で、両面が平滑で厚さ4.7cmを測り、砂を混入している。中心部には割竹材を縦、横に組んでいたらしく、その痕跡が残る。12世紀後半の廃棄用土壙である。

出土遺物（Fig.48, PL.27）

1、2は土師器の皿である。1は底部糸切りで口径9.2cm、器高1.3cmである。2の法量は1とほぼ同じで底部はヘラ切りで板状圧痕を残す。3は糸切りの土師器杯である。底部に板状圧痕がある。4は須恵器の坏身である。口唇部に明瞭な段をもつタイプで体～底部にかけてヘラケズリ、内面は横ナデである。5は瓦器塊で灰白色を呈する。内外面ともナデ調整である。6はIV類の白磁碗である。7は白磁皿で見込に櫛描文様をもつ。底部は露胎である。釉は淡青灰色

の半透明で氷裂が入る。8は天目碗で黒褐釉である。9は同安窯系青磁の碗である。外面に縦線文がある。釉は淡い緑灰色でガラス質が強く全体に氷裂がみられる。10は青白磁の碗である。型押しで輪花とする。胎土は灰白色で薄灰緑色の釉である。11はC群の捏鉢である。胎土には小石を多く含み、色は暗赤茶褐色である。

957号土壙（Fig.49, PL.8）

132号井戸の北側、L－02区に位置する土壙である。東西0.95m、南北0.75m、深さ0.2mを測る長楕円形の小規模な土器溜遺構である。断面は浅皿状で遺物は完形の土器も数点あるが、

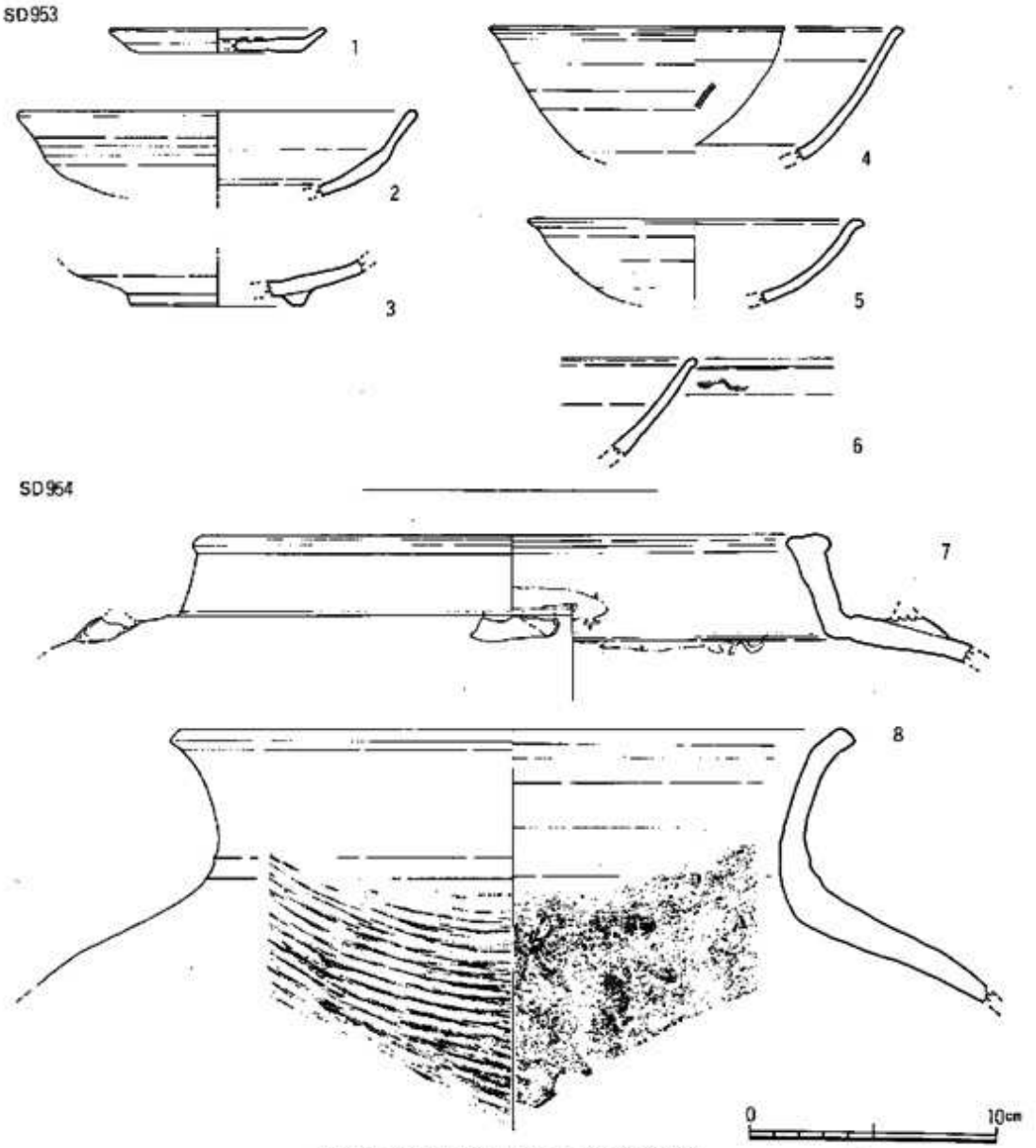


Fig.46　953・954号土壙出土遺物実測図

大部分は破損した状態で礫とともに投棄されたものである。覆土は黒褐色の軟質土である。12世紀後半期のものであろう。

出土遺物 (Fig.50・51－41～46, PL.27)

1～30は土師器皿である。口径8.8～9.4cm、器高0.9～1.2cmを測る。底部糸切りで板状圧痕がある。29、30も底部が丸くなるが糸切りである。31は土師器の坏である。口径15.4cm、器高3.3cmを測る。底部は糸切りである。32、33は瓦器である。32は小皿で口径10.0cm、器高2.1cmを測る。器表面が剥離して調整は不明である。底部には板状圧痕がある。33は埦である。内外面とも粗い研磨である。34～36は白磁である。34はVI類の碗で内面に櫛描文をもつ。胎土は灰白色で細かい砂粒を含む。釉は灰白色の不透明で全面に貫入が認められる。35、36は皿である。36は口縁部に刻目を入れ輪花状とする。内面には白堆線が5条入る。37～39は龍泉窯系青磁である。37、38は碗で口縁部が外反し、内面に櫛描文、ヘラ描文様をもつ。胎土は灰白色で淡緑色の釉である。39は皿である。見込にヘラ描文をもつ。40は陶器B群の壺である。胎土は灰色で少し砂粒を含む。釉は淡緑灰色の不透明で、底部は露胎である。41は陶器の無釉四耳壺の胴～口縁部の破片である。球形の胴部で短い口縁部となる。胎土は砂粒を多く含む。内外面とも淡い赤味を帯びた薄白茶色である。肩部に環状の耳を貼りつける。44は陶器の行平で、把手、

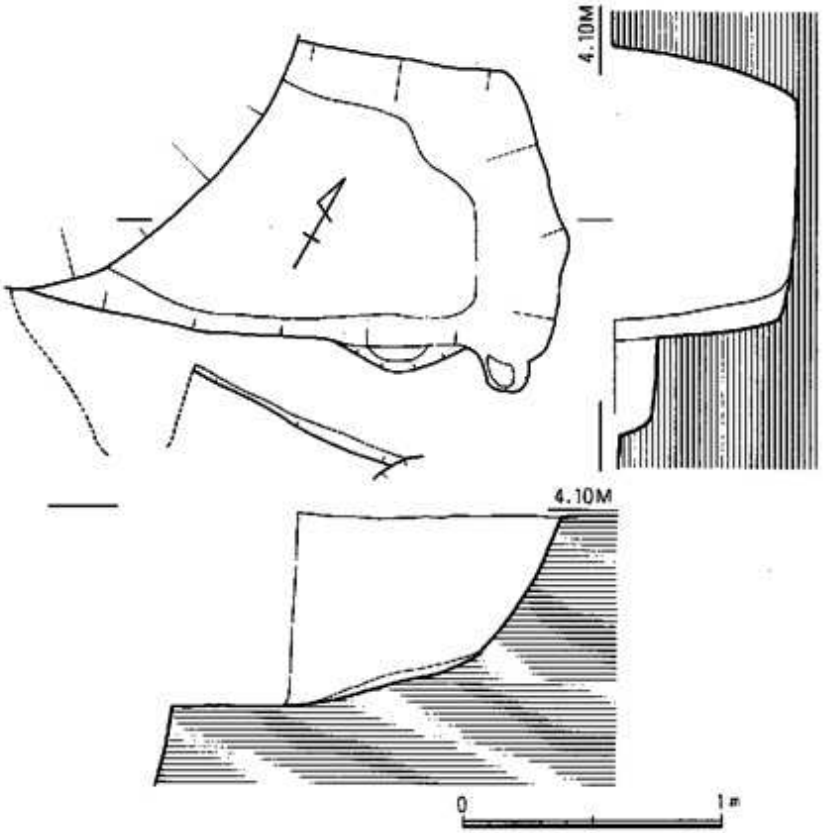


Fig.47　955号土壙実測図(縮尺：1／30)

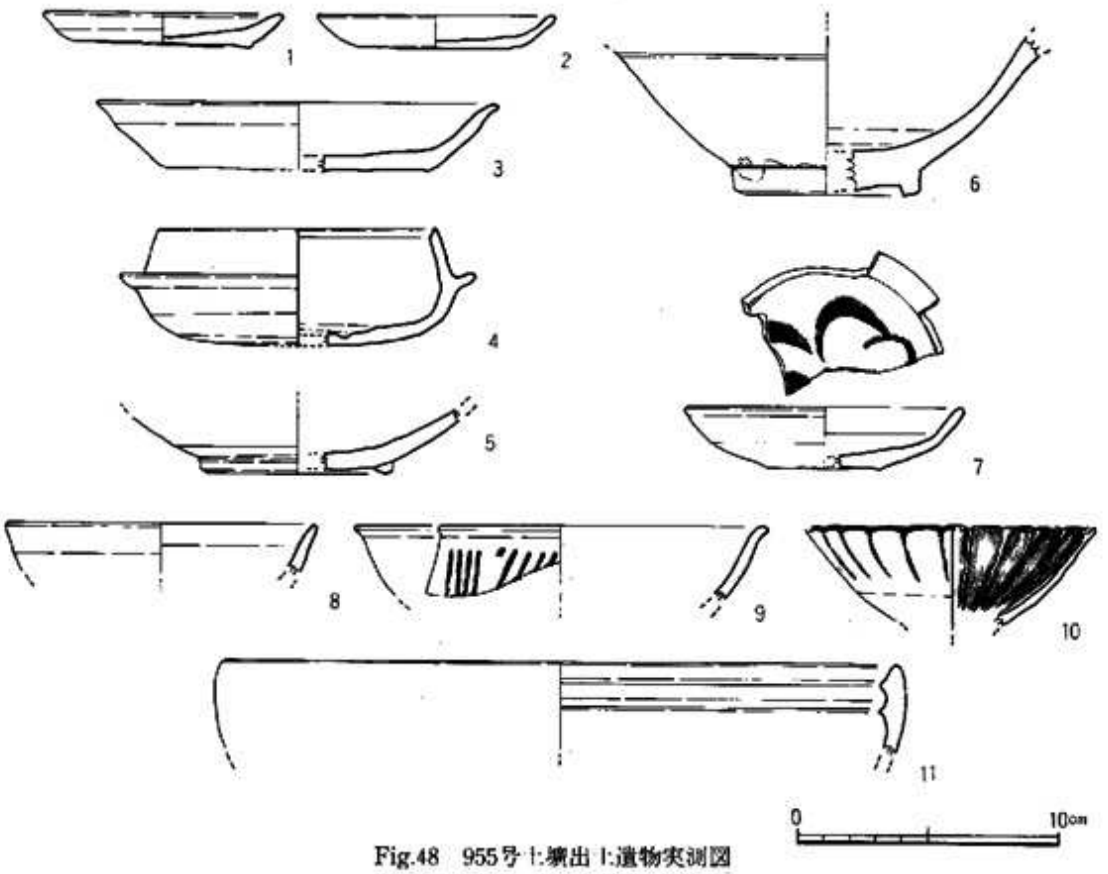


Fig.48　955号土壙出土遺物実測図

胴下半部を欠損する。胎土は精良であるが少し砂を含み明灰色で、器表面は淡茶色である。口縁部を除き内面には茶褐色の釉が認められる。把手、注口ともに八面体に面取りを行なう。42、43は国産のガラス玉である。45は陶製の瓦玉である。焼成後側面を調整している。

958号土壙（Fig.49）

L－01区、133号井戸に切られて東に位置する土壙である。北側は136号井戸と重複し、その規模は不明である。東西に1.2m以上を測る浅い土壙である。覆土は暗褐色である。

出土遺物（Fig.51－47～51，PL.27）

47は底部糸切りの土師器皿である。口径9.0cm、器高1.2cmを測る。48はIV類の白磁碗である。胎土は細砂粒を少し含む灰白色で淡明灰色の釉である。内面に釉だれが認められる。体部下半は露胎である。49は白磁碗で体外半釉。胎土には黒色の砂粒を多く含み粗い。淡黄白色の半透明釉である。50は陶器A群の小口瓶である。胎土は明灰色で黒色の砂粒を多く含む。淡明灰色の不透明釉で内面は露胎で淡黄明灰色である。51は土錘である。

959号土壙（Fig.49）

L－01区、132号井戸に切られて西側に位置する小土壙である。幅0.75m、長さ0.8m以上を測り、平面長方形を呈する。断面は0.75mを測る逆台形で深い。覆土は暗褐色土で少し木炭を

含む。

出土遺物（Fig.51－52～55）

52は底部ヘラ切りの土師器皿である。口径10.0cm、器高1.4cmを測る。53、54は白磁碗の口縁

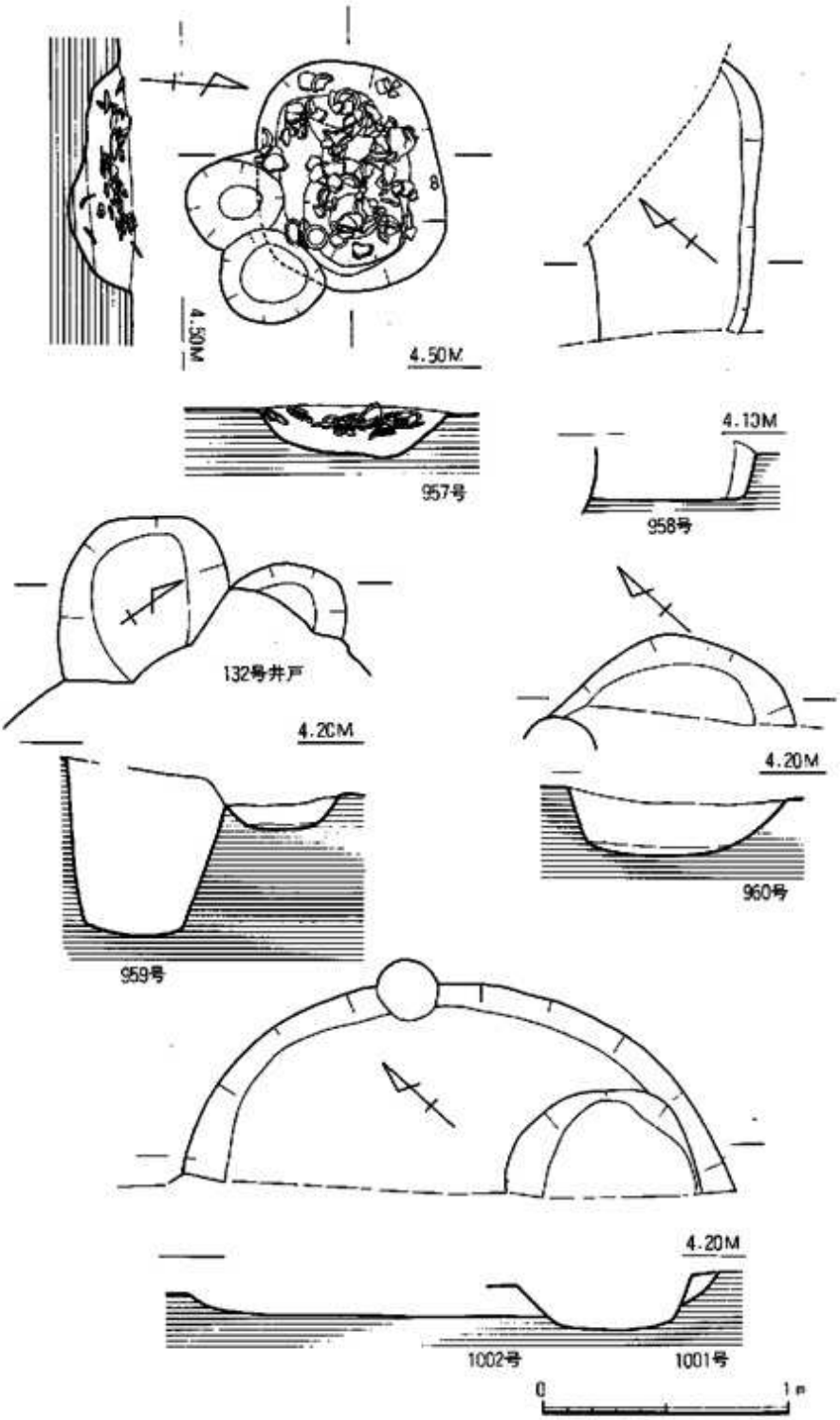


Fig.49　957～960・1001・1002号土壙実測図（縮尺：1／30）

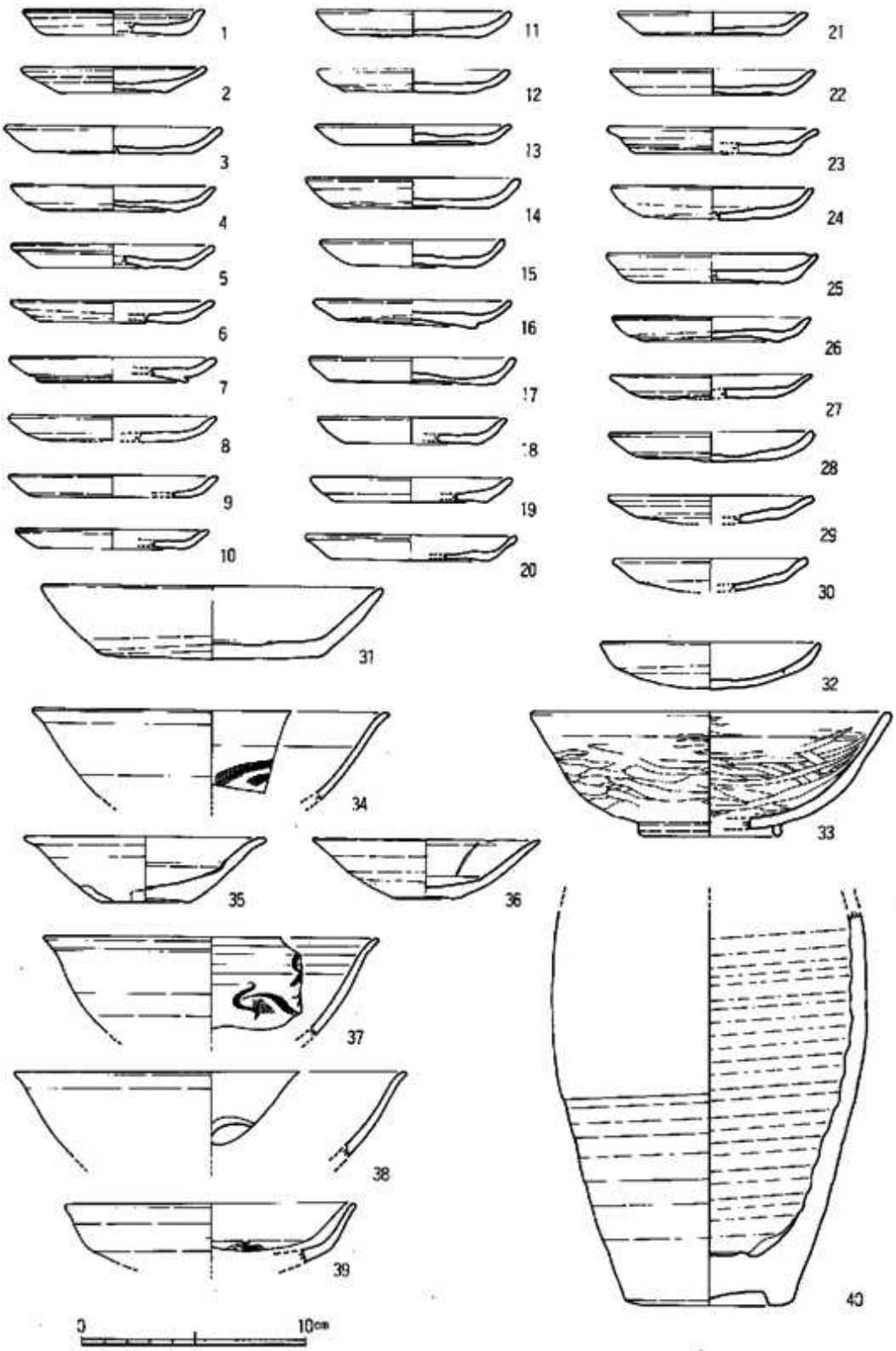


Fig.50　957号土壙出土遺物実測図(1)

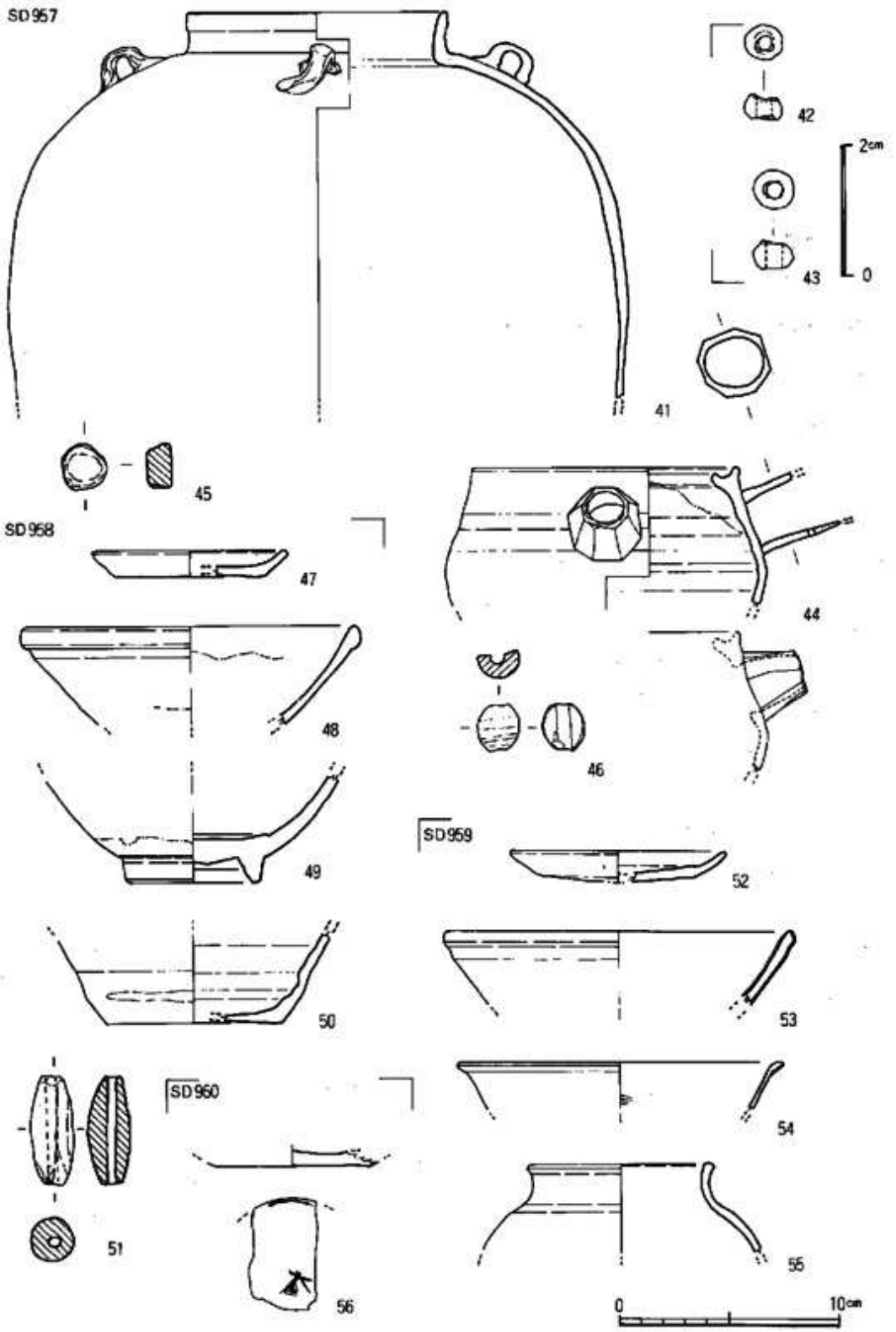


Fig.51　957号(2)・958～960号土壙出土遺物実測図

部である。54の器壁は薄く、口縁部が外反する。55は陶器壺の口縁部で、小破片のため耳はないが、四耳壺になるものであろう。胎土は淡明褐色で内面の露胎部は淡灰褐色であり、淡茶褐色の半透明釉がかかる。

960号土壙（Fig.49）

L－01区、958、959号土壙に隣接する土壙で西側は調査区外へ延びる。現状では半月形を呈するが本来、円～楕円形であろう。径約1.0m、深さ0.3mを測る浅い土壙である。

出土遺物（Fig.51－56, PL.27）

土師器の坏底部である。底部中央に「大」、外縁に細線を墨書する。また「大」の中に赤色顔料が付着する。胎土は精良で赤褐色を呈し、内外面ともヘラ研磨を行なう。他に輸入陶磁器の破片を少量出土する。

1001号土壙（Fig.49）

II区の中央、L－04区に位置する小規模の土壙である。両側を地下室により撹乱され半円形を呈する。覆土は灰褐色の砂質土である。

出土遺物（Fig.53－1・2）

遺物の出土は少なく輸入陶磁器7点、土師器坏、皿類12点だけである。1は陶器B群で口縁は玉縁状となる。胎土は細砂を含む淡茶灰褐色で、釉は淡灰褐色である。2は白磁碗II類である。胎土は乳灰白色で釉も乳灰白色の半透明で細かい氷裂がある。

1004号土壙（Fig.4）

II区の中央、L－04区に位置する長楕円形の浅い土壙である。覆土は暗灰色で遺物の出土は極めて少ない。

出土遺物（Fig.53－3～6）

3は土師器の坏である。底部は糸切りで板状圧痕がある。体部は内外面とも横ナデ調整である。4～6は白磁碗である。4はIV類で胎土、釉とも灰白色を呈し、外面に釉だれが認められる。6は見込の釉を輪状に掻きとるIX類の碗である。

1005号土壙（Fig.52, PL.8）

K－02区、II区の東寄りに位置する不整円形の小土壙で、上面に小礫を多く出土し、土師器も混在する。規模は南北0.95m、東西0.75m、深さ0.15mを測る浅い、廃棄用土壙と考えられる。

出土遺物（Fig.53－7～12）

7は完形品の土師器皿である。口径9.2cm、器高1.0cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕がつく。8～11は土師器坏である。底部は糸切りで板状圧痕がつく。大型品で口径15.2～15.5cm、器高3.0cmを測る。体部は横ナデで内底面はナデ調整である。12は白磁碗である。胎土は白色で釉は少し緑を帯びた灰白色である。

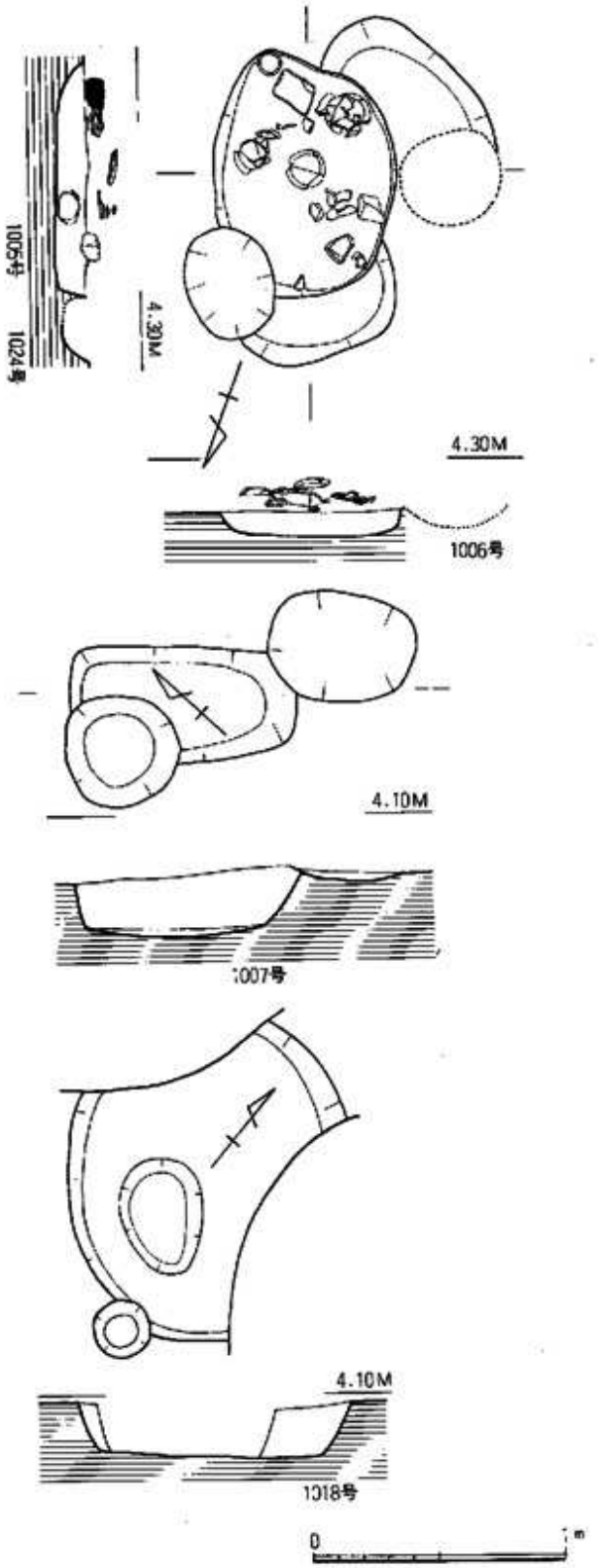


Fig.52　1005～1007・1018・1024号土壙実測図(縮尺：1／30)

1006号土壙（Fig.52）

K－02区、1005号土壙に切られて南に位置する小土壙である。1005号土壙と同様に礫を上面に投げ入れる。覆土は暗灰色土である。

出土遺物（Fig.53－13・14・18）

出土遺物は極めて少なく、白磁、陶器、土師器の破片が数点出土しているだけである。13、14は土師器の小皿である。底部は糸切りで体部は横ナデである。18はVI類の白磁碗で見込に櫛描文をもつ。

1007号土壙（Fig.52）

K－02区、1005号土壙の西に位置する小土壙である。平面形は隅丸長方形で、規模は東西1.0m、南北0.5m、深さ0.3mを測る浅い土壙で、覆土は明褐色土である。出土遺物は1006号土壙と同じく少ない。

出土遺物（Fig.53－15～17）

15は土師器皿で口径9.4cm、器高1.3cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が残る。16は土師器坏で口径15.6cm、器高2.3cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が残る。17はIX類の白磁碗で見込の釉を輪状に掻きとる。釉は緑がかった灰白色で緻密な胎土である。

1018号土壙（Fig.52）

L－04区、II区の南端に位置する楕円形土壙である。西側を144号井戸に、東側を撹乱土壙に切られる。規模は東西1.05m、南北1.2m以上、深さ0.25mを測る浅い土壙である。

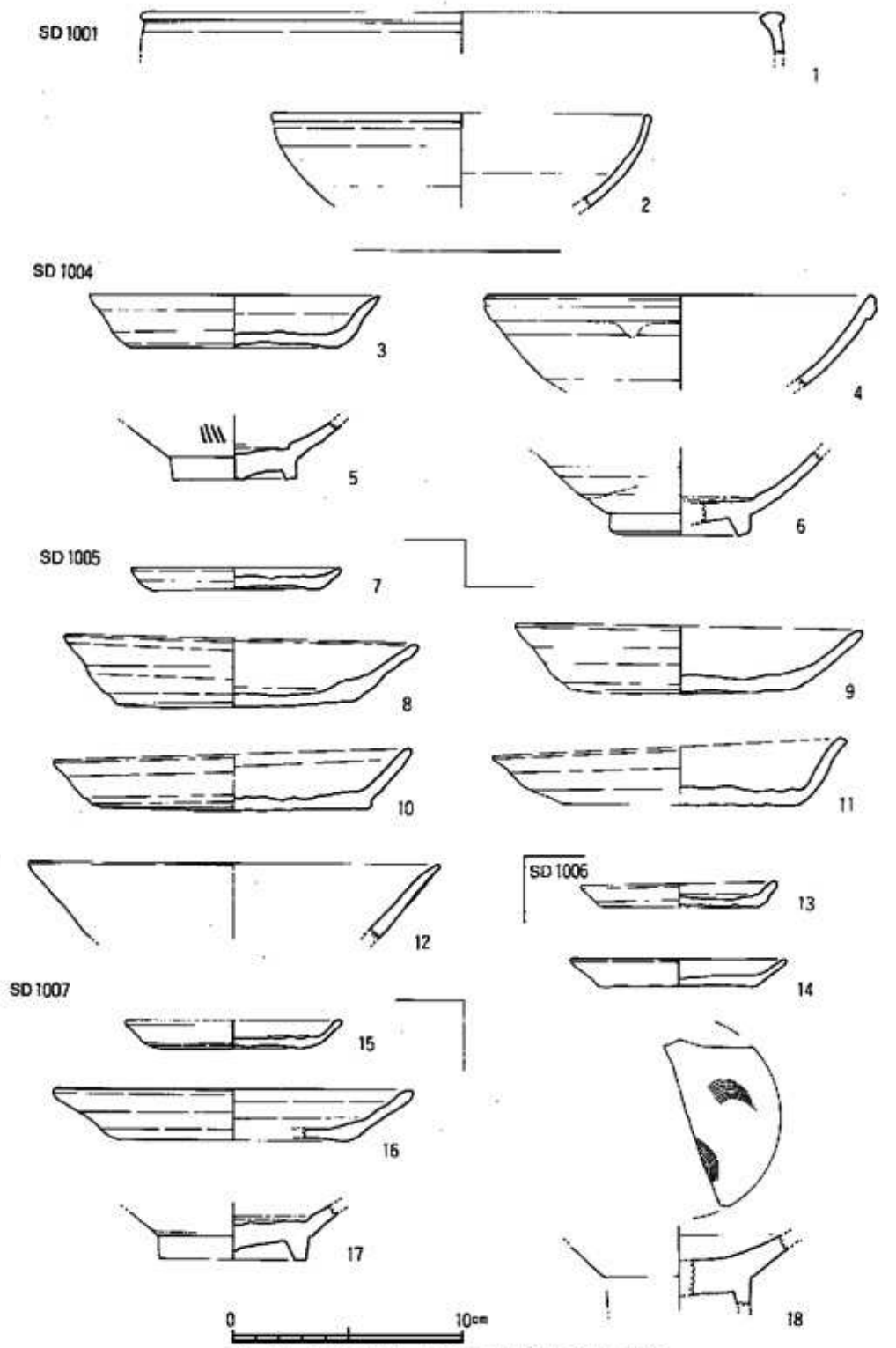


Fig.53　1001·1004～1007号土壙出土遺物実測図

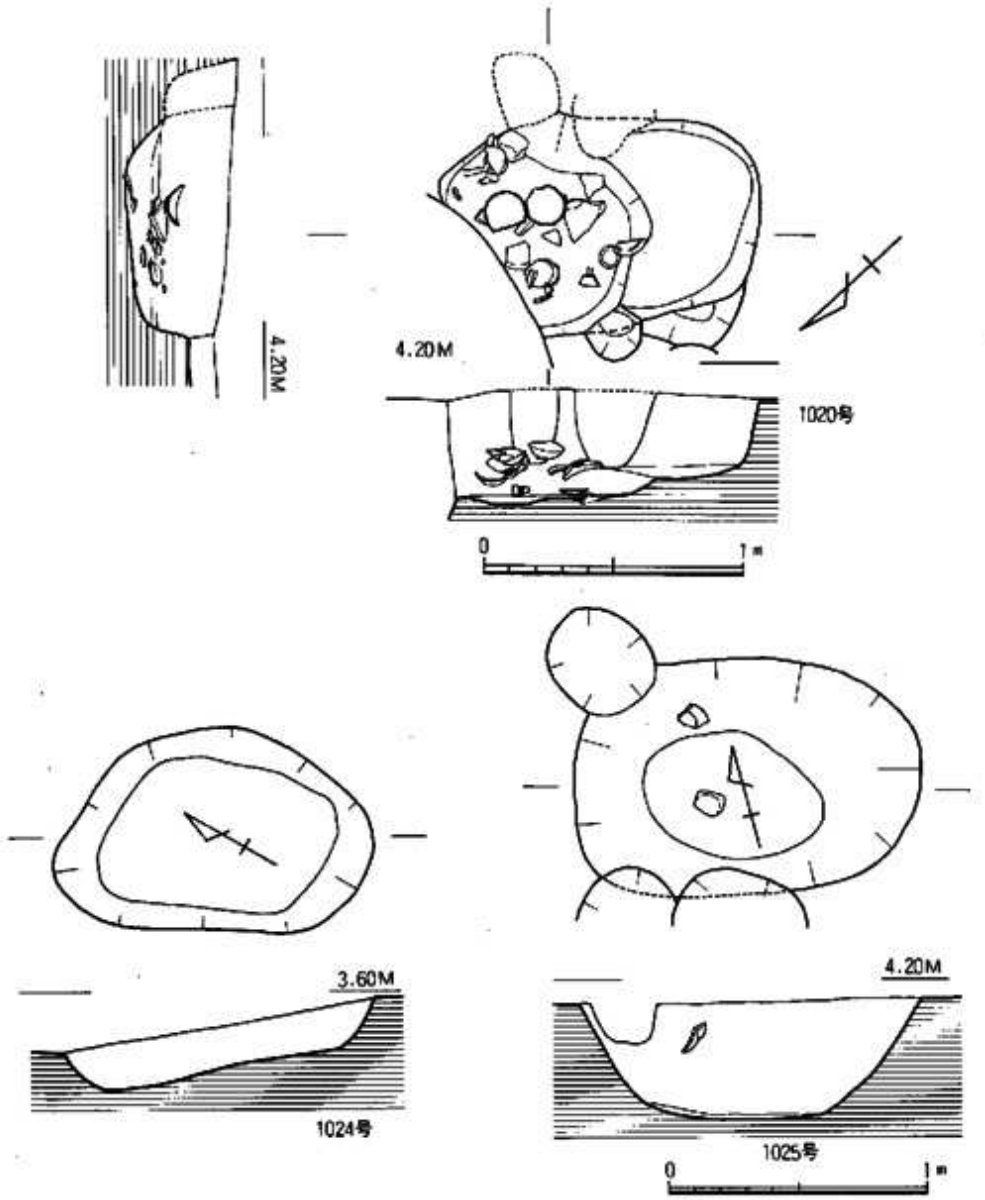


Fig.54　1020・1024・1025号土壙実測図(縮尺：1／30)

出土遺物（Fig.55）

1、2はIV類の白磁碗である。高台は幅広く安定感がある。見込に沈圏線をもつ。口縁の玉縁は大きい。胎土は乳灰白色で淡乳白灰色の厚い釉を施す。3は陶器A群の盤である。

1020号土壙（Fig.54，PL.9）

L－04区、II区の南側に位置する隅丸長方形の土壙墓である。北側を144号井戸に切られる。幅0.8m、長さ1.05m以上、深さ0.42mの規模である。床面は南側が一段浅くなり二段になる。壁面はほぼ垂直であるが床面近くで丸くなる。段落ちの部分に土師器皿（Fig.56－2）、その北隅に瓦器埦2個体（Fig.56－7・8）がある。いずれも床面より少し浮いた状態で出土し、礫も

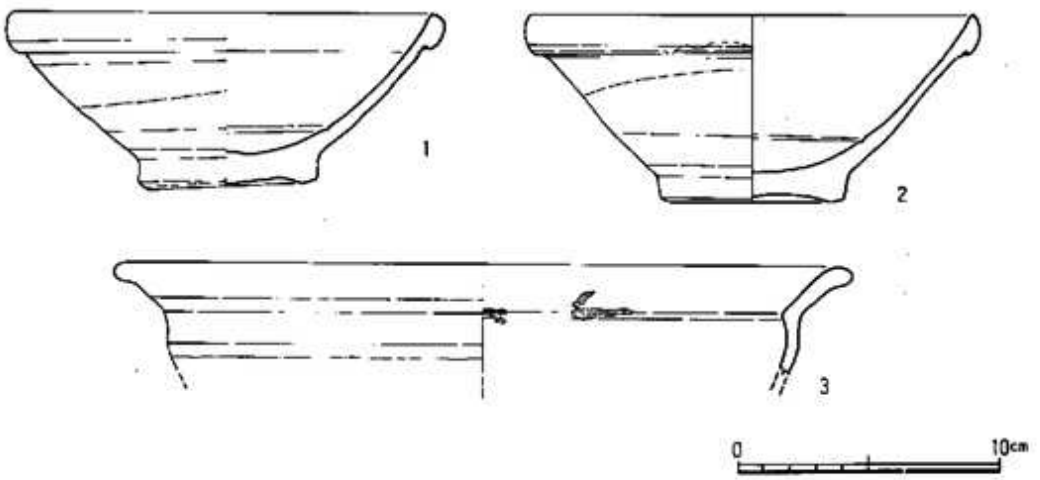


Fig.55　1018号土壙出土遺物実測図

同一高で確認できる。東壁寄りの位置から骨片が出土している。床面は少し凹凸があるが全体に平である。

出土遺物（Fig.56・57－19～21，PL.28）

1、2は土師器の皿である。1は底部ヘラ切りで丸味をもつ。口径10.2cm、器高1.4cmを測る。内外面とも横ナデである。2は完形品で底部糸切りである。3～5は土師器坏である。3は底部糸切り、4、5はヘラ切りである。体部は横ナデ、内底はナデで指跡が残る。6～10は瓦器塊で高台は低く八の字に開き先端が尖る。色調は暗灰色で胎土は細砂粒を含むが良好である。研磨は粗く内外面の体部上半までである。下半は指の押圧調整痕が明瞭に残る。8、9の口縁部は吸炭し黒色となる。7は内面に縦位の研磨が放射状の暗文風となる。11～17は白磁である。11はV類の碗である。胎土は砂粒を多く含む明灰色で淡暗緑灰色の釉をかける。高台脇～底部は露胎である。底部に花押を墨書する。12～14はIV類の白磁碗で大きな玉縁口縁となる。胎土、釉とも灰白色である。15は小玉縁口縁のII類の碗である。胎土は灰白色で緑を帯びた灰白色の釉である。16は白磁小壺の口縁部片である。肩部に沈線をめぐらし短い口縁部となる。胎土は灰白色で少し黄色を帯びた淡白色の釉である。17は白磁の小碗の底部で見込に細線文様をもつ。18～21は陶器である。19は底部にうず巻文の墨書がある。内底部にも同様の文様があるが墨書か否か不明。

1024号土壙（Fig.54）

II区の北、M－02区、1005号土壙の北に位置する。規模は長さ1.3m、幅0.9m、深さ0.2mを測る浅い土壙である。平面形は不整楕円形で、床面は南から北へ傾斜している。覆土は暗灰色で軟質である。

出土遺物（Fig.57－22～24）

22、23は土師器皿で底部糸切り、板状圧痕がある。体部は横ナデ、内底面はナデである。24

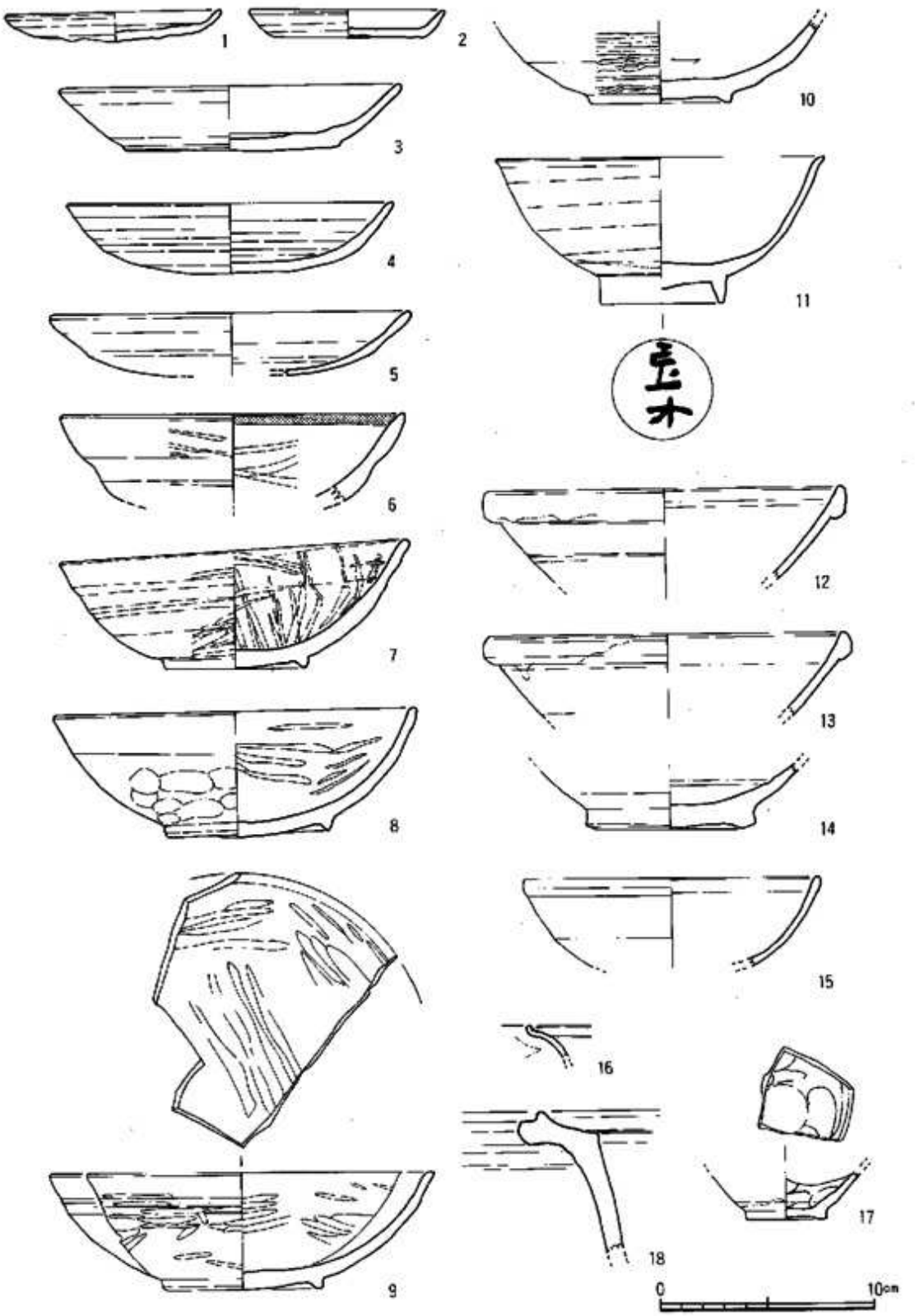


Fig.56　1020号土壙出土遺物実測図(1)

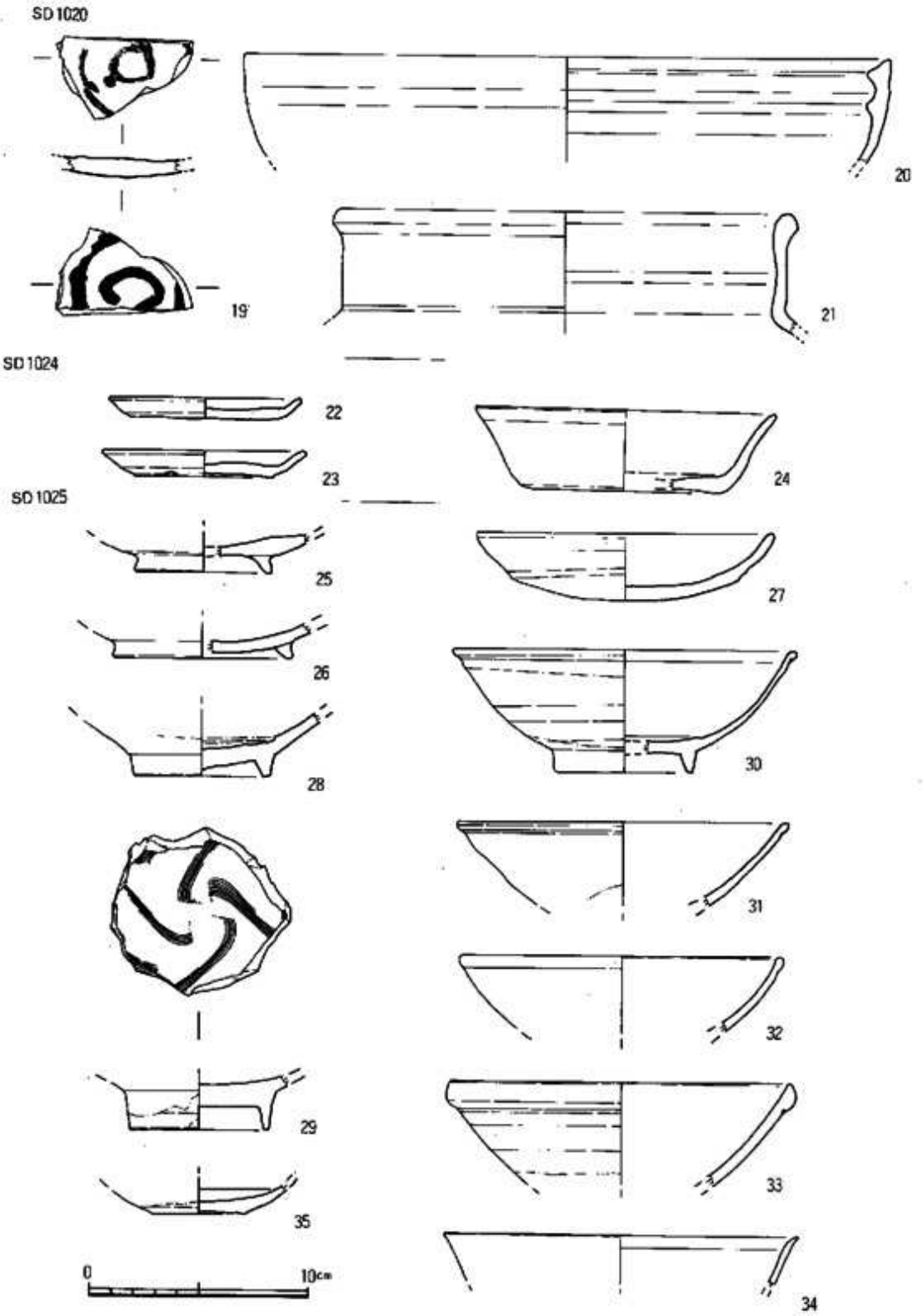


Fig.57　1020号(2)・1024・1025号土壙出土遺物実測図

は須恵器の坏である。胎土には小砂粒を多く含み色調は黒灰色ないし暗灰色である。

1025号土壙（Fig.54）

L－04区、1020号土壙の東側に位置する楕円形の土壙である。覆土は黒褐色土で木炭を少し含む。東西1.5m、南北1.0m、深さ0.5mを測る。比較的深い。壁面は摺鉢状になだらかな傾斜で床面の平面形も楕円形となる。

出土遺物（Fig－57・25～34）

25は高台付土師器埦である。高台は低く八の字に開く。26は瓦器埦の底部である。内面は研磨で、外面はナデ調整である。胎土には砂粒を少量含み、色調は淡明灰色である。27は丸底の土師器坏である。底部はヘラ切りの後に板状圧痕がつく。28～33は白磁碗である。28はIX類の碗で見込に輪状の掻きとりがある。淡黄灰白色の不透明釉で胎土に砂粒を含む。体部下半は露胎で乳灰白色である。29はVI類碗で見込に櫛描文様をもつ。30～32はII類の小玉縁口縁の白磁碗である。30は見込に沈圏線をもち、体外下半は露胎である。胎土は灰白色で淡青灰白色の透明釉である。33はIV類の玉縁碗である。胎土には細砂粒を含む灰白色で釉は緑灰白色で体外下半は露胎である。34は青白磁と思われる碗で口縁部が外反する。胎土は白色で薄い淡青白色の釉で全面に氷裂がある。35は白磁の平皿である。

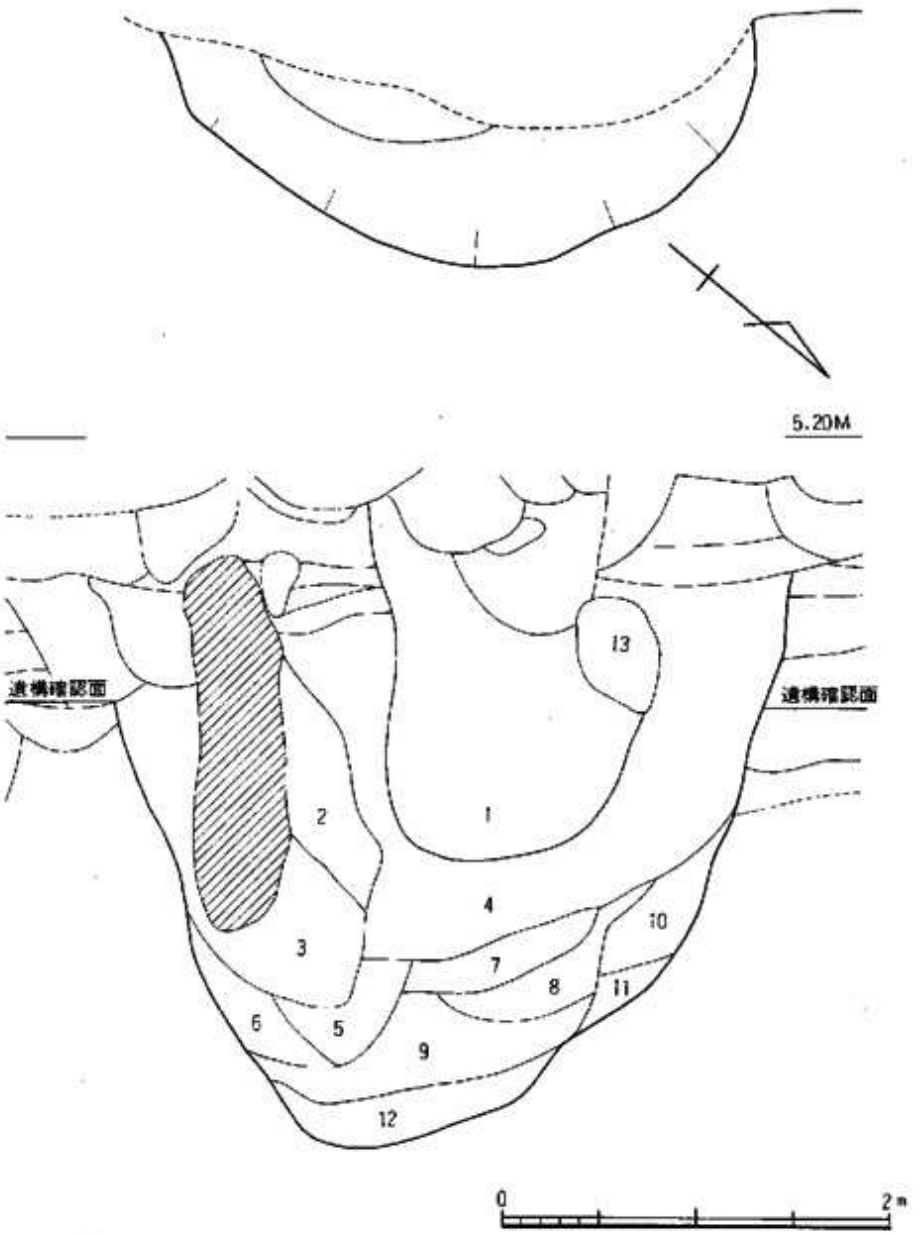
井戸の調査

136号井戸（Fig.58）

L－01区、132号井戸の東に位置する。当初II面では井筒部を井戸の掘り方と考えていたが、III面で掘り方が検出でき、径3.4mを測る井戸であることが判明した。東側は132号井戸に切られ、西側は調査区外へと拡がり、土層面だけしか残っていない。平面形は円～楕円形であろう。掘り方は径3.5m前後で、井筒部が1.3mの円形であると考えられるが、調査区内では井筒部の床面は確認できなかった。覆土は掘り方が灰白色砂と暗褐色土の混合土で、井筒部は黒色土混入の暗褐色砂である。13世紀前半の井戸である。

出土遺物（Fig.59、PL.42）

1は土師器皿で底部糸切りである。2は瓦器埦である。胎土は少し砂を含むが精良で灰白色を呈する。高台は低く、器壁が厚い粗雑な造りである。内面は研磨、外面も粗い研磨で体部下半に指跡がつく。3～5はIV類の白磁碗である。3は口縁部を折り返し玉縁とし、中空になる。体部外面は半透明の釉である。口縁の内外面に釉だれが波状を示す。内底部に砂粒が付着する。胎土は細砂粒を含む乳灰白色で淡黄乳灰色の釉である。4、8は白磁で底部には花押様の墨痕が認められる。6は高台付皿で見込に櫛描文様をもつ。一部高台部分まで緑がかった灰白色釉が認められる。7は口縁部上端を水平に削るVI類の白磁碗である。外面にヘラ描文をもつ。10、11は龍泉窯系青磁碗である。11は内面に劃画文をもつものであろう。外底に墨痕をもつ。12は青白磁の小壺である。外面に蓮弁文を二段に陽刻する。釉は青白色で口縁部分を掻きとる。13



1．暗褐色砂、(黒色土混入)
2．褐色砂質土
3．暗褐色砂質土
4．暗褐色砂、灰白色砂の互層
5．暗褐色砂質土、(灰色砂混入)
6．褐色砂質土、白色砂の互層
7．暗褐色土、白色砂の互層
8．淡褐色粗砂
9．褐色粗砂
10．暗灰色粘質土、砂の互層
11．灰色砂
12．淡茶褐色砂
13．撹乱

Fig.58　136号井戸実測図(縮尺：1／40)

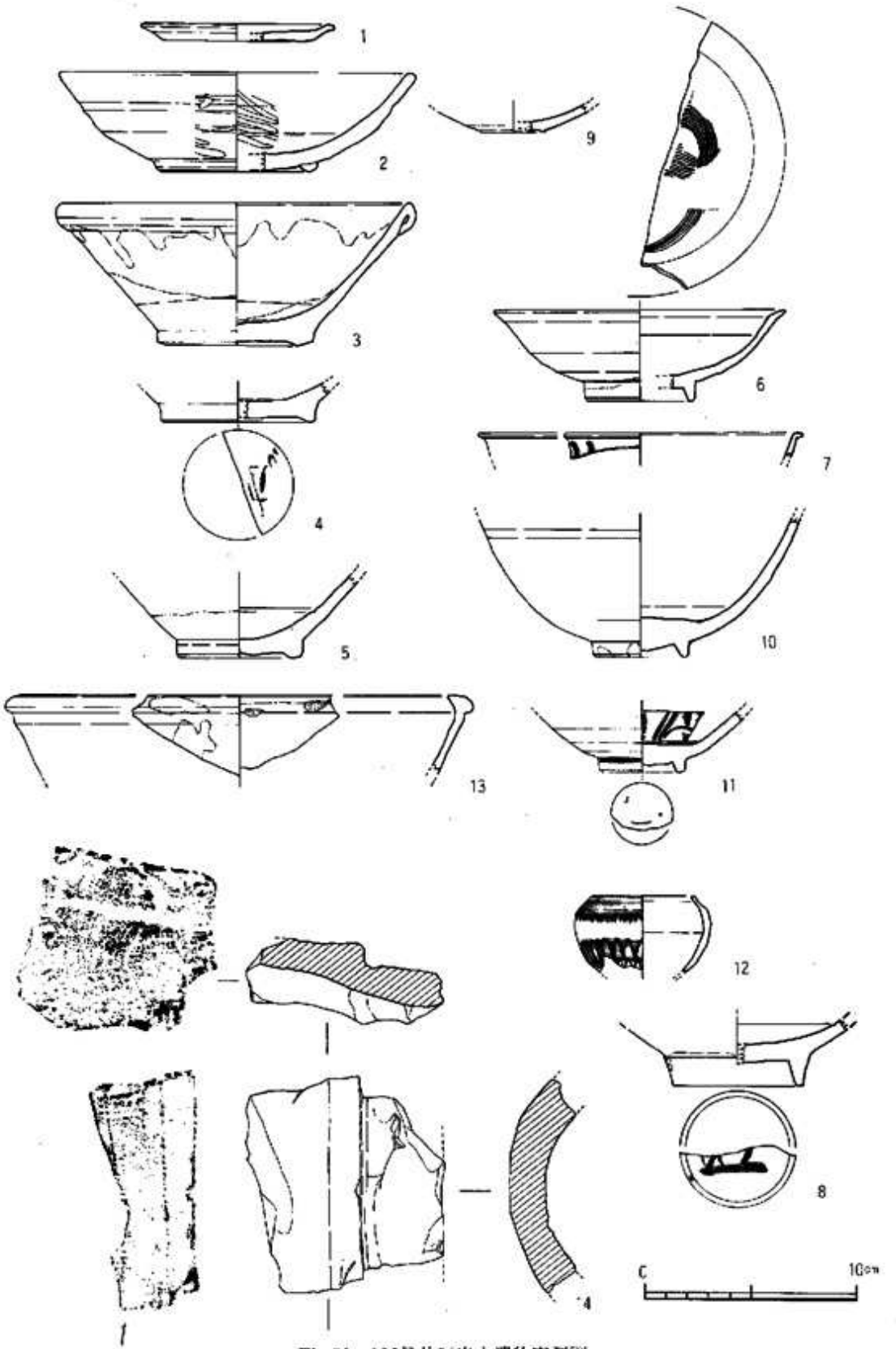


Fig.59　136号井戸出土遺物実測図

は陶器A群の鉢である。胎土は灰ベージュで内面に金茶色の釉をかける。口縁内側～外面は露胎であるが、部分的に釉が付着する。口縁内側に目跡が認められる。14は丸瓦の破片である。内面には布目、外面にはタタキが残る。

137号井戸（Fig.60）

L－01区、136号井戸の南約1mに位置する土壙である。I面では2基の遺構（946号土壙・134号井戸）と錯誤して掘り進めたが、II面まで掘り下げた結果1基の井戸であることが判明した。西半部は調査区外へ拡がっている。掘り方は現存形4.2mを測る大型のものである。黄白色砂層に掘り込まれており、壁面の傾斜はなだらかで中央部に径1.1mの円形の井筒がある。木桶を用いたものと考えられるが、木質部分は腐蝕し、土層の違いで判別したため多少の誤差はあろう。標高1mまで掘り下げたが、床面までは達していない。掘り方の覆土は黄白色砂と褐色土の互層、単純層で井筒部は褐色砂質土、暗褐色砂質土、灰褐色砂質土である。14世紀中頃の井戸である。

出土遺物（Fig.61～63, PL.42・53）

遺物は多く出土している。1～13は井筒からの出土、14～39は掘り方からの出土である。1は土師器の底部糸切りの皿である。口径8.2cm、器高1.2cmを測る。2、3は土師器坏である。底部糸切りで板状圧痕がある。体部横ナデで内底はナデ調整である。3の体部に焼成前の穿孔が認められる。4は土師器鍋の口縁部片である。口縁部は逆L字に曲がり、平坦面を形成する。胎土には砂粒を多く含み、外面に煤が付着する。5は須恵質鉢の底部片である。胎土は白、黒の砂粒を含む暗灰色で、内外面ともナデ調整を行なう。東播系と考えられる。6はロハゲ白磁の皿である。胎土は灰白色で光沢のある灰白色の釉である。底部は釉をふきとるが薄く残る。7は白磁皿である。外底部の露胎部に花押を墨書する。8は青白磁の皿である。見込に櫛描文様をもつ。胎土は灰白色で乳青色の釉をかける。9、10は龍泉窯系青磁である。9は鎬蓮弁文碗の口縁部である。10は鉢で口縁部は折れ曲がる。内面に蓮弁文をもつ。釉は厚く深味のある灰緑色である。胎土も灰白色で緻密。11は同安窯系青磁碗である。外面はヘラによる縦線、内面に櫛描文様をもつ。胎土は暗灰色で釉は透明な灰緑色である。12はA群陶器盤である。胎土は砂粒混りの灰ベージュ色で、釉は灰オリーブ色を呈する。内面に鉄絵がある。13は赤褐色の須恵器甕片で格子目タタキと青海波文をもつ。14は砥石で、上面だけを使用し、他の面は破損面である。15、16は土師器坏である。胎土はきめ細かく、くすんだ肌色を示す。底部は糸切りで、体部は横ナデ。17は瓦器塊である。内面は縦方向の研磨、外面は横位の粗い研磨である。胎土には細砂を含むが良好で、色調は黒灰色～暗灰色である。18はロハゲの碗である。胎土、釉は灰白色である。19、26は外底の露胎部に花押を墨書する白磁碗である。21は薄手の青白磁碗である。口唇部に刻みを入れ輪花状とする。22～25は白磁の皿である。見込に沈圏線を入れ、細線文様をもつものがある。釉は深い飴色を呈する。28～30、32は龍泉窯系青磁である。28は

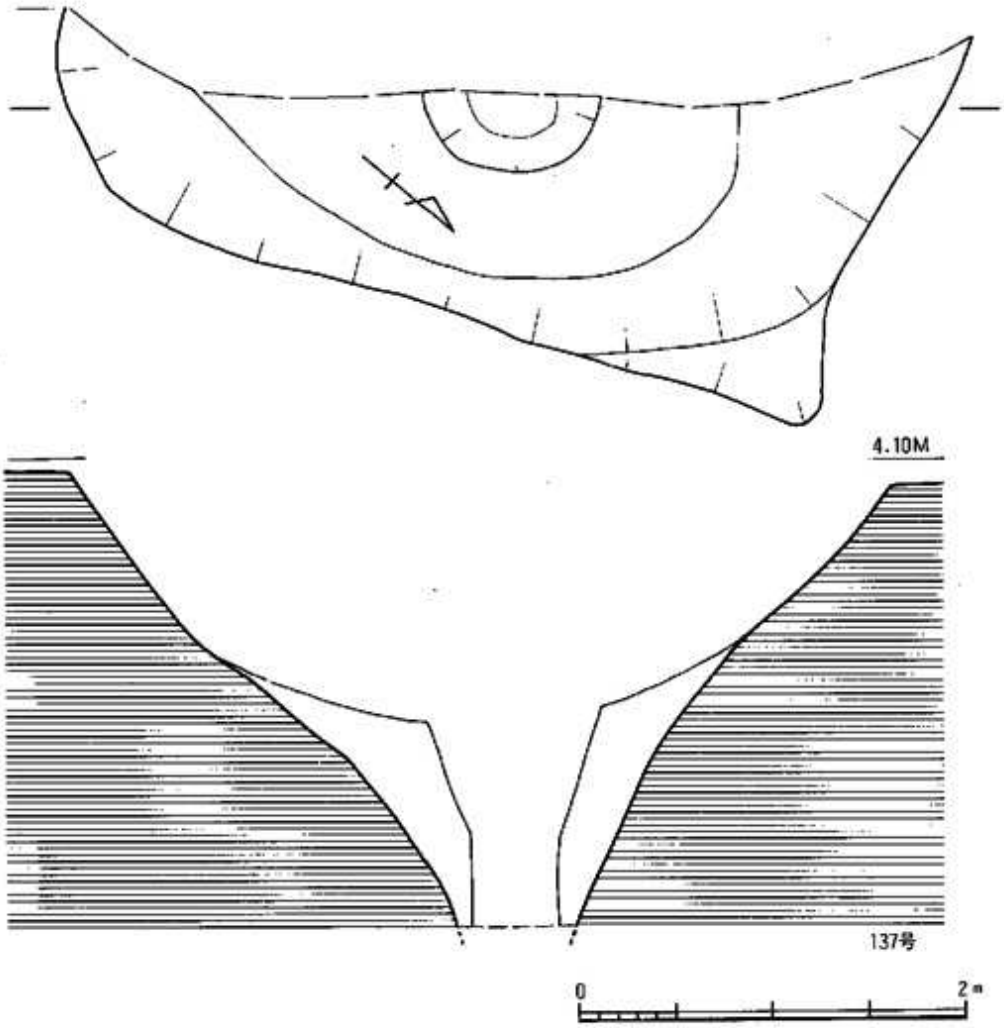


Fig.60　137号井戸実測図(縮尺：1／40)

口縁部を折り曲げた水注の口縁部である。29は外面に鏑蓮弁文をもつ碗で畳付を除きオリーブ色の釉を施釉する。30も蓮弁文碗である。高台～底部は露胎である。31は越州窯系青磁碗である。胎土は細砂粒を含む淡暗灰色で、暗黄緑色の半透明釉を施す。32は10と同種の碗で畳付を除き全面に深みのある青緑色の釉を厚くかける。33～36は陶器類である。33はA群の行平である。暗茶褐色の釉を内面から注口部縁まで施し、外面は露胎で淡赤茶褐色を示す。胎土は砂粒を含み粗く、淡茶褐色である。34はB群瓶で胎土は茶灰褐色を呈し、暗黄緑灰色の半透明釉である。口縁部に目跡が残る。37、38は東播系の鉢である。胎土に少し砂粒を含む。39は元祐通寶である。

138号井戸（Fig.64）

L－02区にありSE135、SX33に切られて、北側に位置する井戸である。東側は調査区外へ拡がり、全体の5分の1ほどの調査であり、遺存状態は極めて悪い。掘り方は径約4mを測る。

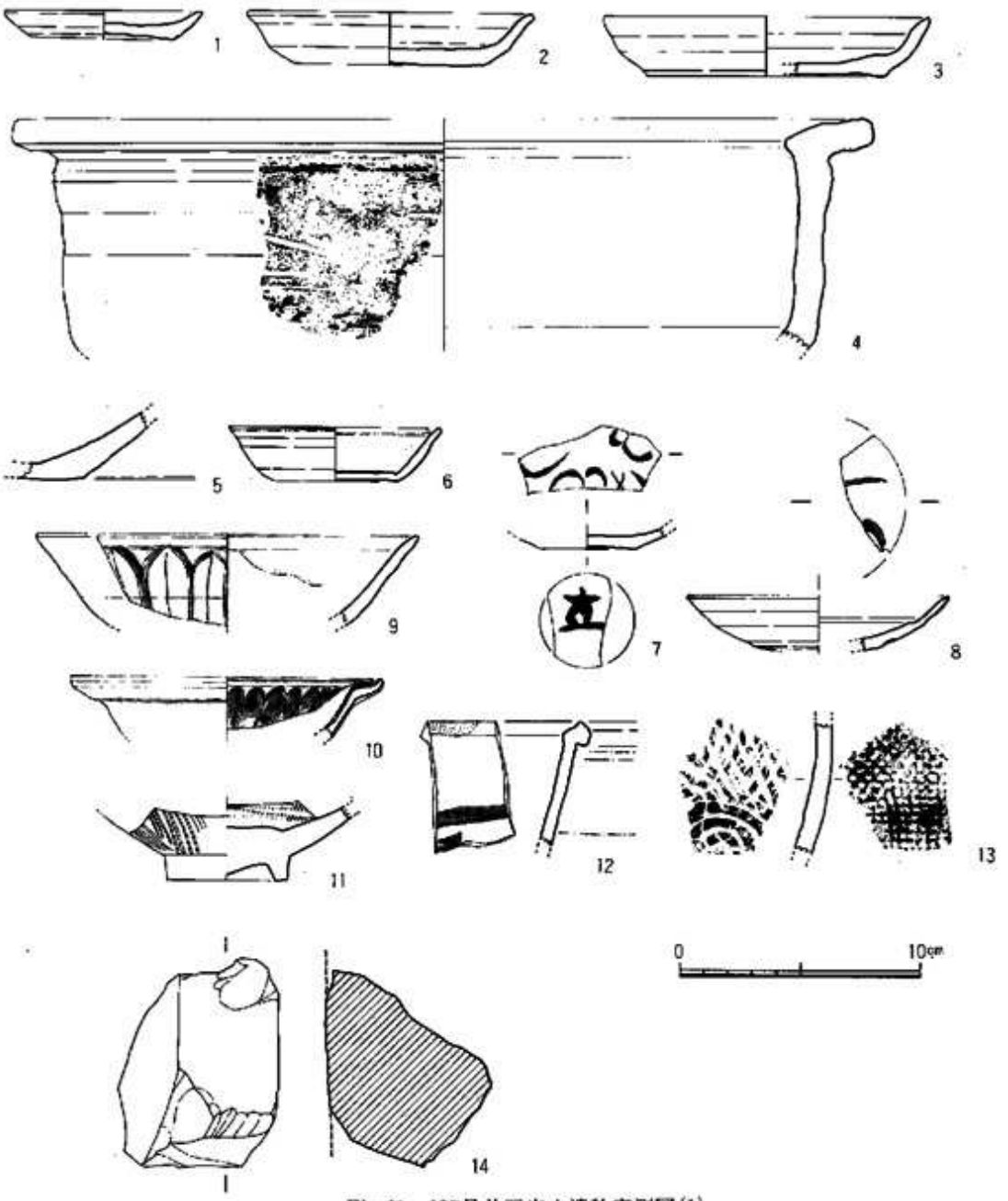


Fig.61　137号井戸出土遺物実測図(1)

木桶を用いた大型井戸であろう。井筒はその痕跡をとどめるのにすぎない。土層の観察によると径1m位の木桶を用いたと考えられる。覆土は暗黄灰色～黄灰色砂層に灰暗褐色土を混ぜた土層である。井筒部は暗黒褐色～黒褐色土で少し粘質を帯びる。

出土遺物（Fig.65・66, PL.43・53）

1は底部糸切り、板状圧痕の土師器坏である。口径15.3cm、器高3.3cmを測る。体部は横ナデ、内底はナデ調整である。2は内黒土器である。高い高台で口縁部が肥厚し外反する。内面

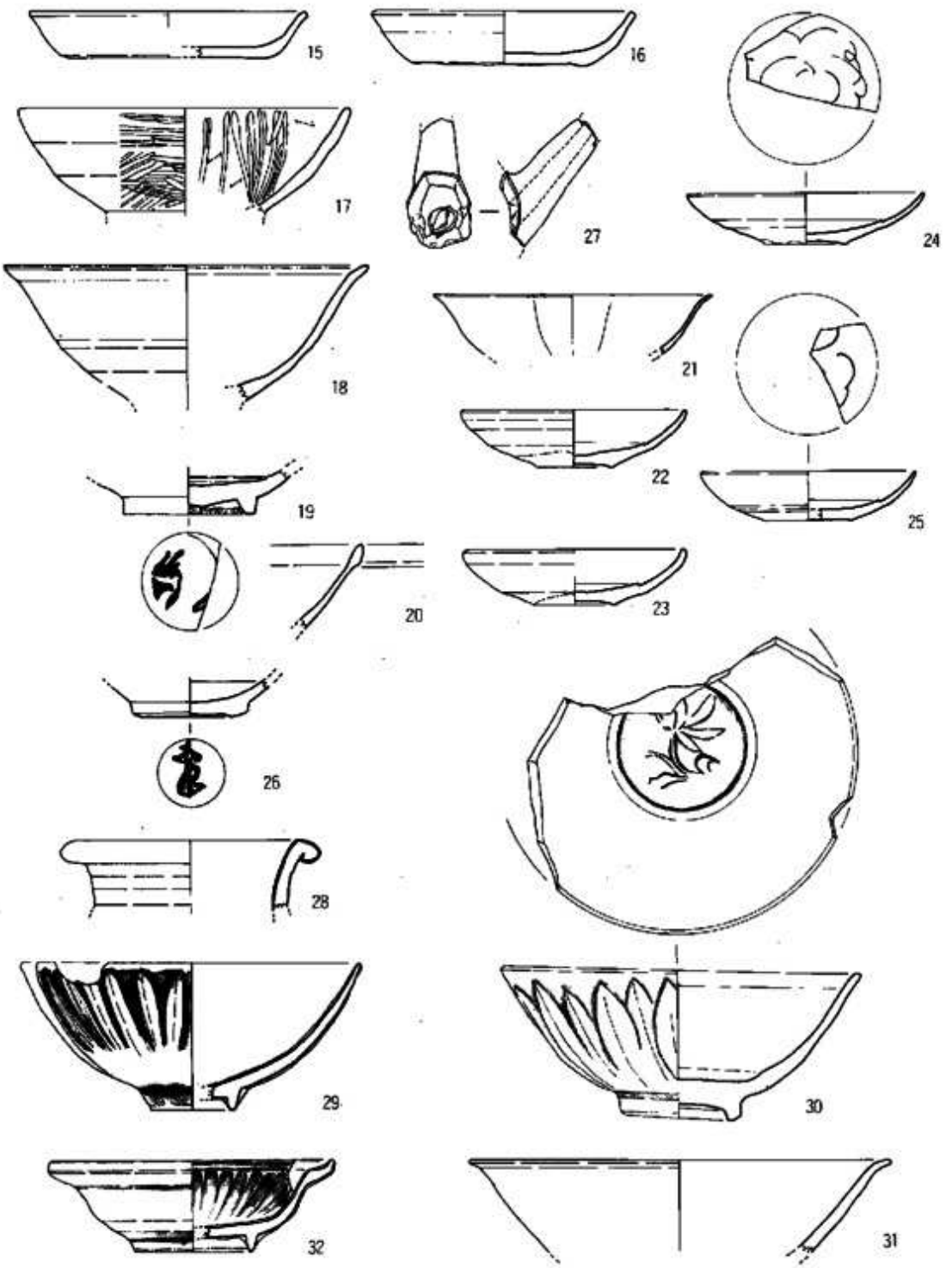


Fig.62　137号井戸出土遺物実測図(2)

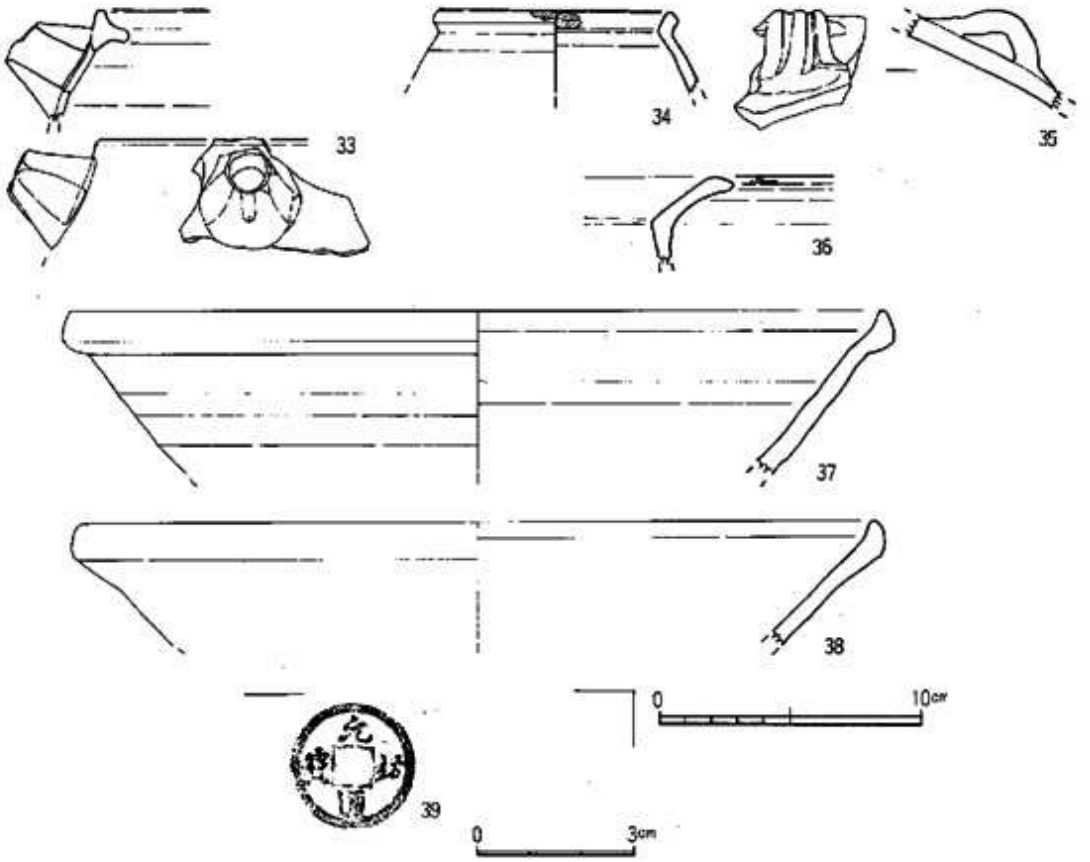


Fig.63　137号井戸出土遺物実測図(3)

は粗い研磨で、外面は横ナデである。3～13は白磁碗である。3～5はIV類の白磁碗である。胎土は砂粒を含み、赤味を帯びた灰白色で乳白色の釉である。体部下半から底部は露胎である。見込に沈圏線をもつ、7～9はVI類の碗である。8の内面には櫛描文様をもつ。9は底部に花押を墨書する。10～11はIX類碗である。見込を輪状に掻きとる。11は外底部に花押を達筆に墨書する。高台脇～底部は露胎である。14、15は白磁皿で体部下半～底部は露胎で、14に墨書する。16は白磁の合子身である。外面は花弁を陽刻し、体部中位に緩やかな稜をもつ。口縁部は露胎である。胎土は灰白色で、少し緑を帯びた灰白色釉である。17は青白磁の小碗である。外面は露胎である。18～23は陶器である。18は陶器B群の褐釉四耳壺である。ほぼ完形品で底部の一部を欠損する。胎土は白色、灰黒色の砂粒を少し含む。釉は胴部上半～口縁部が緑色を帯びた褐色で、下半は白～灰白色で光沢がない。底部は露胎である。肩部に二条の沈線をめぐらし、その上に耳を貼り付けている。19も18と同じ壺の底部である。20は陶器A群の蓋であろう。胎土は灰白色で黒褐色釉となる。天井部は露胎。21、22はA群の黄褐釉盤で、22は内面に鉄彩をもつ。口縁下から底部は露胎である。25は鉄製紡錘車である。円盤に穴を穿ち鉄棒を通して

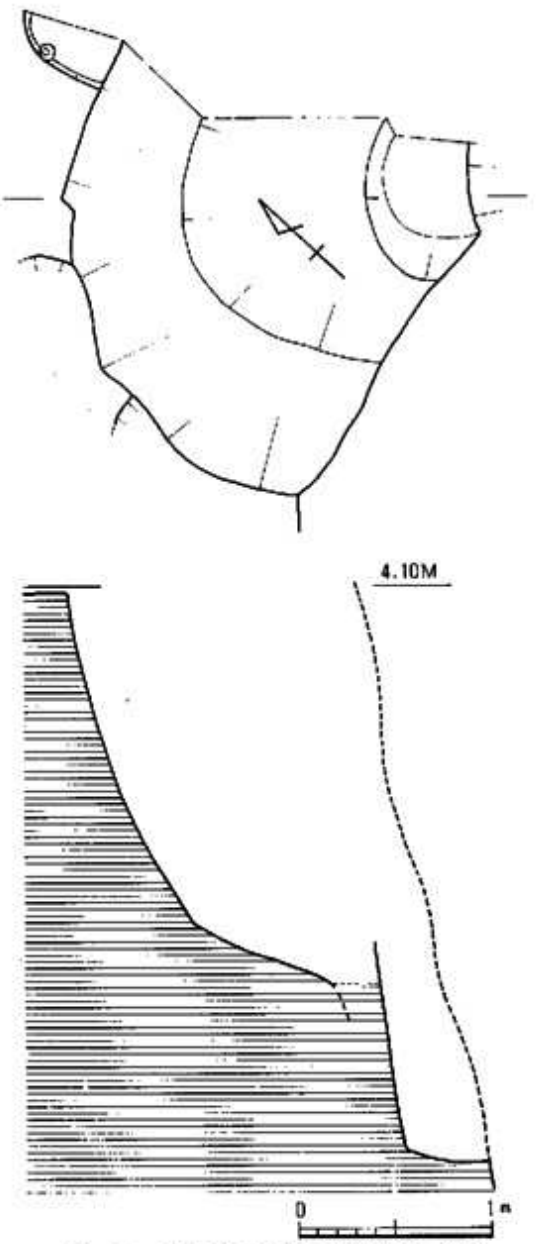


Fig.64　138号井戸実測図(縮尺：1／40)

いる。

147号井戸（Fig.67）

II区のL－03区、144号井戸の西に隣接し、北側を146号井戸に切られる井戸である。西側の一部は調査区外へ延びているが全体の概略は理解できる。径2.8mを測る円形の掘り方である。中心部に木桶を二段に組んでいる。径45cmを測る下層の木桶は直接黄白色粗砂層に据え、その上に一回り大きな桶を据えている。木質は腐蝕し、その痕跡をとどめるにすぎない。掘り方の

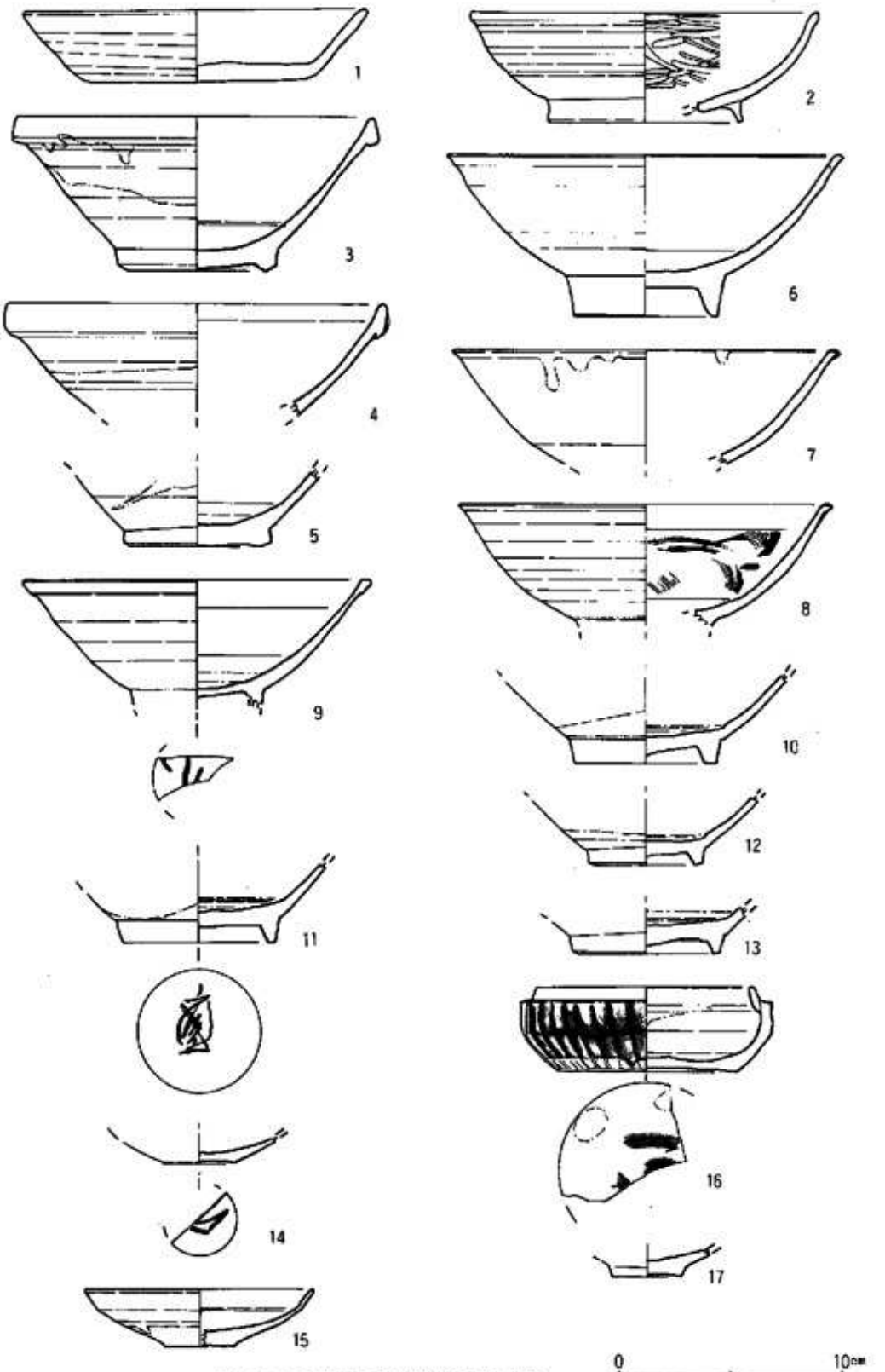


Fig.65　138号井戸出土遺物実測図(1)

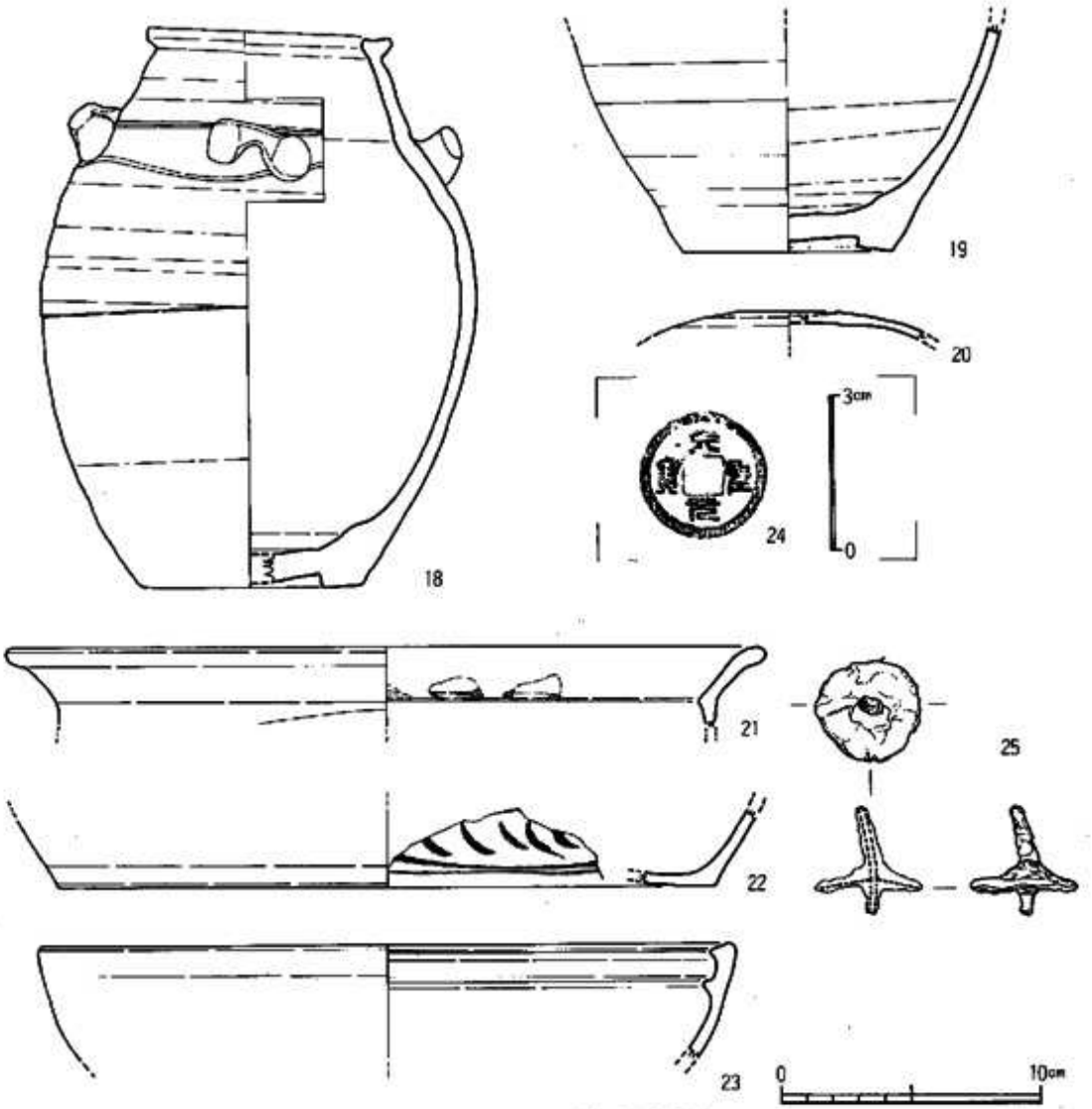


Fig.66　138号井戸出土遺物実測図(2)

覆土は黄白色、灰褐色砂層を主体に灰褐色、暗褐色土が混じり縞状堆積を示す。

出土遺物（Fig.68・69, PL.43）

1は土師器皿である。口径8.6cm、器高1.2cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕がある。2、3は土師器坏である。3は大型品で口径15.0cm、器高3.3cmを測る。底部は糸切りである。外面はすすけて黒色を呈する。4、5は瓦器で、内外面とも粗い研磨である。6、7、8は須恵器で時期的に古い遺物である。7は坏蓋で内面に「月」と墨書する。胎土は精良で黒灰色を呈し、全体に横ナデ調整をする。ほとんど扁平で蓋のかえりが痕跡をとどめている。8は高台付坏である。小さい高台で、底部から口縁部に直線的に開く。9～18は白磁である。9～12はIV類の白磁碗である。胎土は灰白色で釉は灰白色で少し緑を帯びたのもある。10は内面に釉だれが認

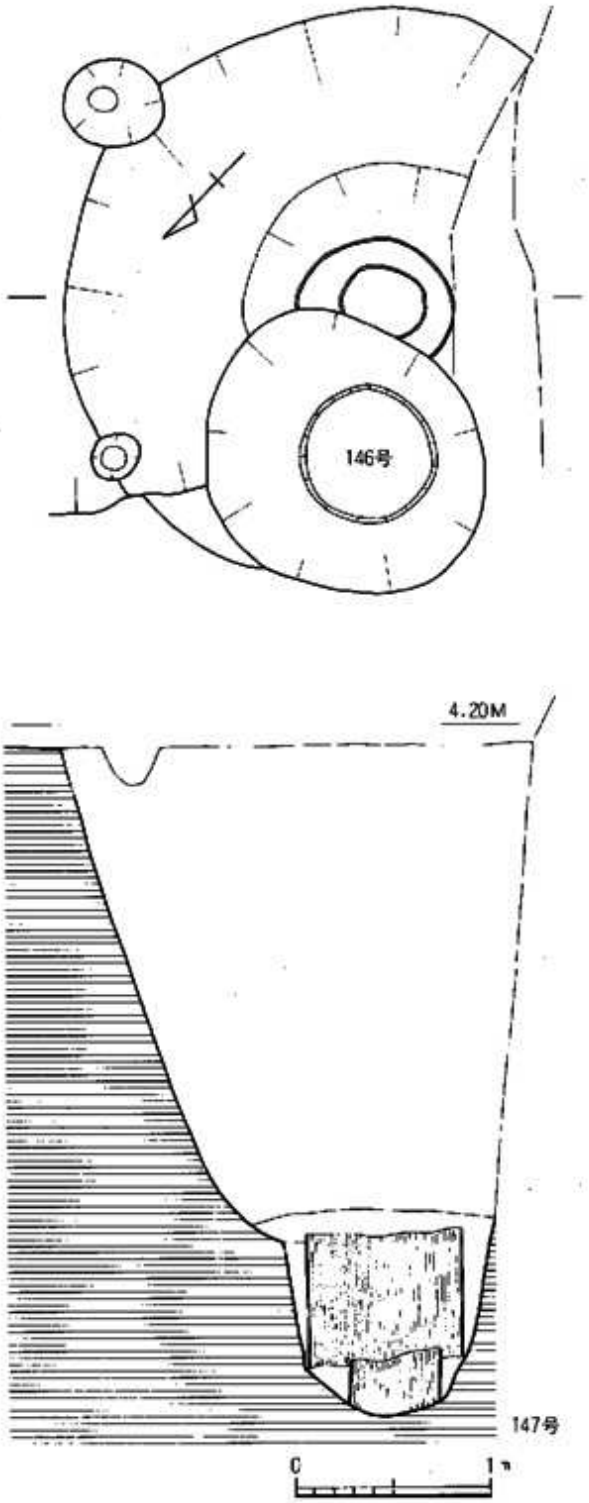


Fig.67　147号井戸実測図(縮尺：1／40)

められる。12の外面は露胎である。13は外面に櫛線をもつ白磁のV類の碗である。高い高台で、口縁部は外反する。胎土は灰白色で、透明な灰色の釉である。高台脇から底部は露胎である。14はIX類の碗である。15はII類の碗底部である。18は皿で外底部に墨痕があるが判読不能である。19は陶器A群の捏鉢である。胎土は茶色の砂粒を含む茶褐色である。口縁部は角張り、隆起帯をもつ。内面には指跡が残り、外面にはタタキを施す。20は同安窯系の青磁である。内面にヘラ描、櫛描文様、外面にヘラ描の縦線文をもつ。胎土は白灰色で緻密である。釉は灰オリーブ色である。21は龍泉窯系青磁碗である。口縁にスカラップ、内面に白堆線を入れ輪花碗とする。胎土は灰色で釉は灰色を帯びる若草色である。

148号井戸（Fig.70, PL.3）

I区とII区にわたって検出した井戸で、L－01、03区に位置する。I面で941、942号土壙と考えた遺構で、II面まで下げた結果、一基の大型土壙と考え掘り進めたが、井筒部を検出したので井戸とした。径約2.1m、深さ1.5mを測る円形の掘り方をもつ井戸である。床面近くから中央部に0.75mの井筒部を検出した。井筒の深さは約0.4m、標高2.5mで他の井戸の標高1

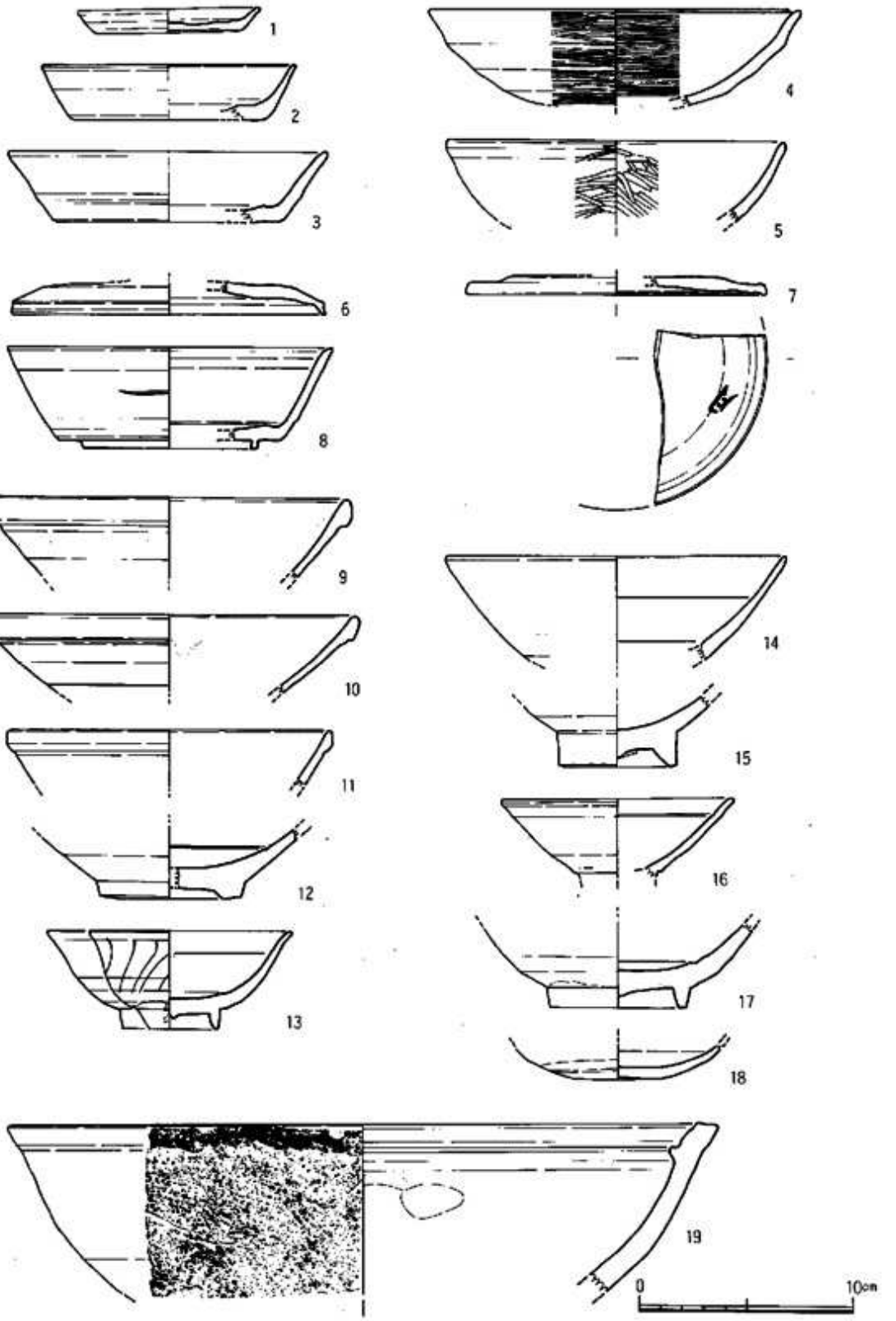


Fig.68　147号井戸出土遺物実測図(1)

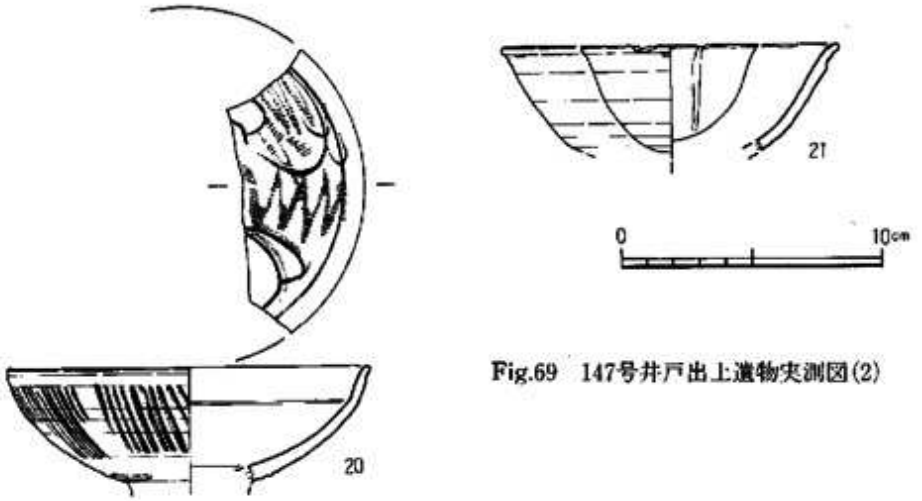


Fig.69　147号井戸出土遺物実測図(2)

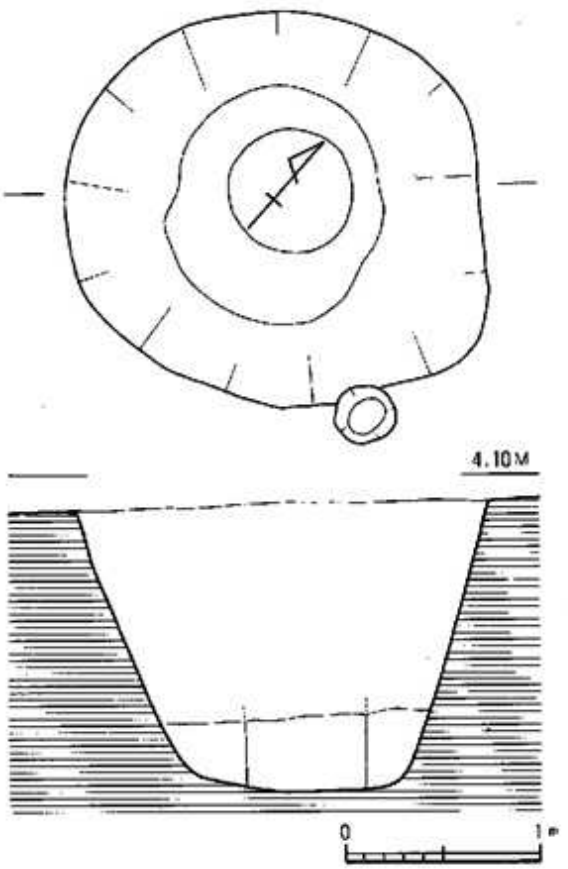


Fig.70　148号井戸実測図(縮尺：1／40)

m前後と比較し、著しく浅い位置であり、当時の水位からして、井戸としての機能に疑問がある。掘り方の覆土は暗灰色～褐色土、井筒内は暗褐色である。掘り方から鹿の骨等獣骨、有機質砂質土が多く出土した。

出土遺物(Fig.71･72, PL.43)

1、2、30は底部糸切りの土師器皿である。3は大型の皿で底部ヘラ切りである。胎土は砂粒混じりのきめ細かな肌色で内面はヘラ研磨、体部は横ナデである。4～7、33は土師器の丸底坏である。内面はヘラ研磨で、その後横ナデをする。胎土は砂粒を含まず緻密で灰色～灰肌色である。体部と底部の境に指跡が残る。8は瓦器埦である。高台は低く、底部に板状圧痕がつく。胎土に砂粒を多く含み色調は灰～暗灰褐色を呈する。内面は丁寧な研磨で外面も研磨を施す。9、10は須恵器の坏蓋である。内外面とも横ナデである。

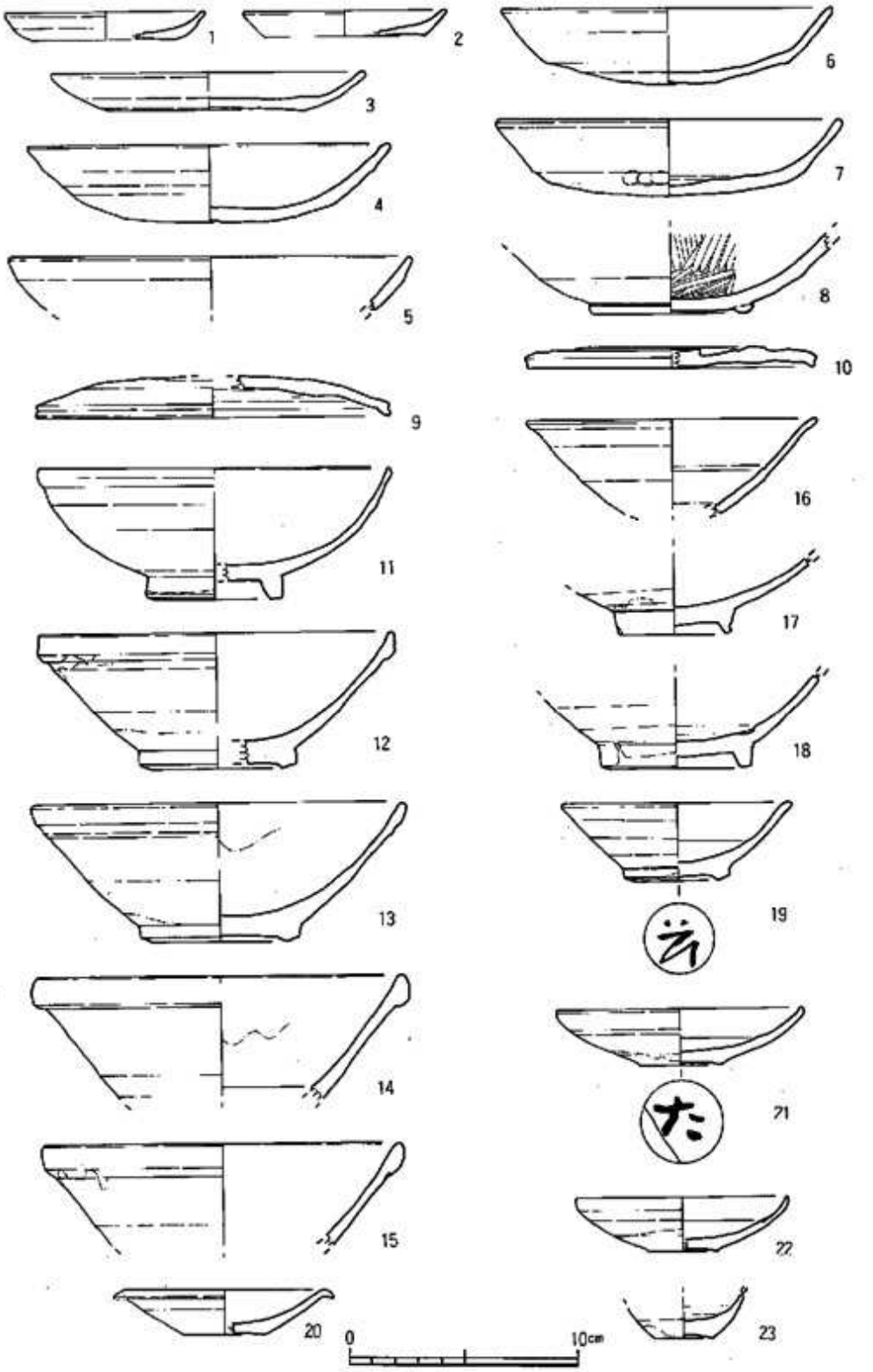


Fig.71　148号井戸出土遺物実測図(1)

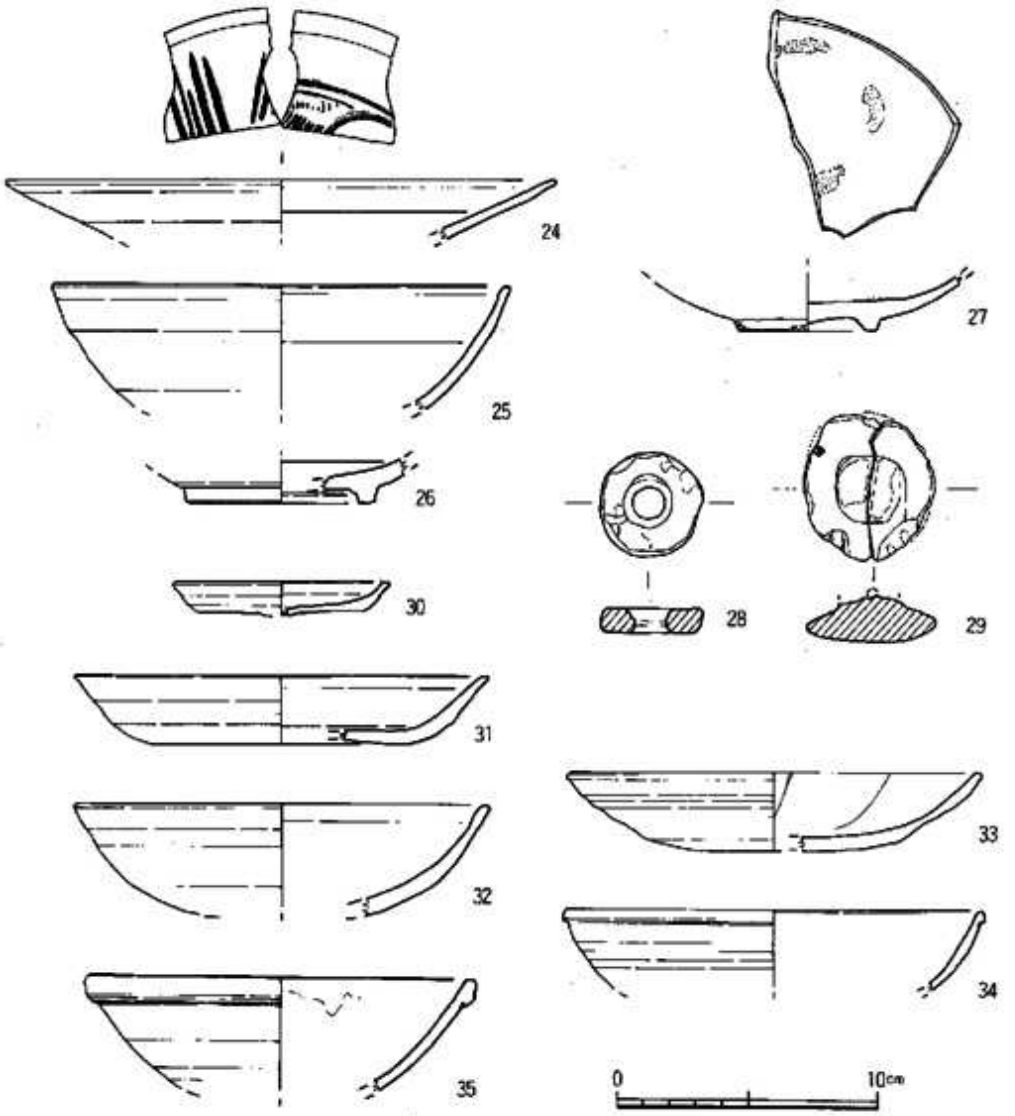


Fig.72　148号井戸出土遺物実測図(2)

胎土は白灰色できめ細かい。11～23、32～35は白磁である。11、34はII類碗で、高台は低く内側を斜めに削る。釉は灰オリーブ色で高台も施釉する。胎土は灰白色で緻密である。12～15、35はIV類の白磁碗である。胎土は白灰色で釉は緑を帯びた白灰色～乳灰色である。玉縁にも大小種々ある。口縁内外面に釉だれが認められ、外面の体部下半は露胎である。16は白磁碗で口縁部が外反する。胎土は白灰色で釉は青灰白色である。高台脇は露胎である。見込は輪状に釉を掻きとる。18はIX類の碗である。見込で輪状に釉を掻きとり、内底面は平坦面が広い。19、21は白磁で19は花押、21は「太」と墨書する。23は白磁の小壺の底部である。胎土は白灰色、釉は青灰白色で底部脇から露胎である。24は同安窯系青磁の鉢であろう。胎土は灰色できめ細

かく、釉はオリーブ色である。内面にヘラ、櫛描文様をもつ。25も同安窯系青磁碗である。胎土は灰色でオリーブ色の釉をかける。26は越州窯系青磁碗である。胎土は緻密で淡乳灰色、釉はオリーブ色である。畳付を除き施釉される。

その他の遺構の調査

1号礎石建物（Fig.73）

K－01、02に位置する2間×2間の礎石をもつ総柱建物である。礎石は1辺10～40cmを測り、角張るものから丸味を帯びるものまで種々様々であるが、上面を平坦にし、高さをほぼ同一にそろえる。礎石はすでに消失し、掘り方だけであったり、掘り方を伴わずに礎石だけのものもある。P6は0.60×0.45mの掘り方で、扁平な石を上に据えている。主軸はN－40°－Eをもち、柱間距離1.55～1.40mを測る。南側には礎石が1個しか確認できないものもあり、あるいは1間×2間の建物の可能性もある。1面で調査したSX34はこの建物の真上にあたり、この建物と円礫敷遺構に関連がある可能性がある。出土遺物は少なく糸切りの土師器片だけである。14世紀の建物か。

SX35（Fig.74, PL.9）

K－02区、1005、1006号土壙の西側に位置する土器溜である。掘り込みは認められず、0.8m

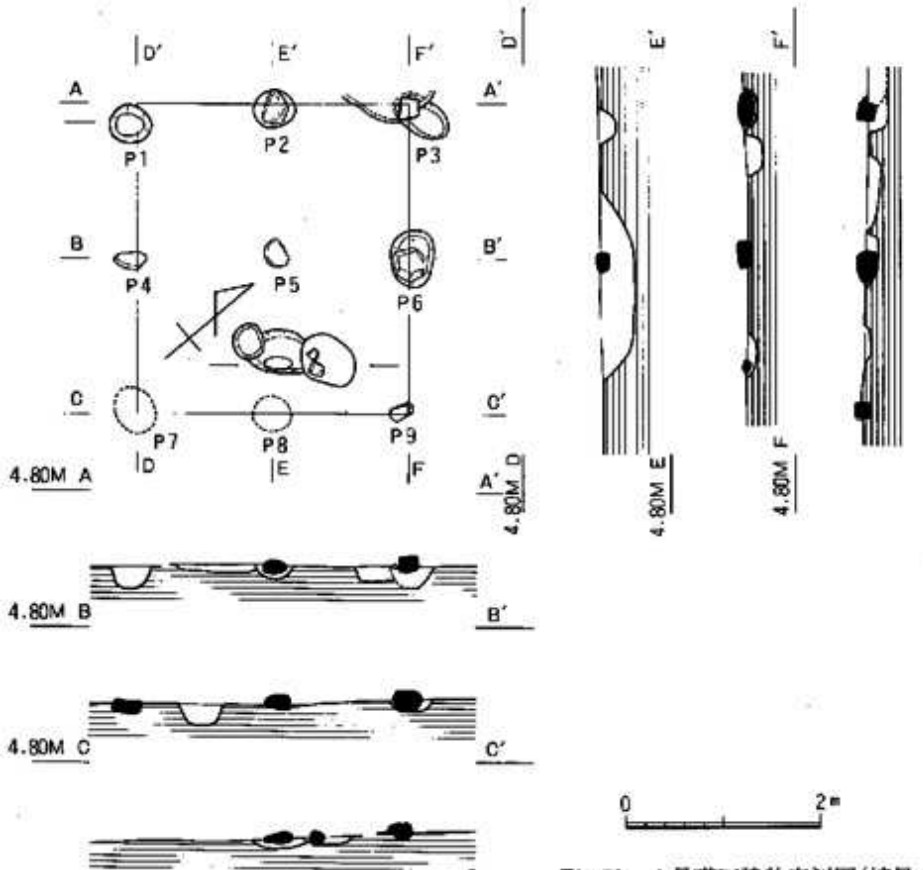


Fig.73　1号礎石建物実測図（縮尺：1／80）

四方に平面的に広がる。完形あるいはほぼ完形品が4個体あり、墨書土師器も出土している。祭祀遺構と考えられる。

出土遺物(Fig.75)　1～4は土師器の皿である。底部は糸切りで板状圧痕がある。2の口径が9.3cmと少し大きいが、他は8.3～8.9cm、器高1.2～1.3cmである。5、6、10は土師器坏である。胎土に砂粒を含み淡橙色である。底部は糸切りである。体部は横ナデ、内底はナデ調整を行なう。10は内面に墨書するが、小破片であり、内容については明らかでない。8、9はIV類の白磁碗底部である。低い高台で、見込に沈圏線をもつ。胎土は砂粒を含む黄白色で釉も黄白色を呈する。11は青白磁碗である。外面は高台まで青白色の薄い釉である。内面には櫛描文様をもつ。12はB群陶器皿である。口縁部を少し欠損するが略完形品である。胎土は茶褐色～暗茶褐色で釉は暗茶褐色で部分的に灰色を呈する。外底と見込に砂目跡が残る。7は円筒形の土師質土錘で中央に孔をもつ。

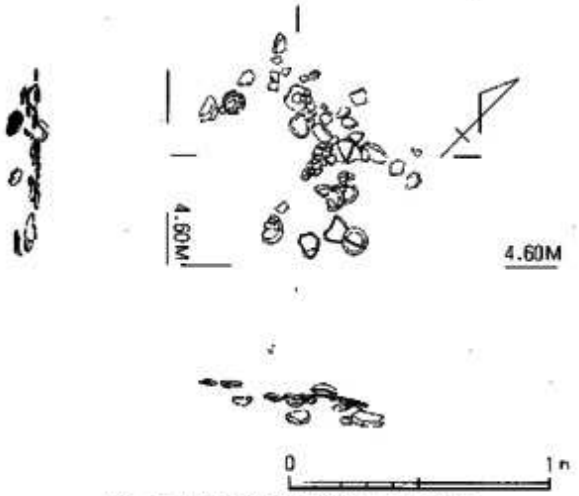


Fig.74　SX35実測図(縮尺：1／30)

5．III．IV面の調査

III、IV面ではII面までと異なり、土壙墓及び大型土壙が多くなる。特にII区の中央部では遺構がない所がないくらいの密集である。中でも1069、1072号土壙は多量の輸

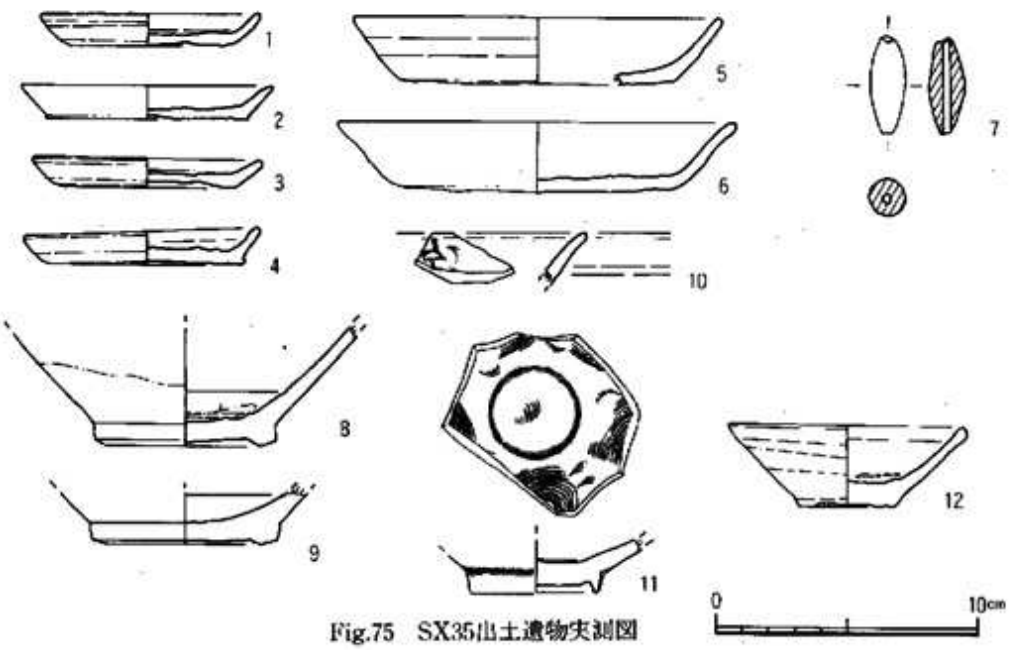


Fig.75　SX35出土遺物実測図

Fig.76 Ⅲ・Ⅳ面遺構全体図(縮尺：1／100)(折込み)

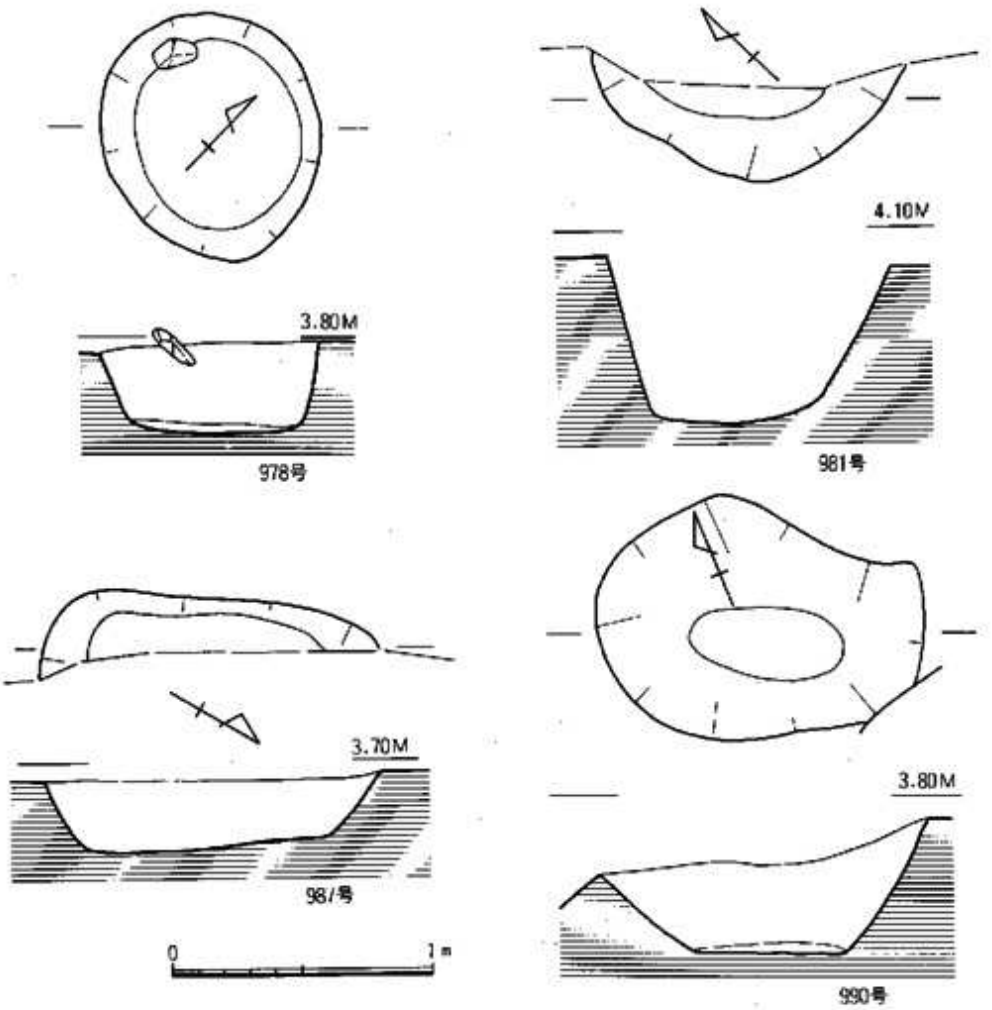


Fig.77　978・981・987・990号土壙実測図(縮尺：1／30)

入陶磁器を出土する土壙である。またII面とIII面の間から瓦敷遺構SX37を検出し、道路と考えられる。978～1010、1027～1056号土壙がIII面、1016、1017、1058～1087号土壙がIV面で確認した遺構である。

土壙の調査

978号土壙（Fig.77）

L－02区の東側壁寄りに位置する楕円形の土壙である。規模は0.85m、深さ約0.3cmである。覆土は暗褐色で出土遺物は少ない。

出土遺物（Fig.78－1～8，PL.28）

1は土師器の皿である。底部には粘土巻き上げの跡が明瞭に残る。また底部に板状圧痕がある。口径11.5cm、器高1.4cmを測る。2は土師器坏である。底部は糸切りで体部は横ナデである。3、4はIV類の白磁碗である。3は口縁部の折り曲げが明瞭に残る。淡青灰白色の透明釉

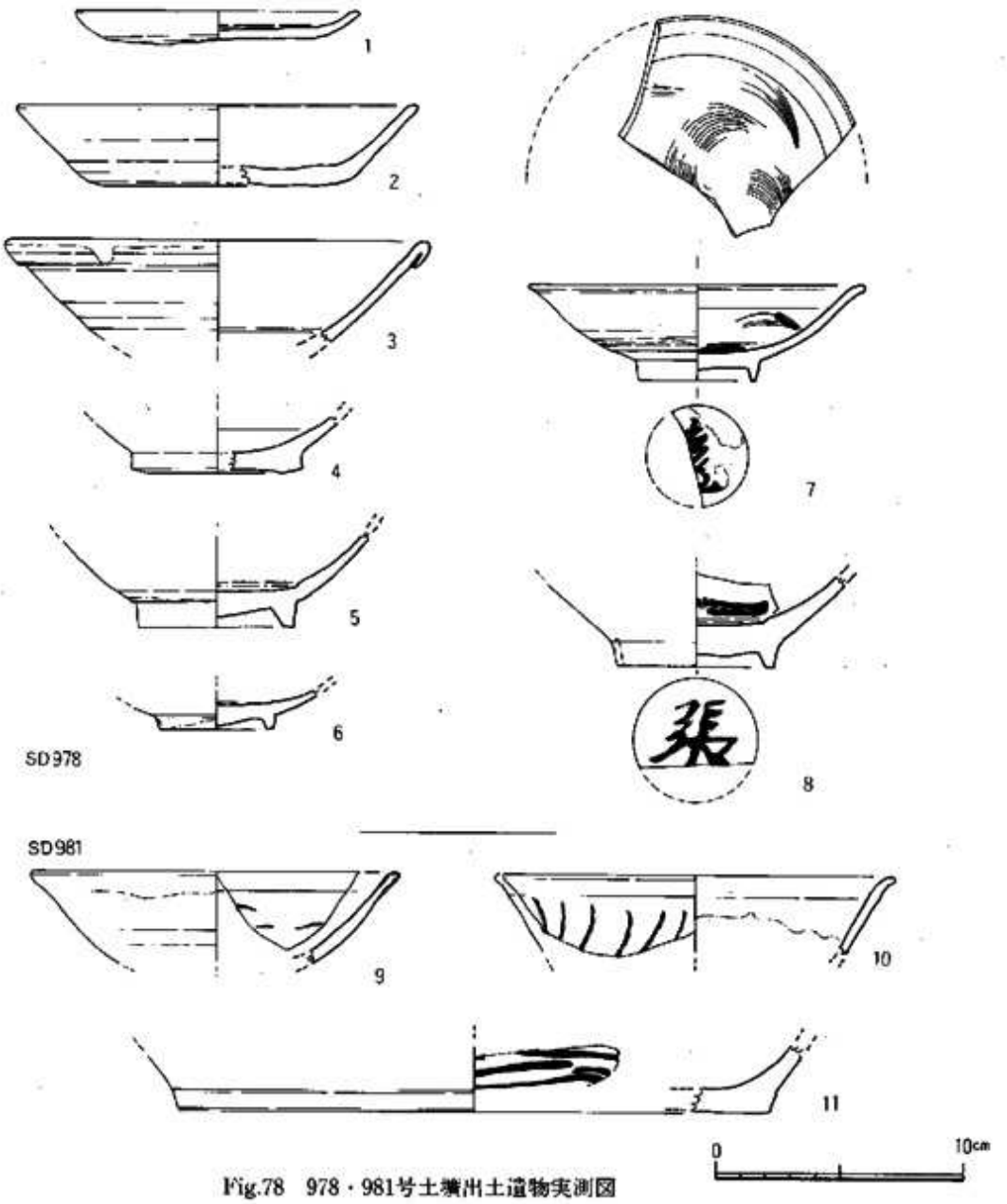


Fig.78　978・981号土壙出土遺物実測図

で胎土は砂粒を含み灰白色を呈する。5はIX類白磁碗で見込を輪状に掻きとり、畳付に重ね焼きの目跡が明瞭に残る。6は高台付皿である。見込を輪状に掻きとり、外底部に墨痕がある。胎土は灰白色、釉は淡暗緑灰色である。7、8は墨書をもつ白磁である。7は見込に櫛描文様をもつ浅碗で、外底に花押の墨書がある。8は「張」と中国人名を外底全体に大きく書く。

981号土壙（Fig.77）

L－02区、978号土壙の東に位置する。大部分は調査区外へ拡がり現状で三日月形を示す。円

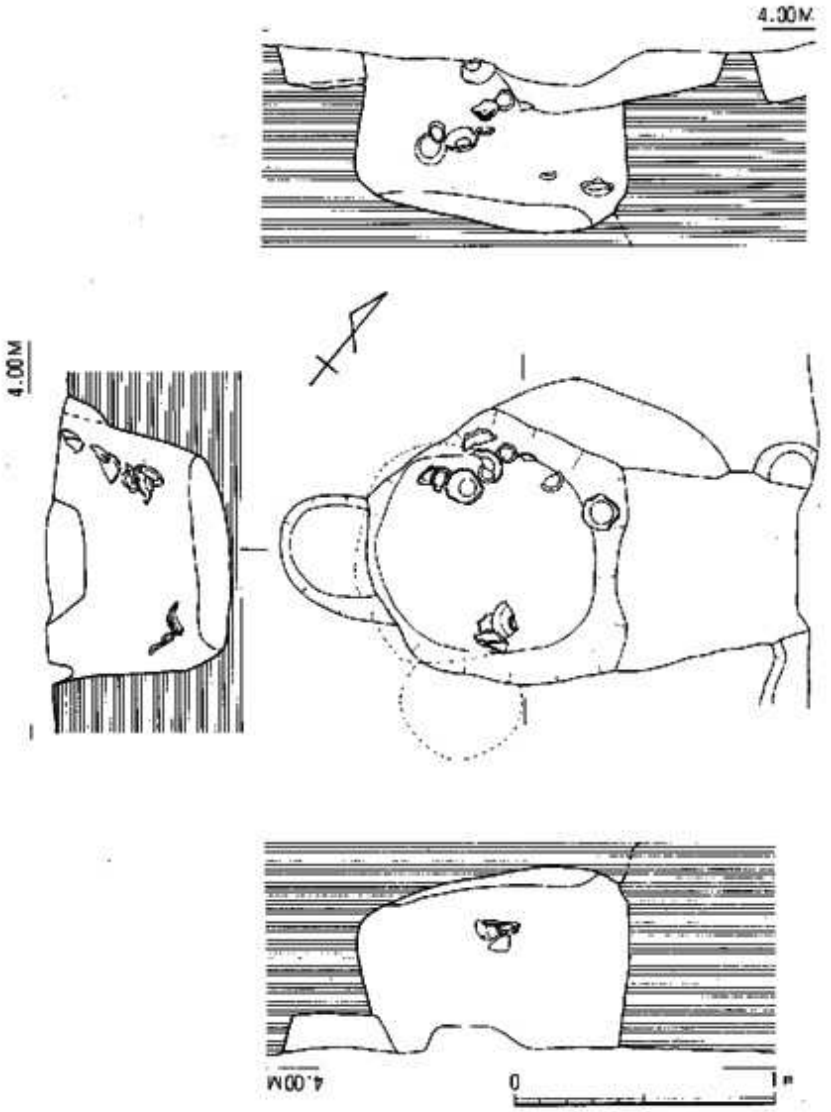


Fig.79　983号土壙実測図(縮尺：1／30)

～楕円形の土壙であろう。遺物は少ない。規模は径1.3m、深さ0.6mを測る。

出土遺物（Fig.78－9～11）

9、10はV類の白磁碗である。9の胎土は灰白色を呈し、淡明灰色の半透明釉が厚くかかる。口縁部は上面を面取りし、口縁下に稜をもつ。10は灰白色の透明の釉で外面に縦線をもつ。11は陶器A群の盤で内面に鉄彩をもつ。胎土は明灰色で砂粒を多く含む。

983号土壙（Fig.79，PL.10）

L－02区、II区の北西端に位置する土壙墓である。東壁は攪乱土壙に切られているが遺構の全容を知るには差支えない。東西0.97m（＋α）、南北0.95mを測る楕円形の土壙である。床面は東西0.83m、南北0.77mの楕円形である。西壁は内弯しているが、南北壁は垂直に近くなる。

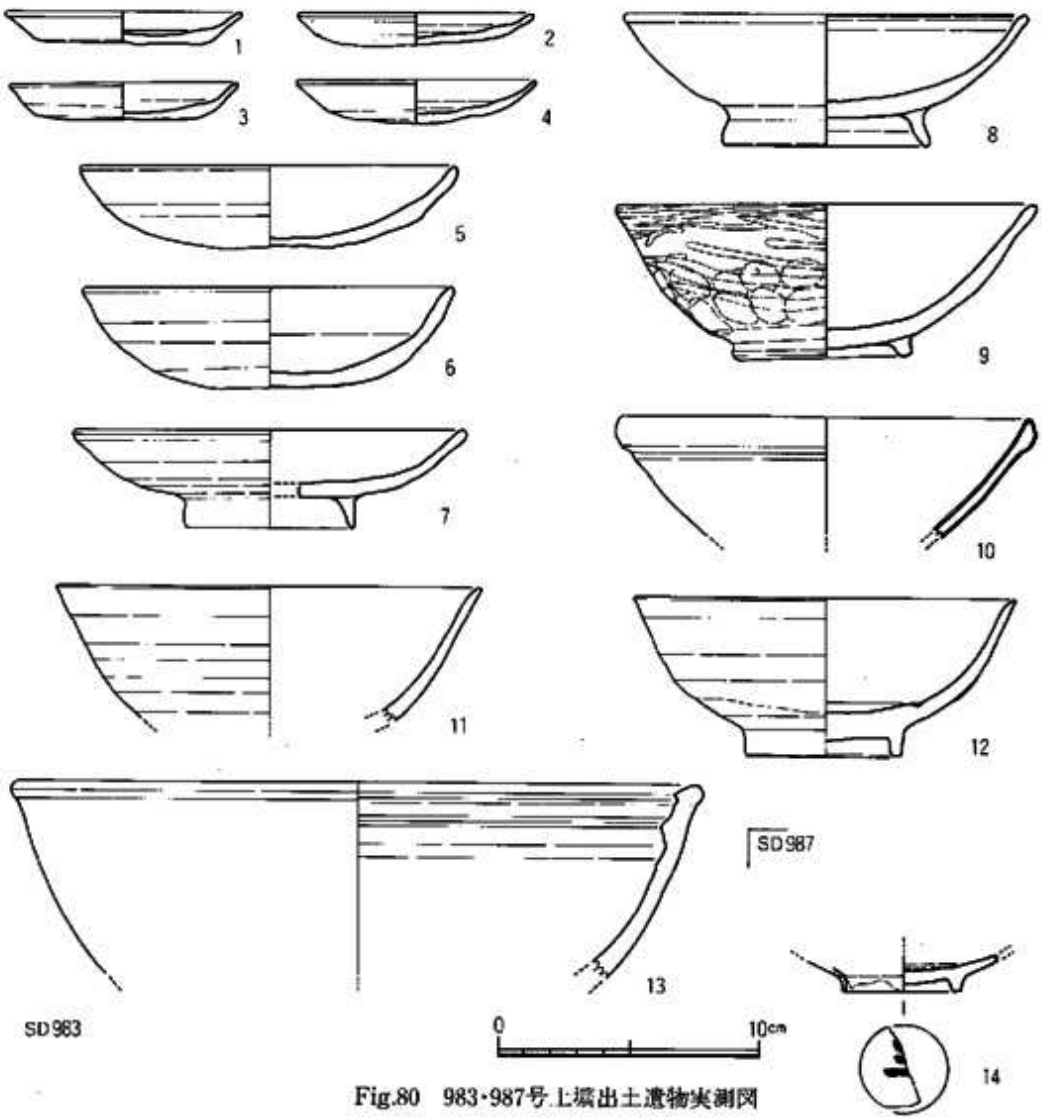


Fig.80　983・987号土壙出土遺物実測図

床面は東側が低く、全体に丸味を帯びている。遺物は土師器が南、北の壁面に沿って出土した。遺物は床面から0.2～0.3m以上の位置で出土しているが、副葬していたものが転落したのであろう。11世紀中頃である。

出土遺物（Fig.80－1～13, PL. 28）

1～4は土師器皿である。底部はヘラ切りで4を除き板状圧痕がつく。4は丸底である。口径は8.8～9.3cm、器高1.2～1.4cmを測る。内外面とも横ナデで、内底はナデである。色調は暗褐色で胎土は精良である。5、6は土師器の坏で底部はヘラ切り、5は板状圧痕が残る。内外面横ナデでその後研磨状のナデを行なう。口径14.3～14.5cm、器高3.9～4.5cmを測る。7は高台付土師器皿である。貼付高台は高くほぼ垂直で内弯する坏部となる。内外面とも横ナデで

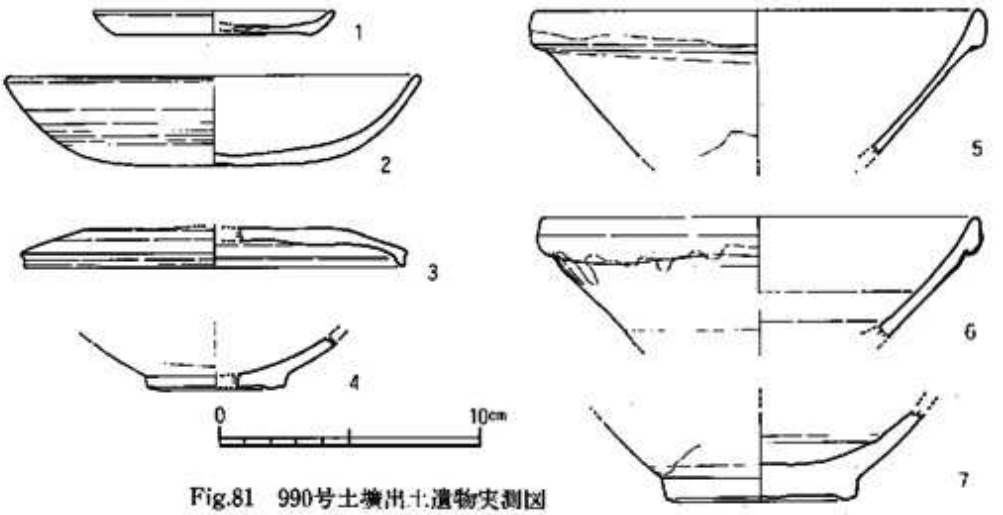


Fig.81　990号土壙出土遺物実測図

内面をヘラで研磨する。内底から口縁部にかけて所々煤が付着する。8は内黒土器である。高台は高く外に強く開く。内外面とも横ナデで内面に吸炭させている。胎土は小砂粒まじりで淡褐色を呈する。9は土師器塊である。形態、技法ともに瓦器であるが炭素の吸着がなく、土師質の塊である。口縁部は横ナデ、外面下半は指跡の上をヘラ研磨である。内面もヘラ研磨である。南壁側より出土。10はIV類の白磁碗である。乳白色の厚い釉を施す。11、12はV類の白磁碗である。口縁部は外反し、見込に沈圏線をもつ。体外半釉である。胎土は白灰色で釉は乳白色である。13は陶器C群の捏鉢である。無釉で胎土に砂粒を含み茶褐色を呈する。内側の三角突帯は低い。

987号土壙（Fig.77）

M－01区、I区の中央西壁に位置する土壙である。大部分は調査区外へ拡がり不明な点が多い。現存長1.35m、幅0.25m、深さ約0.3mを測る。覆土は暗灰色砂層混じりの暗褐色土である。遺物は極めて少ない。

出土遺物（Fig.80－14）

高台付白磁皿である。青味を帯びた明灰色の透明釉で、高台外面まで施釉する。見込で輪状に釉を掻きとり、外底部に「三」と墨書する。

990号土壙（Fig.77）

M－02区、SX33の南辺の下で検出した土壙である。楕円形を呈する平面形で断面は皿状である。長径1.3m、短径0.95m、深さ0.5mを測る。覆土は木炭の小片を含む暗褐～黒褐色で少し粘質を帯びる。11世紀後半の土壙である。

出土遺物（Fig.81）

1は底部糸切りの土師器皿である。口径9.4cm、器高0.95cmである。2は丸底の土師器坏であ

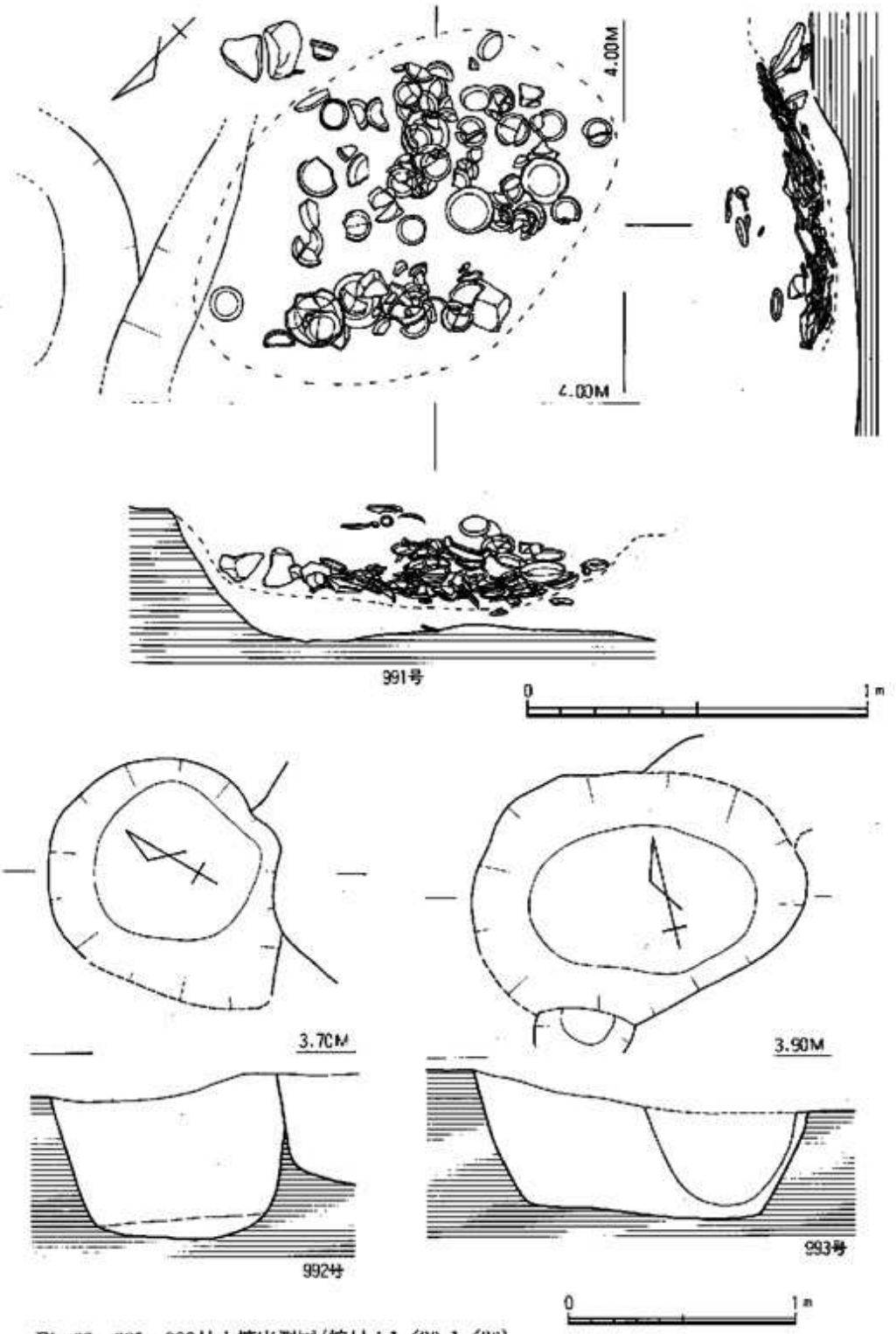


Fig.82　991～993号土壙実測図(縮尺：1／20・1／30)

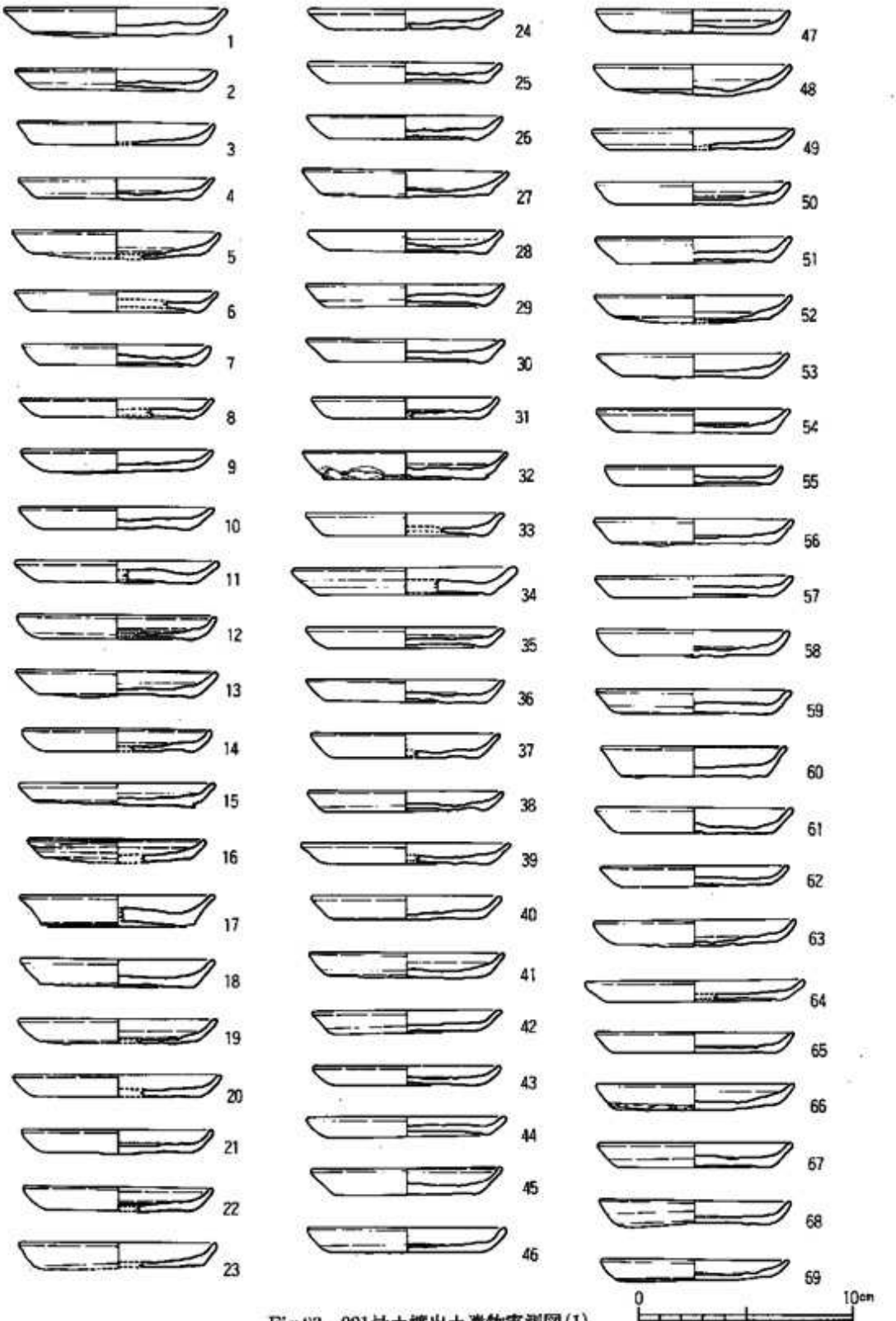


Fig.83　991号土壙出土遺物実測図(1)

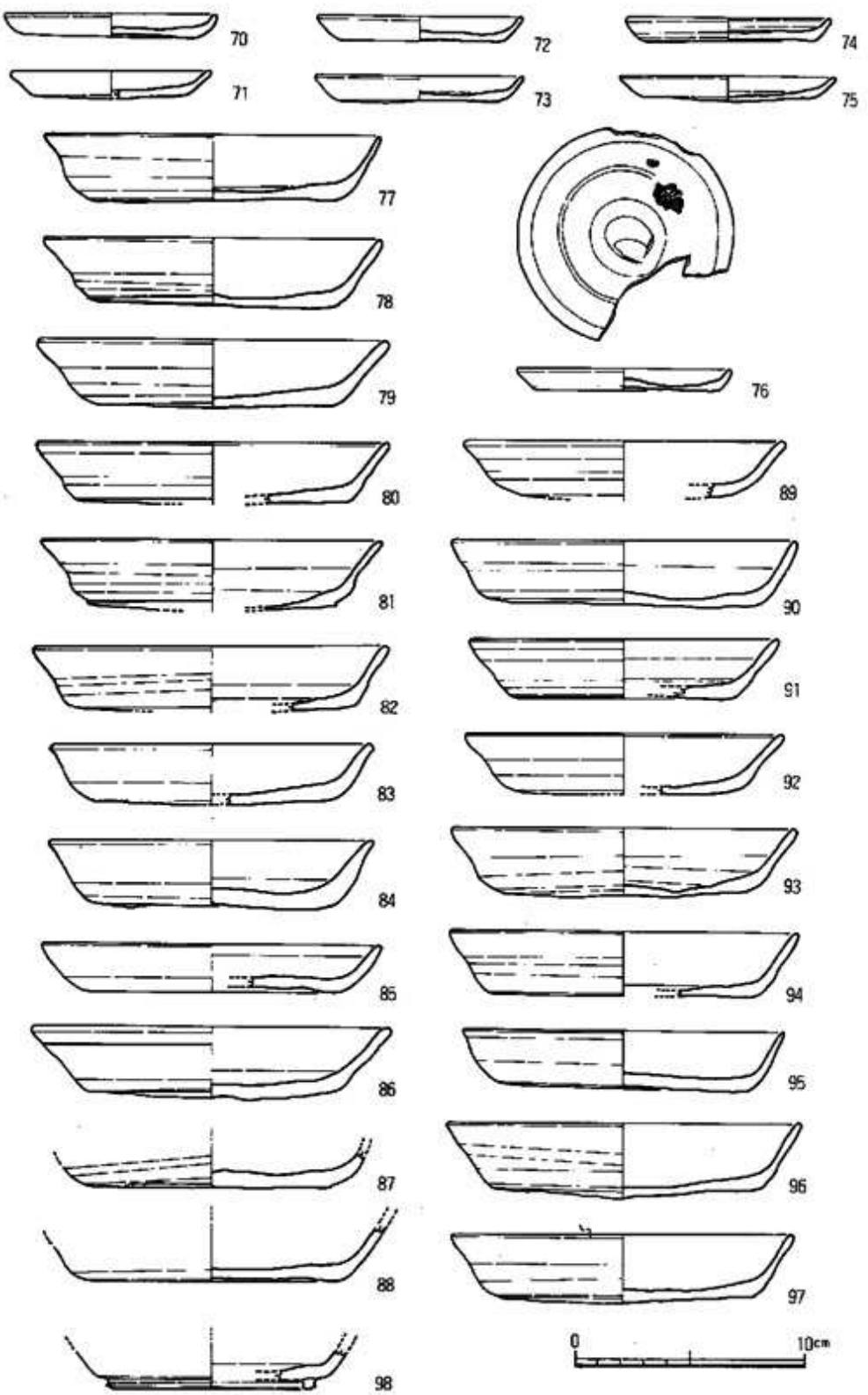


Fig.84　991号土壙出土遺物実測図(2)

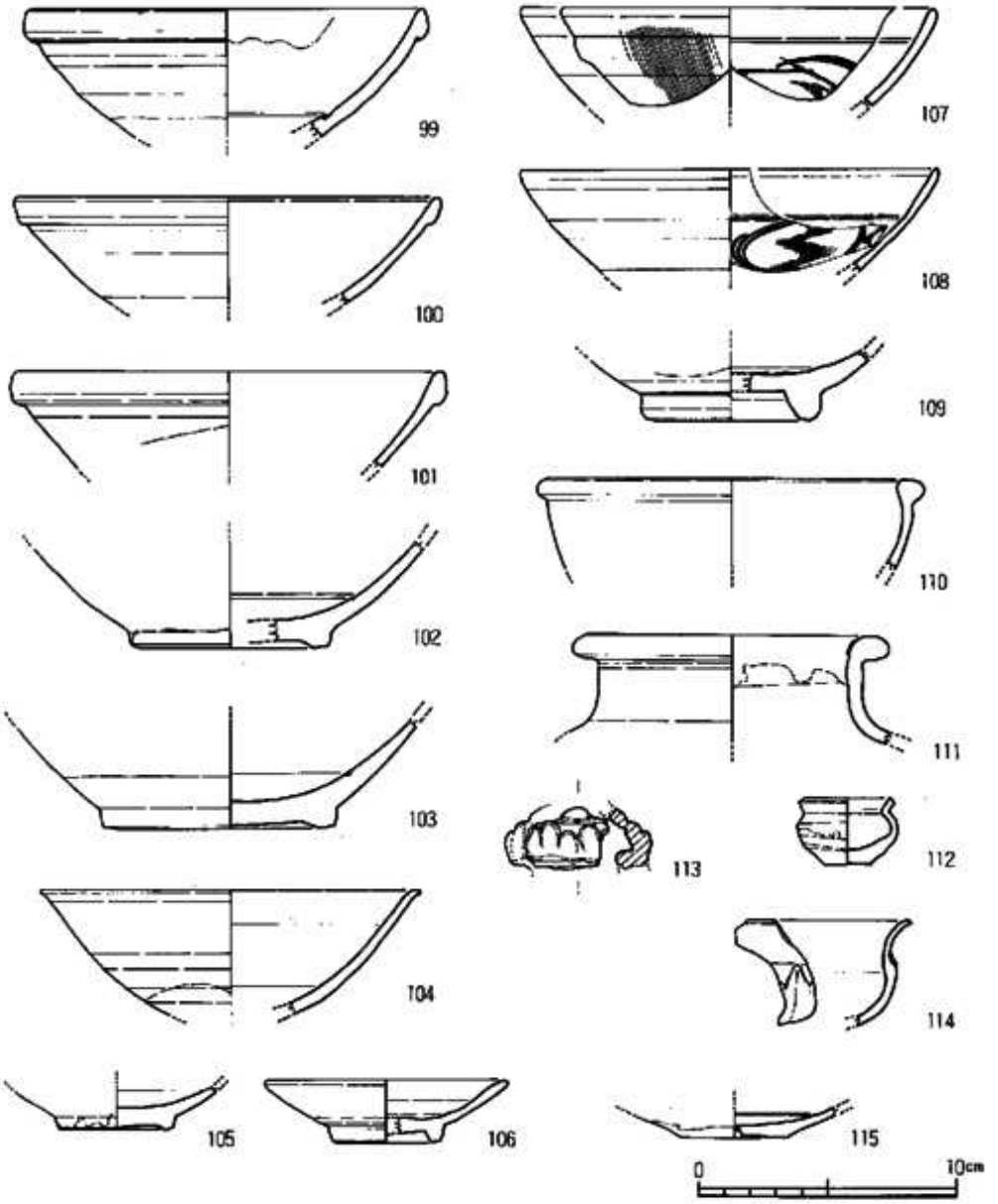


Fig.85　991号土壙出土遺物実測図(3)

る。口径16.1cm、器高3.5cmを測る。底部は糸切りの上をナデ、体部は横ナデである。胎土は砂粒を含むが精良で淡茶褐色を呈する。3は須恵器の蓋である。扁平で端部が垂直に屈曲する。4は白磁の小碗である。胎土は灰白色で淡灰白色の釉は体外半釉である。5～7は白磁IV類の碗である。胎土は細砂粒を含む乳白～灰白色で灰白色ないし黄白灰色の釉は体外半釉である。見込には沈圏線をもつ。

991号土壙（Fig.82, PL.11）

M－02区、990号土壙の南側に位置する土師器の土器溜である。土壙は確認できなかったが、

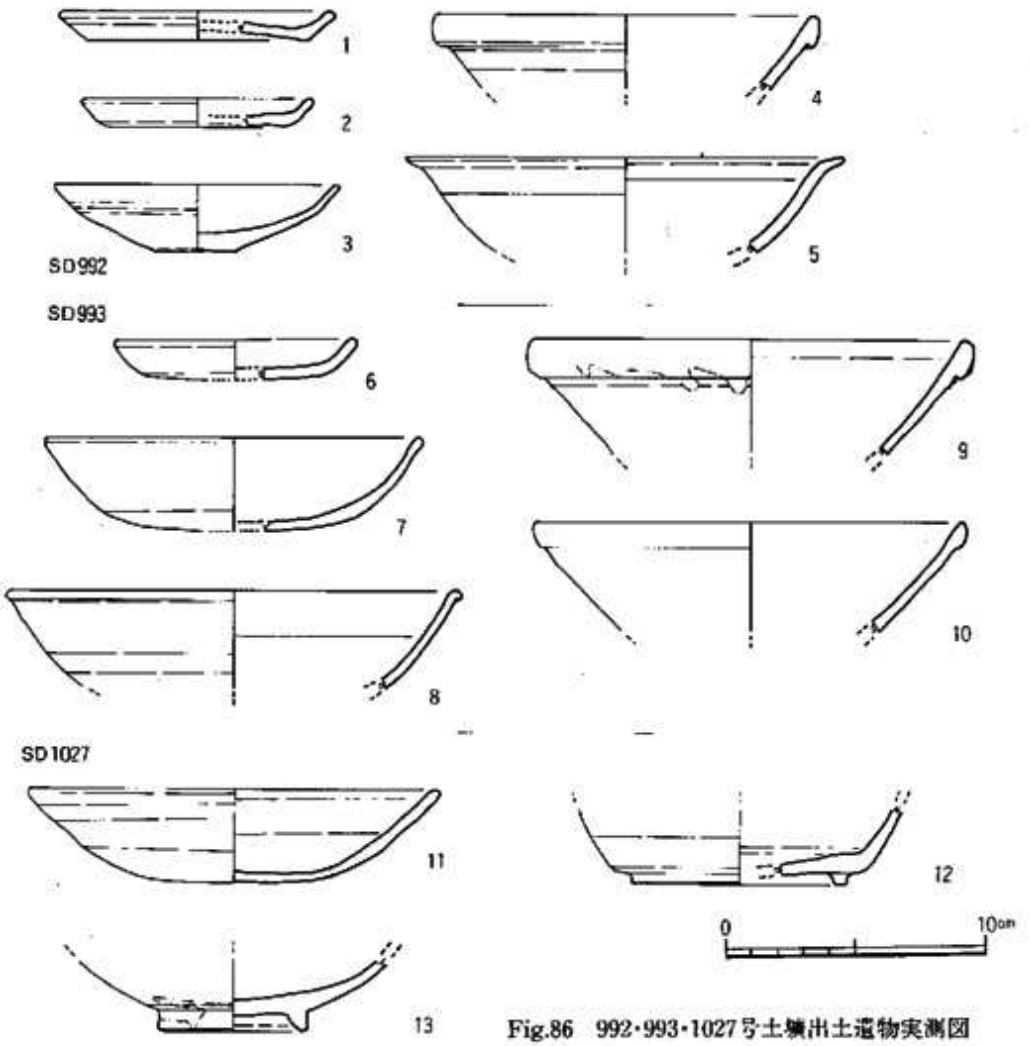


Fig.86　992・993・1027号土壙出土遺物実測図

土器の下面に沿う浅い皿状土壙であろう。あるいはIV面で確認した1016号土壙がその掘り込みになる可能性があるが、判然としない。ほぼ完形品の土師器の皿、坏をほとんどが底を下にして幾重にも重ねて置いている。その広がりは0.8×1.1mの楕円形を示し、周縁が高く、中央部が窪む。主体は土師器であるが白磁や陶器片も少量含んでいる。

出土遺物（Fig.83～85, PL.29）

1～76は土師器の皿である。底部は糸切りで板状圧痕がある。口径により2種に分けられる。2～4のように口径8.8～9.4cm、器高1.1cmを測るものと、5、6のように口径9.5～10.4cmを測る大型品とがある。16だけは口径8.4cm、器高1.1cmと一回り小さい。口縁部は横ナデ、内底はナデ調整である。48は丸底気味の底部である。76の内底にはシダ様植物の押圧文がある。77～97は土師器の坏である。口径14.0～15.6cm、器高2.6～3.1cmを測る。底部は糸切りで、板状圧痕

がある。体部は横ナデで内底はナデである。112は備前焼の小壺であろう。胎土は赤褐色で釉は茶褐色である。底部はヘラ切りである。99～103はIV類の白磁碗である。口縁は小さな玉縁で低い高台をもち、見込には沈圏線をもつ。胎土は砂粒を含む灰白色で釉はくすんだ淡暗緑灰白色を呈し体外半釉である。

992号土壙（Fig.82）

M－02区、I区の東南隅に位置する土壙である。略円形で規模は1.0×1.2m、深さ0.6mを測る。西側はII面の遺構に切られ、南側は994号土壙に切られる。覆土は暗褐色土で木炭、灰を含んだ縞状堆積をなしている。

出土遺物（Fig.86－1～5）

1、2は土師器の底部糸切り皿である。体部は横ナデ、内底はナデである。口径は9.0～10.6cm、器高1.1cmである。3は白磁の皿である。見込に緩やかな段をもつ。胎土は淡乳白色で淡黄乳白色の半透明釉で体外半釉である。4はIV類白磁碗である。5はV類の白磁碗で口縁部が外反する。胎土は砂粒を含みやや粗く灰白色を呈し、淡暗緑灰色の透明釉である。

993号土壙（Fig.82）

M－01区、I区の南西端に位置する土壙である。長楕円形で規模1.45×1.1mを測る。東側はII面の遺構に切られ、西側もピットと重複する。覆土は暗褐色土で遺物の出土は少ない。

出土遺物（Fig.86－6～10）

6は底部糸切りの土師器皿である。復元口径9.4cm、器高1.5cmを測る。胎土には細砂を含み淡茶白色である。7は丸底気味の土師器坏である。底部糸切りで、板状圧痕があり体部は横ナデ、内面はナデである。8は白磁碗で胎土は灰白色、釉は淡暗黄緑灰白色を呈する。9、10はIV類の白磁碗である。9は外面に釉だれが認められる。焼成温度が低く、胎土は淡赤乳灰白色で釉は淡黄灰白色である。

1027号土壙（Fig.87）

L－04区、II区の南東端144号井戸の南に位置する。西側を1026号土壙と重複し、東側は攪乱土壙に切られる。平面は長方形を呈する土壙である。規模は0.9×0.75m、深さ0.3mの浅い皿状の遺構である。覆土は黒褐色土の軟質なものである。出土遺物は少ない。

出土遺物（Fig.86－11～13）

11は底部ヘラ切りの土師器坏である。体部は横ナデ、内底はナデである。胎土は砂粒を多く含み、色調は淡黄白色である。12は須恵器の高台付塊である。胎土に砂粒を多く含む。色調は明灰色を呈し焼成は良好である。13はII類の白磁碗である。胎土には砂粒を含み、淡い黄緑灰色釉が高台部までかかる。

1028号土壙（Fig.87）

L－04区、144号井戸に切られ、その東側に位置する土壙である。平面形は、略円形で規模は

0.95×0.9m、深さ1.0mを測る。壁面はほぼ垂直で円筒形を呈する。床面は丸くなる。覆土は灰褐色土層、黄白色砂層の縞状堆積で自然堆積であろう。遺物は灰褐色土層に多く含まれており、廃棄用土壙と考えられる。

出土遺物（Fig.88・89）

1、2は土師器坏である。1は口径12.0cmを測る小振りの坏で体部は横ナデである。2は口径が大きく15.0cm、器高3.2cmを測る。丸い底部から内弯して立ち上がり端部は外反する。内外面は横ナデで底部はヘラ切りと思われる。胎土は精良で外面は煤が付着し色調は黒灰色を呈する。3は須恵質の短頸壺である。24は土師質の土錘である。中心部に円孔をもつ。胎土には砂粒を多く含み、気泡が入り、瓦質に近い。3の口縁部は横ナデで肩部にはタタキが残る。色調は暗灰色である。4は3の底部と考えられる須恵質土器である。内面にはロクロ目が残り底部との接合部は指で押さえている。底部には煤が付着し黒褐色を呈する。5～23、25～27は白磁の碗、皿、壺類である。5～10は碗の口縁部片で、口縁部が玉縁のものや体部から内弯しているもの、外反するものがある。11～18は碗の高台部片である。各種の底部がある。19は平皿で、口縁部が平坦になり、底部は露胎である。21は壺の頸部である。胎土は灰白色で青味を帯びた灰白色の釉をかける。全面に氷裂が認められる。22はII類の碗である。23は小型の皿で口縁部が外反する。胎土は灰白色で釉は光沢のある灰白色である。25、26は高台付皿で見込にヘラ描

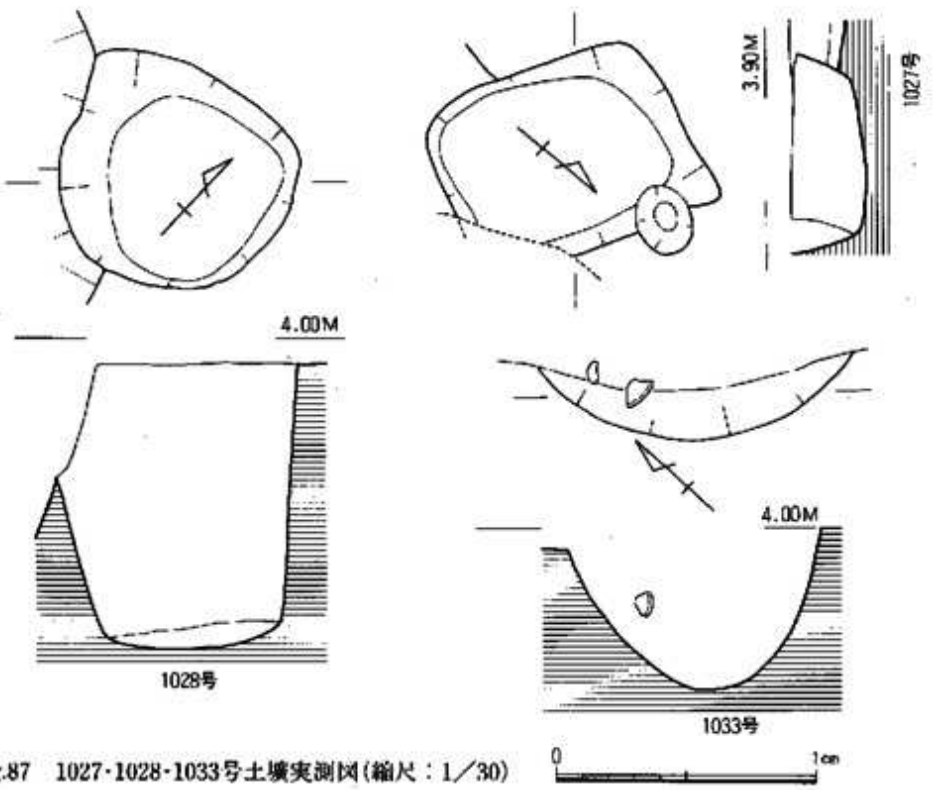


Fig.87　1027・1028・1033号土壙実測図（縮尺：1／30）

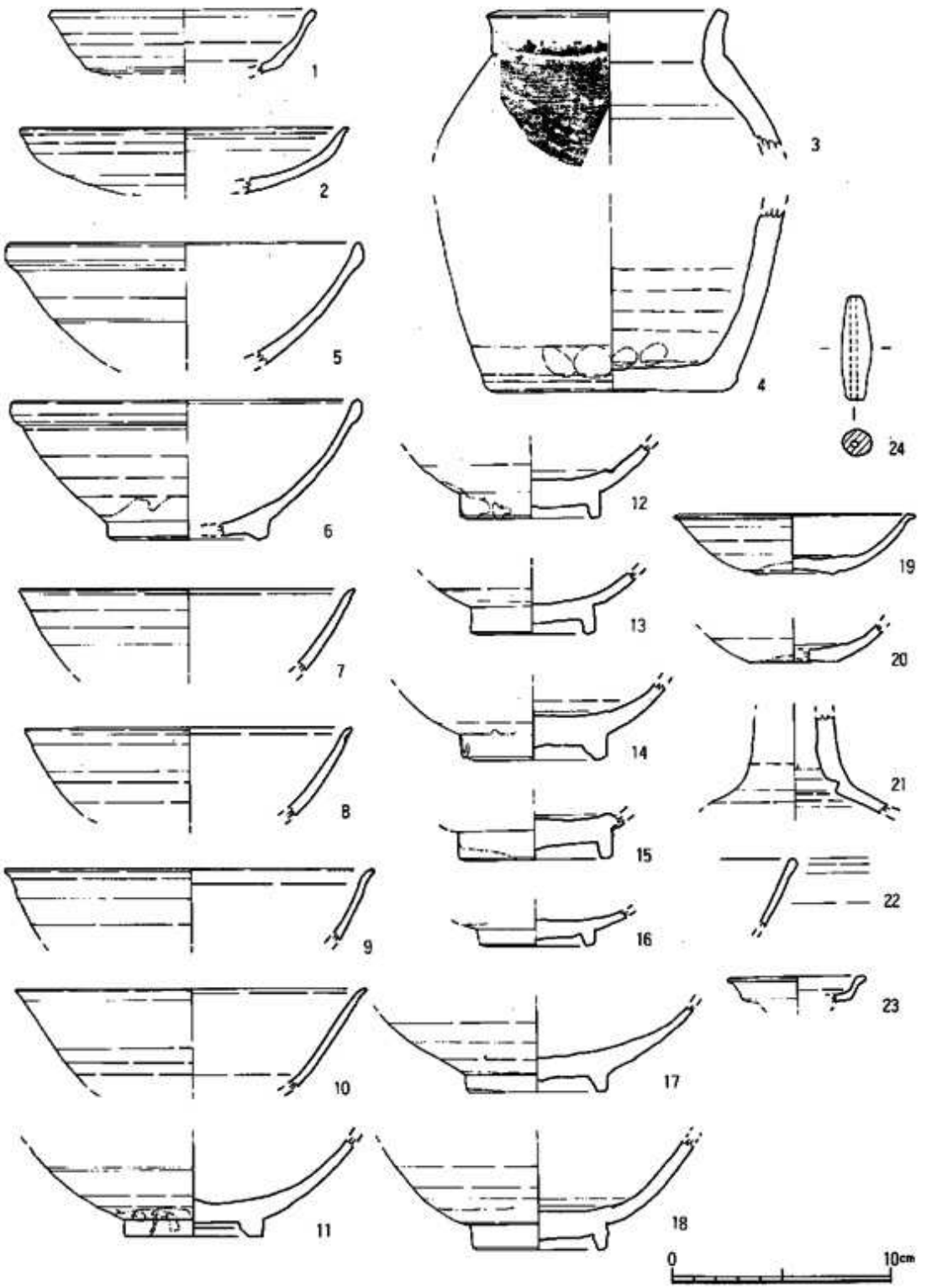


Fig.88　1028号土壙出土遺物実測図(1)

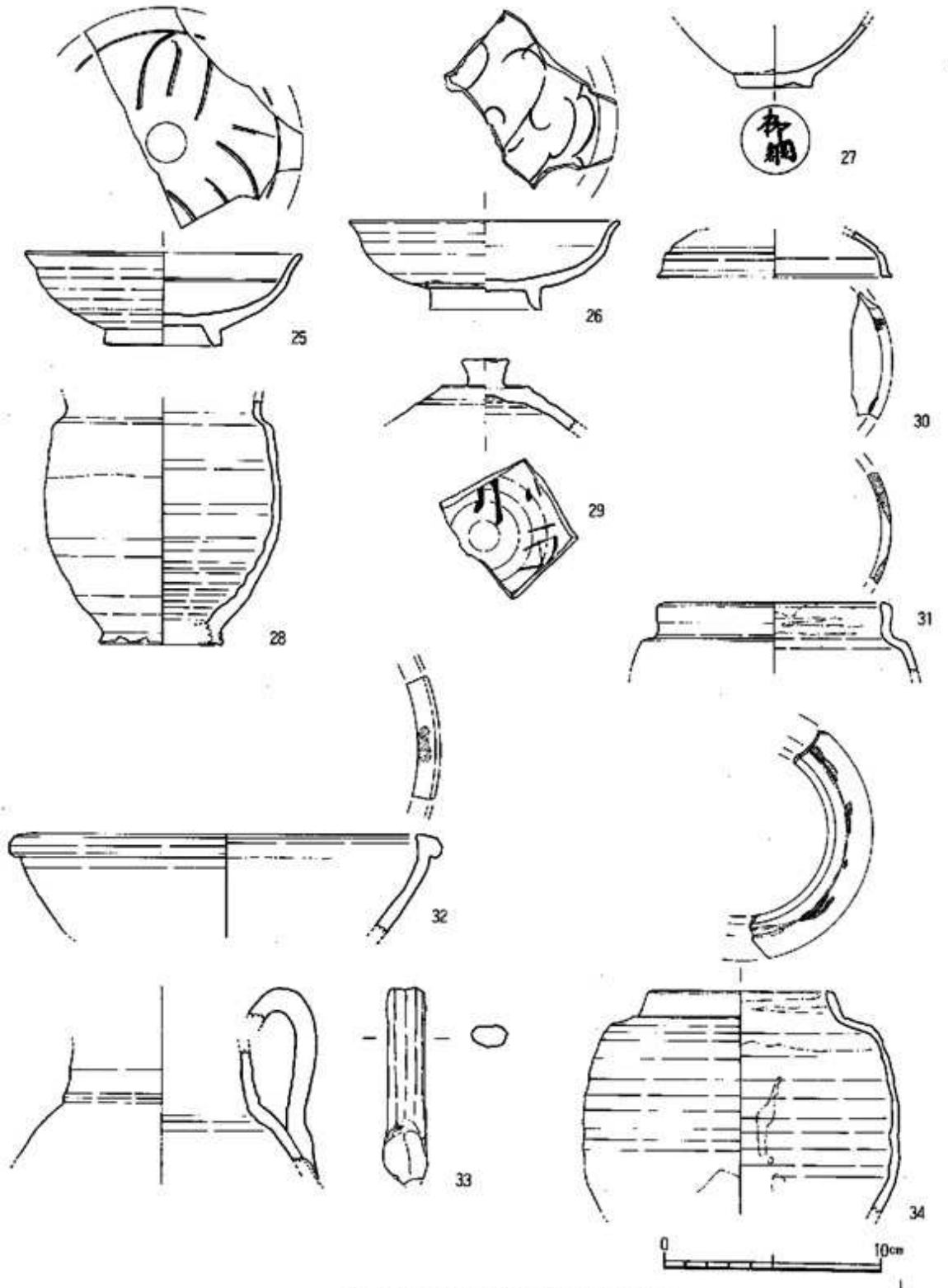


Fig.89　1028号土壙出土遺物実測図(2)

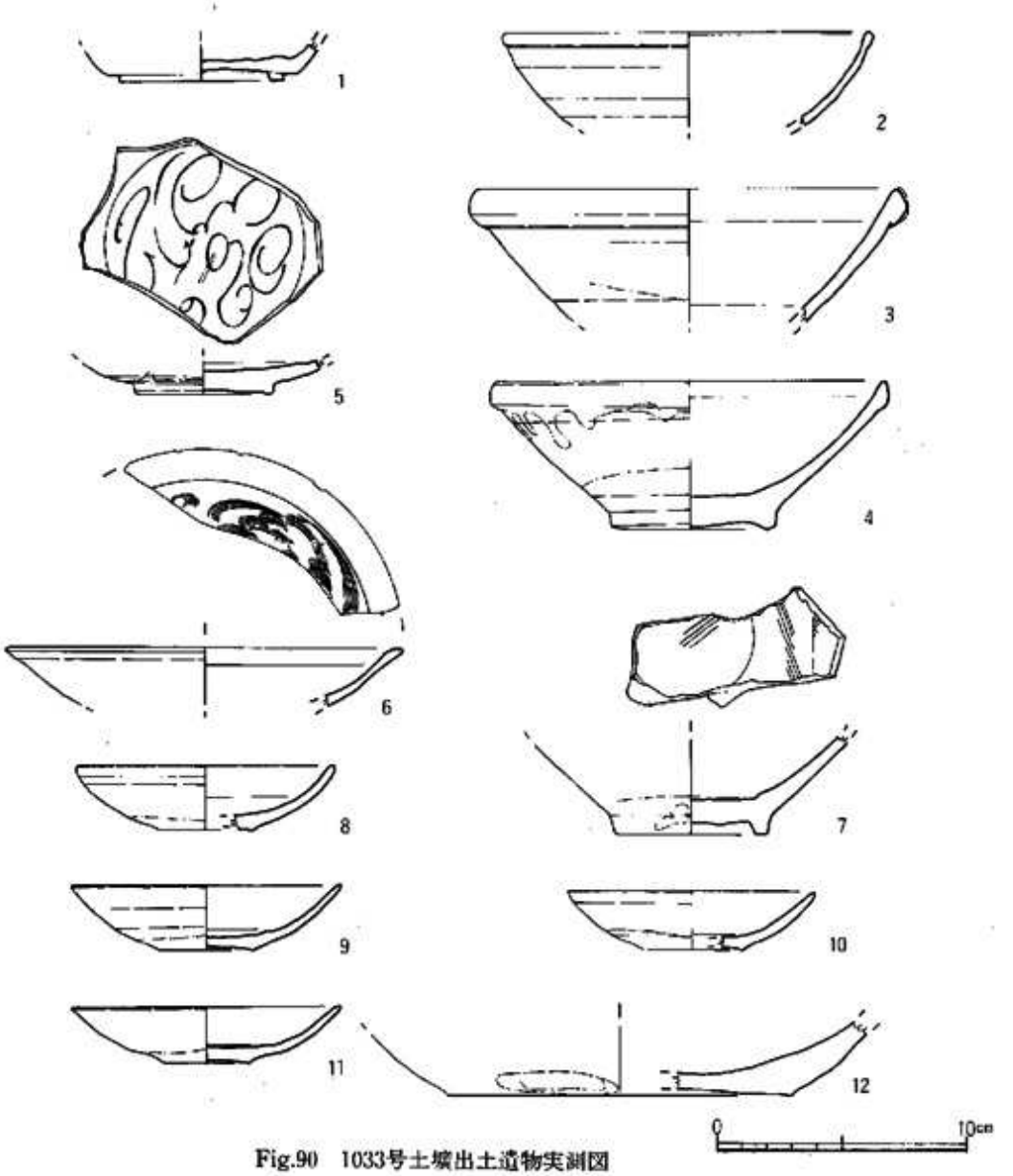


Fig.90　1033号土壙出土遺物実測図

文様をもつ。27は白磁の小碗で底部に「柳綱」と墨書する。胎土は灰白色で、淡黄灰白色の透明釉を高台脇まで施す。28はA群茶釉陶器壺である。口縁部は欠損する。胎土は灰白色で釉はこげ茶色である。頸部～胴上半部まで施釉し、内面と外面の下半部は露胎である。肩部にゆるやかな段をもつ。31も同種の壺である。胎土は灰クリーム色で釉は茶色である。口縁部上端に目跡が残る。釉は口縁内面にも少し垂れる。34は胎土がクリーム色を帯びた灰白色で灰オリーブの壺である。外面は口縁部の釉を掻きとり、肩部の内面に帯状に施釉する。29はA群の無釉陶器蓋である。胎土は白砂を含み茶褐色である。天井部には糸切の跡が残る。つまみは指でつまみ整形しているため不整形をなす。内面に「五」を墨書しその上に墨痕が認められるが読解不能

である。30も同種の蓋である。端部に目跡がつく。32は鉢で胎土は黄味がかった灰色で白や黒の砂粒を含む。釉は金茶色で内面のみ施釉する。露胎部は黄褐色を呈す。33はC群の無釉盤口水注である。胎土は暗褐色で露胎部は赤褐色を呈する。

1033号土壙（Fig.87）

L－04区に位置する円形の土壙である。東側の大部分は調査区外へ拡がり現状では三日月形を呈している。現存長1.2m、深さ0.65mを測る。上層から白磁碗が完形で出土している。覆土は上層が黄褐色粘質土で、下層が灰褐色砂質土である。

出土遺物（Fig.90, PL.30）

1は須恵器の高台付坏である。高台は外に開き低い。内外面とも横ナデし胎土は細かい砂粒を含むが比較的良好である。色調は淡暗青灰色を呈す。2～11は白磁である。2はII類の碗である。細かい砂粒を含む灰白色の胎土で淡明灰色の半透明釉である。3、4はIV類の碗である。4は完形品である。口径16.2cm、器高6.0cmを測る。胎土は砂粒を少し含む灰白色で釉は淡暗緑灰色で体外半釉である。外面には釉だれが認められる。7は内面に櫛描文様をもつ底部である。6は大型の高台付皿の口縁部である。内面に櫛描文様をもつ。淡灰白色の透明釉で胎土は灰白色を呈する。5、8～11は平皿である。5は底部が厚くなり、内面に片切彫の細線文を描く。灰白色の胎土で淡黄灰白色の半透明釉である。8～10は無文である。見込に沈圏線をもち上げ底である。釉は淡黄緑灰色ないし灰白色で胎土に砂粒を含み明灰色ないし淡灰色を呈する。12はC群の鉢の底部である。胎土には白色の粗い砂粒を多く含み暗茶褐色を呈する。

1034号土壙（Fig.91, PL.12）

L－04区、1033号土壙の西側に位置する台形の土壙である。SX37の下で検出した。規模は1.0×0.65m、深さ0.6mを測る。覆土は灰褐色砂質土である。11世紀後半の土壙。

出土遺物（Fig.92－1～12, PL.30）

1は底部糸切りの土師器坏である。体部は横ナデ。2は瓦器皿である。口径8.8cm、器高1.8cmの丸底である。外面は横ナデで底部に土師器と同様の板状圧痕がある。内面は粗いヘラ研磨である。胎土には砂粒を含むが良好で暗灰色を呈する。3～5は瓦器埦である。高台は低く体部は外に内弯して口縁部となる。外面は粗い研磨で内面はいくぶん丁寧な研磨である。胎土には砂粒を含み内面は黒色で外面は暗灰色を呈する。6～8はIV類の白磁碗で口縁部は玉縁で、見込に沈圏線をもつ。釉は灰白色～明白色で胎土に砂粒を含む。体外半釉である。9は口縁端部を水平に削るVI類の碗である。10は外面に縦線文様をもつ。口縁部内面に重ね焼の跡が付着する。11は内面に鉄彩文様をもつ大型の碗である。胎土は黒灰色で、釉は淡青明灰色である。12は天目碗である。胎土は乳白したこげ茶色で釉は黒色である。底部近くは露胎である。

1037号土壙（Fig.91）

K－01区、II区の中央部に位置する。南側を1036号土壙に切られ、北側をII面遺構に切られ

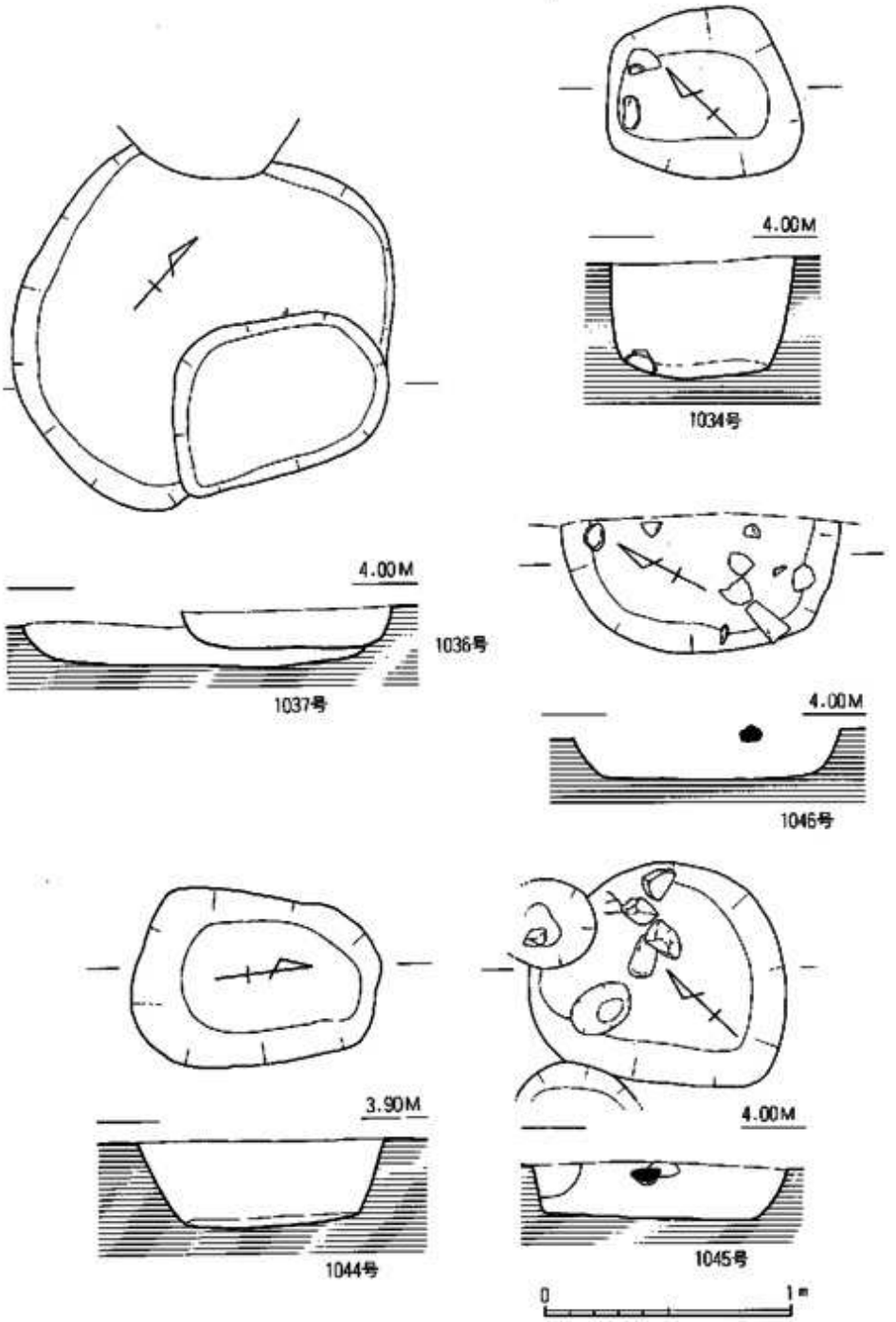


Fig.91　1034·1036·1037·1044～1046号土壙実測図(縮尺：1／30)

る。略円形で規模は1.6×1.2m、深さ0.2mを測る浅い土壙である。覆土は黒褐色～暗褐色土で、少し砂質である。

出土遺物（Fig.92－13～16）

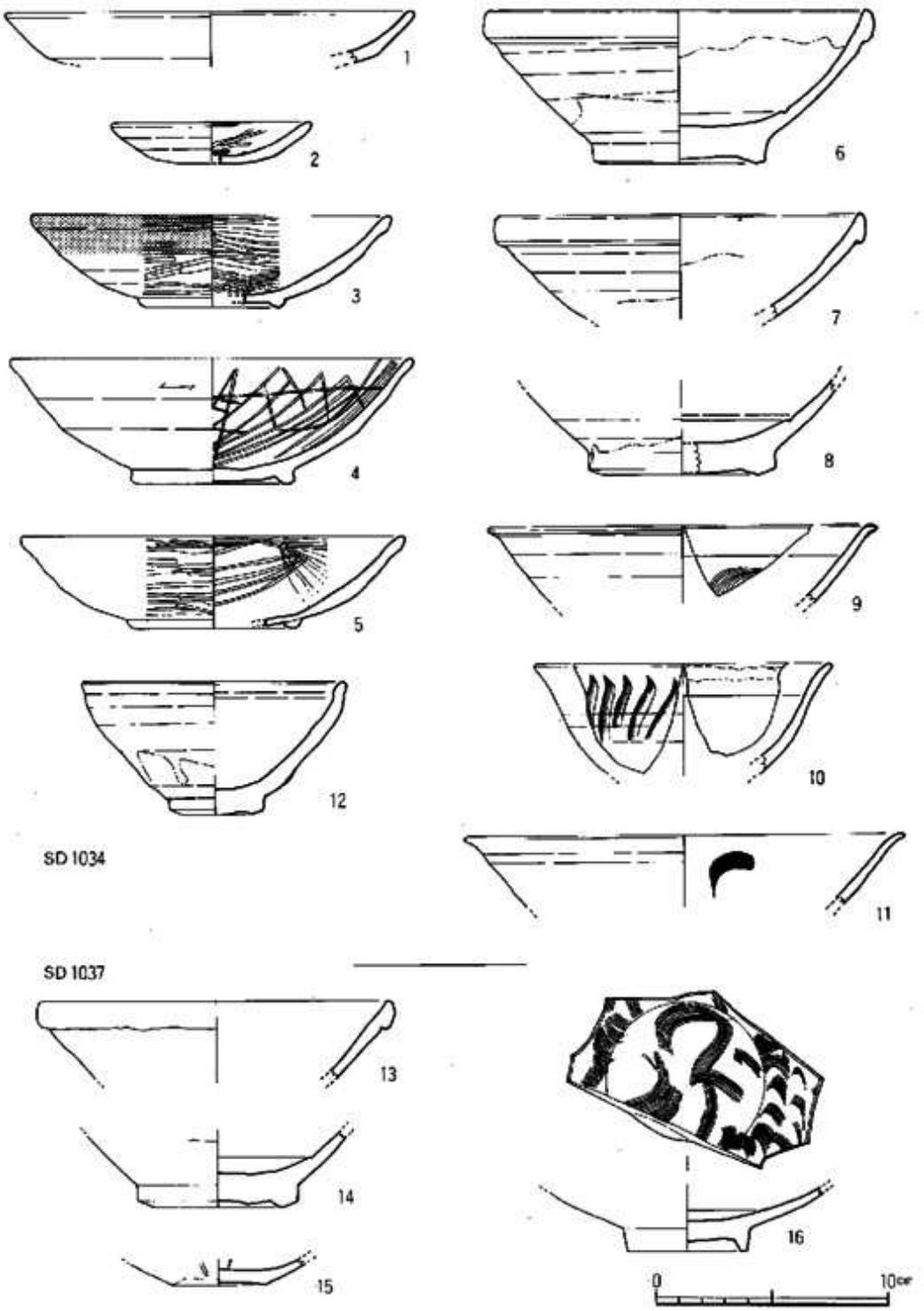


Fig.92　1034・1037号土壙出土遺物実測図

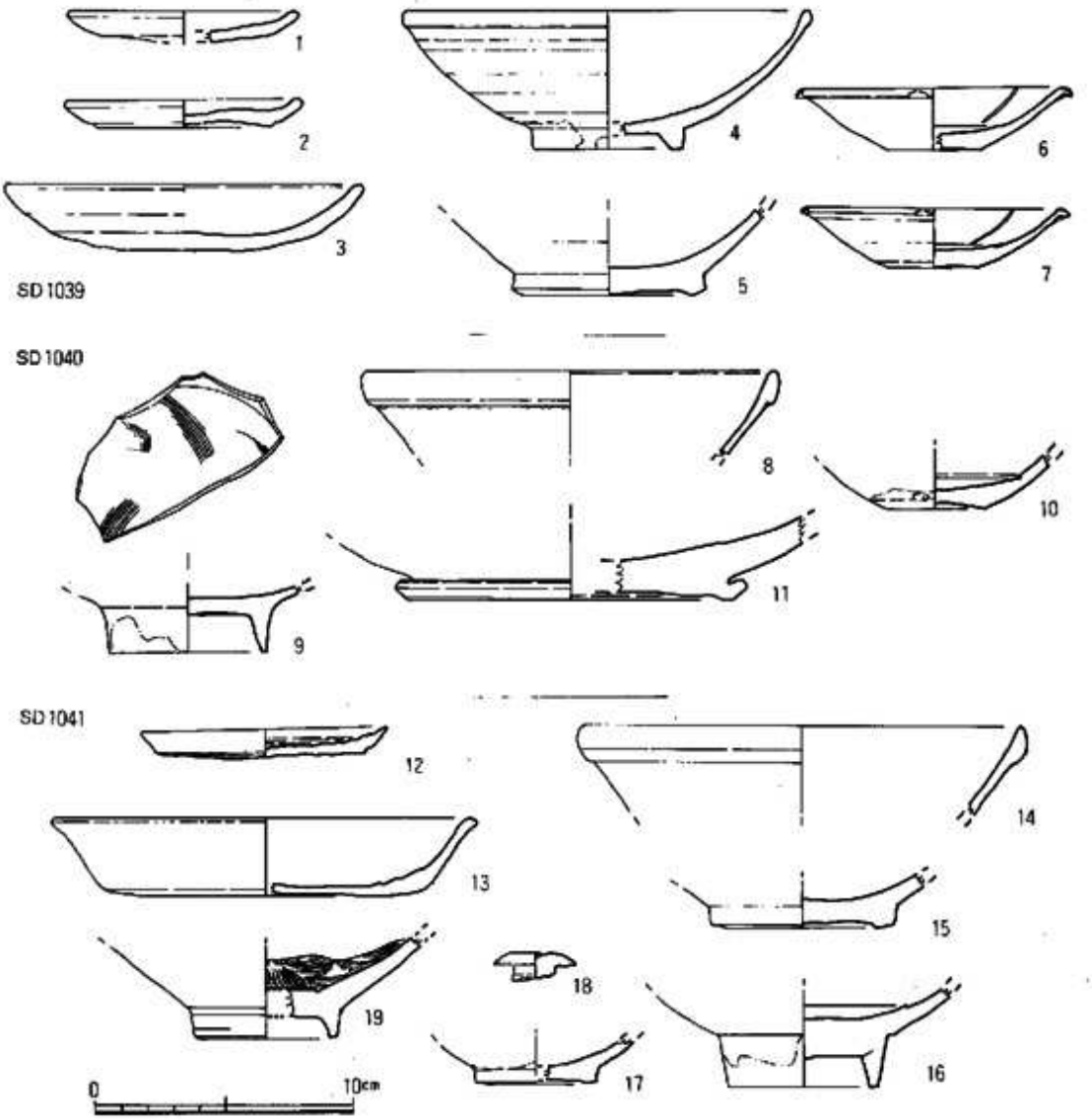


Fig.93　1039～1041号土壙出土遺物実測図

13、14はIV類の白磁碗である。胎土は13が灰白色、14は黄白色で釉は灰白色である。14の外面下半は露胎である。15は白磁平皿の底部である。胎土は灰白色で淡黄灰白色の釉である。底部は露胎である。16は内面全体に櫛描文を描く白磁の浅碗である。胎土は灰白色で淡緑灰白色の釉である。底部は露胎である。

1039号土壙（Fig.98, PL.12）

K－01、02区、1037号土壙の北側に位置する。西側で1051号土壙を切っている。略円形の深い土壙で規模は1.1×1.1m、深さ0.6mを測る。壁面はほぼ垂直で、床面は平である。覆土は黄白色砂と灰褐色土の混合土層である。11世紀中頃の土壙である。

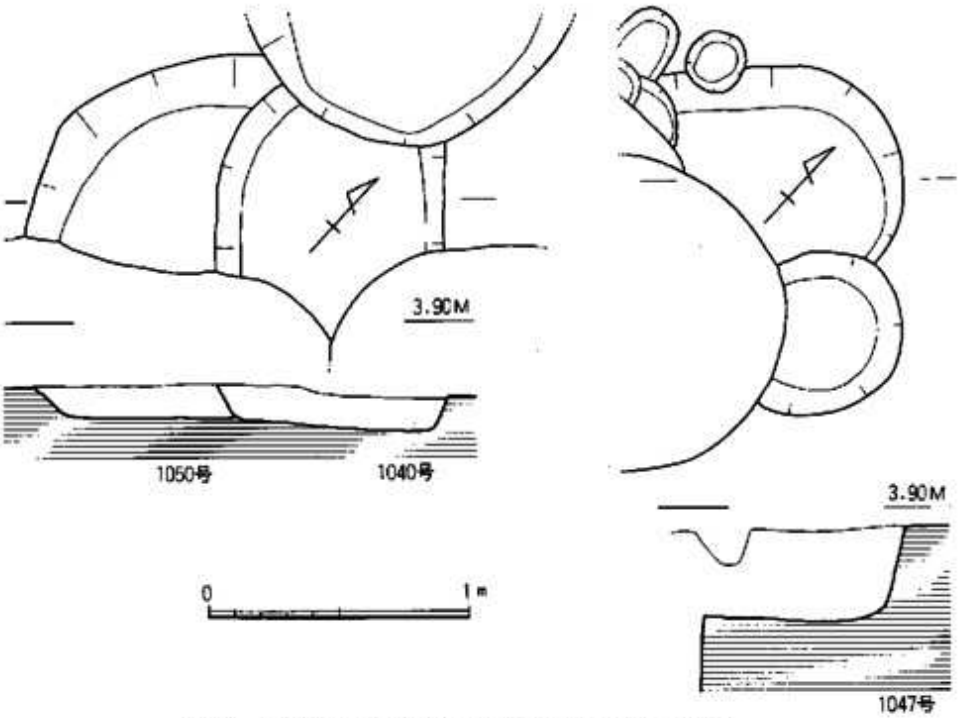


Fig.94　1040·1047·1050号土壙実測図(縮尺：1／30)

出土遺物（Fig.93－1～7）

1、2は底部ヘラ切りの土師器皿である。口径は9.0、9.2cm、器高1.1、1.2cmで1は丸底になる。3は底部ヘラ切りの土師器坏である。口径14.0cm、器高2.1cmを測る。胎土には砂粒を多く含み不良である。焼成は良好で明茶褐色ないし赤茶褐色である。4はII類の白磁碗である。小さな玉縁で高台内を斜めに削る。胎土は灰白色で淡黄白色の透明釉が高台部までかかる。5はIV類の白磁碗である。体外半釉である。6、7は口縁部が折れる平皿である。口縁部内面に白堆線を入れ輪花状にする。胎土は白色で灰白色の釉である。底部は露胎。

1040号土壙（Fig.94）

K－01区、1039号土壙の北側に位置する楕円形の土壙である。南側を1039号、北側を1048号土壙に切られる。幅0.9m、現存長1.0m、深さ0.2mを測る浅い皿状の遺構である。覆土は茶褐色土である。

出土遺物（Fig.93－8～11）

8はIV類白磁の碗である。胎土は砂粒を含む灰白色で淡暗灰白色の釉である。9はVI類の碗で見込に櫛描文様をもつ。10は白磁の平底皿である。見込に沈圏線をもつ。釉は淡黄緑灰白色で体部下半から底部は露胎である。11は西村窯系の白磁鉢である。胎土は細砂粒を多く含む明灰色で暗灰色の半透明釉を高台脇まで施す。

1041号土壙（Fig.76）

K－01区、1051号土壙に切られて南側に位置するピット状の遺構である。径0.55mを測る半円形を呈する。深さは約50cm程で柱穴状を呈する。覆土は灰褐色の軟質土である。

出土遺物（Fig.93－12～19，PL.30）

12は底部に粘土巻き上げ痕と板状圧痕が明瞭に残る土師器小皿である。胎土は微砂粒を少量含むが良好で淡赤褐色を呈する。口径9.6cm、器高1.2cmを測る。13は土師器の坏である。底部はヘラ切り、体部横ナデである。14、15は白磁碗IV類で胎土、釉は淡灰白色を呈する。16はV類の白磁碗底部である。灰白色の胎土に淡緑灰色の釉をかける。一部高台まで施釉する。17は高台付皿である。高台は低く上げ底状となる。胎土は灰白色で淡灰緑色の釉である。18は白磁の小壺の蓋である。天井部を丸く、体部を円柱とする。淡黄緑灰白色の釉を天井部のみに施す。19は越州窯系青磁碗である。胎土は灰褐色で砂粒を少量含む。オリーブ色の釉を全面に施し、外底に目跡が残る。

1044号土壙（Fig.91）

K－02区、SX37の北側に位置する歪んだ長方形を呈する土壙である。規模は0.7×1.0m、深さ約0.4mを測る。覆土は暗褐色砂層である。壁面は緩やかな傾斜で、床面はほぼ平坦である。

出土遺物（Fig.95）

1、2は土師器の皿である。口径8.8cm、器高1.1cmを測る。底部は糸切で、体部は横ナデである。胎土に砂粒を少し含む。3は須恵質陶器の壺である。口縁上端部を除き暗茶褐色の不透明釉を施す。胎土は暗灰色で黒色の小さな砂粒を含む。朝鮮半島産か。4～8は白磁である。4はIV類の碗で釉、胎土とも乳灰白色である。外面～底部は露胎。5～7はVI類の碗で6の見

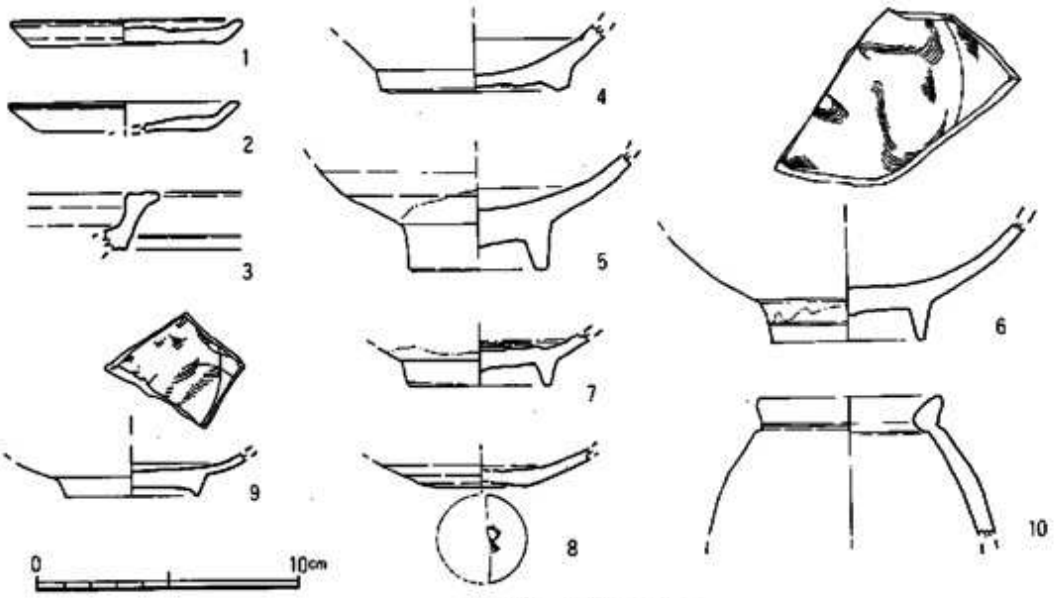


Fig.95　1044号土壙出土遺物実測図

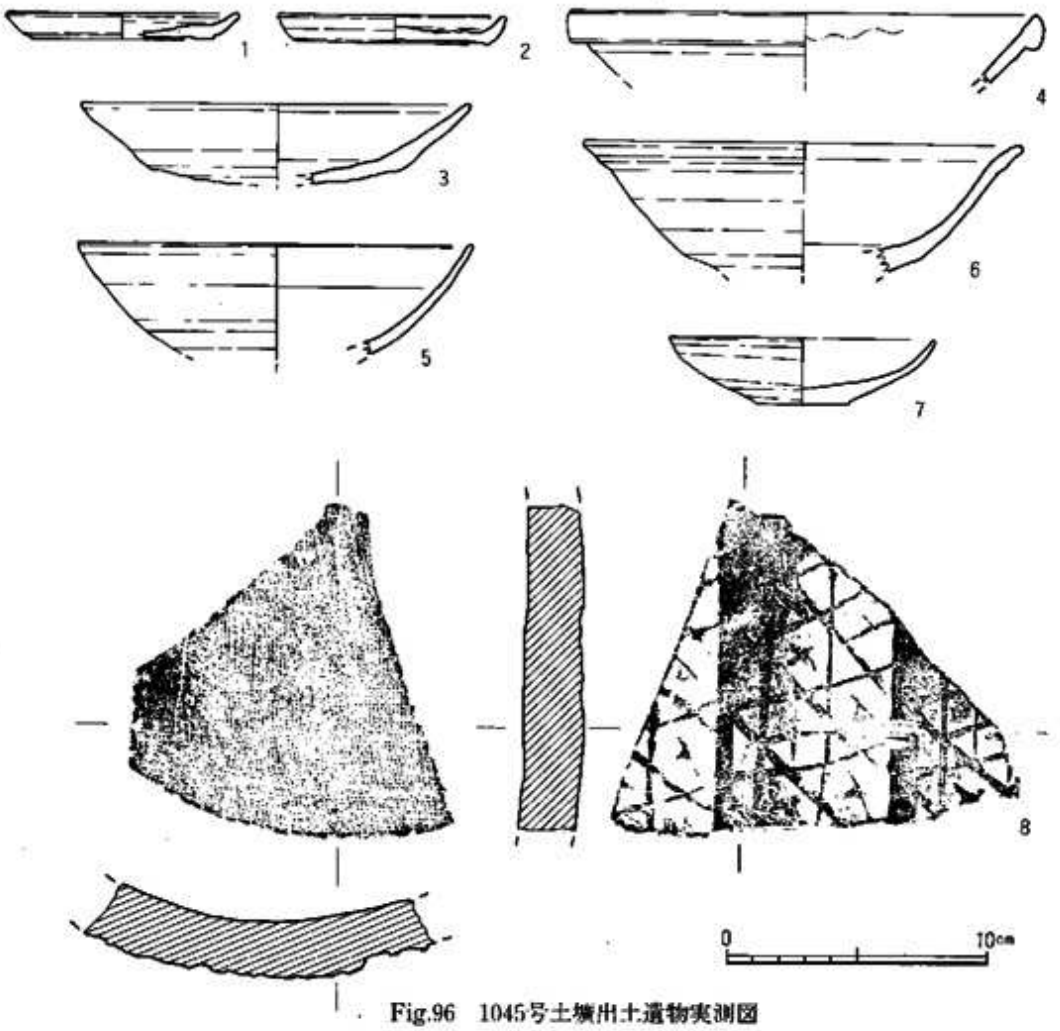


Fig.96　1045号土壙出土遺物実測図

込には櫛描文が認められる。胎土は灰白色で淡暗緑灰色の釉である。7の見込は輪状に釉を掻きとる。8は皿で外底に墨痕があるが判読不能である。胎土は灰ベージュで淡黄褐色の釉である。9は青白磁の碗である。高台は畳付が尖り低いものである。胎土は白色で淡青灰白色の釉が高台外面までである。見込に短い櫛描文様をもつ。10は陶器B群の長瓶である。口縁部は内面に傾斜し頸部に稜をもつ。胎土は黒色粒子を多く含む灰色を呈し、淡灰緑色の釉を全面に施す。

1045号土壙（Fig.91）

K－02区、II区の北東端に位置する土壙である。規模は0.9～1.05m、深さ0.2mを測り楕円～三角形を呈する小さな掘り込みである。遺構の上面には拳大の礫が数個確認されたが、柱穴とは考えられない。覆土は黒褐色土である。

出土遺物（Fig.96, PL.30）

1、2は土師器の皿で口径8.8cm、器高1.1cmを測る。底部は糸切りで1の底部には板状圧痕がつく。3は土師器の坏で底部は糸切りである。胎土は砂粒を少し含み淡褐色を呈する。体部

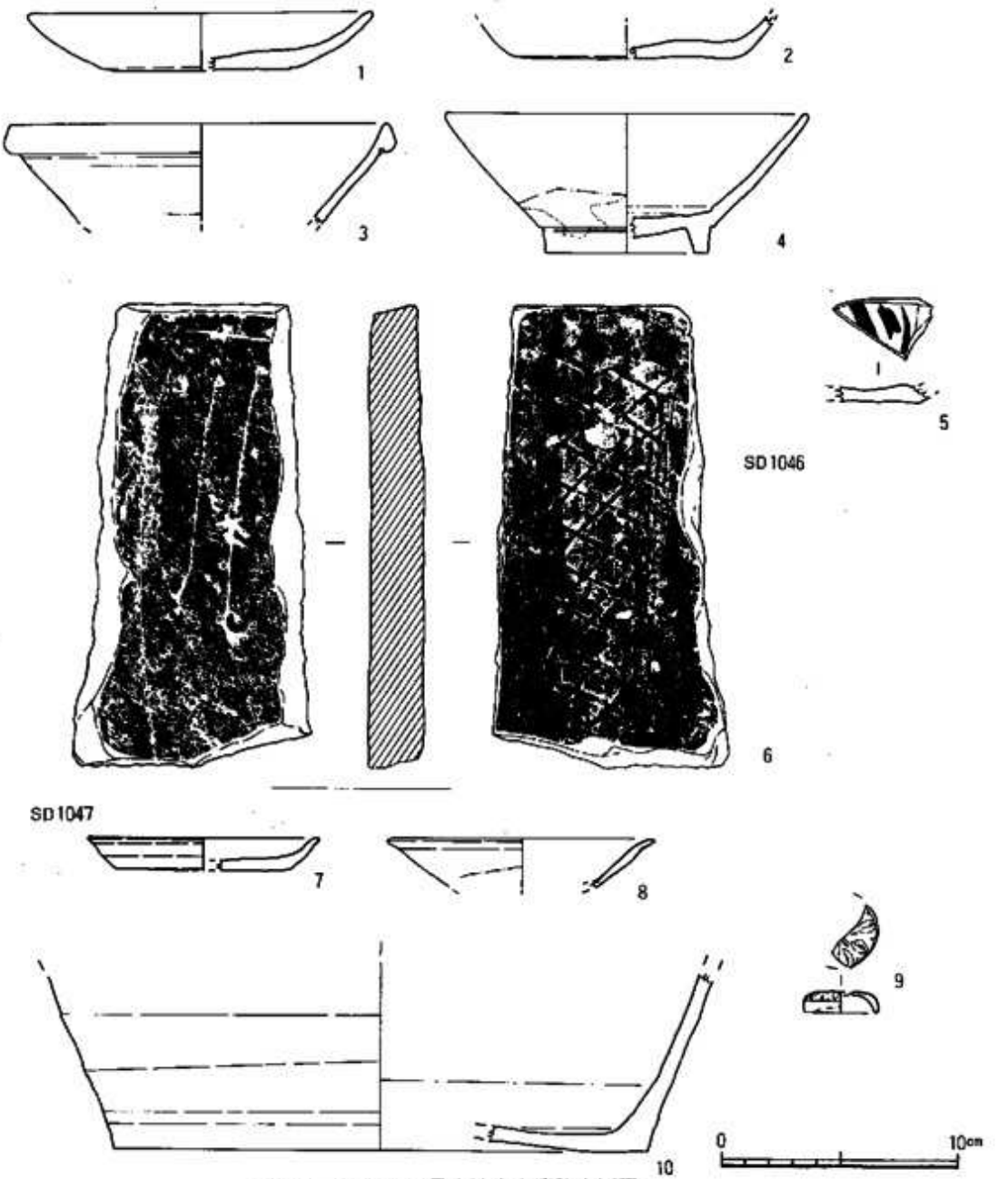


Fig.97　1046·1047号土壙出土遺物実測図

は横ナデ、内底はナデ調整である。4～7は白磁である。4は玉縁の口縁部片で内面に釉だれが認められる。5は内弯する体部がそのまま口縁部となり端部は尖る。胎土は灰白色で少し緑色がかった灰色のガラス質である。6は内弯する体部で口縁部が外反し、外面に稜をもつ。胎土は灰クリーム色で黄味をおびた灰色の釉を全面に施し貫入が入る。7は皿でほぼ完形品である。口径10.3cm、器高2.6cmを測る。釉は淡飴色で薄く施釉されているため、ロクロ目に沿って

胎土の淡灰白色が透けて見える。体部下半～底部は露胎で赤味を帯びる。8は平瓦片で胎土に砂粒を多く含み赤褐色を呈する。外側に菱形のタタキ、内面に布目をもつ。

1046号土壙（Fig.91）

K－02区、1045号土壙の東に位置し、東半部は調査区外へ広がる。現状では半円形を呈するが、本来楕円形を呈するものであろう。覆土は暗褐色砂質土で瓦、釘、獣骨が入っており、廃棄用土壙であろう。規模は1.1m×0.5m＋α、深さ約0.2mの浅いものである。

出土遺物（Fig.97－1～6，PL.30）

1、2は土師器の坏である。底部糸切りで内弯して口縁部となる。体部は横ナデ、内底はナデである。5は須恵器の坏底部であろう。内面に墨書をしているが判読不能である。6は平瓦で外面に菱形のタタキ、内面に布目をもつ。胎土には砂粒を多く含み、色調は暗灰色である。3は白磁碗IV類の口縁部である。灰白色の釉に淡灰緑白色の釉を施す。4はIX類の白磁碗で見込の釉を輪状に掻きとる。胎土は灰白色である。

1047号土壙（Fig.94）

K－02区、II区の北端に位置する。南側を134号井戸に切られる小土壙で半円形を呈する。規模は0.9×0.65m＋α、深さ0.3mを測る。覆土は暗褐色土で少量の遺物を含んでいる。

出土遺物（Fig.97－7～10，PL.30）

7は底部糸切りの土師器皿である。胎土に砂粒を含む茶白色で口径9.9cm、器高1.4cmを測る。8は白磁の高台付皿である。胎土は細砂粒を多く含む灰白色で淡青緑灰白色の釉で体外半釉となる。9は青白磁の合子の蓋である。胎土は白色で淡青灰白色の釉を上面のみ施釉する。口縁部－内面は露胎。天井部には花文を陽刻する。10は陶器A群の盤底部である。外面、底部は露胎で赤茶褐色、内面には淡黄緑灰色の不透明釉を施し、細かい氷裂がある。胎土は淡暗黄灰色で大きな砂粒を多く含む。

1048号土壙（Fig.76，PL.15）

L－04区、II区の南東端、148号井戸の北側に位置する。平面形は略円形で、規模は1.45×1.4m、深さ1.0mを測る。中央部に0.7×0.8mの円形の掘り込みが浅いことから土壙と考えたが井戸の可能性もある。覆土は暗褐色土で、中央部の掘り込みは少し黒くなる。

出土遺物（Fig.99，PL.33）

1は底部ヘラ切りの土師器皿である。胎土には砂粒を多く含み、色調は淡茶灰白色である。口径9.5cm、器高1.25cmを測る。2は須恵器坏蓋である。天井部は丸く、口縁部は短く屈曲し、端部は丸く収める。胎土には砂粒を多く含み、淡青明灰色を呈する。内外面とも横ナデ調整である。3～6は白磁である。3、4はIV類の碗である。灰白色の胎土で淡暗緑灰色の釉がかかり体外半釉である。5は皿で見込に沈圏線をもつ。7は陶器A群の壺で口縁が玉縁となる。口縁部内面から外面に暗黄緑灰色の半透明釉を施す。

1050号土壙（Fig.94）

K－02区・II区の北端、1039号土壙の北側に位置し円弧を描く土壙である。東側を1040号土壙に切られ、遺存するのは全体の５分の１程度である。残存幅0.9ｍを測り、本来径1.5～2.0ｍの楕円形土壙になると思われる。

出土遺物（Fig.100－１～4）

１は土師器の皿である。底部は糸切りで板状圧痕がある。口径9.7cm、器高1.3cmを測る。２、３は白磁碗のIV類である。２は胎土が灰白色で淡黄緑灰色の透明釉となる。胎土は砂粒を多く含むが良好で灰色を呈する。３は暗緑灰色の不透明を施釉する。

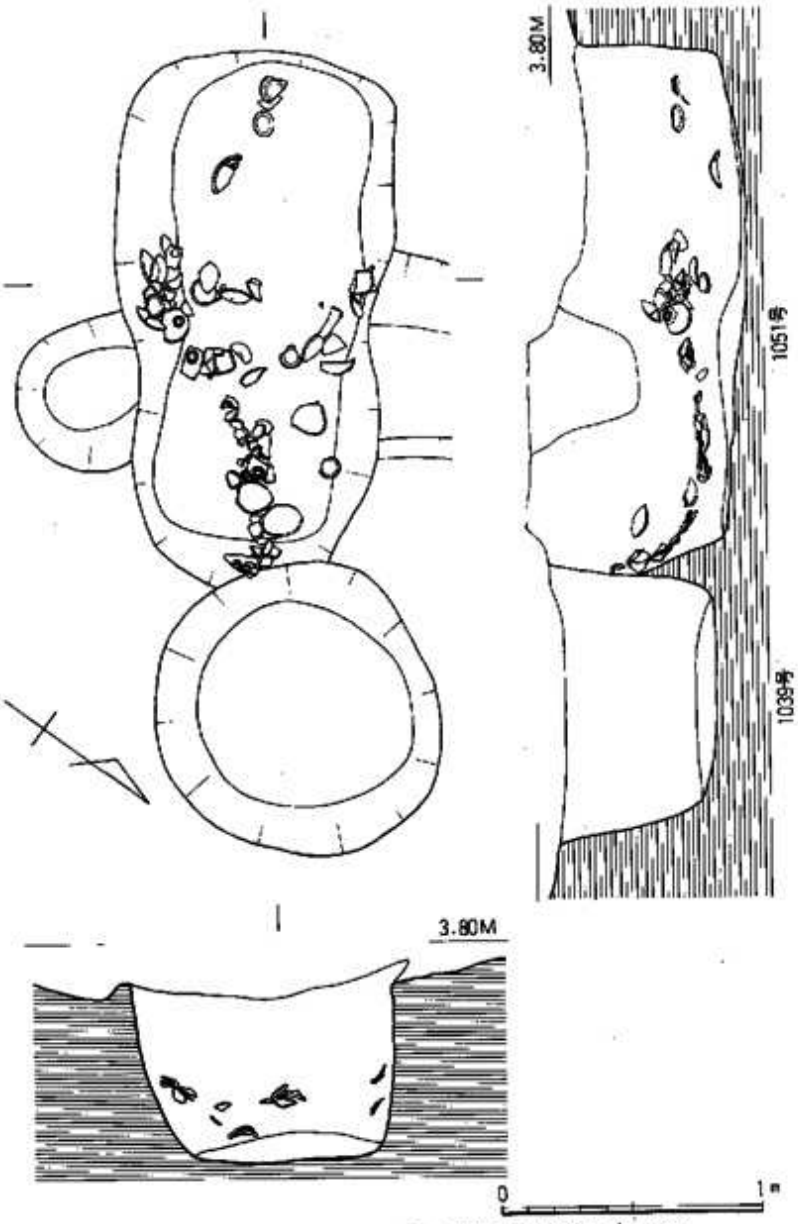


Fig.98　1039・1051号土壙実測図（縮尺：1／30）

1051号土壙（Fig.98, PL.13）

K－01区、1039号土壙と重複して西側に位置する。平面形は隅丸長方形で規模は最大幅1.09ｍ、最大長2.05ｍ、深さ0.84ｍを測る。壁面は西壁はほぼ垂直であるが他は緩やかな傾斜を示す。主軸をN－53°－Eにとる東西に長い土壙である。遺物は多量に出土しているが、完形品は土師器の坏１点だけで他は破片として出土している。壁際から中心部に向かって低くなり、投棄した状況を示す。覆土は暗褐色土、灰褐色砂質土、黒褐色土の縞状堆積を示し、廃棄用土壙と考えられる。11世紀後半の土壙である。

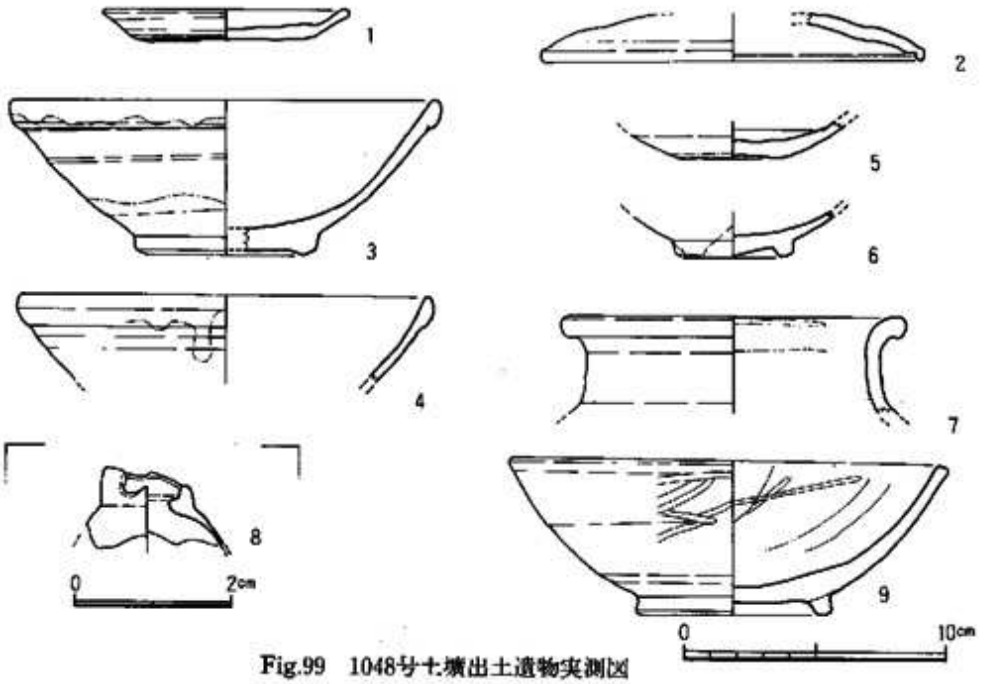


Fig.99　1048号土壙出土遺物実測図

出土遺物（Fig.100～103－1～63，PL.31・32）

5～8は土師器小皿である。口径8.8～9.1cm、器高1.3～1.5cmを測る。6は底部ヘラ切り、他は糸切りで板状圧痕がある。9も土師器皿であるがひとまわり大きいものである。口径11.0cm、器高2.4cmを測り底部ヘラ切りを行う。体部は横ナデで内面ナデ調整である。10～12は土師器坏である。口径14.4～16.1cm、器高3.0～3.2cmを測る。10は底部糸切りで板状圧痕がみられる。11、12は底部ヘラ切りである。丸底から内弯して口縁部となり端部は肥厚し丸く収める。13～53、55～61は白磁類である。13～16はIV類の白磁碗である。13は口縁部の半分を欠損するが全形を知ることができる。胎土は小砂粒を含む乳白色で淡く黄味がかった乳白色の釉である。高台脇から底部は露胎である。内面には釉だれが認められ、見込に沈圏線がある。口径17.8cm、器高7.0cmを測る。17～38は白磁碗II類である。口径15.4～17.0cm、器高5.6～6.1cmを測る。高台は外面が垂直に、内面を斜めに削る低い高台で口縁部が小玉縁となる。胎土は灰白色で砂粒を含む。釉は緑を帯びた灰白色である。52、53はV類の小碗である。外面に波状の縦線をもつ。底部は欠損する。39～48は白磁平皿II類である。内面の見込との境に僅かに稜をもつものが多いが明瞭ではない。底部は上げ底で口縁端部は尖り気味となる。胎土は灰白色ないし乳灰白色で淡緑灰色の釉である。体部下半から底部は露胎である。49はI類の皿で低い高台に直線的な体部となる。体外半釉である。51はIV類の皿で内面に4本の白堆線をもつ。57～59は高台付皿III類で見込に櫛描文様を描く。胎土は細砂を少量含む白色で釉は青味を帯びた灰白色の透明釉である。54は高麗青磁の小碗である。胎土は細砂を含む白灰色で灰色を帯びる淡い緑青色の釉を高台内まで施釉する。全体に氷裂が認められる。55は白磁の小壺の蓋である。胎土は灰白色

で天井部のみ黄味を帯びた灰白色釉で他は露胎である。全体に調整が粗雑で均正がとれていない。56は白磁の瓜型壺である。口縁部を欠損する。低い高台に長胴となり、最大径を胴上位におく。頸部に凹線をめぐらし、その下から三本一組の縦線で十等分して割瓜型の胴部となす。頸部にも2条の凹線をもち、口縁部にかけて外反する。内面には胴部との接合面が残る。胎土は灰白色で淡緑灰色の透明釉をかけ、全体に細かい氷裂がみられる。頸部の内側まで施釉する。60、61は白磁碗IX類である。内面に櫛描文をもち、見込で輪状に釉を掻きとる。62は同安窯系の青磁碗である。内外面に櫛描文様をもつ。胎土は白灰色で、淡緑灰色の透明釉を高台脇まで施釉する。63は砥石である。4面を使用して中央部がすりへっている。火を受け黒変している。

1053号土壙 (Fig.104)

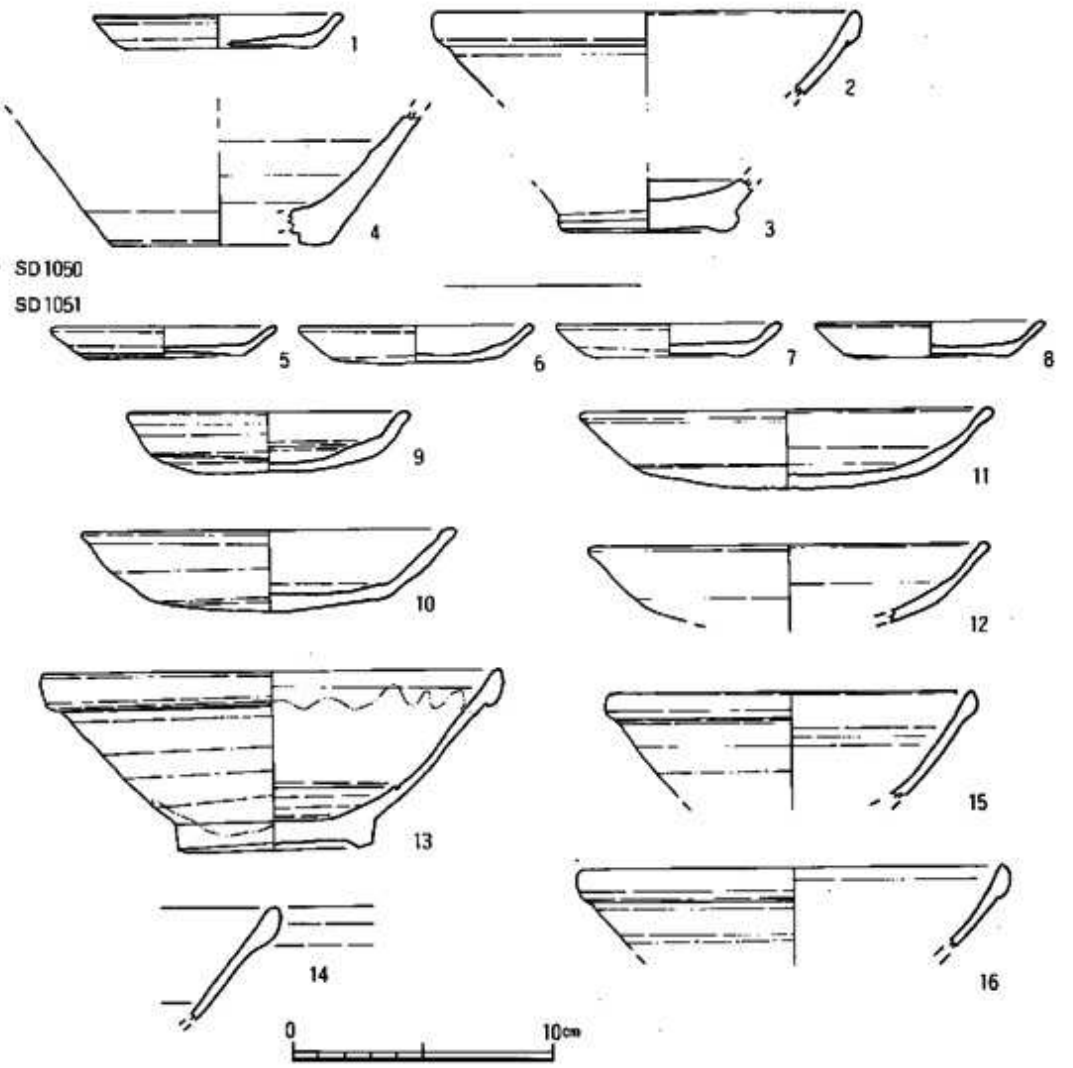


Fig.100　1050・1051号(1)土壙出土遺物実測図

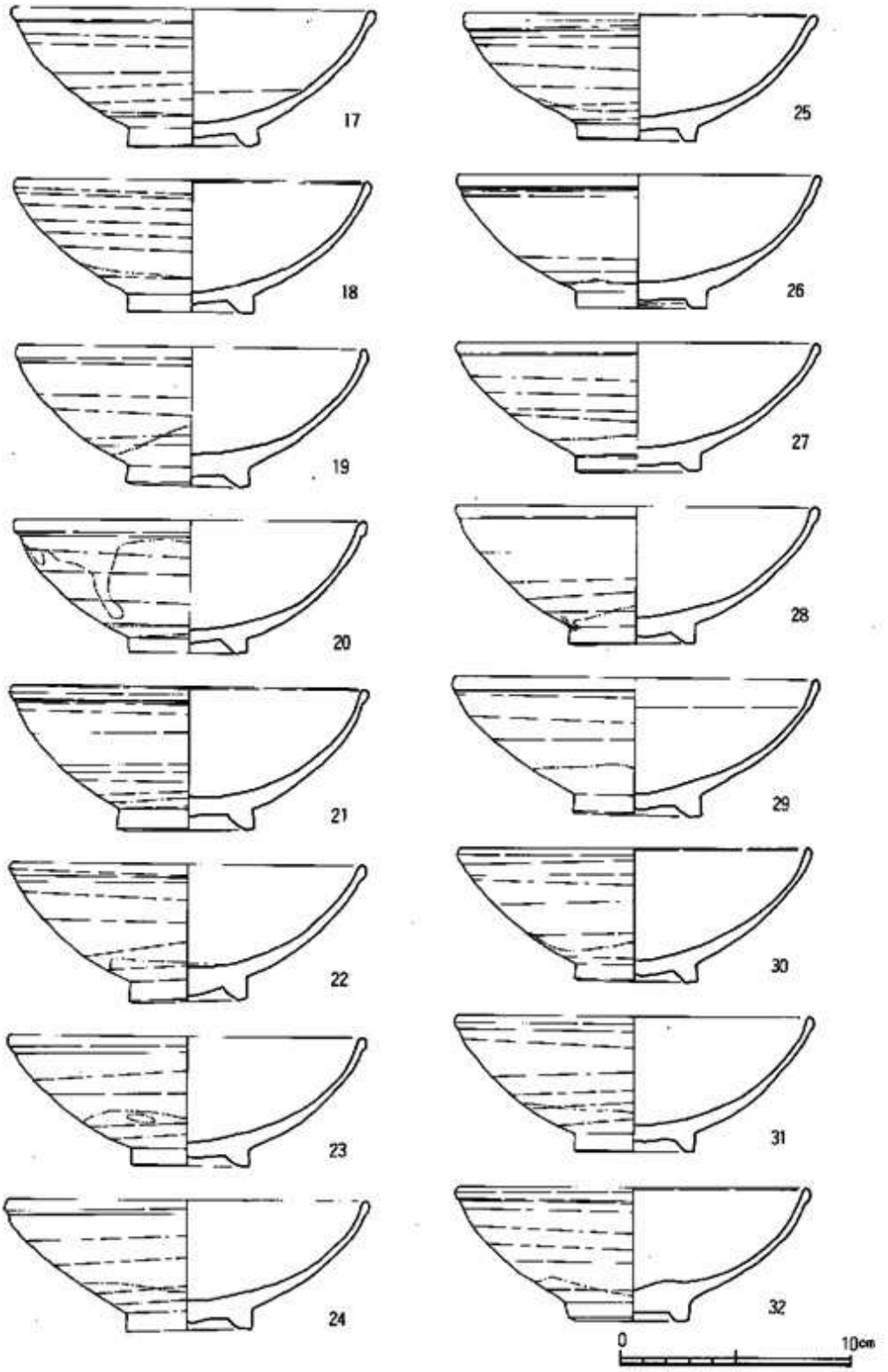


Fig.101　1051号土壙出土遺物実測図(2)

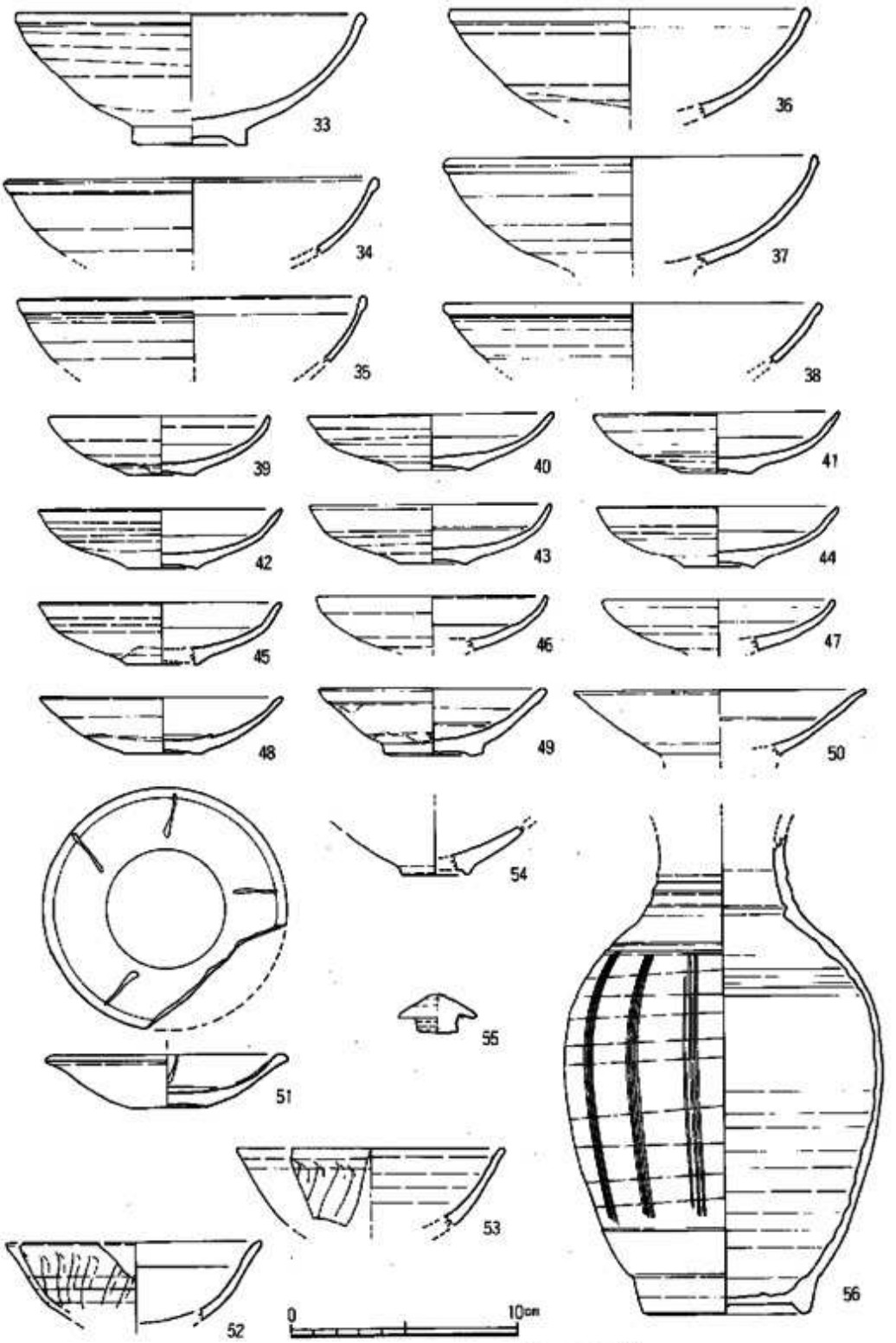


Fig.102　1051号土壙出土遺物実測図(3)

K－01区、II区の北西隅に検出した小土壙である。北側を1054号土壙に切られる。規模は幅0.5m、長さ0.7m＋α、深さ0.2mを測る隅丸長方形を呈する浅い土壙である。出土遺物は土師器皿、白磁碗、青白磁碗片が出土しているが実測可能なものはない。

1054号土壙 (Fig.104)

K－01区、II区の北西隅に検出した円形の小土壙である。北側は一部調査区外へ延びる。径

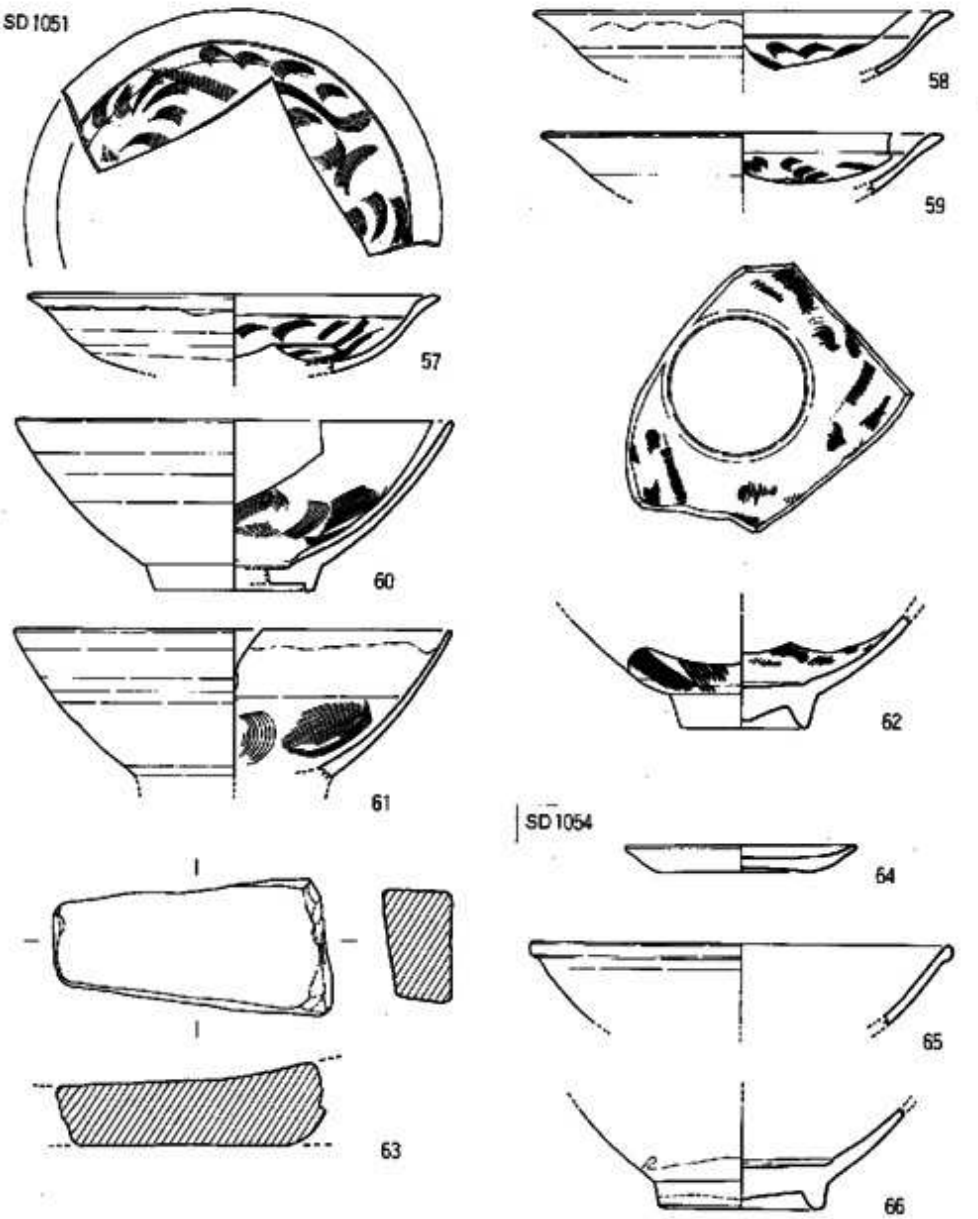


Fig.103　1051号(4)・1054号土壙出土遺物実測図

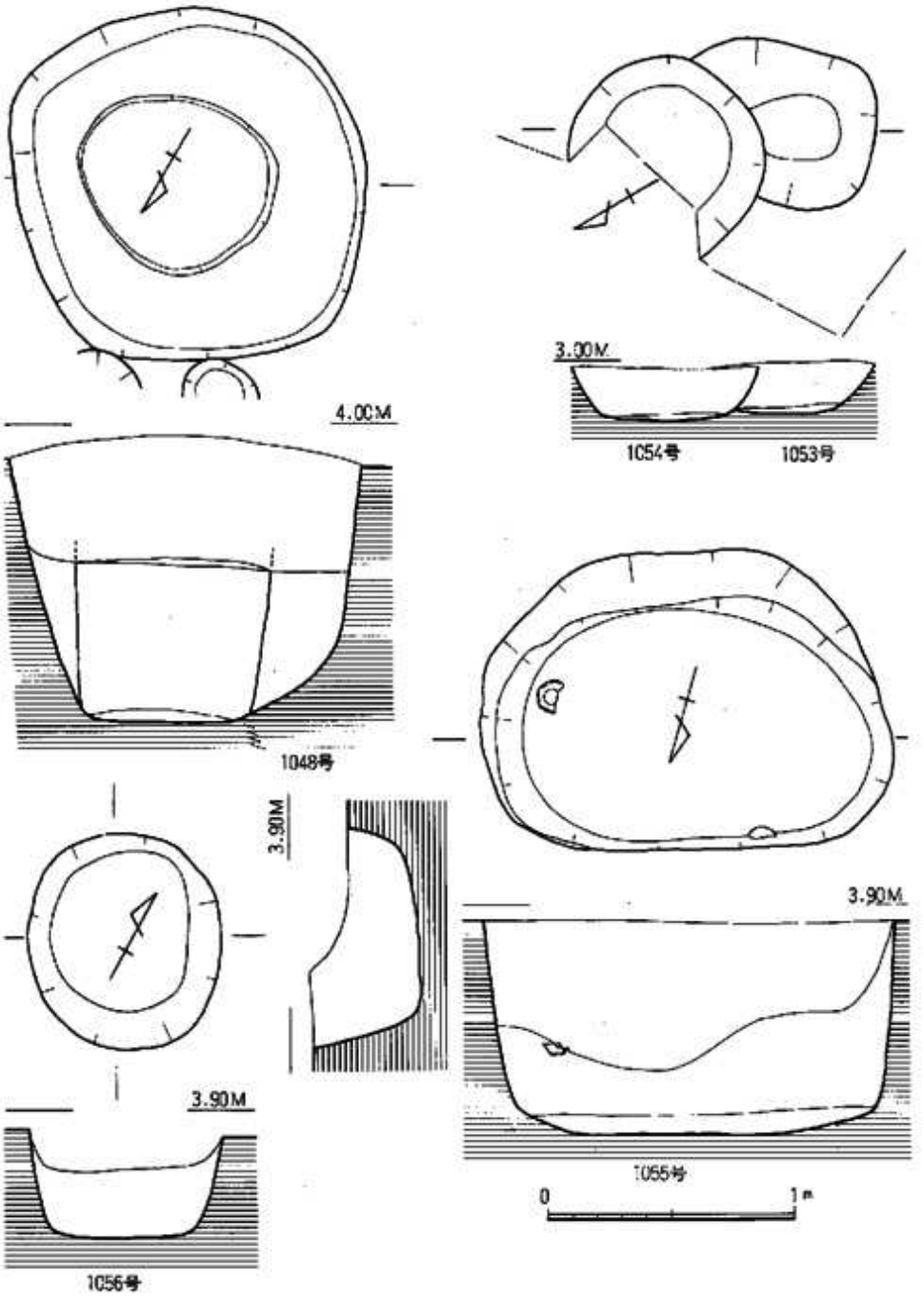


Fig.104　1048・1053～1056号土壙実測図(縮尺：1／30)

0.8m、深さ0.2mを測る浅い土壙である。覆土は暗褐色土である。

出土遺物（Fig.103－64～66）

1は土師器の底部糸切り皿である。口径9.0cm、器高1.0cmを測る。65は白磁碗II類の口縁部

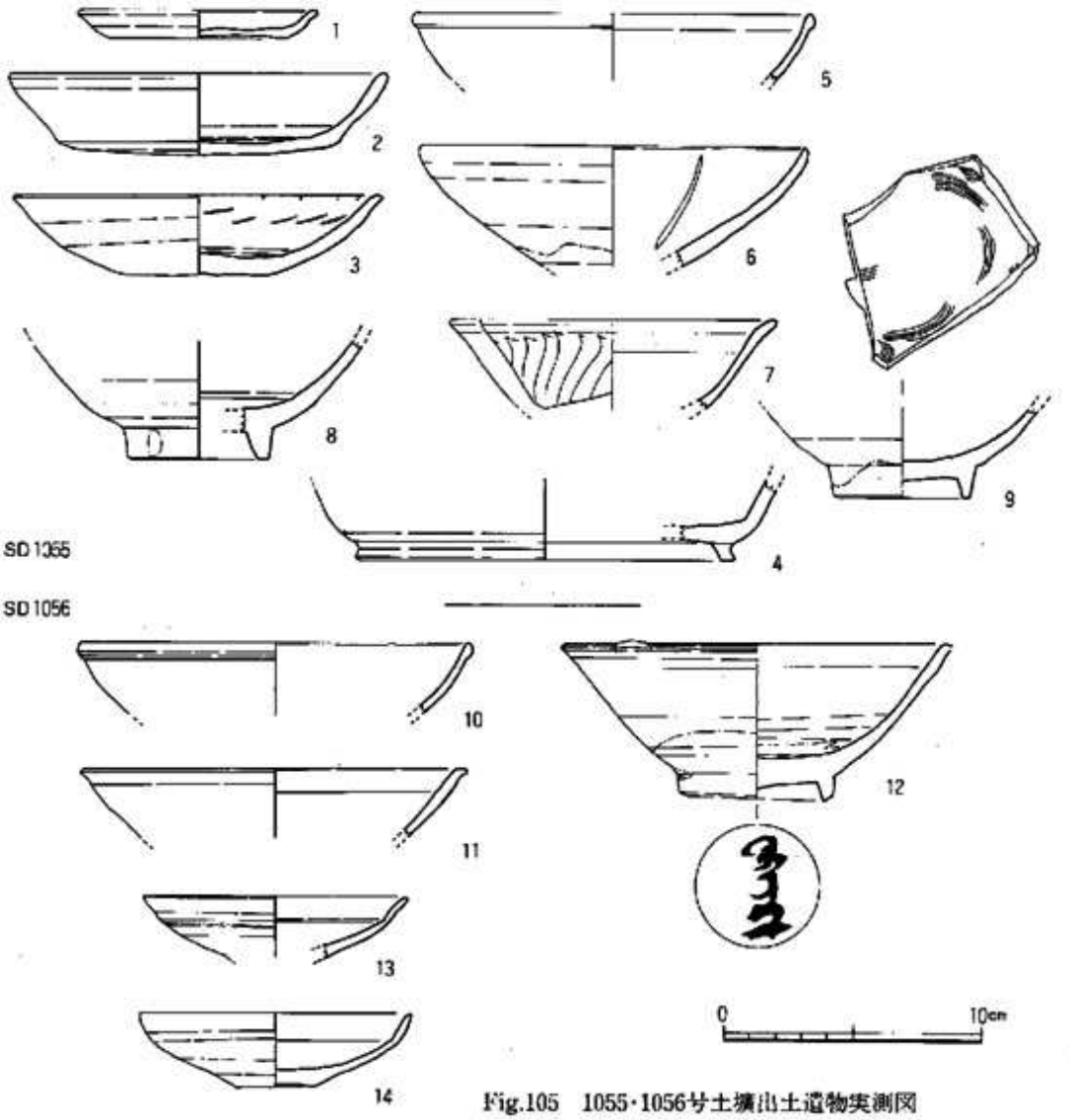


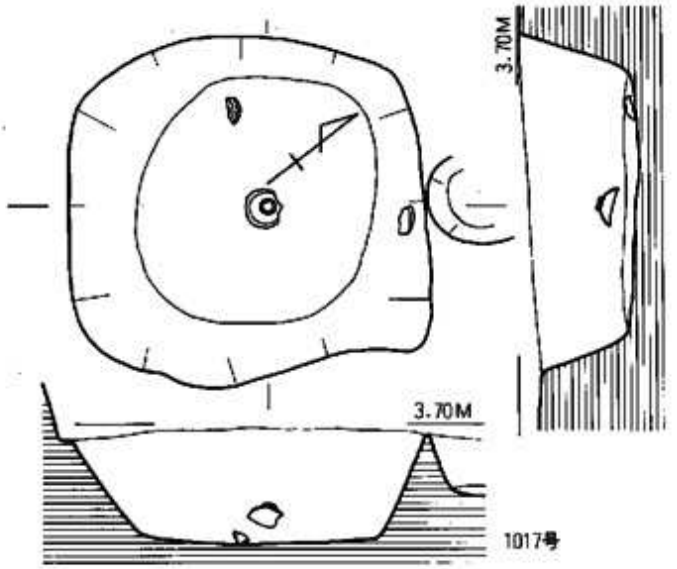
Fig.105　1055・1056号土壙出土遺物実測図

である。灰白色の胎土で淡緑白色の釉で口縁部が小玉縁をなす。66は白磁碗IX類の底部である。見込の釉を輪状に掻きとる。

1055号土壙（Fig.104, PL.14）

K－02区、SX37の下面で検出した土壙墓である。規模は1.67×1.3m、深さ0.86mを測る長楕円形である。南壁は二段になっているが、地山層が黄白色砂層であるための崩落であろう。他の壁はほぼ垂直になり、本来端正な平面形をしていたと思われる。床面はほぼ平で1.4×0.9mの長楕円形である。

出土遺物（Fig.105－1～9）　1は土師器の皿である。底部は糸切りで胎土に小砂粒を混入する。淡茶白色で口径9.3cm、器高1.1cmを測る。2は土師器の坏で底部ヘラ切りである。3も



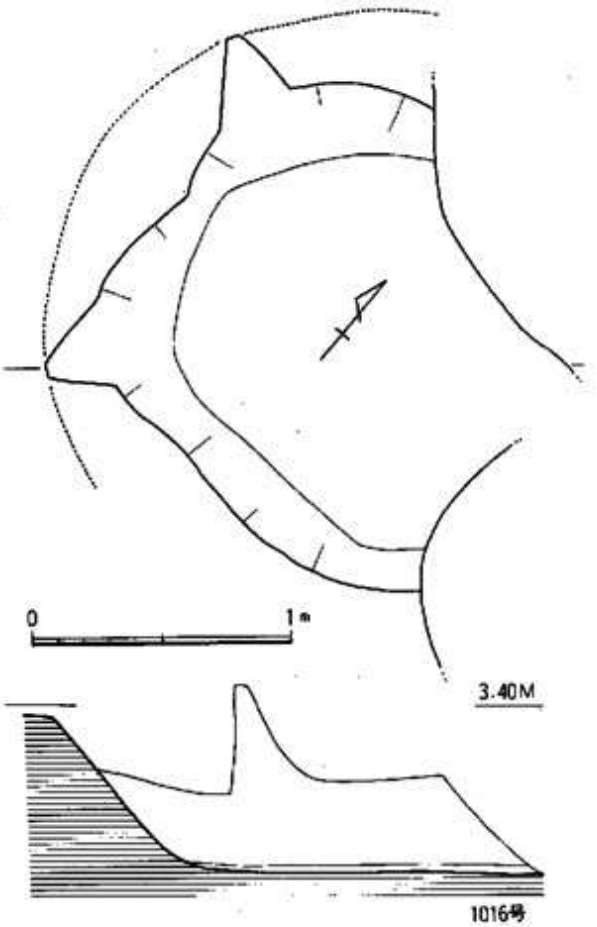


Fig.106　1016·1017号土壙実測図(縮尺：1／30)

土師器坏で底面に指の押圧痕が残る。内面は研磨状のヘラナデ調整である。4は須恵器の高台付坏である。胎土は砂粒を少し含む暗灰色である。内外面とも横ナデ調整である。5～9は白磁碗である。5、6はII類の碗で、5は小玉縁をもつ。6は内面に白堆線をもち口縁部が内弯気味に立ち上がり端部が尖る。胎土は明灰色で淡黄緑灰白色の釉で体外は半釉である。7は外面に波状の縦線文様をもつV類小碗である。胎土は白色で明灰色の半透明釉を施す。9は見込に櫛描文様をもつ。

1056号土壙（Fig.104）

K－02区、SX37の北端に重複して位置する土壙である。SX37と同じ高さで石の表面が現れたので、当初同一の遺構と考えたが、その下から石積が現われ、土壙も明確なったので、SX37を切る新しい土壙であることが判明した。上面では扁平な石を0.6×0.8mの範囲に乱雑に2～3段敷き詰めている。III面で確認した時には0.75×0.95mの楕円形の掘り方に、厚みのある手掌

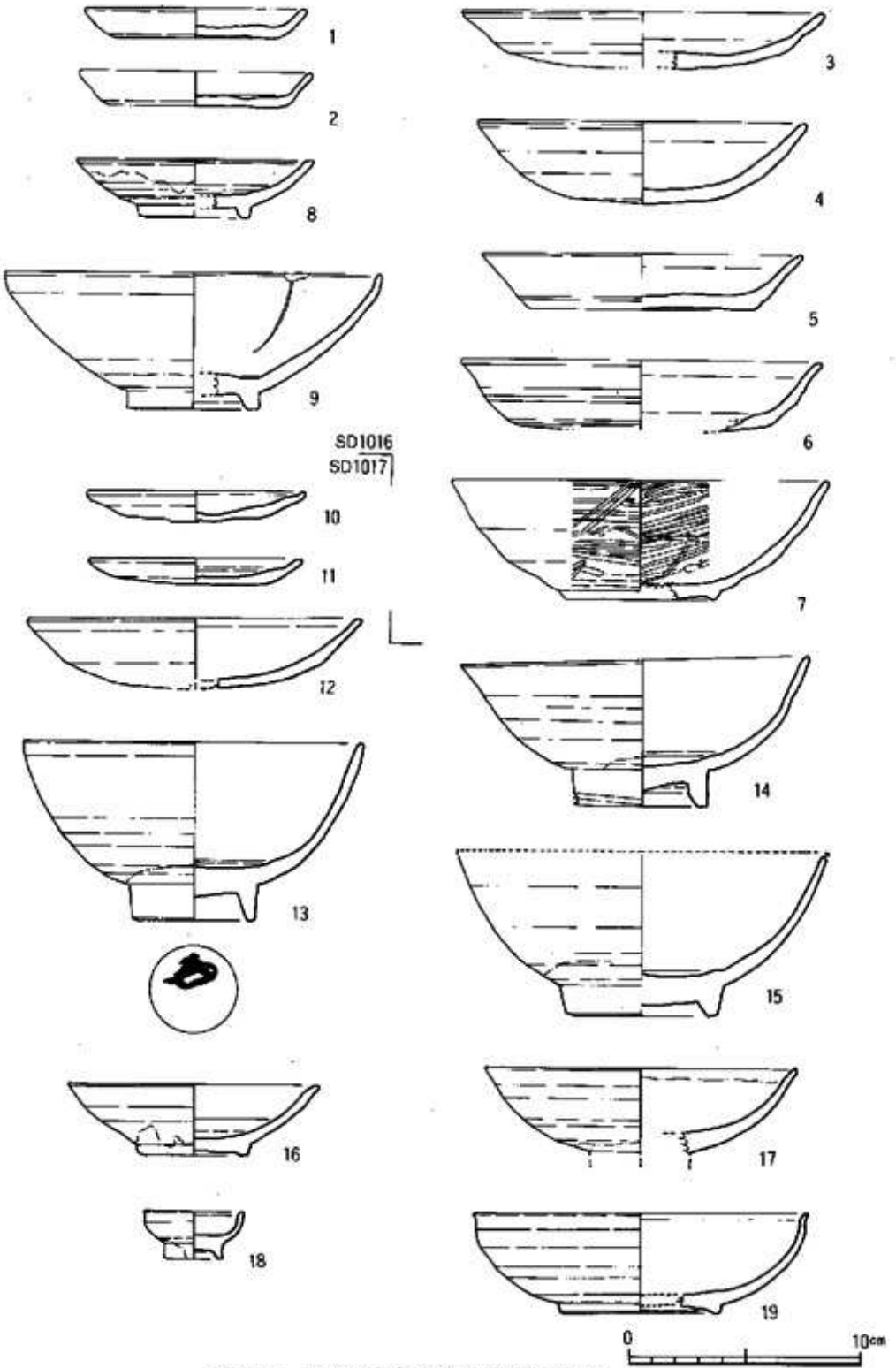


Fig.107　1016·1017号土壙出土遺物実測図

大の石を数個置き、その下に底部に墨書をもつ白磁碗（Fig.105－12）がほぼ完形で口縁部を上に置かれていた。深さはII面で0.2mを測り、本来40cmを越えた掘り込みであろう。建物の根石あるいは祭祀遺構か。

出土遺物（Fig.105－10～14）

出土しているのは白磁だけである。10はII類の碗の口縁部である。胎土は淡乳灰白色で細砂を含んでいる。釉は淡い黄灰白色である。11、12はVI類の白磁碗である。口縁部上端を水平にし、外面を外反させる。12は見込の釉を輪状に掻きとり、体外半釉である。外底面に花押?を墨書する。13、14は皿で13は見込に沈圏線をもち、外面に稜をもち口縁部が外反する。14は体部中位で緩やかな稜をもち内弯して口縁部となる。

1016号土壙（Fig.106）

M－02区、I区の南東端に位置する。III面遺構の991号土壙の真下にあたり、その掘り込みの可能性のある土壙である。上面は大部分が上の遺構に切られ、その痕跡をとどめない。平面形は楕円形を呈し、その規模は2.25×1.6m、深さ0.7mを測る。覆土は暗褐色～灰褐色の砂質土である。

出土遺物（Fig.107－1～9）

1、2は底部糸切りの土師器皿である。口径9.7～10.2cm、器高1.3～1.5cmを測り少し大きめである。3～6は土師器坏である。3、4は丸底で底部はヘラ切り、体部は横ナデである。胎土に砂粒を多く含み白茶色ないし暗灰色を呈する。5、6は底部糸切りの坏で、5には板状圧痕がある。体部は横ナデで、内底はナデである。7は瓦器埦である。低い三角高台を貼りつけ丸い底から内弯して口縁部となる。内外面ともヘラ研磨を行なうが内面の研磨は暗文風となる。8は白磁の高台付皿である。胎土は黒色砂粒を含む淡黄白色で淡黄灰色の不透明釉を施す。体外半釉。9は白磁碗II類である。口縁部が内弯して尖り、内面に白堆線をもつ。胎土は白色で、緑を帯びた黄白色釉をかける。

1017号土壙（Fig.106）

M－01区、I区の中央西壁寄りに確認した土壙である。III面で大略を確認したがIV面で掘り下げた遺構で北側で18号溝を切る。平面形は隅丸方形で各辺がふくらみをもつ。規模は1.3×1.38cm、深さ0.45mを測る。壁面はなだらかな傾斜を示している。床面はほぼ平で中央部が少し窪む。覆土は暗褐色土で、少し木炭、灰を含んでいる。

出土遺物（Fig.107－10～19，PL.33）

10、11は底部ヘラ切りの土師器皿である。口径9.4～9.6cm、器高1.2～1.3cmを測る。12は土師器坏で底部ヘラ切りである。丸い底部から内弯して口縁部となり端部は丸く収める。13～19は白磁である。13～15はV類碗で、12は外底部に花押を墨書する。広い見込から内弯して垂直に立ち上がり口縁部となる。胎土は灰白色、釉も灰白色で氷裂がある。14、15は見込に沈圏線

をもつ。14の口縁部内面に重ね焼の跡が認められる。16は高台付皿である。低い高台で内弯する体部となる。胎土は白灰色で淡灰色の釉となる。17、18は小型の碗である。17は灰白の胎土で淡緑灰白色の釉を高台脇まで施釉する。19は低い高台で内弯する体部となり、口縁端部が外反する器高の低い白磁碗である。胎土は淡灰色で淡緑灰白色の釉を高台脇まで施す。18は高台付の青白磁ミニチュア碗である。灰白色の胎土に淡青灰白色の釉を施す。広い内底から垂直に立ち上がる体部となる。高台部まで一部施釉する。

1058号土壙 (Fig.108, PL.15・18)

L－04区・II区の中央部に位置する土壙である。平面形はほぼ楕円形で、規模は1.3×1.6m、深さ1.7mを測る深い土壙である。北壁は調査中の崩落のため内傾しているが、他の壁はほぼ垂直に近い。遺物は土壙の上層から土師器の皿、坏が多く出土し下層からの出土は少ない。覆土は黒褐色土、暗灰色砂質土等の軟質なものである。遺物の出土状況からは廃棄用土壙と考えられるが、遺構自体は土壙墓を思わせる。11世紀後半のものである。

出土遺物 (Fig.109～111, PL.33)

1～31は土師器の皿である。22～28、31は底部糸切りで板状圧痕がつく。口径8.6～9.4m、器高1.0～1.4cmを測る。1～20、29、30は底部ヘラ切りで多くが板状圧痕が残る。3、7、9、13、19には板状圧痕がない。底部ヘラ切りの皿は平底で器高が低く2、3のように口径9.0cm前後、器高1.4cm前後のタイプと1、4のように丸底に近いタイプにわけられる。また11、19のように器高が1.8cmを越えるものもある。33～67は土師器の坏である。底部はヘラ切りと糸切りがある。大部分がヘラ切りで糸切りは55、64～67である。口径14.8～15.2cm、器高3.1～3.3cmを測り、64は板状圧痕がつく。ヘラ切り底部の坏は36のように扁平で平底のものや、38のような平底もあるが大部分は丸底である。口径は15.0～16.0cmを測るものが多い。42は口径17.0cmで大型品である。68は瓦器塊である。胎土には砂粒を多く含み焼成良好である。口縁部外面は吸炭して黒色となるが、他は灰色である。内外面とも研磨と思われるが器表の磨滅が著しく詳細は不明である。32は須恵器坏である。69、70は須恵器の坏蓋である。69は天井部が丸味をもつが、70は扁平で端部が短く屈曲する。71～77は白磁である。71～73はIV類の碗で胎土は灰白色、釉は緑を帯びた灰白色である。71は内面に釉だれが認められ、体外半釉である。73は見込に沈圏線をもち、高台まで釉がかかる。74～76はV類の碗である。74は口縁外面に段をなし、内面に沈線をもつ。76は小碗で外面に波状線、内面に沈線をもつ。胎土は淡灰色で釉は青味を帯びた淡灰色である。77は高台付皿底部である。胎土は黄白色、釉は灰白色である。78は陶器C群の片口の捏鉢で無釉である。口径24.6cm、器高9.3cmである。口縁内面を波状に肥厚させる。胎土に砂粒を多く含み茶褐色を呈する。上層から備前焼、青磁が出土しているが混入であろう。

1059号土壙 (Fig.108, PL.18)

L－03区、1058号土壙と1067号土壙の間に位置する。平面形は円形で径1.2m、深さ0.7mを

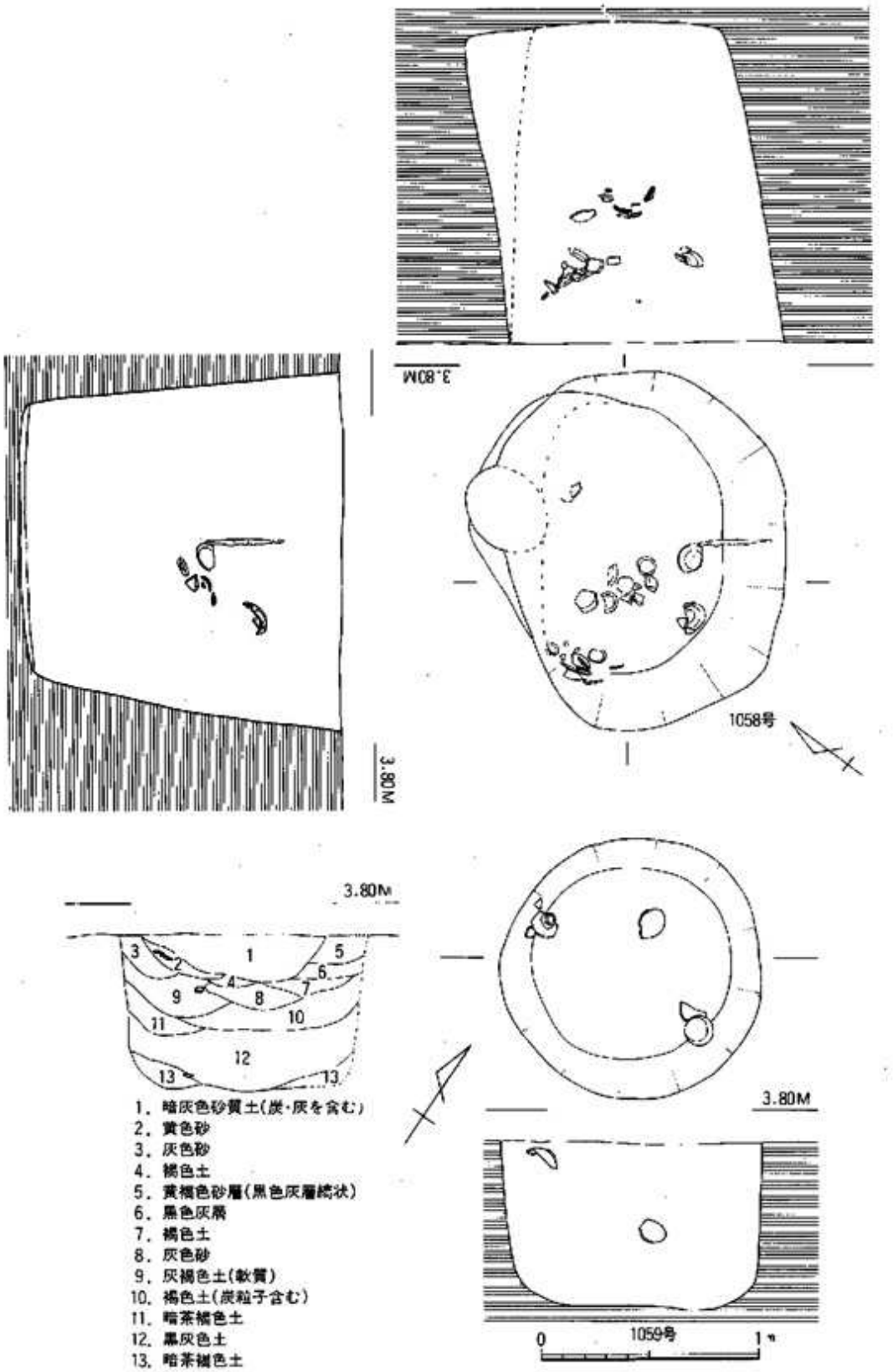


Fig.108　1058・1059号 I:塘実測図(縮尺：1／30)

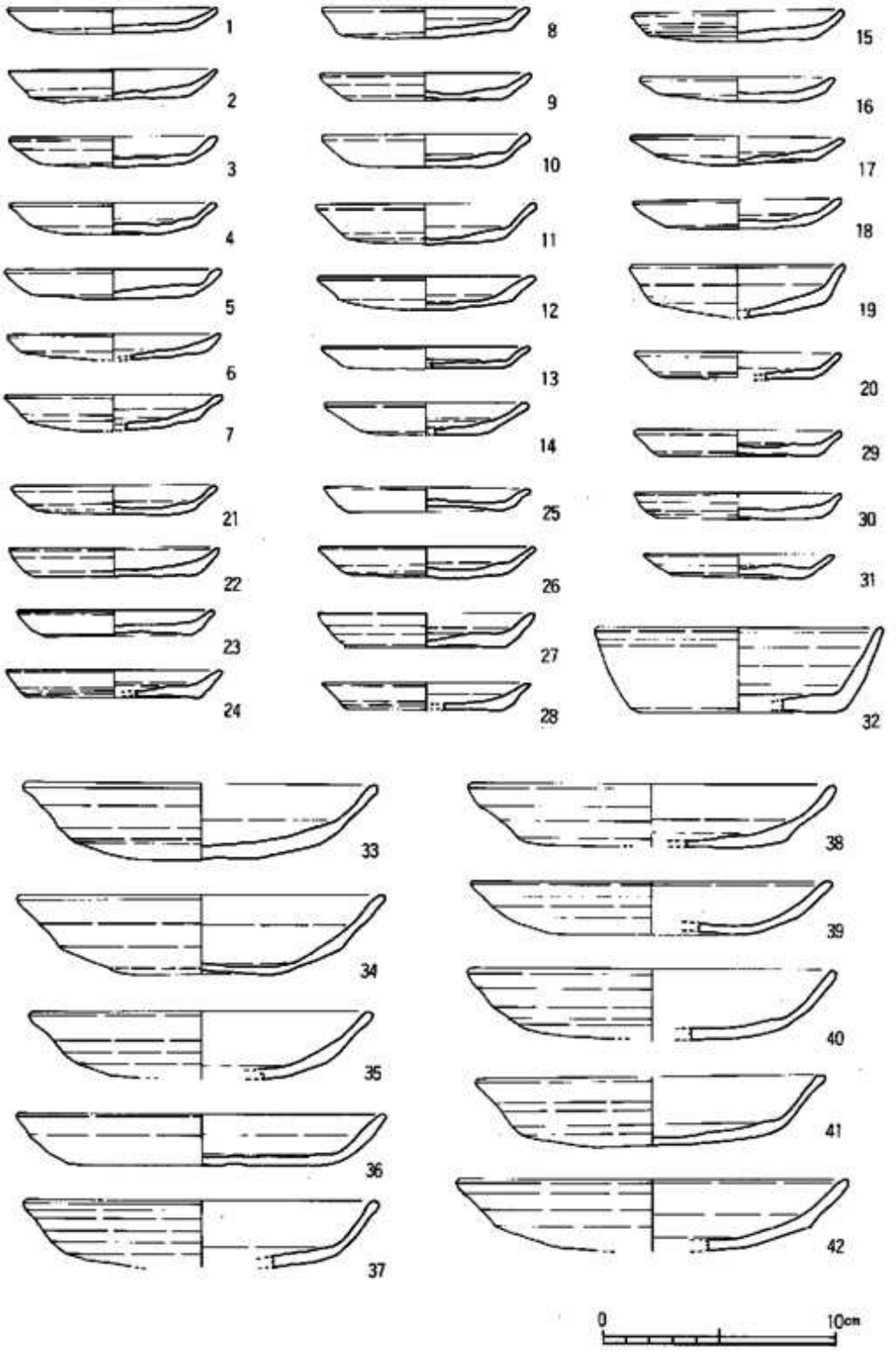


Fig.109　1058号土壙出土遺物実測図(1)

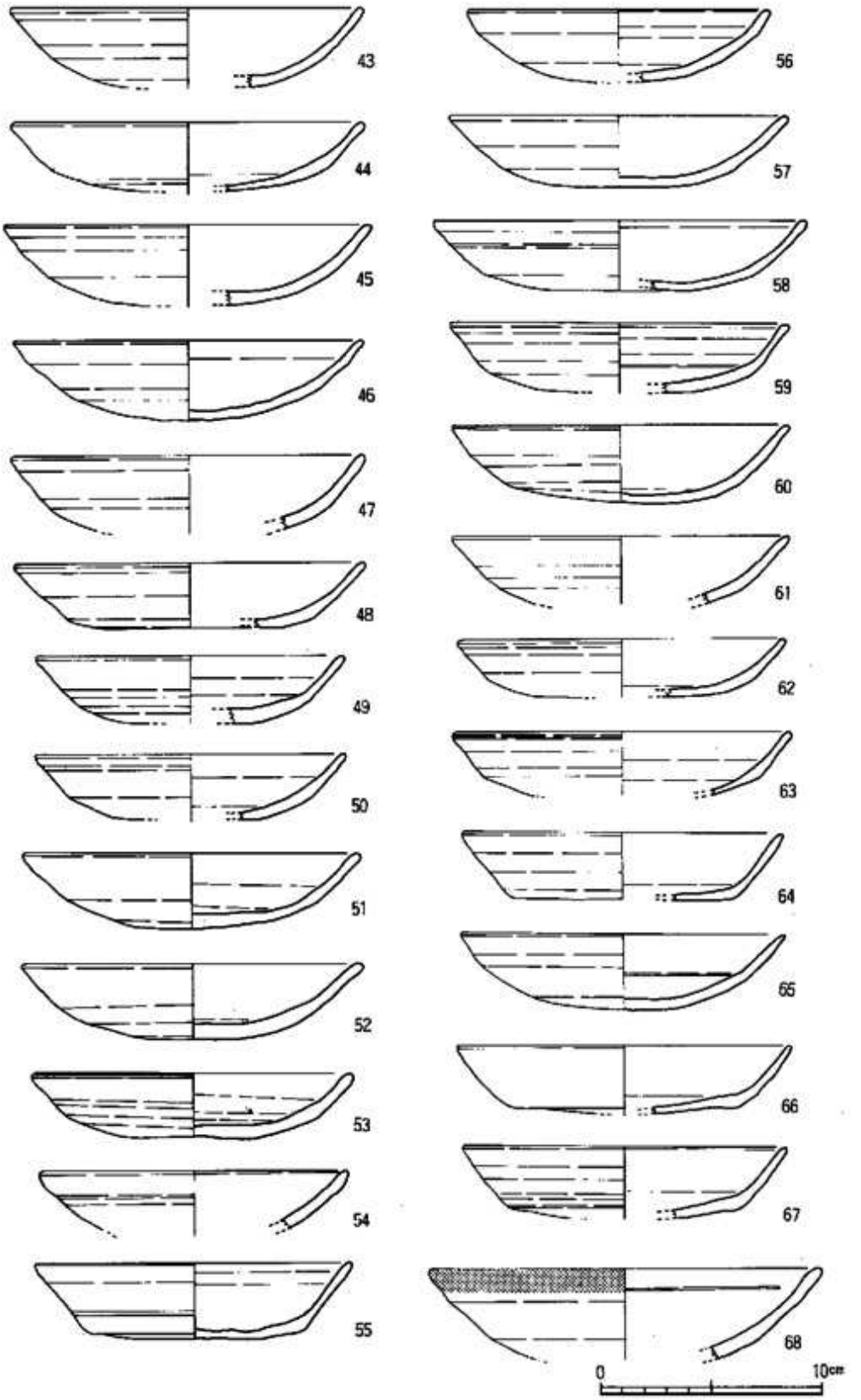


Fig.110　1058号土壙出土遺物実測図(2)

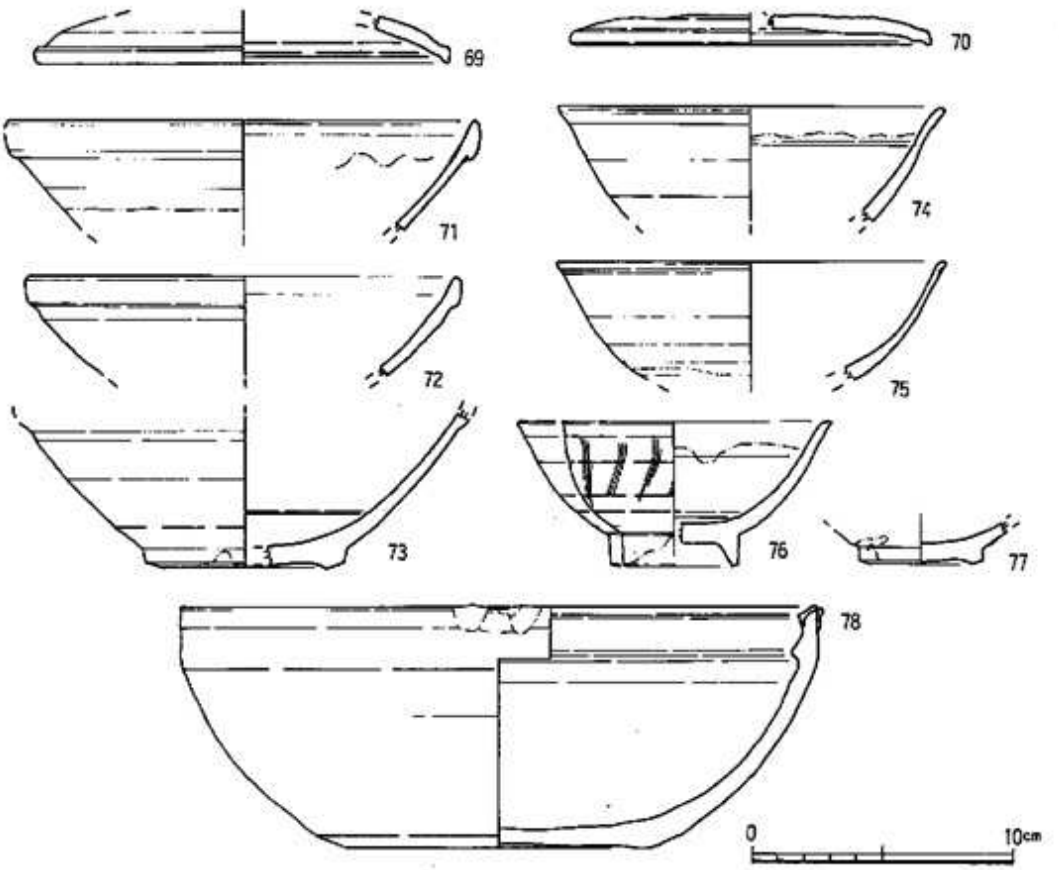


Fig.111　1058号土壙出土遺物実測図(3)

測る。円筒形の土壙墓であろう。壁面はほぼ垂直で床面は平である。覆土は上層が暗灰色土で木炭、灰を含む。中層は灰褐～褐色土で全体にしまりがなく柔い。下層は黒灰色で遺物を多く含んでいる。中、上層で白磁碗3点が出土している。

出土遺物（Fig.112～114，PL.33）

1～8は土師器皿である。1～3、5～8は底部ヘラ切りである。口径8.6～9.6cm、器高1.1～1.8cmを測る。1、2、6～8はヘラ切りの上に板状圧痕がある。2、6には体部に斜めに粘土継目があり粘土板を貼り合わせて整形したものであろう。4は底部糸切りの上に板状圧痕があり、口径9.6cm、器高1.2cmを測る。9～12は土師器の坏で丸底である。9～11は口径14.8～15.4cm、器高3.4～3.7cmを測る。12はひとまわり大きく口径17.5cmを測る。底部にヘラ切りの後板状圧痕がつく。13～15は瓦器埦である。14の内面は丁寧なヘラ研磨である。13、15は体部下位に緩かな稜をもち、低い高台となる。内外面とも粗い研磨である。16、17は須恵器である。16は扁平な坏蓋で端部を折りまげる。内面に自然釉が認められる。17は高台付坏である。低い逆台形の高台を貼りつける。28は土師器の甑の把手である。外面に指跡の調整痕が残る。27は滑石製の容器蓋である。遺存しているのは約2分の1であるが、楕円形の扁平な板の中心部に長

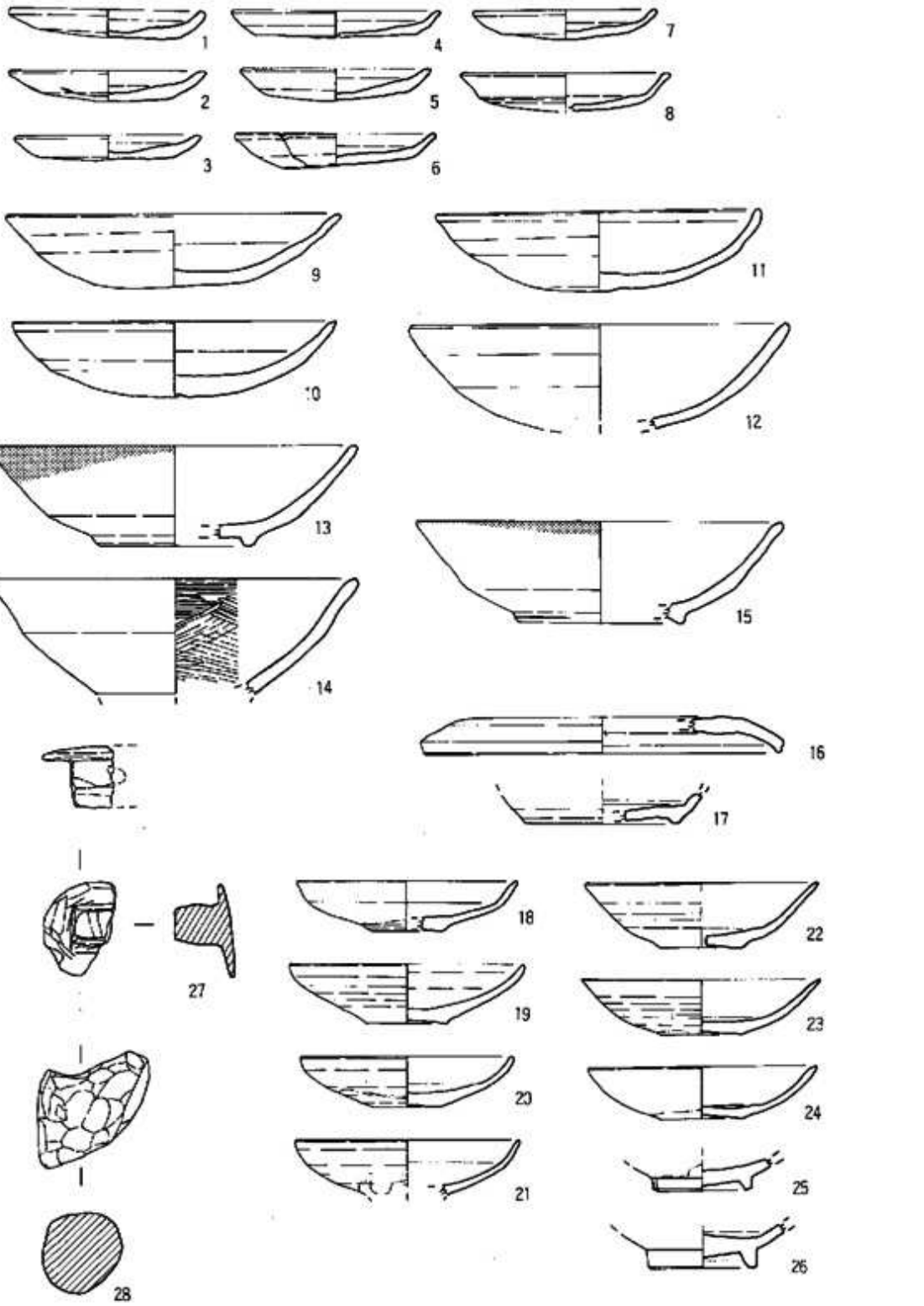


Fig.112　1059号土壙出土遺物実測図(1)

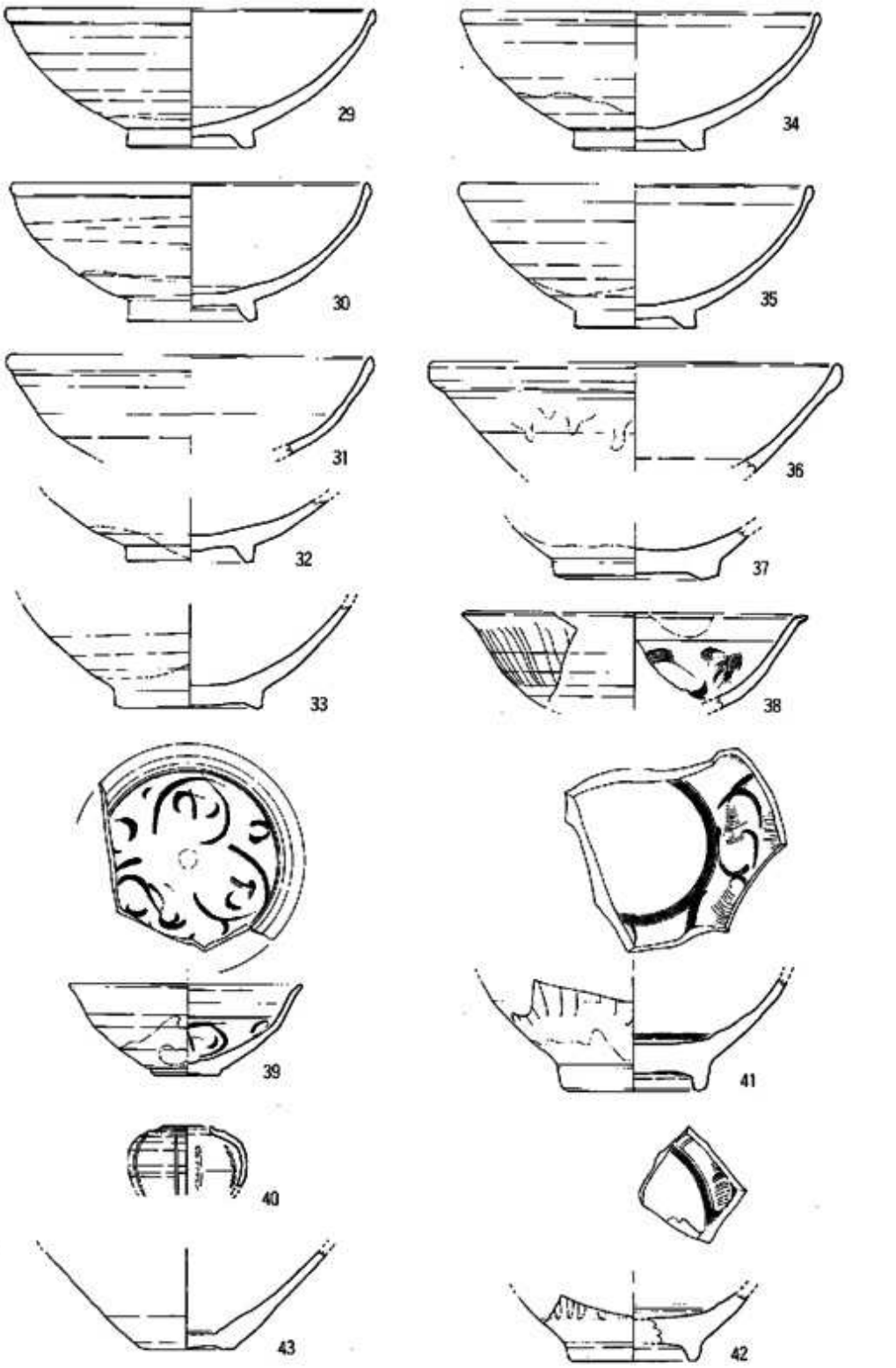


Fig.113　1059号土壙出土遺物実測図(2)

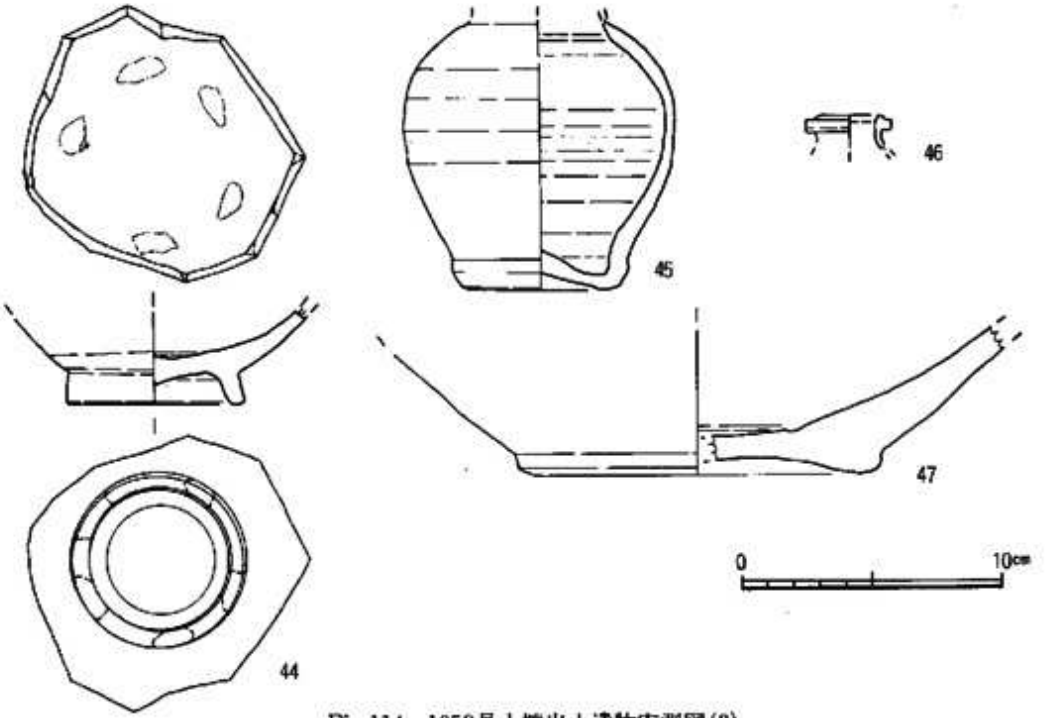


Fig.114　1059号土壙出土遺物実測図(3)

方形の把手を削り出している。把手には1個の穿孔が認められる。18～26は白磁の皿である。18～21、24はII類の皿で体部中位に稜をもつのもある。胎土は黄味を帯びた灰白色、釉は黄白色～灰白色で底部脇から露胎である。22、23は口縁部が外反するIII類に近い皿で胎土は灰白色で釉は緑を帯びた灰白色である。25、26は高台付皿で外面は露胎である。29～38は白磁の碗である。29～35はII類の碗で口縁が小玉縁になり、低い高台である。胎土は淡灰色ないし白色で細砂粒を少し含み、釉は緑を帯びた灰白色である。36、37はIV類の碗で36は見込に沈圏線をもつ。37の外面は露胎である。38はVI類の碗で外面に波状の縦線文、内面に櫛描文様をもつ。胎土は白色で緑灰色の釉を施す。40は白磁の小壺である。球形の胴部で肩部に段がつき直立し短い口縁となる。胴部外面はヘラで縦線を刻み割瓜状とする。内面にもその押圧痕が残りひび割れしている。39は連江窯系の青磁小碗である。低い輪高台で、体部中位で屈曲し、外反して口縁部となる。内面にはヘラ描文様をもつ。胎土は淡灰色で緑を帯びた黄灰色釉である。41、42は同安窯系青磁碗である。体部外面に幅広の縦線、内面にヘラ、櫛描文様をもつ。胎土は灰白色で緑灰色の釉を施す。43、44は高麗青磁碗である。43の胎土は淡灰色で青味を帯びた緑灰色の釉で氷裂が入る。全面施釉で畳付は釉をふきとり、目跡が残る。44は高い高台の碗で畳付を除き全面施釉する。胎土は淡灰色で釉は緑灰色を呈し、畳付、見込に目跡が残る。45は陶器壺である。胎土は赤味の強い茶褐色で暗褐色の釉を施す。46は緑釉の小壺で、口縁部に突帯をめぐらす。胎土は褐色を帯びた灰白色で淡緑灰色の表面には光沢はない。47は陶器C群の無釉摺

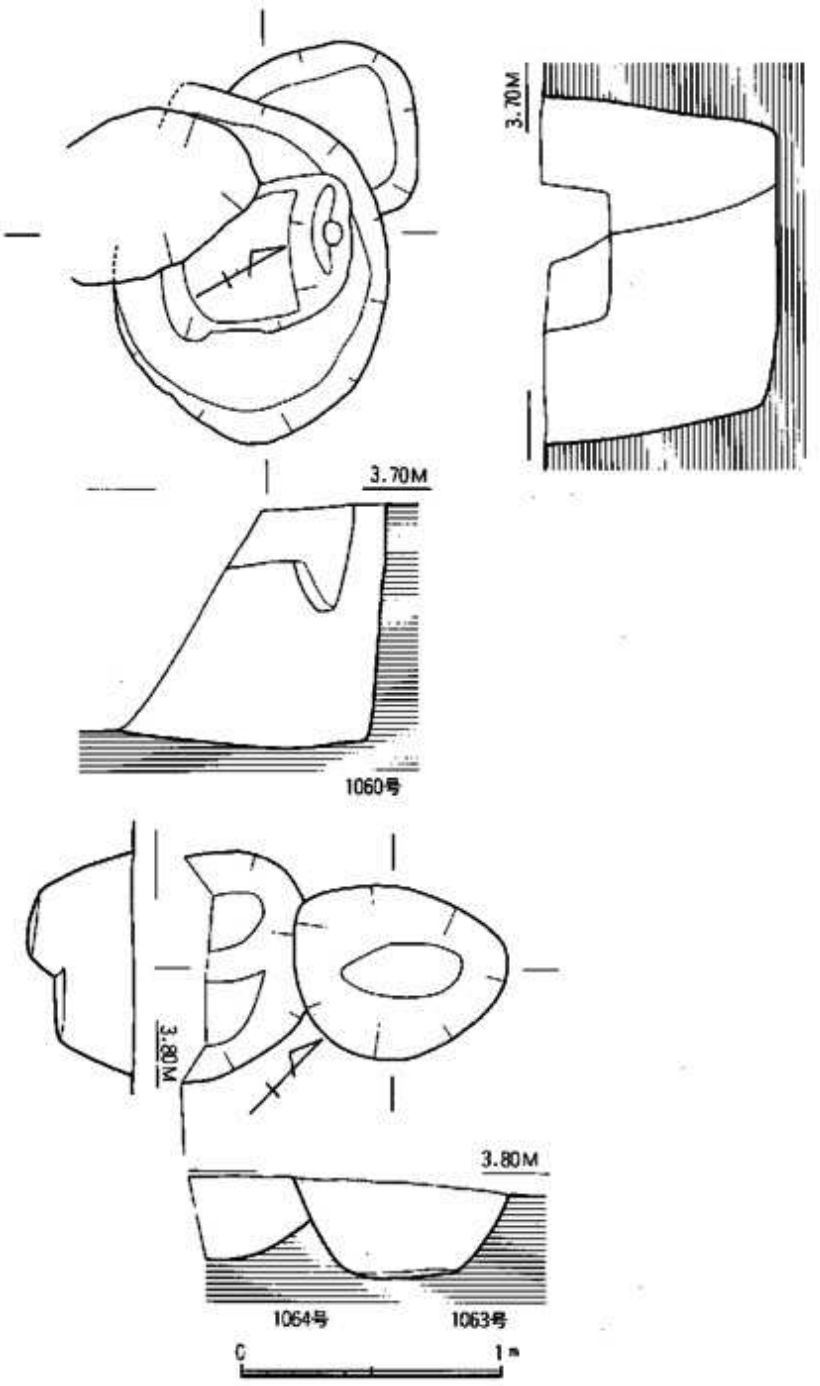


Fig.115　1060·1063·1064号土壙実測図(縮尺：1／30)

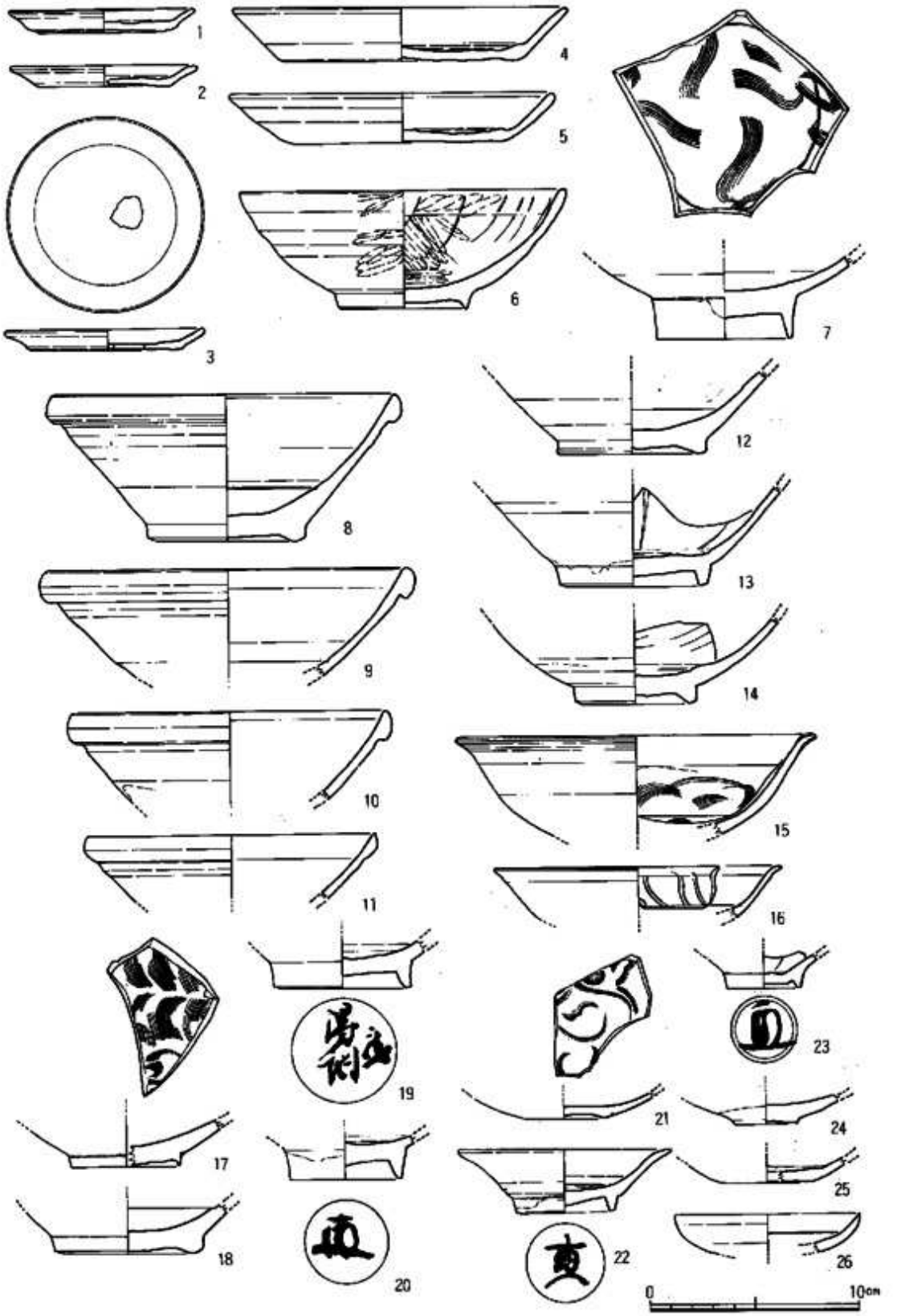


Fig.116　1060号土壙出土遺物実測図(1)

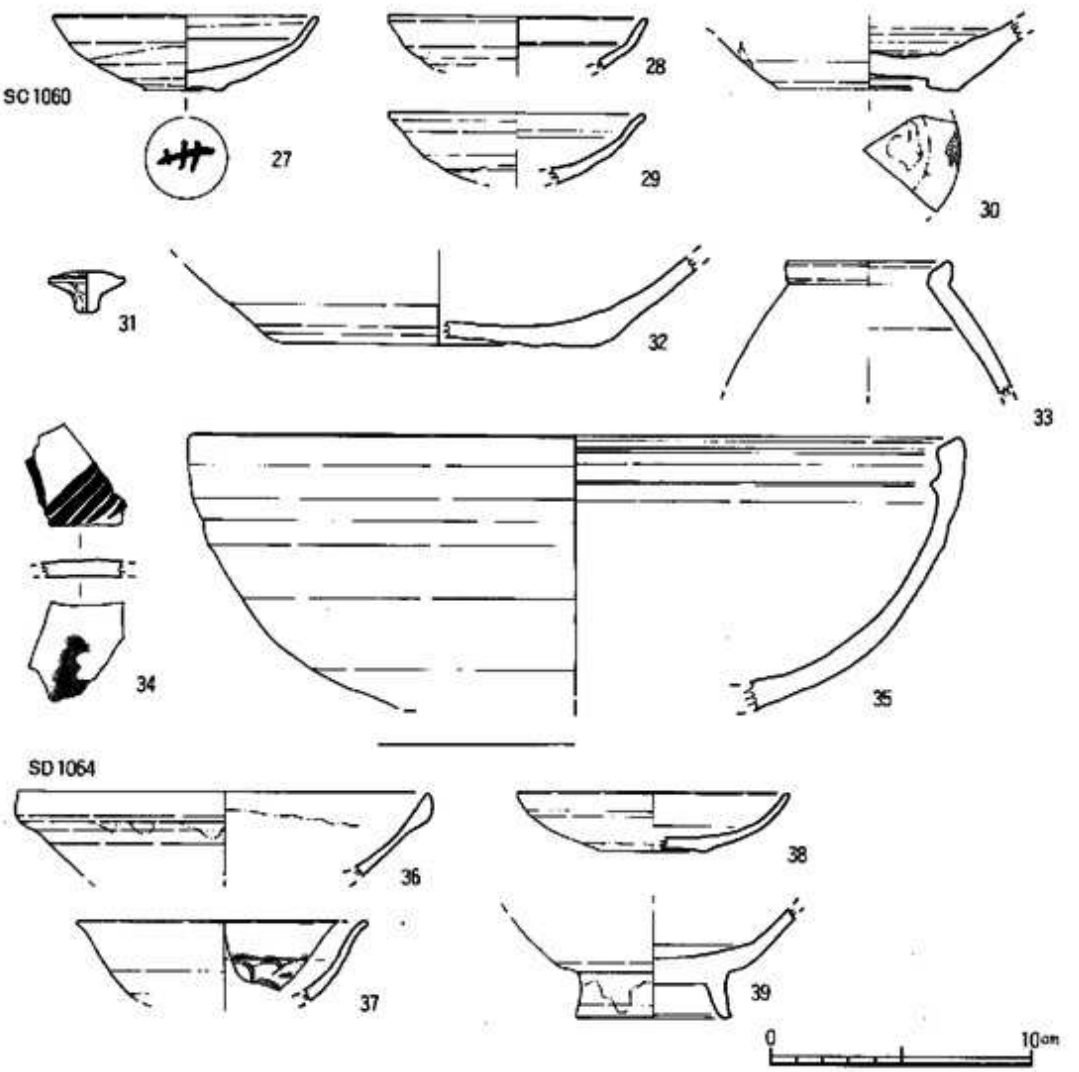


Fig.117　1060号(2)·1064号土壙出土遺物実測図

鉢である。胎土に砂粒を多く含み褐色を呈する。

1060号土壙（Fig.115, PL.19）

K－02区、II区の東北部に位置する木棺墓である。IV面で木棺部、V面で掘り方を検出した。木棺の掘り方は0.72×0.55mで北側の小口部のみ0.25×0.5mの規模で掘り下げる。覆土は灰褐色粗砂である。掘り方は1.35×1.05m、深さ0.95mを測る。壁面はほぼ垂直で床面は平である。

出土遺物（Fig.116・117－27～35, PL.35）

1～3は土師器皿で底部糸切りである。口径8.8～9.3cm、器高1.0～1.1cmを測る。3は底部に1.5cmの穿孔をもつ。4、5は底部糸切りの土師器坏である。口径15.4～15.9cm、器高2.4～2.7cmを測る。6は瓦器塊である。内底面は丁寧なヘラ研磨で口縁部～外面は粗い研磨である。内面には縦位のヘラ痕が残る。7～16、18～29は白磁である。7、15、16はVI類の碗で高い高台

で内面に櫛描文様をもつ。8～12はIV類の碗で玉縁口縁である。胎土は灰クリーム色ないし暗灰色で釉は灰白色ないし乳白色である。13は見込の釉を掻きとり、内面に白堆線を入れる。胎土は灰白色で露胎部は明灰色を呈する。釉は黄味を帯びた灰白色である。14は内面に整形時のものかもしれないヘラ模様のようなものがある。17は青白磁の碗で細い高台である。見込に櫛描、ヘラ描文様をもつ。高台内面は露胎である。19、20、22、23、27は墨書がある。19は「得綱」で他は花押であろう。23～29は皿である。31は手捏の小壺の蓋である。天井部のみ白灰色の釉でその下は露胎である。胎土は灰白色で露胎部はクリーム色である。30、32～35は陶器である。30はB群の壺類の底部で目跡が残る。33はB群長瓶で胎土は灰茶褐色で釉は暗茶褐色である。35はC群の無釉鉢で口縁内側を波状にし、肥厚させる。胎土には白い砂粒を多く含み暗茶褐色である。34はA群の黄釉盤で見込に鉄彩がある。外面は露胎で墨書があるが判読不能である。

1063号土壙（Fig.115）

K－01区、II区の中央西壁寄りに位置する土壙である。平面形は楕円形で規模は0.8×0.65m、深さ0.3mを測る。断面皿状の浅い土壙で遺物は土師器皿の小片のみである。

1064号土壙（Fig.115）

K－01区、1063号土壙に切られて西側に位置し、西側は調査区外へと拡がる楕円形土壙である。現状では半円形で幅0.9m、長さ0.3m以上、深さ0.4mを測り、二段に掘り込まれている。覆土は暗褐色砂質土である。

出土遺物（Fig.117－36～39）

36はIV類白磁碗である。胎土は灰白色で淡黄灰白色の釉である。37は連江窯系青磁小碗で内面にヘラ描文様をもつ。胎土は灰肌色、釉は黄灰色で全体に貫入がある。体外下半は露胎である。38は白磁の皿II類である。乳灰色の胎土に淡黄灰褐色の釉を施す。39はV類の白磁碗である。

1066号土壙（Fig.118, PL.19）

K－01区、1042、1051号土壙に切られて南側に位置する土壙である。西側は調査区外へ延びる長楕円形土壙で現状の規模は幅1.2m、長さ1.45m、深さ0.95mを測る。壁面は緩傾斜を示し、床面は丸くなる。覆土は灰褐色砂質土で木炭 灰も少量混じる。廃棄用土壙で出あろう。12世紀後半のものであろう。

出土遺物（Fig.119・120, PL.35）

1～20は底部ヘラ切りの土師器皿である。口径は9.0～10.0cm、器高は1.5cmに大部分は収まる。3、15、16、20は平底で、底部に板状圧痕がつくのが3分の2ほどある。21～36は土師器の坏である。30は底部糸切りで平底となり、板状圧痕がつく。口径14.7cm、器高3.4cmを測る。他は底部ヘラ切りで22を除き丸底である。口径14.4～15.8cm、器高2.8～3.6cmである。ほとんど

の底部に板状圧痕がある。37、38は須恵器である。37は蓋で端部を短く屈曲させる。38は高坏で内面にロクロ目が残る。40は土師器の小型甕である。内面はナデ調整で、外面は刷毛目が残る。41は土師質土鍋の口縁部である。焼成が良く瓦質に近い。短い鍔をつけ内傾した口縁部となり、上面を窪ませる。胎土には砂粒を多く含み黒～灰褐色である。42～49、51は白磁である。42、43、45はIV類の碗である。45は3分の2の遺存で口径16.0cm、器高6.6cmを測る。見込に沈圏線をめぐらし、体外半釉である。胎土は灰白色で釉は淡緑灰色である。46、47はII類の碗である。44は体部の立ち上がりが急な深い碗である。胎土は灰白色で緑灰白色の釉を施す。高台脇から底部は露胎である。50は同安窯系青磁碗の底部である。全面に灰緑色の釉を施し畳付に目跡が残る。48はIV類の皿で内面に白堆線をもつ。49は白磁の高台付皿I類である。体外半釉。51は小碗の底部で外底面に墨書する。花押か。52は青白磁の皿である。口縁部を輪花とする。胎土は精良で白色、釉は淡青灰色である。底部は兼窯底風で露胎である。39は無釉盤口水注の口縁部である。胎土は黒色砂粒を多く含み、暗灰色を呈する。

1067号土壙（Fig.121）

L－03区、1059号と1069号土壙の間に位置する隅丸方形の近世の土壙である。地下室撹乱の下に位置するためこの部分はIII面までは掘り下げなかったのでIV面の遺構となったが、本来I面の遺構である。規模は1.9×1.7m、深さ1.1mを測る大型土壙である。覆土は灰褐色、暗褐色

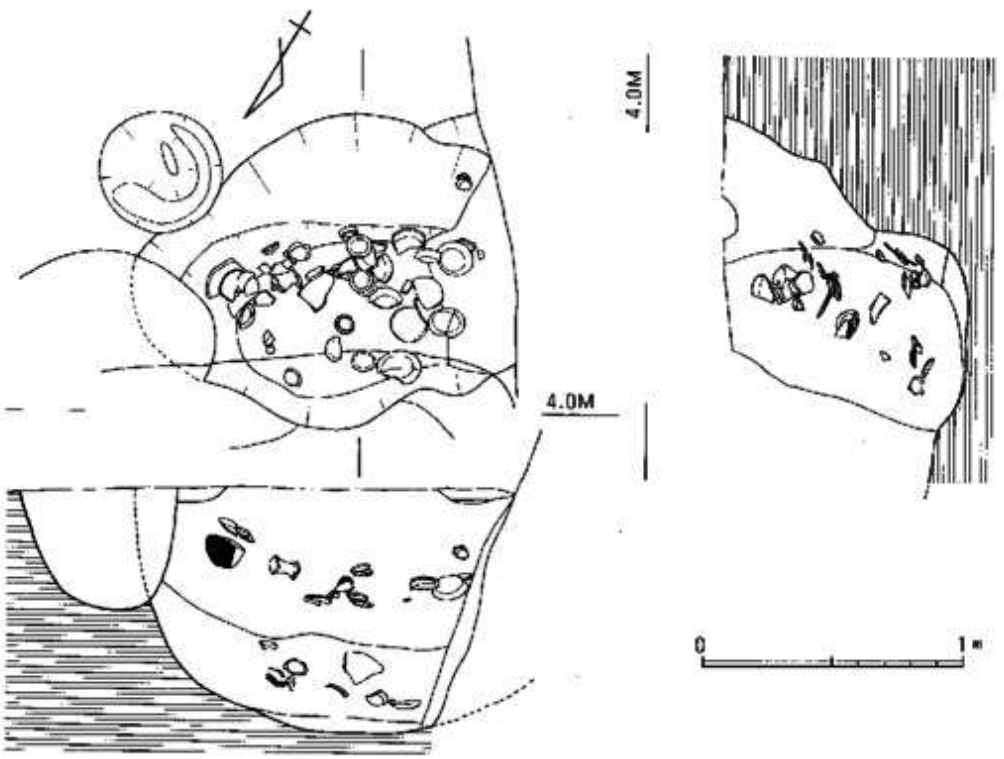


Fig.118　1066号土壙実測図（縮尺：1／30）

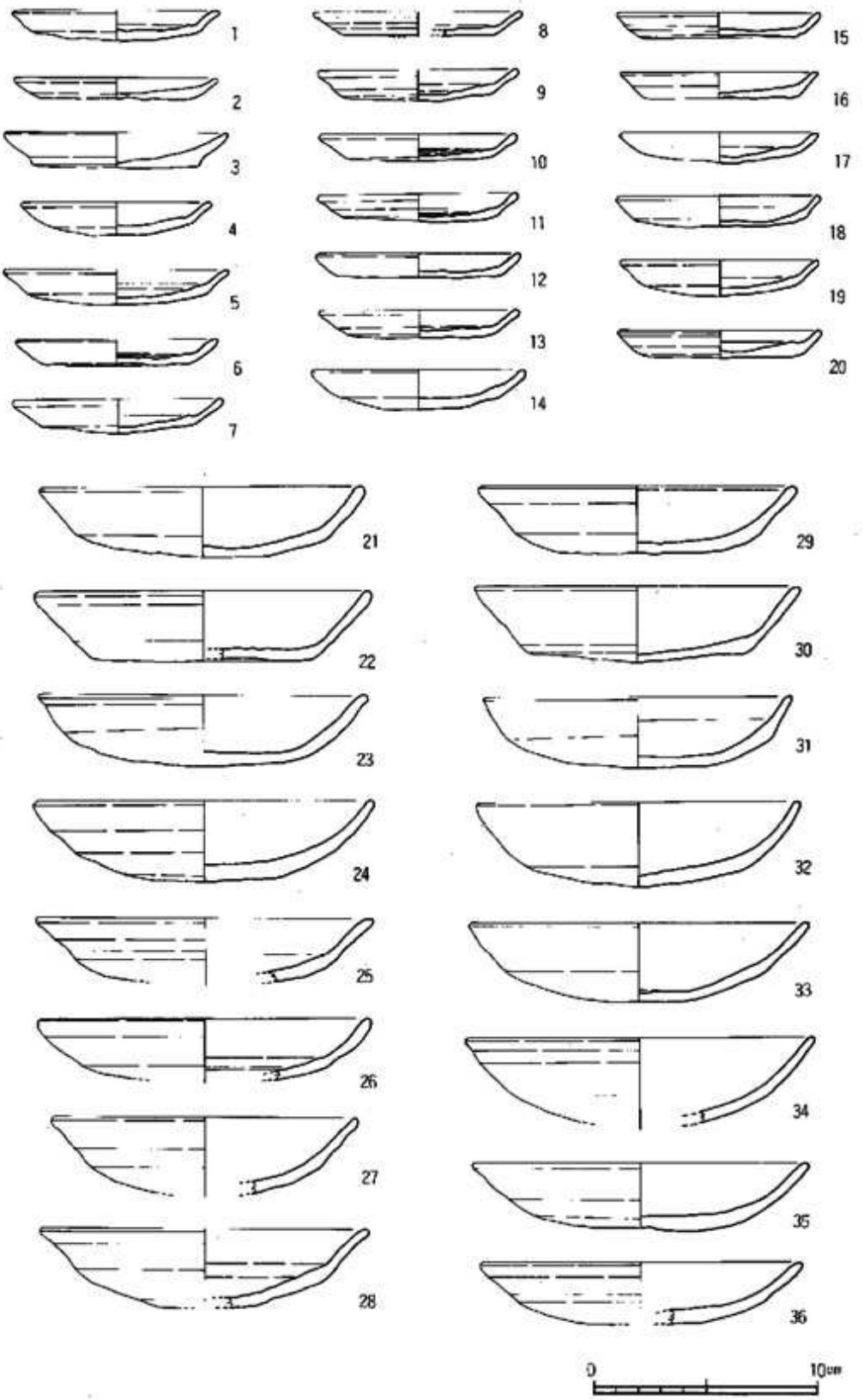


Fig.119　1066号土壙出土遺物実測図(1)

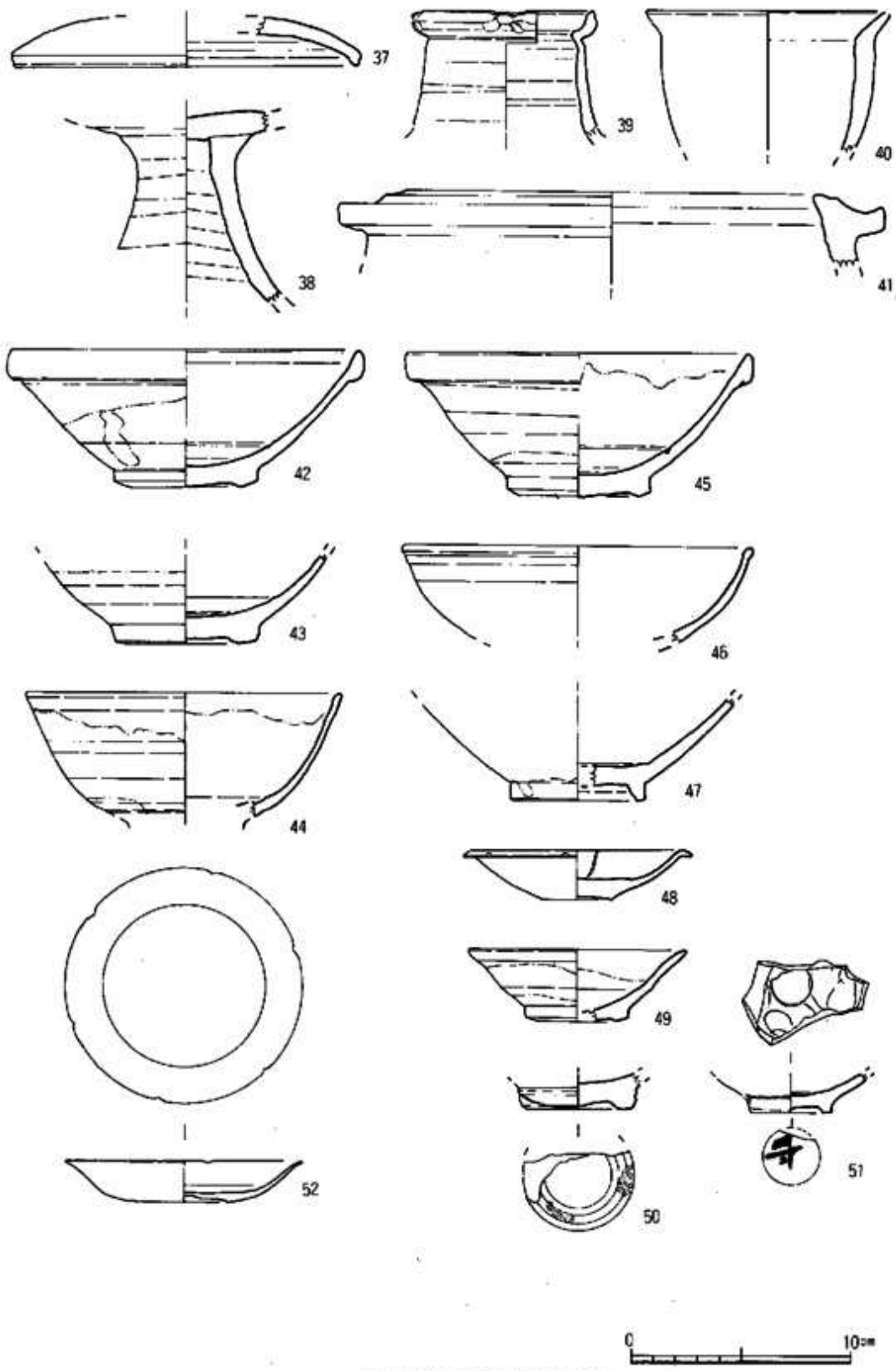


Fig.120　1066号土壙出土遺物実測図(2)

土の小塊で一時的に埋められたものである。出土遺物は図示した他に土鈴、備前焼擂鉢、有田焼染付等がある。

出土遺物（Fig.122, PL.35・53）

1～4は土師器坏で底部糸切りである。5は須恵器の底部である。7はIV類の白磁碗である。外面に釉だれが認められる。15は瓦質の擂鉢である。9、10はロハゲの皿である。底部は釉をふきとるが大部分は遺存する。11は青白磁の小壺で口縁部は釉をふきとる。胎土は白色で淡青白色釉である。12は龍泉窯系青磁碗で見込に「王」と陽刻する。13は同安窯系青磁碗で内面にヘラ、櫛描文様、外面に縦線をもつ。胎土は灰白色で淡黄緑灰色の釉をかける。14は天目碗で黒褐釉で体外半釉である。16は陶器A群の盤である。口縁部には目跡があり帯状に露胎となる。

1068号土壙（Fig.123, PL.20）

K－01区、II区の北端に位置する大型土壙である。I面で996号、III面で1049、1052号とした土壙と呼んだのが、一つの土壙となった。東側を近世の143号井戸に切られるが、ほぼ円形を呈する。規模は1.8×1.9m、深さ1.5mを測る。壁面は緩やかな傾斜を示し床面は丸くなる。覆土は茶褐色の砂質土で下層は黄白色砂層、灰褐色砂質土である。13世紀前半の土壙であろう。

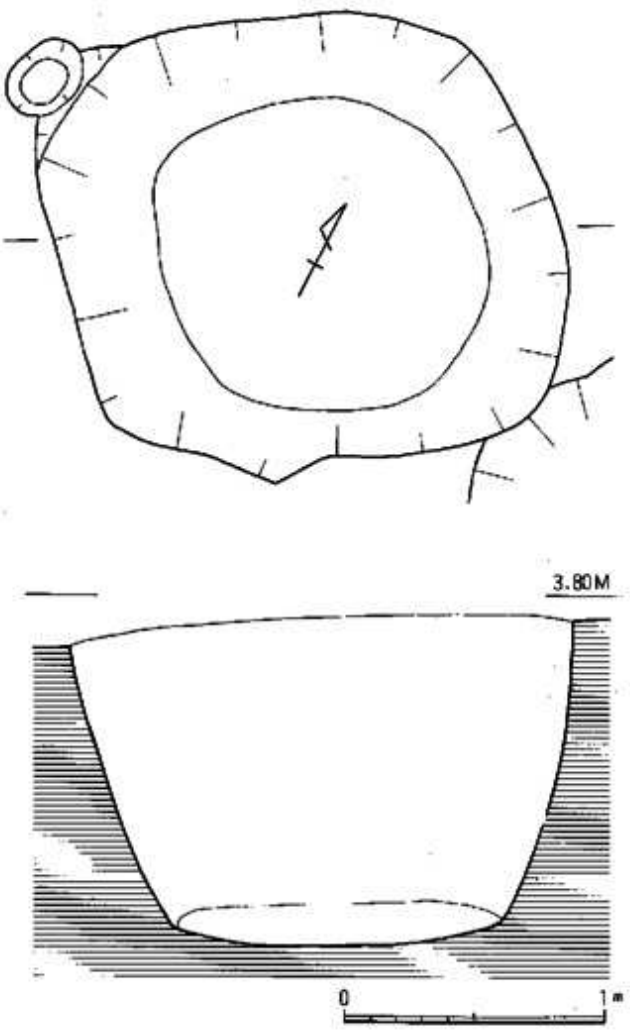


Fig.121　1067号土壙実測図（縮尺：1／30）

出土遺物（Fig.124・125, PL.35）

1、2は土師器坏で底部糸切りである。1は大きく口径16.0cm、器高2.5cmを測る。3～12は白磁である。3～8は碗で4はVI類、8はII類であろう。7の内面には櫛描文様をもつ。9は高台付皿V類で見込に櫛描文をもつ。高台脇～底部は露胎である。10、11は平皿で11の外底面に花押を墨書する。13～16は青磁である。13～15は龍泉窯系青磁である。13は皿で内面にヘラ描文と櫛描文様をもつ。胎土は暗灰色で灰オリーブ色の釉を施す。底部は露胎である。14は

蓮弁文碗である。15、16は同安窯系青磁碗である。内面にヘラ描、櫛描文、外面に幅広の櫛描文様をもつ。胎土はくすんだ鉛色で釉は灰～茶オリーブ色である。18は天目碗で外底に花押を墨書する。17はC群の捏鉢、19はD群の鉢で外底に焼台の陶片が付着している。

1069号土壙（Fig.126, PL.20・21）

L－04区、144号井戸と1067号土壙の間に位置し、両遺構から切られている。平面は東壁を切られるが略円形を示し、規模は径1.9m、深さ1.55mである。覆土は上層が褐色砂質土で中層が木炭と黄白色砂混入の褐色土で遺物を多く含んでいる。下層は暗褐色土で少し粘質をもつ。遺物は西壁寄りに集中して出土し、土層に沿って中心部が深くなり、西壁上より投棄された状況を示す。上器は完形品の坏、皿類が多く、白磁の皿や墨書の碗も出土して廃棄用遺構であろう。

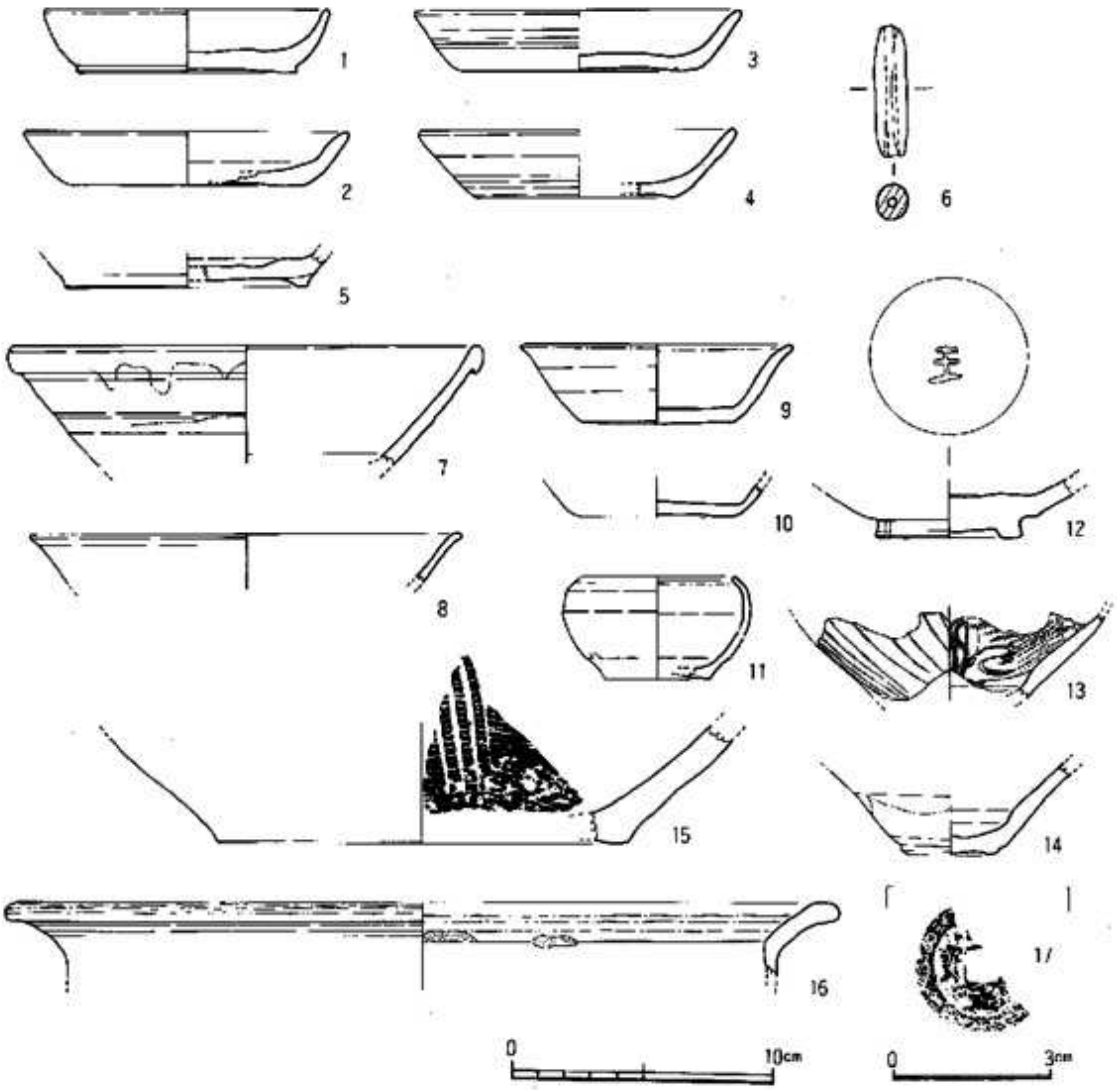


Fig.122　1067号土壙出土遺物実測図

12世紀前半の土壙である。

出土遺物（Fig.127～130，PL.36・37）

1～46は土師器皿である。1～10、17～25、32～40は底部ヘラ切りで板状圧痕がつくものである。11～16、26～31、41～46は底部糸切りで板状圧痕がつくものである。この中で11、12、15、16、29、30は口唇部の両端を少し押さえて窪ませている。口径はほぼ9.0cm、器高1.2cm前後を測るものが多い。47～57は土師器坏である。底部が糸切りとヘラ切りがある。47～50は底部ヘラ切りで板状圧痕がある。51～57は底部糸切りで板状圧痕がある。口径15.0cm、器高3.3cmを測るものが大半である。体部は横ナデ、内底はナデである。51の内底には全体に墨書があるが判読できない。58は高台付土師器坏である。59～62は瓦器埦である。59、62の内面は細かい丁寧な研磨である。60は横位の粗い研磨で、61は内底に向って縦位の研磨である。63、64は須恵器である。63は坏蓋で端部を屈曲させ、天井部が丸味をもつ。64は長頸壺で肩部に稜をもつ。胴下半は縦位のヘラ削りで底部にヘラ描文様をもつ。また肩部にも「×」印のヘラ描を行う。65～86は白磁である。65、66はII類の碗である。胎土は乳灰白色で黄味を帯びた灰白色釉で高台脇まで施釉する。67はO類の碗で外反する口縁で内面に白堆線をもつ。胎土は白色で灰白色の釉を高台まで施釉する。69～74はIV類の碗である。玉縁口縁には大、小あり、折り曲げた痕が明瞭に残るもの（69）三角に形づくるもの（72）などがある。見込に沈圏線をめぐらせるものが多い。75～79はV類の碗である。高台は高く口縁部は外反する。78、79の外面は波状の沈線をもつ。80、81には墨書がある。80は上に「王」その下に花押、81は「程」と墨書する。82、83はIV類の皿で口縁を折り返し幅広くし、内面に白堆線、口縁

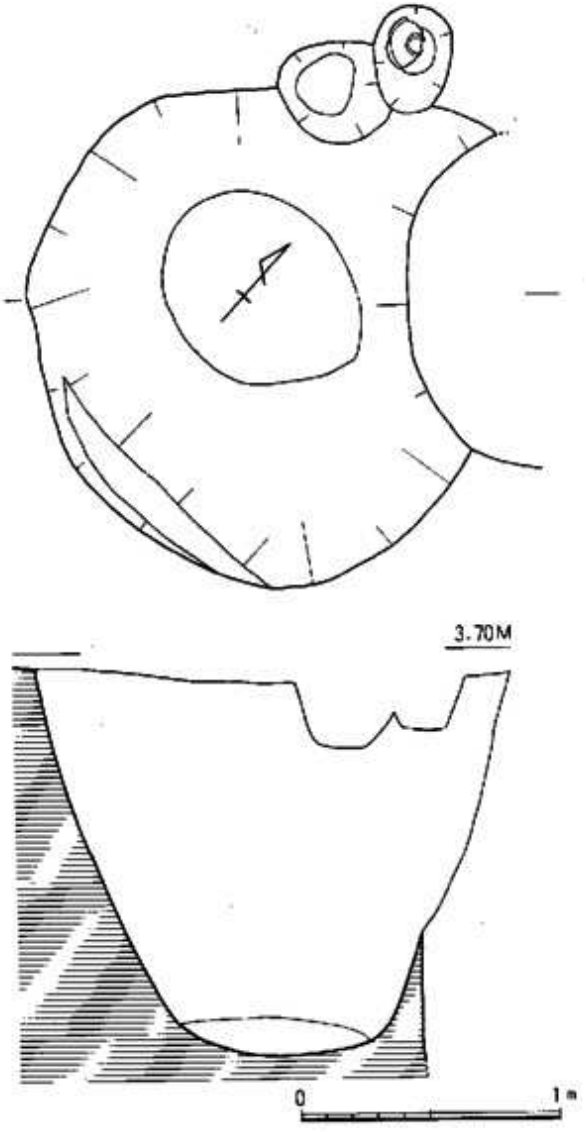


Fig.123　1068号土壙実測図（縮尺：1／30）

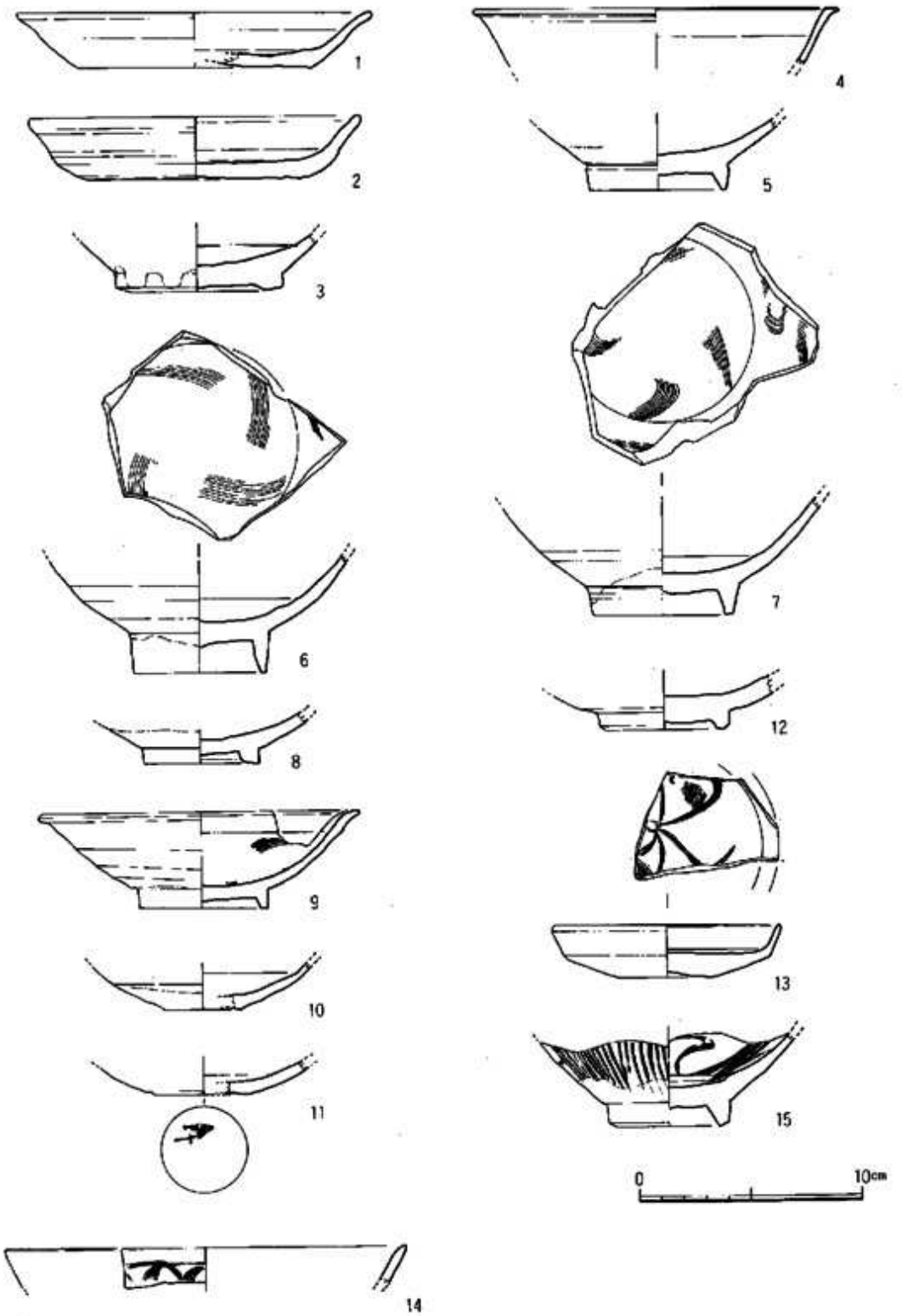


Fig.124　1068号土壙出土遺物実測図(1)

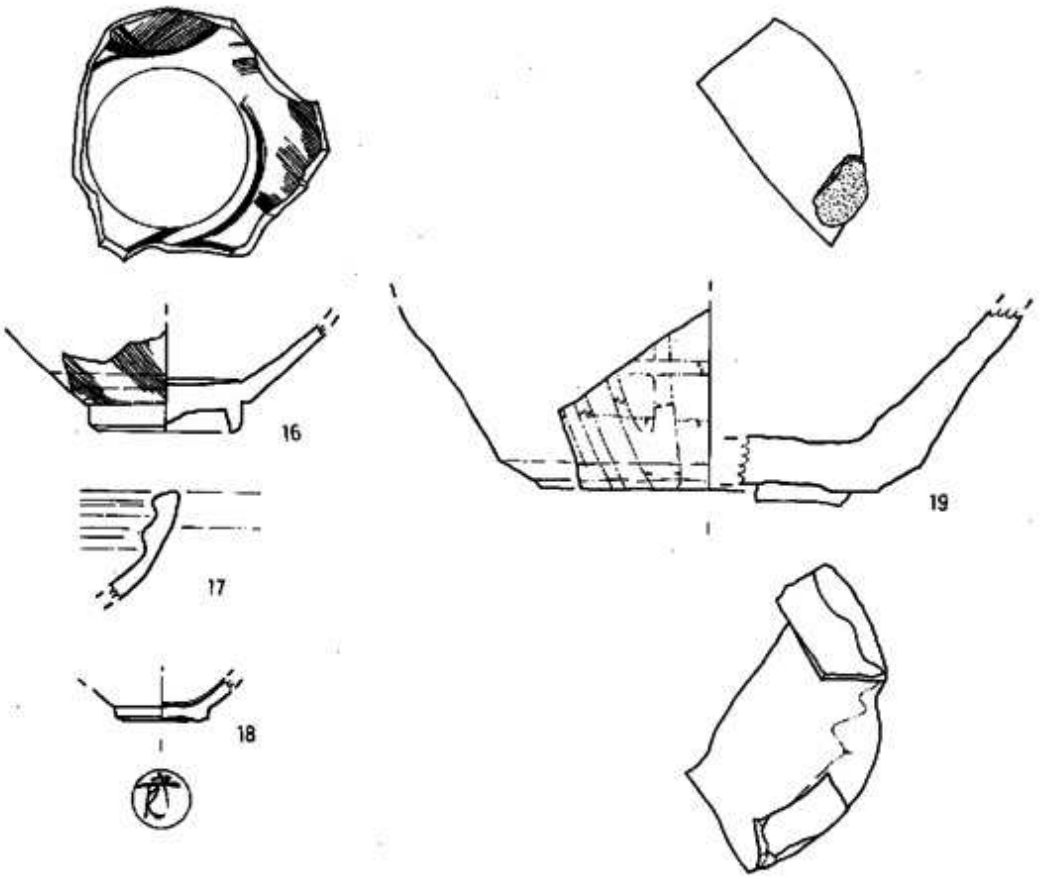


Fig.125　1068号土壙出土遺物実測図(2)

に刻目を入れる。いずれも完形品である。84～86は0類の皿で見込に弧状の細線文様をもつ。胎土は灰白色で淡黄白色の釉である。87は壺の蓋で内面は露胎である。胎土、釉とも灰白色である。88は栓状の小壺の蓋で天井部のみ淡黄灰白色釉をかける。89は白磁の小碗で外底部を除き鉛色の釉をかける。92は越州窯系青磁の碗で，畳付に目跡が残る。胎土は堅緻で茶白色、黄味を帯びた灰白色の釉を全面に施す。93、94は青白磁である。94は薄いつくりで見込に櫛描文をもち淡青白色の釉をかける精良なものである。91は磁器化していない碗である。胎土は淡灰色で黒色砂粒を多く含み、暗緑灰色釉を施す。90は緑釉陶器の壺口縁部である。外面は光沢がなくなる。胎土は精良で淡茶白色で硬い焼きである。95は白磁の四耳壺の胴部破片である。胎土は淡灰色で淡暗緑灰色の釉をかける。96は銅製金具である。径1.5cmの輪に0.6×0.5×0.7cmの各隅を面取りした立方体を接続する。97は滑石製品である。底部中央を穿孔する。

1070号土壙（Fig.131）

K－02区、II区の中央、1055号と1058号土壙の間に位置する。北側を1055号に土壙に、西側をピットに切られる。平面形は三角形を呈するが床面は長方形である。規模は各辺が約1.5cm、深

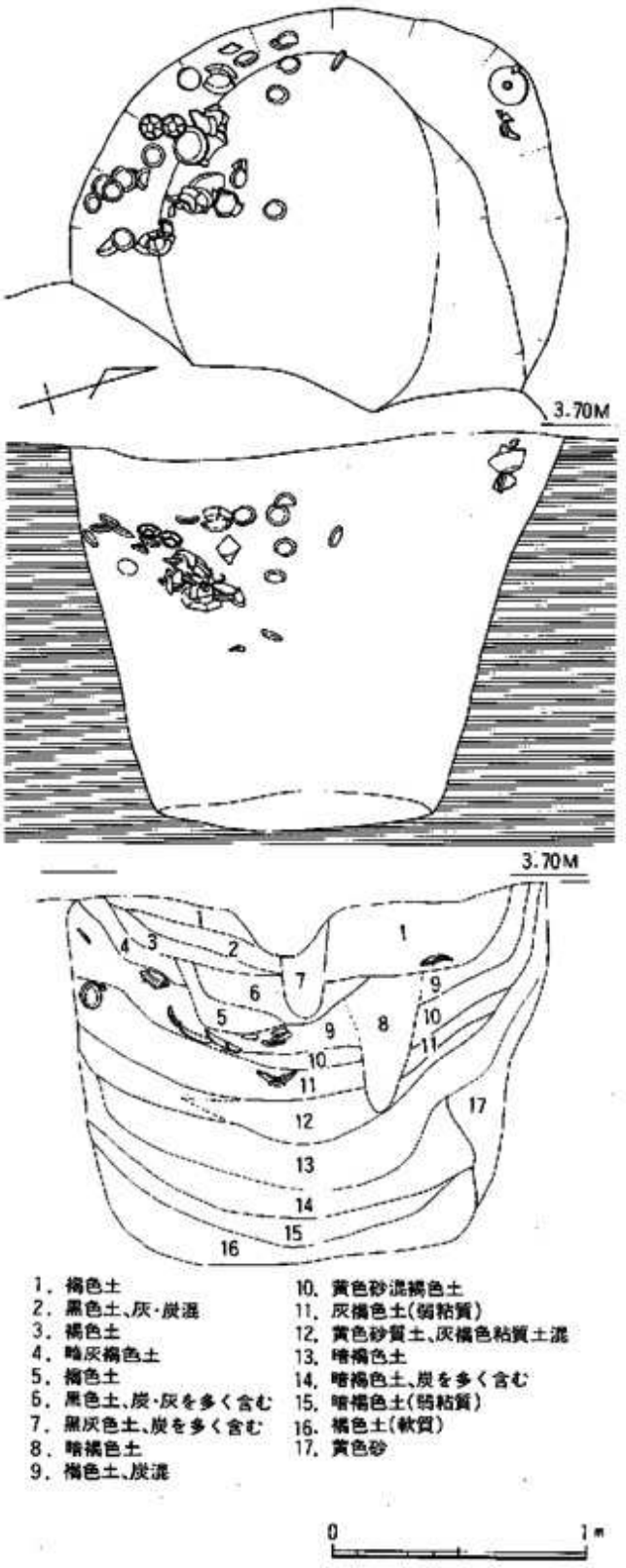


Fig.126　1069号土壙実測図(縮尺：1／30)

さ0.7m、床面の幅0.6m、長さ1.1mを測る。覆土は黒灰色土、黒色土、暗褐色砂質土の縞状堆積を示す。

出土遺物（Fig.132）

1は土師器の坏である。底部ヘラ切りで体部は横ナデ、内面にヘラの研磨状の跡が残る。2は瓦器埦である。外に開く低い高台で内外面ヘラ研磨である。1071号出土の破片と接合している。3～8は白磁である。3、4はIV類の碗で，見込に沈圏線をもつ。胎土は灰白色で釉は灰色で高台脇から底部は露胎である。5はII類の碗である。外底に墨痕があるが判読不能である。6、7はIX類の碗で見込の釉を輪状に掻きとる。7は薄手のつくりで内面に櫛描文様をもつ。外底部に花押を墨書する。8はII類の皿で見込に沈圏線をもつ。胎土は少し黄味を帯びる灰白色で、黄味を帯びる灰色の釉である。9は陶器A群の蓋である。上面のみ金茶色の釉で露胎部は茶色がかったクリーム色を呈する。体部に2個の円孔をもつ。10は陶器C群の捏鉢である。無釉で外面にタタキが認められる。胎土は暗茶褐色で白い砂粒を多く含む。

1071号土壙（Fig.131）

K－02区、1070号土壙の東に位置している。東側を1072号土壙に切られる小判形の土壙墓である。長さ1.75m、幅1.25m、深さ0.5mを測る。壁面はなだらかな傾斜を示し、床面

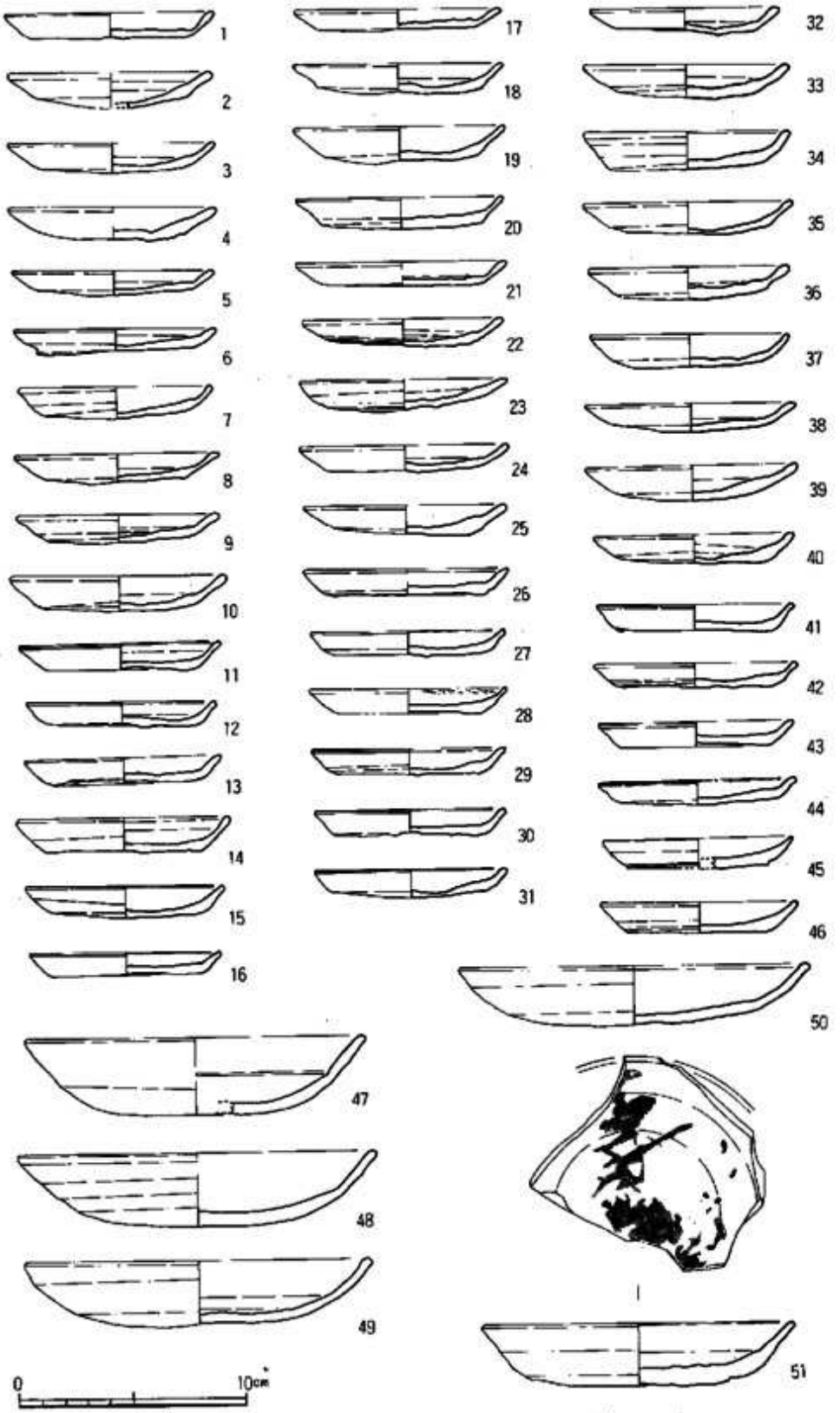


Fig.127　1069号土壙出土遺物実測図(1)

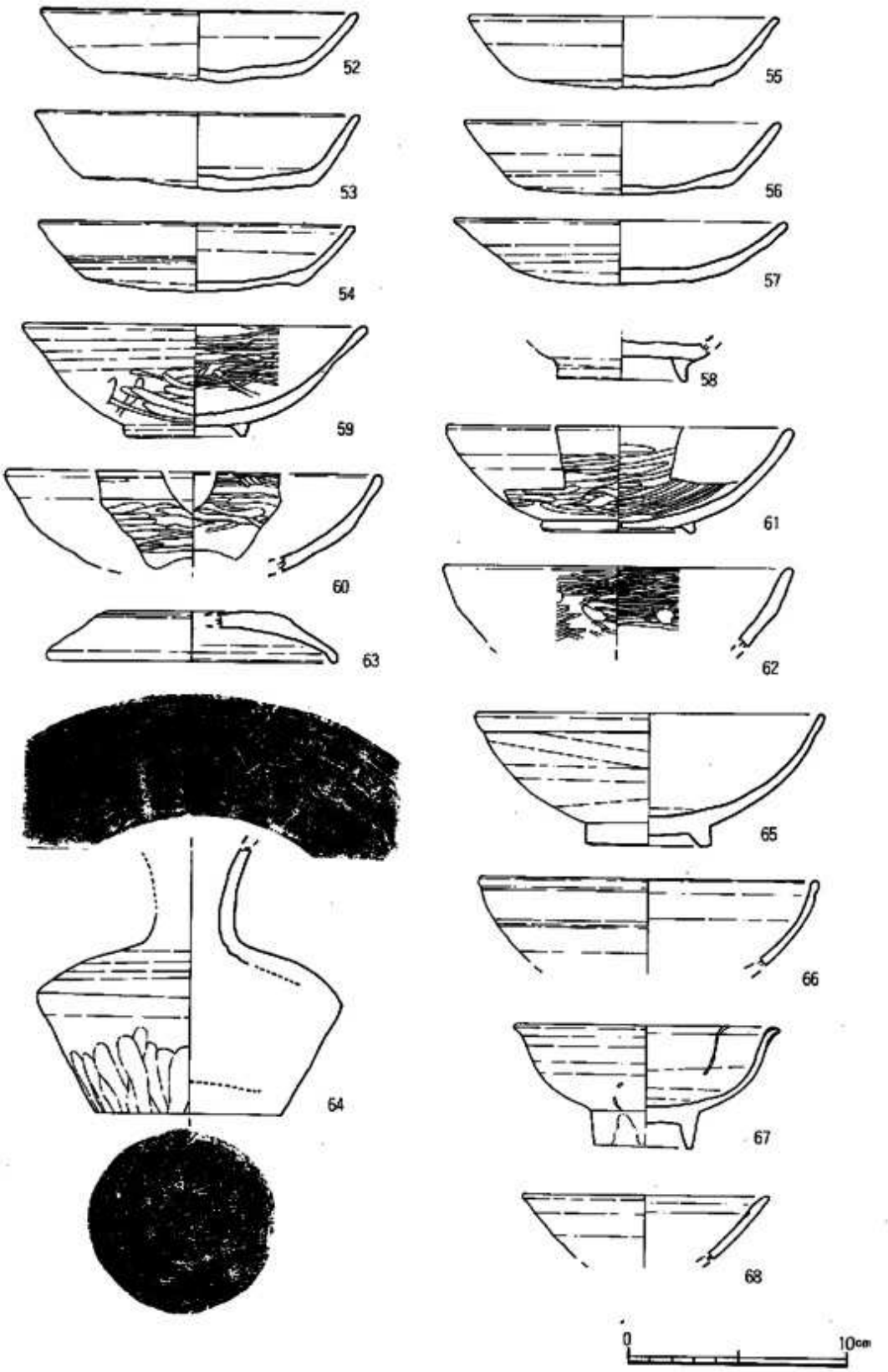


Fig.128　1069号土壙出土遺物実測図(2)

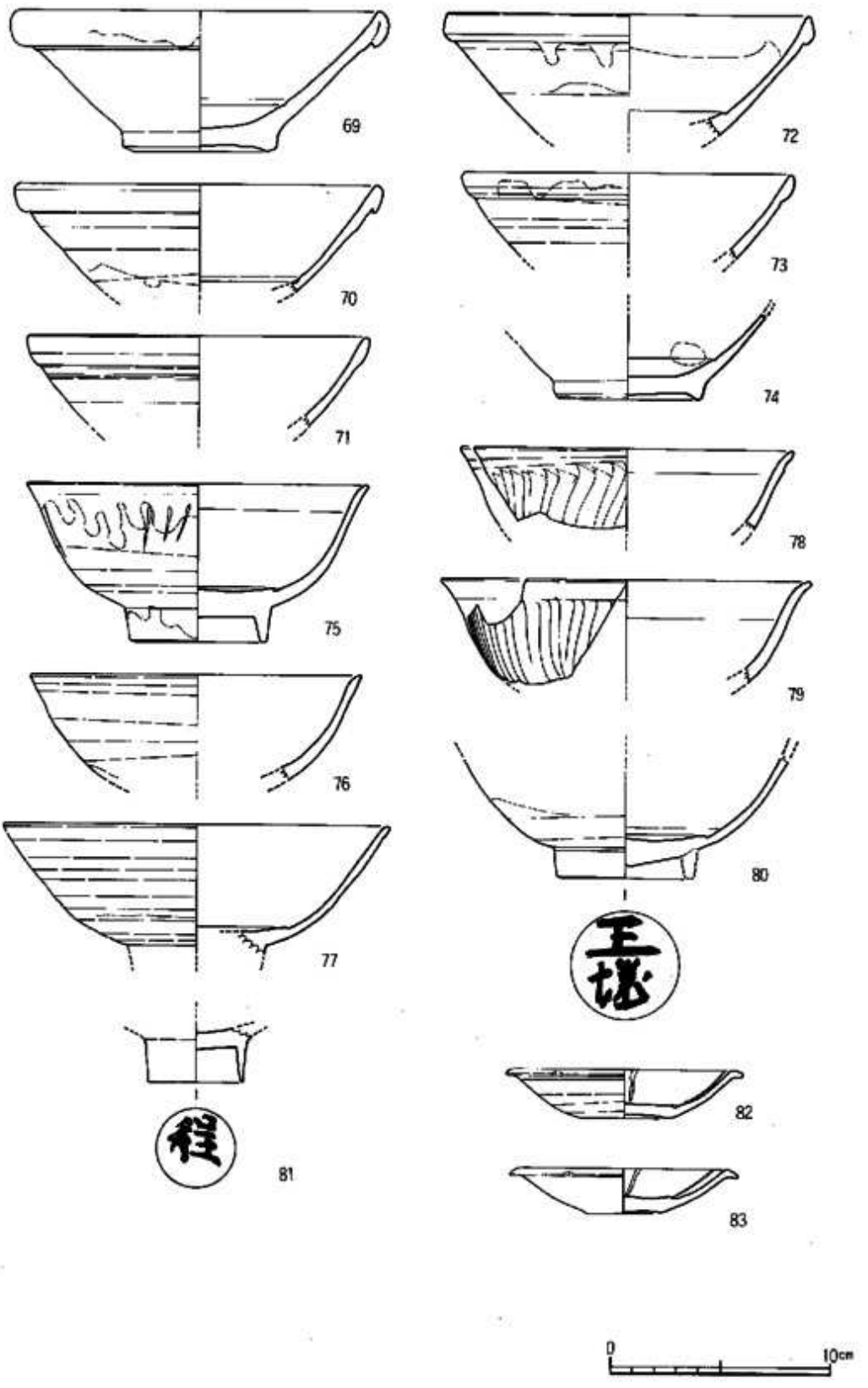


Fig.129　1069号土壙出土遺物実測図(3)

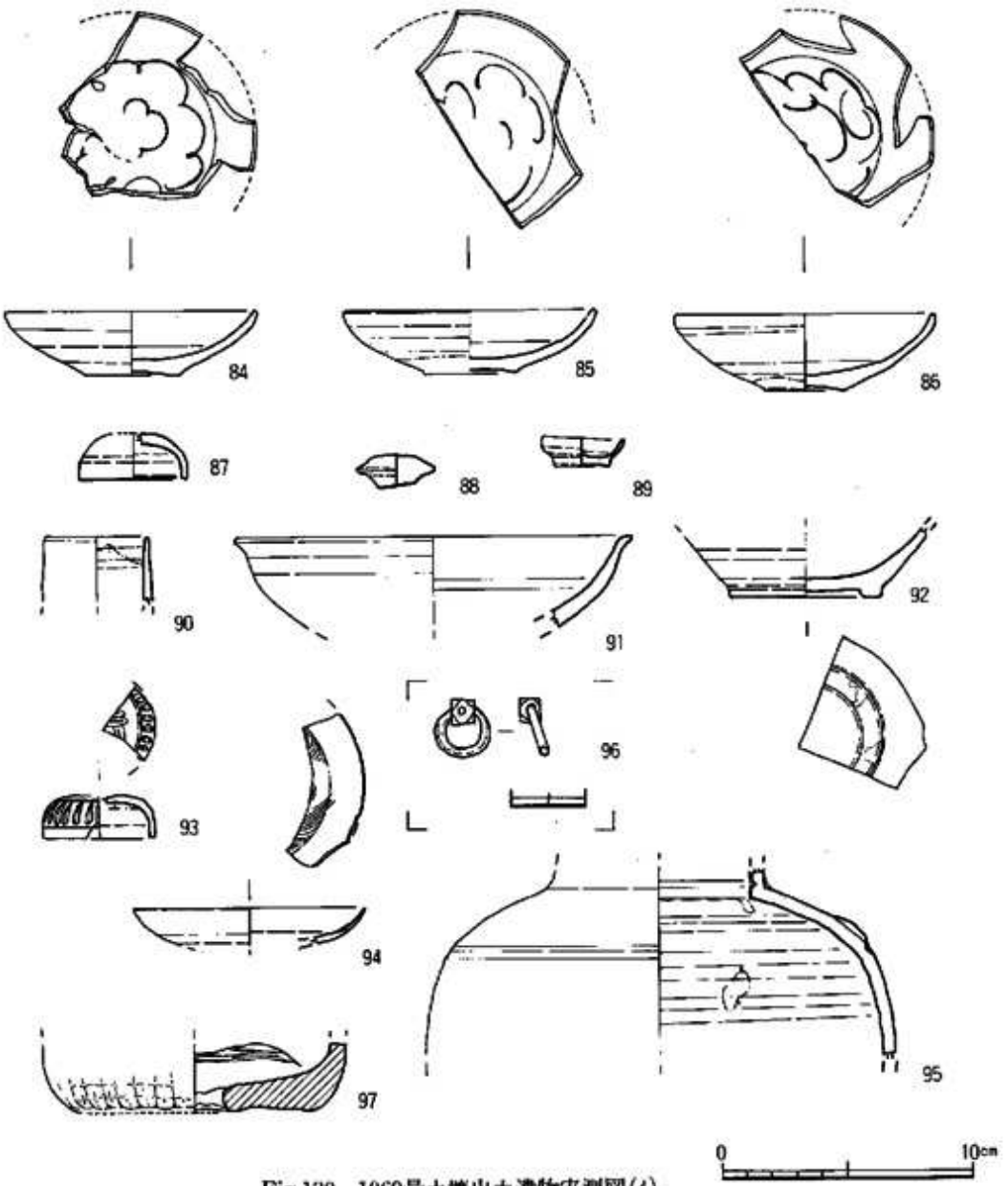


Fig.130　1069号土壙出土遺物実測図(4)

はほぼ平である。覆土は黒色軟質土、灰色土、黄褐色砂質土の互層となる。

出土遺物（Fig.133、PL.37）

1は土師器の皿で口径8.8cm、器高1.2cmを測る。底部ヘラ切りで板状圧痕がつく。2、3は土師器坏である。体部は横ナデで内面を研磨する。4は高台付土師器埦である。5～7は瓦器である。5は皿で、口径10.4cm、器高1.9cmを測る。内外面とも丁寧な研磨で内面は暗文風となる。外底面は板状圧痕の後研磨する。6、7は埦である。外面は横位の研磨で、内面は斜位の研磨である。7の底部には板状圧痕の後ナデを行う。8～12、14は白磁である。8はII類の碗

で体外半釉である。10はIV類の碗で内面に釉だれが認められる。11はV類の碗で見込に沈圏線をもつ。体外半釉で露胎は淡乳褐色となる。胎土は灰白色で淡黄緑灰色の半透明釉である。12はVI類の碗で外面にヘラ描文、内面に櫛描文をもつ。9はV類の皿で見込に櫛描文様をもつ。外底部に花押墨書する。14は合子の蓋で体部に縦線文様をもつ。胎土は白色で青白色釉を外面のみに施す。13は同安窯系青磁碗である。内面に櫛描文、外面に縦線文様をもつ。胎土は灰白色で深いオリーブ色の釉である。15は陶器C群の捏鉢である。口縁部内側を波状に肥厚させ平底となる。胎土に白色砂を含み赤褐色を呈する。

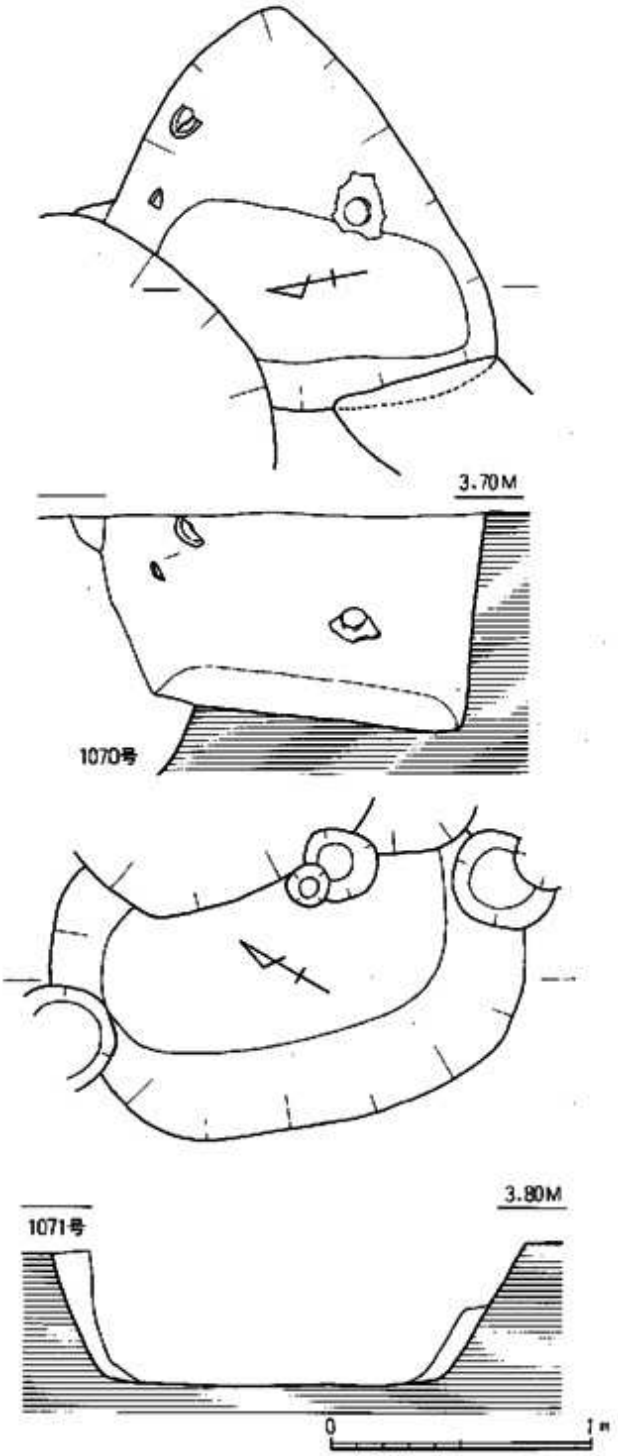


Fig.131　1070・1071号土壙実測図(縮尺：1／30)

1072号土壙（Fig.134，PL.23）

K－02区、II区の北寄りの東壁に接して位置する。III面のSX37の真下にあたり一時期古い遺構である。東半部は調査区外へ延び全体の2分の1程を調査した。平面形は1071号土壙と同じく小判形を呈するもので、規模は幅1.45m、現存長1.25mを測る。床面近くから完形に近い土器がまとまって出土し、土壙墓と考えられる。土層の観察によれば上層に浅い掘り込みが認められるが、平面的には検出されなかった。層序は上層が暗灰褐色～灰褐色砂質土で中、下層は木炭を含む暗黒褐色～黒褐色土である。

出土遺物（Fig.135～138・140－71～75，PL.38）

1～12は土師器の皿である。1～6の底部はヘラ切りで、2、5には板状圧痕が残る。6は薄手につくられ口縁

部を外反させる精良な皿である。7～12は底部糸切りで板状圧痕がつく。13～20は土師器坏である。13、14は底部ヘラ切りで丸底、15～20は糸切りで板状圧痕がつく。21は土師器の埦である。22、23は瓦器埦で内底面は研磨している。24～63は白磁である。24、25はII類の碗である。胎土は淡灰色で緑を帯びた灰白色の釉である。26はIX類の碗で見込の釉を輪状に掻きとり、外底面に花押とその上に判読不能の墨書がある。27～31、35～40はIV類の碗である。見込に沈圏線をもつものもある。胎土は黄白色ないし灰白色で釉は灰白色～淡緑灰色まで種々ある。32は

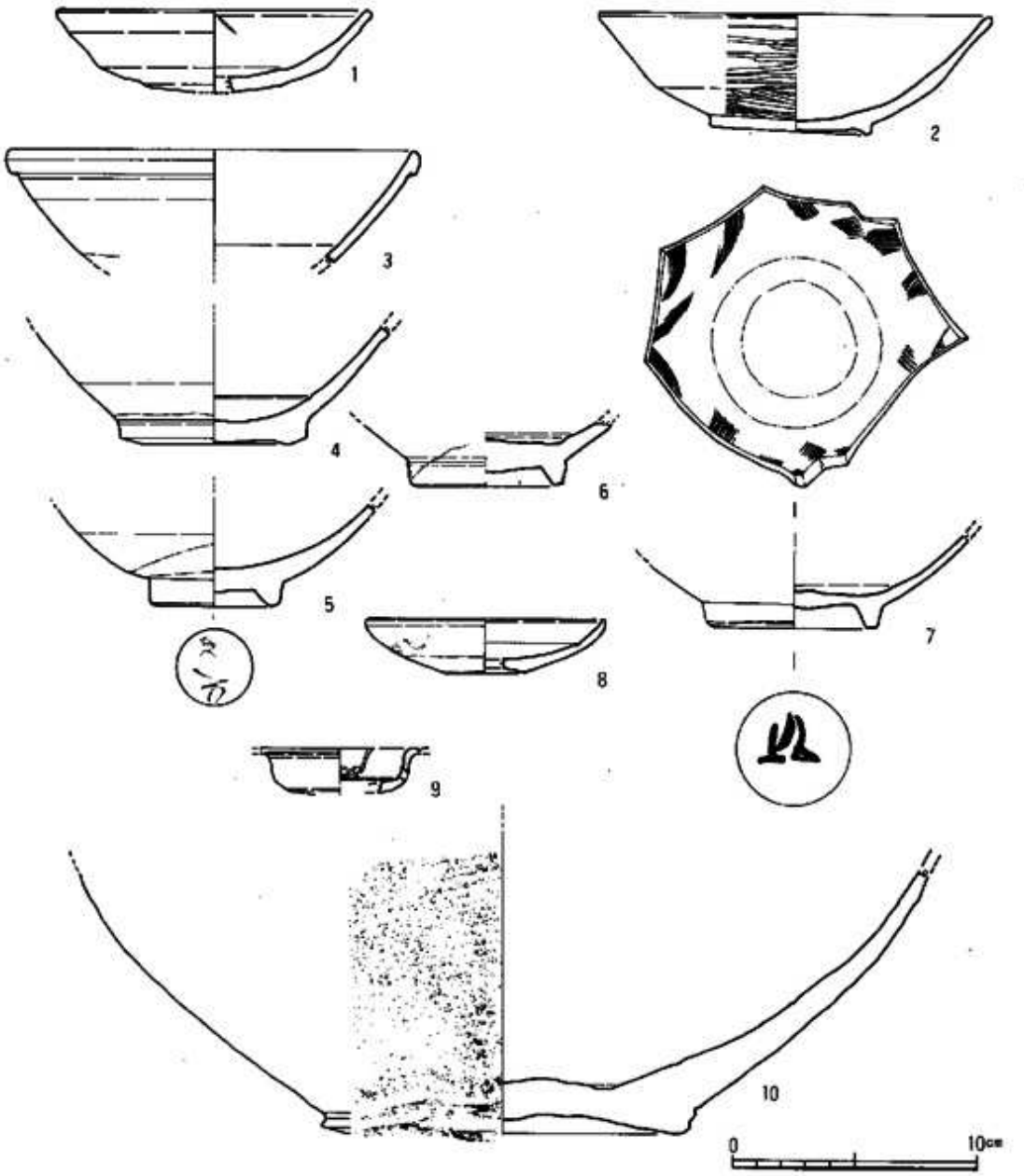


Fig.132　1070号土壙出土遺物実測図

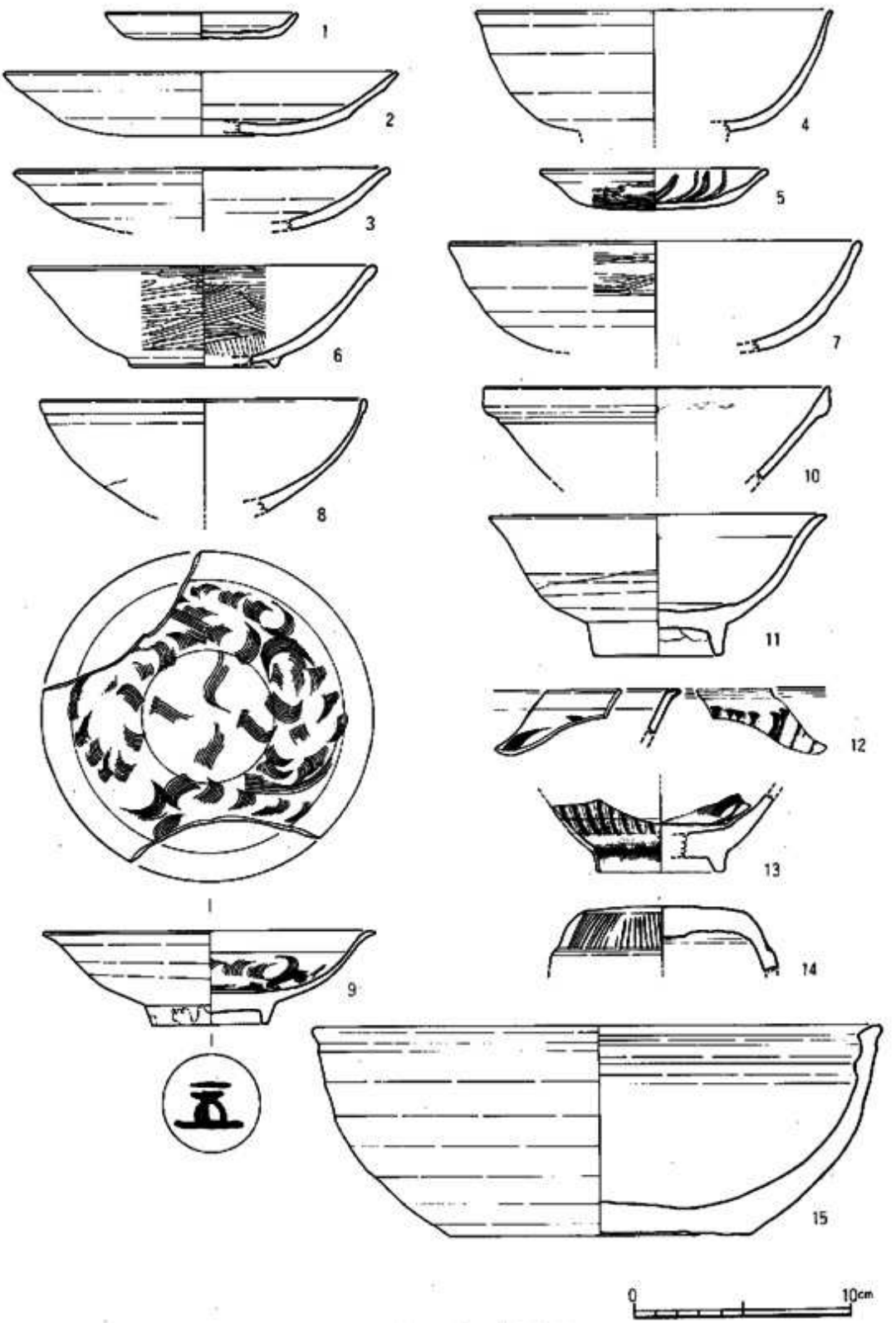


Fig.133　1071号土壙出土遺物実測図

V類の碗である。34は高い高台で内面に櫛描文をもつ。41～43はVI類の碗で内面に櫛描文、42の外面には縦線文を描く。41、43は口縁上端を水平に削る。45、48は内面に櫛描をもち外底に花押を墨書する。46、47、49、51、53は見込で輪状に釉を掻きとる。54は内面に曲線文をもつ小碗である。高台は小さく低く、胎土は白色で淡緑灰白色の釉を施す。55は大型の合子の蓋である。天井に曲線文と櫛描文を組み合せた文様を描く。胎土は白色で黄緑を帯びる灰色の釉を外面に施す。56は高台付皿V類で内面に櫛描文をもち口縁部は外反する。胎土は白色で灰色の釉を施す。一部高台部まで施釉している。57は高台付皿で外底に花押を墨書する。60～62も高台付皿II類で胎土は灰白色で淡緑灰色の釉である。低い高台で口縁部が外反している。60の底部にも墨痕が残る。58、59、63は平皿で63の外底部に「供養」と墨書する。64～68は青磁である。64は同安窯系の碗である。花文と刺突状の櫛描文を内面全体に配し、外面には幅広な縦線文様をもつ。外底部に花押を墨書する。胎土は灰色で暗灰緑色の釉である。65～67は高麗青磁皿の優品である。胎土は灰色で深みのあるガラス質の強い灰緑色釉である。65、67は内面に花文を陽刻し口縁端部に刻みを入れ輪花とし、66は見込に双鳳文、その外側に花文を配する。外底に目跡が残る。68は同安窯系と思われる皿である。胎土は灰色で暗緑灰色の釉を施す。69は越州窯系小壺である。胎土は灰色で緑灰色の透明釉を施す。71、72は陶器A群の黄緑釉盤である。72の内面には鉄彩文をもつ。73、74は陶器C群の捏鉢である。70は滑石製石鍋である。外面を縦位に削っているのが明瞭に残る。75は瓦玉である。

1076号土壙（Fig.139）

K－02、L－04区、1072号土壙の南に隣接する。西側を1082号に切られ、東側で1077号土壙を切る長方形土壙であるが3分の1程しか遺存していない。幅0.88m、現存長0.6m、深さ0.5mの規模である。1077～1080、1082号土壙の覆土は暗褐色、黄白色砂層、黒褐色土、木炭、灰層の縞状堆積を示している。11世紀中頃に設けられた土壙墓であろう。

出土遺物（Fig.140－76～83、PL.39）

76～81は白磁である。76はIV類の碗で口縁部の折り返しが明瞭に残る。77は小玉縁のII類の碗である。灰白色の胎土に淡緑灰色の釉を施す。78はIX類の碗で見込の釉を輪状に掻きとる。広い見込で直線的に体部が開く。79は内面に櫛描文を描く。80は平皿、81は高台付皿のII類である。82は陶器A群の壺で口縁部を玉縁とする。胎土は微砂粒を含み淡褐色で、口縁部から内面が暗茶褐色、頸部下半が暗緑褐色の釉を施す。83もA群の壺で緑茶色の釉を外面にかける。

1077号土壙（Fig.139）

K－02、L－04区に位置し、西側を1076号、東側を1078号に切られる。楕円形の土壙で、規模は幅1.25m、長さ1.5m、深さ0.7mを測る。

出土遺物（Fig.141，PL.39）

1は底部ヘラ切りの土師器小皿である。2、3は丸底の坏で体部は横ナデである。4は瓦器

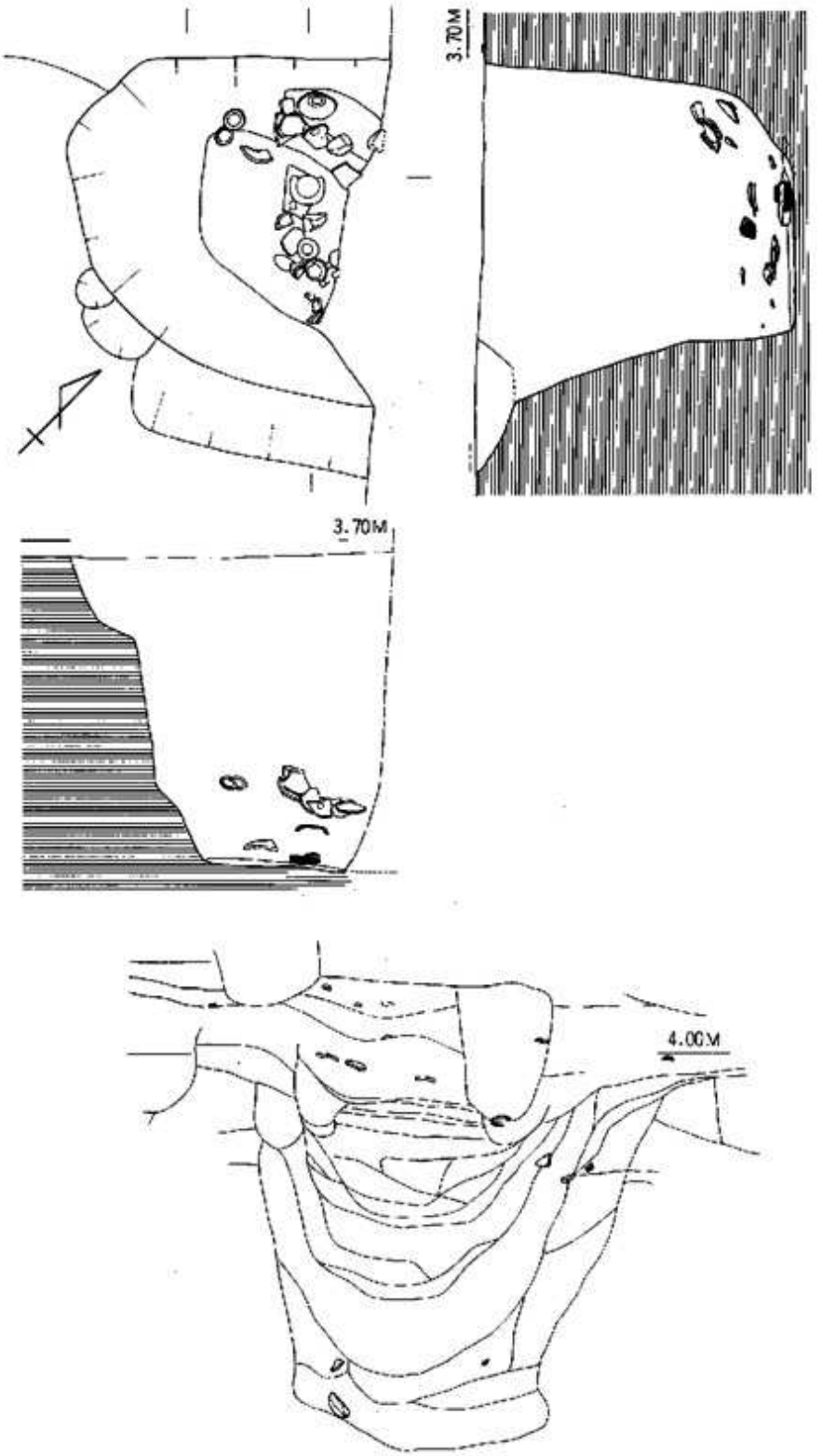


Fig.134　1072号土壙実測図(縮尺：1／30)

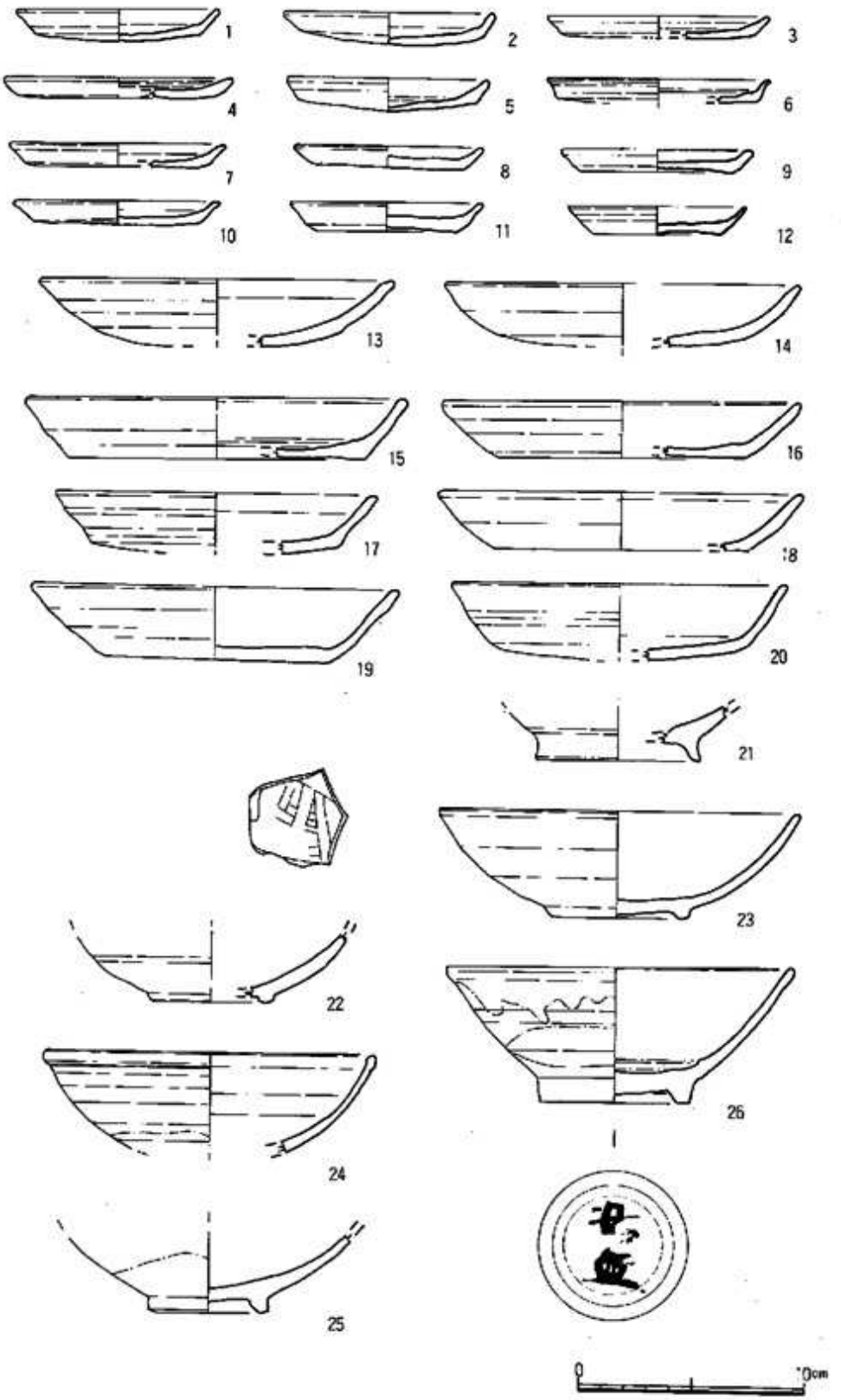


Fig.135　1072号土壙出土遺物実測図(1)

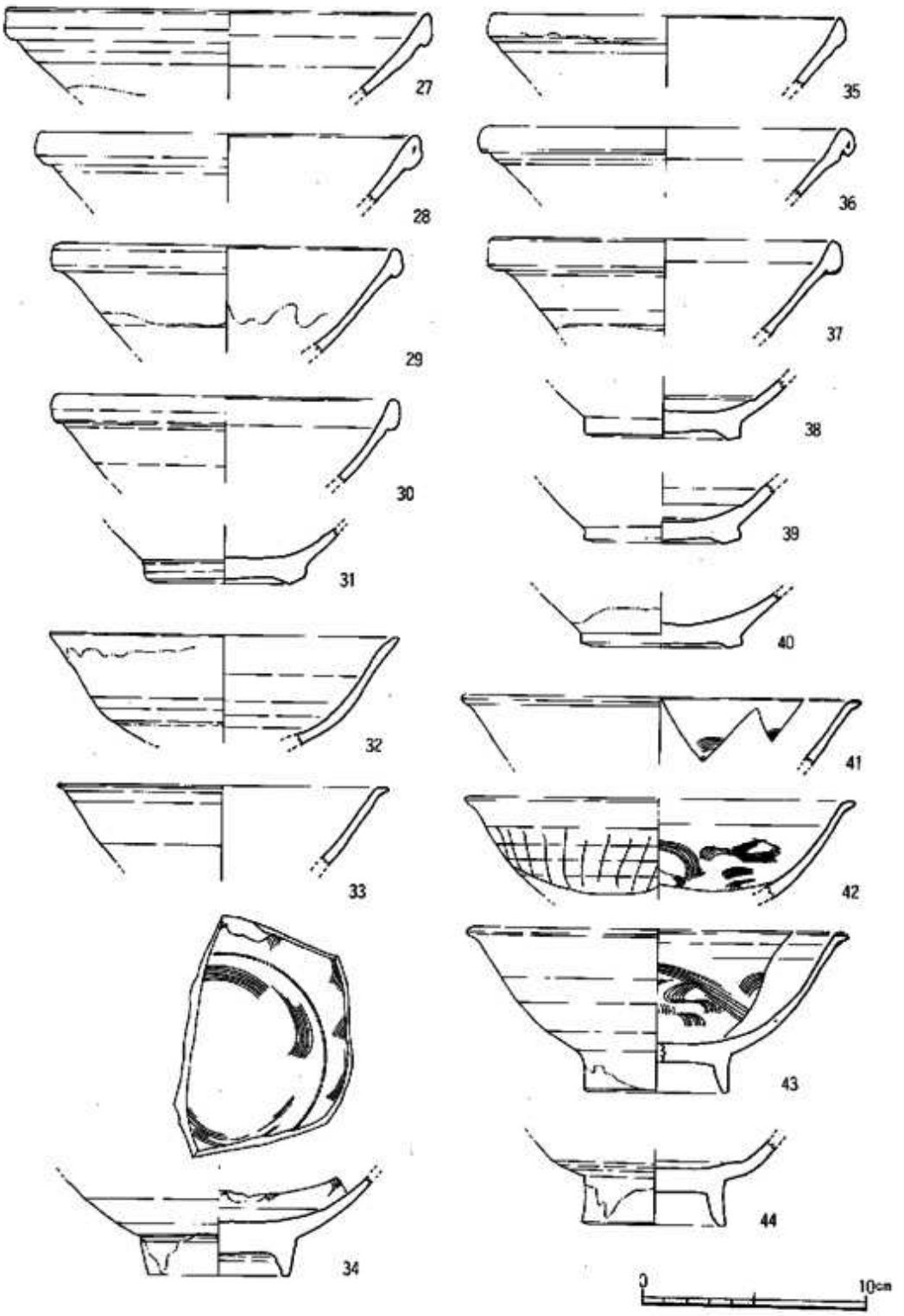


Fig.136　1072号土壙出土遺物実測図(2)

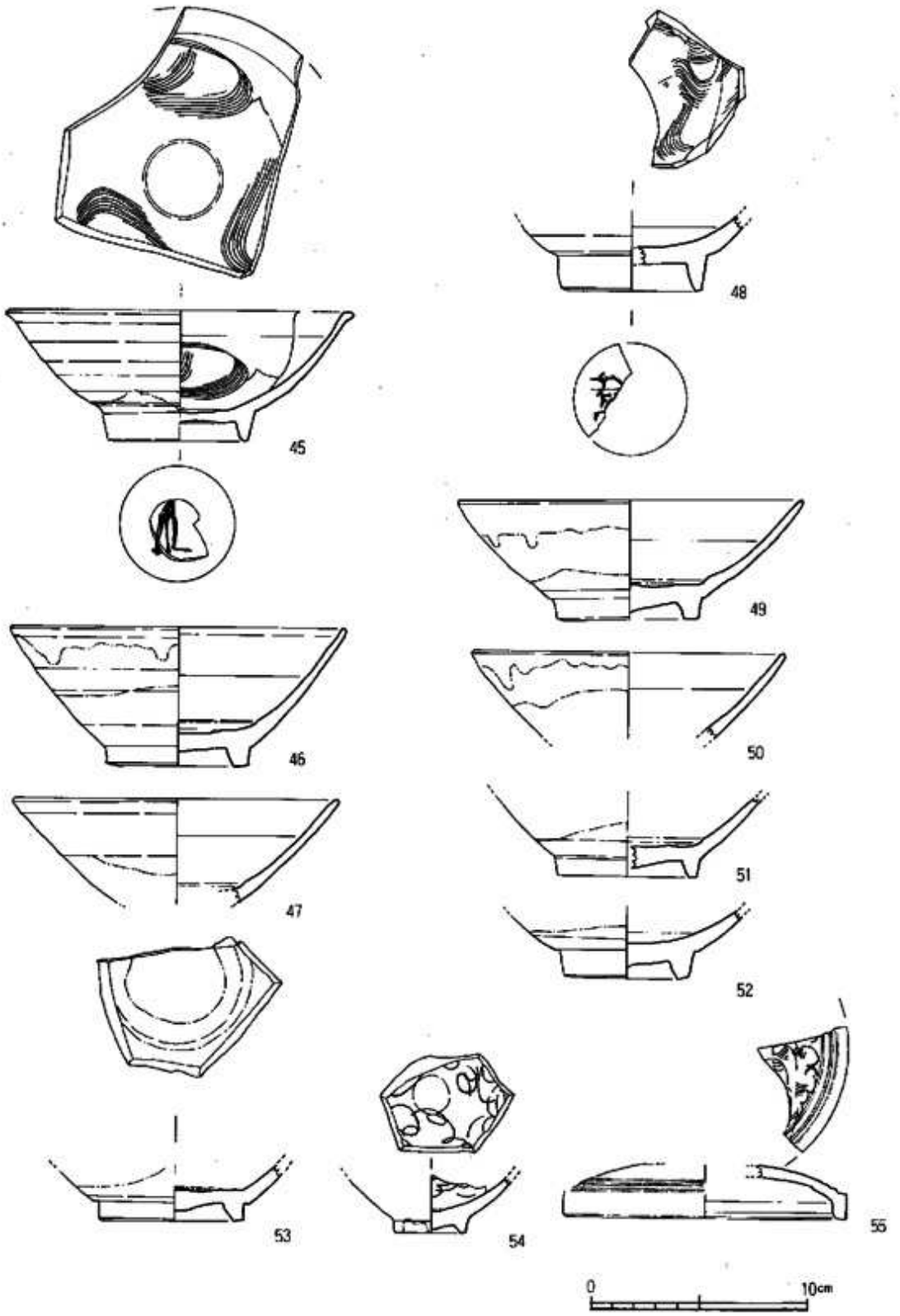


Fig.137　1072号土壙出土遺物実測図(3)

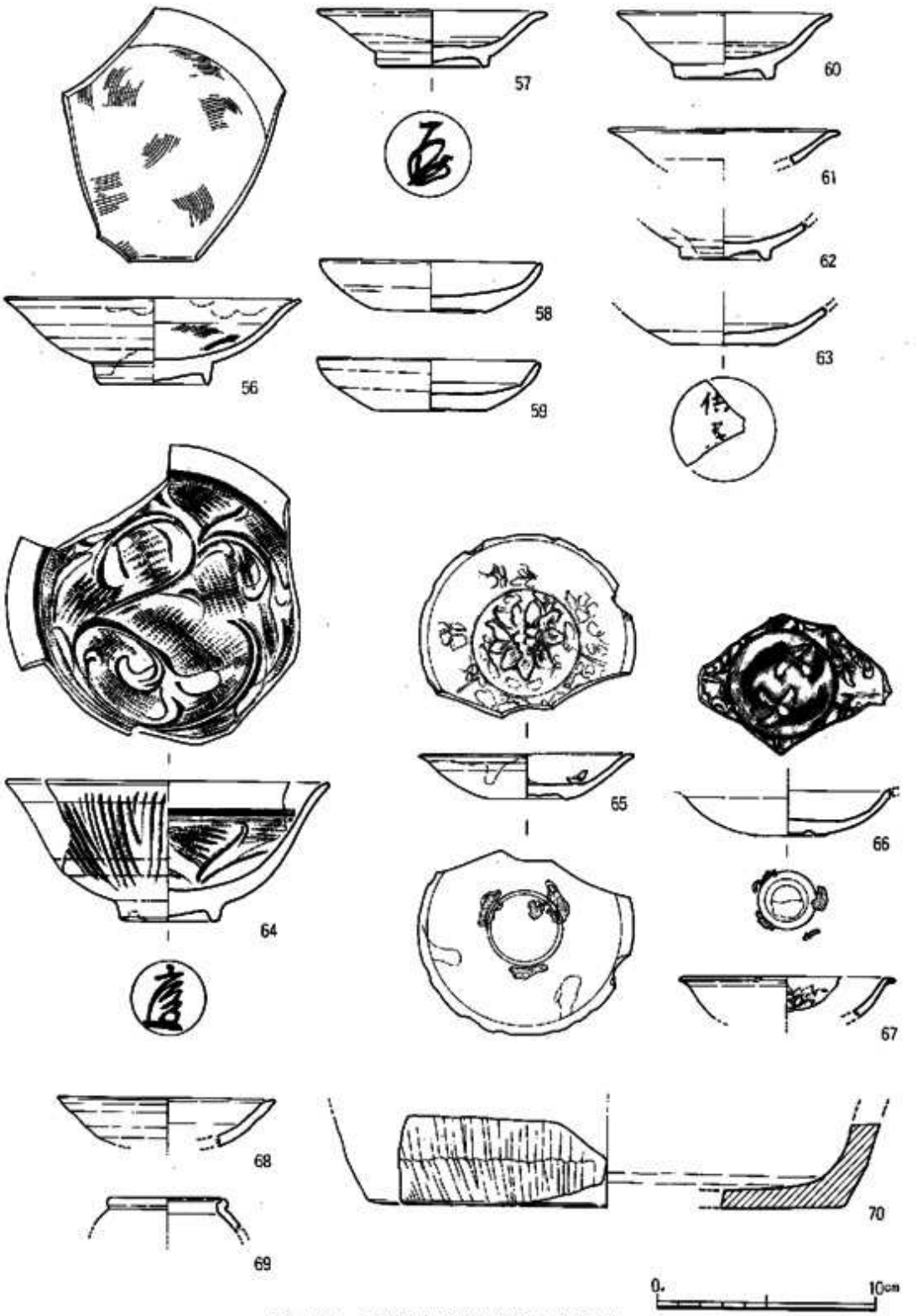


Fig.138　1072号土壙出土遺物実測図(4)

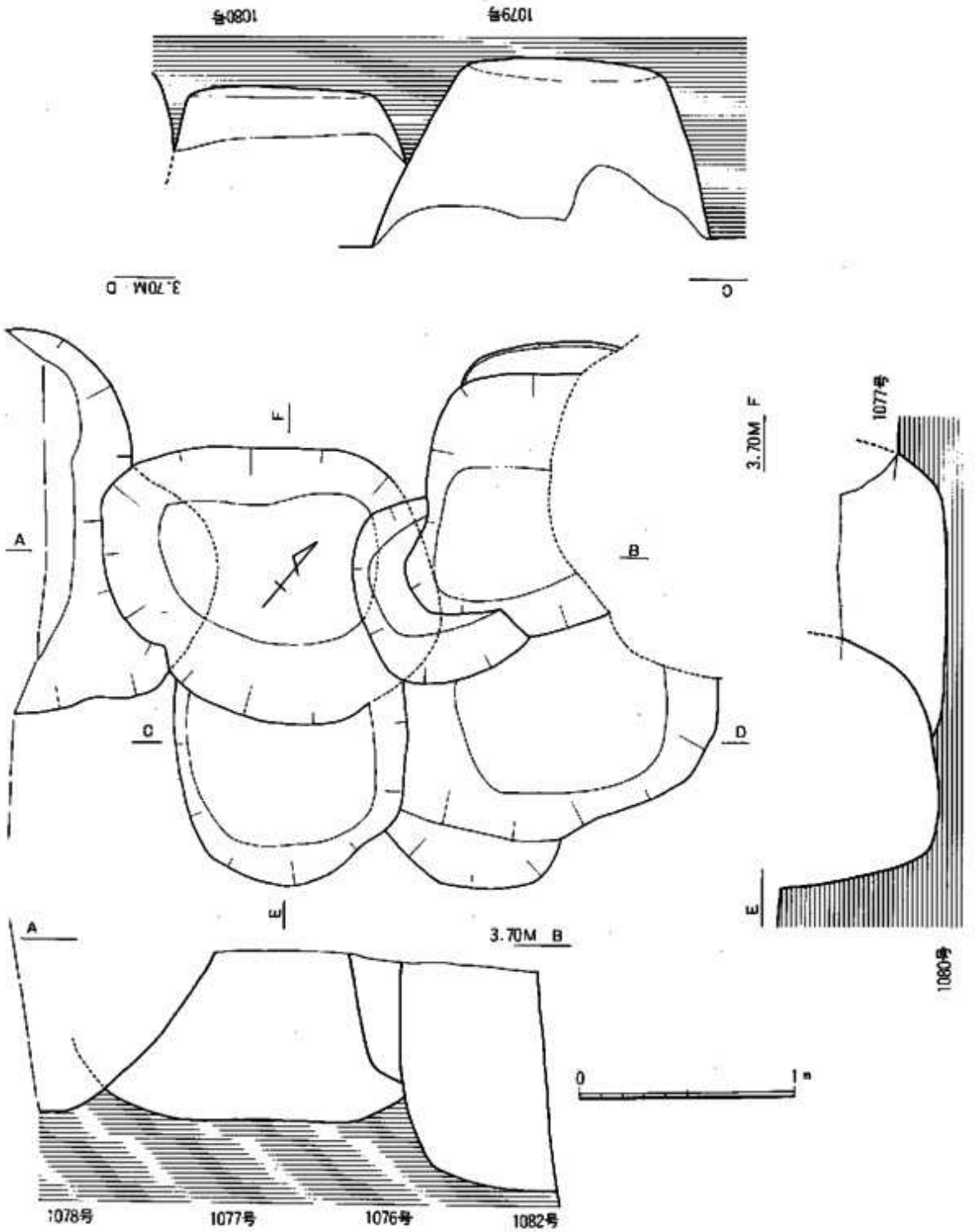


Fig.139　1076～1080・1082号土壙実測図(縮尺：1／30)

埦で内面が丁寧な研磨、外面は粗い研磨を施す。14は須恵質の陶器甕である。外面にタタキがみられる。5～12は白磁である。5、6はII類、7～9はIV類、10はV類の碗である。12は平皿III類である。13は青白磁で畳付まで淡青白色釉を施す。高台内に焼台の跡が残る。15は滑石製石鍋で口縁部に突起を削り出す。

1078号土壙（Fig.139, PL.24）

K－02、L－04区に位置し、1077号土壙の西に位置する。東側は調査区外に延びるため全体の形状は不明である。現存幅0.8m、長さ1.8mの南北に主軸をおくものであろう。西側の壁は緩傾斜をなしている。北壁に寄った位置から土器が集中して出土している。

出土遺物（Fig.142・143, PL.39・40）

1～6は土師器の皿である。1～3は底部ヘラ切り、4～6は糸切りで各々板状圧痕が残る。7～10は土師器坏で、10は糸切りで板状圧痕が残る。体部は横ナデである。11、12は土師器埦である。11の胎土は淡褐色で表面に煤が付着している。体部～内面は横ナデの上からヘラ研磨を行う。13、14は瓦器埦である。内外面とも丁寧な研磨を行う。15～23は白磁の碗である。15、16はII類、17～19はIV類、21はVI類、22はV類、23はV～VI類の碗である。24は越州窯系青磁碗である。胎土は淡明灰色で暗黄緑灰色の釉を全面に施し、畳付のみ削り取っている。見込には目跡が残る。25、26は平皿II類の白磁である。27は白磁碗で内面に櫛描文、外底に墨痕がある。胎土は灰白色で淡青緑を帯びた灰白色の釉を施す。28は青白磁碗で外面は縦線を交差させ、内面にヘラ、櫛描文をもつ。胎土は白色で底部を除き青白緑色の釉を施す。29は陶器A群の四耳壺である。胎土は砂粒を多く含み粗く、露胎部は淡黄褐色を呈する。暗黄緑褐色の半透明釉で内面は露胎である。30はA群の盤で内面に鉄彩をもつ。

1079号土壙（Fig.139）

K－02、L－04区に集中する土壙群の中の1基で北端に位置しさらに西壁は上面の遺構に切られ、本来の掘り込みはほとんど残っていない。現存長1.75m、幅1.0m、深さ0.8mを測る。

出土遺物（Fig.144, PL.40・53）

1は底部ヘラ切り、2は糸切りの土師皿である。3～5は丸底の土師器坏。5は大型品で口径16.8cm、器高3.0cmを測る。口縁部は横ナデ、体～底部はナデである。6は瓦器埦で高台部を欠損する。内外面とも丁寧なヘラ研磨を行う。7～13は白磁である。8、9はII類で胎土はきめ細く、薄茶飴色の釉をかける。10は0類の碗である。13は口縁を平坦にして、内面に鉄彩文を描く鉢である。胎土は白色である。11はII類、12は0類の高台付皿である。12の見込には曲線文をもつ。14は越州窯系水注の注口部である。15は「崇寧重寶」である。

1080号土壙（Fig.139, PL.49）

K－02、L－04区に位置する土壙墓群の中の北端に位置する。南、西を1077号、1079号土壙に切られる土壙で隅丸長方形を呈する。規模は現存長0.85m、幅1.1m、深さ0.75mを測る。壁

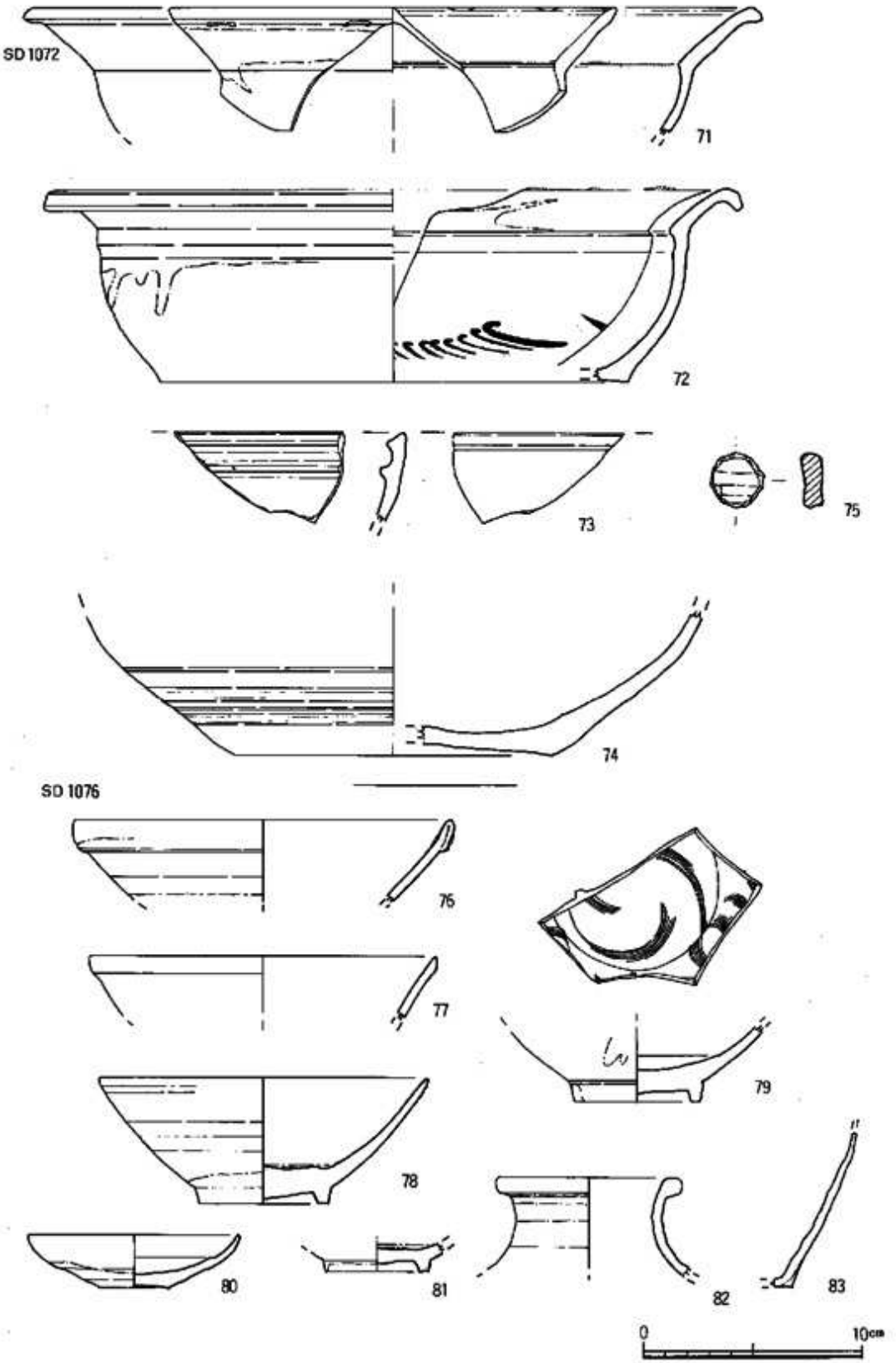


Fig.140　1072号(5)・1076号土壙出土遺物実測図

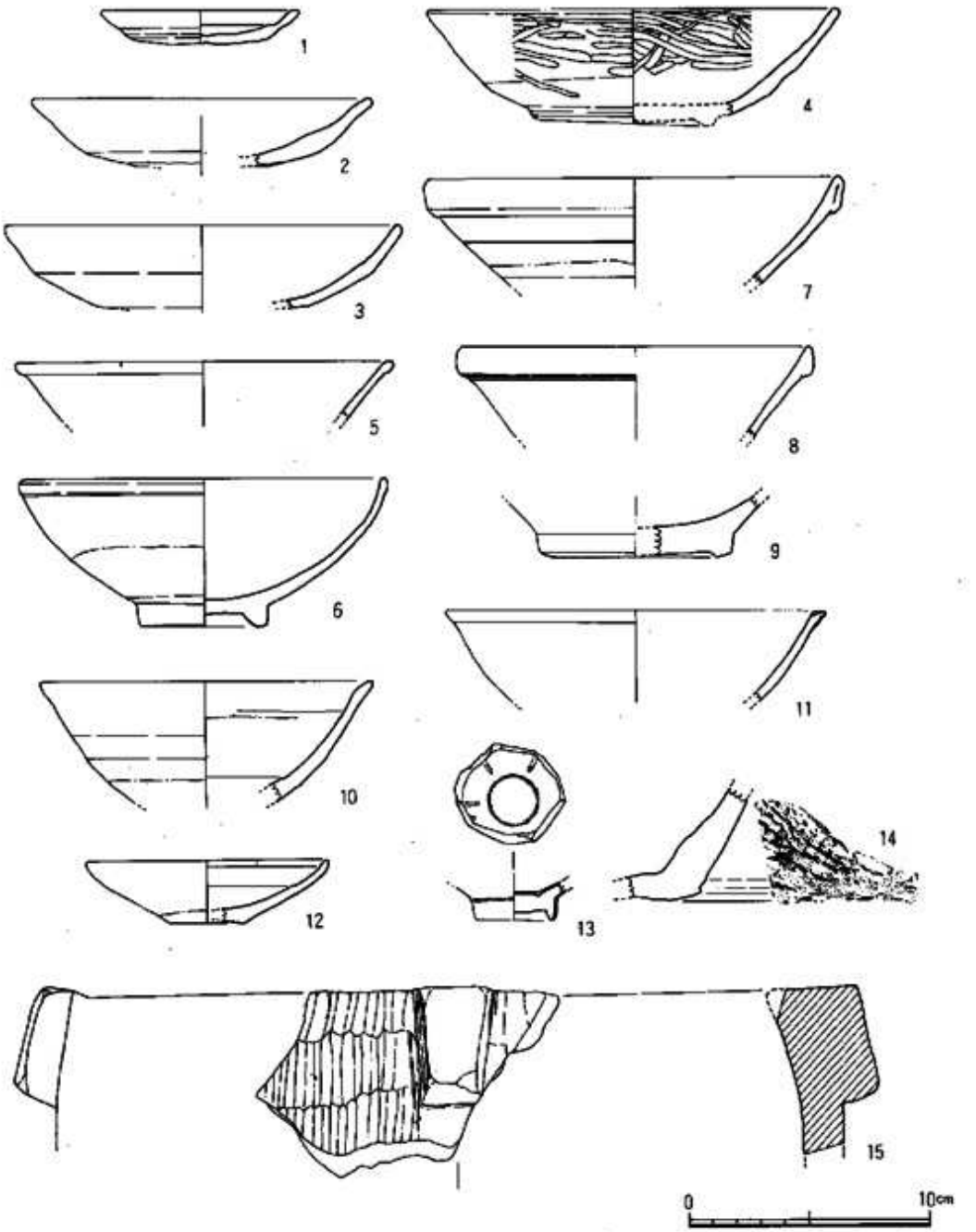


Fig.141　1077号土壙出土遺物実測図

面は垂直に近く、床面は平である。出土遺物は少なく白磁碗II、IV類、平皿II類、土師器の底部ヘラ切り皿などが少量出土している。

1081号土壙（Fig.145, PL.24）

K－02区の北寄りに位置する。西側を143号井戸、東側を1060号土壙に切られて半円形を呈する大型土壙である。径1.75m、深さ1.4mを測る。壁面は垂直に近く、床面は丸味をもつ。覆土

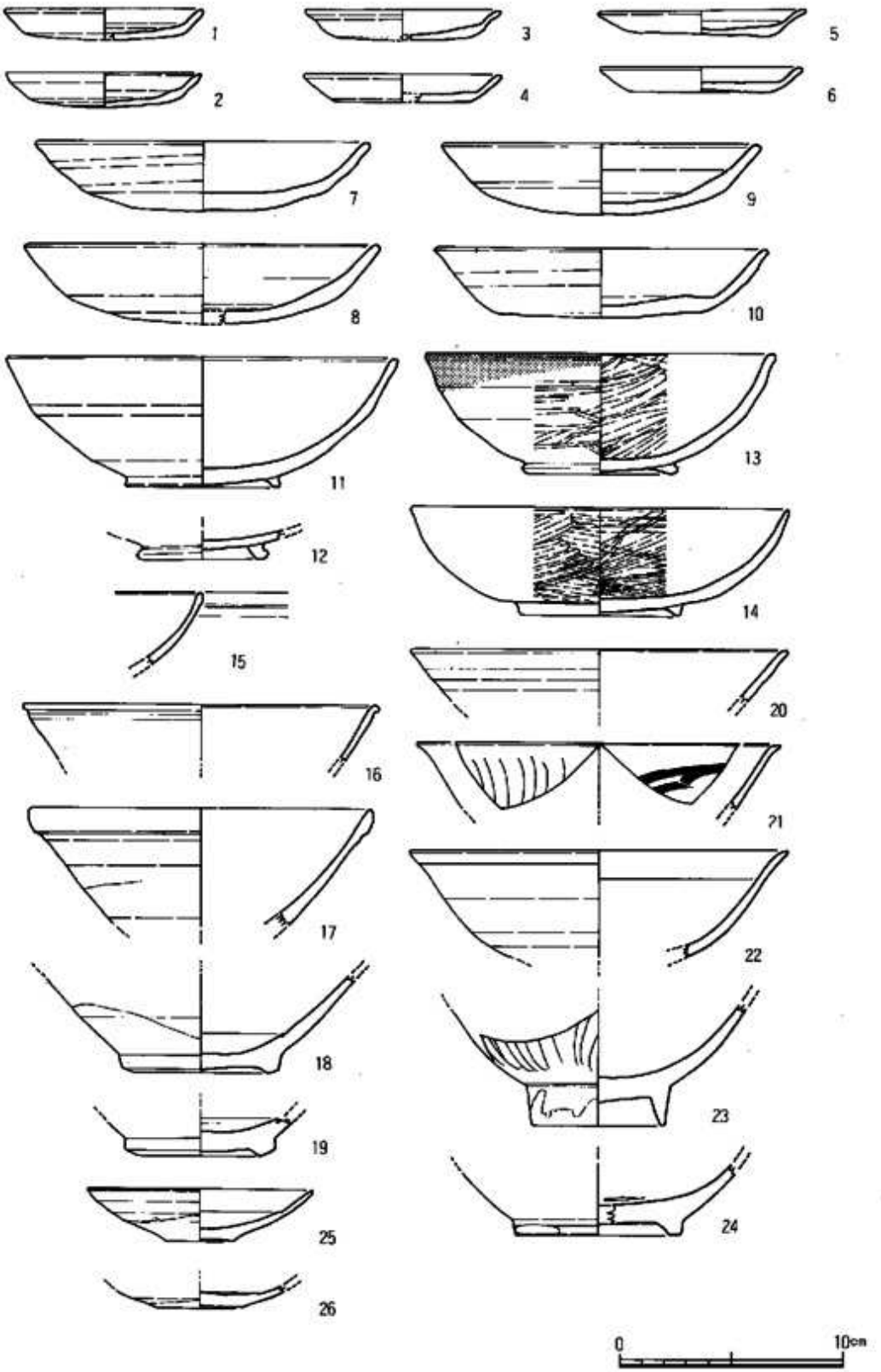


Fig.142　1078号土壙出土遺物実測図(1)

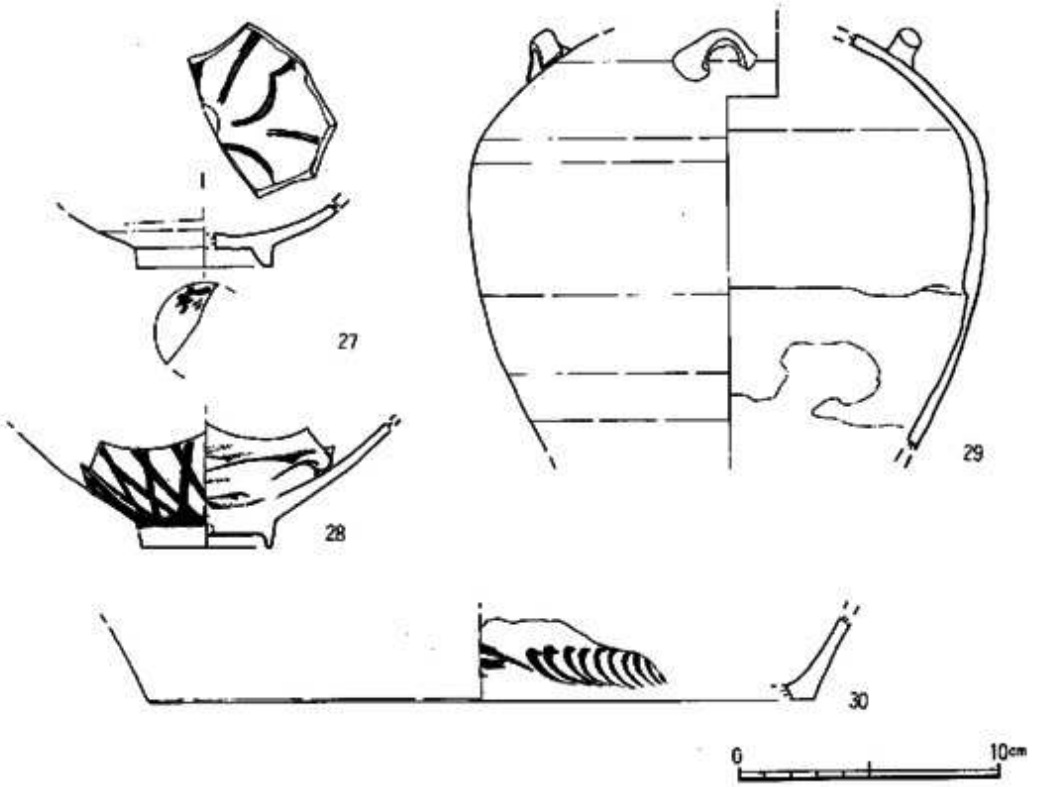


Fig.143　1078号土壙出土遺物実測図(2)

は暗褐色土、暗灰色砂質土である。

出土遺物（Fig.146, PL.40）

1～5は白磁である。1～3は碗で底部に花押を墨書する。1は墨痕鮮かで明瞭であるが、2、3は遺存が悪い。4は白磁皿IV類で口縁部を折り曲げている。5は白磁皿III類で体部で屈曲し外反する。胎土は灰白色で光沢のある灰色がかった黄色の釉である。外底に墨書があるが判読不能である。花押か。6は鉄刀子で茎部及び先端を欠損する。現存長12.9cmを測る。

1082号土壙（Fig.139）

K－02、L－04区に位置する土壙墓群の一画に位置する。西側を1076号土壙と重複する長方形土壙である。現存長0.6m、幅1.2m、深さ1.1mを測る。南壁はゆるやかに傾斜し、北壁は垂直に近くなり、床面はほぼ平である。

出土遺物（Fig.147）

1～4は土師器の皿である。1、2は底部ヘラ切りで、2の底部に板状圧痕がつく。3、4は糸切り底部で板状圧痕がつく。口縁部は横ナデ他はナデである。5は瓦器皿である。底部はヘラ切りで板状圧痕がつく。外面はヘラ研磨を施し内面には煤が付着する。6は土師器の埦底部である。内面は研磨状のナデである。7～9は土師器の坏である。7、9は底部ヘラ切り、8は糸切りで板状圧痕がある。体部は横ナデ、内底はナデである。10～15、17～20は白磁であ

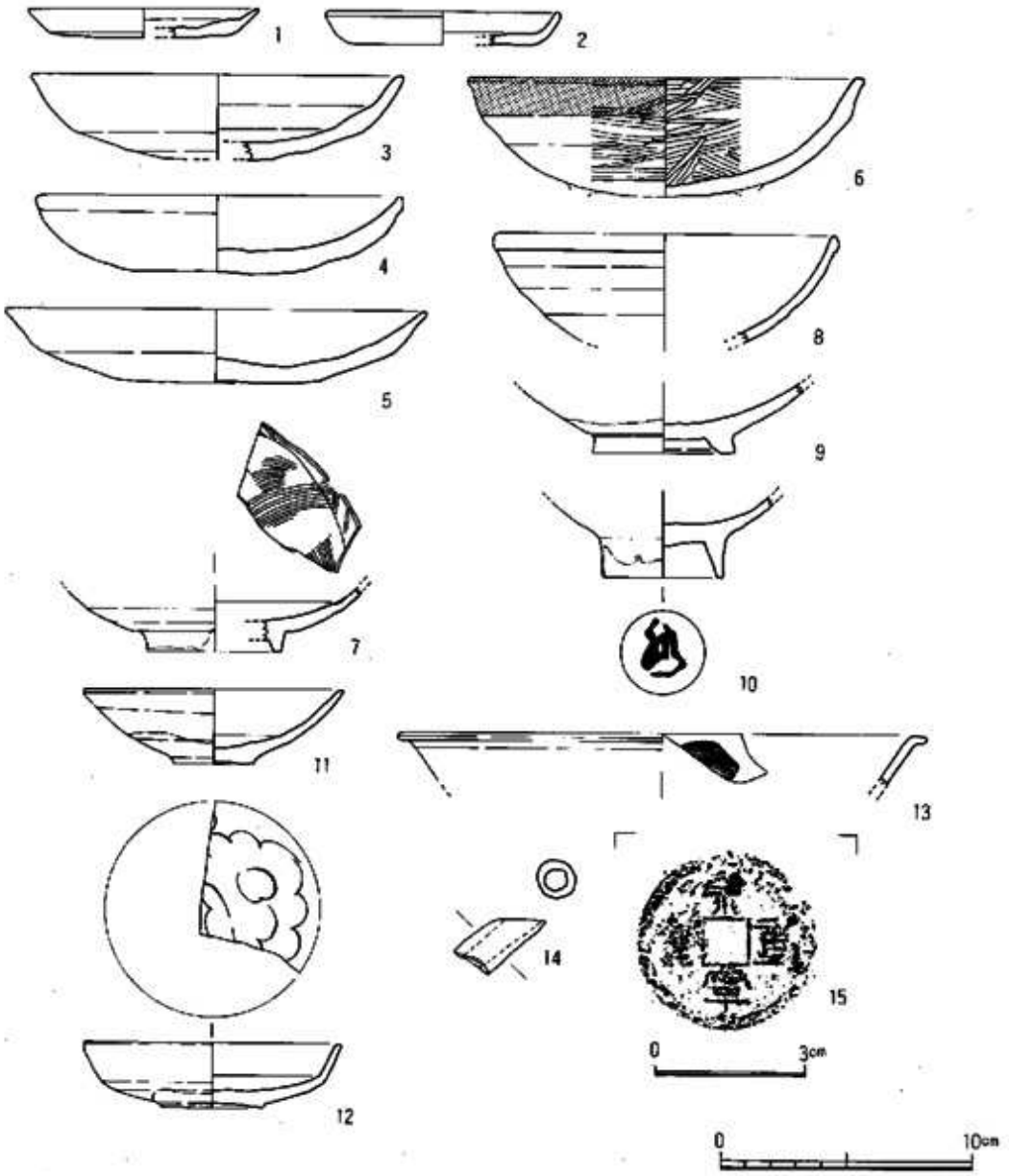


Fig.144　1079号土壙出土遺物実測図

る。10～13はIV類の碗で見込に沈圏線をもつものがある。高台脇～底部は露胎である。17はII類の碗で灰白色の胎土で淡黄灰白色の透明釉を施し、体外半釉である。18、19はVI類の碗で口縁上端を水平に削り、内面に櫛描文をもつ。胎土は灰白色で淡黄灰白色の透明釉を高台脇まで施釉する。14は青白磁の皿である。胎土は白色で淡青灰白色の半透明釉を施す。口縁部は外反し、外面の口縁下に稜をもつ。15は平底皿II類である。16は青白磁の碗である。外面に連続する剣菱文様、内面にヘラ、櫛描文様をもつ。胎土は白色で緻密であり、少し緑がかった透明釉である。22～25は陶器である。22はA群の軍持の底部である。外底面に「陳」その下に花押様

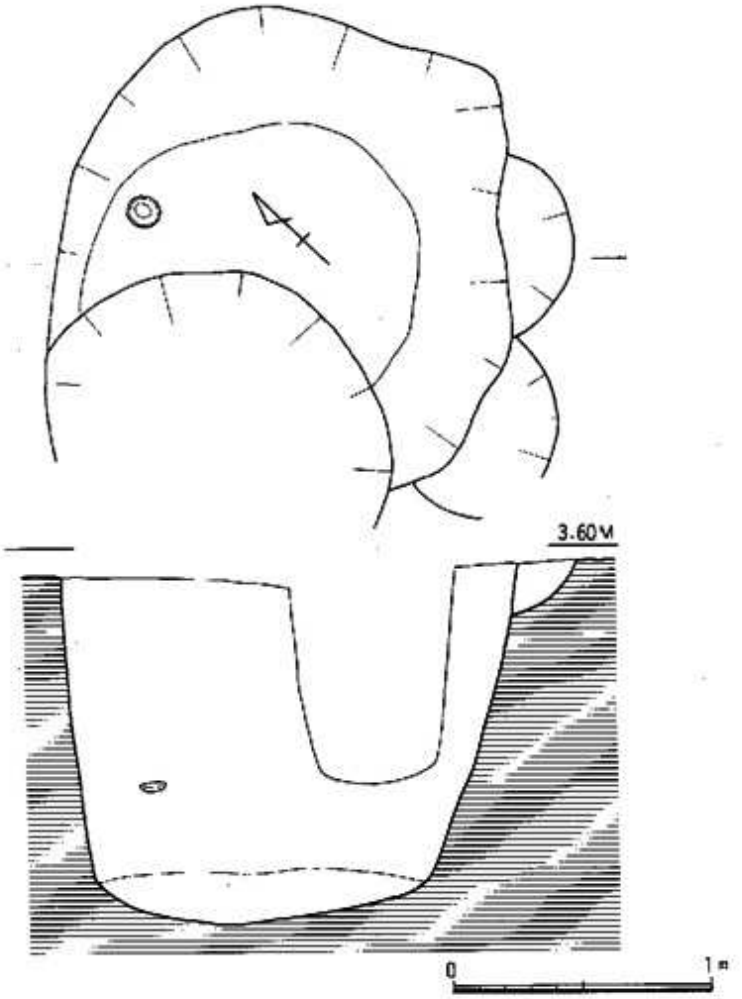


Fig.145　1081号土壙実測図(縮尺：1／30)

の墨書がある。胎土は灰色で釉は緑茶色で底部脇まで施釉する。

1083号土壙（Fig.148）

K－01、02区、II区の中央部に位置する土壙である。東側を1058号土壙に切られ、北側で1084号土壙と重複する。平面形は長楕円形を呈し、規模は1.45×1.2m、深さ0.6mを測る。K－01、L－04区にある土壙墓群と同じ覆土である。壁面はなだらかで緩やかな傾斜を示し、床面はほぼ平である。

出土遺物（Fig.149）

1、2は底部ヘラ切りの土師器皿である。口径8.5～8.9cm、器高1.2～1.4cmを測る。3は底部糸切りの土師器坏である。4、5は瓦器埦である。4の内面は縦位の粗い研磨で、外面は横位の研磨である。5は斜位の丁寧な研磨を施す。6～11は白磁である。6、7はIV類の碗で見込に沈圏線をもつ。胎土は白灰色で緑灰白色の釉である。10はII類の平皿底部である。11はV

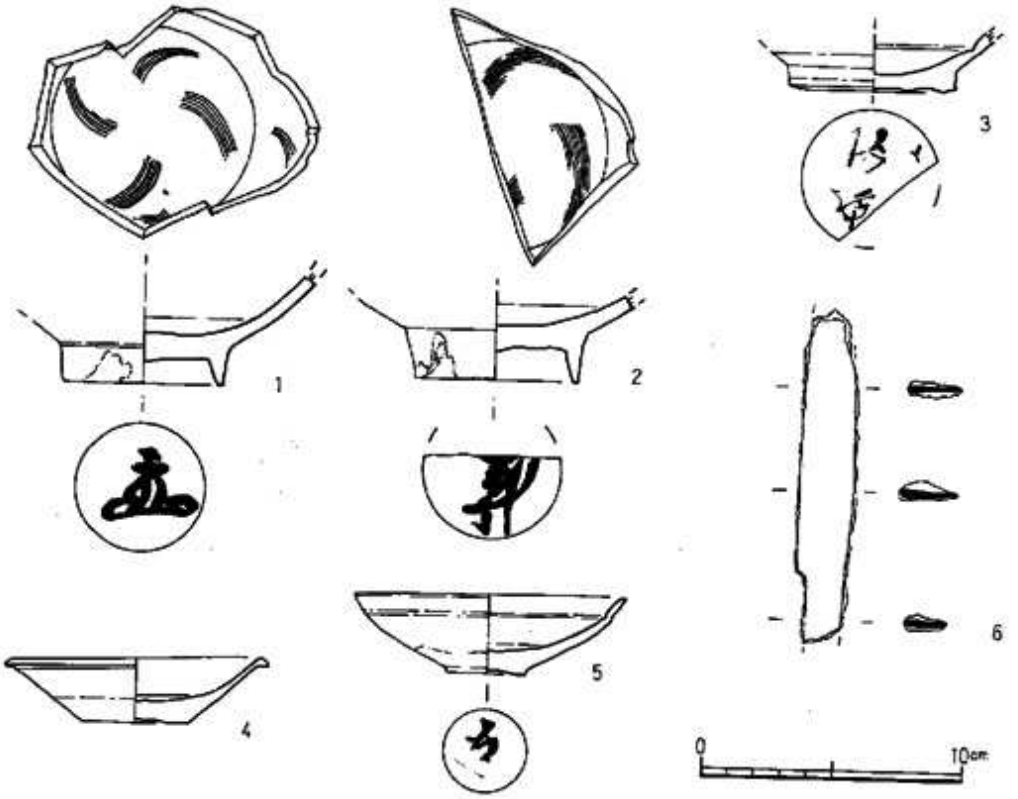


Fig.146　1081号土壙出土遺物実測図

類で外面にヘラ描の縦線文様をもつ。12は青白磁の皿で体部は薄くつくられ内弯する。胎土は白灰色で青白色の釉を施す。見込に櫛描文、細線文様をもつ。

1084号土壙（Fig.148）

K－01、02区、II区の中央部、1083号土壙に接して北側に位置する土壙である。平面形は小判形を示し、規模は1.6×0.8m、深さ0.9mを測る。覆土は1083号土壙と同じである。

出土遺物（Fig.150）　1は土師器の皿である。底部に板状圧痕が認められるが、糸切りの跡は残らない。2、3は底部ヘラ切りの土師器坏である。体部は横ナデ、内底はナデである。4、5は瓦器塊である。内外面とも細かいヘラ研磨が認められる。6～10は白磁である。6はIV類の碗で見込に沈圏線があり、内外面に釉だれが認められる。7はV類の碗で口縁部が外反する。胎土は灰白色で緑灰白色の釉である。8はVI類の碗で内面に櫛描文をもち、口縁上端を水平にする。10はII類の皿で外面に釉だれがある。11はA群陶器の壺である。胎土は砂粒まじりの灰肌色で茶オリーブの釉を底部脇まで施す。露胎部は灰茶色である。

1087号土壙（Fig.151）

L－04区、144号井戸の東側に位置する土壙で、北側を1028号土壙に切られ、西側を144号井

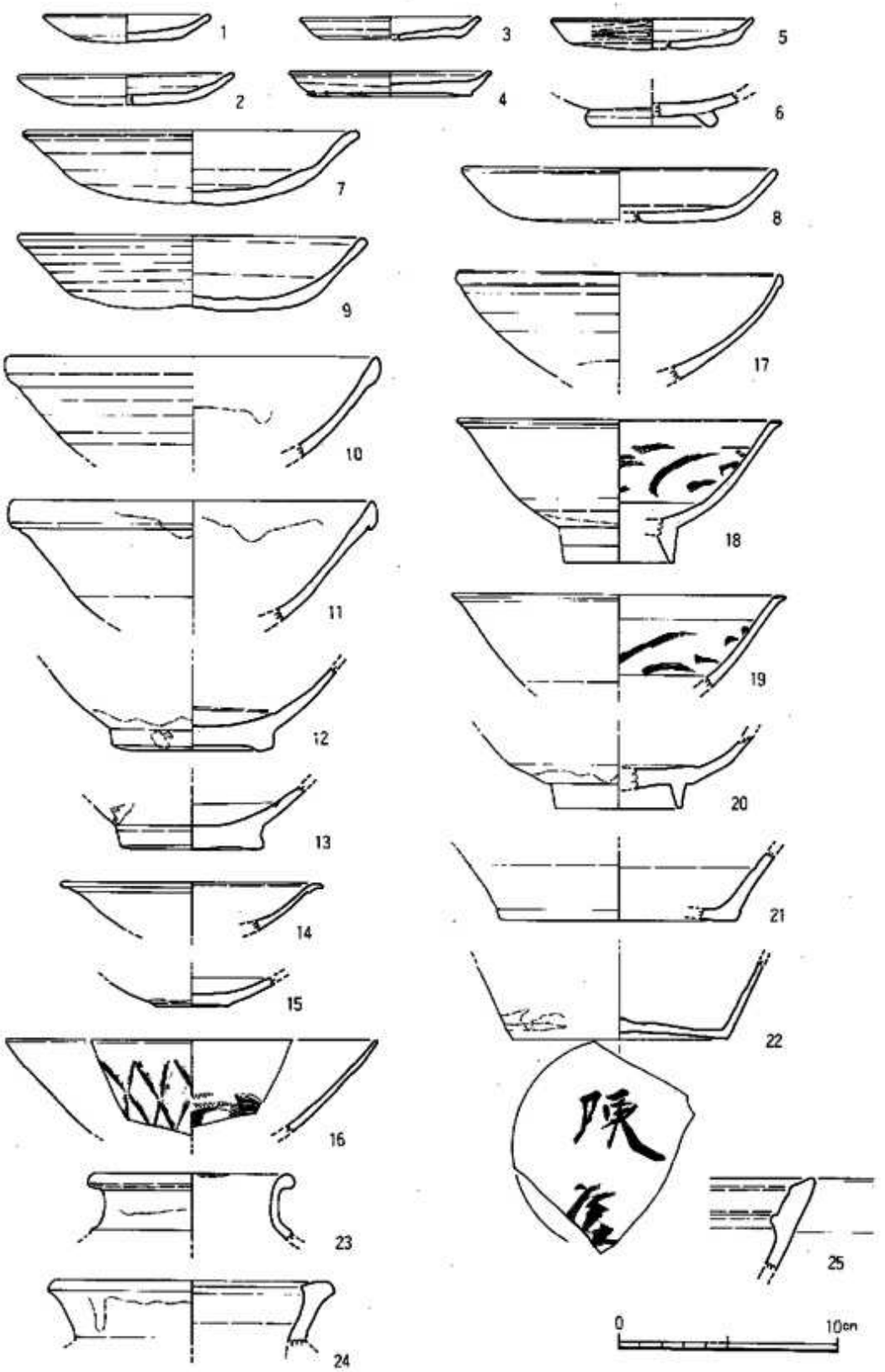


Fig.147　1082号土壙出土遺物実測図

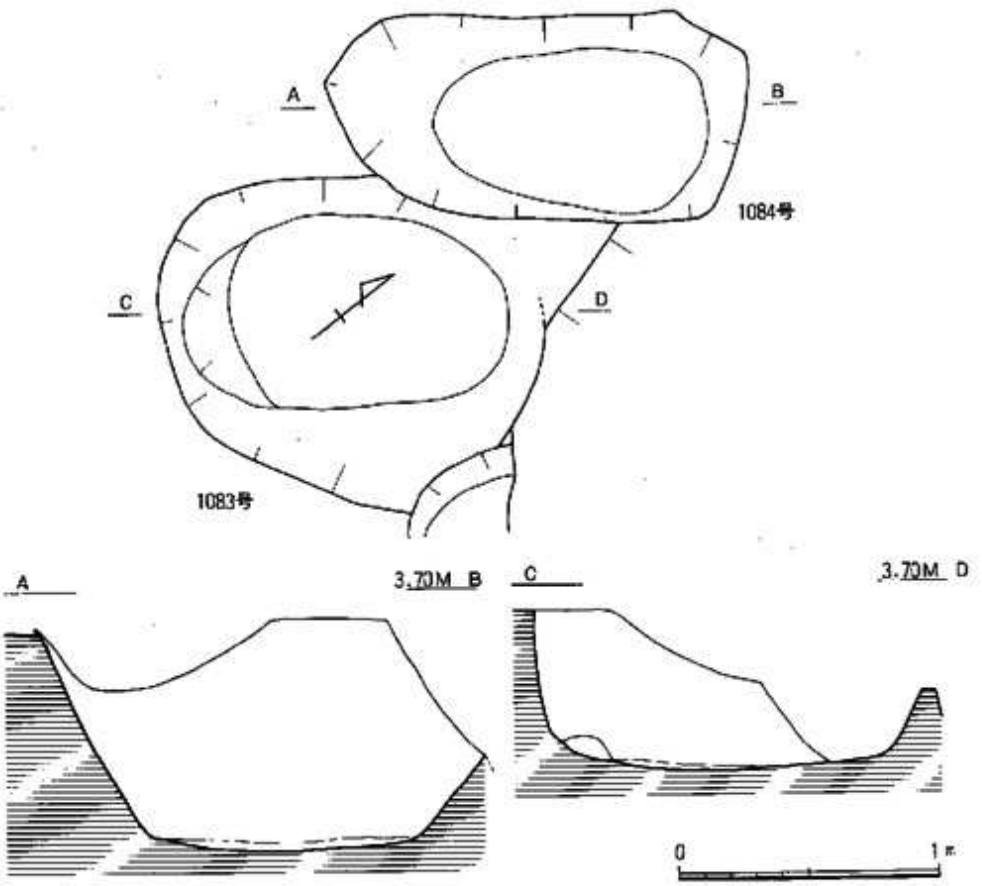


Fig.148　1083・1084号土壙実測図(縮尺：1／30)

戸に切られる。隅丸長方形を呈するが、ピットと重複しているので遺存状態は悪い。現存長1.8m、幅0.9m、深さ0.2mの浅い土壙である。覆土は暗褐色砂質土である。

出土遺物（Fig.150－12, PL.40）

出土遺物は極めて少なく古墳時代～平安時代の土師器、須恵器、焼塩壺の破片が少量出土しているだけである。12は須恵器の坏蓋である。天井部はヘラ削りで平になり口縁部を屈曲させる。天井部の一部には自然釉がかかる。口縁部～内面はナデである。

井戸の調査

149号井戸（Fig.152）

M－01区、SX37の西に位置する井戸である。大部分は調査区外へ拡がり、掘り方の一部の調査である。現存径2.6m、深さ1.5mを測り、それ以上の規模をもつ円～楕円形の井戸であろう。井筒部は検出できなかったが、144号井戸と同じく木桶を用いたと考えられる。西壁の土層で観察すると低くても標高4.3mから掘り込まれているが、上層に近世の攪乱があるため確認ができなかったものである。覆土は上層が褐色砂質土で下層は褐色砂質土と黄白色砂の互層となる。

出土遺物（Fig.153－1～7）

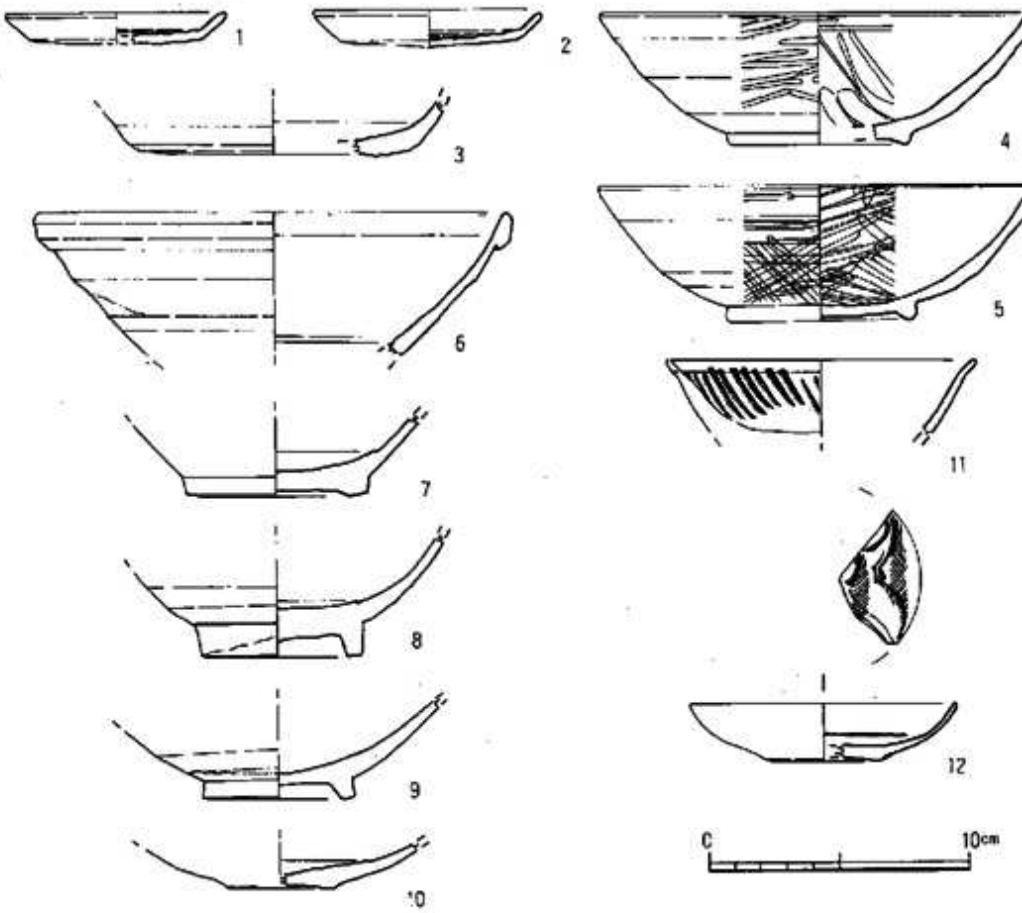


Fig.149　1083号土壙出土遺物実測図

1、2は土師器皿で底部糸切りである。口径9.1～9.3cm、器高1.1～1.3cmを測る。3～6は白磁である。3はII類の碗で胎土は灰白色、釉は淡黄灰褐色の半透明釉で全体に細かい氷裂がある。4はIV類の碗で胎土、釉とも灰白色で半透明釉である。5、6は高台付皿II類である。5は見込と体部の境に稜をもち、6の見込は輪状に釉を掻きとる。一部高台部まで淡明灰色の釉がたれる。7は陶器C群捏鉢で口縁部と内面に茶褐色の釉がかかる。口縁部の内面は大きく窪む。胎土は茶白色で粗く砂を含む。

150号井戸（Fig.76）

L－02区に位置し、大部分は調査区外へ拡がる井戸である。東側に132号井戸があり掘り下げた結果、壁面が崩落したため、平面だけを確認し、掘り下げていない。径2mを超える円～楕円形の掘り方であろう。中央部から北寄りに1012号土壙、南端は攪乱土壙が切っている。

出土遺物（Fig.153－8）

連江窯系青磁の小碗である。小さい底部から内弯する体部になり口縁部は強く外反する。内面に横線をめぐらし、その下に曲線文を描く。胎土はきめ細かな灰肌色で、気泡を含む。露胎

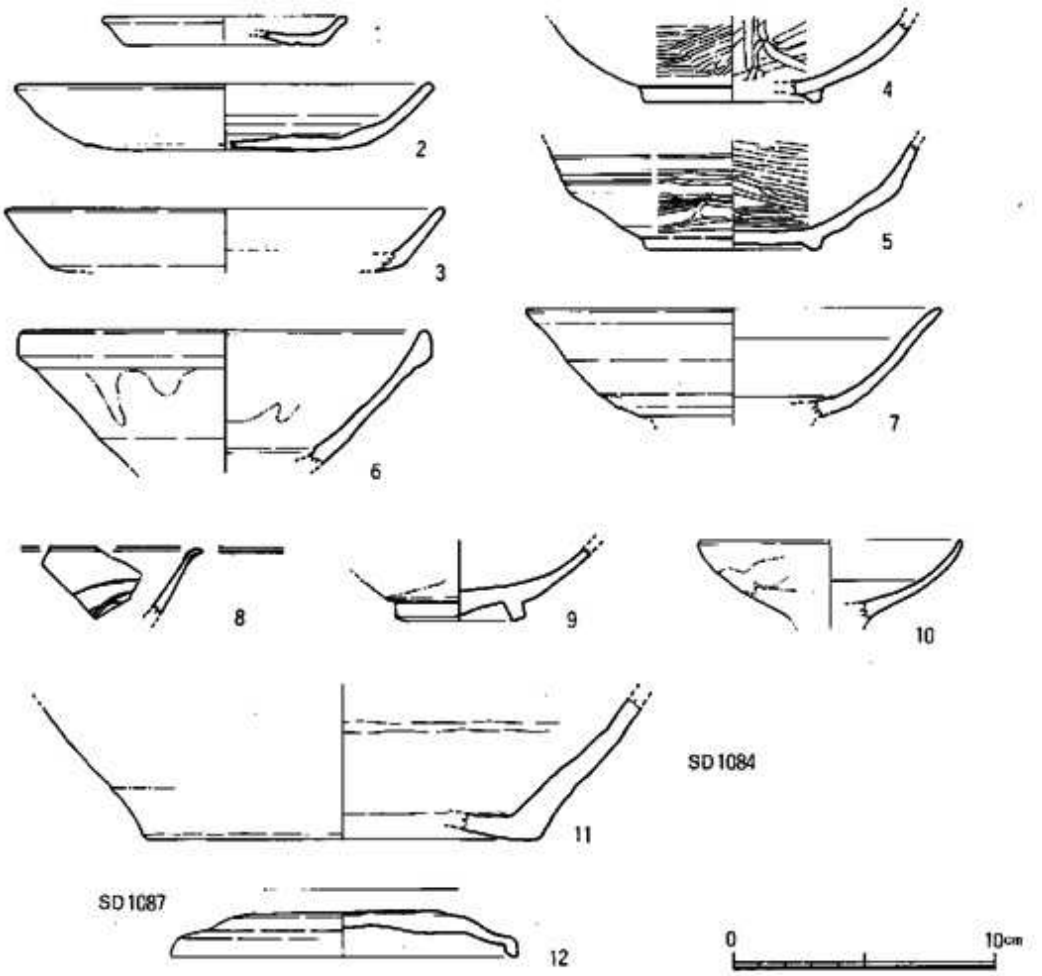


Fig.150　1084・1087号土壙出土遺物実測図

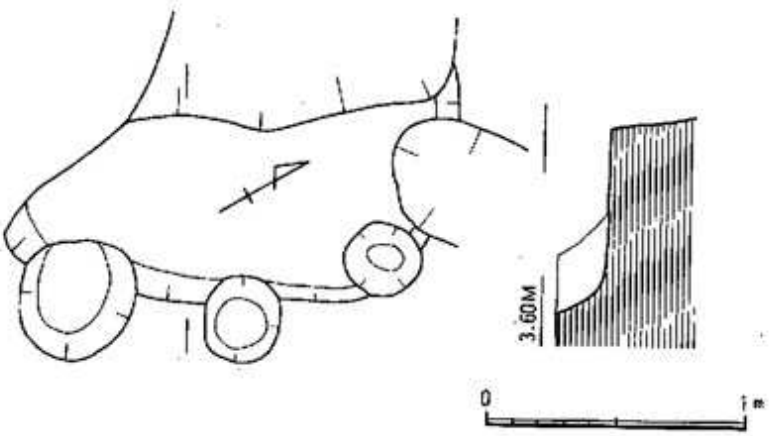


Fig.151　1087号土壙実測図(縮尺：1／30)

部分はくすんだ肌色で釉は黄味を帯びる茶オリーブ色である。体外半釉で氷裂が認められる。

152号井戸（Fig.76）

L－03区、現代井戸146号の北側に位置し、井戸の大半は調査区の西へ拡がり、全形は明らかではない。現存長2.2mを測り、規模はそれ以上の径をもつ円～楕円形であろう。

出土遺物（Fig.154, PL.43）

1～3は土師器坏である。2は底部糸切りで体部は横ナデを行う。1、3はヘラ切りである。5～14は白磁である。5はII類の碗、6～8はIV類の口縁、底部片である。胎土は白灰色で釉は灰オリーブ～青灰色を呈する。12は口縁上端を水平にするVI類碗である。13は外反する口縁で外面に波状の縦線をもつ。胎土は灰クリームで、釉は乳灰白色で内面に釉だれがある。11は見込に櫛描文、外底に墨痕をもつ。14は高台付皿で胎土は灰白色、釉は青灰色である。15は天目碗で底部に花押を墨書する。16は陶器B群の壺で胎土は茶灰色～灰色で砂粒を少し含む。釉は茶オリーブ色である。

その他の遺構の調査

18号溝（Fig.76）

L･M－01区、I区の西壁沿いに検出した溝である。大部分はSX37、132、147、149号井戸に寸断されて大まかな方向と幅を確認するにとどまった。幅1.2m、深さ0.2～0.3m、延長約8mを測り、主軸をN－10°－Wにとる。覆土は暗灰色土である。12世紀前半の溝である。

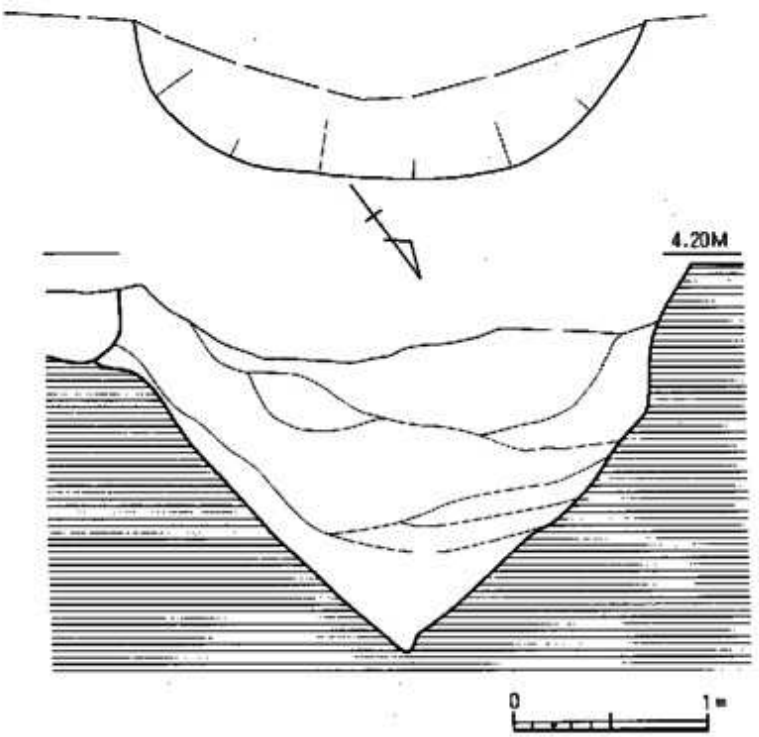


Fig.152　149号井戸実測図（縮尺：1／40）

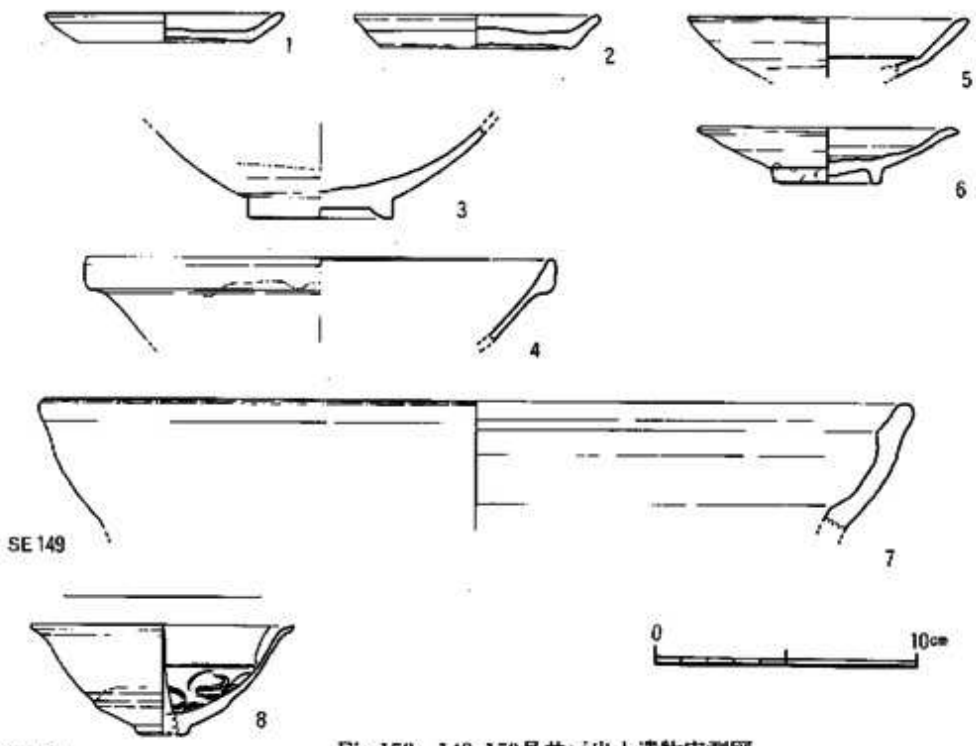


Fig.153　149・150号井戸出土遺物実測図

出土遺物（Fig.155）

1、2は土師器の皿である。底部は1がヘラ切り、2が糸切りである。1には板状圧痕がつく。3、4は土師器坏で底部は糸切りで板状圧痕がつく。5、6は瓦器埦で5は粗い研磨、6はナデで外面はヘラ削りしている。7～10は白磁碗である。7はIV類、8はV類の口縁部片である。11は陶器A群の四耳壺であろう。胎土は灰白色で砂粒を多く含む。釉は濃オリーブ色で口縁部内側まで施釉する。12は陶器C群の捏鉢である。胎土には砂粒を多く含み外面は灰黒色、内面は赤褐色を呈する。

SX36

L－01区、132号井戸の北縁から単独で出土した古墳時代土師器の甕である。暗褐色砂層から黄白色砂層にかけて完形品で埋っていたものである。周辺を精査したが掘り込みを確認できなかった。18号溝の延長線上にあり当初のその遺構に伴うと考えたが、時期が異なり単独の遺構であろう。

出土遺物（Fig.156、PL.45）

ほぼ完形の甕で胴部下半に焼成後の穿孔がある。胴部は卵形で二重口縁気味の口縁部がつき、上端は丸く収める。口縁部は横ナデ、胴部は内外面とも刷毛目調整である。胎土には砂粒を多く含み、焼成は良好で明褐色を呈する。

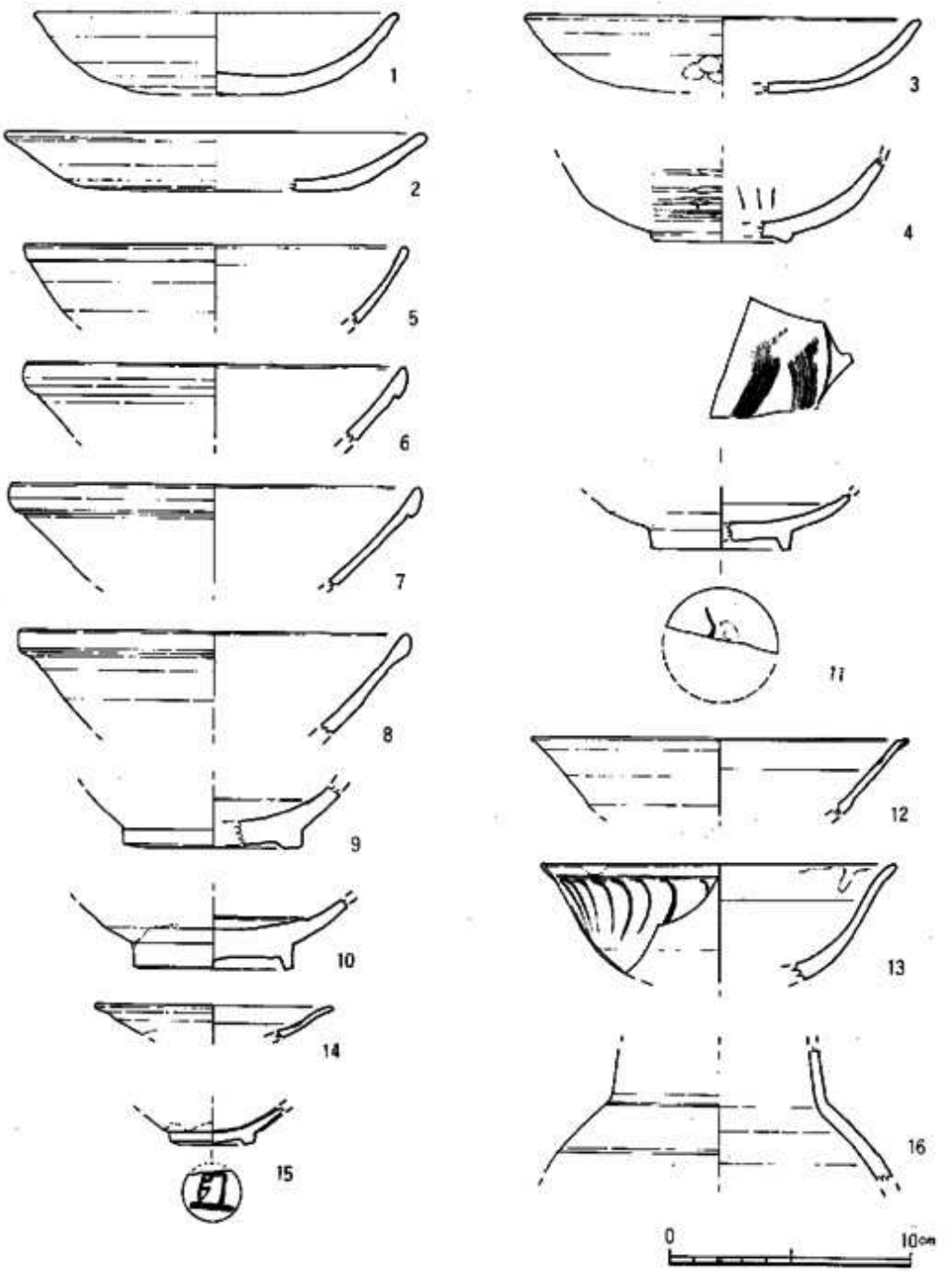


Fig.154　152号井戸出土遺物実測図

SX37（Fig.157，PL.16）

K－02区、II区の北東端に検出した瓦敷遺構である。東側は調査区外に拡がり全体の規模は不明である。北側で1056号土壙に切られる他小ピットが切るだけである。遺構の規模は東西2.2m、南北1.8mを測り、瓦は東壁際が密になるが周辺部は細片でまばらになり消滅する。瓦の大きさは一辺が5～10cmを測るものが多く、礫、土器片も一緒に入り込んでいる。瓦は東から西、北から南へ波状に傾斜して置かれるが、ほぼ平で、掘り込みは認められない。1056号土壙の南西部に浅い掘り込みがあり、壁面に沿って瓦を敷き詰めている。1次調査で舗装道路とした遺構に酷似しているので、この瓦敷遺構も道路の可能性が高い。時期は出土遺物から13世紀前半と考えられる。

出土遺物（Fig.158～161，PL.45・53）

1、2は底部ヘラ切りの土師器皿である。口縁部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕が残る。3は土師器坏で底部は糸切りである。体部は横ナデ、内底はナデである。4、5は白磁の栓状の蓋である。4は天井部に幅広の沈線を入れ花弁状にし、1ケ所空気孔を穿つ。天井部のみ灰白色釉を施す。手捏ねで全体に歪んだ整形である。5の底部は糸切りを行う。6～8は白磁IV類の碗である。6は見込に沈圏線をもち、口縁部を三角形の玉縁とする。内面に釉だ

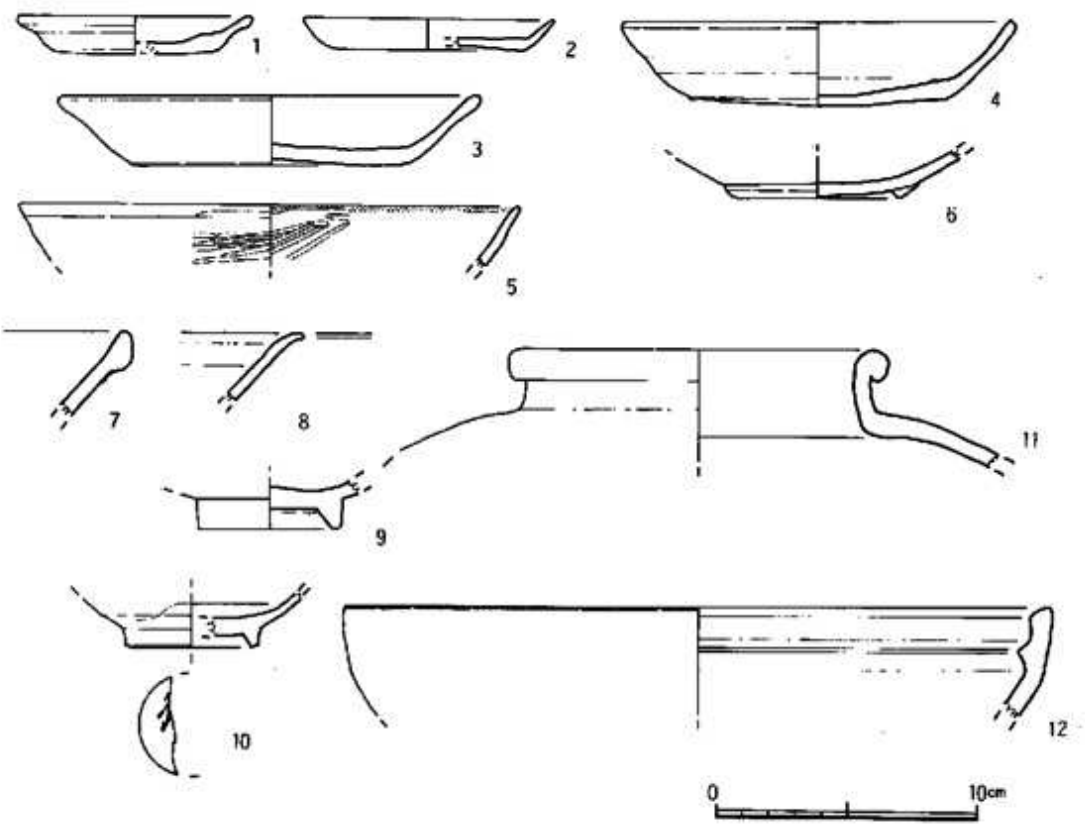


Fig.155　18号溝出土遺物実測図

れを認め体外半釉である。釉は灰クリーム色である。10はVII類の碗で、見込は広く、釉を輪状に掻きとり、直線的に開く厚い体部となる。口縁部を数個所窪ませ、内面に白堆線をもち輪花状にする。胎土は灰白色で、灰白色釉を高台脇まで施釉する。11は口縁を平にし内面に櫛描文、外面に波状の沈線を描くVI類の碗である。12は内面に櫛描文、外面に波状沈線をもち、外底に「王」と花押を墨書している。胎土は灰白色で淡黄明灰色の釉を高台部まで施す。13～21は白磁の底部で13に「＋」、17に花押を墨書し、14は見込の釉を輪状に掻きとる。18は見込に曲線文を描き広南風の白磁碗である。21には「張」、19、20の外底には墨痕が残るが判読不能である。22、23は半皿のII類である。24は外底面に墨書する。25～27はII類の高台付皿である。28は壺の口縁部である。口縁下に鍔状突帯をもつ。灰白色の胎土に淡黄緑灰白色の半透明釉で口縁部は露胎である。29は高麗青磁の皿である。精良なつくりで灰色の胎土で淡緑色の釉を施す。内面に花文をもつ。30は青白磁の碗で内面に櫛描文、曲線文をもつ。31の外底部に「陳」と中国人名を墨書している。32は天目碗である。胎土は淡黒灰色で明赤褐色の不透明釉を施す。33～37は陶器群である。33、34はC群の捏鉢である。胎土は黒灰色で砂粒を多く含む。35～37はB群陶器である。37は壺の底部で下半部は露胎である。底部に中国人名「上」を墨書する。40は政和通寶である。38は滑石製の小型の石鍋である。胴部は内弯し、外面に鍔がつく。39はガラス瓶である。暗緑色で気泡を含む。41～43、45～47は瓦片である。41は軒丸瓦、47は大陸系の軒

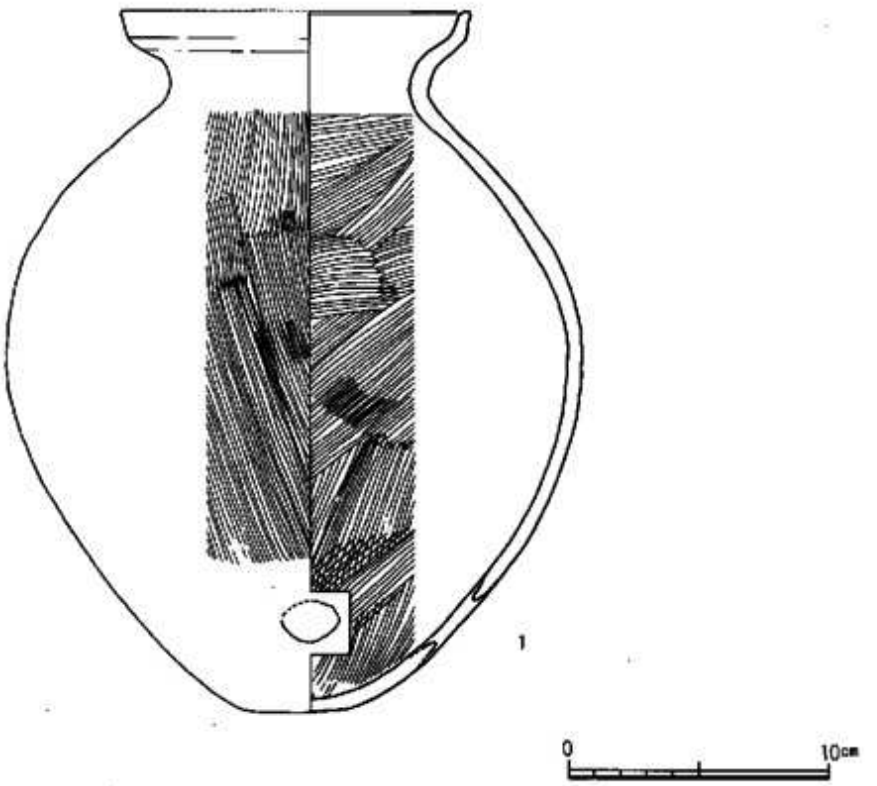


Fig.156　SX36出土土師器実測図

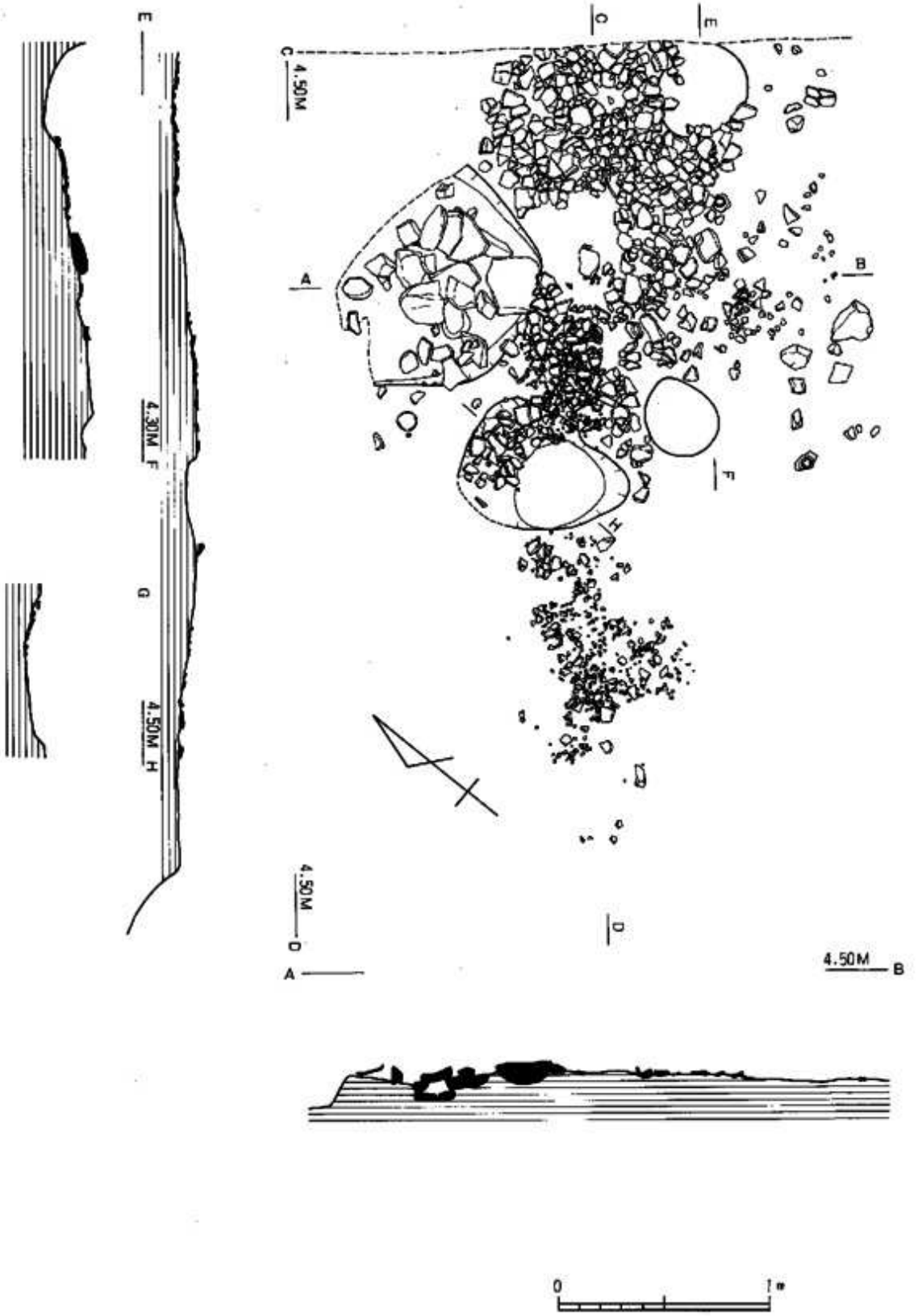


Fig.157　SX37実測図(縮尺：1／30)

平瓦で、42、43、45、46は丸瓦である。44は偏平な瓦質の土製品である。上面を平滑にしており、陶製の硯の可能性もある。

6．V面の調査

IV面までの調査と異なり、基盤層が暗褐色砂層（古墳～奈良時代までの包含層）に掘り込まれた遺構である。一部新しい遺構もみられるが、奈良・平安時代前半までの遺構である。しかし大部分は後の時代の遺構に切られ遺存状態は悪い。

1089号土壙（Fig.163）

K－02区、II区の北壁に沿って検出した土壙である。V面で検出したが本来IV面での掘り残しである。北側は調査区外へ、南側は1068号土壙に切られ遺構の遺存状態は極めて悪く、円～楕円形土壙の中央部にあたる。規模は幅0.8m、現存長0.25m、深さ0.5mを測る。

出土遺物（Fig.164－1～15）

1、2は底部糸切りの土師器皿である。3、4は土師器坏で3はヘラ切り、4は糸切りである。5～14は白磁である。5～7はII類、8はV～VI類、9、10はIV類の碗である。10は見込に沈圏線をもち、体外半釉である。口縁は玉縁で折り返しの跡が明瞭に残る。11～14は皿である。11は内面に櫛描文様をもち、口縁部が外反する高台付皿である。13、14は内面に白堆線をもち、口縁部が外反する。15は陶器C群の捏鉢である。胎土は少し赤味をおびた黒褐色である。口縁部内面を山形に肥厚させている。

1093号土壙（Fig.163）

L－03区、II区の中央西寄りに位置する。南側を1067号、北側を1059号土壙に切られ、全形は不明である。幅1.3m、現存長1.5m、深さ0.95mを測る。覆土は暗～灰褐色砂層である。8世紀中頃の土壙であろう。

出土遺物（Fig.164－16～21）

出土遺物は須恵器だけに限られる。16は須恵器坏である。胎土には少し砂粒が混じるが良好で色調は灰色を呈する。内外面とも横ナデ調整である。17～19は高台付坏である。高台は低く、外に開き内外面とも横ナデ調整である。焼成は悪く灰白色～暗赤褐色を呈する。20、21は須恵器の坏蓋である。胎土は小石粒を少し混入し、灰白色を呈する。内外面とも横ナデ調整である。

1094号土壙（Fig.162）

L－03区、II区中央の東壁際に検出した土壙である。大部分は上面の遺構に切られ掘り込みの上端の一端を検出しただけで全形は不明である。覆土は1093号土壙と同様に暗～茶褐色砂層である。土器は上層からの出土である。

出土遺物（Fig.165－1～3）

1は土師器の甕の口縁部である。直線的な胴部で外反する口縁部となる。内面は斜めのヘラケズリ、外面は縦位の刷毛調整である。2は土師器の坏である。口径19.2cmを測る大型品で、

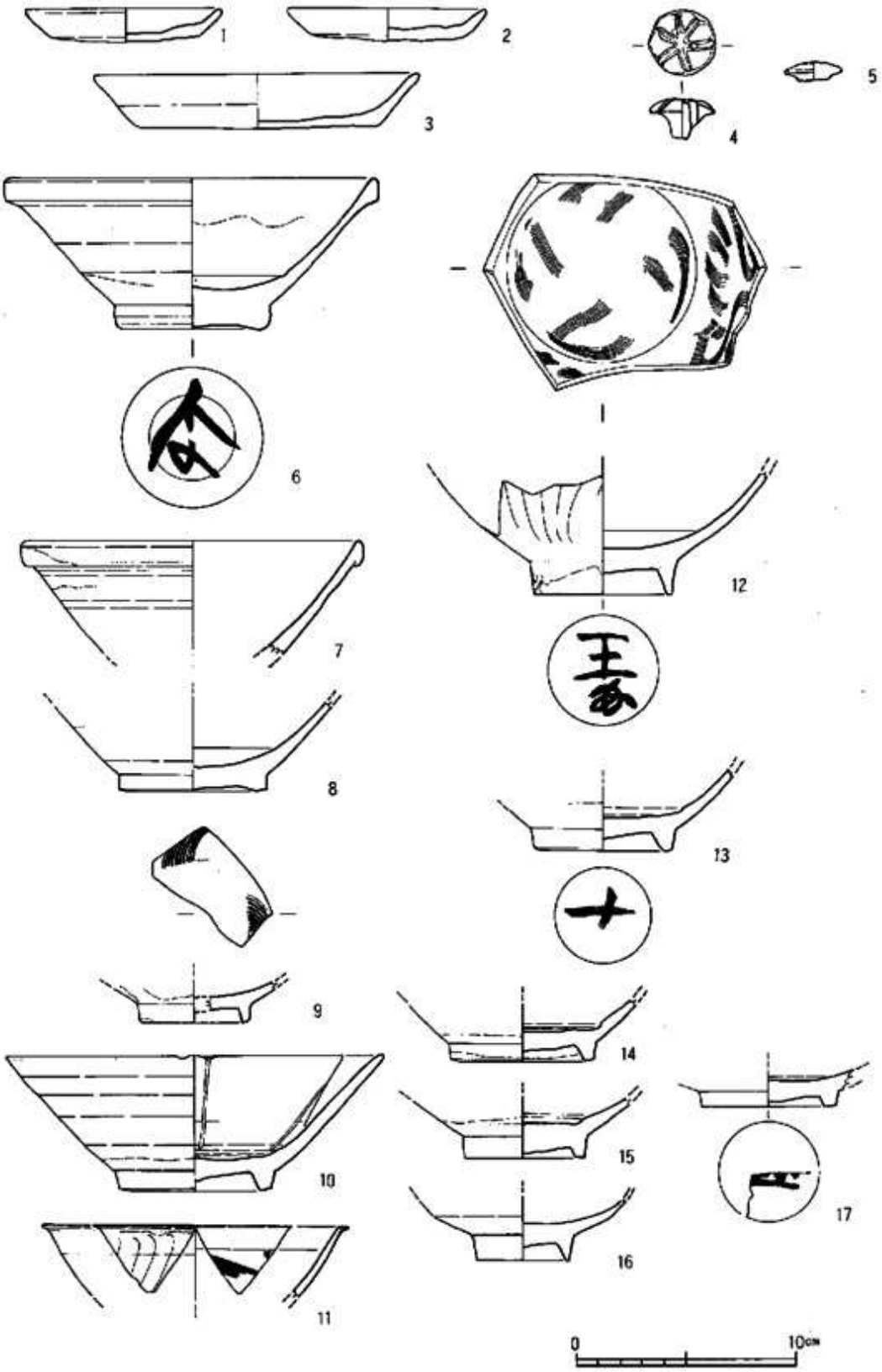


Fig.158　SX37出土遺物実測図(1)

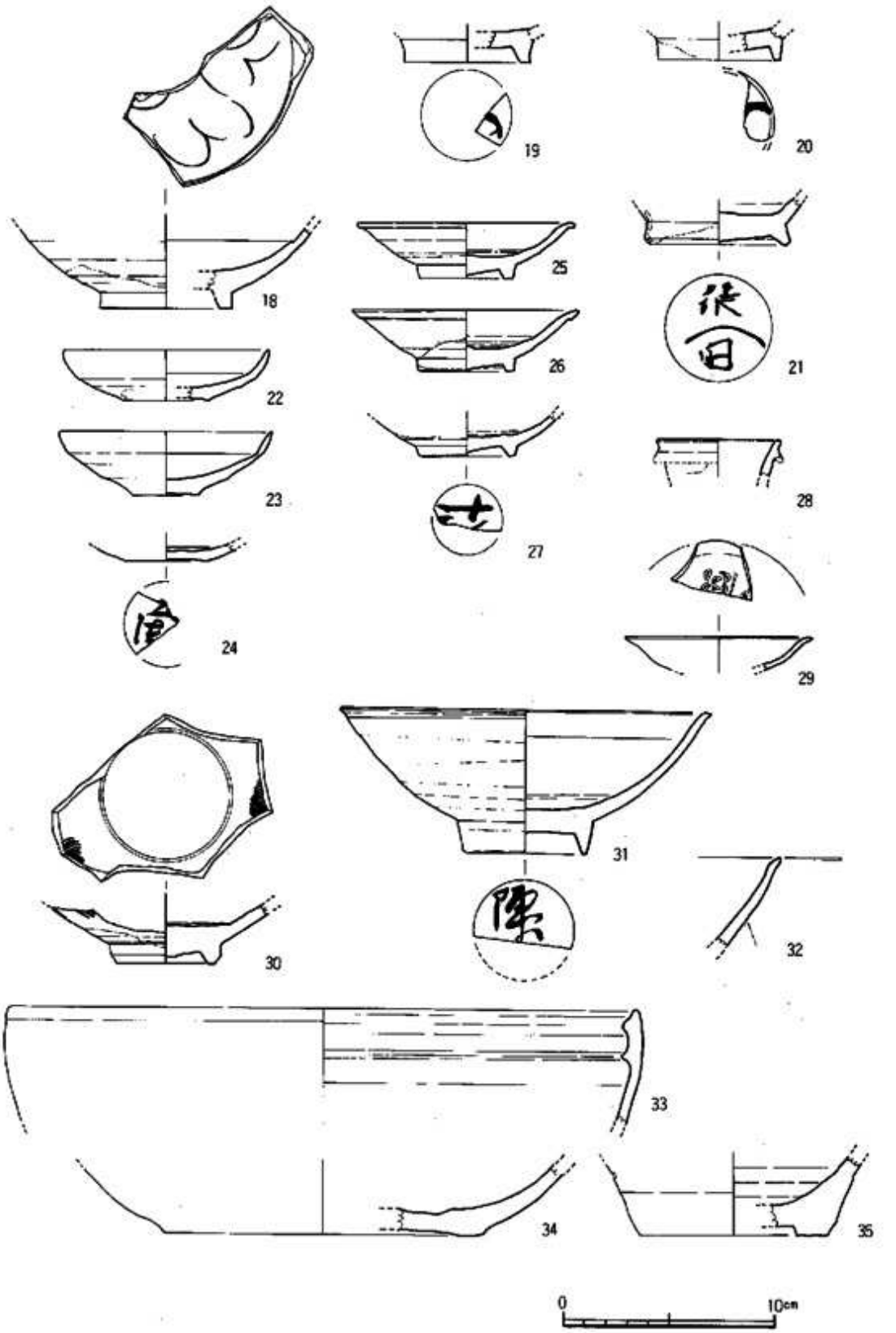


Fig.159　SX37出土遺物実測図(2)

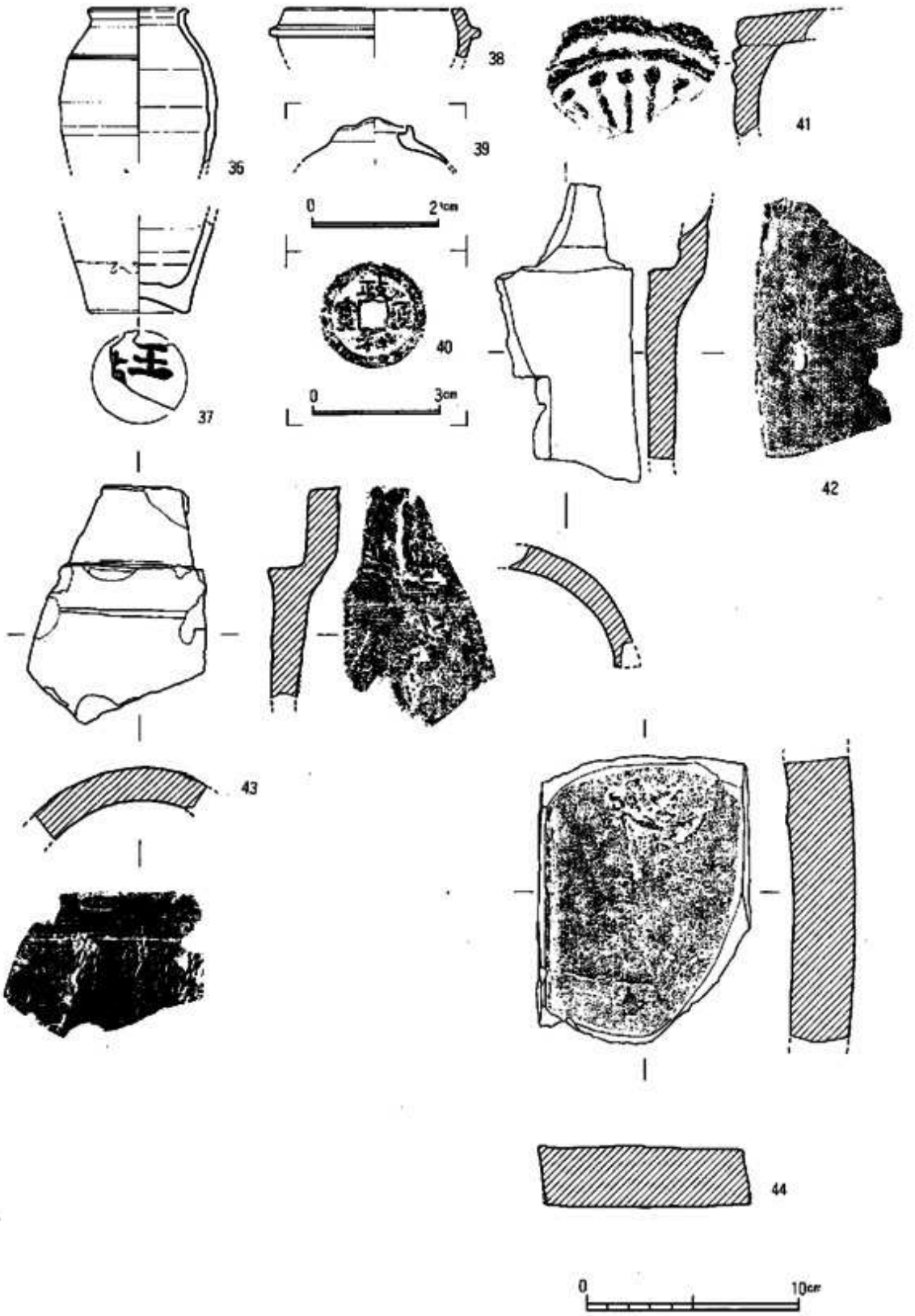


Fig.160　SX37出土遺物実測図(3)

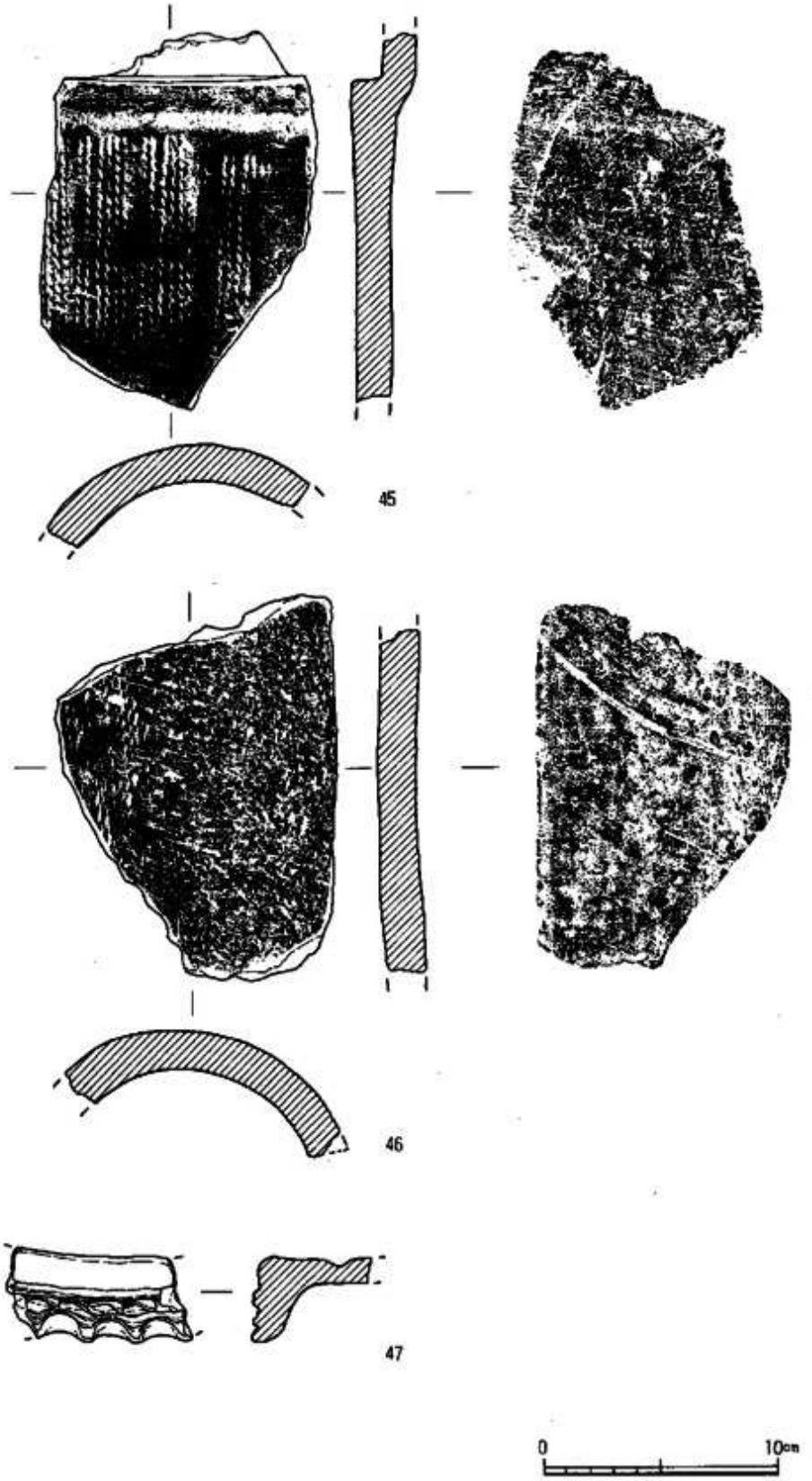


Fig.161　SX37出土遺物実測図(4)

内外面とも横ナデである。3は須恵器の皿である。胎土には砂粒を少量含み、暗灰色を呈する。

1095号土壙（Fig.163）

L－03区、144号井戸、1087号土壙の東側に位置する。東西を上面の遺構に切られる。円～楕円形の土壙であろう。規模は幅1.1m、現存長0.3m、深さ0.2mを測る。覆土は暗灰色砂層である。

出土遺物（Fig.165－4～7）

出土遺物は須恵器だけである。4、5は須恵器の坏である。胎土に砂粒を少し含み、焼成は悪く灰白色～淡褐色を呈する。内外面ともナデ調整である。6は高台付坏である。焼成は良好で青灰色である。7は坏蓋である。扁平な天井部で端部を屈曲させる。焼成は悪く灰白色を呈する。

1096号土壙（Fig.163）

L－01区、II区の北西端に検出した土壙である。東側を1089号土壙に切られ三日月形を示す。覆土は暗褐色砂質土でIV面での掘り残しである。現存幅0.9m、長さ0.4m、深さ0.4mを測る。

出土遺物（Fig.165－8・9）

8はIV類の白磁碗である。胎土は灰クリーム色で乳白色の釉である。9は白磁皿II類である。見込に沈圏線をもつ。胎土は白灰色で釉は飴色で釉尻にオレンジ色の渋がある。底部脇から露胎である。

1103号土壙（Fig.163）

L－04区、1069号土壙の東側に位置する。東側は調査区外へ拡がり北側はピットにきられ、現状では三角形を呈する。深さは0.2mで本来楕円形の浅い土壙と考えられる。覆土は暗～灰白色砂層である。

出土遺物（Fig.165－10～12）

10～12は須恵器である。10は坏蓋で、端部を屈曲させ、天井部は扁平である。胎土には砂粒を含む。11は坏身の口縁部である。胎土に細かい砂粒を多く含む。焼成良好で暗灰色である。12は大甕の胴部片である。焼成は良く外面に自然釉がかかる。外面は平行タタキ、内面は青海波文がつく。

7．遺構、包含層出土の遺物

上述以外の土壙、ピット、包含層からも多くの輸入陶磁器を始めとして多くの遺物を出土しているので、各土壙、ピットについては時期を示す遺物を中心に数点毎に記載している。

I面各土壙出土遺物（Fig.166・167，PL.48）

1は陶器の鉢であろう。口縁下に突帯をめぐらし、口縁部を尖らす。2は龍泉窯系青磁の皿で見込に蓮花文を描く。胎土は灰白色で灰色を帯びる若草色の釉である。4～17は932号土壙から出土した一括遺物である。4～6は底部糸切りの土師器である。7はV類、8はIV類、9は

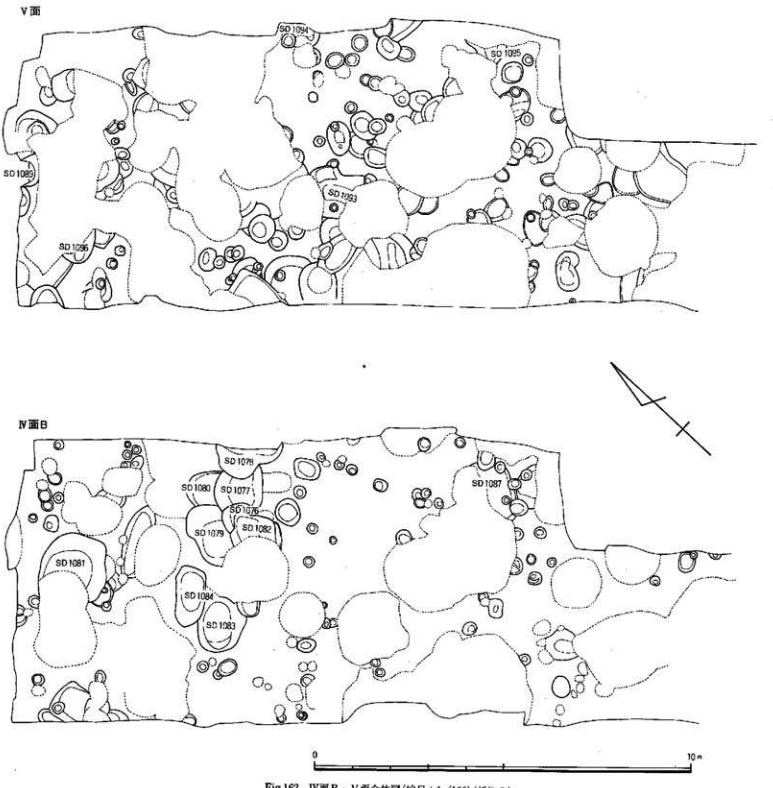


Fig.162 IV面B・V面全体図(縮尺：1／100)(折込み)

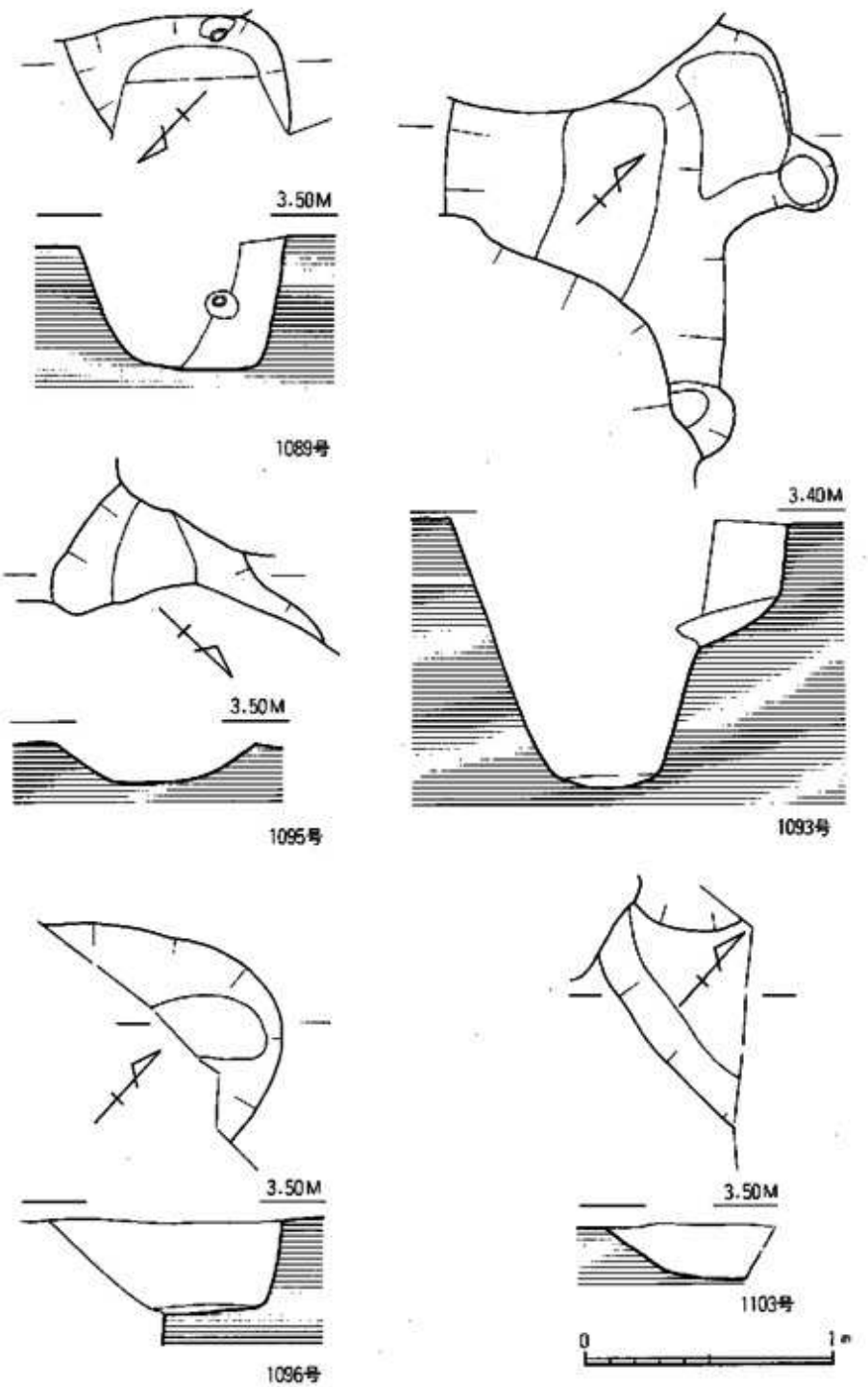


Fig.163　1089・1093・1095・1096・1103号土壙実測図(縮尺：1／30)

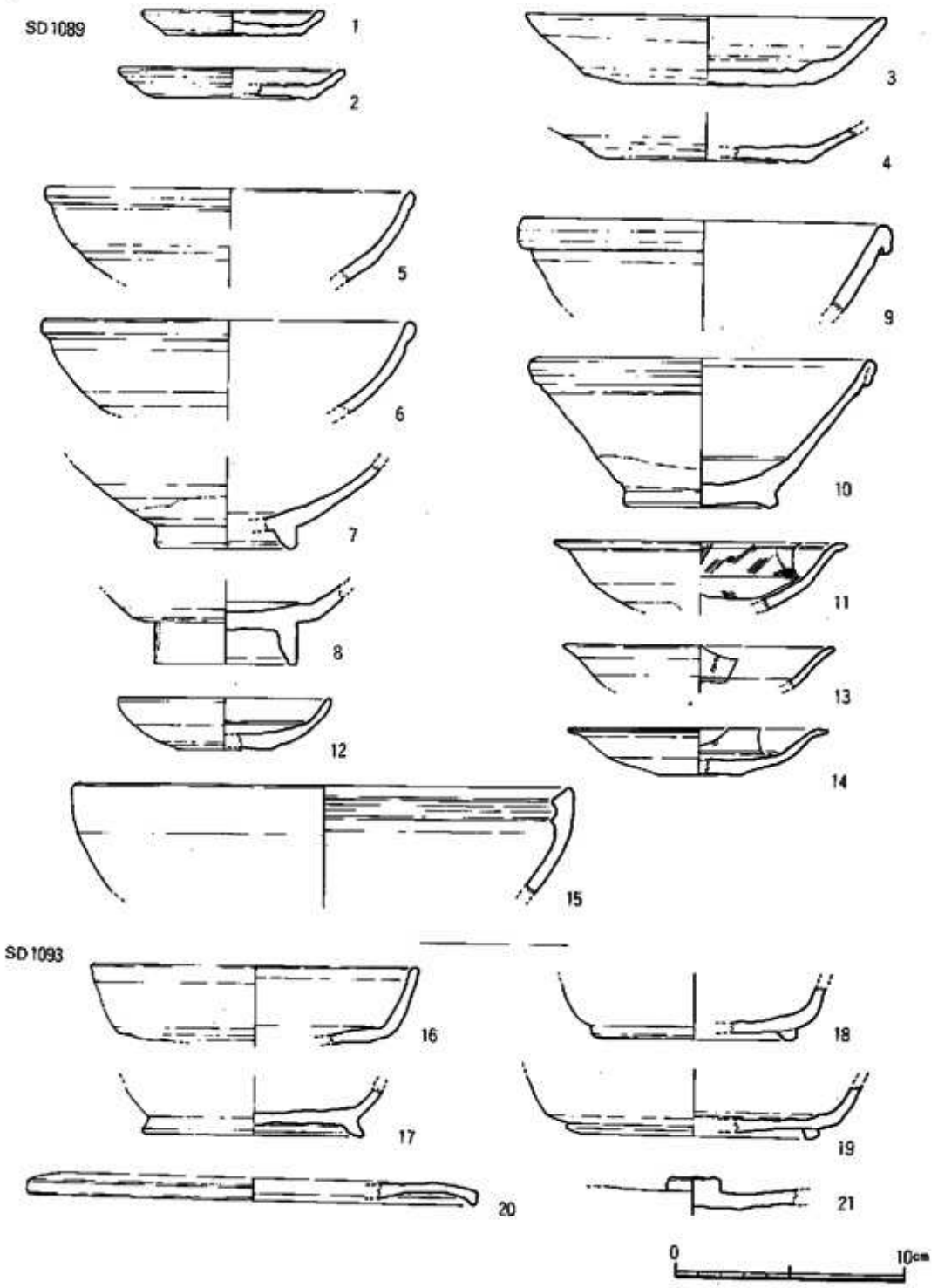


Fig.164　1089・1093号土壙出土遺物実測図

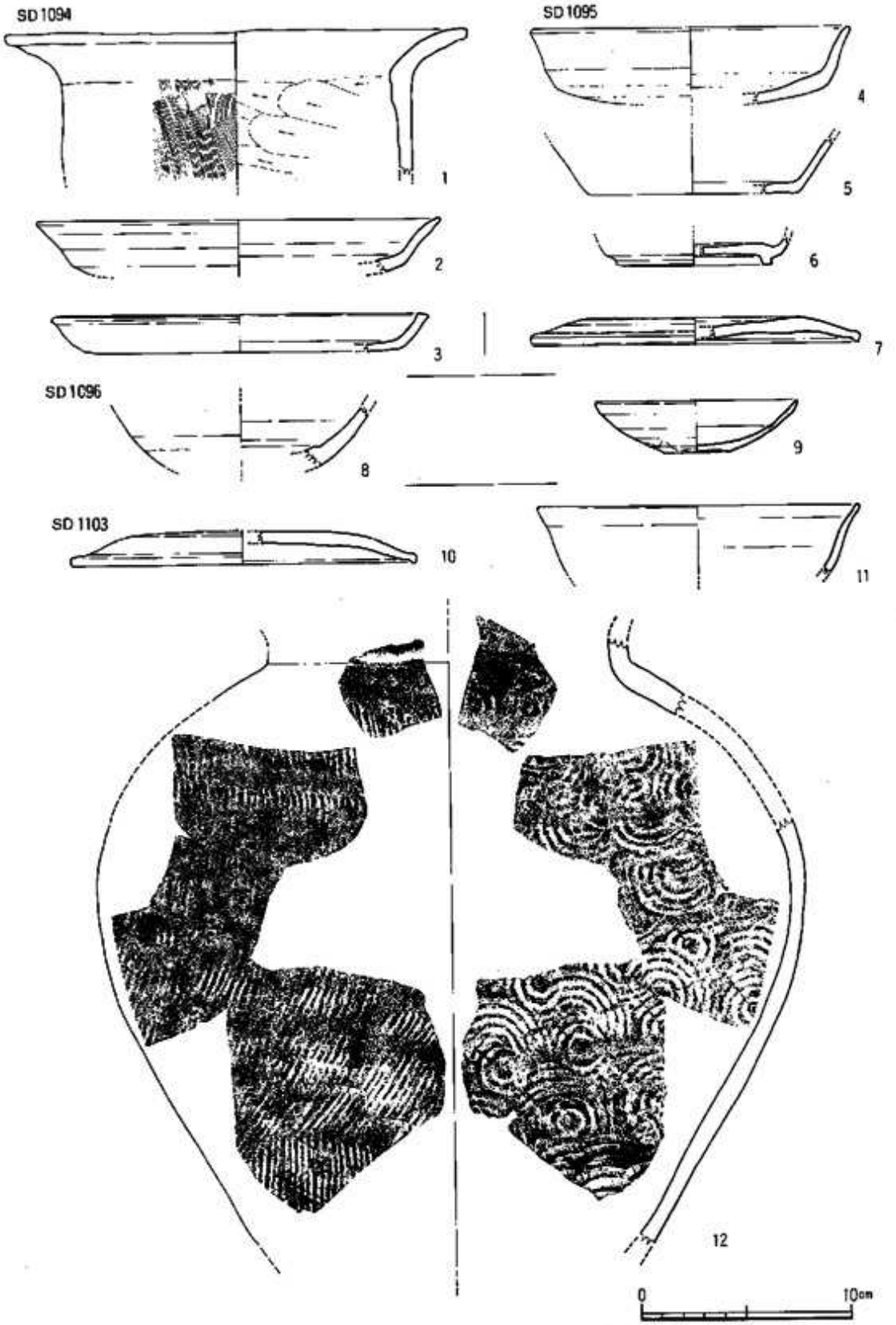


Fig.165　1094～1096・1103号土壙出土遺物実測図

II類の碗である。11は見込に曲線文をもつ白磁の皿である。12、13は同安窯系青磁である。12は外面に縦線、内面に櫛描文をもつ。13は小碗で見込に櫛描文をもつ。15は龍泉窯系青磁皿で見込に沈線文と櫛描文をもつ。緑灰色の釉である。16は青白磁の小碗で見込に片切彫、櫛描文をもつ。緑色を帯びる灰青色の釉で畳付～底部は露胎である。17は上師質の土鍋である。内面は刷毛目、外面は指頭圧痕が残る。18は須恵器の蓋で969号土壙出土。20は龍泉窯系青磁皿で内面に櫛描文をもつ。21は白磁碗で見込に片切彫の曲線文と櫛描文をもつ。24は嘉祐通寶である。22は同安窯系青磁碗で内、外面に櫛描文をもつ。25は陶器D群の無頸壺である。釉は茶色がかったオリーブ色であるがほとんど熱を受け剝落している。

II面各土壙出土遺物 (Fig.168～170, PL.48)

1はV類の白磁碗で口縁部は外反し、外面の口縁下に稜をもつ。2～22は999号土壙からの一括出土土器である。4、6は底部ヘラ切りの土師器である。2は東播系の鉢の口縁部である。3、6～9は瓦器埦である。6は外底部に板状圧痕がある。7は粗い研磨、8、9は丁寧な研磨である。内側には暗文風の研磨を施す。10～16、18～20は白磁である。11はII類、12、13、19はIV類、10、16はV類、15はVI類の碗である。17は型押しの青白磁碗である。21は茶釉陶器蓋である。22はハマである。胎土は砂混じりで粗い。表面に指の押圧によるヒビ割れ、底面には墨書が認められる。23～28は1002号土壙出土。23は底部糸切りの土師器皿である。25は0類の白磁碗で内面に凸堆線をもつ。24はVI類、26はV類の白磁碗である。27は見込に沈圏線をもつIV類の白磁碗である。28は陶器B群の四耳壺である。胎土は暗灰色で灰白、灰緑、明茶褐色の釉である。肩、胴部に沈線をもつ。31～34は1008号土壙出土。31は糸切り、32はヘラ切り底部の土師器、33、34はIV類の白磁碗である。35～50は1009号土壙出土。35は糸切り底部の土師器皿である。36～38は糸切り底部の大型土師器坏である。39はV類、40はVI類、41、43～45はIV類の白磁碗である。49は同安窯系青磁碗である。外面に縦線文、内面に櫛描文をもつ。胎土は灰白色で淡暗青緑灰色の釉である。42は白磁碗である。50はガラス玉で、二連続きとなっている。51は1019号土壙出土。

III面各土壙出土遺物 (Fig.171・172, PL.49)

2は白磁の壺である。球形の胴部で割瓜状に幅広の縦線を入れる。4はV類の白磁碗で高台脇まで灰白色の釉を施す。5～10は1036号土壙出土。5、6は底部ヘラ切りの土師器坏である。8～10は白磁の碗と皿である。11～18は1042号土壙出土。11～13は丸底気味の底部ヘラ切りの土師器皿、14は糸切り、15はヘラ切り底部をもつの土師器坏である。16～18はIV類の白磁碗である。

IV面各土壙出土遺物 (Fig.173～175, PL.49)

3、4は白磁碗で外底部に墨書するが判読不能である。8～12は1061号土壙出土。7は瓦器埦である。外底部に板状圧痕がつく。8～11は白磁である。11はつまみをもつ蓋で外面のみ施釉

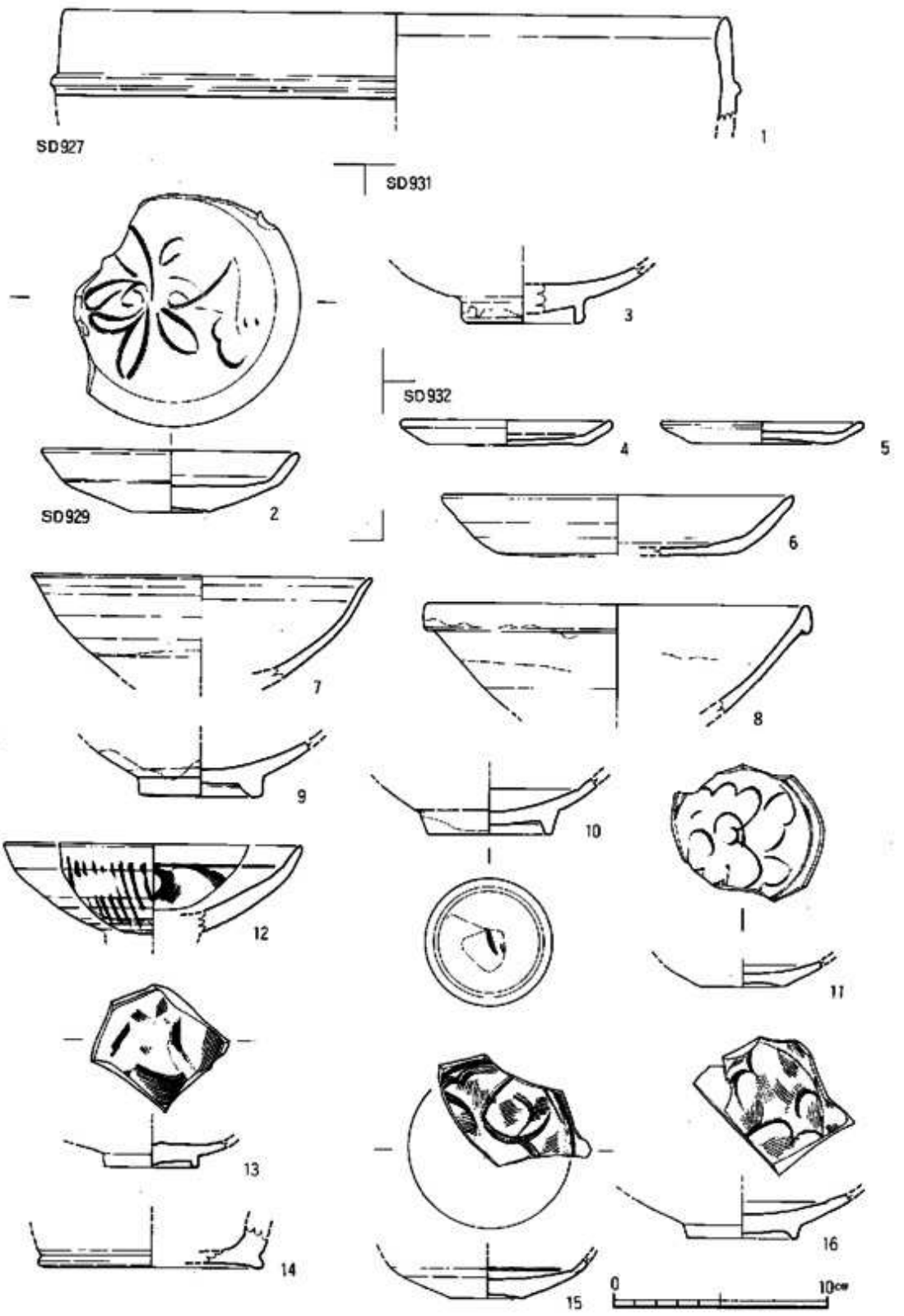


Fig.166　I面各土壙出土遺物実測図(1)

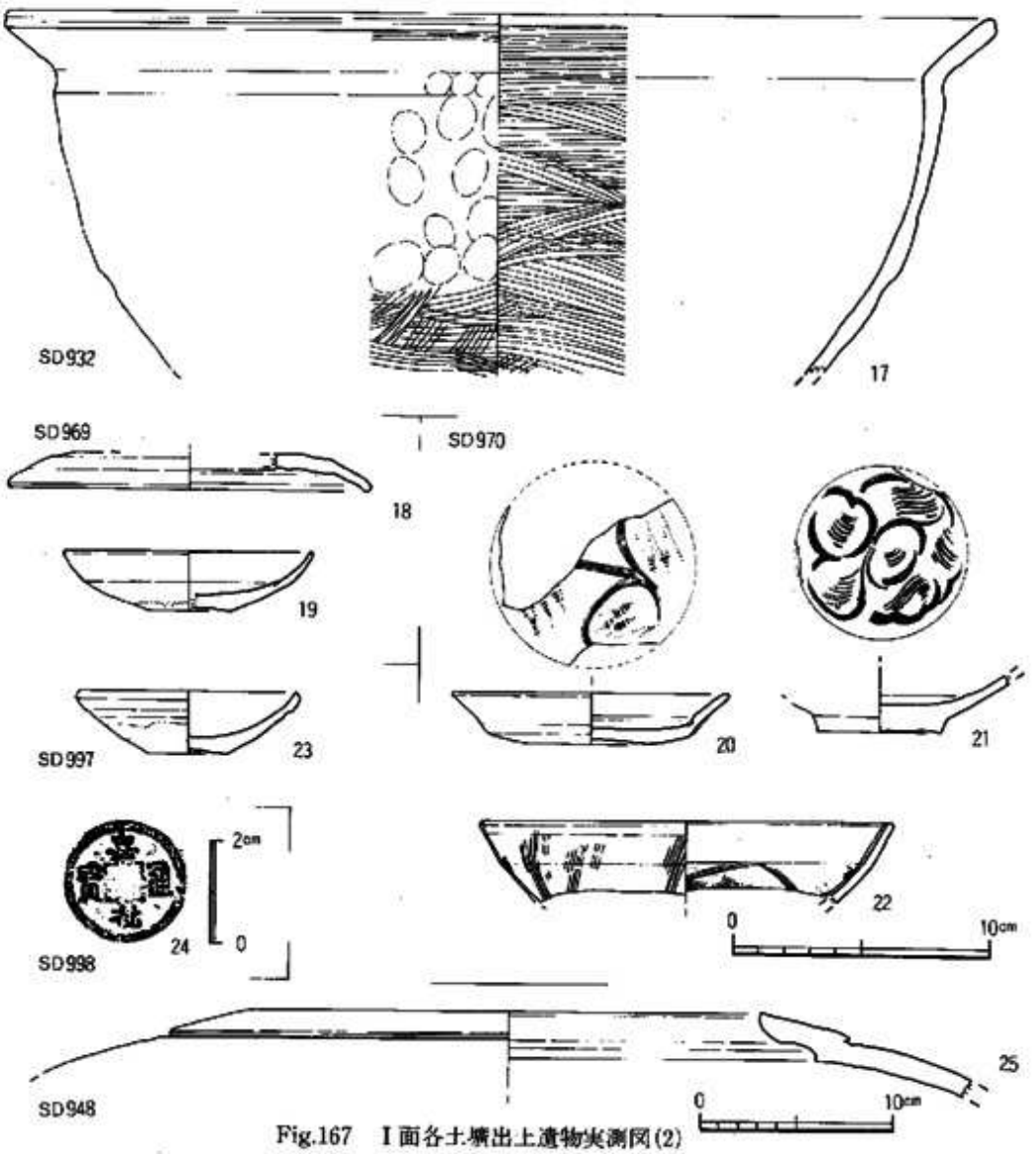


Fig.167　I面各土壙出土遺物実測図(2)

する。12は茶緑釉の陶器準A群の壺である。13～19は1073号土壙出土。13はヘラ切り、14は糸切りの土師器である。15はIV類、16はVI類、17はIX類の白磁である。18はB群の盤口壺、19はA群の四耳壺である。20、24は1074号土壙出土。25～36は1075号土壙出土。25はヘラ切り、26は糸切り底部の土師器皿、27、28は丸底の土師器坏、29、30は瓦器塊である。32～36は白磁である。38～41は1080号土壙出土。38は底部ヘラ切りの土師器皿である。39、40はIV類の白磁碗である。41は青磁碗である。胎土は灰白色で青緑色の釉を施す。42は環状の銅製品である。外縁を肥厚させ外面をV字状に窄ち何かに嵌め込んだ状況を示す。円孔の縁金具であろう。

ピット出土の遺物（Fig.178～181，PL.46・47・53）

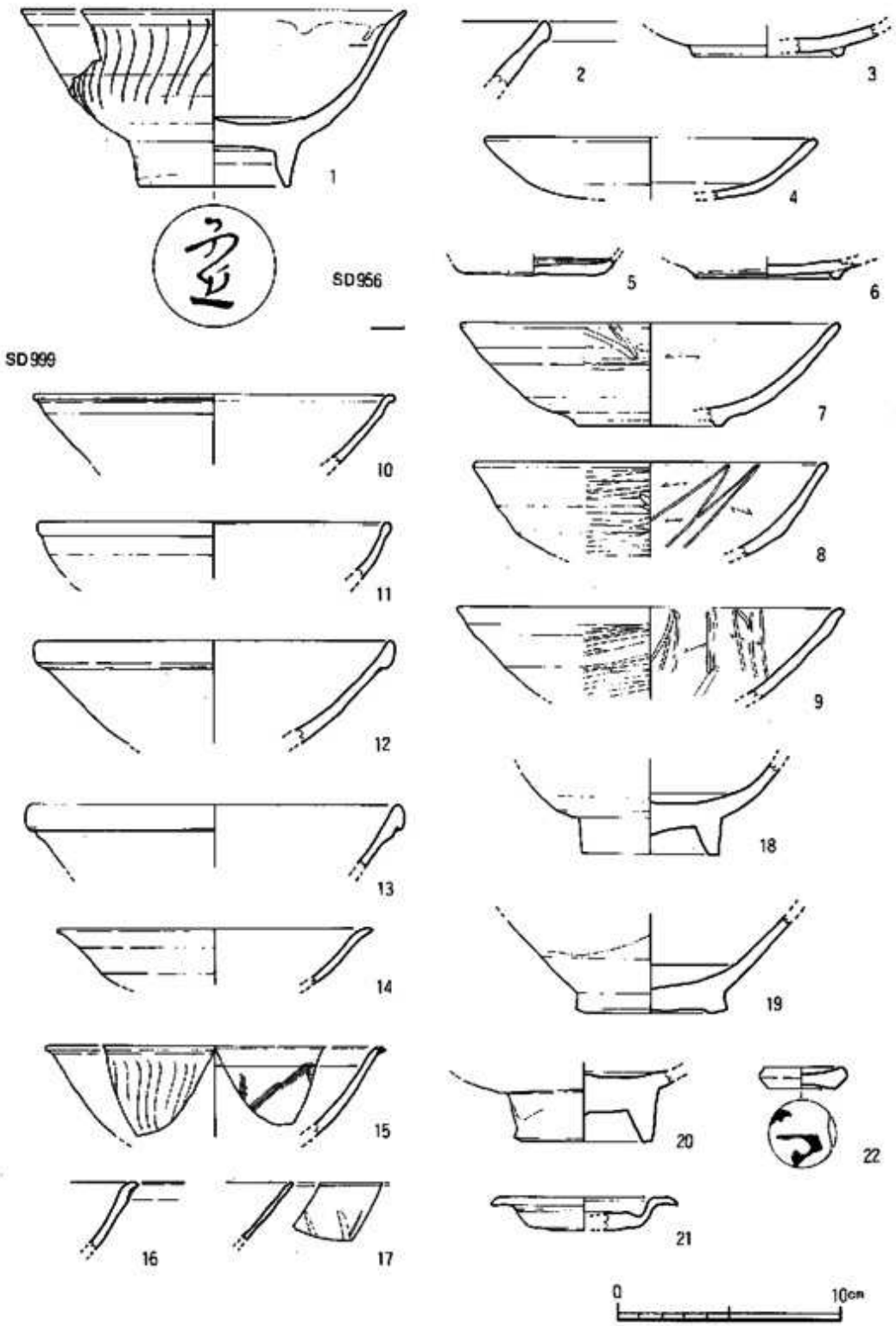


Fig.168　II面各土壙出土遺物実測図(1)

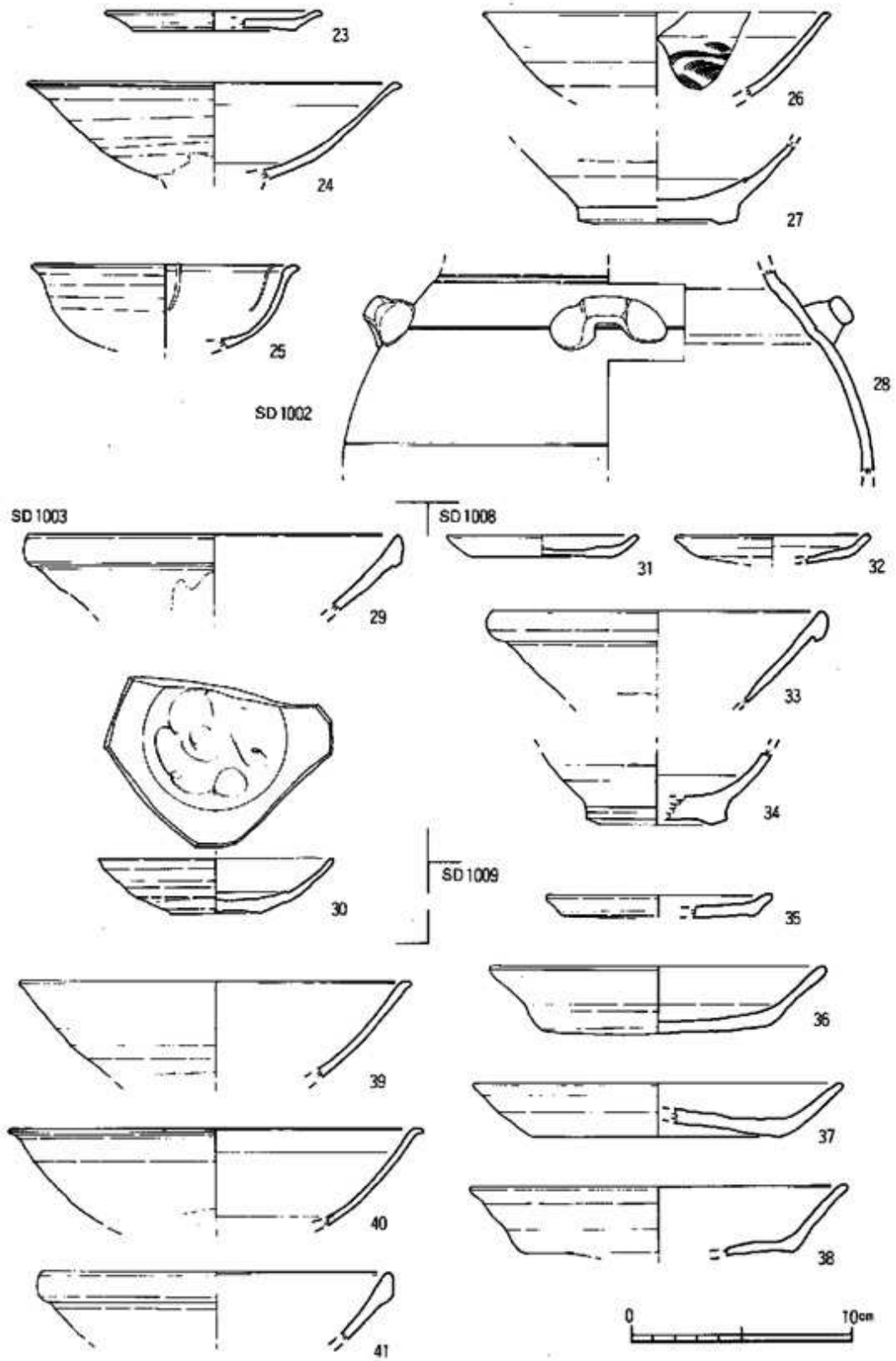


Fig.169　II面各土壙出土遺物実測図(2)

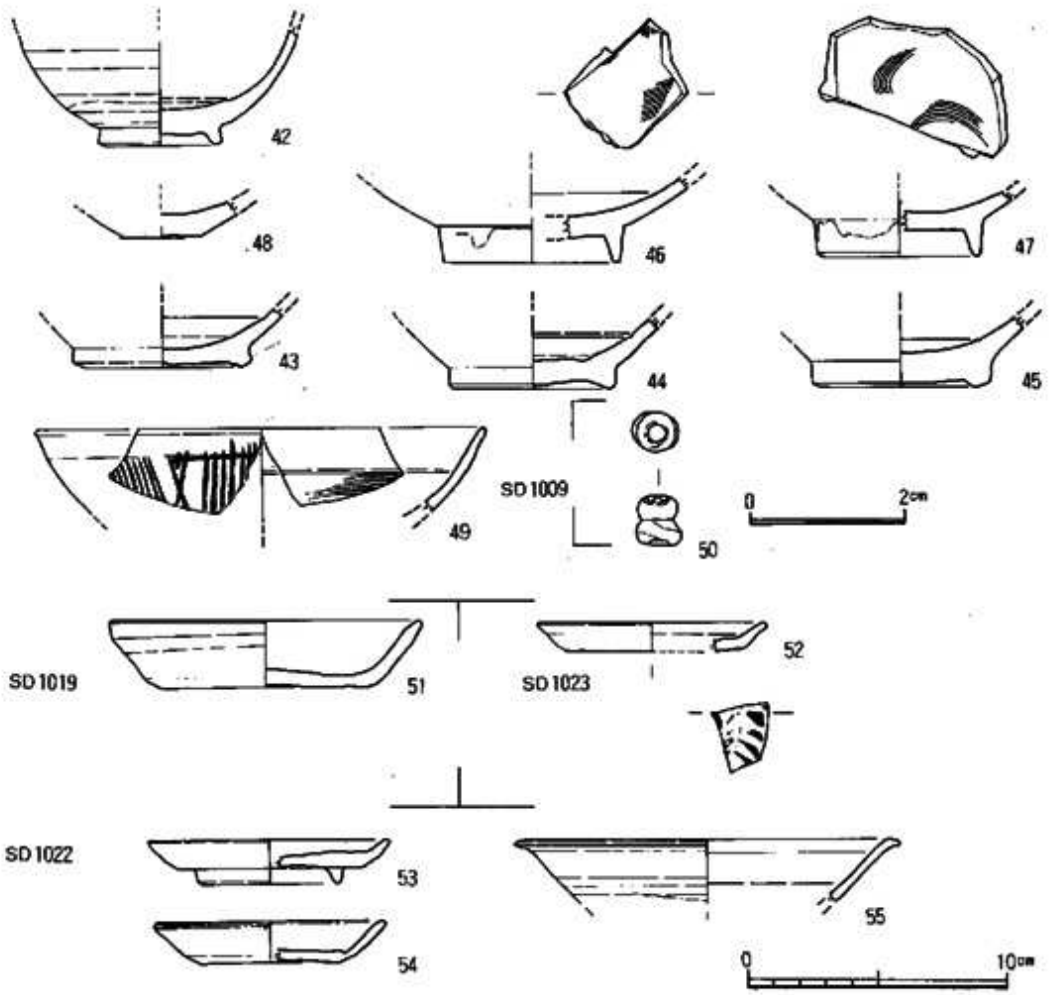


Fig.170　II面各土壙出土遺物実測図(3)

4は緑釉陶器の碗である。胎土は精良で淡い黄緑釉を薄く施す。6は黄褐釉の陶器A群の盤で見込に鉄彩文を施し、外底の露胎部に「綱」のつくりを墨書する。14は白色の石帯で2対の孔をもつ。16は天□通寶である。17は灰白色のガラス玉である。18は白磁碗で内面に櫛描文をもち、外底部に「三郎」と日本人名を墨書する。23は高麗青磁の皿で口縁を輪花状にし、内面全体に花文を施す。28は龍泉窯系青磁碗で内面に櫛描文をもつ。33は越州窯系青磁碗で目跡をもつ。34は同安窯系青磁碗である。35は「房」の墨書をもつ白磁碗である。38は陶器の燭台の脚部である。胎土は明灰色、釉は暗黄茶褐色である。底部先端部は釉を削りとり、内面に目跡が残る。40は箆状銅製品で先端は丸く耳掻状となり、基部は尖る。41は石製品で上を両方から尖らし、中央部に穿孔する。46は製塩土器で底部は尖る。粗い調整で内外面に指跡が残り、外面の器表は荒れている。

包含層出土遺物

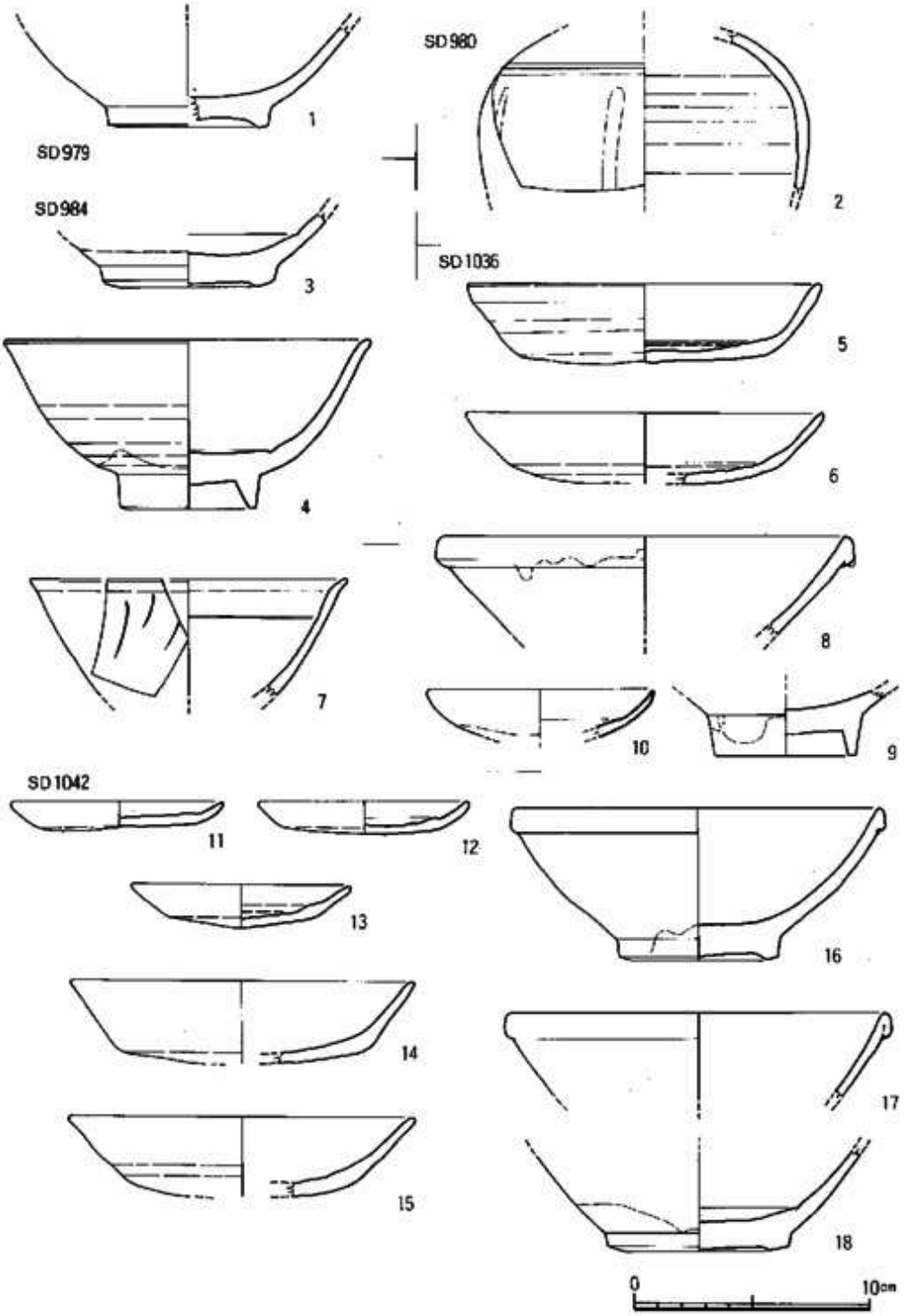


Fig.171　III面各土壙出土遺物実測図(1)

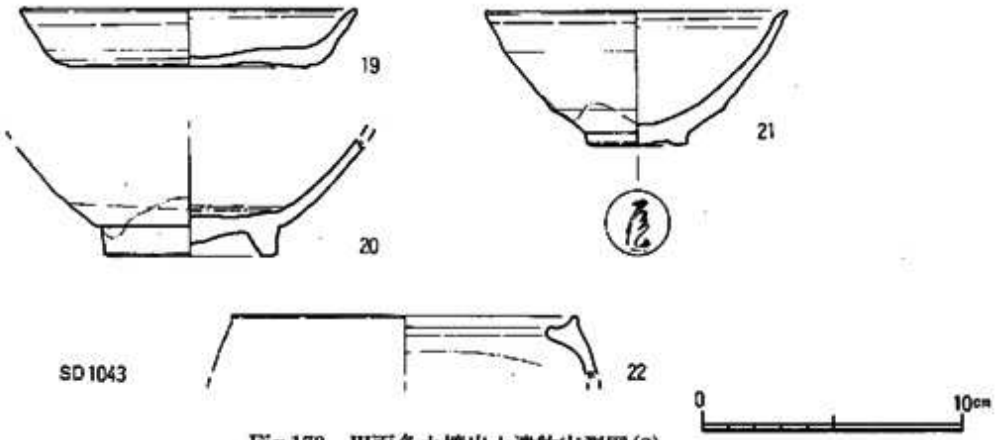


Fig.172　III面各土壙出土遺物実測図(2)

各面の遺構を調査した後、次の面まで掘り下げた時に多くの遺物が出土した。遺物量は遺構から出土するよりむしろ多く出土している。以下主要な遺物について概要を記す。

I面包含層（Fig.182・183, PL.50～52・53）

1～3は底部糸切り土師器の坏、皿である。I面より上で掘り込まれた土壙で、壁面から出土している。4は銅鈴で遺存状態が良好で内側に鋼片が入っており振ると音が出る。6は白磁碗で底面に花押を墨書する。15は輸入陶器の小壺で完形品である。釉は乳白の灰オリーブ色で体外半釉である。9、10は同安窯系青磁の皿で見込に櫛描文をもつ。11は越州窯系青磁の小碗で内面に花文を描く。12は明代龍泉窯系の青磁碗で内面に幾何学文様をもつ。14は黒褐釉の合子蓋で上面に花文をもつ。文様部分の釉は薄くなり、精良な成形である。19は滑石製の硯である。両面を使用し、裏面の陸部に「月」の墨書をもつ。21は滑石で板状を呈し、2ヶ所に小孔を穿つが貫通はしていない。孔の周辺は熱を受け変色し、ガラス様の溶片が付着している。22は滑石製の容器の蓋でつまみの中央を穿孔する。26～39は輸入銅銭である。26－崇寧通寶、27－熙寧元寶、29－元宋通寶、30－元□通寶、31－祥符元寶、32も祥符元寶で周縁を削り取っている。33－開元通寶、34－治平元寶、35－皇宋通寶、36－祥符元寶、37－聖宋元寶、38－政和通寶、39－不明。

II面包含層（Fig.184, PL.51～53）

1は白磁の高台付皿II類で外底部に花押を墨書する。4は同安窯系青磁皿で見込に花文と櫛描文をもつ。7は北方系軒丸瓦片である。6は同安窯系の鉢で内外面に櫛描文をもつ。釉は黄緑灰色で胎土は淡灰色である。8、9は滑石製の小型容器である。8は口縁外面に長方形の把手をもつ。11は皇宋通寶、12は天聖元寶である。13は鎌の先端部で基部を欠損する。14は銅製金具の把手である。一方は弯曲する幅広の板状でもう片方は断面円形の棒状となり、留金具がついている。15は青緑色のガラス玉である。

III, IV面包含層（Fig.185, PL.52・53）

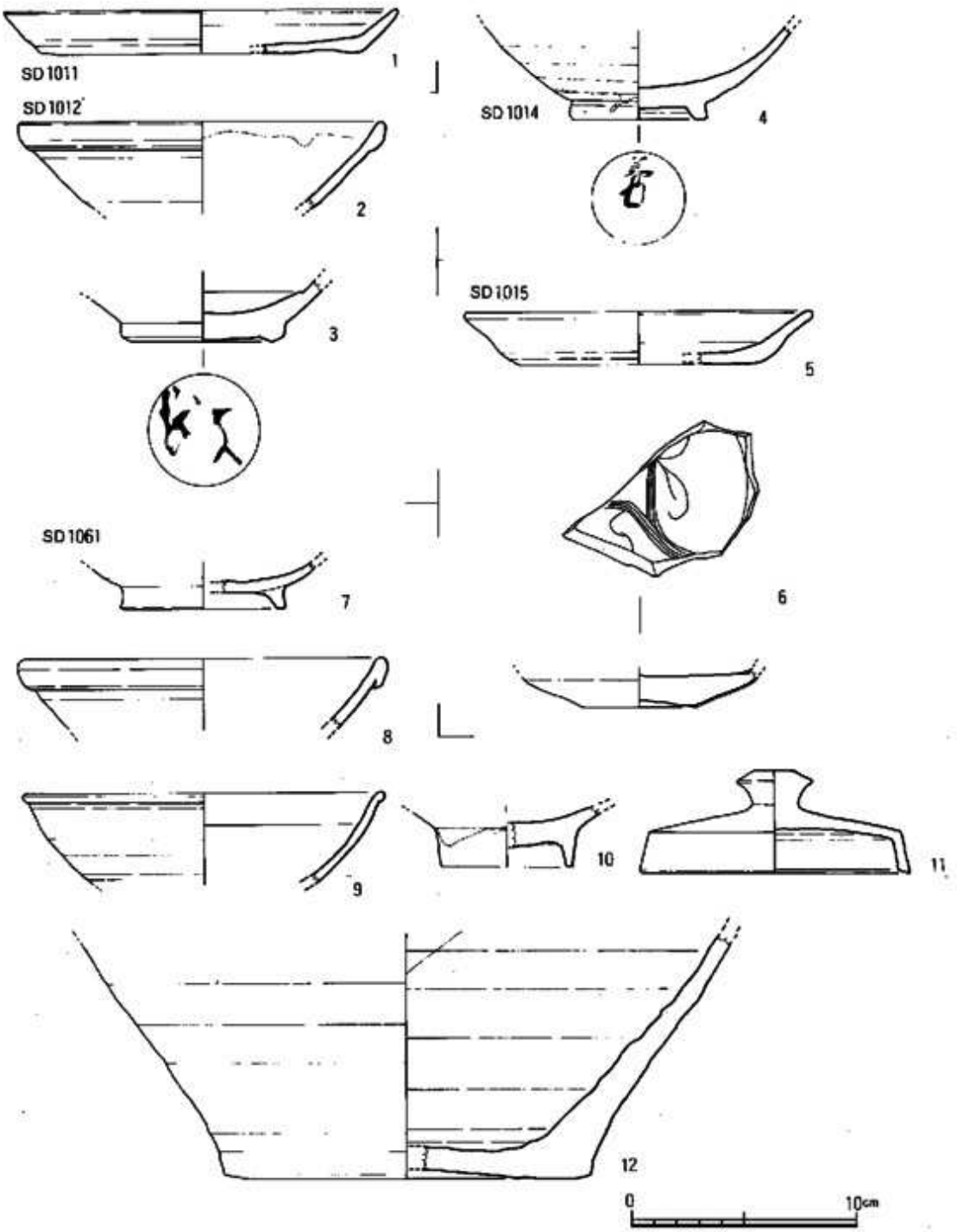


Fig.173 IV面各土壙出土遺物実測図(1)

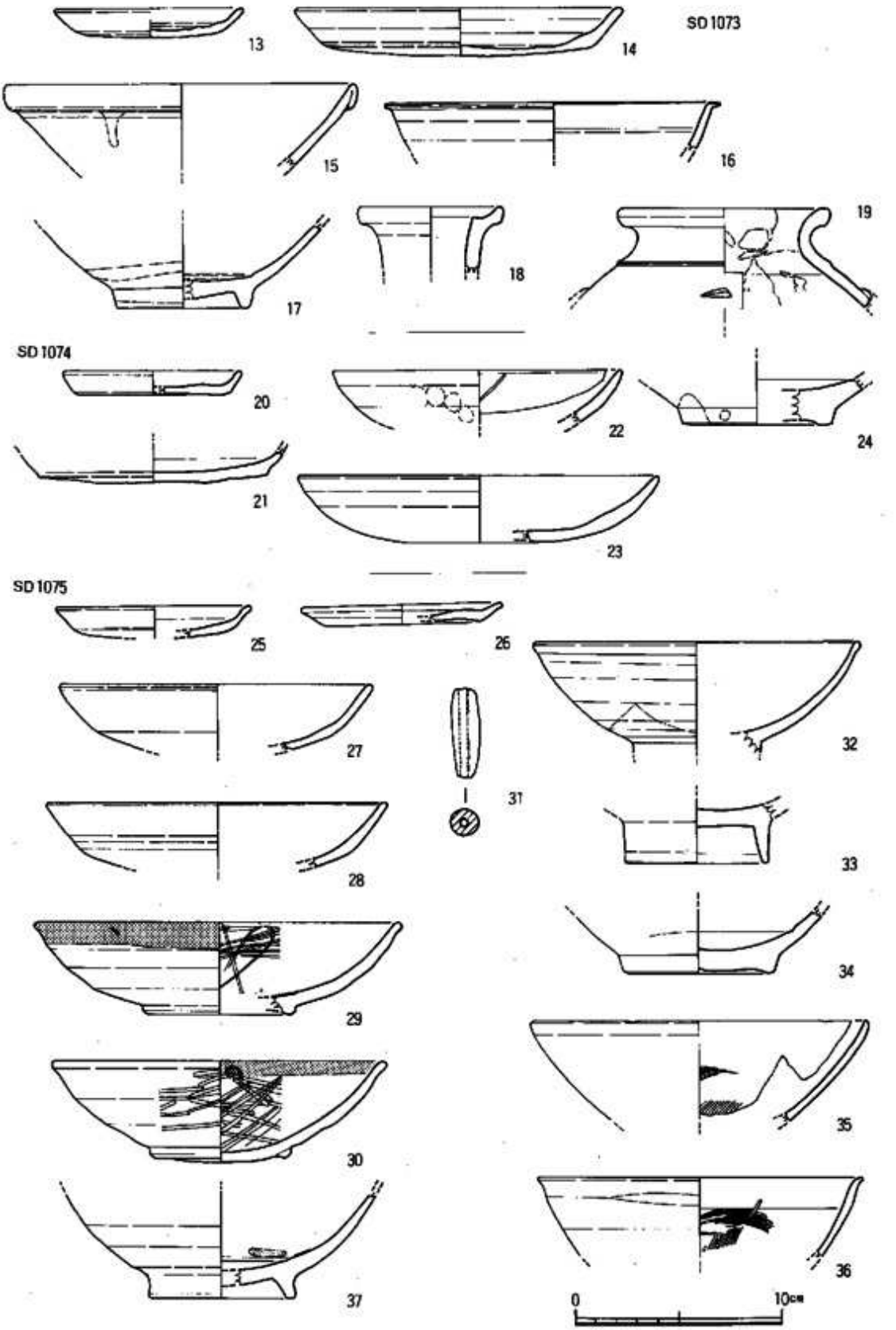


Fig.174　IV面各土壙出土遺物実測図(2)

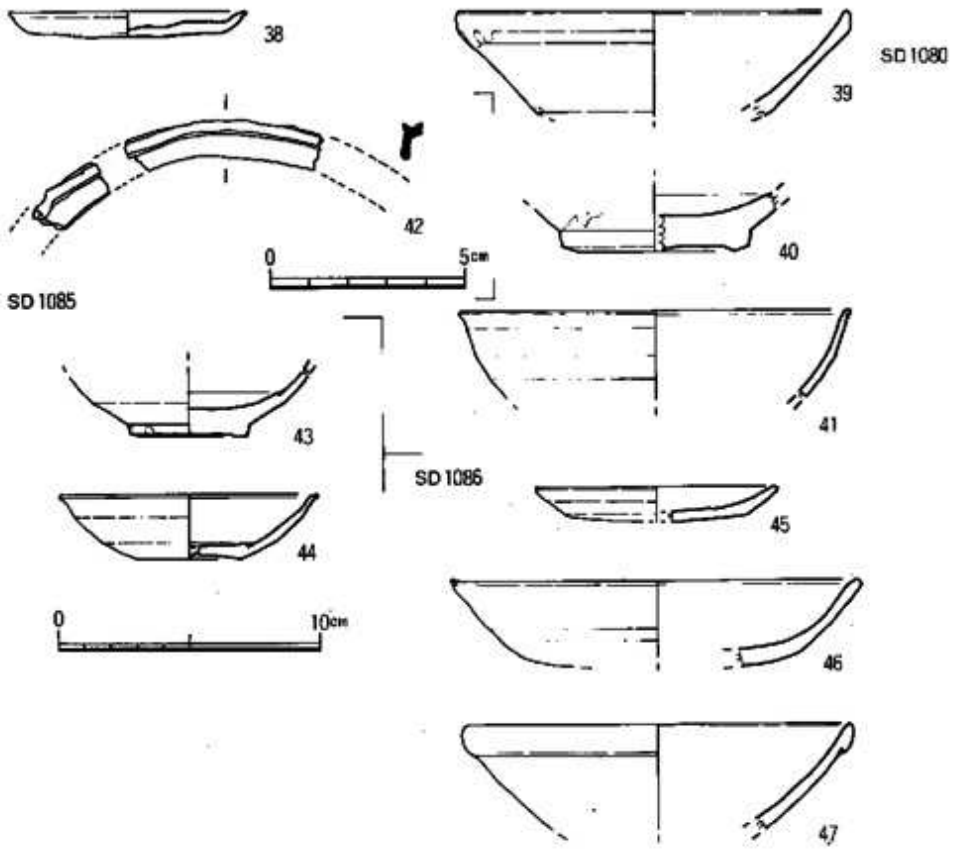


Fig.175　Ⅳ面各土壙出土遺物実測図(3)

1は黄緑灰色の釉をもつ陶器蓋である。4は北方系軒平瓦で波状の文様をもつ。6、7は銅製帯金具である。内面の三ケ所に鋲をもつ。6の表面には黒漆を塗布する。8は土錘、9は滑石製の錘である。10は大型の祭祀通寶である。

その他の墨書磁器（Fig.186）

白磁碗、皿の外底部に墨書したものである。1は「□ノ内」と数量を現わす。2は「仲信」と日本人名を記す。3は「太」、4は「銭」、5は「記」であろうか。6は「光綱」、7は「林」と明瞭に残る。9は仮名で「そうの…」、11は「得安」であろうか。

表土出土遺物（Fig.187, PL.50・53）

表土剝ぎの時に採集した遺物である。1、2は伊万里の青磁である。1は波状口縁で内面に木葉文を浮彫している。2は花瓶で肩部に飾耳をもつ。外底部は露胎で「足」と墨書する。3は備前焼の壺で肩部に櫛描波状文をもつ。4は唐津焼の皿で灰白色の釉を施す。見込に3ケ所目跡があり、体外半釉である。5は明代の青磁壺の胴下半～底部である。胎土は明灰色で細かい砂粒を含みあまり緻密ではない。釉は深草色で厚くかけ光沢のある深味をもたせている。外面には精巧な文様をもつ。底部近くは横沈線を境に下半は縦線文、上半は4～5条の細沈線を

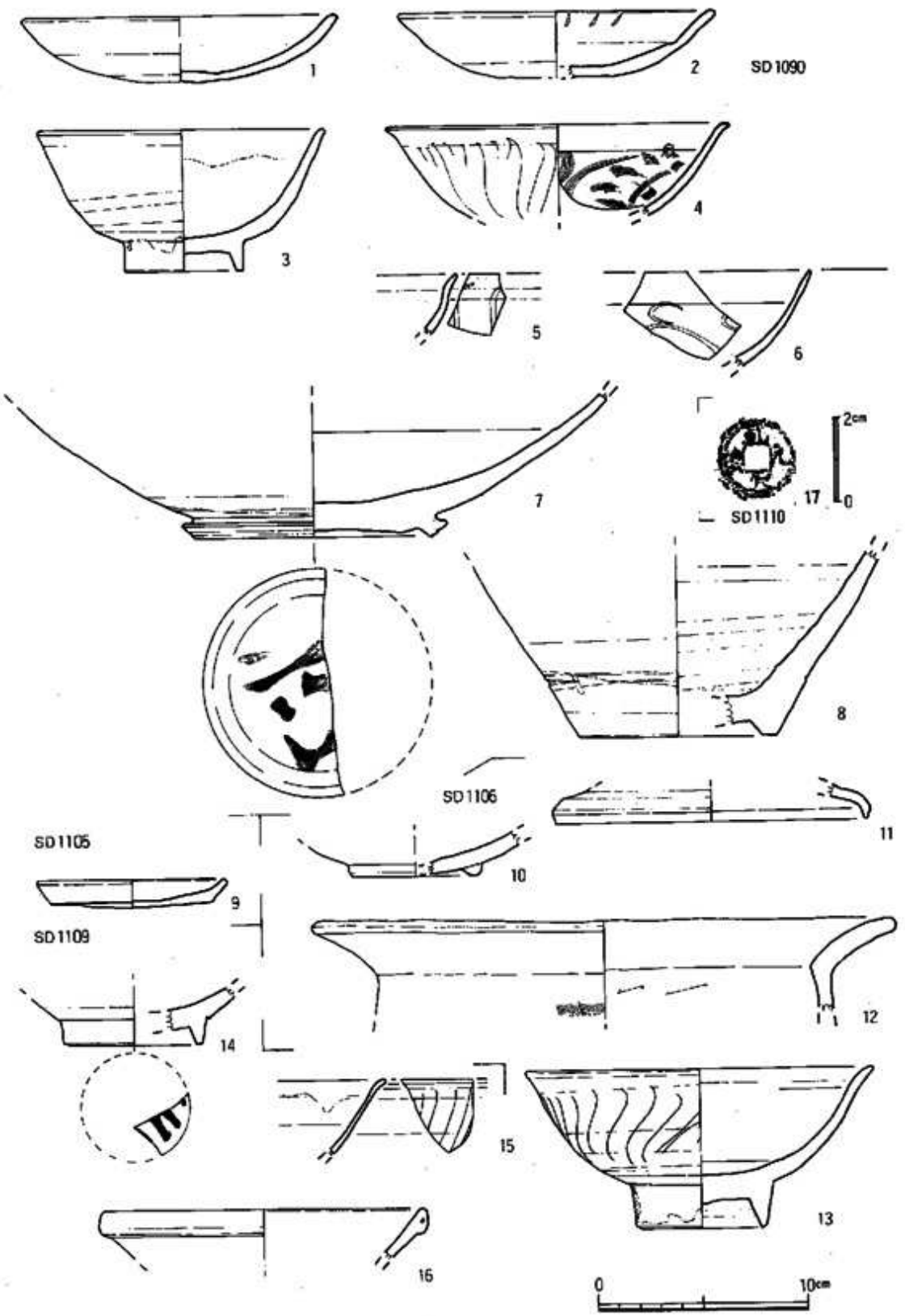


Fig.176　V面各土壙出土遺物実測図

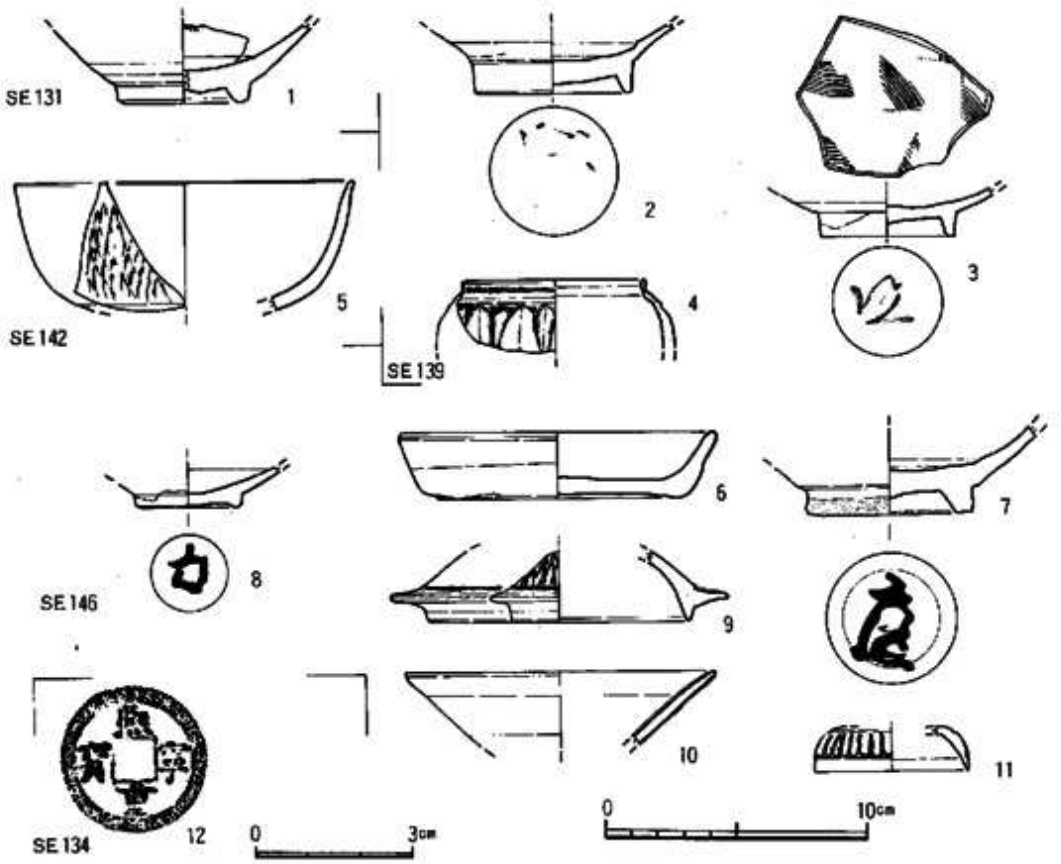


Fig.177　各井戸出土遺物実測図

用いて連続する菱形文様を作り、その内に花文をもつ精良なものである。6は明代の龍泉窯系青磁碗で内面に曲線文をもつ。7は鴻臚館式軒丸瓦である。8は天聖元寶で、9は判読不能である。

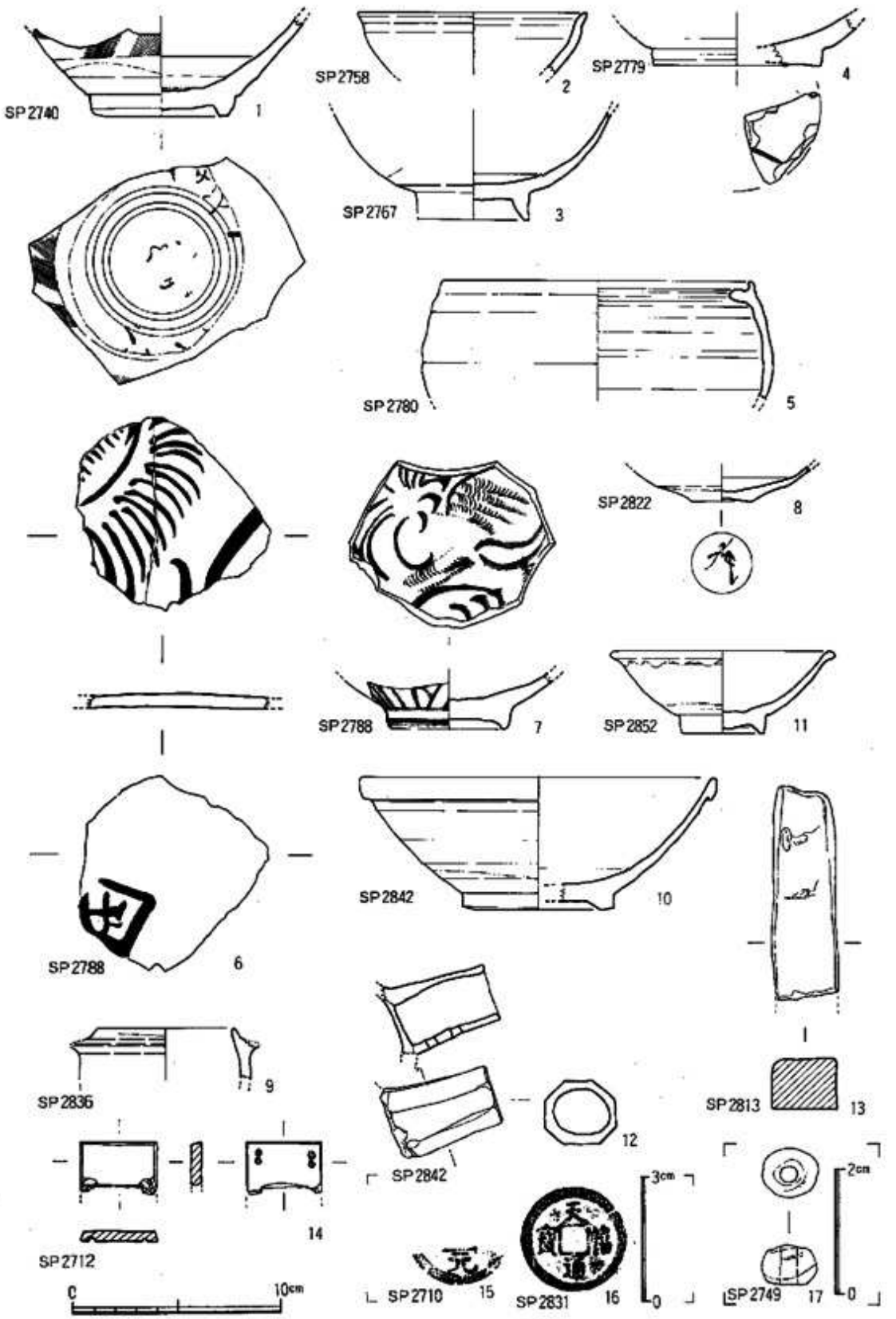


Fig.178　ピット出土遺物実測図(1)

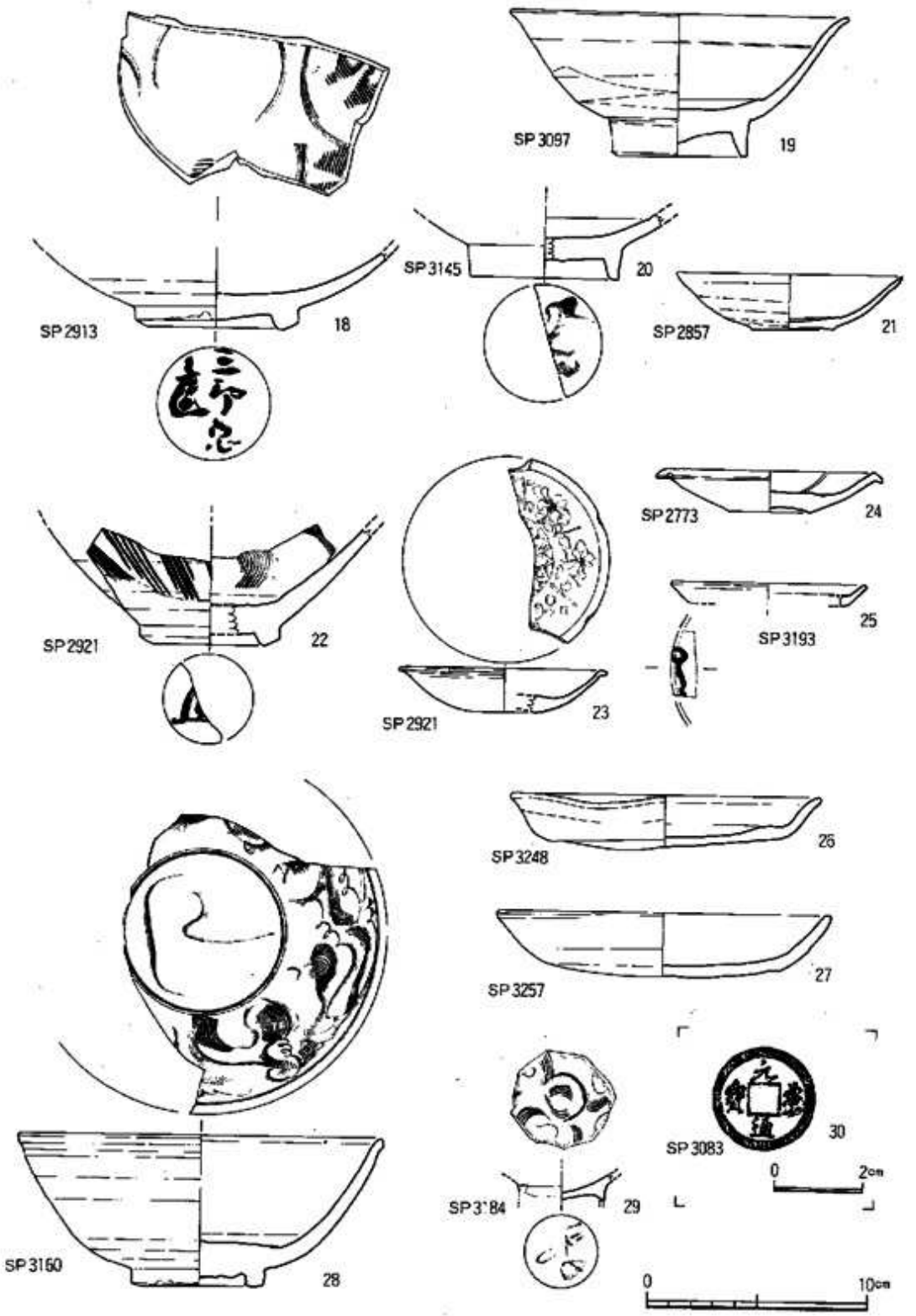


Fig.179　ピット出土遺物実測図(2)

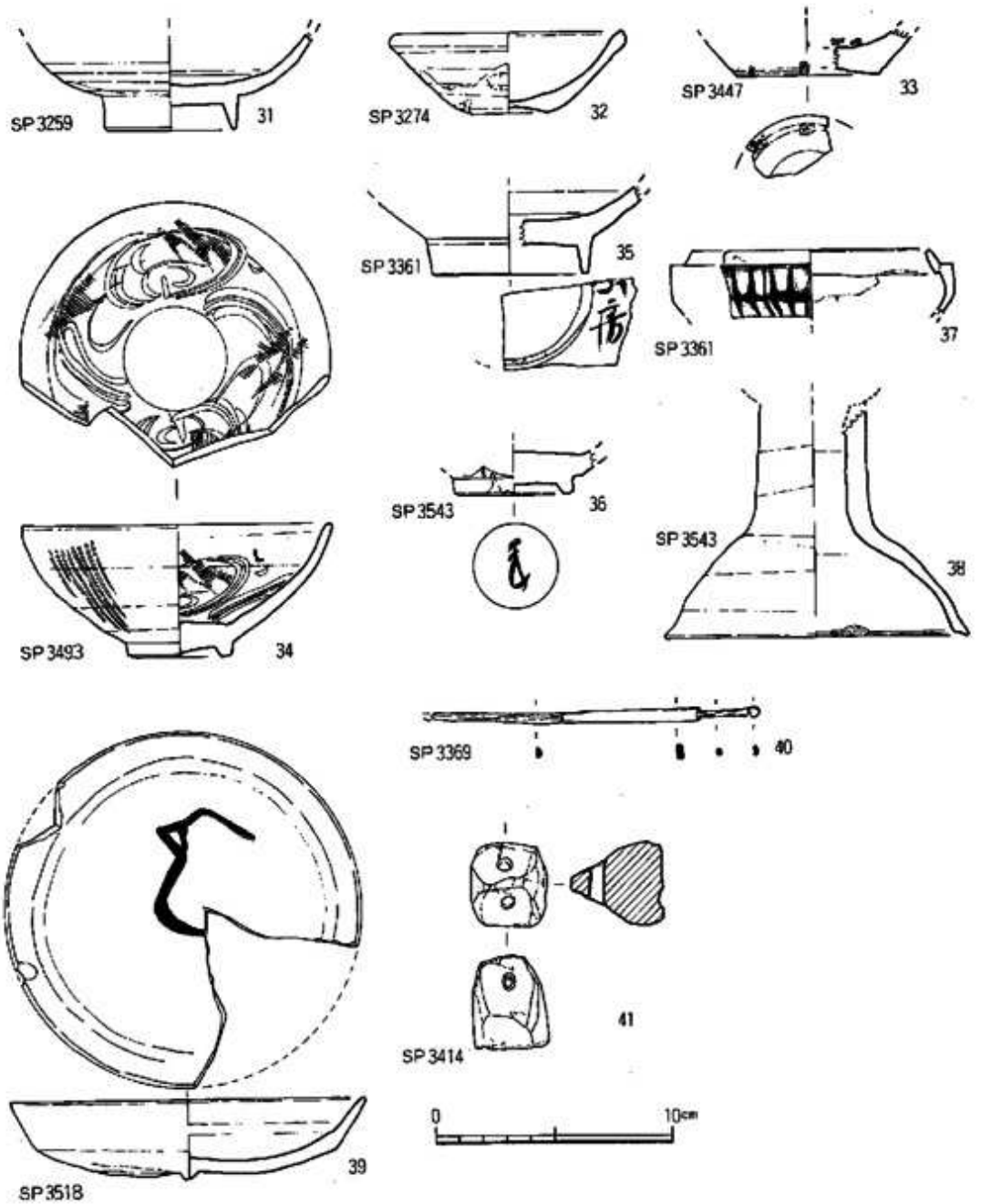


Fig.180　ピット出土遺物実測図(3)

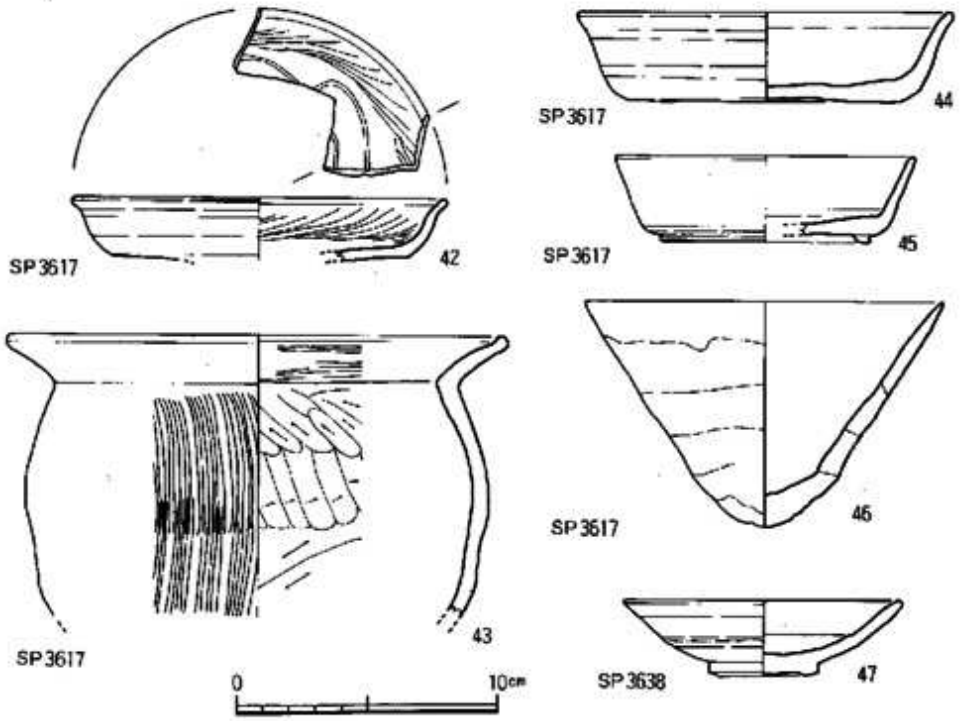


Fig.181　ピット出土遺物実測図(4)

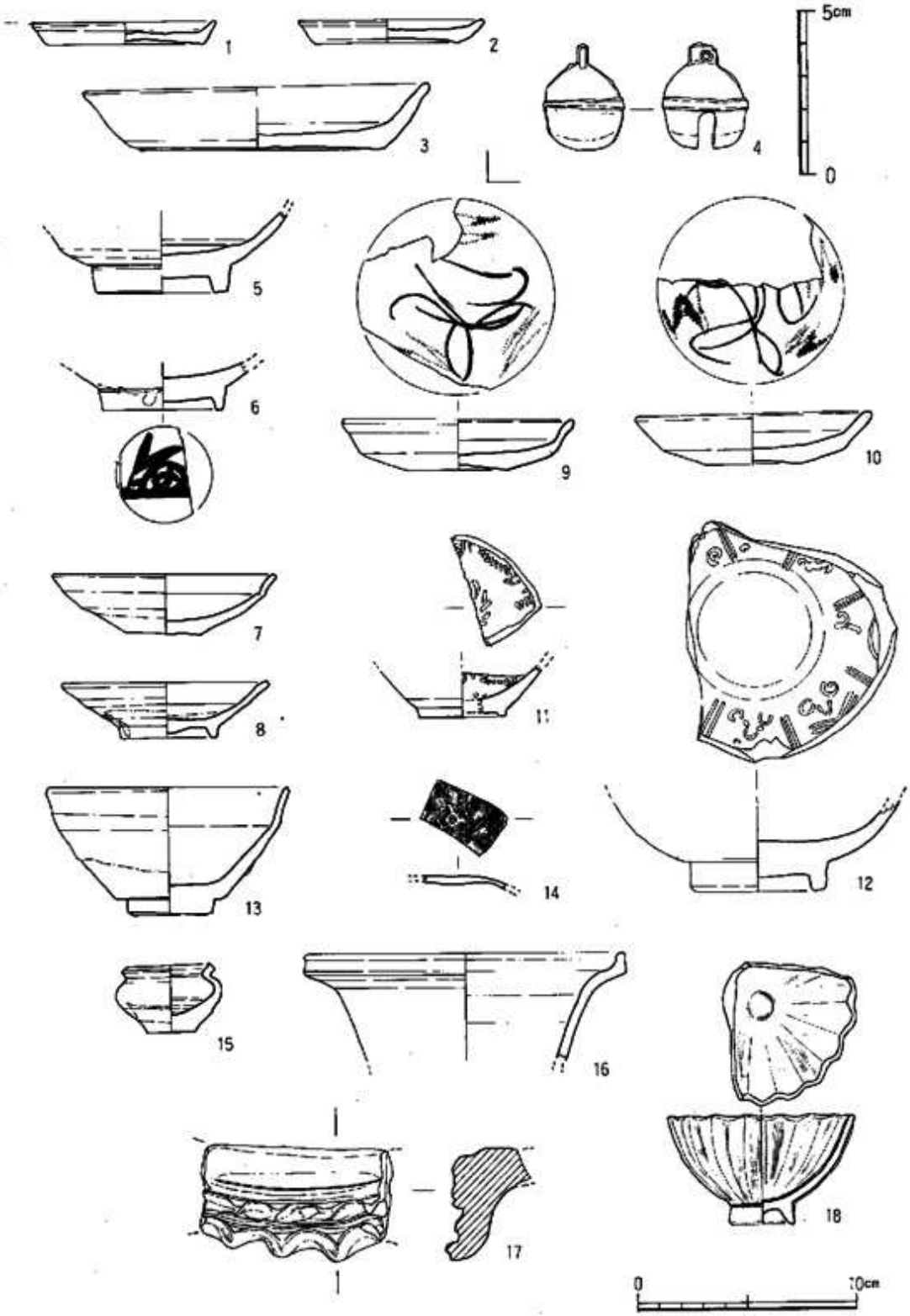


Fig.182　1面包含層出土遺物実測図(1)

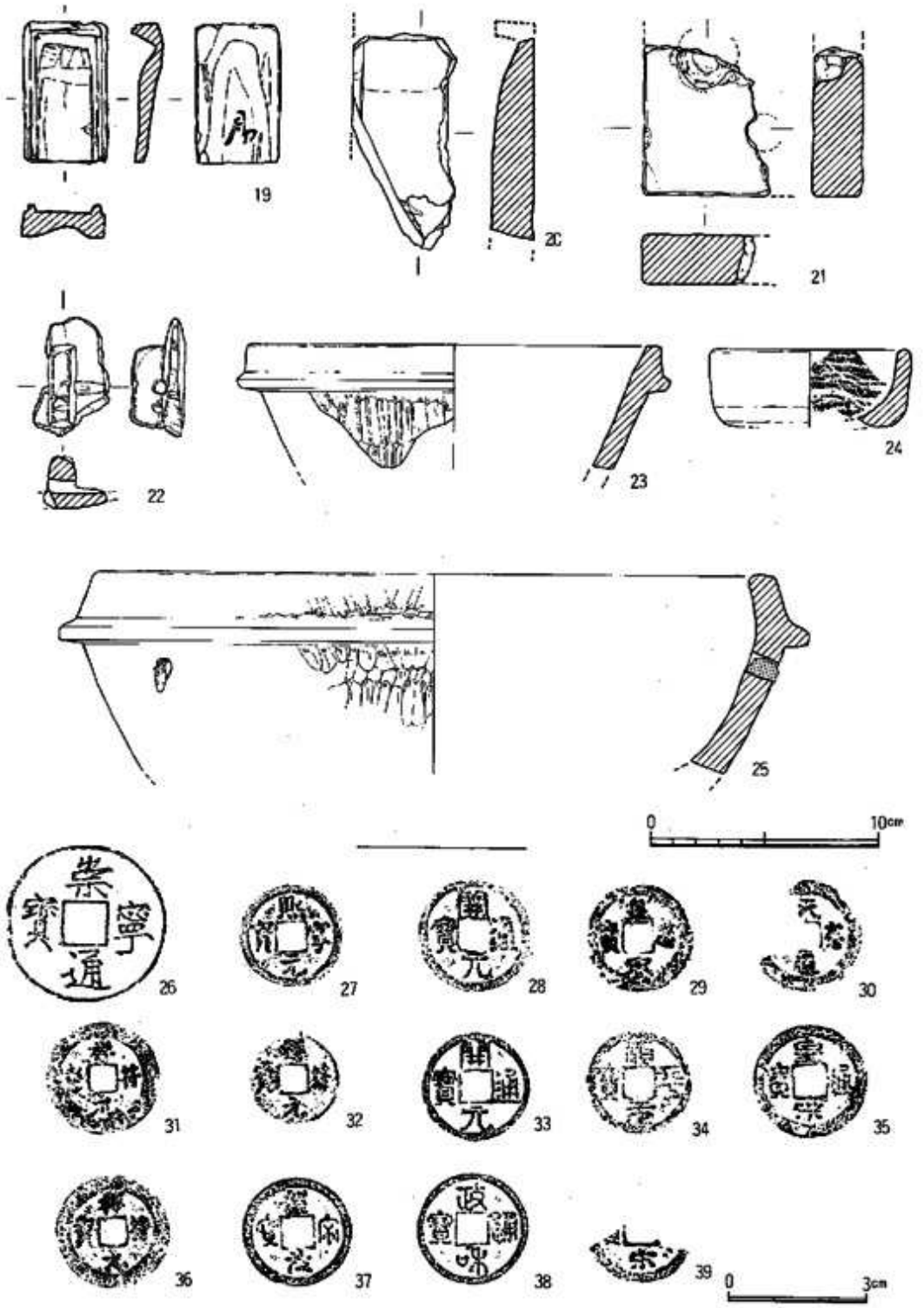


Fig.183　I 南包含層出土遺物実測図(2)

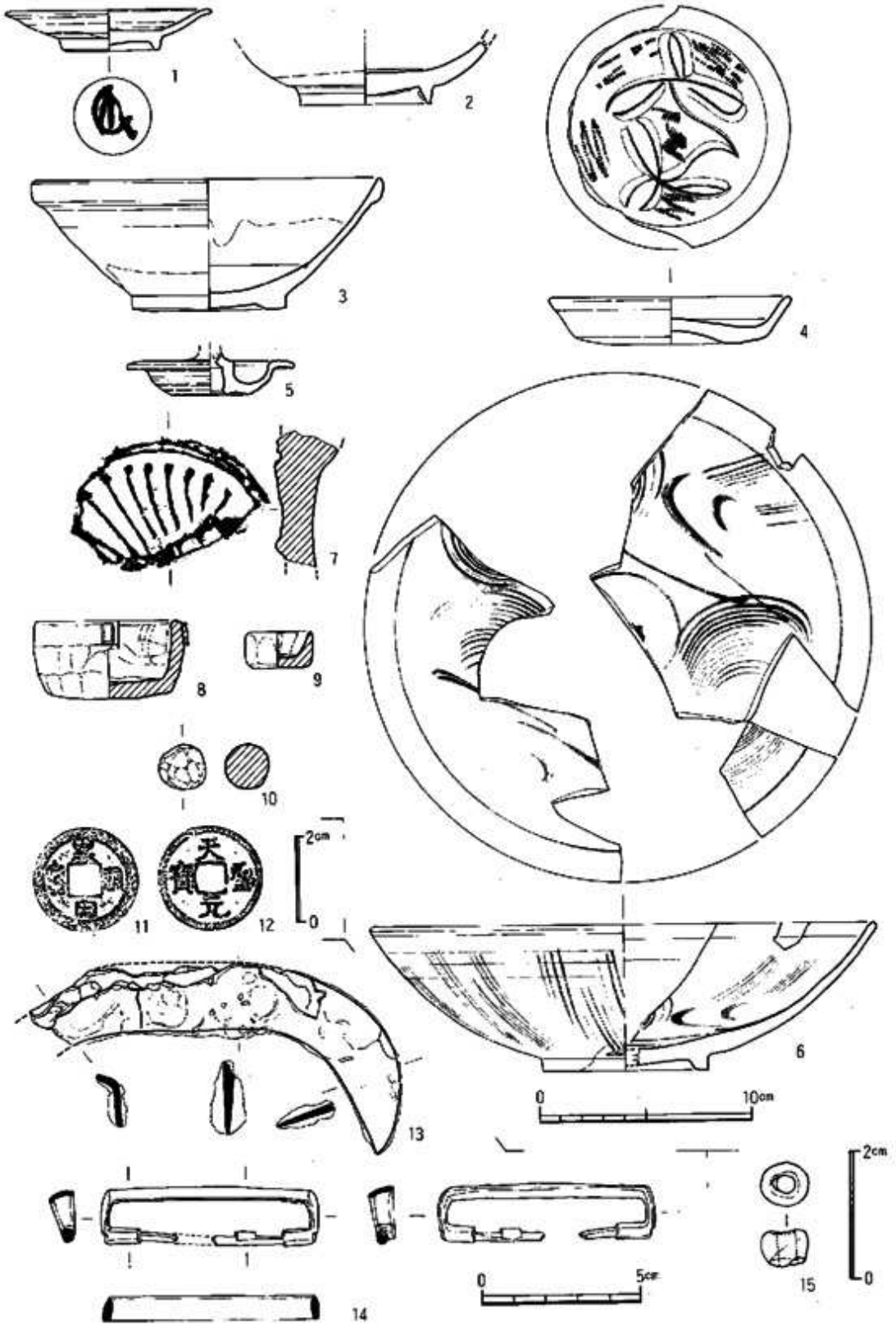


Fig.184　II面包含層出土遺物実測図

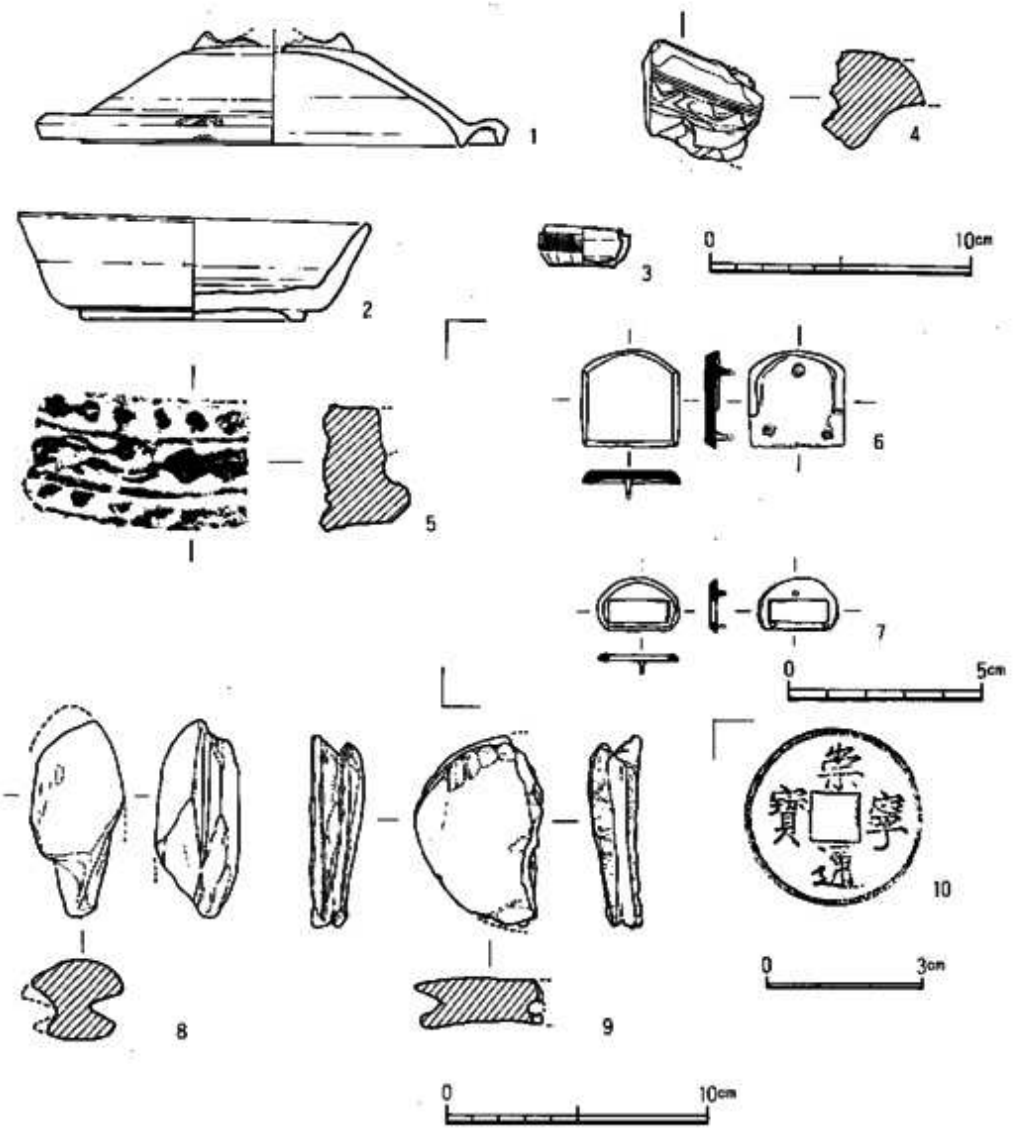


Fig.185 Ⅲ・Ⅳ 面包含層出土遺物実測図

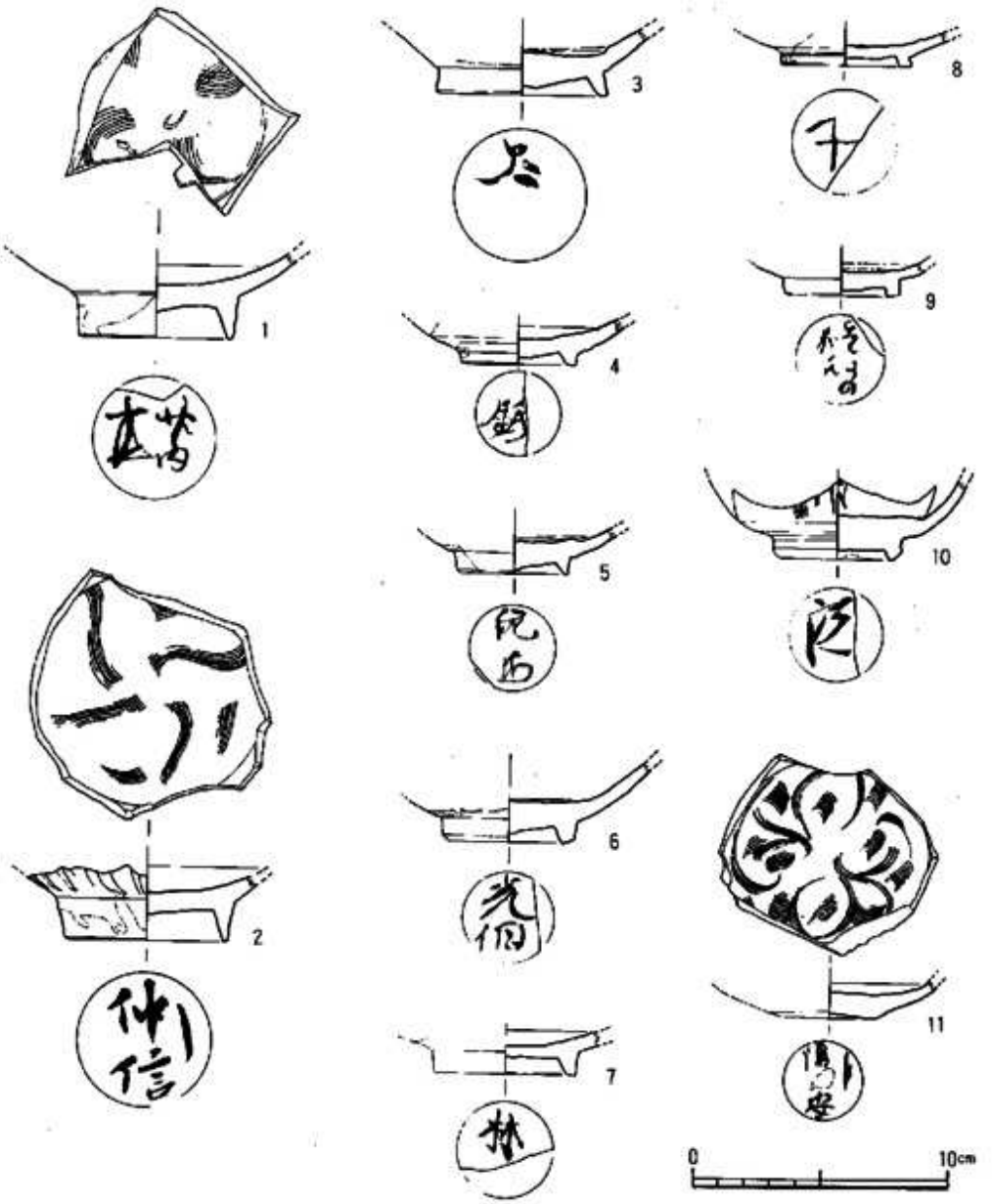


Fig.186　包含層出土墨書磁器実測図

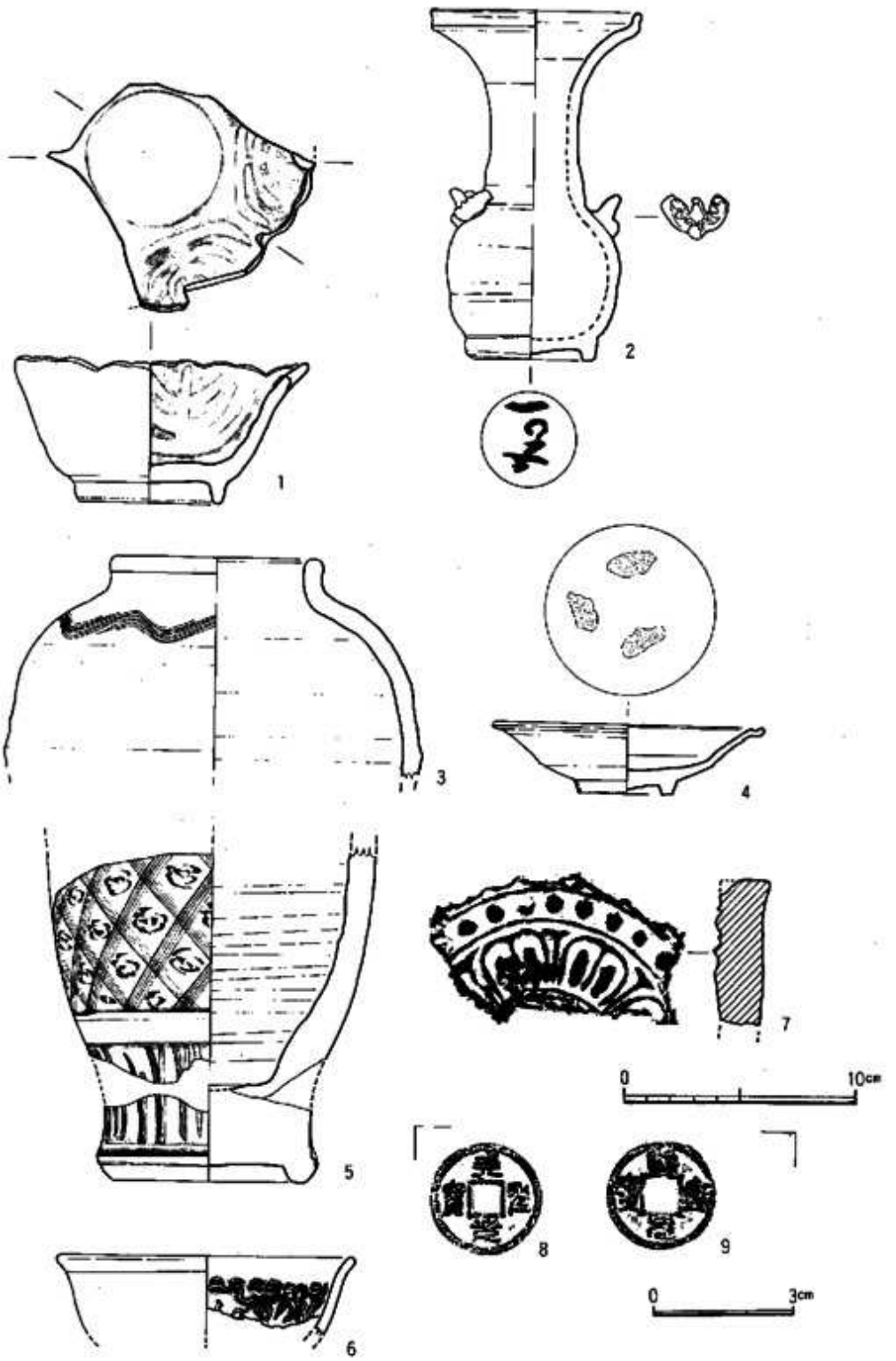


Fig.187　表土出土遺物実測図

出土遺物　分類表

957号土壙出土遺物

器種					数量
輸入陶磁	白磁	碗	II		3
			V－1－b		1
			V		2
			V～VI		1
			内壁に魚文		1
			不明		1
		皿	平底IV－1		2(2)
	青磁	龍泉	碗	I－3	2
				I－不明片	2
			III	不明片	1
		同安	皿	不明片	4
	陶器	A群	盤		1
			四耳壺		1
			III－行平		1
			皿		1
		準A群			1
		B群	反転		1
			袋物		2
国産品	奈良・平安	須恵器	坏身		6
			大型容器		3
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏		1
			糸切坏		33
			糸切小皿		106
			坏		22
			小皿		57
			不明片		75
		瓦器	埦		6
			皿		1
		瓦質			1
		ガラス玉			2
		瓦玉			2
		石製品玉			1
		石錘			1
		土錘			1
		貝			

977号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II	27(3)
			IV－1	4
			IV－2	6
			IV	29
			V－2－b	2
			V	13
			VI－2	1
			VI－3	2(1)
			VI－5	2(1)
			VI	1
			V～VI	26(3)
			IX－1	7
			不明片	111
		皿	高台付II	6
			平底II	19
			V	1
			VI－1	8(1)
			VI～VII	1

991号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1	1
			II	1
			IV－2	1
			IV	9(2)
			V－1－a	1
			V	2
			VI	7
			IX	1
			不明片	17
		皿	高台付I	2(2)
			II	2(1)
			不明片	1
			平底 II	2(2)
			III	4

輸入陶磁・国産品

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	III 不明片	2
				I－1	6
				I－3	5
			III	不明片	1
		同安	碗	II	5
	青白磁		碗		4
	陶器	A群		I－1－盤－1	3
				盤	15
				四耳壺	2
				小口瓶	4
		準A群			12
		B群		水注	1
				皿	1
				袋物	27
		C群		摺鉢3	1
				擂鉢	1
		D群			11
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	須恵器	坏蓋		4
			坏身		6
			坏		6
			鉢手袋物		1
			大型容器		23
	平安末～中世	土師器	ヘラ切		8
			ヘラ切小皿		3
			糸切坏		17
			糸切小皿		34
			坏		30
			小皿		16
			高台付		2
			不明片		84
		黒色土器埦			2
		瓦器	埦		25(1)
		瓦質			1
		陶器	壺		1
		平瓦			12
		銅銭			2

輸入陶磁・国産品

輸入陶磁	白磁	III	不明片		3
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	I－2	1
				不明片	1
		同安	碗II		3(1)
			皿不明片		1
	青白磁	小壺			1
		不明片			1
	陶器	A群		I－盤－2	1
				四耳壺	4
				III－行平	1
				不明片	1
		準A群			6
		B群	鉢		1
		D群			3
国産品	弥生土器				4
	奈良・平安	須恵器	坏蓋		1
			坏身		4
			坏		5
			大型容器		5
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏		1
			糸切坏		49
			糸切小皿		210
			坏		46
			小皿		63
			高台付		2
			不明片		130
		黒色土器埦			2
		土師質			6
		瓦器	埦		1
		古瀬戸	仿製小壺		1
		丸瓦			1
		平瓦			2
		陶器台座			1
		鉄釘			1

1028号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1	3
			II	9(3)
			IV－1	1(1)
			V－1－a	14
			V	3
			V～VI	5(4)
			碗	3
			不明片	19(2)
		小碗			2(1)
		皿	高台付見込蛇目釉剥		1(1)
			不明片		1(1)
			平底II－1		1(1)
			II－4		2(1)
		広東系袋物			2

輸入陶磁・国産品

輸入陶磁	青磁	不明片			1
	龍泉	A群	盤		1
			盤		3
			小口瓶		1
			III 鉢		3
			鉢		1
			壺		3
		B群	袋物		3
		C群	無釉盤口水注		5
国産品	古墳土師器				1
	奈良・平安	須恵器	杯蓋		2
			杯身		9(2)
			杯		1
			壺		2
			大型容器		6
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏		6
			糸切坏		1
			糸切小皿		1
			坏		4
			小皿		1
		黒色土器 埦			1
		土師質			2
		瓦器	埦		1
	平瓦				2
	土錘				1
	石錘				1

1051号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1		30(7)
			IV－1		1(1)
			IV－2		4(4)
			IV		12
			V－1－a		6
			V～VI		3
			碗		1
			IX－3		2(1)
			鉄釉碗		1
			不明片		25
		皿	高台付I		1(1)
			II		1
			III		1
			V－b		2
		平底	0－b		1(1)
			0－c		1(1)
			II－1		9(2)
			II－3		9(6)
			II		3
			III－1		1(1)
			IV－1		1
			不明片		1(1)
	系製壺				1
	小壺蓋				1
	青磁	同安	碗	II	1(1)

輸入陶磁	青白磁	碗		4
		皿		1
	陶器	A群	四耳壺	5
		B群	袋物	2
		C群	擂鉢	1
	陶器不明片			1
	高麗青磁碗			1
国産品	古墳土師器			8
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	1
			坏身	8
			薄手袋物	2
			大型容器	12
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	4
			ヘラ切小皿	1
			糸切坏	22
			糸切小皿	27
			坏	44
			小皿	6
		黒色土器坏		1
		瓦器	塊	1
	丸瓦			1
	平瓦			4
	石鍋			3
	砥石			1
	板状鉄器			3
	鉄釘			3

輸入陶磁	青白磁	碗		1
		袋物		1
	陶器	A群	1－盤－1	2
			盤	4
			四耳壺	83
			Ⅲ－行平	2
		B群	袋物	5
		C群	袋物	1
			擂鉢3	1
			擂鉢	4
国産品	古墳土師器			46
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	10
			坏身	24
			坏	4
			薄手袋物	3
			大型容器	27
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	128
			ヘラ切小皿	55
			糸切坏	129
			糸切小Ⅲ	156
			坏	362
			小皿	117
			高台付	12
			ての字口縁	1
			不明片	190
		瀬戸美濃	擂鉢	1
		瓦器	塊	20
		瓦質		1
	平瓦			4
	石鍋			2
	板状鉄器			1
	鉄釘			30
	棒状鉄製品			1

輸入陶磁	青白磁	碗		3
		皿		1
		袋物		1
		不明		2
	高麗青磁皿			2
	陶器	A群	壺	3
			四耳壺	14
			小口瓶	3
			Ⅲ－行平	6
			Ⅲ－鉢	3
		準A群		11
		B群	袋物	8
		C群	擂鉢	2
国産品	弥生土器			18
	古墳土師器			1
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	2
			坏身	8
			坏	3
			薄手袋物	6
			大型容器	17
		緑釉片		1
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	10
			ヘラ切小皿	12
			糸切坏	17
			糸切小皿	21
			坏	32
			小皿	10
			不明片	54
		瀬戸美濃		1
		瓦器	塊	13
		古瓦系	瓦	1
	平瓦			6
	石鍋			1

輸入陶磁	陶器	A群	四耳壺	9
			Ⅲ－行平	2
		B群	袋物	1
国産品	弥生土器			5
	奈良・平安	土師器		2
		須恵器	坏蓋	7
			坏身	9
			坏	2
			高坏	1
			水注	1
			大型容器	16
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	34
			ヘラ切小皿	23
			糸切坏	38
			糸切小皿	52
			坏	113
			小皿	58
			高台付	3
			不明片	79
		土師質	鍋	1
			小壺	1
			不明片	1
		瓦器	塊	3
	平瓦			1
	焼塩壺			1
	石加工品			1
	鏡			

1058号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		0－Ⅰ	1
				Ⅱ－1	4
				Ⅱ－2	1
				Ⅱ	11(4)
				Ⅳ－1	2(2)
				Ⅳ－2	3(3)
				Ⅳ	33(1)
				Ⅴ－1－a	13
				Ⅴ－2 a	9(1)
				Ⅴ	2
				Ⅵ	1
				Ⅴ－Ⅵ	4(2)
				不明片	55(1)
		小碗			1(1)
		皿	高台付	Ⅰ	1(1)
				Ⅱ	2
			平底	0－c	1
				0－c	1(1)
				Ⅱ	21(3)
				Ⅲ	1
				Ⅳ－2	2
				Ⅵ	2
		袋物			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	2
		同安	碗	Ⅱ	2
		越州	碗		1

1059号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	15(3)
				Ⅱ－4	6
				Ⅱ	31(5)
				Ⅳ－1	2(2)
				Ⅳ－2	1(1)
				Ⅳ	24(1)
				Ⅴ－2－a	2
				Ⅴ	11
				Ⅵ－2	1
				Ⅴ－Ⅵ	2(2)
				Ⅵ 2	1
				Ⅸ－1	1
		皿	高台付	Ⅰ	1(1)
				Ⅱ	3(1)
				Ⅲ	1
			平底	Ⅱ－1	4(4)
				Ⅱ－3	1
				Ⅱ	21(6)
				Ⅱ～Ⅲ	1(1)
				不明片	24
	青磁	同安	碗	Ⅰ	2(2)
				Ⅱ	3
		建江	碗		1

1066号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		Ⅱ－1	2
				Ⅱ	6(1)
				Ⅳ－1	3(3)
				Ⅳ－2	4(4)
				Ⅳ	15(1)
				Ⅴ－1－a	16
				Ⅴ－1－b	2
				Ⅵ	1
				Ⅴ～Ⅵ	8(5)
				不明片	12
		皿	高台付	Ⅰ	2(1)
			平底	0	2(2)
				Ⅱ－4	1
				Ⅱ	5(2)
				Ⅳ－2	1(1)
				不明片	1
		広東系袋物			1
		袋物			1
	青磁	同安	碗	Ⅱ	1(1)
		越州	碗		1
	青白磁	碗			1
		小皿			1

1069号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		0－Ⅰ	2(2)
				Ⅱ－1	13(2)
				Ⅱ	25(2)
				Ⅳ－2	5(3)
				Ⅳ	36(1)
				Ⅴ－1－a	24(1)
				Ⅴ－2－a	3
				Ⅴ 2 b	3
				Ⅴ－Ⅵ	7(3)
				鉄釉鉢	1
				不明片	48
		小碗			2(1)
		皿	高台付	Ⅱ	1
			平底	0 c	4(4)
				Ⅱ－1	10(1)
				Ⅱ－4	1
				Ⅱ	7(4)
				Ⅳ－2	5(2)
				Ⅵ 1	1(1)
				不明片	1
		袋物			2
		小壺蓋			1
		合子蓋			1
		ミニチュア小皿			1
	青磁	龍泉	碗	Ⅰ－1	2
				不明片	1
			皿	Ⅰ－2	2(2)
				不明片	4
		同安	碗	Ⅱ	4(4)
		越州	碗		3

輸入陶磁	青白磁		碗	3
			皿	1
			合子蓋	1
	陶器	A群	I－盤－1	3
			I－盤－2	1
			盤	11
			四耳壺	11
			小口瓶	6
			III－行平	1
		B群	袋物	12
			鉢	1
		C群	摺鉢1	1
			摺鉢3	6
		D群		4
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	7
			坏身	10
			坏	10
			薄手袋物	2
			大型容器	23
			緑釉皿	1
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	34
			ヘラ切小皿	78
			糸切坏	93
			糸切小皿	204
			小皿	121
			高台付	11
			不明片	217
		土師質	かまど	1
			不明片	6
		瓦器	塊	16
	近世		不明片	6
			平瓦	4
			金具	1
			鉄釘	8
			銅製品	3

輸入陶磁	白磁	皿	平底	不明片 6(1)
				0－c 1
				II－1 1
				II 49(9)
				III 6
				VI－1 2(2)
				不明片 38
		袋物		3
		香炉		1
		合子蓋		1
	青磁	龍泉	碗	不明片 4
			皿	不明片 1
		同安	碗	I 2
				II 3
				不明片 3(1)
		不明片		5
		越州	袋物	2
			小壺	1
	青白磁	碗		2
		不明片		2
	天目碗			1
	高麗青磁皿			4(2)
	陶器	A群	I－盤－1	5
			盤	15
			四耳壺	14
			小口瓶	3
			III－行平	1
			袋物	2
		準A群		6
		B群	袋物	13
		C群	摺鉢3	3
			摺鉢	14
		D群		3
		不明片		3
国産品	弥生土器			1
	古墳土師器			39
	奈良・平安	土師器		1
		須恵器	坏蓋	7
			坏身	27
			坏	14
			薄手袋物	4
			大型容器	37
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	8
			ヘラ切小皿	5
			糸切坏	88
			糸切小皿	58
			坏	63
			小皿	35
			高台付	150
			壺	7
		土師質		1
		瓦器	塊	31
	平瓦			15
	瓦玉			1
	石鍋			28
	石加工品			1
	鉄釘			7

1072号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1 9
			II 6(2)
			IV－1 3(3)
			IV－2 8(8)
			IV 64(7)
			V－1－a 10
			V－1－b 2(2)
			V－2－a 2
			V－2－b 1
			V 9(1)
			VI－1 14
			VI－3 1
			VI－5 2(2)
			VI 11
			V－VI 24(1)
			VII－2 1
			IX－1 39(1)
			不明片 6
		小碗	内壁に塗線文 1(1)
		皿	高台付I 1(1)
			II 11(3)
			III 1
			V－b 1(1)

1078号土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		II－1 1
				II 22(2)
				IV－1 1
				IV－2 1(1)
				IV 18(2)
				V－1－a 9
				V－2－b 1
				VI－2 1
				V－VI 4(1)
				IX－1 1
				IX－2 1
				不明片 43
		皿		高台付II 1
				蕉葉文 1(1)
			平底	0－c 2
				II－1 10
				II－2 1(1)
				II－4 1
				II 19(2)
		袋物		2
		広東系鉢		1
	青磁	龍泉	碗	I－1 1
			袋物	1
		越州	碗	1(1)
	青白磁	碗		1(1)
		小壺		1
	陶器	A群	I－盤－1	3
			盤	4
			四耳壺	2
			III－行平	1
		準A群		2
		B群	袋物	14
		D群		1
	古墳土師器			21
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	4
			坏身	10
			坏	8
			薄手袋物	2
			大型容器	9
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	8
			ヘラ切小皿	4
			糸切坏	24
			糸切小皿	45
			坏	113
			小皿	27
			高台付碗	2
			高台付	2
			不明片	59
		黒色土器碗		2
		瓦器	塊	24
	平瓦			
	石鍋			1
	鉄釘			1

17号溝出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗		II－1 2
				II 3(1)
				IV－1 1(1)
				IV－2 3(2)
				IV 21
				V－1－a 11
				V－2－a 1
				V～VI 6(6)
				IX－1 5(1)
				見込に印花文 1(1)
				皮層碗 1
				不明片 25
		皿		高台付II 2
			平底	0 c 1(1)
				II－1 1
				II 4
				VI－1 1(1)
		袋物		4
		合子蓋		1
	青磁	龍泉	碗	I－1 4
				I－4 2
				I－不明片 4
				II－1 1
				II－2 16(1)
				III－小鉢 1
				V－不明片 1
			小碗	端弁文 1
		同安	碗	I 1
				II 7
			皿	I－1 1(1)
				II－1 2(1)
		越州	碗	1
	青白磁	碗		2(1)
		袋物		1
	陶器	A群	I－盤－1	1
			I－盤 2	1
			盤	9
			四耳壺	7
			小口瓶	1
			黒褐釉把手	1
			盤口壺	1
			III－行平	1
		準A群		26
		B群	袋物	17
		C群	摺鉢3	1
			摺鉢	1
		D群	D－3	1
			D－4	1
			不明片	4
	天目碗			2(1)
	高麗青磁碗			1(1)
国産品	弥生土器			1
	古墳土師器			32
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	2
			坏身	12
			坏	4
			薄手袋物	3
			大型容器	16

国産品	平安末～中世 土師器	ヘラ切片	2
		糸切坏	193
		糸切小皿	97
		坏	187
		小皿	30
		不明片	61
		蓋	1
	黒色土器椀		8
	土師質		4
	瓦器	鉢	1
	瓦器	椀	11
	瓦質		1
	平瓦		30
	焼塩壺		5
	石加工品		1
	鉄釘		8
	刀子		2

138号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	椀	II－1	3
			II	11(2)
			IV－2	3(3)
			IV	32(1)
			V 1－a	5
			VI－1	11(1)
			VI－2	1
			IV－3	5
			VI 5	1(1)
			V～VI	7(2)
			IX－1	6(4)
			鉄絵鉢	1(1)
			不明片	52(7)
		皿	高台付II	15(3)
			平底 0－c	2(1)
			II－1	3
			II 4	1
			II	24(9)
			II～III	1(1)
			IV－1	1
			ロハゲ皿	1(1)
		水注		1
		袋物		2
		合子身		1
	青磁 龍泉	椀	II－1	1
			II－2	1
			不明片	7
	同安	椀	I	2
	越州	袋物		1
	青白磁	椀		3
		皿		1
		合子蓋		1
		不明片		1
	陶器 A群		I－盤 1	1
			盤	2
			四耳壺	15
			III－行平	1
			壺	1
	準A群			6

輸入陶磁	陶器 B群	四耳壺		1
		甕		2
		袋物		18
	C群	捏鉢2		1
		捏鉢3		1
		捏鉢		4
	D群	D－4		9
		不明		2
	天目椀			1
	明染付椀			1
	明染付碁笥底皿			1
	高麗青磁竹節高台碗			1
	高麗青磁輪花皿			1
国産品	古墳土師器			8
	奈良・平安 須恵器	坏蓋		3
		坏身		6
		坏		9
		薄手袋物		3
		大型容器		16
	平安末～中世 土師器	糸切坏		72
		糸切小皿		32
		坏		66
		小皿		3
		高台付		3
		不明片		11
	黒色土器椀			2
	土師質			3
	瓦質	大型容器		2
	瓦器	椀		1
	古墳	環		2
	近世	唐津		2
		磁器		7
		陶器		8
		土製品		1
		擂鉢		2
	平瓦			12
	鋼銭			1
	石臼			3
	鉄製放鐘車			1
	刀子			1
	獣骨			

144号井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	椀	0－III	11
			II	24(3)
			IV－1	2(2)
			IV－2	3(1)
			IV	32(1)
			V－1－a	15(1)
			V－1－b	1
			V－2－a	3
			VI 1	15(1)
			VI－3	1(1)
			VI－5	1(1)
			V～VI	13(5)
			IX 1	8
			鉄絵鉢	1
			不明片	106(3)
		皿	高台付II	4(1)
			平底 0－高雲文	1

輸入陶磁	白磁	皿	平底 II 1	3
			II－4	2
			II	26(7)
			III	10(1)
			VI 1	3(1)
			VI	2(1)
			不明片	2(1)
	緑釉陶器			1
	袋物			5
	小壺			1
	青磁 龍泉 碗		I－1	1
			I－2	4(1)
			I－不明	18(1)
			II－1	1
			不明片	8
		小碗	無描蓮弁文	3
		皿	I－2	1(1)
			I－3	21(5)
			不明片	12
		小型水注		1
	同安 碗		I	2
			II	2
			不明片	3
	皿		I－2	1
			不明片	4
	合子蓋			1
	不明片			7
	天目碗			1(1)
	越州窯白釉片			1
	陶器 A群		I－盤－1	8
			I－盤－2	10
			盤	47
			四耳壺	4
			小口瓶	4
			III－行平	3
			壺	2
			黒褐釉耳片	1
			不明片	2
	準A群			10
	B群	四耳壺		3
		短頸壺		1
		袋物		78
		鉢		3
		皿		1
		B群or越州		1
	C群	捏鉢3		5
		捏鉢		4
	D群			16
	古墳土師器			51
国産品	奈良・平安 須恵器	坏蓋		2
		坏身		26
		坏		17
		高坏		1
		薄手袋物		5
		大型容器		43
		不明片		1
	平安末～中世 土師器	ヘラ切片		2
		ヘラ切小皿		1
		糸切坏		198
		糸切小皿		342
		坏		256
		小皿		104
		高台付		6

国産品	平安末～中世 土師器	その字口縁		1
		盌		1
		不明片		52
	土師質			2
	瓦器	椀		58
	瓦質	鉢		1
		不明片		1
	近世	灯皿		1
	平瓦			74
	石鍋			4
	石加工品			1
	鉄滓			1
	鉄釘			35
	銅銭			2
	砥石			
	獣骨			
	鳥骨			

SX－32出土遺物

輸入陶器	白磁	椀	II	2
			IV	4
			V－1－a	4
			VI－1	4
			VI	2(1)
			V－VI	6(1)
			IX 1	6
			不明片	37(1)
		小碗		1(1)
		皿	高台付I－2	4
			平底 III	1
			IV－2	1
			VI－1	1
			VI	1
		袋物		5
	青磁 龍泉	碗	I－1	1(1)
			II 1	1
			V	1
			不明片	16
		皿	不明片	2(1)
	同安	碗	I	4
			II	1(1)
		碗	II－1	2
			不明片	2
	緑釉	碗		1(1)
	青白磁	碗		2
		皿		1
		湯古付皿		1
		合子蓋		1
		合子身		1
	天目碗			1
	陶器 A群		I－盤－2	2
			I－盤－3	1
			盤	9
			四耳壺	9
			III 行平	1
			不明片	2
	準A群			13
	B群	袋物		16

輸入陶磁	陶器	D群		3
国産品	古墳土師器			8
	奈良・平安	須恵器	坏	1
			薄手袋物	2
			大型容器	12
	平安末～中世	土師器	糸切坏	166
			糸切小皿	126
			坏	197
			小皿	77
			高台付	1
		土師質		7
		瓦器	埦	8
		瓦質	鉢	1
	近世		擂鉢	1
	平瓦			30
	石鏃			1
	石製品			1
	馬具？			1
	鉄釘			12
	鉄製品			1
	銅銭			1
	焼土			1
	種子			1

SX－33出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	6
			Ⅱ	31(3)
			Ⅳ－1	4(1)
			Ⅳ－2	7(5)
			Ⅳ	73(1)
			Ⅴ－1－a	21
			Ⅴ－1－b	4
			Ⅴ－2－a	2
			Ⅴ－2－b	1
			Ⅵ－1	30
			Ⅵ－3	2
			Ⅵ－4	1
			Ⅵ－5	2(2)
			Ⅴ～Ⅵ	25(8)
			Ⅸ－1	13(2)
			ロハゲ碗	1
			鉄絵鉢	1
			不明片	248(1)
		小碗	内弦曲線文	1
		皿	高台付Ⅰ	3(2)
			Ⅱ	7(1)
			Ⅲ	2
			Ⅴ－b	1(1)
			高台付不明片	1
			平皿 0－c	6(5)
			0－蛇蛇文	1(1)
			Ⅱ－1	2
			Ⅱ－4	3
			Ⅱ	28(3)
			Ⅲ	8
			Ⅴ	1
			Ⅵ－1	5(4)
			ロハゲⅢ	10(1)

輸入陶磁	白磁	皿	不明片	3
			水注	1
			小壺	1
			袋物	27
	青磁	龍泉	碗 Ⅰ－1	25(1)
			Ⅰ－2	2
			Ⅰ－3	18(1)
			Ⅰ－4	14(2)
			蓮弁文	1
			Ⅰ－不明片	31(2)
			Ⅱ－1	19(1)
			Ⅱ 2	8
			Ⅲ－碗	8
			Ⅲ－不明片	2
			Ⅴ－1	2
			Ⅴ 2	1
			Ⅴ－鎬花	1
			Ⅴ	1
			Ⅵ－1	1
			小碗	4(1)
			皿 Ⅰ－1	2(1)
			Ⅰ 不明片	8(4)
			Ⅲ－杯	1(1)
			Ⅲ－小鉢	1
			袋物	1
			香炉	1
		同安	碗 Ⅰ	5
			Ⅱ	2(1)
			Ⅲ	7(1)
			Ⅳ	1(1)
			不明片	13(2)
			皿 Ⅰ－1	3(2)
			Ⅱ－1	4(2)
			不明片	9
		越州	碗	2
		建窯	碗	1
	青白磁		碗	15(1)
			皿	3
			合子蓋	2
			小壺	1
			不明片	1
	陶器		天目碗	4(1)
			広東系天目碗	1
			黒褐釉托	1
			緑釉碗？	1
			高麗青磁碗	2
			ベトナム鉄絵皿	1
		A群	Ⅰ－壺－1	8
			Ⅰ－壺－2	6
			Ⅰ 壺 3	3
			壺	53
			四耳壺	37
			小口瓶	6
			Ⅲ－行平	1
			盃	1
			不明片	1
			準A群	82
		B群	四耳壺	3
			水注	1
			甲類壺	1
			袋物	120
			越州に近い瓶	1

輸入陶磁	陶器	B群	鉢	3
			碗	1
			皿	3
		C群	擂鉢3	9
			擂鉢	5
			擂鉢	1
		D群	D－4	15
			D 5	3
			不明片	27
国産品	弥生土器			81
	古墳土師器			30
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	17
			坏身	60
			坏	17
			薄手袋物	9
			大型容器	107
			不明片	3
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	8
			ヘラ切小皿	2
			糸切坏	765
			糸切小皿	253
			小皿b	1
			坏	666
			小皿	73
			高台付	9
			灯明皿	1
		黒色土器埦		13
		土師質	釜	1
			不明片	33
		瓦器質	東播系鉢	5
			大型容器	4
		瓦器	編年埦	16
			埦	56
		瓦質	鉢	8
			不明	6
		中国系	擂鉢	2
			甕	7
	近世		磁器	2
			陶器	4
	平瓦			55
	鏡鬼瓦			3
	石鍋			9
	石錐			1
	鉄釘			22
	刀子			2
	刃物状鉄器			1
	土錘			1
	さな			1
	焼土			1
	炭			

Ⅰ面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ－1	4
			Ⅱ	48(9)
			Ⅳ－1	2(1)
			Ⅳ－2	15(3)
			Ⅳ	125(9)
			Ⅴ－1－a	16
			Ⅴ－1－b	2
			Ⅴ－2－a	3
			Ⅴ	45
			Ⅵ－1	22
			Ⅵ－3	1

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅵ－5	2(1)
			Ⅵ	35
			Ⅴ～Ⅵ	42(2)
			Ⅶ－1	1
			Ⅶ－2	2
			Ⅶ	2
			Ⅸ－1	37(6)
			ロハゲ碗	2
			不明片	281(2)
		皿	高台付Ⅰ	1(1)
			Ⅱ	21(5)
			曲線文碗	1
			不明片	1
			平底 0－a	1
			0－c	5(2)
			0－蛇蛇文	1
			Ⅱ－1	6(3)
			Ⅱ－2	1(1)
			Ⅱ－4	2
			Ⅱ	66(4)
			Ⅲ	6
			Ⅳ－1	3(1)
			Ⅴ	2
			Ⅵ－1	5(1)
			Ⅵ－2	1
			Ⅵ	4
			ロハゲⅡ	16(6)
			不明片	30
		袋物		30
		小壺		3
		合子身		1
		蓋		4(1)
		鉢		1
	青磁	龍泉	碗 Ⅰ－1	13(2)
			Ⅰ－3	16(1)
			Ⅰ－4	3(1)
			Ⅰ－5	2
			Ⅰ－不明片	9(1)
			Ⅱ 1	15
			Ⅱ－2	4
			Ⅱ	6
			Ⅲ－碗	1
			Ⅲ 蓮弁文	1
			Ⅲ	2
			東口碗	1
			不明片	39
			小皿	2(1)
			皿 Ⅰ－1	2(1)
			Ⅰ－2	1(1)
			不明片	7
			四耳壺	1
			袋物	2
			小鉢	2(1)
			蓮弁小鉢	1
			Ⅲ－盤	1
		同安	碗 Ⅰ	7
			Ⅱ	40(2)
			Ⅲ	2
			不明片	11(1)
			小碗	1(1)
			皿 Ⅰ－1	2(1)
			Ⅰ－2	2
			Ⅱ－1	2(2)

輸入陶磁	青磁	皿	II	3
			不明片	8
		越州	碗	1
			袋物	1
	青白磁		碗	16(6)
			皿	5
			合子身	2
			小壺	1
			不明	1
	天目碗			4(2)
	明染付皿			1
	李朝碗			1
	李朝三島手皿			1
	李朝陶器片			2
	陶器	A群	I－盤－1	8
			I－盤－2	4
			I－盤－3	1
			盤	66(1)
			四耳壺	41
			小口瓶	14
			III－行平	3
			III－鉢	1
			袋物	22(1)
			不明片	5
		準A群		109
		B群	四耳壺	2
			水注	1
			長瓶	2
			袋物	110
			鉢	4
			皿	5
		C群	捏鉢2	1
			捏鉢3	7
			捏鉢	21
			無釉盤口壺	2
			袋物	2
		D群	D－4	15
			不明片	15
		陶器不明片		14
	古墳土師器			12
国産品	奈良・平安	土師器	十師皿	1
			不明片	21
		須恵器	坏蓋	20
			坏身	41
			坏	28
			袋物	35
			大型容器	71
			不明片	8
		緑釉壺		1
		緑釉片		1
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	8
			ヘラ切小皿	11
			糸切坏	876
			糸切小皿	557
			坏	1610
			灯明皿	131
			高台付	42
			ての字口縁	2
			壺	1
		黒色土器椀		11
		土師質	上鍋	10
			鉢	1
			火鉢	8
			不明片	38

国産品	平安末～中世	須恵質	擂鉢	7
			壺	2
			不明	4
		瓦器	壺	118(1)
		瓦質	擂鉢	6
			壺	8
			七輪	22
			不明	19
		吉底系	常滑壺	1
			備前壺	13
			瀬戸皿	1
			壺	3
			擂鉢	2
			不明	1
	近世	伊万里		10
		磁器		48
		陶器		46
		七輪		4
		擂鉢		11
		人形の型		1
	瓦	軒丸瓦		3
		丸瓦		17
		平瓦		147
	施璃壺			3
	石鍋			11
	砥石			5
	硯			1
	石製品			3
	鉄釘			55
	鋼銭			4
	銅製品			1
	数量			

II面土壙出土遺物

輸入白磁	碗		0－1	1
			II－1	16(1)
			II	56(7)
			IV－1	3
			IV－2	16(3)
			IV	8(2)
			V－1－a	26(1)
			V－1 b	3
			V－2－a	3(1)
			V	18
			VI－1	5
			VI－2	3(1)
			VI－3	3
			VI－5	2(1)
			VI	18(1)
			V～VI	39(1)
			IX－1	27(6)
			口ヘタ端	1
			不明片	206(2)
	小碗			3(2)
	皿	高台付I		1(1)
			II	2(1)
			III	1
			V－b	1
			不明片	1
		平底	0－c	1
			0－鎬文	1
			II	57(4)

輸入陶磁	白磁	皿	II～III	1
			IV－1	1
			VI－1	8(2)
			VI－2	1
			VI	2
			口ヘタ端	2(1)
			不明片	6(1)
		袋物		5
		水注		1
		小壺		1
	青磁	龍泉	碗 I－1	10
			I－3	4
			I－4	1
			III－碗	1
			V－端花	2
			不明片	2
			皿 不明片	3
		同安	碗 I	9
			II	11(1)
			不明片	5
			皿 I－1	3(1)
			II－1	2
		越州	碗	1
			小碗	1
			袋物	1
		青磁不明片		3
	青白磁	碗		4(1)
		小碗		1
		皿		2
		盃		1
		不明片		4
	天目碗			1
	陶器	A群	I－盤－1	8
			I－盤－2	2
			I－型－3	1
			盤	32(2)
			四耳壺	57
			小口瓶	6
			III 行平	2
			III－鉢	4
			袋物	8
			不明片	1
		準A群		40
		B群	四耳壺	1
			鉢	2
			袋物	43
		C群	捏鉢1	1
			捏鉢3	6
			捏鉢	17
			無釉盤II水注	2
		D群	D－3	1
			D－4	21
			不明	9
		陶器不明片		2
国産品	弥生土器			5
	古墳土師器			34
	奈良・平安	土師器	皿	1
			不明片	21
		須恵器	坏蓋	32
			坏身	51
			坏	28
			有手袋物	14
			大型容器	68
			皿	3

国産品	平安末～中世	須恵不明片		14
		緑釉境		1
		上師器	ヘラ切坏	47
			ヘラ切小皿	13
			ヘラ切片	10
			糸切坏	368
			糸切小皿	356
			坏	397
			小皿	114
			高台付	51
			ての字口縁	2
			不明片	472
		黒色土器椀		14
		土師質		9
		須恵質	鉢	2
			不明片	2
		瓦器	椀	119
			皿	1
		瓦質	壺	1
			不明片	6
		古瀬戸	壺	2
		近世	磁器	1
			陶器	1
			土製品	8
	丸瓦			1
	平瓦			44
	石鍋			4
	鉄釘			39
	板状鉄器			1
	銅製鋲金具			1
	十錘			1
	塑土			

III面土壙出土遺物

輸入白磁	碗		II 1	18(2)
			II－2	1
			II	36(2)
			IV－1	5(5)
			IV 2	1109
			IV	111(5)
			V－1－b	3(1)
			V－2－a	5
			V 2－b	1
			V	12
			VI 1	8
			VI－2	4(2)
			VI－3	6
			VI－5	5(2)
			VI	18
			V～VI	490(7)
			VII－2	4
			IX－1	30(5)
			鉄絵鉢	1
			西村窯鉢	1(1)
			不明片	195(2)
	小碗			1(1)
	皿	高台付I		2(1)
		II		11(2)
		III		1
		V－b		1(1)
		不明片		2

輸入陶磁	白磁	碗	平底	0 a	1
				0 − b	1(1)
				0 − c	4(3)
				0	1
				II 1	4(2)
				II − 2	4(3)
				II − 3	1(1)
				II − 4	1(1)
				II	58
				III	10(1)
				II ～ III	1
				IV − 2	2(2)
				V	1(1)
				VI 1	4
				ロハゲ	1
				不明片	6
		袋物			8
		小壺蓋			2
	青磁	龍泉	碗	I − 1	2
				I − 2	3
				I − 3	2
				I − 不明片	6
		同安	碗	I	6
				II	8
				不明片	1
			皿	I − 1	1
				II	1
				不明片	2
		越州	碗		1(1)
		青磁不明片			4
	青白磁	碗			5(1)
		皿			1
		壺			2
		合子蓋			1
		不明片			4
	天目碗				3(2)
	陶器	A群		I − 盤 − 1	3
				I − 盤 2	2
				盤	47
				四耳壺	41
				小口瓶	5
				III − 軍持	4
				III − 行平	1
				III − 鉢	4
				壺	2
				褐釉袋物	4
				不明片	5
		準A群		茶釉四耳壺	60
				無釉四耳壺	1
		B群		四耳壺	1
				長頸	1
				短頸壺	5
				袋物	60
				鉢	2
				皿	7
		C群		捏鉢3	4
				捏鉢	13
				鉢	3
				堆塊	3
		D群		D − 3	1
				不明片	22
		陶器不明片			4
	弥生土器				14
	古墳土師器				88

国産品	奈良・平安	土師器		42
		須恵器	坏蓋	29
			坏身	59
			坏	15
			薄手袋物	16
			大型容器	107
			不明	18
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	41
			ヘラ切小皿	19
			ヘラ切片	22
			糸切坏	233
			糸切小皿	260
			坏	390
			小皿	62
			高台付	20
			その字口縁	1
			不明片	326
		土師質		7
		瓦器	碗	6
			皿	90
			皿	7
		瓦質		7
		白磁系	碗	7
		平瓦		16
		滑石製石鍋		4
				14
		鉄滓		37
		板状鉄器		2
		刀子		1
		上錘		1
		鞴土		
		魚骨		
		銭		

IV 面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0 − I	4(1)
			0 − III	2(1)
			II − 1	70(1)
			II − 2	3(1)
			II	151(3)
			IV − 2	52(3)
			IV	218(9)
			V − 1 − a	74(4)
			V − 1 − b	17(1)
			V − 2 − a	11
			V 2 b	7
			V	38(1)
			VI − 1	12
			VI − 2	2
			VI − 3	12(2)
			VI − 4	2
			VI − 5	1(1)
			VII	35
			V ～ VI	8(2)
			VIII − 1	5
			VIII − 2	3
			IX − 1	8(2)
			XI 2	4(1)
			ロハゲ	2

輸入陶磁	白磁	碗		幽線文碗	1
				蓋線文碗	1
				鉄釉鉢	3
				鉢	2
				不明片	5(3)(5)
		小椀		幽線文	2
				不明片	2
		皿	高台付	I	3(3)
				II	25(6)
				III	3(1)
				V − b	2(2)
				不明片	4
			平底	0 − b	2(2)
				0 − c	9(4)
				0	5(1)
				II − 1	28(3)
				II − 2	2(2)
				II − 3	1(1)
				II − 4	6(1)
				II	178(3)
				III	20(3)
				IV − 1	5
				IV − 2	3(1)
				VI − 1	3(3)
				ロハゲ	2(2)
				不明片	15
		広東系水注			1
		広東系袋物			3
		袋物			33
		合子蓋			1
		小壺			2
		香炉			1
	青磁	龍泉	碗	I 1	11(1)
				I − 2	1
				I − 3	3(2)
				I − 5	3
				I − 不明片	14
				II − 1	4
			皿	不明片	1
				袋物	2
				盤口壺	1
				小壺	1
				III − 杯	1(1)
		同安	碗	I	9(1)
				II	17(4)
				III	1
				不明片	5
			皿	不明片	1
		越州	碗		5(1)
				水注	2
				袋物	4(1)
		温州	碗		1
		青磁袋物			3
	白白磁	碗			19(3)
		皿			4(1)
		盃			1
		小壺			2
		袋物			1
		合子蓋			1
		不明片			2
	天目碗				2(1)
	黒釉袋物				2
	刷染付碗				1

輸入陶磁	陶器	高麗青磁碗			1
		朝鮮不明片			1
		A群		I − 盤 − 1	19
				I − 盤 − 2	5
				盤	68
				四耳壺	63
				小口瓶	10
				III − 軍持	3
				III − 行平	4
				III − 鉢(花文)	1(1)
				III − 四耳壺	1
				壺	1
				袋物	7
				緑釉壺	1
				不明	3
		準A群			112
		B群		水注	1
				瓶	1
				短頸壺	5
				袋物	106
				鉢	1
				蓋	1
				皿	1
		C群		捏鉢3	21
				捏鉢	59
		D群			32
		陶器不明片			4
	弥生土器				107
	古墳土師器				276
国産品	奈良・平安	土師器			12
		須恵器		坏蓋	45
				坏身	135
				坏	62
				薄手袋物	18
				大型容器	186
				皿	1
				不明片	5
		緑釉碗			4
	平安末～中世	土師器		ヘラ切坏	127
				ヘラ切小皿	26
				ヘラ切	3
				糸切坏	486
				糸切小皿	384
				坏	798
				小皿	152
				高台付	24
				高台付碗	4
				壺	2
				不明片	676
		黒色土器碗			9
		上師質		かまど	1
				土鍋	4
				火舎	2
				不明片	16
		須恵質		鉢	2
				壺	1
		瓦器		碗	199
				皿	1
		瓦質		擂鉢	6
				不明片	8
		古瀬系		甕	2
				擂鉢	2

国産品	近世	磁器	2
		陶器	1
		土鈴	1
		十製品	5
		擂鉢	2
	丸瓦		2
	平瓦		88
	塼		1
	石鍋		18
	石玉		1
	製鉄炉		1
	鉄釘		71
	刀子		1
	板状鉄器		1
	鋼銭		4
	銅製飾り金具		2
	ガラス玉		1
	土錘		4
	焼塩壺		2
	きな		
	獣骨		
	貝		

V面土壙出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0－III	2
			II－1	3
			II	4(1)
			IV－2	1(1)
			IV	8(1)
			V－1－a	6(1)
			V－1－b	1
			V－2－a	4(1)
			VI－2	1
			V～VI	4(3)
			不明片	19
		小碗		1
		皿	高台付皿	1
			平底 II 2	1(1)
			II－4	3(1)
			II	1
			IV－1	1
			VI－1	1
			VI	1(1)
			不明片	1
		袋物		1
	青磁	同安	碗 不明片	1
		龍泉	皿？	1
	青白磁	碗		1
	陶器	A群	四耳壺	1
		準A群		1
		B群	袋物	3
		C群	擂鉢3	2
			擂鉢	3
国産品	弥生土器			1
	古墳土師器			79
	奈良・平安	土師器		3

奈良・平安	須恵器	坏蓋	21
		坏身	24
		坏	10
		薄手袋物	1
		大型容器	63
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏 5
			糸切坏 9
			糸切小皿 9
			坏 30
			小皿 1
			高台付 3
			その字口縁 1
			鍋 1
			不明片 6
		黒色土器椀		1
	平安末～中世	土師質	かまど 3
			鍋 1
		瓦器	塊 3
	平瓦			5
	焼塩壺			1
	石鍋			1
	鉄釘			3
	鋼銭			1
	鞴土			

I面井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0－I	1
			II	7(1)
			IV－2	2(1)
			IV	45(8)
			V－1－a	2
			V 1－b	1
			V－2－a	1
			V	9
			VI－5	2(1)
			VI	15
			V～VI	8(2)
			IX－1	8(2)
			鉄釉鉢	4(1)
			不明片	100(1)
		皿	高台付I	2(1)
			II	6(2)
			不明片	2
			平底 0 c	1
			II	21(1)
			III	2
			II～III	1
			VI－1	1
			VI－2	1
			VI	1
			ロハゲ皿	1
			不明片	1
		袋物		7
		合子蓋		1
		蓋		1
	青磁	龍泉	碗 I－2	1
			I－3	3
			I 4	1
			I－不明片	1
			II－1	8
			II	1
			III	1
			不明片	14

輸入陶磁	青磁	龍泉	皿	I－2	1
				I－3	1
				不明片	1
			III－小鉢		1
		同安	碗	I	2
				II	4
				不明片	2
			皿	I－1	1
				II－1	1(1)
				不明片	1
		青磁あるいは龍泉			1
	青白磁	碗			3
		合子身			1
		合子			1
		口禿碗			1
		不明			1
		天目碗			4
		李朝象眼碗			1
	陶器	A群	I 鉢 1		1
			鉢		17
			四耳壺		8
			小口瓶		3
			III－行平		1
			III－不明		1
			黒褐釉碗		1(1)
			袋物		3
			不明		2
		準A群	茶褐四耳壺		25
			無釉四耳壺		2
		B群	四耳壺		4
			袋物		28
			鉢		1
			皿		1
		C群	擂鉢3		1
			擂鉢		4
		D群			12
		陶器不明片			3
国産品	弥生土器				1
	古墳土師器				17
	奈良・平安	土師器			5
		須恵器	坏蓋		6
			坏身		11
			坏		9
			薄手袋物		7
			大型容器		35
			皿		1
			不明片		9
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏		5
			ヘラ切小皿		2
			ヘラ切		8
			糸切坏		155
			糸切小皿		126
			坏		102
			小皿		42
			高台付		6
			不明片		219
		黒色土器椀			1
		土師質	擂鉢		1
			不明片		5
		瓦器	鉢		2
			鍋		19

国産品	平安末～中世	瓦質	擂鉢	3
			不明片	5
		古窯系	壺	6
			備前擂鉢	1
	近世	磁器		3
		陶器		2
		七輪		1
		擂鉢		1
	軒丸瓦			1
	平瓦			27
	焼塩壺			1
	石鍋			2
	鉄釘			13
	獣骨			
	貝			

II面井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0－III	1(1)
			II－1	22(2)
			II	69(4)
			IV－1	5(5)
			IV－2	14(6)
			IV－4	1(1)
			IV	132(8)
			V－1－a	34(1)
			V－1－b	2
			V 2－a	8(1)
			V－2－b	2
			V	21
			VI－1	11
			VI 3	2
			VI－4	1
			VI－5	5(3)
			VI	3
			V～VI	28(17)
			ロハゲ碗	2
			湯呑み碗	2
			不明片	225(7)
		小碗	V 2－a	1
				1
		皿	高台付I	2(1)
			II	19(5)
			V－b	1(1)
			不明片	1
			平底 0 c	7(4)
			II－1	14(2)
			II－2	2(2)
			II－4	6(1)
			II	103(8)
			III	3(1)
			IV－2	2(1)
			VI－1	1(1)
			VI	1
			ロハゲ皿	21(2)
			不明片	7
	水注			1
	袋物			28
	広東系鉢			1
	小壺			2
	青磁	龍泉	碗 I－1	16(1)
			I－2	1
			I 3	6(1)
			I－4	2

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	I－5	1
				I－不明片	4(1)
				II－1	19(1)
				II－2	5
				III－蓮弁文	1(1)
				III	9(4)
				IV	1
				不明片	2(1)
			小碗	I	1(1)
			皿	I－1	2(1)
				不明片	7(1)
			袋物		1
			III－小鉢		2(1)
		同安	碗	I	9
				II	22(2)
				III	1(1)
				内外無文	1(1)
				不明片	2(2)
			皿	I－1	1
				不明片	4
		越州	碗		3(1)
		青磁不明片			1
	青白磁	碗			12(1)
		皿			2
		小壺			1
		水注			1
		不明			4
	大貝碗				2
	磁州窯白釉片				1
	宇明碗				1
	陶器	A群	I－盤－1		5
			I－盤－2		5
			盤		25(1)
			四耳壺		98
			小口瓶		17(1)
			III－筆持		1
			III－行平		2
			III－鉢		1
			黒褐釉片		3
			不明片		8
		準A群			171
		B群	長頸		1
			袋物		74
			鉢		2
			III		1
		C群	捏鉢1		1
			捏鉢2		3
			捏鉢3		7
			捏鉢		19
		D群	D－4		1
			不明片		44
	陶器不明片				2
国産品	弥生土器				3
	古墳土師器				138
	奈良・平安	土師器	III		3
			不明片		7
		須恵器	坏蓋		50
			坏身		98
			坏		48
			薄手袋物		10
			大型容器		177
			III		1
			不明片		2

国産品	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	48
			ヘラ切小皿	6
			ヘラ切	27
			糸切坏	746
			糸切小皿	510
			坏	965
			小皿	227
			高台付坏	1
			高台付	37
			7の字口縁	2
			不明片	611
		黒色土器椀		12
		上師質	上鍋	1
			不明	14
		瓦器	鉢	8
			不明片	2
		瓦器	椀	59
		瓦質	鉢	2
			火舎	1
			不明	4
		古瀬戸	壺	3
	近世		種器	3
			陶器	10
			擂鉢	1
	瓦			1
	平瓦			30
	石鍋			13
	滑石製品			2
	砥石			1
	石製品			3
	鉄釘			27
	銅銭			3
	銅製飾り金具			1
	焼塩壺			1
	鉄滓			

IV面井戸出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II－1	7
			II	8(2)
			IV－1	1
			IV－2	1(1)
			IV	26(2)
			V－1－b	1
			V－2－a	3
			V	12
			V－VI	9(1)
			IX－1	5
			IX－2～3	1
			鉄絵鉢	3
			不明片	48(2)
		皿	高台付II	3(1)
			III	1(1)
			平底 II	13
			III	1
			IV－1	1
			不明片	3
	青磁	龍泉	碗 I－1	1
			I－3	1
		同安	碗 I	3
		遠江	碗	1(1)

輸入陶磁	青白磁	不明片		1
	天目碗			2(1)
	金華窯不明片			1
	陶器	A群	I－盤－2	2
			盤	8
			四耳壺	16
			皿一行平	1
			不明片	3
		準A群		15
		B群	袋物	10
		C群	捏鉢1	1
			捏鉢3	4
			捏鉢	2
		D群		9
国産品	古墳土師器			20
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	7
			坏身	16
			坏	6
			薄手袋物	1
			大型容器	32
			皿	1
	平安末～中世	土師器	ヘラ切大皿	2
			ヘラ切片	29
			糸切大皿	17
			糸切小皿	41
			大皿	36
			小皿	20
			高台付	5
			不明片	112
		黒色土器椀		2
		上師質	鉢	1
			不明片	1
		瓦器	椀	16
	近世	陶器		2
	平瓦			7
	焼塩壺			3
	石鍋			1
	鉄釘			3

18号溝出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II	1
			IV	2
			V－1－a	4
			V－VI	1
			IX－1	4
			不明片	4(1)
	青白磁	越州	碗	1(1)
		A群	四耳壺	4
	陶器	準A群		1
		B群	袋物	2
			鉢	1
		C群	捏鉢	1
		D群		8
国産品	古墳土師器			28
	奈良	須恵器	坏蓋	3
			坏身	20

国産品	奈良・平安	須恵器	坏	3
			薄手袋物	3
			大型容器	11
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	1
			ヘラ切小皿	2
			糸切坏	26
			糸切小皿	17
			坏	19
			高台付	4
			7の字口縁	6
			不明片	1
		瓦器	鍋	1
	近世	擂鉢		1
	平瓦			1

SX－30出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II	2(1)
			IV	3
			V－1－a	1
			V－2－a	1
			VI	1
			V～VI	1(1)
			IX－1	1(1)
			不明片	11
		皿	高台付II	1
			平底 II	2
			VI	1
			コハケ目	1
		袋物		10
	青磁	龍泉	碗 I－1	2
			I－4	1
			I－5	1
			不明片	1
		同安	碗 II	1
			不明片	2
			皿 I－1	2(1)
			II－1	1
			不明片	2
	青白磁あるいは陶器			1
	青白磁	碗		1
	明磁付不明片			1
	陶器	A群	I 盤－2	2
			盤	3
			四耳壺	4
			小口瓶	1
			不明片	2
		準A群		7
		B群	瓶	2
			袋物	13
			皿	1
		C群	捏鉢3	1
			捏鉢	4
		D群		4
	弥生土器			12
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	2
			坏身	3
			大型容器	6
	平安末	土師器	糸切坏	40
			糸切小皿	13
			坏	47

国産品	中世	土師器	小皿	4
			不明片	3
		瓦器	鍋	3
		丸質	擂鉢	1
			火舎	1
	近世		擂鉢	1
		半丸		3

SX−34出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅳ−2	1(1)
			Ⅳ	4(1)
			Ⅴ−1−a	3
			Ⅴ−2−a	1
			Ⅵ 5	1(1)
			Ⅵ	1
			Ⅴ〜Ⅵ	1
			不明片	25
		皿	高台付不明片	1
			平底 0−a類文	1
			Ⅵ−1	1(1)
	青磁	龍泉窯	碗 Ⅰ 不明片	3
			皿 Ⅰ−鎬文	1(1)
			香炉	1
		同安窯	碗 Ⅱ	1(1)
	陶器	A群	Ⅰ−壺−2	1
			壺	6
			不明片	4
		準A群		6
		B群	四耳壺	1
			袋物	5
			Bあるいは鉢	1
		C群	鉢	1
			擂鉢	2
		古墳土師器		7
国産品	奈良・平安	須恵器	大型容器	4
	平安末〜中世	土師器	糸切坏	41
			糸切小皿	36
			坏	89
			小皿	143
			不明片	596
		瓦器	塊	8
丸瓦				1
平瓦				4
鉄釘				2

SX−35出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ	2(1)
			Ⅳ 2	1(1)
			Ⅳ	4
			Ⅵ−1	2
			Ⅴ〜Ⅵ	1
			不明片	4
		皿	高台付Ⅱ	2
			平底 Ⅱ	2
	青磁	龍泉窯	碗 Ⅰ−4	1
			Ⅰ〜不明片	1

輸入陶磁	青磁	同安窯	碗 Ⅰ	2
			Ⅱ	1
	青白磁	碗		1(1)
	陶器	A群	壺	1
		準A群		2
		B群	袋物	3
			皿	1
		C群	擂鉢	1
		D群		1
国産品	奈良・平安	須恵器	坏蓋	1
	平安末〜中世	土師器	糸切坏	25
			糸切小皿	25
			坏	24
			小皿	11
			不明片	23
		黒色土器椀		1
		古瀬戸瓶		1
平瓦				4
十錘				1
鉄釘				1

SX−37出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ−1	9
			Ⅱ	17(7)
			Ⅳ−1	1(1)
			Ⅳ−2	12(5)
			Ⅳ	117(9)
			Ⅴ−1−a	46
			Ⅴ−1 b	2
			Ⅴ−2−a	2
			Ⅴ−2−b	1
			Ⅵ−1	17
			Ⅵ−3	3
			Ⅵ−5	5(3)
			Ⅵ	10
			Ⅴ〜Ⅵ	48(2)
			Ⅷ−2	1(1)
			Ⅸ−1	47(9)
			不明片	312
		皿	高台付Ⅰ	2
			Ⅰ−2	1
			Ⅱ	14(3)
			出蔵文Ⅱ	1
			平底 0 鎬文	1
			0	1
			Ⅱ 1	3
			Ⅱ−2	2(2)
			Ⅱ	48(1)
			Ⅲ	9
			Ⅱ〜Ⅲ	12
			Ⅳ	1
			Ⅴ	2
			Ⅵ	2
			不明片	3(1)
四耳壺				1
水注				3
袋物				16
小壺蓋				2

輸入陶磁	青磁	龍泉窯	碗 Ⅰ−1	5
			Ⅰ 2	1
			Ⅰ−不明片	20
			折縁盤皿	1
			袋物	1
		同安窯	碗 Ⅰ	6
			Ⅱ	10(2)
			不明片	2
		越州窯水注		1
	青白磁	碗		2
		Ⅲ		1
		不明片		1
	天目碗			1
	高麗青磁皿			1
	陶器	A群	Ⅰ−壺−1	3
			Ⅰ−壺−2	2
			壺	41
			四耳壺	14
			小口瓶	1
			Ⅲ−行平	2
			袋物	1
		準A群		56
		B群	四耳壺	3
			長頸	2
			短頸壺	1
			袋物	67
			鉢	1
		C群	擂鉢3	5
			擂鉢	25
		D群		15
		陶器不明片		3
国産品	土師器			45
	奈良・平安	須恵器	坏蓋	15
			坏身	24
			坏	34
			薄手袋物	2
			大型容器	66
	平安末〜中世	土師器	へラ切小皿	2
			へラ切片	29
			糸切坏	46
			糸切小皿	28
			坏	52
			小皿	28
			塊	1
			高台付	7
			不明片	250
		黒色土器椀		2
		三耳壺	壺	1
			不明	3
		須恵器	鉢	1
			大型容器	1
		瓦器	塊	46
		瓦質	鉢	1
			不明片	3
軒丸瓦				1
丸瓦				78
平瓦				591
石錘				7
紡石				1
鉄釘				14
銅銭				2
銅製飾り金具				2
磨土				

Ⅰ面包含層出土遺物

輸入白磁	碗		0−3	2
			Ⅱ−1	21
			Ⅱ−2	2
			Ⅱ−3	1
			Ⅱ	113(7)
			Ⅳ 1	50(6)
			Ⅳ−2	39(2)
			Ⅳ	251(6)
			Ⅴ−1−a	24
			Ⅴ−1−b	3
			Ⅴ−2−a	20
			Ⅴ−2−b	1
			Ⅴ	49
			Ⅵ 1	177
			Ⅵ−3	14(3)
			Ⅵ−4	1
			Ⅵ 5	16(9)
			Ⅵ	18(2)
			Ⅴ〜Ⅵ	109(9)
			Ⅶ−1	2(2)
			Ⅶ−2	4(2)
			Ⅷ	1
			Ⅸ−1	96(3)
			Ⅸ 3	1
			ロハゲ碗	2
			福州窯系碗	1(1)
			不明片	107(6)
	小碗		Ⅴ−2 a	1(1)
				2
	皿		高台付Ⅰ	1
			Ⅱ−2	4(1)
			Ⅱ	71(9)
			Ⅲ	2
			Ⅴ−b	3(3)
		平底	0−a	2
			0 a	8(4)
			Ⅱ−1	14(2)
			Ⅱ−2	2
			Ⅱ−3	2(1)
			Ⅱ 4	11(1)
			Ⅱ	92(9)
			Ⅱ〜Ⅲ	23
			Ⅲ−1	3
			Ⅲ	37(3)
			Ⅳ−1	2
			Ⅳ 2	2(1)
			Ⅴ	4(1)
			Ⅵ−1	22(3)
			Ⅵ−2	3(2)
			Ⅵ	16(1)
			ロハゲⅡ	2
			ロハゲⅢ	1
			ロハゲⅣ	19(1)
			不明片	25(1)
四耳壺				7
水注				1
袋物				66(1)
盌				1
香炉				1
小壺				1
合子蓋				1
明代八角小鉢				1

輸入陶磁	青磁	龍泉	碗	I-1	60(7)
				I-2	7(1)
				I-3	23
				I-4	8
				I-5	7(1)
				I-不明片	29(2)
				II-1	26
				II-2	21
				II	2
				III-碗	12
				III-蓮弁碗	7
				III	1
				V-2	2
				VI-2	1
				明代人形手碗	1
				束口碗	1
				不明片	57(1)
			皿	I-2	2(2)
				I-3	1(1)
				I-魚文	1(1)
				I-不明片	26(4)
				V-稜花皿	1
				碁笥底皿	1(1)
			袋物		8
			III-小鉢		5(2)
			III-杯		1
			III-盤		2
		同安	碗	I	46
				II	143(2)
				III	2(1)
				鉢-櫛目かき取り	1
				鉢	1(1)
				不明片	43(4)
			皿	I-1	9(9)
				II-1	11(8)
				不明片	29
		越州	碗		7
			袋物		1
		連江	小碗		1(1)
	青白磁		碗		46(2)
			皿		4(2)
			合子蓋		3
			合子身		3
			香炉		1
			小壺蓋		2
			不明片		9
	天目碗				13(2)
	広東天目碗				1
	鉄釉合子蓋				1
	緑釉不明片				1
	明染付碗				3
	高麗青磁碗				2
	李朝粉青沙器碗				2
	李朝袋物				1
	陶器碗				1(1)
	陶器	A群	I-盤-1		28
			I-盤-2		26
			I-盤-3		3
			盤		183
			I-鉢		1
			緑釉盤		1
			四耳壺		54
			小口瓶		29
			III-行平		5

輸入陶磁	陶器	A群	II-鉢(スタンプ文)		1
			III-鉢(櫛描文)		1
			III-鉢		6
			蓋		3
			黒褐釉壺		3
			袋物		37
			緑釉袋物		1
			茶入れ		1
			I-不明		6
			III-不明		7
			不明		11
		準A群	茶釉四耳壺		221
			無釉四耳壺		1
		B群	四耳壺		34
			水注		2
			無瓶		1
			短頸壺		3
			瓶		3
			袋物		300
			鉢		11
			盆		1
			碗		1
			皿		15
		C群	四耳壺		3
			水注		4
			袋物		7
			捏鉢2		1
			捏鉢3		20
			捏鉢		64
			増堝		1
			無釉盤口壺		7
		D群	D-1		1
			D-3		5
			D-4		2
			D-5		2
			大型容器		89
		陶器不明片			5
国産品	古墳土師器				9
	奈良・平安	土師器	甕		34
			甑		2
			不明片		41
		製塩土器			5
		須恵器	坏蓋		58
			坏身		53
			坏		120
			高坏		1
			皿		2
			提手袋物		9
			大型容器		222
			不明片		15
	平安末~中世	土師器	ヘラ切坏		76
			ヘラ切小皿		2
			ヘラ切片		5
			糸切坏		3704
			糸切小皿		2506
			坏		1945
			小皿		579
			高台付		66
			埦		2
			不明片		779
		黒色土器埦			9
		土師質	火舎		10
			甑		20
			土鍋		14
			かまど		4

国産品	平安末~中世		不明片	25
		須恵質	擂鉢又は片口	2
			鉢	19
			甕	1
			大型容器	8
		瓦器	埦	54
			皿	1
		瓦質	鉢	3
			擂鉢又は片口	24
			甕	8
			火舎	1
			不明	23
		古窯系	備前甕	6
			常滑甕	7
			擂鉢	1
			甕	28
	近世		伊万里	17
			唐津	2
			鍋島	1
			波佐見	2
			磁器	59
			陶器	111
			大型陶器	3
			土製品	41
			七輪	14
			火鉢	6
			油坏の蓋	1
			紅皿	3
			不明	4
	平瓦			232
	塼			1
	焼塩壺			2
	石鍋			42
	硯			1
	砥石			3
	滑石製鋳型?			1
	石加工品			1
	鉄さじ			1
	鉄くぎ			94
	鉄製容器			1
	銅銭			14
	銅製飾り金具			2
	銅滓			
	土錘			2
	土鈴			1
	きな			3
	坩堝			1
	壁土			
	獣骨			

II面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	II-1	19
			II	81(11)
			IV-1	3(2)
			IV-2	37(3)
			IV	197(12)
			V-1-a	38
			V-1-b	3
			V-2-a	1
			V-2-b	5
			V	45
			VI-1	81(1)
			VI-3	5
			VI-4	1

輸入陶磁	白磁	碗	VI-5		6(3)
			VI		17
			V~VI		73(15)
			VIII-1		1
			VIII-2		8(1)
			IX-1		87(10)
			劃線文		1
			鉄絵鉢		1
			不明片		538(3)
		小碗			5(3)
		皿	高台付	I-1	7(3)
				I	2(2)
				II	35(4)
				III	1
				不明片	2(1)
			平底	0-櫛文	1(1)
				0-a	2
				0-b	3(2)
				0	1(1)
				II-1	6(2)
				II-2	1(1)
				II-4	8
				II	82(11)
				III-1	2
				III	16(5)
				II-III	2
				IV-1	1
				IV-2	2(1)
				V	2(1)
				VI-1	4(1)
				VI-2	1
				VI	12(2)
				ロハゲ皿	1(1)
				不明片	42(2)
		袋物			41
		広東系袋物			2
		水注の把手			1
		香炉			2
		小壺			2
		小壺蓋			1
	青磁	龍泉	碗	0-碗?	1
				I-1	17(2)
				I-2	3
				I-3	5
				I-4	2
				I-不明片	16(1)
				II-1	8(1)
				III-碗	1
				III-蓮弁碗	1
				III	1
				不明片	18
			小碗		1(1)
			皿	I-1	1(1)
				I-4	1
				I-魚文	1(1)
				不明片	6(1)
		同安	碗	I	2
				II-蓮弁	1
				II	47(1)
				III	10
				不明片	7(1)
			小碗		1(1)

区分	器種	数量
輸入陶磁・青磁・同安・皿	I−1	3(2)
輸入陶磁・青磁・同安・皿	不明片	5(2)
輸入陶磁・青磁	龍泉または同安	3
輸入陶磁・青磁・越州	碗	9(2)
輸入陶磁・青磁・越州	皿	1
輸入陶磁・青磁・越州	袋物	2
輸入陶磁・青磁・越州	小壺	1
輸入陶磁・青磁・越州	不明片	1
輸入陶磁・青磁	青磁不明片	1
輸入陶磁・青白磁	碗	15(1)
輸入陶磁・青白磁	皿	4(2)
輸入陶磁・青白磁	合子蓋	2
輸入陶磁・青白磁	小壺蓋	1
輸入陶磁・青白磁	蓋	3
輸入陶磁・青白磁	不明片	5
輸入陶磁	吉州窯(玳皮天目碗)	1
輸入陶磁	天目碗	3(1)
輸入陶磁	磁州窯白釉碗	2
輸入陶磁	黒褐釉小壺	1(1)
輸入陶磁	高麗青磁碗	1
輸入陶磁	朝鮮碗	1
輸入陶磁・陶器・A群	I−盤−1	12
輸入陶磁・陶器・A群	I−盤−2	7
輸入陶磁・陶器・A群	I−盤−3	2
輸入陶磁・陶器・A群	盤	93
輸入陶磁・陶器・A群	四耳壺	53
輸入陶磁・陶器・A群	小口瓶	4
輸入陶磁・陶器・A群	III−行平	1
輸入陶磁・陶器・A群	III−鉢	1
輸入陶磁・陶器・A群	蓋	4
輸入陶磁・陶器・A群	黒褐釉袋物	3
輸入陶磁・陶器・A群	袋物	45
輸入陶磁・陶器・A群	緑褐釉四耳壺	1
輸入陶磁・陶器・A群	小壺蓋	1
輸入陶磁・陶器・A群	盃	1
輸入陶磁・陶器・A群	不明片	10
輸入陶磁・陶器	準A群	87
輸入陶磁・陶器・B群	四耳壺	8
輸入陶磁・陶器・B群	水注	2
輸入陶磁・陶器・B群	短頸壺	2
輸入陶磁・陶器・B群	袋物	15
輸入陶磁・陶器・B群	鉢	3
輸入陶磁・陶器・B群	皿	1
輸入陶磁・陶器・C群	捏鉢1	1
輸入陶磁・陶器・C群	捏鉢3	40
輸入陶磁・陶器・C群	捏鉢	7
輸入陶磁・陶器・C群	増壊	1
輸入陶磁・陶器・C群	袋物	5
輸入陶磁・陶器・C群	不明片	6
輸入陶磁・陶器・D群	D−3	1
輸入陶磁・陶器・D群	大型容器	23
輸入陶磁・陶器	陶器不明片	10
国産品	弥生土器	10
国産品	古墳土師器	1
国産品・奈良・平安・土師器	不明片	69
国産品・奈良・平安	製塩土器	2
国産品・奈良・平安・須恵器	坏蓋	33
国産品・奈良・平安・須恵器	坏身	71(3)
国産品・奈良・平安・須恵器	坏	45
国産品・奈良・平安・須恵器	袋物	104
国産品・奈良・平安・須恵器	大型容器	144
国産品・奈良・平安・須恵器	不明片	15
国産品・奈良・平安	緑釉埦	1

区分	器種	数量
国産品・平安末~中世・土師器	ヘラ切坏	35
国産品・平安末~中世・土師器	ヘラ切小皿	11
国産品・平安末~中世・土師器	糸切坏	924
国産品・平安末~中世・土師器	糸切小皿	687
国産品・平安末~中世・土師器	坏	755
国産品・平安末~中世・土師器	小皿	153
国産品・平安末~中世・土師器	高台付埦	52
国産品・平安末~中世・土師器	蓋	2
国産品・平安末~中世・土師器	ての字口縁	1
国産品・平安末~中世・土師器	不明片	360
国産品・平安末~中世	黒色土器埦	19
国産品・平安末~中世・土師質	土鍋	2
国産品・平安末~中世・土師質	不明片	58
国産品・平安末~中世・東播系須恵器	魚住鉢	1
国産品・平安末~中世・東播系須恵器	捏鉢	1
国産品・平安末~中世・瓦器	埦	138
国産品・平安末~中世・瓦質	甕	1
国産品・平安末~中世・瓦質	火舎	2
国産品・平安末~中世・瓦質	不明片	10
国産品・平安末~中世・常滑	甕	5
国産品・平安末~中世・常滑	捏鉢	1
国産品・近世	唐津	1
国産品・近世	磁器	3
国産品・近世	陶器	2
国産品・近世	擂鉢	2
国産品	軒丸瓦	1
国産品	平瓦	194
国産品	石鍋	2
国産品	滑石製品	1
国産品	滑石ミニチュア容器	1
国産品	鉄釘	50
国産品	板状鉄器	1
国産品	銅銭	3
国産品	土製品	7

III 面包含層出土遺物

区分	器種	数量
輸入陶磁・白磁・碗	O−III	1
輸入陶磁・白磁・碗	O	1(1)
輸入陶磁・白磁・碗	II−1	18
輸入陶磁・白磁・碗	II−6	1
輸入陶磁・白磁・碗	II	39(1)
輸入陶磁・白磁・碗	IV−1	3(1)
輸入陶磁・白磁・碗	IV−2	4(1)
輸入陶磁・白磁・碗	IV−4	1
輸入陶磁・白磁・碗	IV	98(3)
輸入陶磁・白磁・碗	V−1−a	22
輸入陶磁・白磁・碗	V−1−b	1
輸入陶磁・白磁・碗	V−2−a	9
輸入陶磁・白磁・碗	V−2−b	3
輸入陶磁・白磁・碗	V	38
輸入陶磁・白磁・碗	VI−1	9
輸入陶磁・白磁・碗	VI−2	1
輸入陶磁・白磁・碗	VI−3	3
輸入陶磁・白磁・碗	VI−5	1(1)
輸入陶磁・白磁・碗	VI	14
輸入陶磁・白磁・碗	V~VI	38(18
輸入陶磁・白磁・碗	VII	2(2)
輸入陶磁・白磁・碗	VIII	1(1)
輸入陶磁・白磁・碗	IX−1	26(1)
輸入陶磁・白磁・碗	不明片	162(2)
輸入陶磁・白磁・小碗	曲線文	2(1)
輸入陶磁・白磁・小碗		2(1)
輸入陶磁・白磁・皿	高台付I	3(1)
輸入陶磁・白磁・皿	高台付II	6
輸入陶磁・白磁・皿	蓮葉文皿	1(1)
輸入陶磁・白磁・皿	平底 O−b	1
輸入陶磁・白磁・皿	O−c	9(5)
輸入陶磁・白磁・皿	II−1	8(4)
輸入陶磁・白磁・皿	II−2	3
輸入陶磁・白磁・皿	II−4	2
輸入陶磁・白磁・皿	II	32(6)
輸入陶磁・白磁・皿	II~III	9(3)
輸入陶磁・白磁・皿	III	10(3)
輸入陶磁・白磁・皿	IV	3
輸入陶磁・白磁・皿	VI	5
輸入陶磁・白磁・皿	不明片	15
輸入陶磁・白磁	広東系水注	1
輸入陶磁・白磁	水注	1
輸入陶磁・白磁	袋物	18
輸入陶磁・白磁	合子身	2
輸入陶磁・白磁	香炉	1
輸入陶磁・青磁・龍泉・碗	O	2
輸入陶磁・青磁・龍泉・碗	I−1	3
輸入陶磁・青磁・龍泉・碗	不明片	10
輸入陶磁・青磁・龍泉	袋物	1
輸入陶磁・青磁・同安・碗	I	4
輸入陶磁・青磁・同安・碗	II	5
輸入陶磁・青磁・同安・碗	III	2
輸入陶磁・青磁・同安・碗	不明片	3(1)
輸入陶磁・青磁・同安・皿	不明片	6
輸入陶磁・青磁・越州	碗	4
輸入陶磁・青磁・越州	皿	1
輸入陶磁・青磁	青磁不明片	1
輸入陶磁・青白磁	碗	12(3)
輸入陶磁・青白磁	合子身	1
輸入陶磁・青白磁	不明片	5
輸入陶磁	天目碗	3(2)
輸入陶磁	明染付碗	1
輸入陶磁	高麗青磁碗	1
輸入陶磁	高麗青磁壺	1
輸入陶磁	高麗青磁不明片	1
輸入陶磁・陶器・A群	I−盤−1	4
輸入陶磁・陶器・A群	盤	40
輸入陶磁・陶器・A群	I−四耳壺	59
輸入陶磁・陶器・A群	I−四耳壺(スタンプ文)	1
輸入陶磁・陶器・A群	小口瓶2	1
輸入陶磁・陶器・A群	小口瓶	4
輸入陶磁・陶器・A群	III−行平	7
輸入陶磁・陶器・A群	盃	1
輸入陶磁・陶器・A群	黒褐釉壺	5
輸入陶磁・陶器・A群	緑釉盤	1
輸入陶磁・陶器・A群	緑釉片	1
輸入陶磁・陶器・A群	袋物	10
輸入陶磁・陶器・A群	I−不明	1
輸入陶磁・陶器	準A群	62
輸入陶磁・陶器・B群	鉢	1
輸入陶磁・陶器・B群	碗	1
輸入陶磁・陶器・B群	燭台?	1
輸入陶磁・陶器・B群	瓶	2
輸入陶磁・陶器・B群	袋物	39
輸入陶磁・陶器・C群	捏鉢2	2
輸入陶磁・陶器・C群	捏鉢3	9
輸入陶磁・陶器・C群	捏鉢	23
輸入陶磁・陶器・C群	無釉盤口壺	1
輸入陶磁・陶器・C群	袋物	2
輸入陶磁・陶器・D群	D−4	3
輸入陶磁・陶器・D群	大型容器	12
輸入陶磁・陶器	陶器不明片	5
国産品	弥生土器	24
国産品	古墳土師器	11
国産品・奈良・平安・土師器	不明片	214
国産品・奈良・平安	製塩土器	1
国産品・奈良・平安・須恵器	坏蓋	96
国産品・奈良・平安・須恵器	坏身	185(5)
国産品・奈良・平安・須恵器	坏	75
国産品・奈良・平安・須恵器	長頸壺	1
国産品・奈良・平安・須恵器	盤口壺	1
国産品・奈良・平安・須恵器	皿	13
国産品・奈良・平安・須恵器	蓋	5
国産品・奈良・平安・須恵器	薄手袋物	40
国産品・奈良・平安・須恵器	大型容器	291
国産品・奈良・平安・須恵器	不明片	71
国産品・奈良・平安	緑釉埦	6
国産品・平安末~中世・土師器	ヘラ切坏	46
国産品・平安末~中世・土師器	ヘラ切小皿	34
国産品・平安末~中世・土師器	糸切坏	487
国産品・平安末~中世・土師器	糸切小皿	247
国産品・平安末~中世・土師器	坏	367
国産品・平安末~中世・土師器	小皿	141
国産品・平安末~中世・土師器	高台付埦	1
国産品・平安末~中世・土師器	高台付	51
国産品・平安末~中世・土師器	不明片	351
国産品・平安末~中世	黒色土器埦	30
国産品・平安末~中世・土師質	不明片	23
国産品・平安末~中世・東播系須恵	鉢	1
国産品・平安末~中世・瓦器	埦	39
国産品・平安末~中世・瓦質	捏鉢	2
国産品・平安末~中世・瓦質	火舎	1
国産品・平安末~中世・瓦質	不明片	39
国産品・平安末~中世・常滑	甕	12
国産品・近世	伊万里	1
国産品・近世	唐津	1
国産品・近世	磁器	1
国産品・近世	土製品	1
国産品・近世	擂鉢	1
国産品	軒丸瓦	1
国産品	平瓦	52
国産品	石鍋	14
国産品	鉄釘	28
国産品	釘くい	1
国産品	鉄製品	2
国産品	刀子	2
国産品	銅銭	1
国産品	銅製飾り金具	1
国産品	焼塩壺	24
国産品	土錘	1
国産品	土製品	1
国産品	壁土	6

Ⅳ面包含層出土遺物

輸入陶磁	白磁	碗	0	1
			Ⅱ－1	6
			Ⅱ	30(2)
			Ⅳ－4	1(1)
			Ⅳ	47(4)
			Ⅴ 1 a	10
			Ⅴ－2－a	4
			Ⅴ	18
			Ⅵ－2	1
			Ⅵ	5
			Ⅴ～Ⅵ	11(6)
			Ⅶ－1	1
			Ⅶ 2	1(1)
			Ⅸ－2～3	1
			Ⅸ	10
			不明片	80(1)
		皿	高台付Ⅰ	3(3)
			Ⅱ	2(1)
			Ⅲ	2(1)
			平底 φ-多重文	1
			Ⅱ	16
			Ⅱ～Ⅲ	1
			Ⅳ	1(1)
			Ⅴ	1
			Ⅵ－1	1(1)
			Ⅵ	1
			ロハゲ皿	1
			不明片	53(1)
		袋物		5
	青磁	龍泉	袋物	1
		同安	碗 Ⅰ	1
			不明片	1
		龍泉または同安		1
		越州	袋物	1
			不明片	1
	青白磁	碗		1
		合子蓋		1
		不明片		2
	天目碗			1(1)
	緑釉碗			1
	緑釉片			1
	高麗青磁碗			1
	陶器	A群	Ⅰ－盤－1	2
			盤	18
			四耳壺	14
			Ⅲ－行平	3
			壺	2
			袋物	9
			不明片	1
		準A群	四耳壺	29
			注口	1
		B群	短頸壺	1
			瓶	2
			袋物	23
			鉢	1
		C群	捏鉢3	4
			捏鉢	10
			無釉壺口縁	1
			袋物	1
		D群		3

国産品	弥生土器			11
	古墳土師器			86
	奈良・平安	土師器	甑	1
			皿	43(5)
			不明片	117
		製塩土器		1
		須恵器	坏蓋	133
			坏身	176(6)
			坏	113
			高台	2
			皿	2
			袋物	58
			大型容器	202
			不明片	39
		緑釉片		1
	平安末～中世	土師器	ヘラ切坏	32
			ヘラ切小皿	18
			ヘラ切	1
			糸切坏	140
			糸切小皿	131
			坏	216
			小皿	37
			高台付坏	12
			「の」字口縁	1
			不明片	201
		黒色土器坏		15
		土師質	土鍋	1
			不明片	42
		瓦器	壺	32
		瓦質	鉢	1
		白磁系	常滑壺	1
	近世	磁器		2
		陶器		1
		擂鉢		1
	軒平瓦			1
	平瓦			17
	石鍋			3
	石錘？			1
	石加工品			1
	鉄釘			15
	棒状鉄器			1
	刀子			1
	鉄製品(鎌)			1
	銅鉄			1
	青銅製品			1
	焼塩壺			22

国産品	奈良・平安	土師器	不明片	1
		須恵器	坏蓋	2
			坏身	2
			坏	2
			筒手袋物	2
			大型容器	1
	平安末～中世	土師器	糸切坏	8
			坏	3
			高台付	3
			不明片	2
		土師質 瓦器	不明片	1
			壺	2
		瓦質	鉢	1
	近世	不明片		1
	平瓦			3
	鉄釘			1

Ⅴ面包含層出土遺物

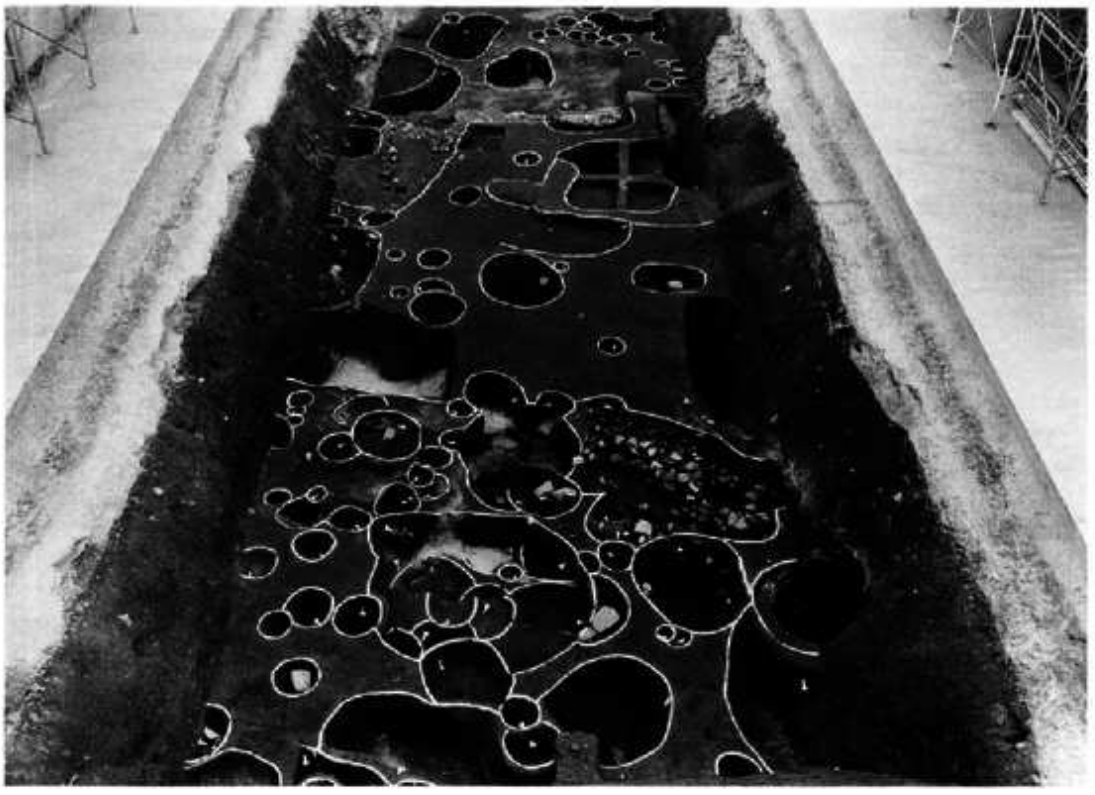
輸入陶磁	白磁	碗	Ⅱ	1
			Ⅳ	2
			Ⅴ－1－a	2
			Ⅵ－1	1
			Ⅴ～Ⅵ	1
			Ⅸ	1
			不明片	1
		皿	ロハゲ皿	1
	陶器	準A群		1
国産品	弥生土器			2
	古墳土師器			1

図　　版

PLATES

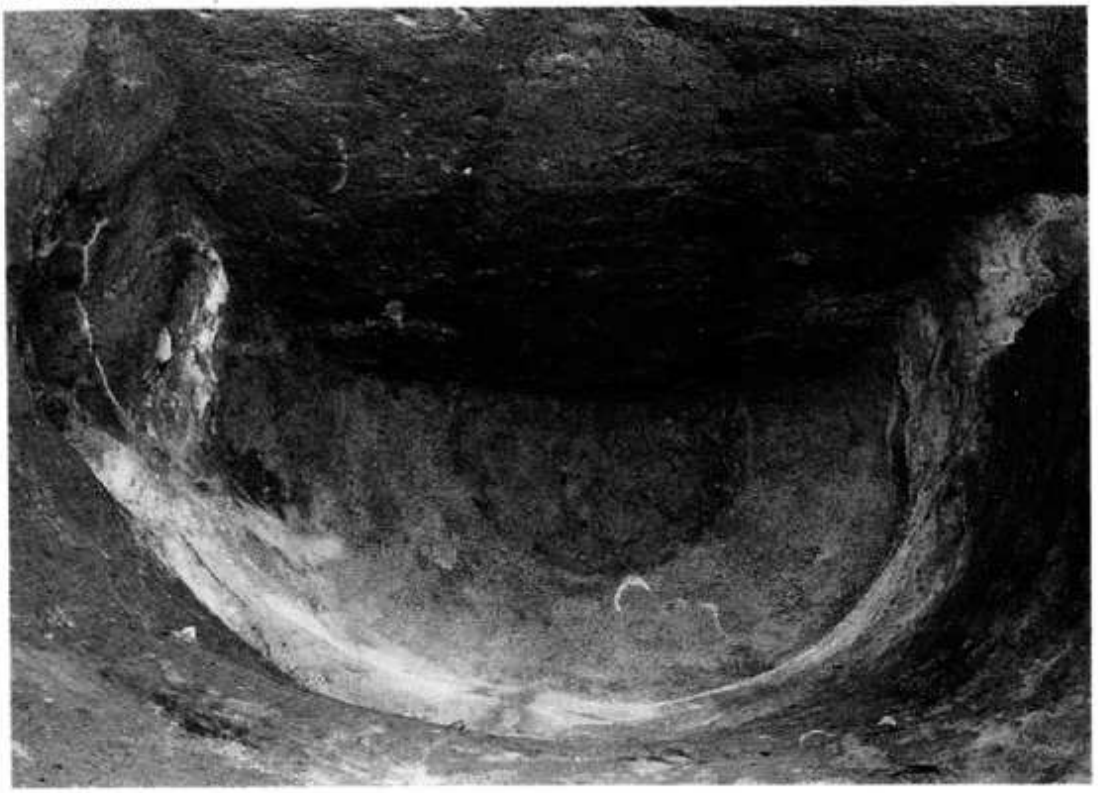
(1) 調査区遠景（南より）

(2) I区I面全景（南より）



PL. 2

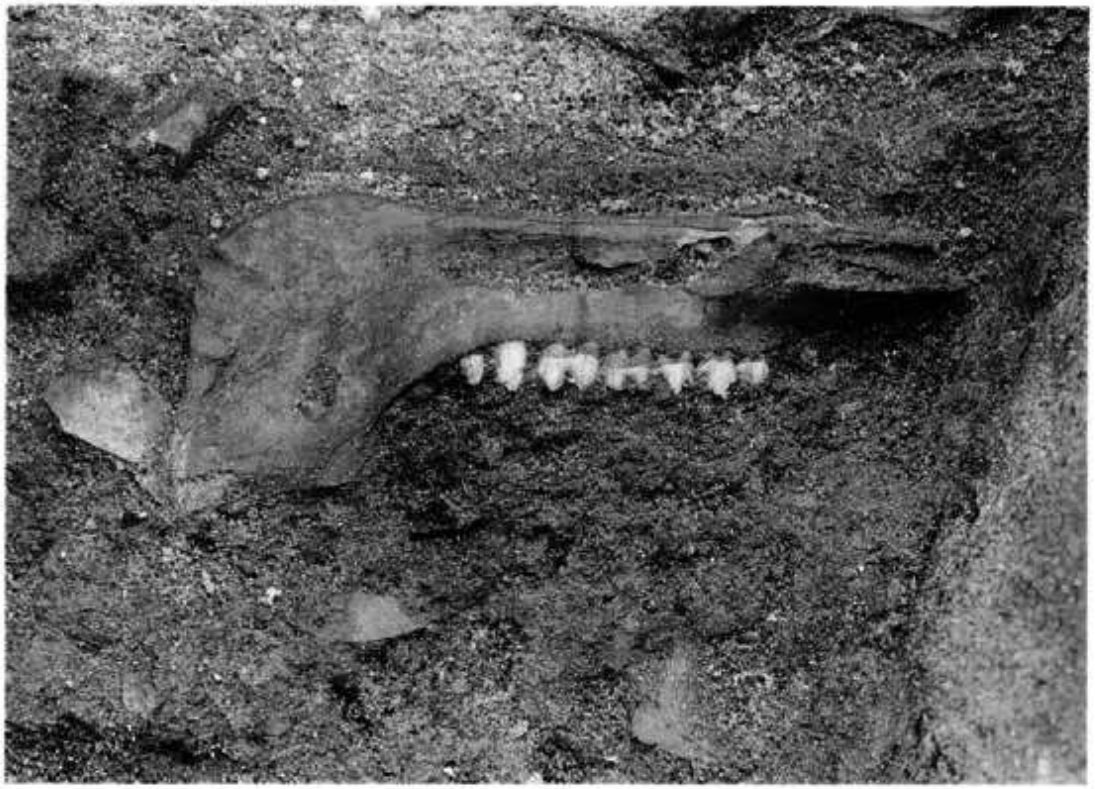
(1) 135号井戸



(2) 144号井戸 上面検出状況

(1) 144号井戸 井筒検出状況

(2) 148号井戸 遺物出土状況

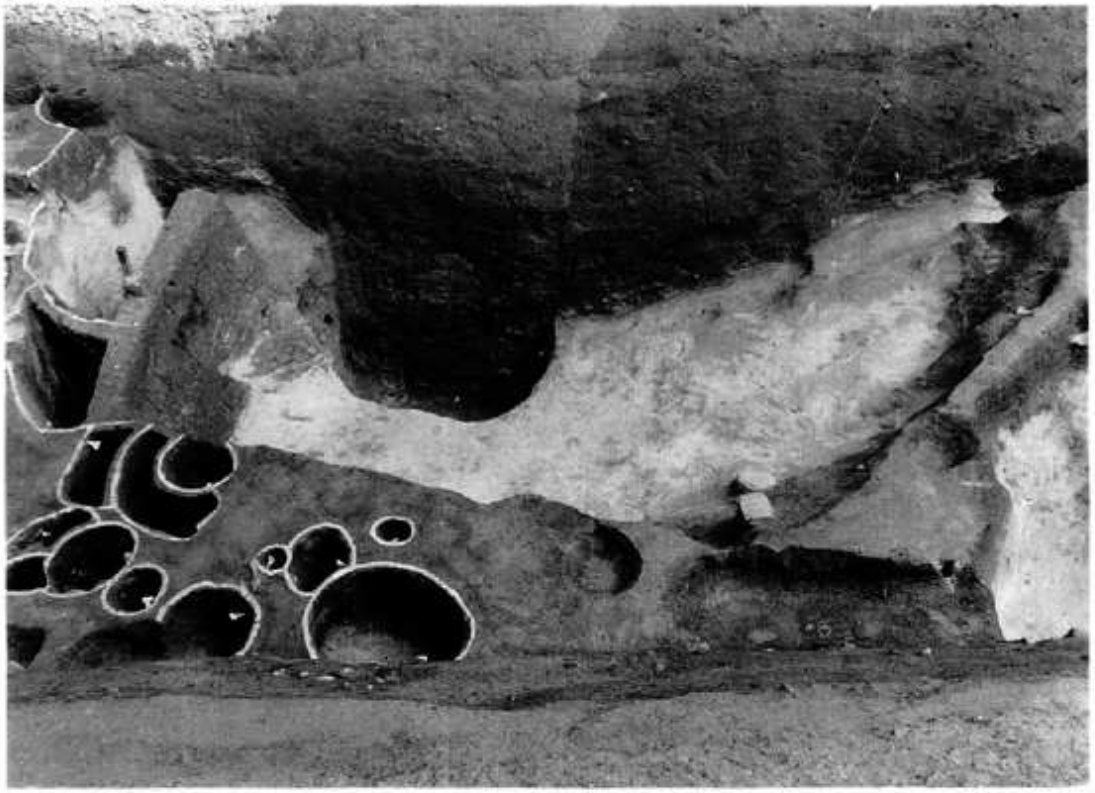


PL. 4

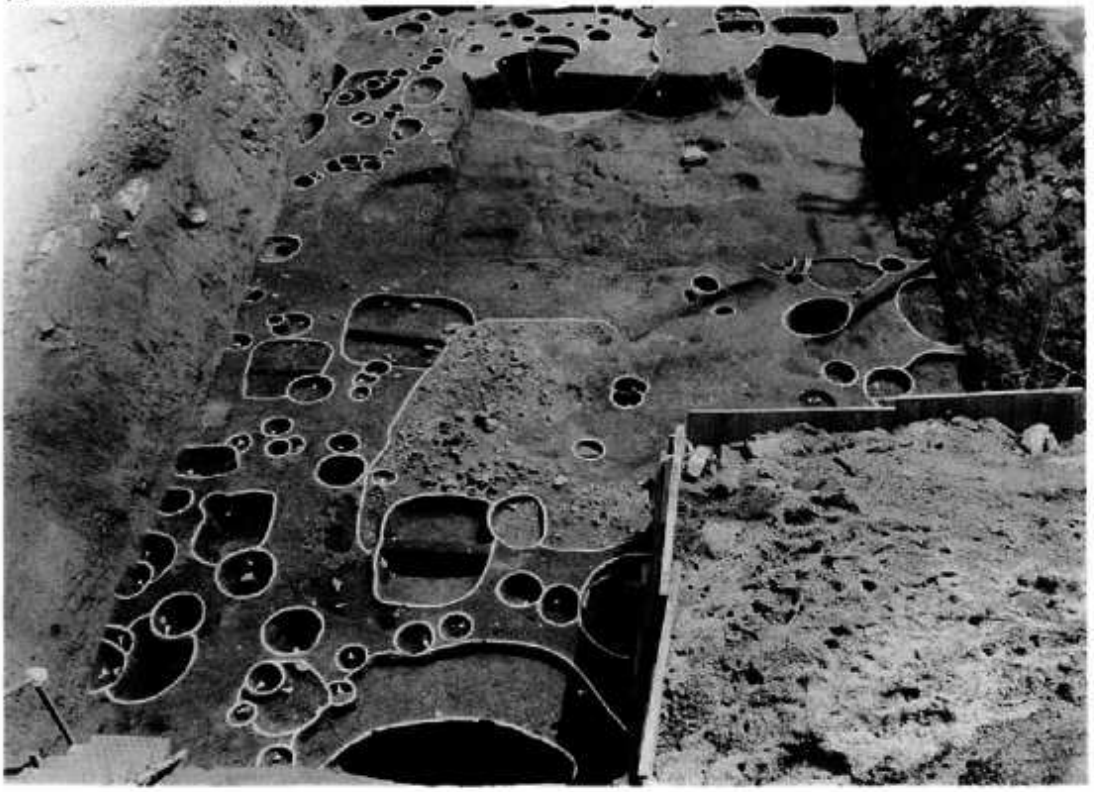
(1) SX30（西より）

(2) SX32（南より）

(1) SX33全景（西より）

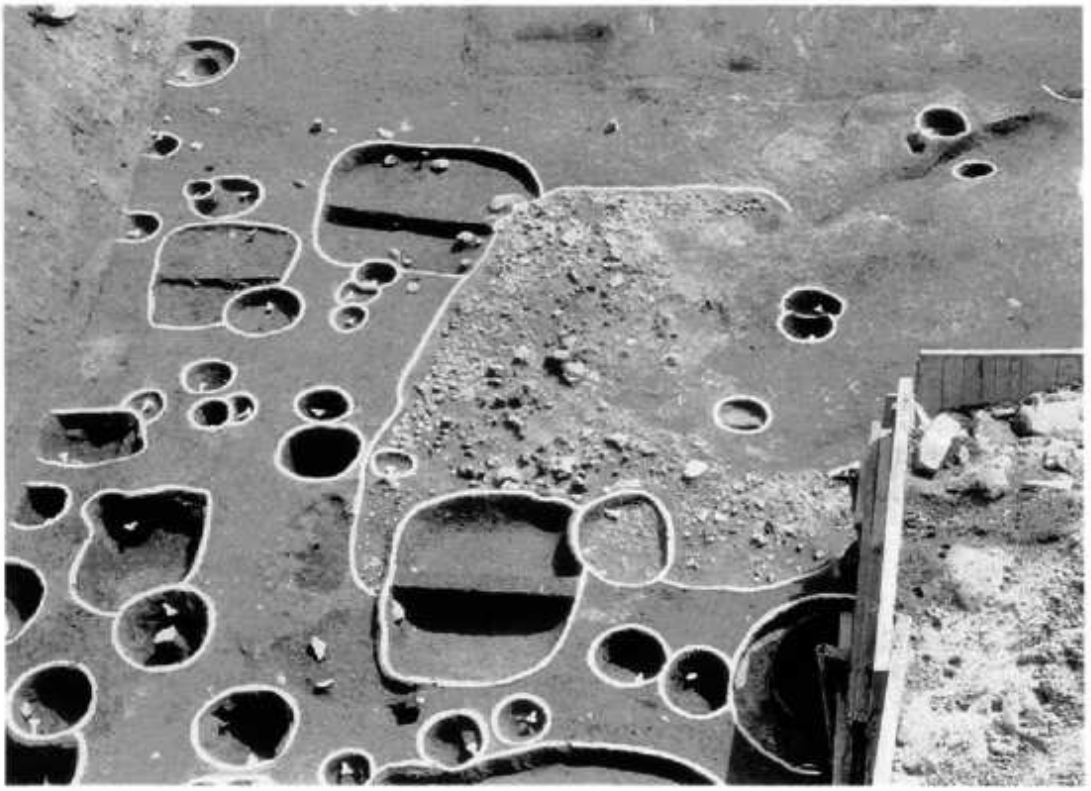


(2) SX34 II区I面全景（北より）

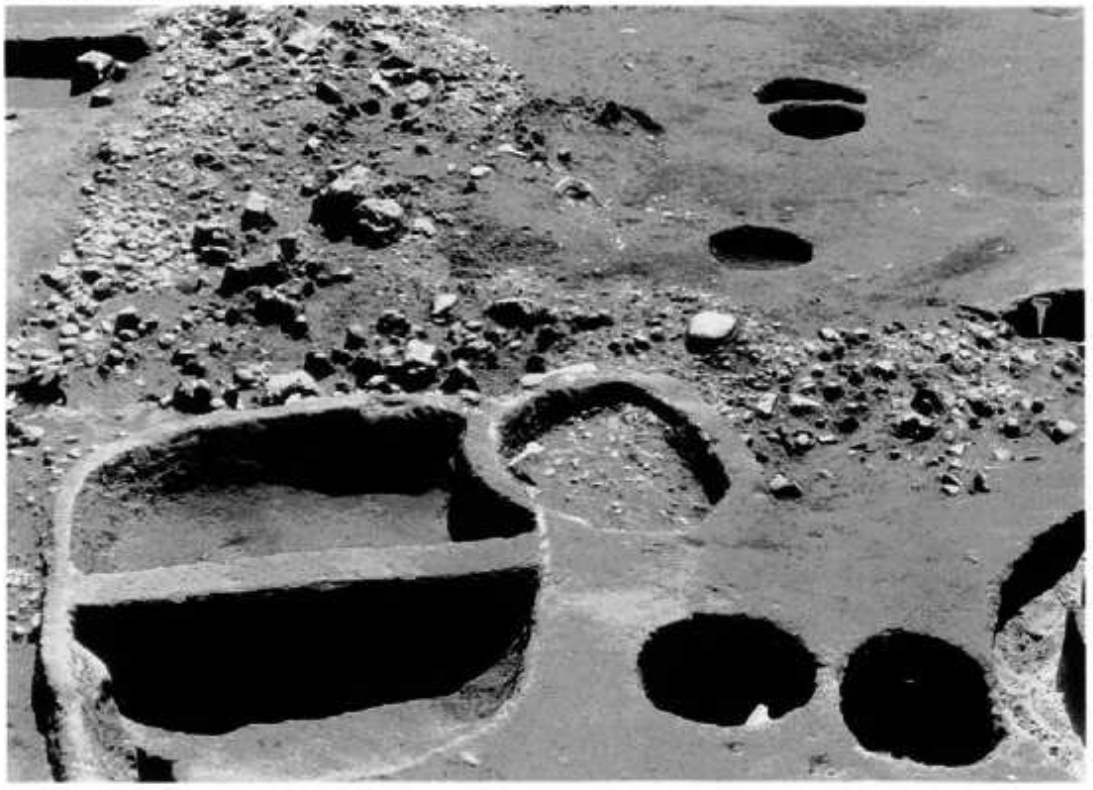


PL. 6

(1) SX34（北より）

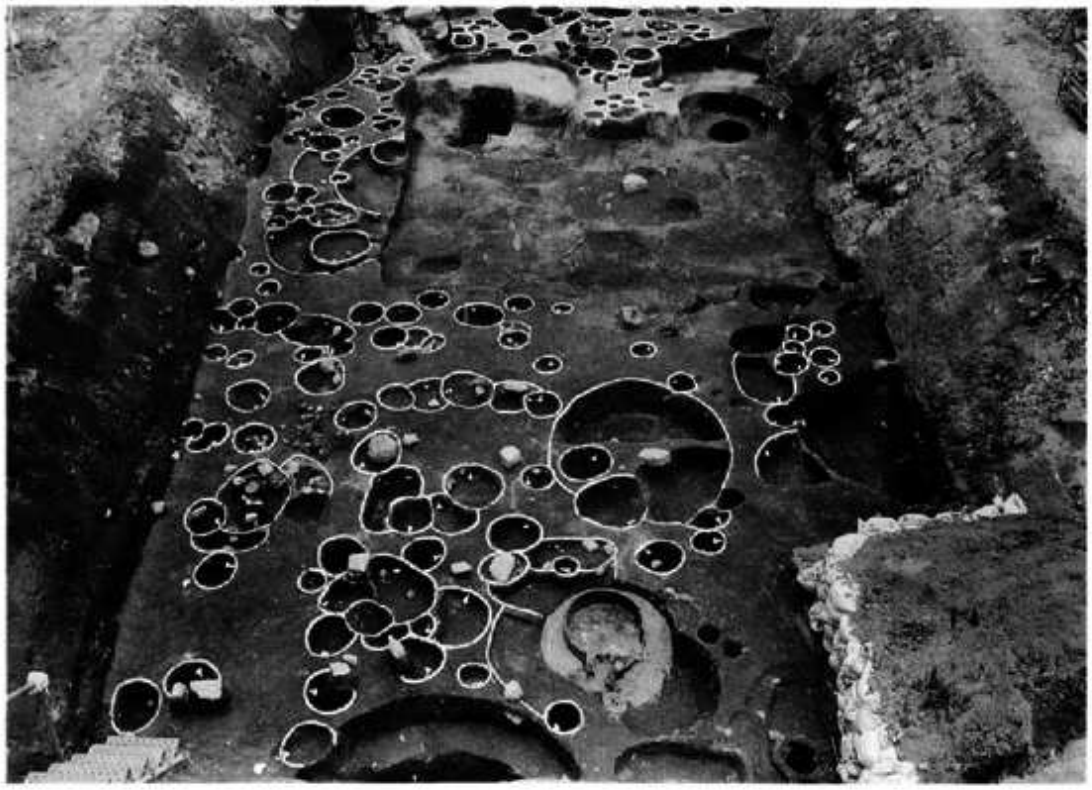


(2) SX34（西より）



(1) Ⅰ区Ⅱ面全景（南より）

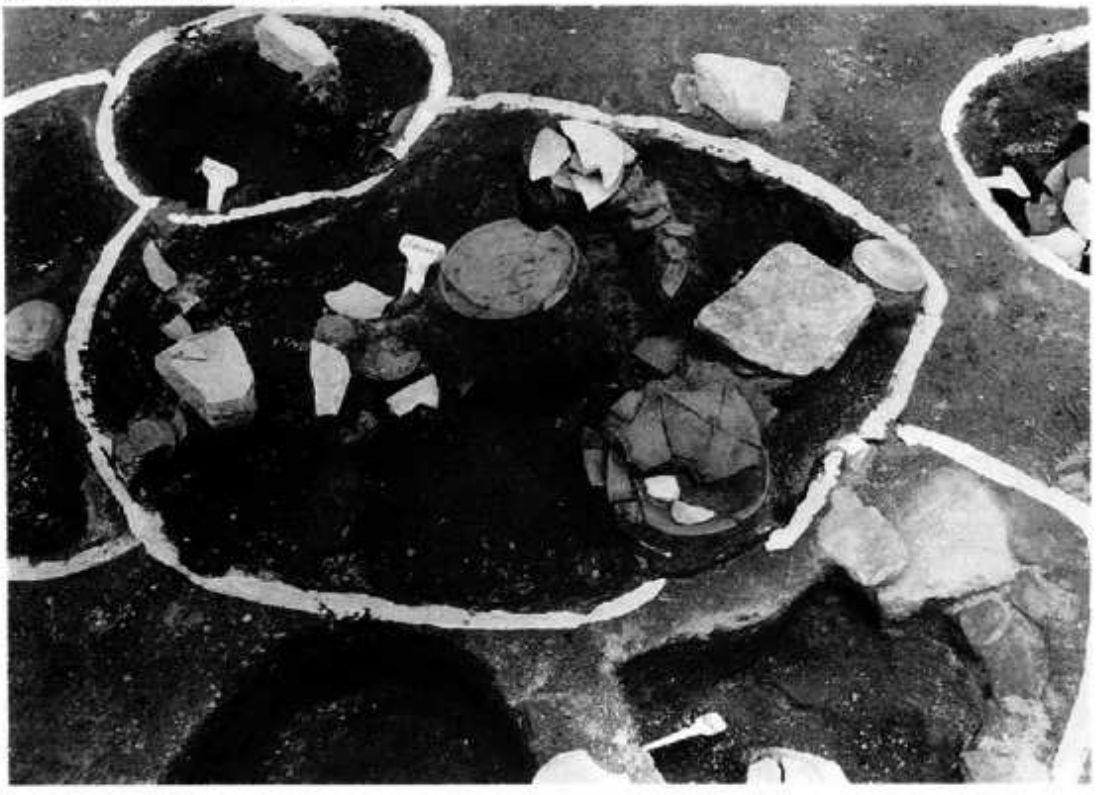
(2) Ⅱ区Ⅱ面全景（北より）



PL. 8

(1) 957号土壙 遺物出土状況

(2) 1005号土壙（西より）

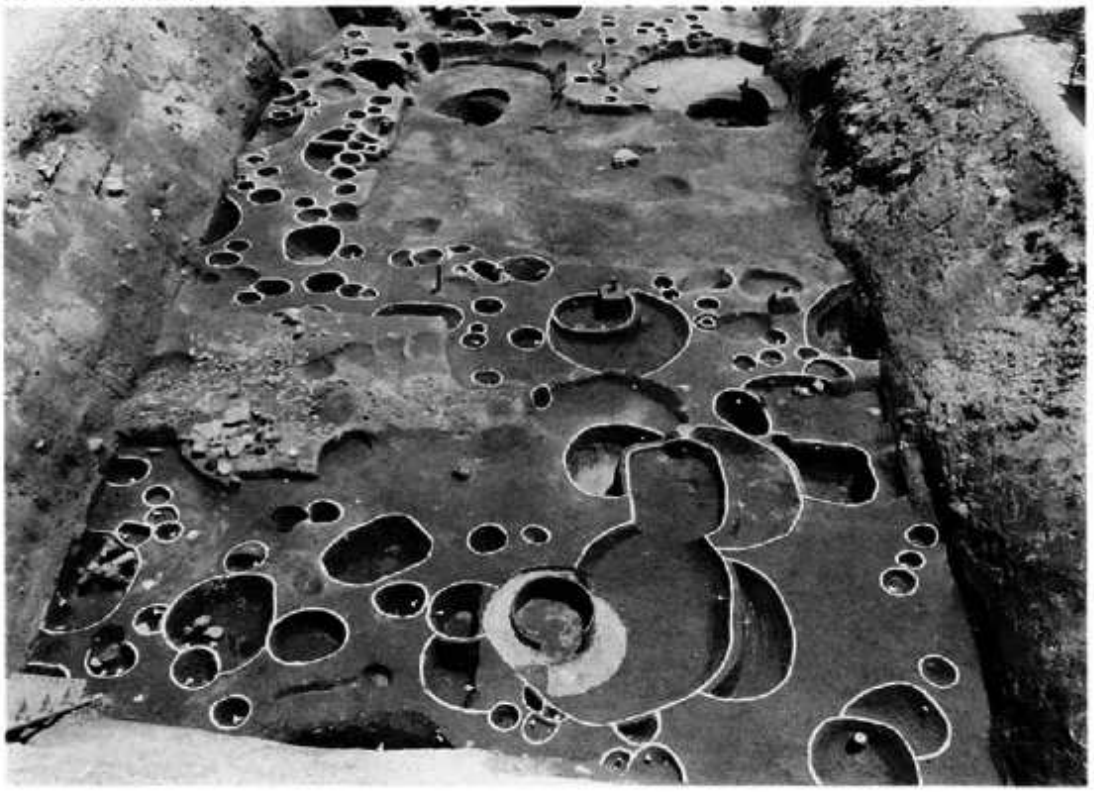


(1) 1020号土壙

(2) SX35

PL.10

(1) II区III面全景（北より）



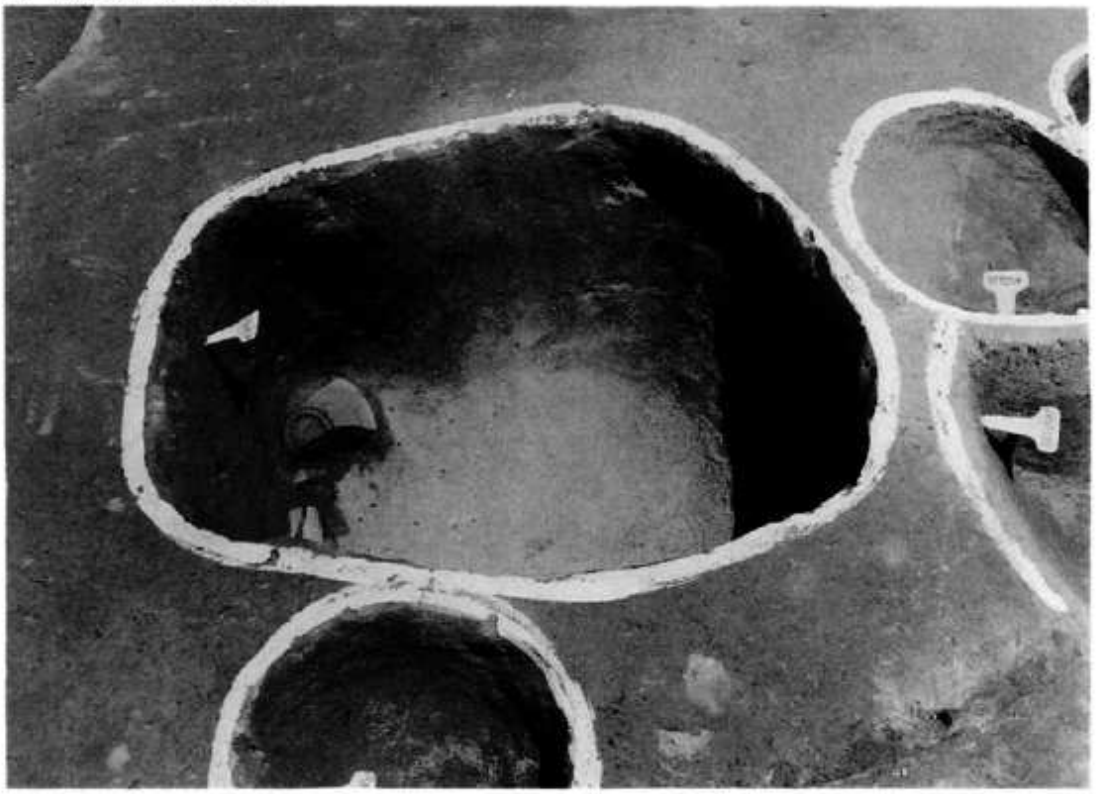
(2) 983号土壙

(1) 991号土壙

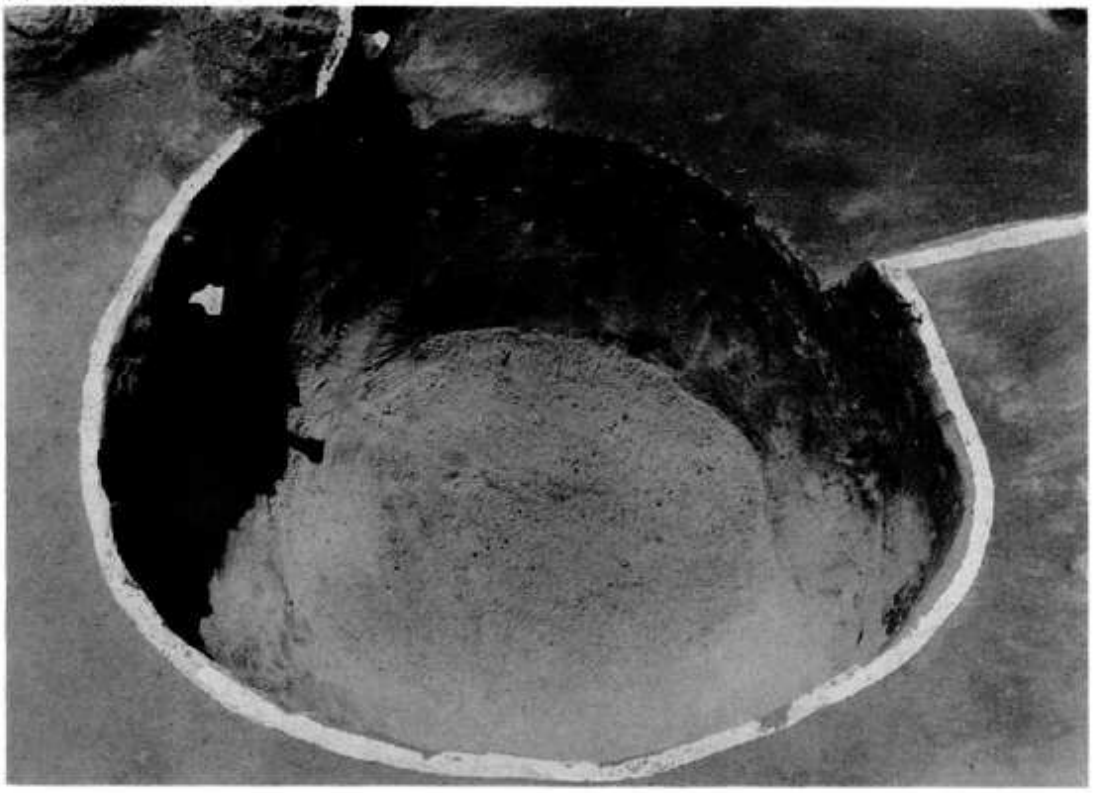
(2) 991号土壙 遺物出土状況（西北より）

PL.12

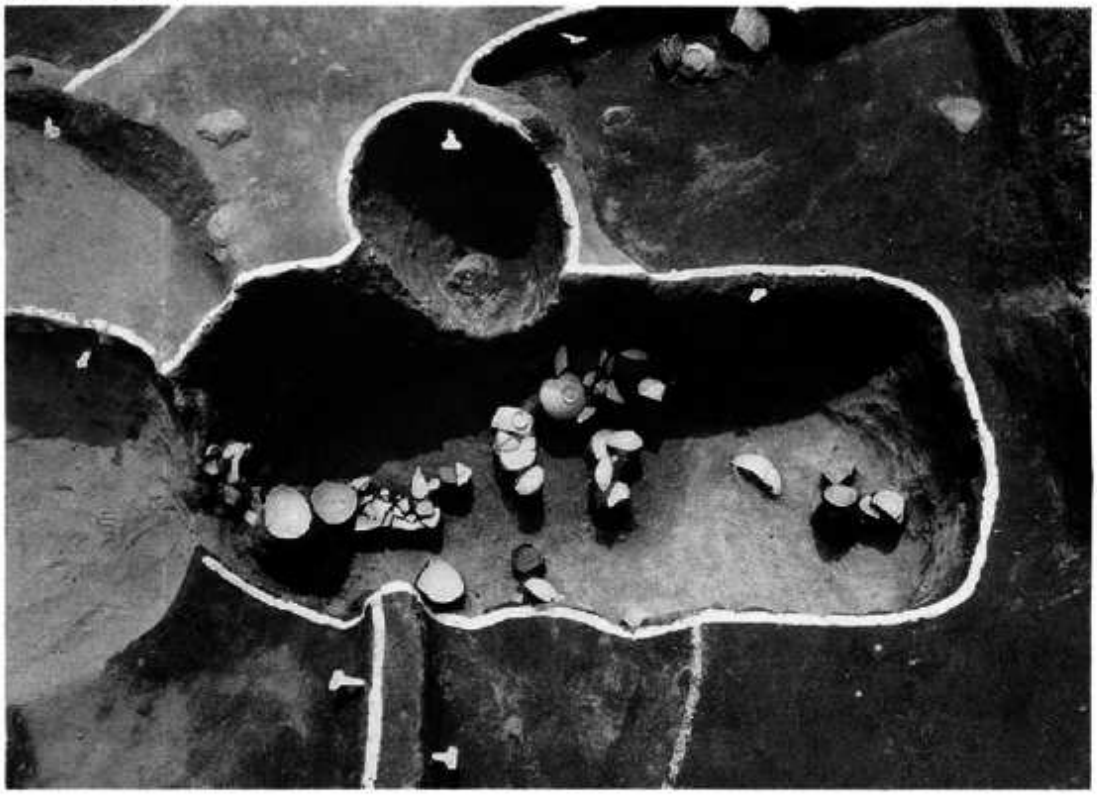
(1) 1034号土壙（東より）



(2) 1039号土壙（東より）



(1) 1051号土壙



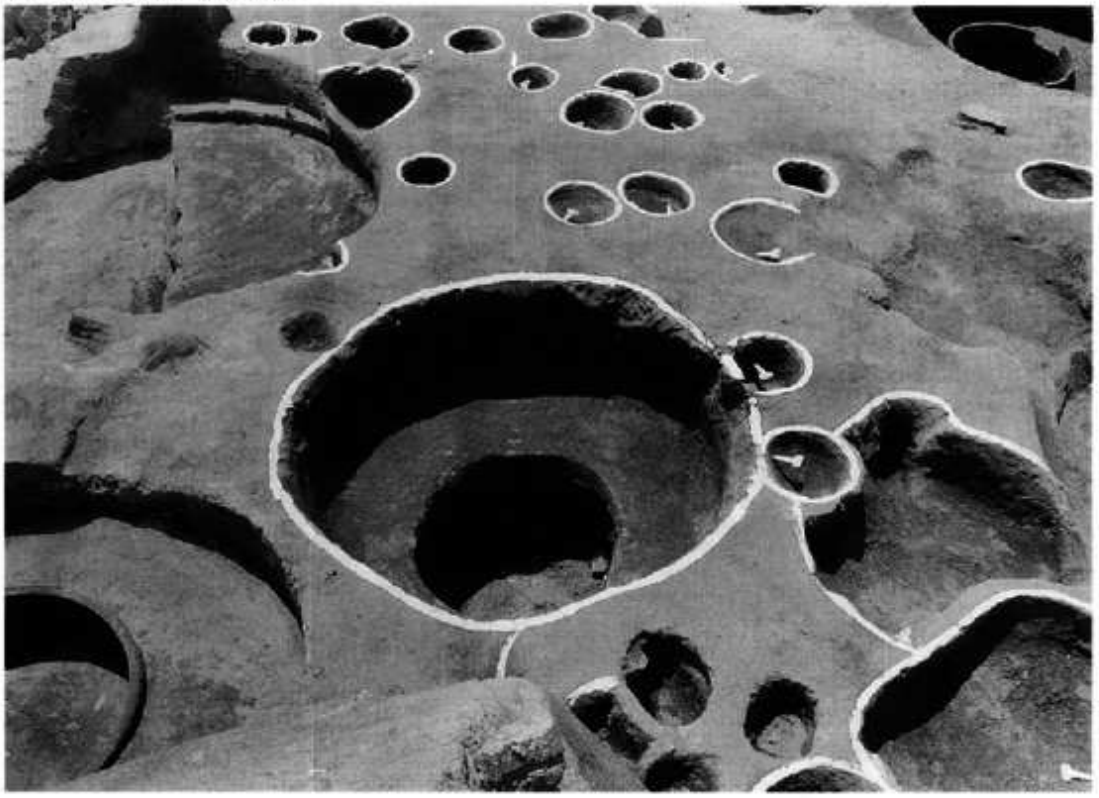
(2) 1051号土壙 遺物出土状況（南より）

PL.14

(1) 1055号土壙

(2) 1056号土壙

(1) 1048号土壙（東より）



(2) 1058号土壙（東より）

PL.16

(1) SX37（東より）

(2) SX37 瓦出土状況（西より）

(1) Ⅰ区Ⅳ面全景（南より）

(2) Ⅱ区Ⅳ面全景
（北より）

PL.18

(1) 1058号土壙（西より）

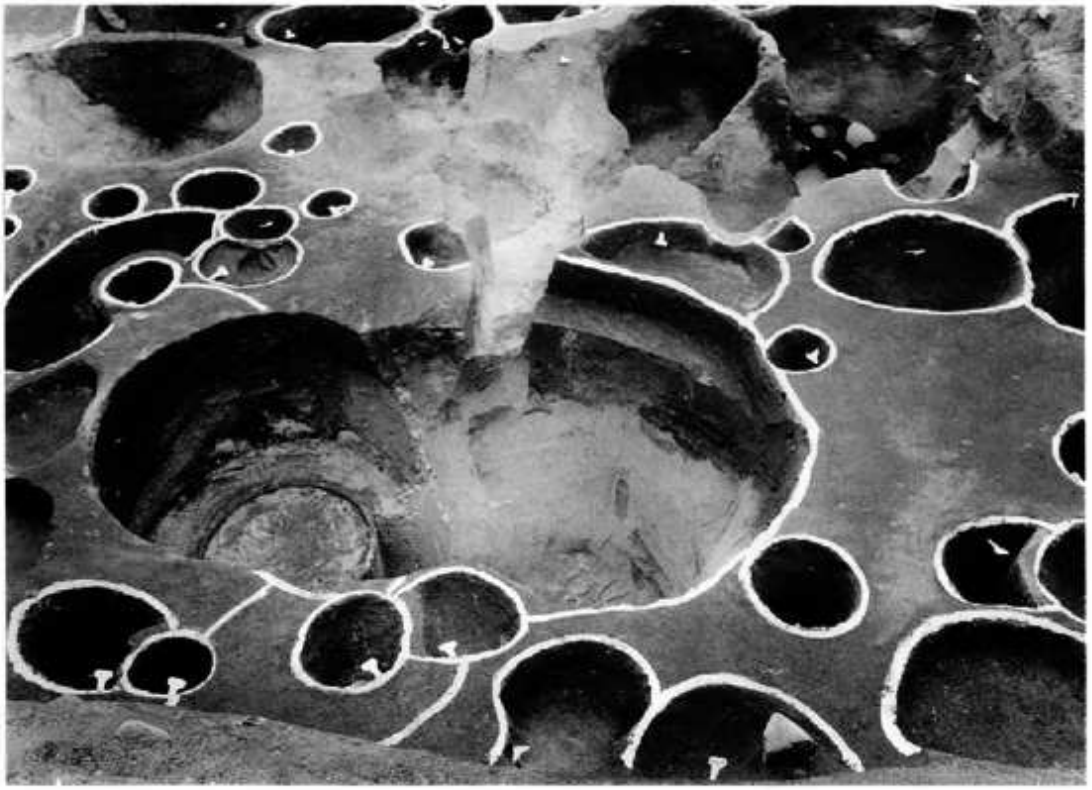
(2) 1059号土壙（西より）

(1) 1060号土壙

(2) 1066号土壙

PL.20

(1) 1068号土壙（北より）



(2) 1069号土壙 遺物出土状況（東より）

(1) 1069号土壙 遺物出土状況（東より）

(2) 1069号土壙土層（南東より）

PL.22

(1) II区Ⅳ面B全景（北より）

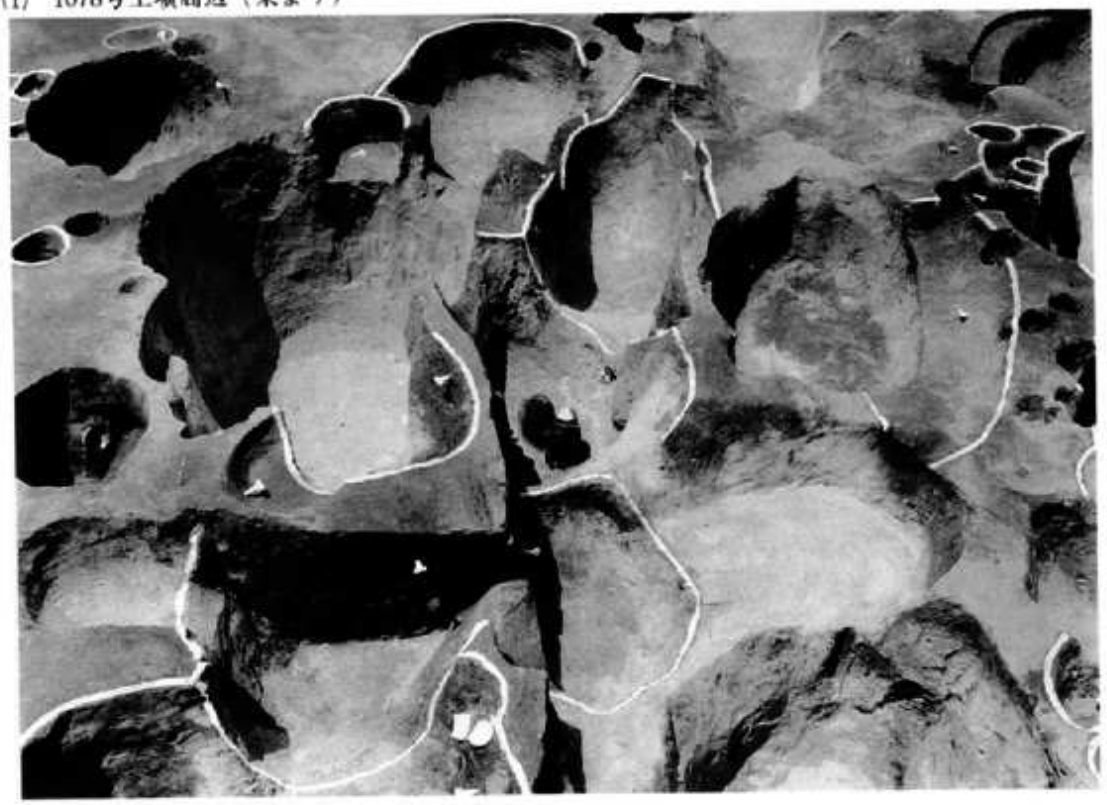
(2) 1017号土壙（北より）

(1) 1072号土壙（西より）

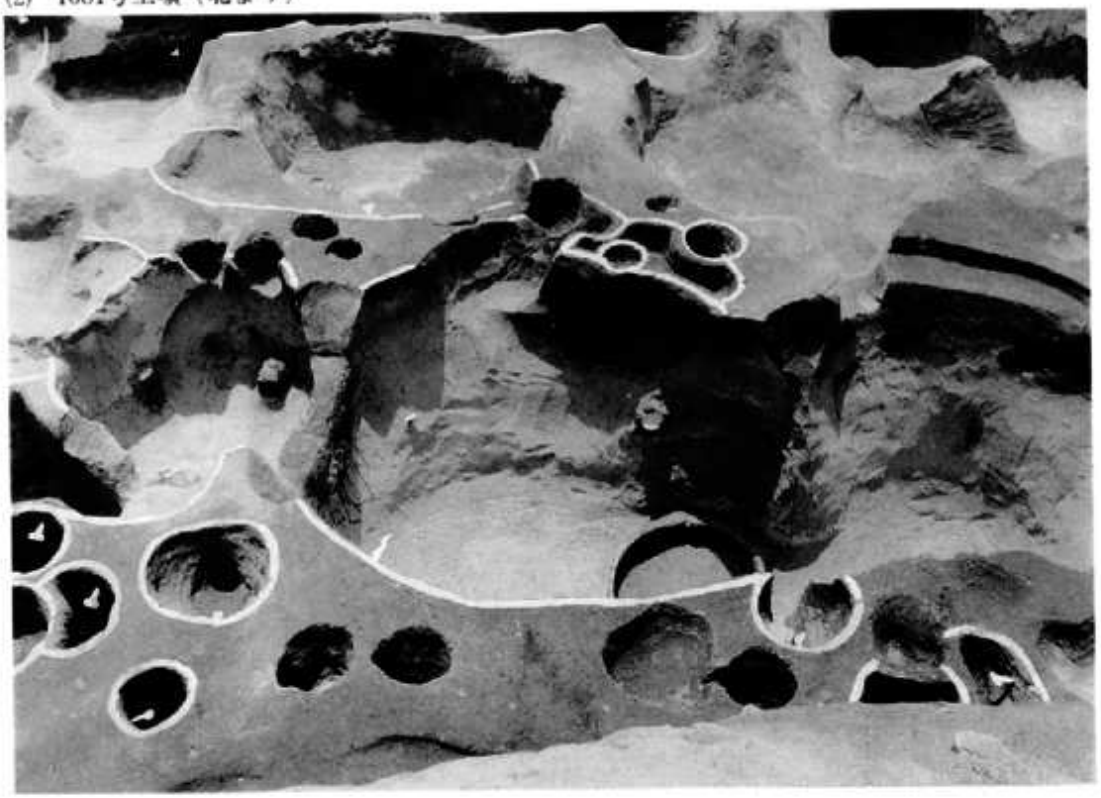
(2) 1072号土壙 遺物出土状況（東より）

PL.24

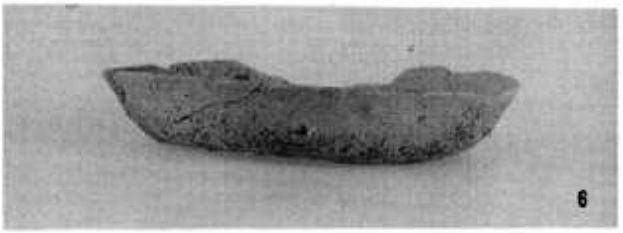
(1) 1078号土壙周辺（東より）

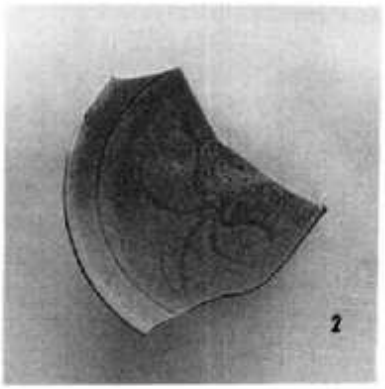


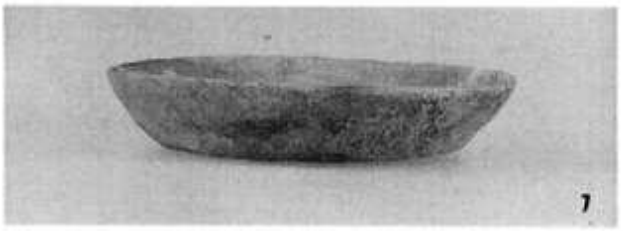
(2) 1081号土壙（北より）



1

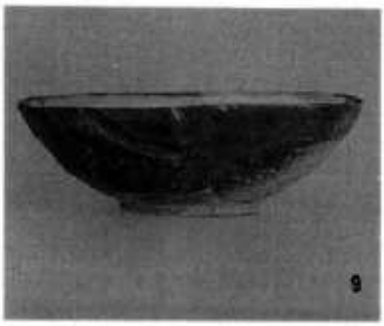

6

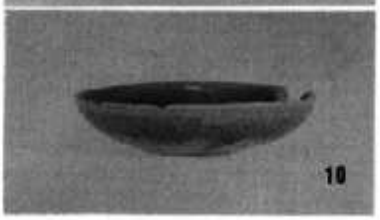

2


7

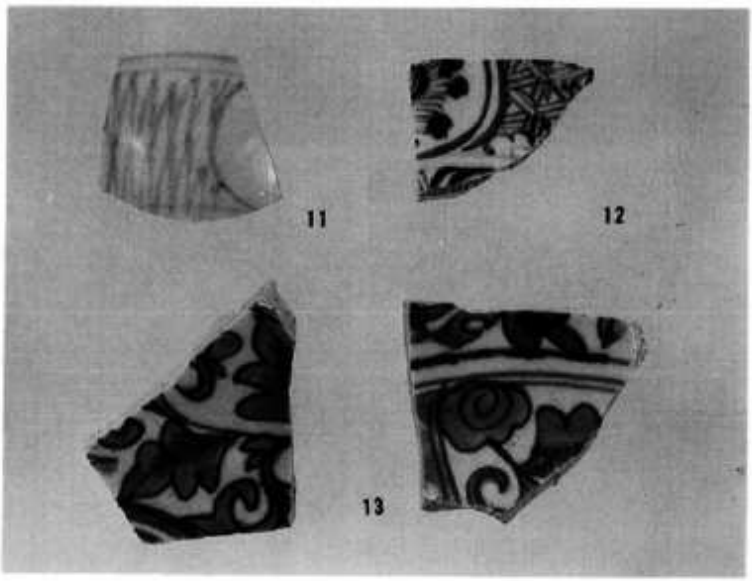
8

3


9

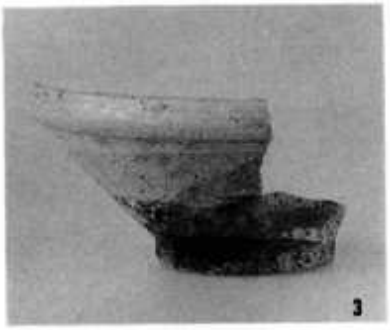

10

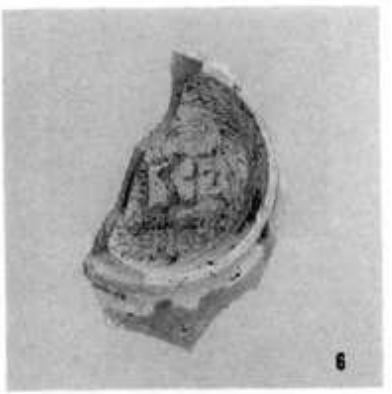
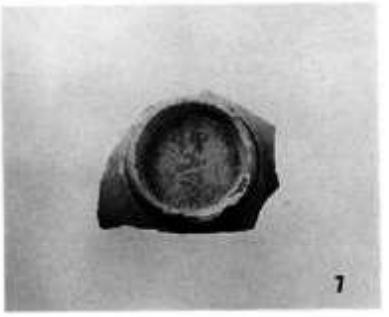
4


11
12
13

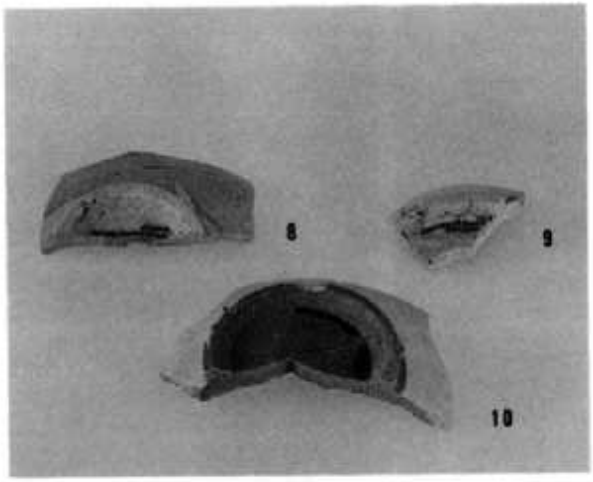
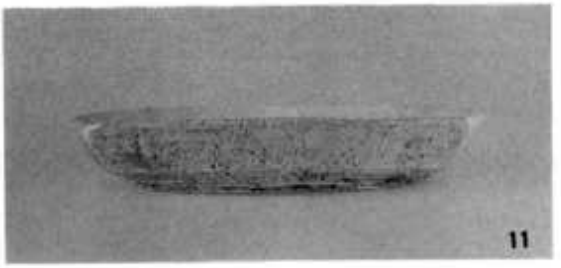
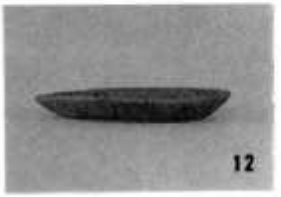
5

1…921号土壙　2…923号土壙　3・4・5…926号土壙　6・7・10…934号土壙
8…928号土壙　9…935号土壙　11～13…938号土壙

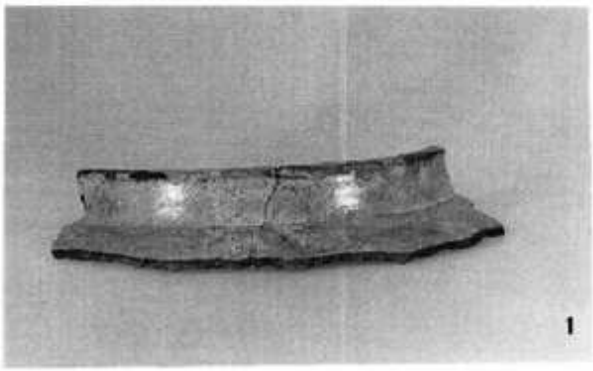


1 ～ 4 …943号土壙　5 …967号土壙　6・7 …977号土壙

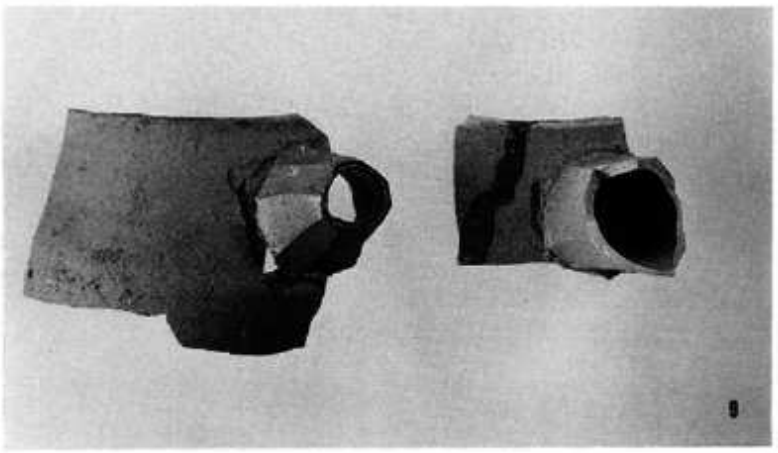
8 ～11…949号土壙　12～18…950号土壙

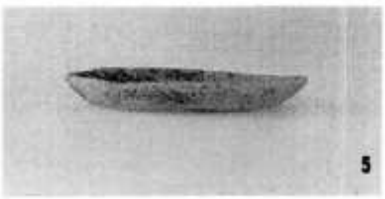

1

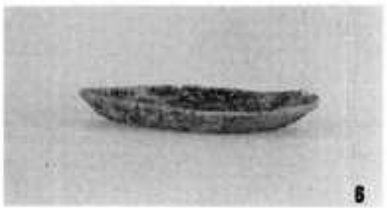
2

3

4

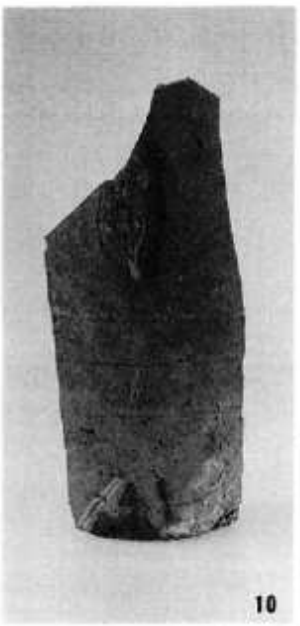

9


5

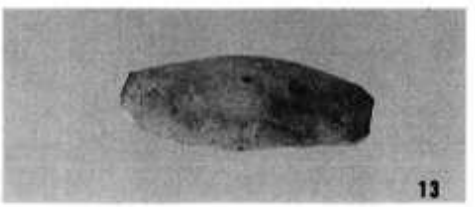

6

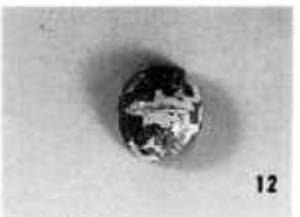
7

8


10

11


13


12

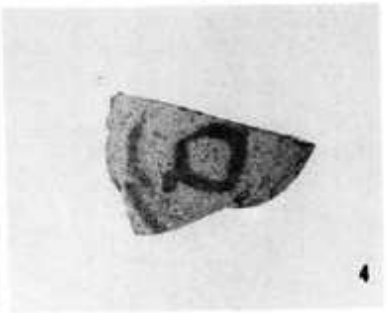
14

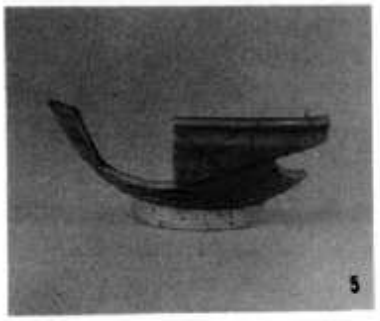
1・2…954号土壙　3・4…955号土壙　5～12…957号土壙　13…958号土壙
14…960号土壙

1

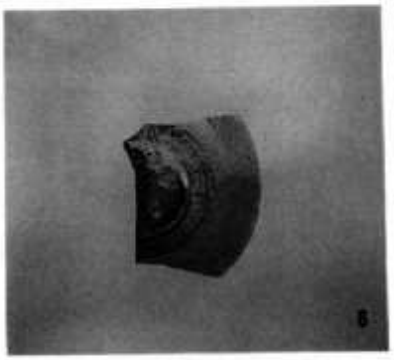
2

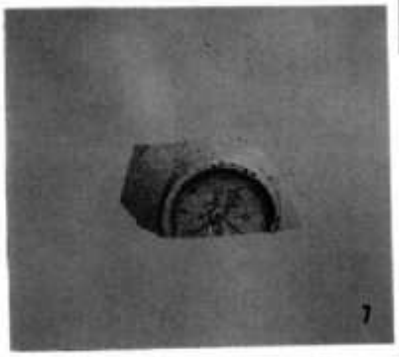
3


4


5

1 ～ 4 …1020号土壙　5 …1025号土壙


6


7

8

9

10

11

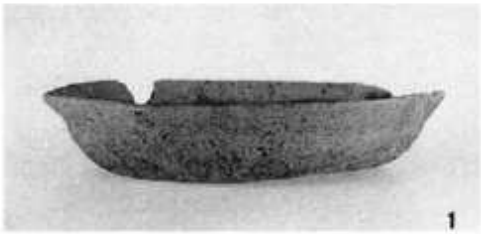
12

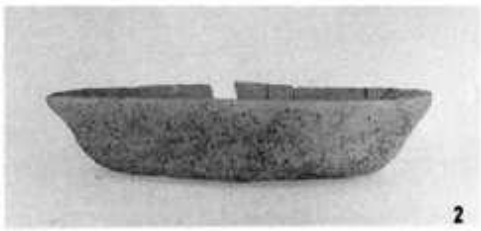
13

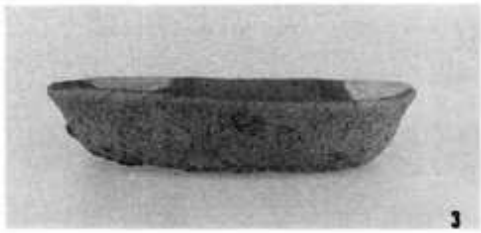
14

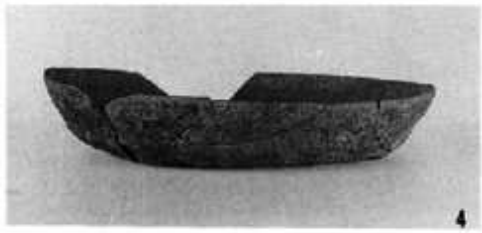
15

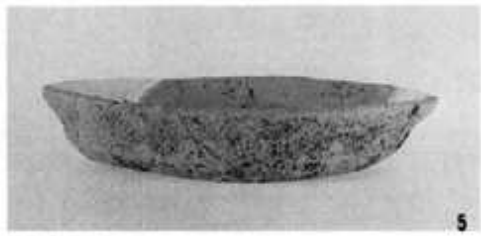
6・7 …978号土壙　8 ～15…983号土壙


1


2


3


4


5

6

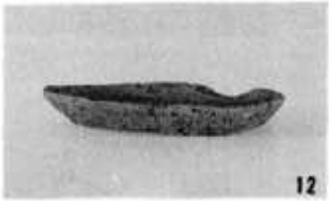
7

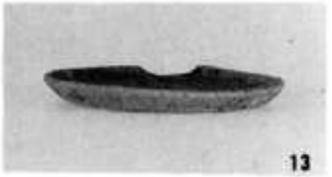
8

9

10

11

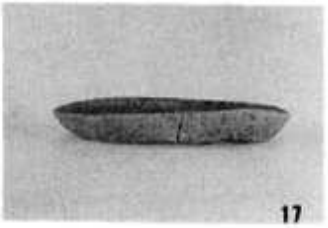

12


13

14

15

16


17

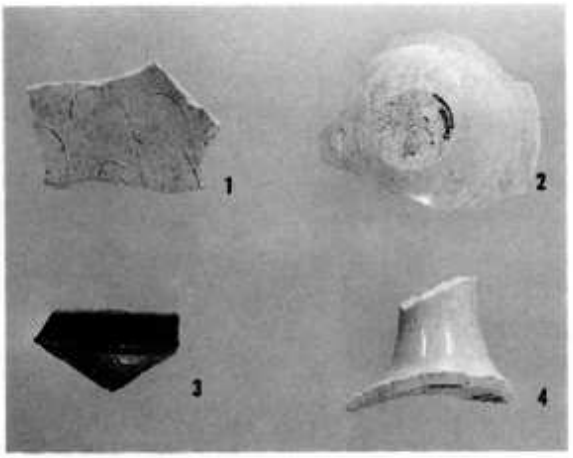
18

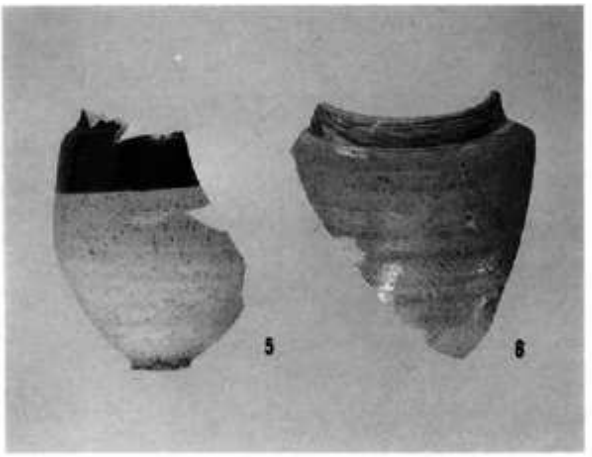
19

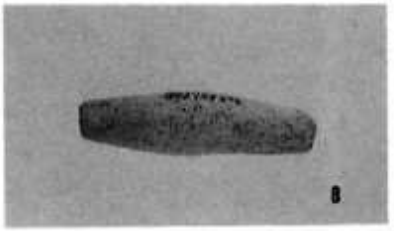
20

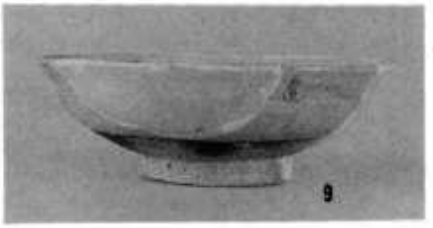
21

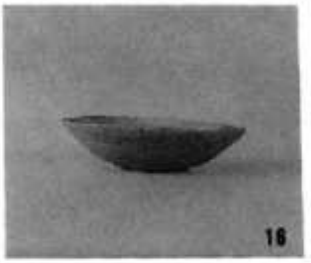
991号土壙

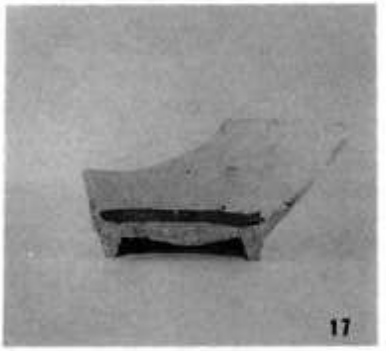


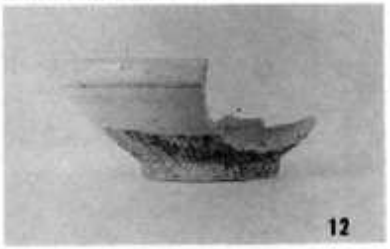


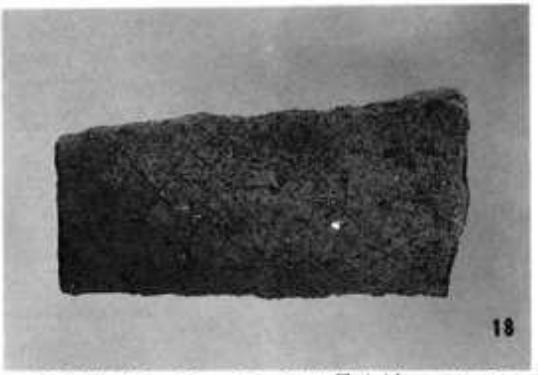












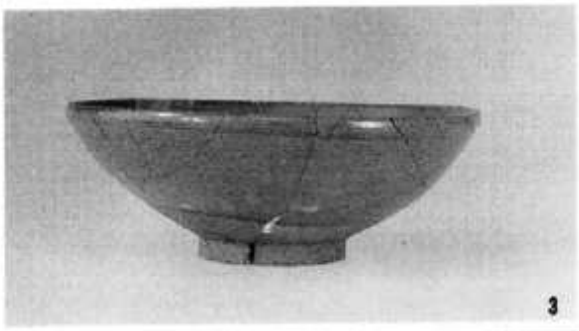
1 ～ 9…1028号土壙　10…1033号土壙　11～13…1034号土壙　14･15…1041号土壙
16…1045号土壙　17･18…1046号土壙　19…1047号土壙

1

6

2

7

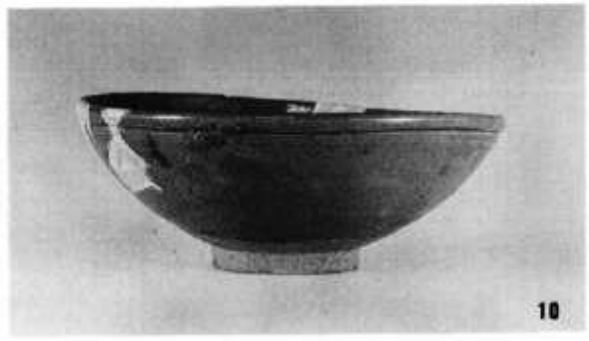

3

8

4

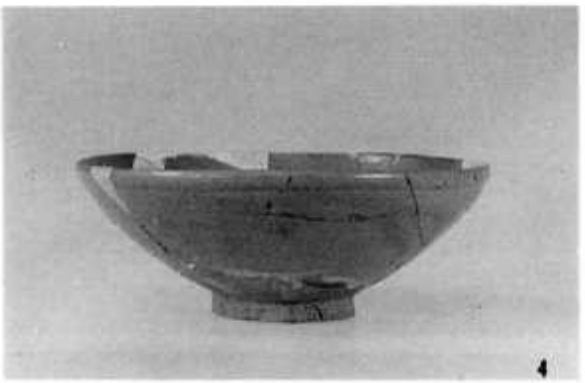
9

5


10

1051号土壙

1


4

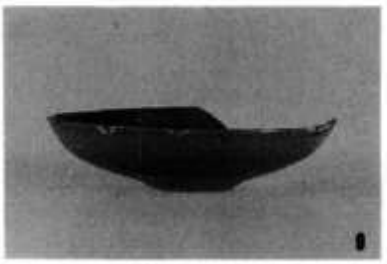
2

5

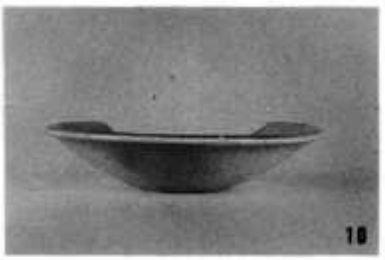
3

6

7


9

8

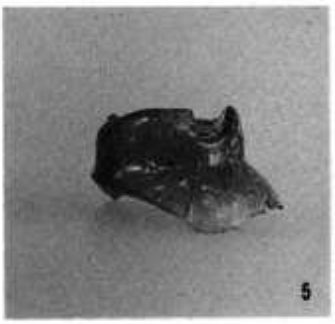

10

11

1051号土壙

1

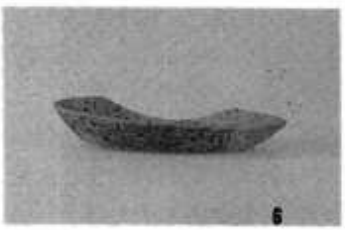
4

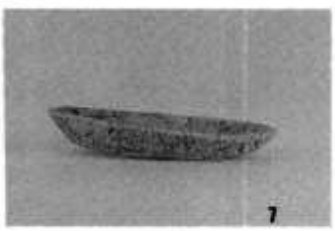

5

2

3

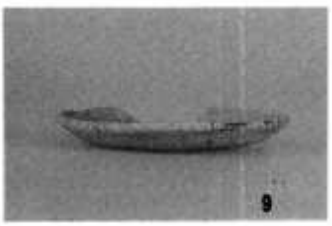
12


6

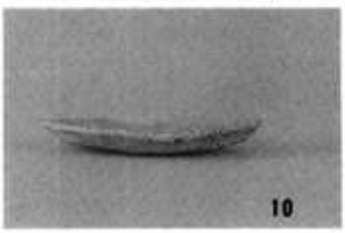

7

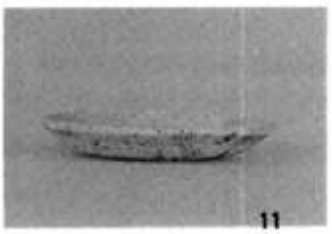
13

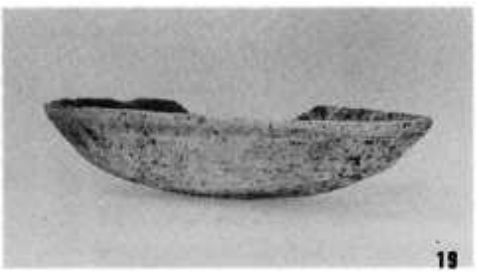
8


9

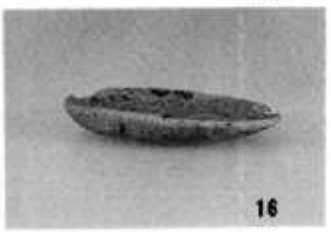
14

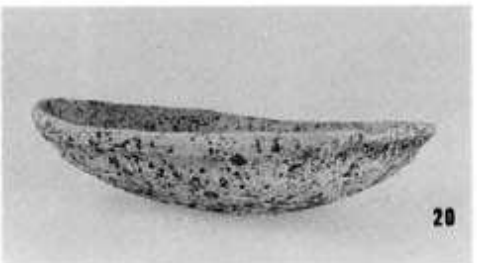

10

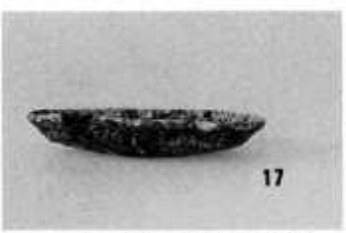

11

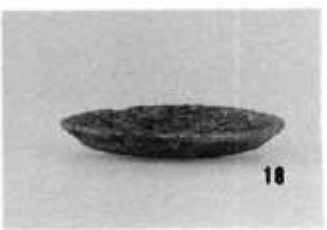

19

15

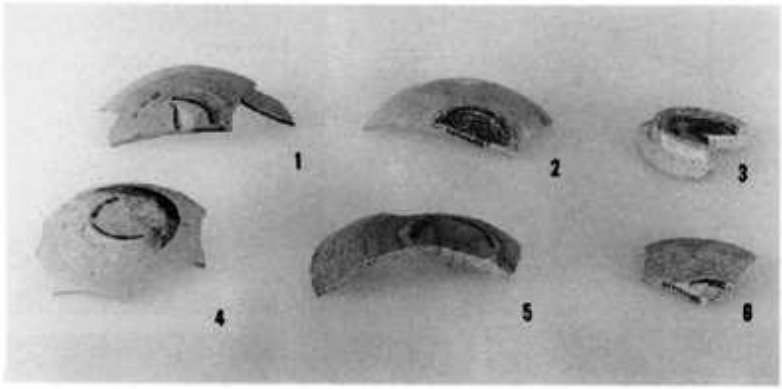

16

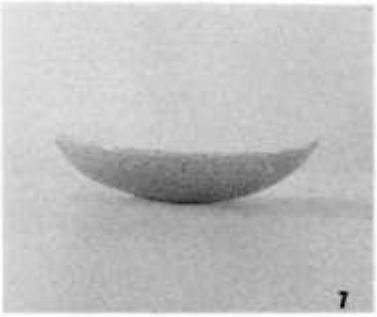

20

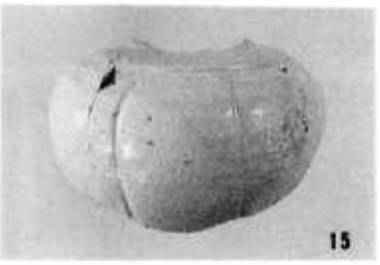

17

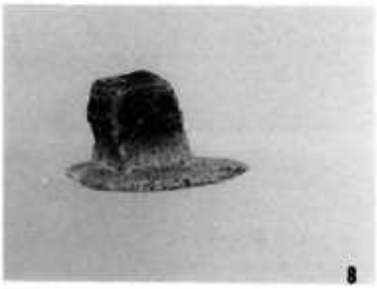

18

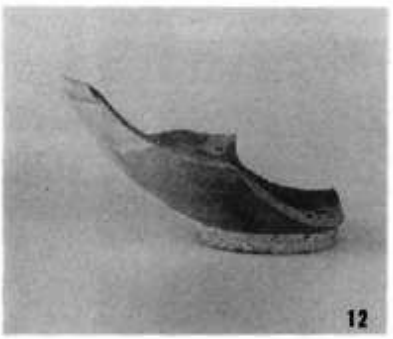
1～3…1017号土壙　4・5…1048号土壙　6～14…1058号土壙　15～20…1059号土壙

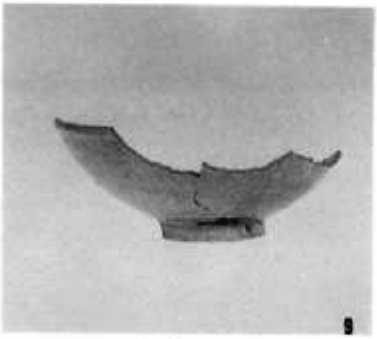


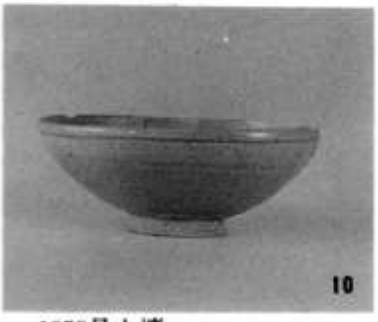




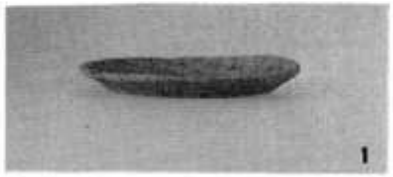


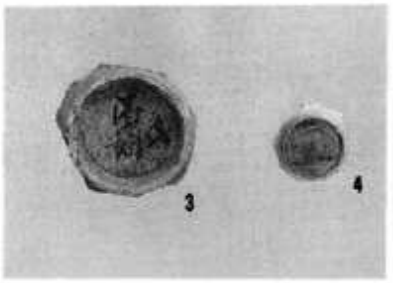


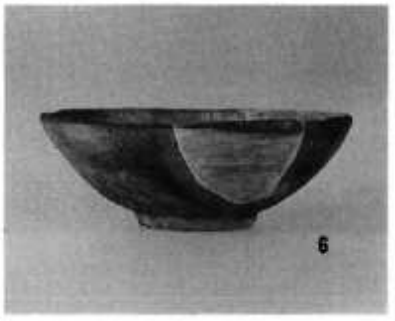


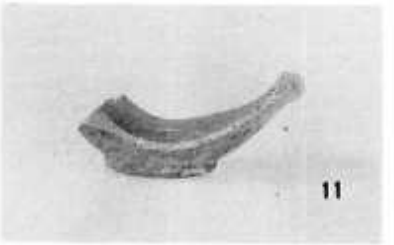


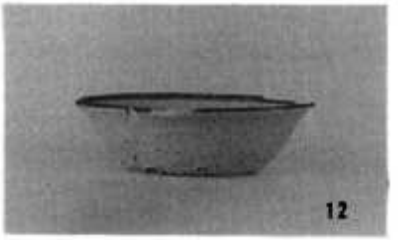
1059号土壙

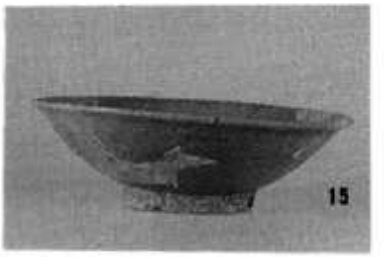


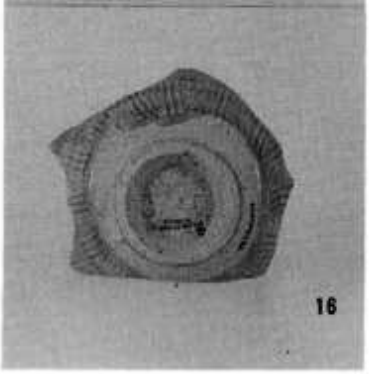


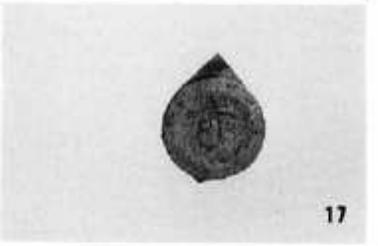












1 ～ 6…1060号土壙
15～18…1068号土壙

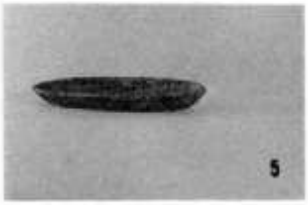
7 ～11・14…1066号土壙　12・13…1067号土壙

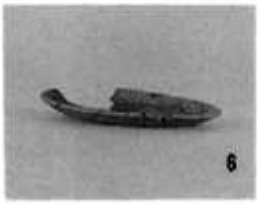
1

2

3

4

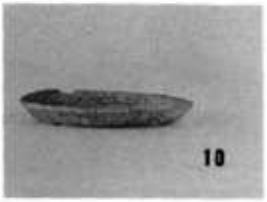

5


6

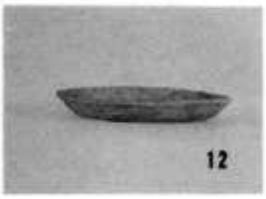
7

8

9


10

11

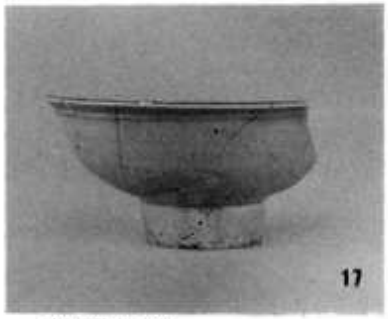

12

13

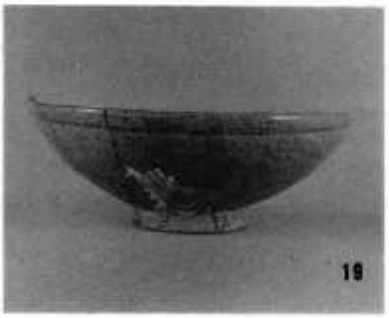
14

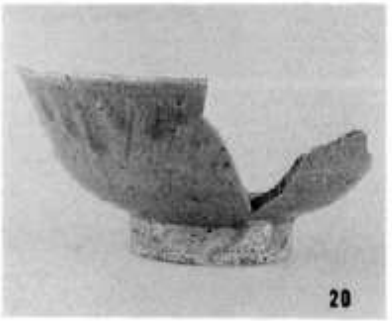
15

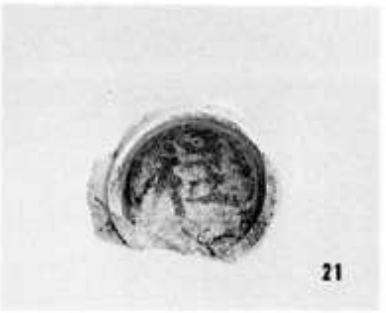
16


17

18

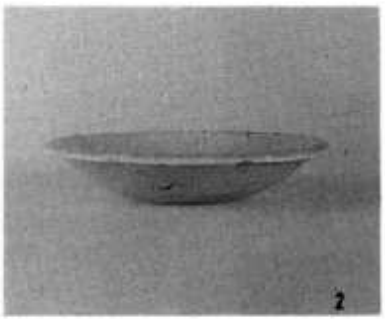

19

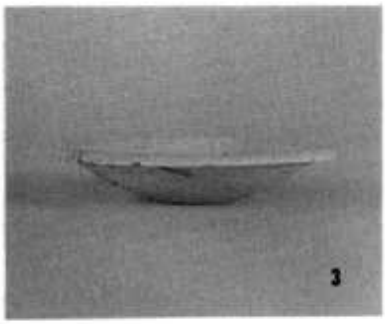

20

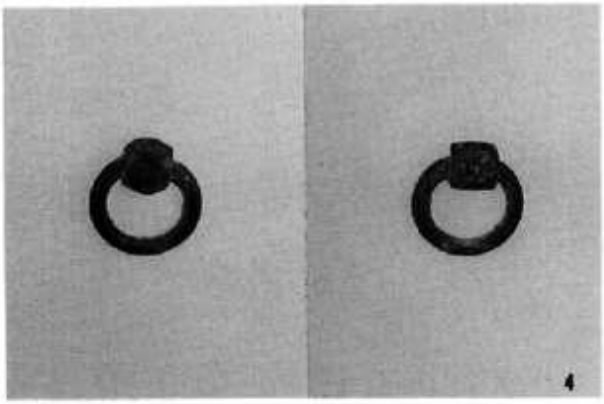

21

1069号土壙

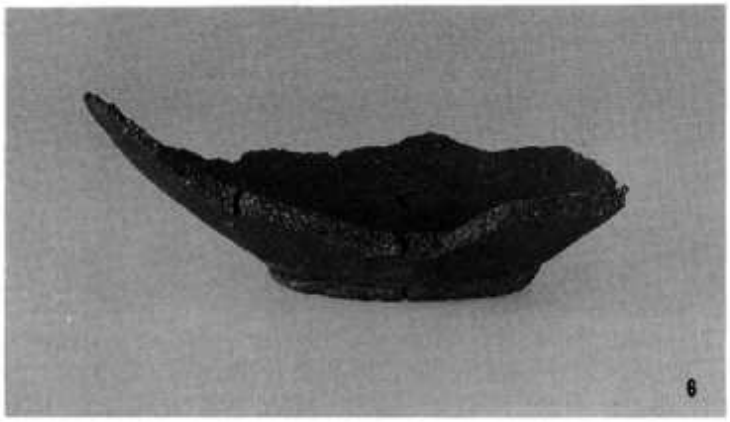
1

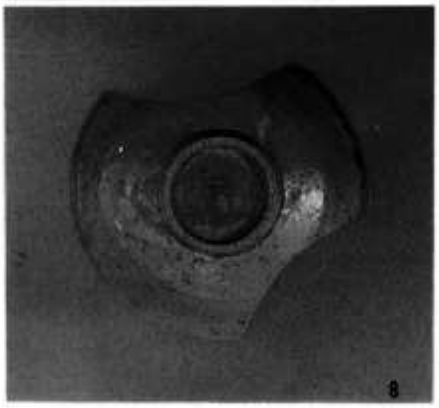

2


3


4

5


6


8

7

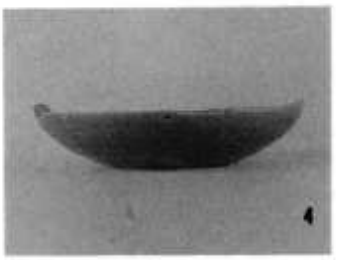
9

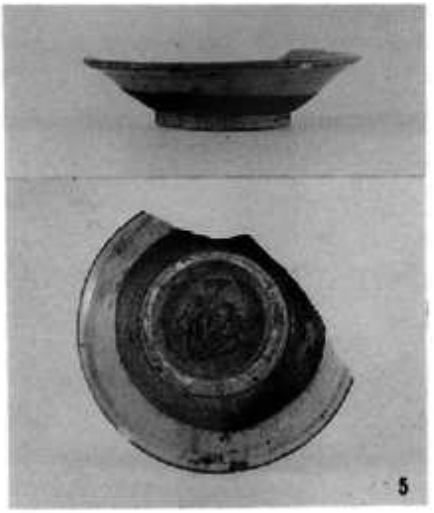
1 ～ 4 …1069号土壙　5・6 …1070号土壙
7 ～ 9 …1071号土壙

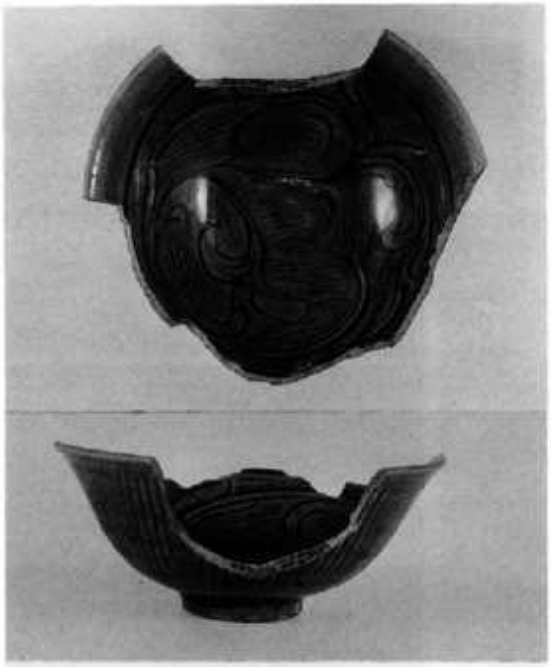
1

2

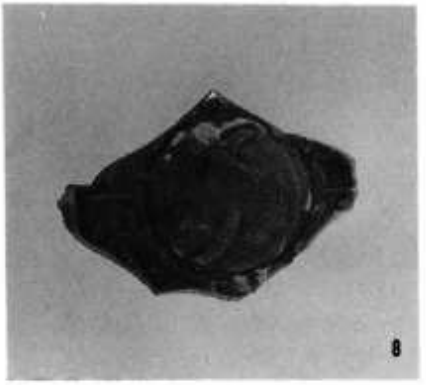
3


4


5


6

7

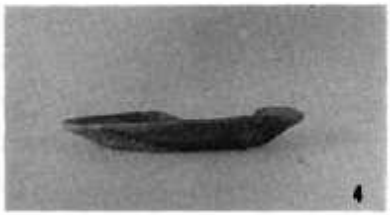

8

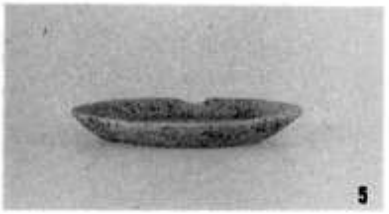
1072号土壙

1

2

3

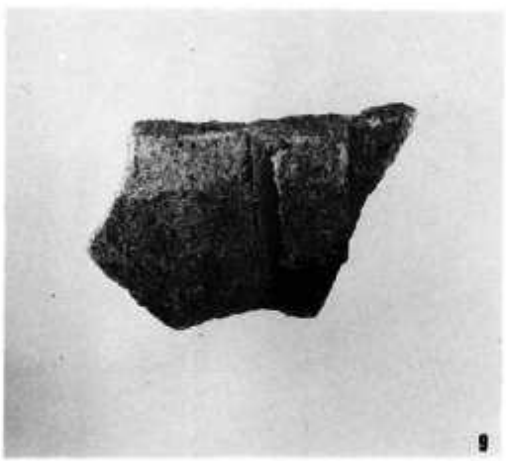

4

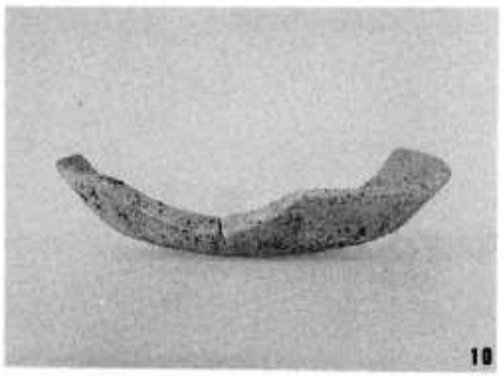

5

6

7

8

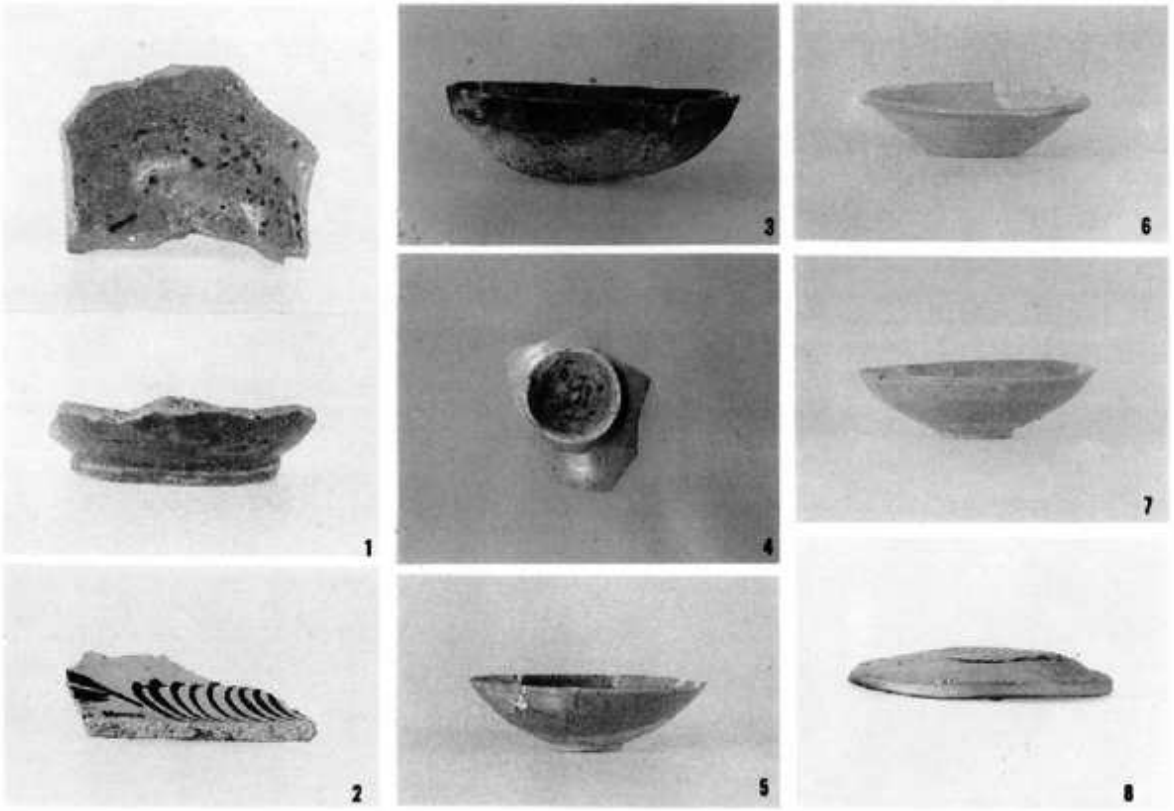

9


10

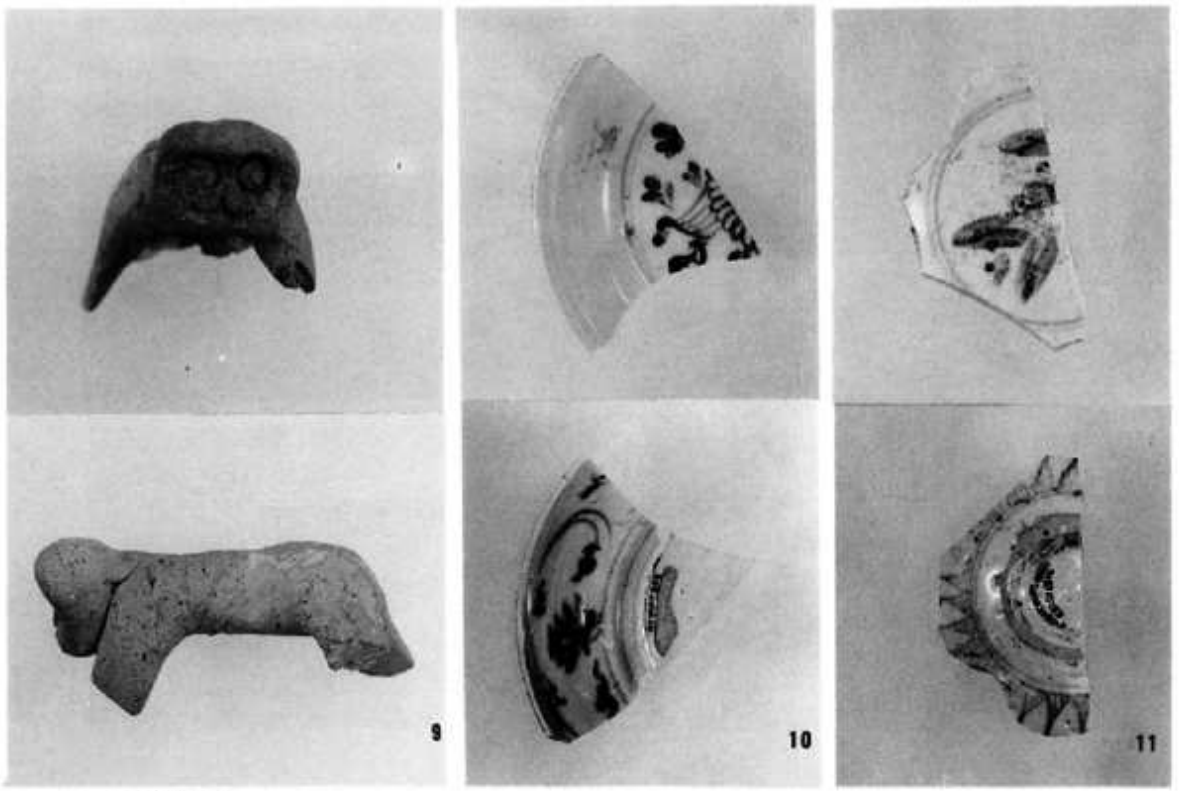
11

12

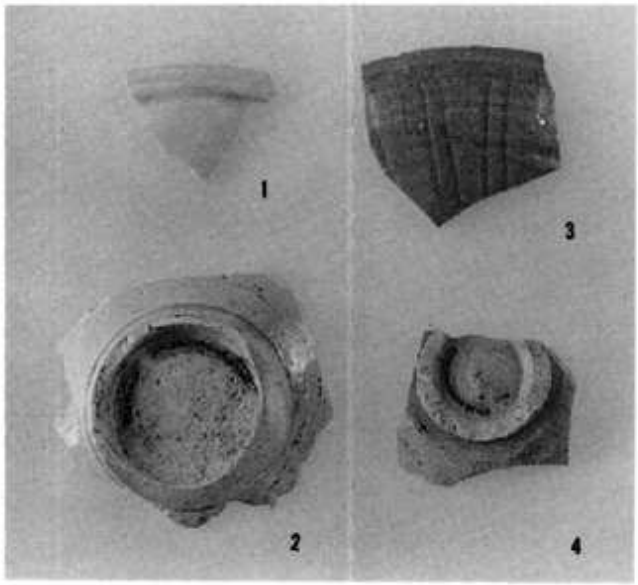
1～3…1076号土壙　4～6・10～12…1078号土壙　7～9…1077号土壙

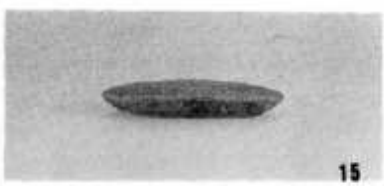


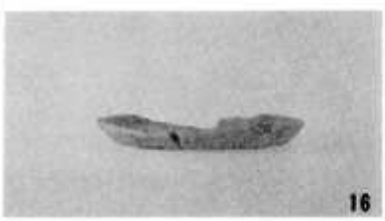
1・2…1078号土壙　3～5…1079号土壙　6・7…1081号土壙　　8…1087号土壙

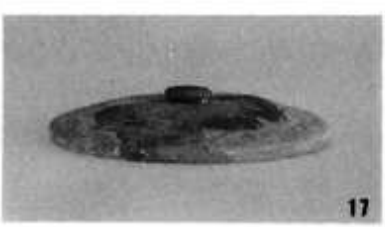


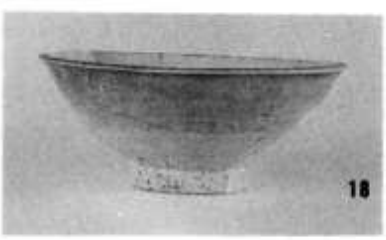
9～11…132号井戸











1～5…135号井戸

6～18…144号井戸

1

4

5

2

6

3

7

1～7…144号井戸

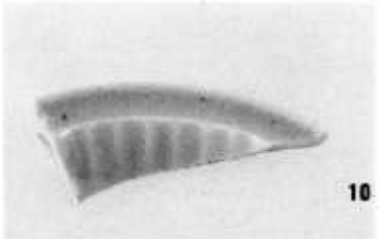
8

11

13

9

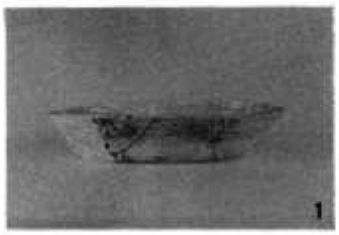
14

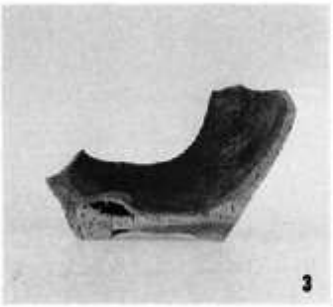

10

12

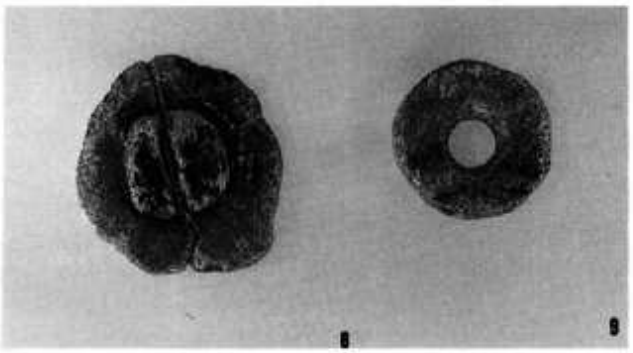
15

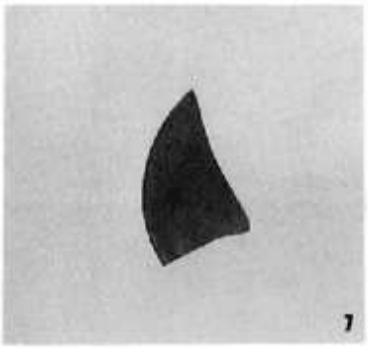
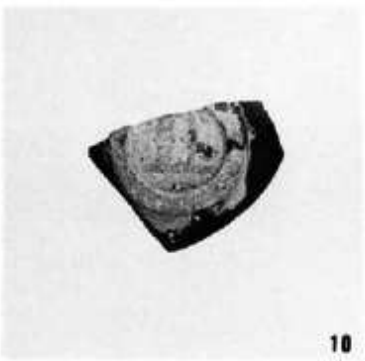
8…136号井戸　　9～15…137号井戸

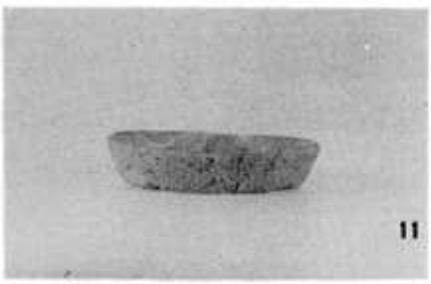
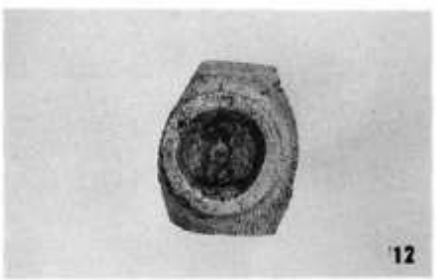




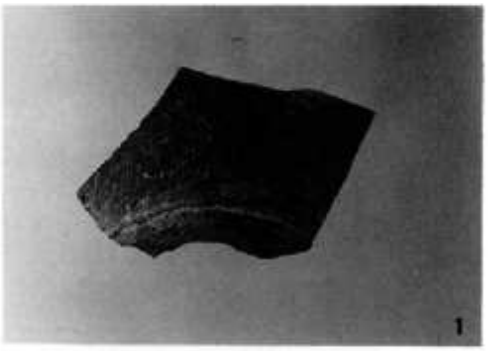
1 ～ 5 …138号井戸

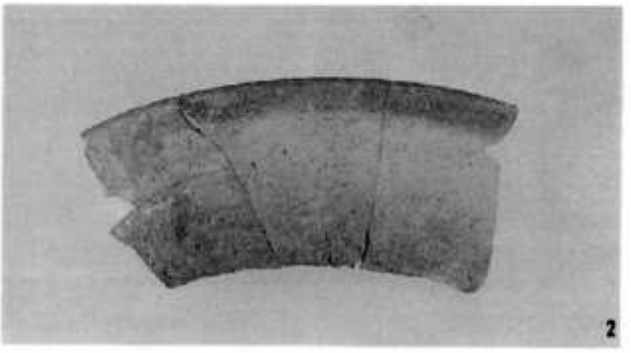


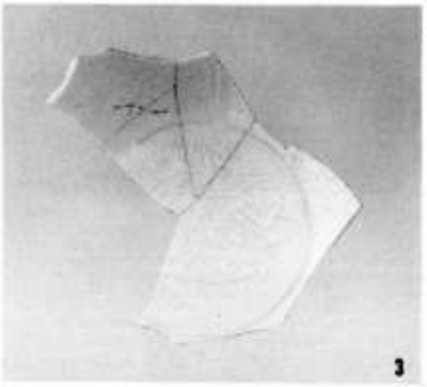



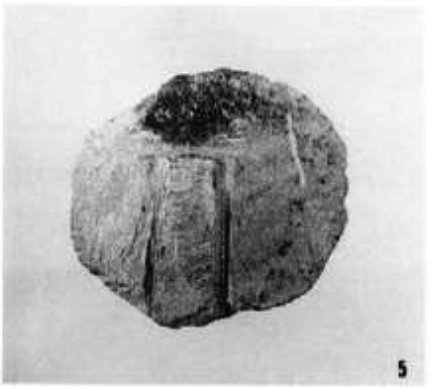
6・7 …147号井戸　8・9 …148号井戸　10…152号井戸　11・12…146号井戸

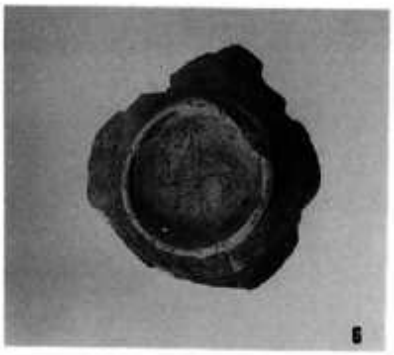

1


2


3

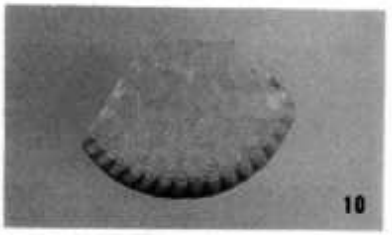
4

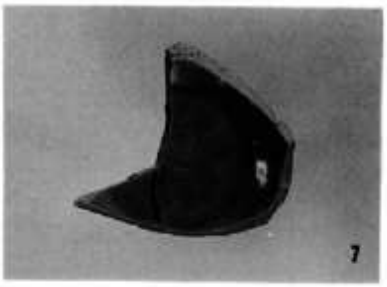

5

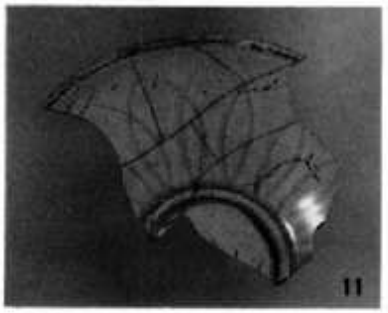

6

9

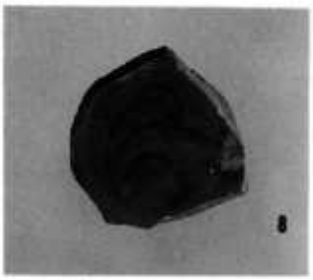
14

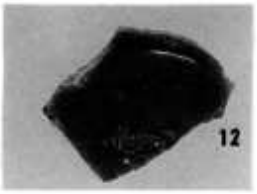

10


7


11

15

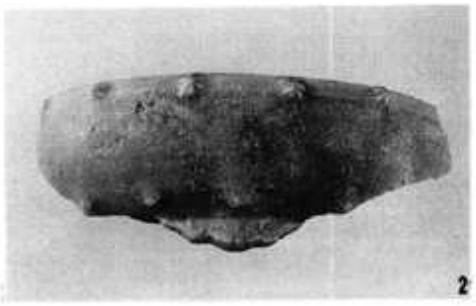

8


12

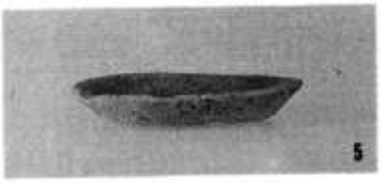
13

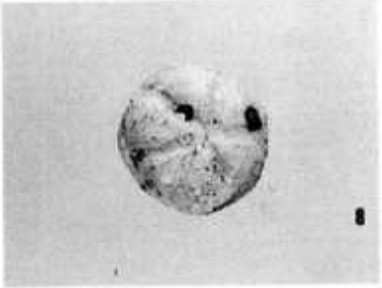
16

1 …SX30　　2 ～ 5 …SX32　　6 ～16…SX33

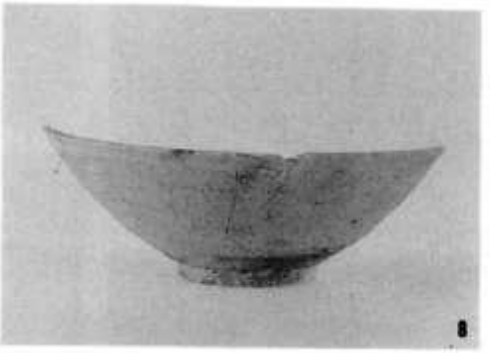


1 ～ 3 …SX34

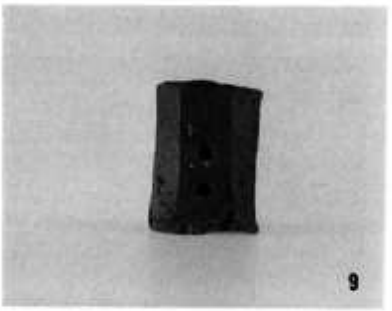


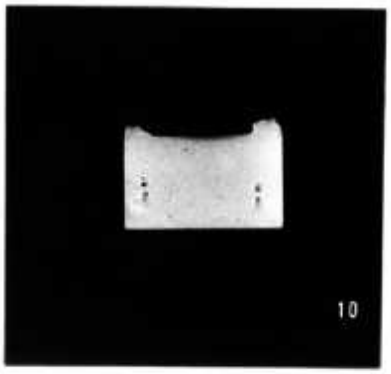


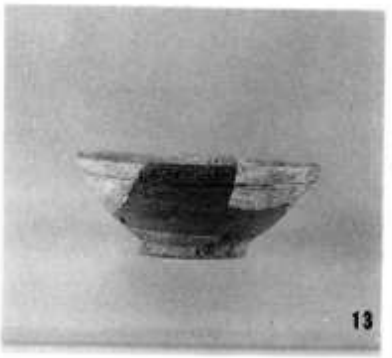
4 …SX36　　5 ～19…SX37

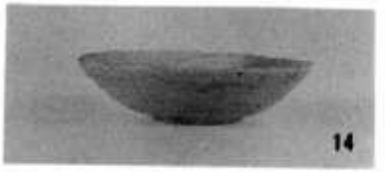


1 ～ 8 …17号溝

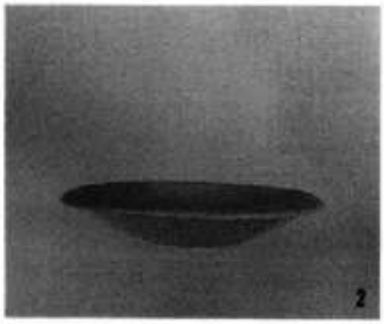


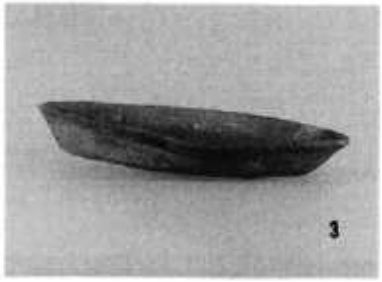


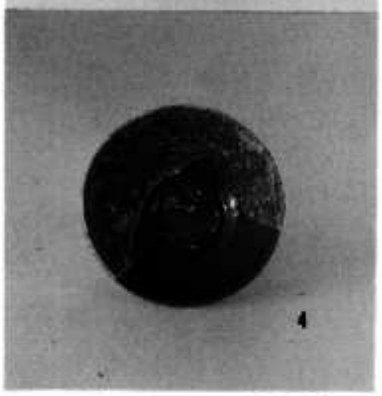


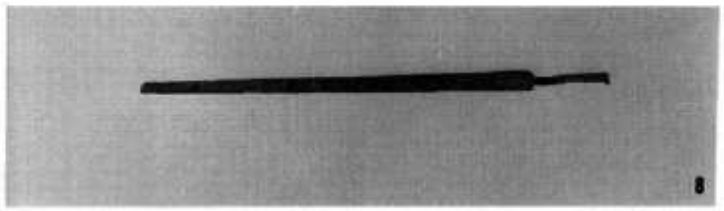


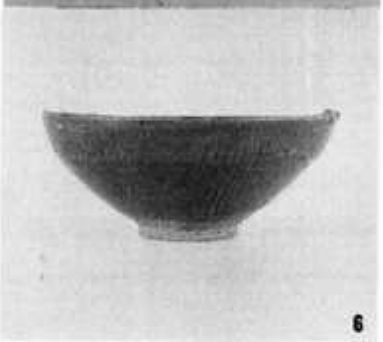
9・13…SP2842　10…SP2712　11…SP2813　12…SP2913　14…SP2857　15…SP2921

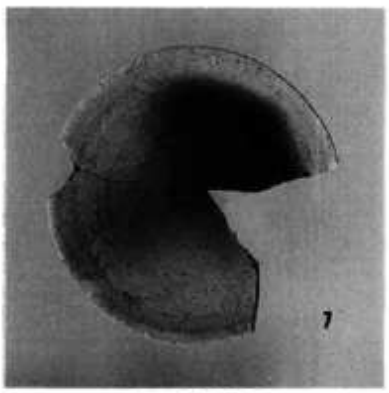


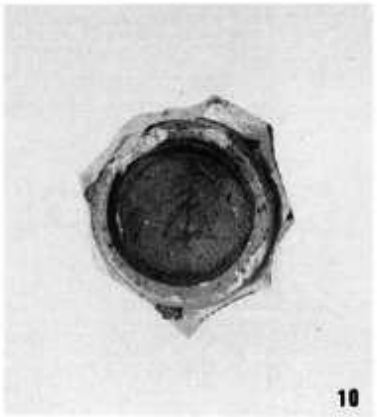


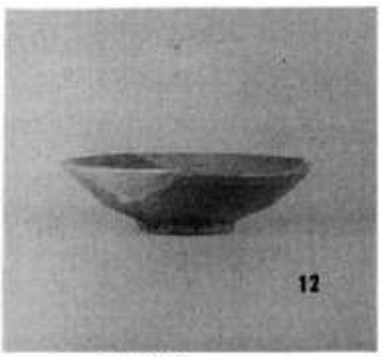




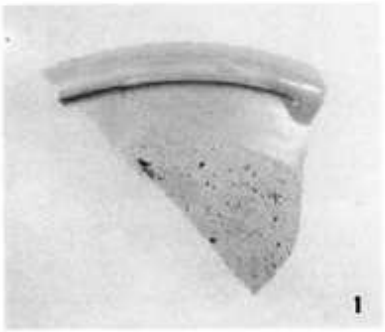








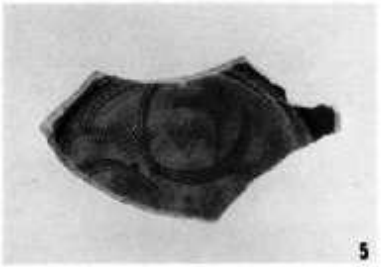
1…SP3097　2…SP3117　3…SP3248　4…SP3160　5…SP3257　6…SP3493
7…SP3518　8…SP3369　9…SP3274　10…SP3543　11…SP3414　12…SP3638


1

2

3

4


5

6

7

1 ～ 7 …932号土壙

8

9

8・9 …970号土壙

10

10…956号土壙

11

11…1003号土壙

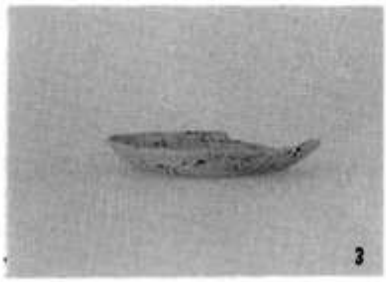
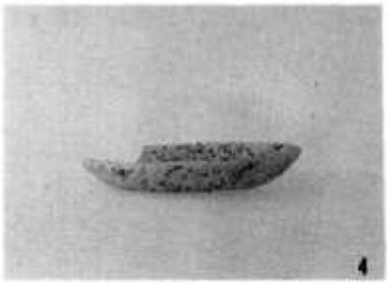
12

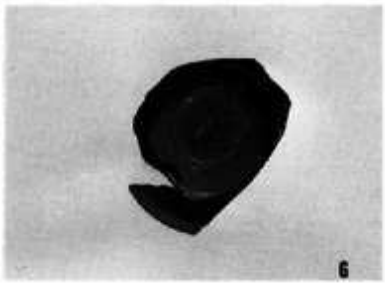
13

12・13…1018号土壙

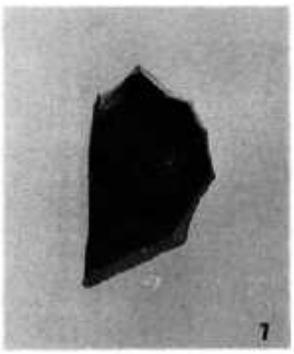
14

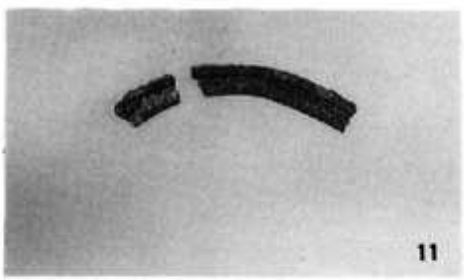
14…1019号土壙

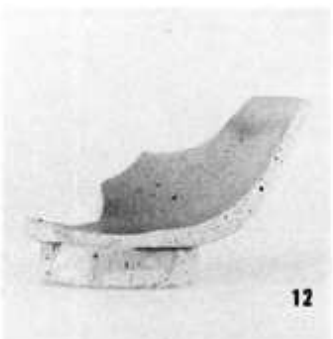
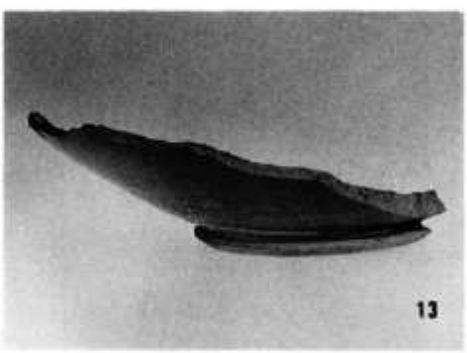


1…984号土壙　2…1036号土壙　3～5…1042号土壙　6…1043号土壙

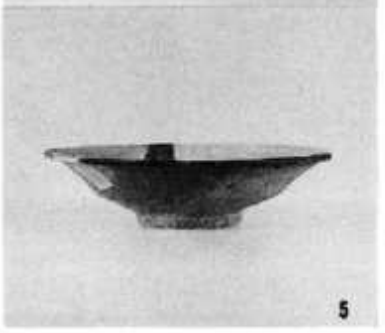




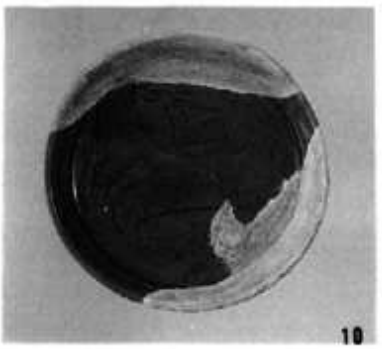
7…1015号土壙　8…1061号土壙　9・10…1075号土壙　11…1080号土壙

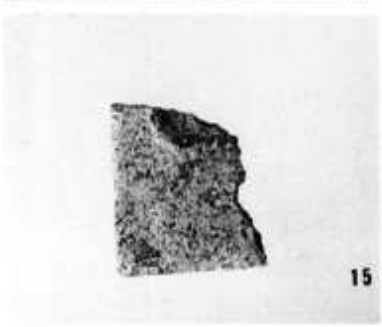



12・13…1090号土壙　14…1106号土壙

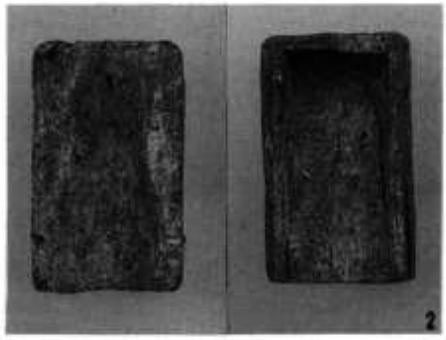


1～5…表土

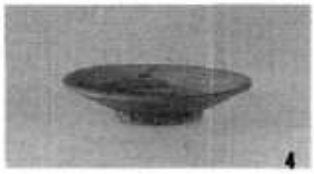


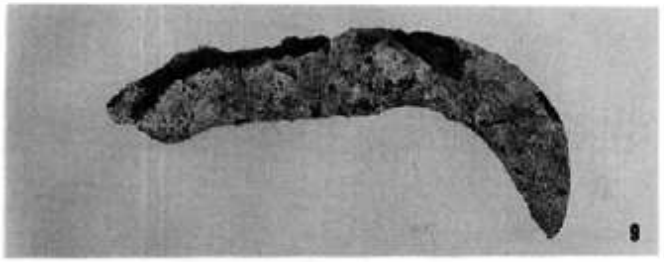


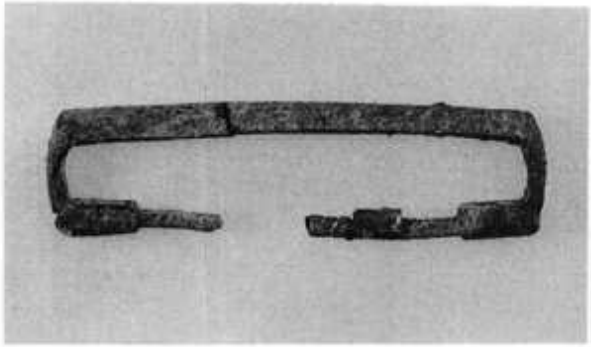
6～15…I 面包含層

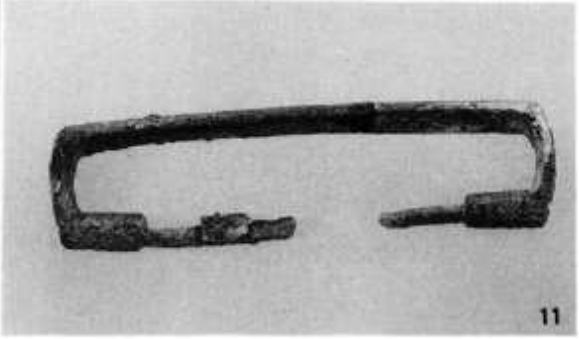


1～3…I面下包含層

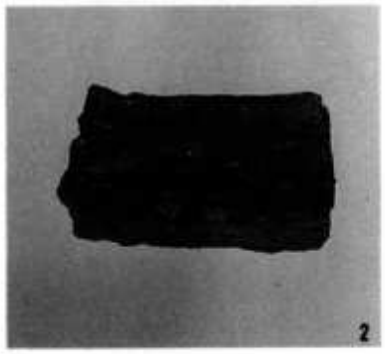


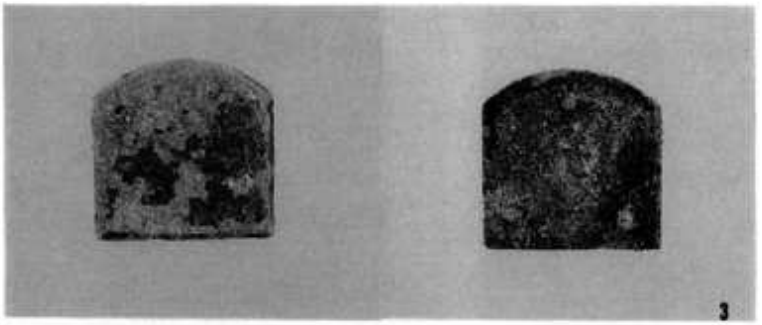


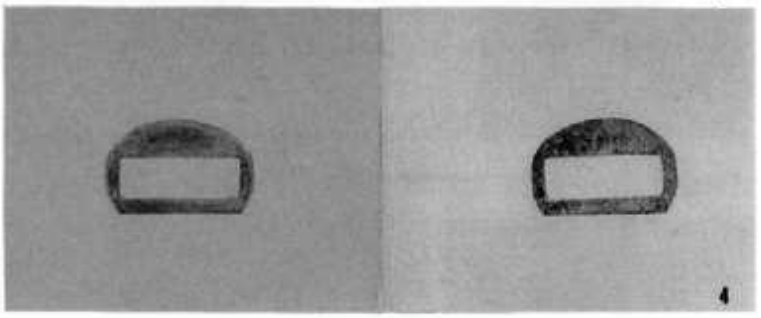


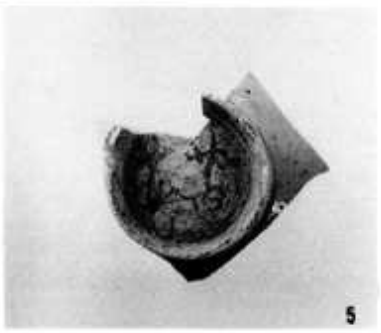


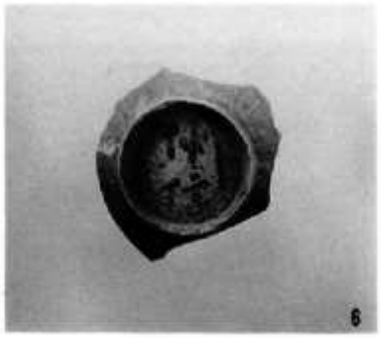
4～11…II面包含層

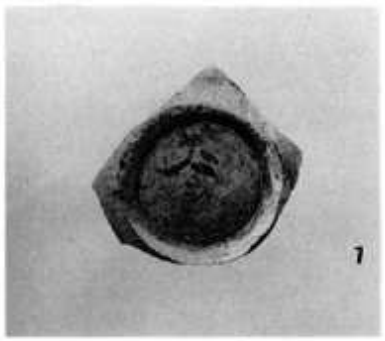


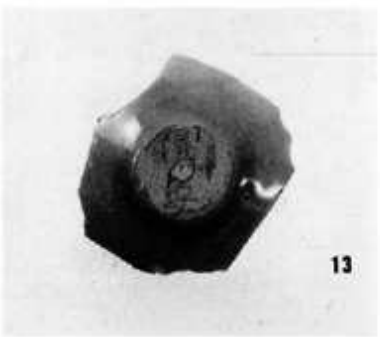




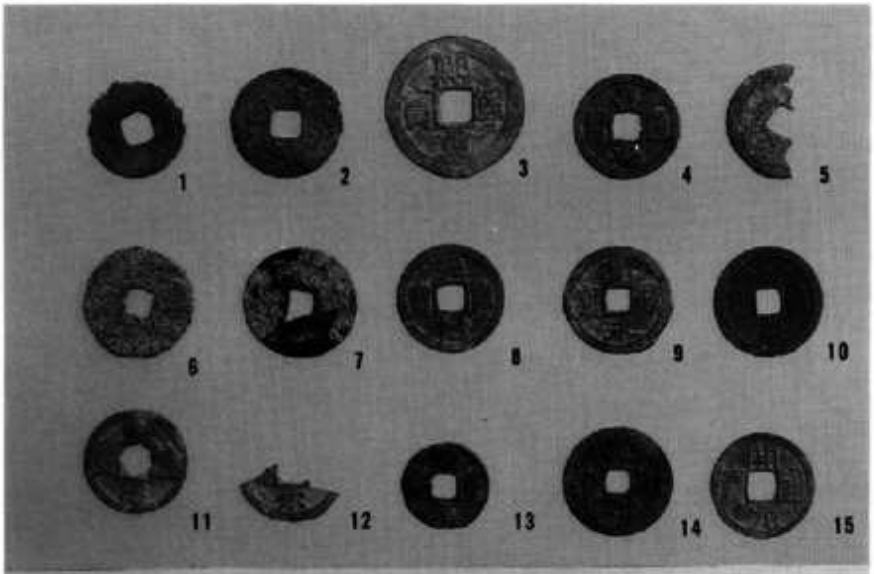




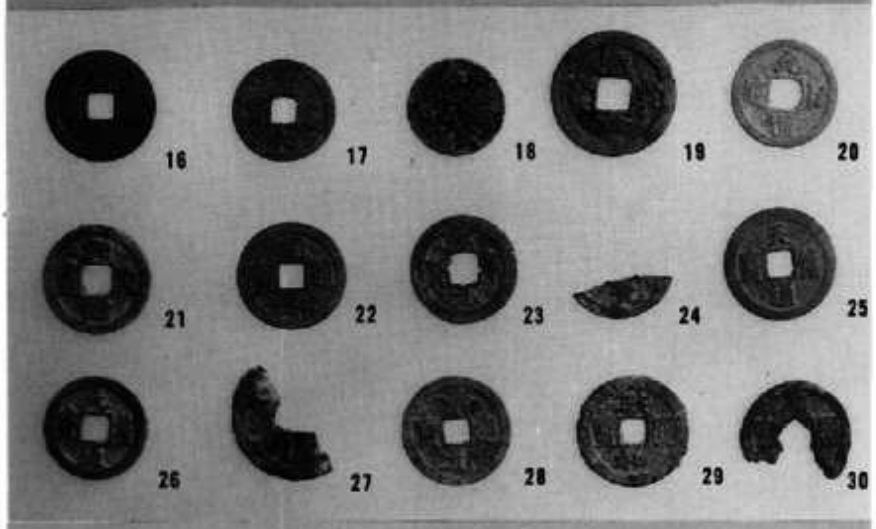




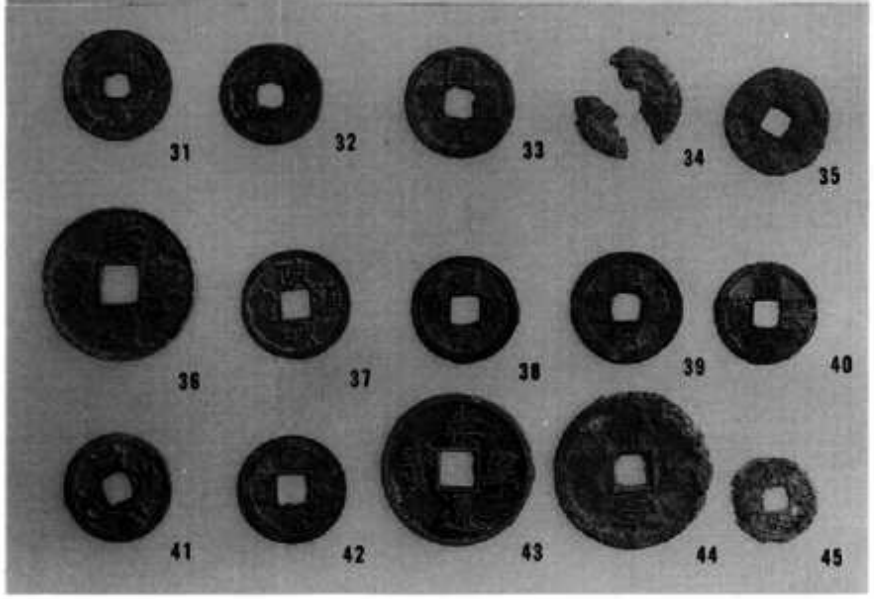
1・3・4…Ⅳ面ケズリ　2…Ⅳ面下包含層　5・7・12…Ⅰ面ケズリ　6…Ⅱ面下包含層
8…Ⅰ面下包含層　9…Ⅰ面下ケズリ　10・11…Ⅱ面ケズリ　13…Ⅲ面下包含層



1…938号土壙
2・3…977号土壙
4…998号土壙
5・6…1067号土壙
7…1079号土壙
8…表土
9・10…中央アゼ
11・12…北壁
13…Ⅰ面ケズリ
14・15…Ⅰ面下包含層



16～18…132号井戸
19…134号井戸
20…137号井戸
21…138号井戸
22・23…144号井戸
24…SP2710
25…SP2831
26…SP3083
27…SP3851
28…SX33
29…SX37
30…937号土壙



31～40…Ⅰ面下包含層
41・42…Ⅱ面ケズリ
43…Ⅳ面下包含層
44…1079号土壙
45…1110号土壙

都市計画道路博多駅築港線関係
埋蔵文化財調査報告Ⅳ

博 多

1989

発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1

印刷　赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8番34号